資料１－４

本資料のうち，黒塗りの箇所は個人情報に該当するため公開できません。

調査データのトレーサビリティの確認結果
（その他の調査データの変更箇所と元となるデーター式）

令和４年１２月９日

日本原子力発電株式会社

余白

本資料は，審査資料作成に係る業務プロセスを再構築し，調査データのトレーサビリティの確保のための確認を実施した結果，従前提示していたデータから修正が必要となった箇所（157項目）についてとりまとめたものである。各データの元となるデータ（エビデンス）は，一覧表の「エビデンス資料」欄※に記載の資料に示し，本資料に添付している。

なお，データの修正が必要な箇所については，不適合管理等を実施している。

※「エビデンス資料」欄に「ボーリング柱状図・コア写真」と記載の箇所については，今回提出の資料１－３－４，１－３－５，１－３－８の該当深度の箇所が元となるデータである（代表して，資料１－３－８の該当頁を示す）。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表（第833回審査会合資料 机上配布資料2）	薄片観察結果（第833回審査会合資料 机上配布資料1）	修正前	修正後			
1	H24-A-11	10.20	12.76		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	4 － 13	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
2	H24-E-2	13.23	15.82	●	●	最新活動面 13.42m	最新活動面 13.46m	最新活動面確認結果	4 － 16	最新活動面の記載に誤りがあり，これに基づく走向・傾斜，条線も誤っていた。 当該部の薄片試料については，作製時点で正しい位置（最新活動面13.46m）であったが，試料の切断方向が誤っていた（誤：断層面と直交する方向から60° 斜交→正：断層面と直交方向）ことから，薄片試料を再作製し，薄片観察を行った（作業時に正しい情報が反映されていなかった。）。再作製した薄片観察による変位センス（右ずれを伴う逆断層），断層岩区分の評価（断層ガウジ）に変更はなし。
3	H24-E-2	13.23	15.82	●	●	走向・傾斜 N21W60W	走向・傾斜 N33W60SW	走向・傾斜確認結果	4 － 17	
4	H24-E-2	13.23	15.82	●	●	条線 60R	条線 53R	条線観察結果	4 － 18	
5	H24-E-2	13.23	15.82		●	薄片試料を再作製して観察		薄片観察結果	4 － 19	
6	H24-E-1	8.41	9.70	●		破砕部範囲を示す矢印の位置の修正		破砕幅計測結果	4 － 22	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
7	H24-H-6-1	9.58	14.36	●	●	走向・傾斜 N33W38W	走向・傾斜 NS64W	走向・傾斜確認結果	4 － 23	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ，これに基づく条線も誤っていた。 なお，薄片試料は正しく作製されており，薄片観察結果にも影響はない。
8	H24-H-6-1	9.58	14.36	●	●	条線 90	条線 61R	条線観察結果	4 － 24	
9	H24-H-14	4.93	7.81	●		断層ガウジの幅 1.0cm	断層ガウジの幅 3.5cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 25	断層ガウジの幅の記載に誤りがあり，これに基づく断層ガウジを示すカラーバーの範囲も誤っていた。
10	H24-H-14	4.93	7.81	●		断層ガウジを示すカラーバーの修正		断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 25	
11	H24-B'-1	7.50	10.93		●	薄片観察資料のブロックサンプル写真のY方向	X方向が正しい旨の注釈の追加	薄片観察結果	4 － 26	XとYを書き間違えた。
12	H24-D1-1	49.20	49.91	●	●	最新活動面の深度 49.84m	最新活動面の深度 49.82m	最新活動面確認結果	4 － 28	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，走向・傾斜，条線の取得及び薄片試料の作製は正しい位置で行われている。
13	H24-D1-1	49.20	49.91		●	最新活動面位置 ガウジの右	最新活動面位置 ガウジの左	最新活動面確認結果	4 － 28	
14	H24-D1-1	49.20	49.91		●	全景写真の記載 花崗岩	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-15	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
15	H24-D1-1	53.77	54.54	●	●	最新活動面の深度 53.77m	最新活動面の深度 53.80m	最新活動面確認結果	4 － 29	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，条線の取得及び薄片試料の作製は正しい位置で行われている。
16	H24-D1-1	53.77	54.54	●	●	走向・傾斜 N20E77E	走向・傾斜 N22E75E	走向・傾斜確認結果	4 － 30	走向・傾斜の判読作業を誤った。 なお，見直した走向・傾斜を基に条線の算出（斜めボーリングのため補正）を行った結果，条線に変更はなかった（75R）。
17	H24-D1-1	53.77	54.54	●		断層ガウジの幅 1.5cm	断層ガウジの幅 1.0cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 31	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
18	H24-D1-1	53.77	54.54		●	研磨片へのX，Z方向の記載誤り		薄片観察結果	4 － 32	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 なお，X方向，Z方向ともに記載を誤っているため，結果的に薄片観察結果（変位センス等）に影響はない。
19	H24-D1-1	58.96	59.30	●		明瞭なせん断構造・変形構造 無	明瞭なせん断構造・変形構造 有	明瞭なせん断構造・変形構造の確認結果	4 － 34	今回の再確認に基づき，正しいものとした。
20	H24-D1-1	60.12	60.15		●	最新活動面の矢印の位置と 薄片作製位置を示す赤枠の修正		薄片観察結果	4 － 35	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表（第833回審査会合資料 机上配布資料2）	薄片観察結果（第833回審査会合資料 机上配布資料1）	修正前	修正後			
21	H24-D1-1	68.84	69.00		●	全景写真の記載 花崗岩	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-19	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
22	H24-D1-1	89.91	89.95	●	●	走向・傾斜 N22W80E	走向・傾斜 N23W86E	走向・傾斜確認結果	4 － 38	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ，これに基づく条線も誤っていた。 なお，薄片試料の作製は正しい位置で行われており，観察結果に影響はない。
23	H24-D1-1	89.91	89.95	●	●	条線 35L	条線 33L	条線観察結果	4 － 39	
24	H24-D1-1	89.91	89.95	●		断層ガウジを示すカラーバー及び 断層角礫を示すカラーバーの修正		断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 40	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
25	H24-D1-1	90.26	90.84	●		断層ガウジの幅 0.5cm	断層ガウジの幅 0.2cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 42	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
26	H24-D1-1	91.26	91.52		●	薄片試料を再作製して観察		薄片観察結果	4 － 43	当該部の薄片試料については，作製時点で正しい位置であったが，試料の切断方向が誤っていた（誤：断層面と直交する方向から45° 斜交→正：断層面と直交方向）ことから，薄片試料を再作製し，薄片観察を行った（作業時に正しい情報が反映されていなかった。）。再作製した薄片観察による変位センス（正断層），断層岩区分の評価（カタクレーサイト）に変更はなし。
27	H24-D1-1	93.12	93.24		●	研磨片へのX，Z方向の記載誤り		薄片観察結果	4 － 47	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 なお，X方向，Z方向ともに記載を誤っているため，結果的に薄片観察結果（変位センス等）に影響はない。
28	H24-D1-1	93.12	93.24		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-25	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
29	H24-D1-1	99.68	99.71	●		断層ガウジの幅 0.8cm	断層ガウジの幅 1.2cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 49	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
30	H24-D1-1	99.68	99.71	●		最新活動面の矢印の位置を修正する		最新活動面確認結果	4 － 50	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
31	H24-D1-1	99.68	99.71		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-26	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
32	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	最新活動面の深度 42.43m	最新活動面の深度 42.41m	最新活動面確認結果	4 － 51	CT画像により決定した最新活動面の位置が反映されていなかった。これに伴い、条線も誤った位置で読み取りが行われていた。走向・傾斜は正しい位置で判読されていた（今回表記ルールは変更）。 正しい最新活動面での薄片試料を再作製し，薄片観察を行った。旧試料のときから条線が修正となっているので，変位センスは右ずれ卓越（旧試料では右ずれを伴う正断層）となり，断層岩区分の評価に変更はなかった（断層ガウジ）。
33	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	条線 45L	条線 14R	条線観察結果	4 － 52	
34	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	走向・傾斜 N65W36NE	走向・傾斜 N65W36N	走向・傾斜確認結果	4 － 53	
35	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	右ずれ正断層センス	右ずれセンス	薄片観察結果	4 － 54	
36	H27-B-1	44.24	44.53		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	4 － 56	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
37	H27-B-1	46.12	46.17	●		最新活動面の矢印の位置 (46.17m)	最新活動面の矢印の位置 (46.16m)	最新活動面確認結果	4 － 59	今回の再確認に基づき，正しいものとした。
38	H27-B-1	49.17	49.22		●	最新活動面の深度 49.20m	最新活動面の深度 49.17m	最新活動面確認結果	4 － 60	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表（第833回審査会合資料 机上配布資料2）	薄片観察結果（第833回審査会合資料 机上配布資料1）	修正前	修正後			
39	H27-B-1	52.72	52.81	●	●	走向・傾斜 N15E82E	走向・傾斜 N27E43W	走向・傾斜確認結果	4 － 61	最新活動面の走向・傾斜が誤りで，これに基づく条線も誤っており，条線が低角から正しい高角になることに伴い，薄片観察による変位センスが修正となる（薄片試料の作製位置は正しかった）。
40	H27-B-1	52.72	52.81	●	●	条線 10R	条線 72R	条線観察結果	4 － 62	
41	H27-B-1	52.72	52.81	●	●	左ずれセンス	逆断層センス	薄片観察結果	4 － 63	
42	H27-B-1	53.17	53.22		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	4 － 65	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
43	H27-B-1	59.82	59.85	●	●	走向・傾斜 N26° E80° W	走向・傾斜 N20° E75° W	走向・傾斜確認結果	4 － 67	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，条線の取得及び薄片作製は正しいデータを基に行われており，薄片観察結果にも影響はない。
44	H27-B-1	69.70	69.73		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	4 － 68	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
45	H27-B-1	74.36	74.50	●	●	走向・傾斜 N15E85W	走向・傾斜 N41W66W	走向・傾斜確認結果	4 － 71	最新活動面の走向・傾斜の判読にて誤りが生じ，誤った走向・傾斜に基づく条線も誤っており，条線が高角から正しい中角になることに伴い，薄片観察による変位センスが修正となる（薄片試料の作製位置は正しかった）。
46	H27-B-1	74.36	74.50	●	●	条線 70L	条線 52R	条線観察結果	4 － 74	
47	H27-B-1	74.36	74.50	●	●	正断層センス	左ずれ正断層センス	薄片観察結果	4 － 75	
48	H27-B-1	75.57	76.00	●	●	走向・傾斜 N34E87NW	走向・傾斜 N44E72E	走向・傾斜確認結果	4 － 77	孔壁崩壊の影響でBHTVによる最新活動面の走向・傾斜の判読ができない箇所で，代用値を採用していたが，より確からしい代用値に修正した。これに伴い，条線と薄片観察による変位センスも修正となる（薄片試料の作製位置に問題はない）。以上に伴い，f-d1-1-11破砕帯に連続する破砕部と評価した。
49	H27-B-1	75.57	76.00	●	●	条線 90	条線 88R	条線観察結果	4 － 80	
50	H27-B-1	75.57	76.00	●	●	逆断層センス	正断層センス	薄片観察結果	4 － 81	
51	H27-B-1	75.57	76.00	●		破砕帯名 非モデル化	破砕帯名 f-d1-1-11	No.157に合わせて示す。	4 － 296	
52	H27-B-1	85.38	85.41		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-45	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
53	H27-B-1	113.51	113.60	●	●	最新活動面の深度 113.56m	最新活動面の深度 113.60m	最新活動面確認結果	4 － 84	CT画像により決定した最新活動面の位置が反映されていなかった。走向・傾斜，条線観察，薄片作製はいずれも113.60mの正しい最新活動面の位置で実施しており，薄片観察自体に問題はなかった。 断層ガウジの幅は，今回の再確認により，正しいものとした。
54	H27-B-1	113.51	113.60	●		断層ガウジの幅 0.2cm	断層ガウジの幅 0.1cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 85	
55	H27-B-1	118.94	119.12	●	●	最新活動面の深度 119.10m	最新活動面の深度 119.12m	最新活動面確認結果	4 － 86	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，走向・傾斜，条線の取得及び薄片試料の作製は正しい位置で行われており，観察結果に影響はない。
56	H27-B-1	118.94	119.12		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-51	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
57	H27-B-1	139.82	139.88		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-55	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
58	H27-B-2	35.36	35.46		●	X，Z方向の記載誤り		薄片観察結果	4 － 87	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 なお，X方向，Z方向ともに記載を誤っているため，結果的に薄片観察結果（変位センス等）に影響はない。
59	H27-B-2	35.36	35.46	●		最新活動面の矢印の位置を修正する		最新活動面確認結果	4 － 89	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表（第833回審査会合資料 机上配布資料2）	薄片観察結果（第833回審査会合資料 机上配布資料1）	修正前	修正後			
60	H27-B-2	35.68	35.73		●	X，Z方向の記載誤り		薄片観察結果	4 － 90	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，X方向，Z方向ともに記載を誤っているため，結果的に薄片観察結果（変位センス等）に影響はない。
61	H27-B-2	35.68	35.73			薄片拡大写真の撮影位置を示す緑枠の修正		薄片観察結果	4 － 92	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 （なお，当該写真は第833回審査会合資料 机上配布資料1には用いておらず，令和3年7月16日提出資料 補足説明資料3の誤りである。）
62	H27-B-2	35.92	35.95		●	左ずれを伴う逆断層	右ずれを伴う正断層	薄片観察結果	4 － 93	薄片観察結果の資料作成時に，Z方向（断層面の法線方向，上盤側を正）を誤って記載したことにより，変位センスを正しい方向と逆向きに記載してしまった。
63	H27-B-2	48.08	48.12	●		断層ガウジの幅 0.5cm	断層ガウジの幅 0.1cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 96	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 （なお，当該破砕部は追加した文献を踏まえた薄片観察を実施し，断層岩区分の総合評価を実施した結果カタクレーサイトであり，断層ガウジの幅0.1cmは今後提出する性状一覧表には記載しない。）
64	H27-B-2	48.08	48.12		●	X，Z方向の記載誤り		薄片観察結果	4 － 97	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 なお，X方向，Z方向ともに記載を誤っているため，結果的に薄片観察結果（変位センス等）に影響はない。
65	H27-B-2	60.26	60.69	●	●	最新活動面の深度 60.58m	最新活動面の深度 60.59m	最新活動面確認結果	4 － 100	最新活動面の記載に誤りがあり，これに基づく走向・傾斜，条線も誤っていた。なお，薄片試料の作製は適切な位置で行われていたが，走向・傾斜，条線の修正に伴い，薄片観察による変位センスが修正となる。
66	H27-B-2	60.26	60.69	●	●	走向・傾斜 N18E77W	走向・傾斜 N31E88SE	走向・傾斜確認結果	4 － 101	
67	H27-B-2	60.26	60.69	●	●	条線 60R	条線 75L	条線観察結果	4 － 102	
68	H27-B-2	60.26	60.69	●	●	右ずれ逆断層センス	正断層センス	薄片観察結果	4 － 103	
69	H27-B-2	85.58	85.76	●	●	走向・傾斜 N15E82W	走向・傾斜 N20E89E	走向・傾斜確認結果	4 － 106	最新活動面の認定は正しく行われたが，走向・傾斜の判読時に誤った位置の走向・傾斜を採用してしまい，条線観察，薄片作製もこの誤った位置で行われたことから，薄片試料を再作製し，薄片観察を行った。再作製した薄片観察による変位センスは右ずれ（旧試料では右ずれ正断層）となり，断層岩区分の評価に変更はなかった（カタクレーサイト）。
70	H27-B-2	85.58	85.76	●	●	条線 60L	条線 15L	条線観察結果	4 － 107	
71	H27-B-2	85.58	85.76	●	●	右ずれ正断層センス	右ずれセンス	薄片観察結果	4 － 108	
72	H27-B-2	88.38	88.43	●	●	最新活動面の深度 88.43m	最新活動面の深度 88.42m	最新活動面確認結果	4 － 110	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
73	H27-B-2	88.38	88.43	●	●	薄片試料を再作製して観察		薄片観察結果	4 － 111	走向・傾斜，条線の取得は正しく行われていたが，薄片試料作製時に条線方向に平行になるように作製できていなかった。再作製した薄片観察による変位センス（右ずれ正断層），断層岩区分の評価（断層ガウジ）に変更はなし。
74	H27-B-2	88.88	88.94	●	●	最新活動面の深度 88.94m[注]	最新活動面の深度 88.92m	最新活動面確認結果	4 － 114	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 注）令和3年7月16日提出資料において，第833回審査会合資料の88.94mから88.81mへ修正したが，トレーサビリティの確保のため確認を行ったところ誤りであった。
75	H27-B-2	120.63	120.65		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 アプライト	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-82	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
76	H27-B-2	128.82	128.97	●		破砕帯名 D-44	破砕帯名 f-b-2-18	No.157に合わせて示す。	4 － 296	H24-B14-2の49.24-49.55mの破砕部の走向・傾斜を見直した結果，本破砕部と連続させることができる破砕部性状ではないことから，破砕帯分布を見直し，本破砕部をf-b-2-18破砕帯とした。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表（第833回審査会合資料 机上配布資料2）	薄片観察結果（第833回審査会合資料 机上配布資料1）	修正前	修正後			
77	H27-B-2	133.75	133.92	●		走向・傾斜 N1E72E	走向・傾斜 N6E84E	走向・傾斜確認結果	4 － 115	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ，これに基づく条線も誤っていた。
78	H27-B-2	133.75	133.92	●		条線 21L	条線 22L	条線観察結果	4 － 116	
79	H27-B-2	134.15	134.23	●	●	走向・傾斜 N16E67E	走向・傾斜 N12E66E	走向・傾斜確認結果	4 － 117	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ，これに基づく条線も誤っていた。 なお，薄片試料の作製は正しい位置で行われており，観察結果に影響はない。
80	H27-B-2	134.15	134.23	●	●	条線 85L	条線 82L	条線観察結果	4 － 118	
81	H27-B-2	152.10	152.15		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-88	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
82	H24-B14-2	49.24	49.55	●	●	走向・傾斜 N44E80E	走向・傾斜 N21W21E	走向・傾斜確認結果	4 － 119	BHTVによる最新活動面の走向・傾斜の判読ができない箇所で，代用値を採用していたが，より確からしい代用値に修正した。これに伴い，条線と薄片観察による変位センスも修正となる（薄片試料の作製位置に問題はない）。 走向・傾斜，変位センスの修正に伴い，H27-B-2孔の128.82-128.97mの破砕部と連続しない破砕部性状となることから，破砕帯分布を見直し，本破砕部をf-b14-2-4破砕部とした。
83	H24-B14-2	49.24	49.55	●	●	条線 75L	条線 17R	条線観察結果	4 － 127	
84	H24-B14-2	49.24	49.55	●	●	正断層センス	右ずれセンス	薄片観察結果	4 － 128	
85	H24-B14-2	49.24	49.55	●		破砕帯名 D-44	破砕帯名 f-b14-2-4	No.157に合わせて示す。	4 － 312	
86	H24-B14-2	101.47	101.52		●	X:走向方向（北向きを正とする）	X:条線方向（下向きを正とする）	薄片観察結果	4 － 131	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 薄片観察は，正しい情報（X:条線方向（下向きを正とする））をもとに実施しており，観察結果に影響はない。
87	H24-B14-2	101.47	101.52	●		破砕帯名 f-b14-2-6	破砕帯名 非モデル化	No.157に合わせて示す。	4 － 312	H24-B14-2孔の49.24-49.55mの破砕部の走向・傾斜の値を見直したことに伴い周辺の破砕帯分布を見直した結果，本破砕部は非モデル化破砕部とした。
88	H24-B14-2	109.16	109.46	●		断層ガウジの幅 2.2cm	断層ガウジの幅 1.0cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 133	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
89	H24-B14-2	109.16	109.46		●	薄片観察資料の最新活動面の矢印の位置： 断層ガウジの中央	薄片観察資料の最新活動面の矢印の位置： 断層ガウジの右端	薄片観察結果	4 － 134	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
90	H24-D1-2	12.38	12.97	●	●	最新活動面の深度 12.85m	最新活動面の深度 12.86m	最新活動面確認結果	4 － 139	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，走向・傾斜，条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており，観察結果に影響はない。
91	H24-D1-2	12.38	12.97	●		断層ガウジの幅 0.9cm	断層ガウジの幅 0.5cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 140	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
92	H24-D1-2	19.78	19.87	●	●	最新活動面の深度 19.87m	最新活動面の深度 19.82m	最新活動面確認結果	4 － 141	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，走向・傾斜，条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており，観察結果に影響はない。
93	H24-D1-2	31.44	31.46	●		明瞭なせん断構造・変形構造 無	明瞭なせん断構造・変形構造 有	明瞭なせん断構造・変形構造の確認結果	4 － 142	今回の再確認に基づき，正しいものとした。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表（第833回審査会合資料 机上配布資料2）	薄片観察結果（第833回審査会合資料 机上配布資料1）	修正前	修正後			
94	H24-D1-4	10.91	10.93	●	●	最新活動面の深度 10.91m	最新活動面の深度 10.93m	最新活動面確認結果	4 － 143	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，走向・傾斜，条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており，観察結果に影響はない。
95	H24-D1-4	52.97	53.46		●	ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印の位置の修正		薄片観察結果	4 － 144	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
96	H24-D1-4	60.06	60.38		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-158	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
97	H24-D1-4	61.47	61.52		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-158	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
98	H24-D1-4	63.67	63.90	●	●	最新活動面の深度 63.88m	最新活動面の深度 63.90m	最新活動面確認結果	4 － 147	最新活動面に誤りがあり，これに基づく走向・傾斜，条線も誤っていた。 なお，条線観察時は，正しい位置である63.90mでデータ採取を行っていた。 また，薄片試料作製は正しい位置で行われており，観察結果にも影響はない。
99	H24-D1-4	63.67	63.90	●	●	走向・傾斜 N19W89W	走向・傾斜 N20E88W	走向・傾斜確認結果	4 － 148	
100	H24-D1-4	63.67	63.90	●	●	条線 90	条線 66L	条線観察結果	4 － 149	
101	H24-D1-4	63.67	63.90		●	薄片作製位置を示す赤枠の修正		薄片観察結果	4 － 150	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
102	H24-D1-4	63.67	63.90		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-159	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
103	H24-D1-3	14.41	14.52		●	X，Z方向の記載誤り		薄片観察結果	4 － 152	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 なお，X方向，Z方向ともに記載を誤っているため，結果的に薄片観察結果（変位センス等）に影響はない。
104	H24-D1-3	14.41	14.52	●		断層ガウジの幅 1.9cm	断層ガウジの幅 1.8cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 154	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
105	H24-D1-3	34.23	34.52	●		断層ガウジの幅 0.8cm	断層ガウジの幅 0.7cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 155	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
106	H24-D1-3	52.13	52.28		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-134	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
107	H24-D1-3	52.13	52.28		●	複合面構造の解釈線の位置の修正		薄片観察結果	4 － 156	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
108	H27-B-3	26.70	26.90	●	●	最新活動面の深度 26.70m	最新活動面の深度 26.71m	最新活動面確認結果	4 － 158	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，走向・傾斜，条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており，観察結果に影響はない。
109	H27-B-3	26.70	26.90	●		断層ガウジの幅 0.1cm	断層ガウジの幅 0.2cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 159	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 （上記最新活動面の見直しに合わせ，当初断層ガウジであるとしていた26.70mの細粒部（1mm）に加えて，26.71mの細粒部（1mm）も断層ガウジであると認定したが，資料へ反映されていなかった。）
110	H27-B-3	26.70	26.90		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-167	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表（第833回審査会合資料 机上配布資料2）	薄片観察結果（第833回審査会合資料 机上配布資料1）	修正前	修正後			
111	H27-B-3	28.12	28.14	●		破砕幅 2.0cm	破砕幅 1.0cm	破砕幅計測結果	4 － 160	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
112	H27-B-3	28.12	28.14		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-167	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
113	H27-B-3	29.10	29.12	●		明瞭なせん断構造・変形構造 無	明瞭なせん断構造・変形構造 有	明瞭なせん断構造・変形構造の確認結果	4 － 161	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
114	H27-B-3	42.85	42.91		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	4 － 162	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
115	H27-B-3	56.69	56.72		●	薄片作製位置を示す赤枠の位置の修正		薄片観察結果	4 － 164	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
116	H27-B-3	56.69	56.72		●	ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印の位置の修正		薄片観察結果	4 － 164	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
117	H27-B-3	56.69	56.72		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-173	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
118	H27-B-3	58.89	58.98		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-173	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
119	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	走向・傾斜 データなし	走向・傾斜 N42E14W	走向・傾斜確認結果	4 － 166	BHTVによる最新活動面の走向・傾斜の判読ができない箇所で，代用値を採用していたが，より確からしい代用値に修正した。これに伴い，条線と薄片観察による変位センスも修正となる。 薄片試料作製時にZ方向の記載を誤っていたため，記載を修正した。 これに基づき条線，変位センスを見直した結果，本破砕部を非モデル化破砕部とした。
120	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	条線 35R	条線 7R	条線観察結果	4 － 169	
121	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	左ずれ正断層センス	右ずれセンス	薄片観察結果	4 － 170	
122	H27-B-3	76.59	76.89	●		破砕帯名 H-3c	破砕帯名 非モデル化	No.157に合わせて示す。	4 － 314	
123	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	Z方向の記載誤り		薄片観察結果	4 － 170	
124	H27-B-3	76.59	76.89		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	4 － 170	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
125	H27-B-3	99.50	99.68	●		条線 52R	条線 2R	条線観察結果	4 － 172	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
126	H27-B-3	119.11	119.25	●	●	最新活動面の深度 119.15m	最新活動面の深度 119.18m	最新活動面確認結果	4 － 173	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお，走向・傾斜，条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており，観察結果に影響はない。
127	H27-B-3	119.11	119.25		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 アプライト	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-185	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
128	H27-B-3	129.84	129.91		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	3 － 8-187	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表（第833回審査会合資料 机上配布資料2）	薄片観察結果（第833回審査会合資料 机上配布資料1）	修正前	修正後			
129	H24-B-4'	23.97	24.42	●		破砕幅 34.0cm	破砕幅 18.9cm	破砕幅計測結果	4 － 174	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
130	H27-B-4	29.74	29.78	●		破砕幅 3.7cm	破砕幅 2.3cm	破砕幅計測結果	4 － 175	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
131	H27-B-4	65.59	65.72	●		最新活動面の深度 65.72m	最新活動面の深度 65.65m	最新活動面確認結果	4 － 176	最新活動面の記載に誤りがあり，これに基づく走向・傾斜も誤っていた。なお，本破砕部は，薄片観察は実施していない。
132	H27-B-4	65.59	65.72	●		走向・傾斜 NS78W	走向・傾斜 N1W80W	走向・傾斜確認結果	4 － 177	
133	H27-B-4	93.13	93.22	●	●	走向・傾斜 N10E78W	走向・傾斜 N17E75W	走向・傾斜確認結果	4 － 178	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ，これに基づく条線も誤っていた。 なお，薄片作製は正しい位置で行われており，薄片観察結果にも影響はない。
134	H27-B-4	93.13	93.22	●	●	条線 40R	条線 42R	条線観察結果	4 － 179	
135	H24-D1-5	47.47	47.89	●		断層ガウジの幅 2.0cm	断層ガウジの幅 0.6cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	4 － 180	作業時に正しい情報が反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象	誤った記載の資料	修正の内容		エビデンス資料	記載頁	修正理由
			修正前	修正後			
136	Lカットピット	薄片観察結果 （第833回審査会合資料 机上配布資料1） 令和3年7月16日提出資料 （補足説明資料3）	R1，P面の位置の誤りを修正する		薄片観察結果※	4 － 181	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
137	Lカットピット	薄片観察結果 （第833回審査会合資料 机上配布資料1）	ブロックサンプルの最新活動面を示す 矢印の位置の修正		薄片観察結果※	4 － 181	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
138	Lカットピット	第833回審査会合資料 （資料1）	旧版のスケッチであったため，対象の露頭，露頭の観察面の写真及びスケッチ原図を確認して最新版のスケッチにした。		スケッチ※ 露頭写真	4 － 186	スケッチの識別管理が不十分で，旧版のスケッチを資料作成に用いてしまっていた。
139	D-1トレンチ平面図	第833回審査会合資料 （資料1）	2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正		—※	4 － 196	最新のトレンチの形状が反映されていなかったため。
140	D-1トレンチ平面図	令和3年7月16日提出資料 （本編資料）	地質平面図 H24-H-2孔の線の方向と長さを修正		—※	4 － 198	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
141	D-1トレンチ平面図	第833回審査会合資料 （机上配布資料2）	K断層確認ボーリング孔の位置図 ボーリング孔の位置を修正		—※	4 － 200	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
142	D-1トレンチ断面図（C-C'）	第536回審査会合資料 （机上配布資料1）	2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正		—※	4 － 202	最新のトレンチの形状が反映されていなかったため。
143	D-1トレンチ断面図（I-I'）	第536回審査会合資料 （机上配布資料1）	H-12孔より南側の地表面が平坦	H-12孔より南側の地表面をピットの法面の形状に修正	—※	4 － 204	最新のトレンチの形状が反映されていなかったため。
144	D-1トレンチ断面図（I-I'）	第536回審査会合資料 （机上配布資料1）	K断層による地層の変位量の修正		スケッチ※ 露頭写真	4 － 204	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
145	D-1トレンチ断面図（I-I'）	第536回審査会合資料 （机上配布資料1）	H-12孔,H-13孔，H-16孔の ボーリングの黒線の長さを修正		—※	4 － 204	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
146	D-1トレンチ北西法面	第833回審査会合資料 （資料1）	旧版のスケッチであったため，対象の露頭，露頭の観察面の写真及びスケッチ原図を確認して最新版のスケッチにした。		スケッチ※ 露頭写真	4 － 208	スケッチの識別管理が不十分で，旧版のスケッチを資料作成に用いてしまっていた。
147	D-1トレンチ北西法面	第833回審査会合資料 （資料1）	②層の色調 明青灰色(10B7/1)	②層の色調 明青灰色(10BG7/1)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 208	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
148	K断層南方f-f'断面図	令和3年7月16日提出資料 （本編資料）	H-6c破砕帯分布の修正		—※	4 － 316	作業時に正しい情報が反映されていなかった。
149	D-1トレンチ1-1ピット北面	第833回審査会合資料 （資料1）	①層の色調 浅黄橙色(7.5YR7/3)	①層の色調 浅黄橙色(7.5YR8/3)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 220	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
150	D-1トレンチ2-1ピット	第833回審査会合資料 （資料1）	②層の色調 明褐色～明褐灰色 (7.5YR7/1～7.5YR8/6)	②層の色調 明褐灰色～浅黄橙色 (7.5YR7/1～7.5YR8/6)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 232	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
151	D-1トレンチ2-1ピット	第833回審査会合資料 （資料1）	③層の色調 橙～浅黄橙色，灰白色 (5YR7/8～7.5YR8/2)	③層の色調 橙～浅黄橙色，灰白色 (5YR7/8～7.5YR8/6， 7.5YR8/2)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 232	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
152	D-1トレンチ　擁壁撤去法面	第833回審査会合資料 （資料1）	③層A層の色調 浅橙色(5YR8/3)	③層A層の色調 淡橙色(5YR8/3)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 248	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
153	原電道路ピット/ふげん道路ピット	第833回審査会合資料 （資料1）	⑧層の色調 橙色(5Y6/6)	⑧層の色調 橙色(5YR6/6)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 258	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
154	ふげん道路ピット東法面中段	第833回審査会合資料 （資料1）	②層の色調 灰白色(2.5Y7/12)	②層の色調 灰白色(2.5Y7/1)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 270	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
155	ふげん道路ピット東法面中段	第833回審査会合資料 （資料1）	③層の色調 黄灰色(25Y6/11)	③層の色調 黄灰色(2.5Y6/1)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 270	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
156	ふげん道路ピット東法面下段	第833回審査会合資料 （資料1）	②層の色調 灰白色(2.5Y7/12)	②層の色調 灰白色(2.5Y7/1)	スケッチ※ 露頭写真	4 － 278	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
157	平面図・断面図	第833回審査会合資料 （資料1） 令和3年7月16日提出資料 （本編資料）	各データ修正内容の反映 （K断層の性状，K断層南方調査位置図，K断層南方調査結果平面図，K断層南方調査結果断面図）		—※	4 － 286	トレーサビリティ確保に伴う各調査データの修正内容を反映した。

（参考）薄片試料の作製について　4-318頁

※：修正前後の比較を示し，修正箇所に枠を付けている。

H24-A-11　深度10.20～12.76m　K断層(1/3)

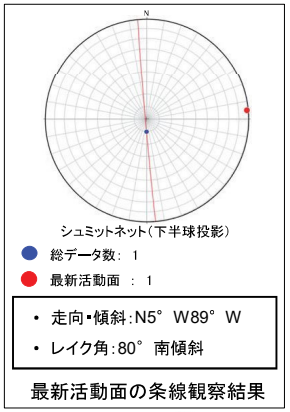
青枠：修正箇所

1のエビデンス（薄片観察結果）（1/3）

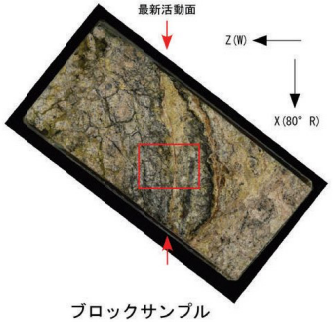
・H24-A-11のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度11.81m）の変位センスは，逆断層成分※が卓越する。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- （断層ガウジ）せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。

※　横ずれ成分と縦ずれ成分の両者が見られる場合，「右（又は左）ずれを伴う正断層（又は逆断層）」と記載している。(以下，同様)



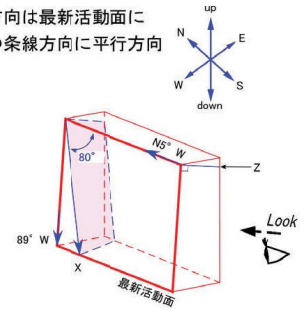
最新活動面の条線観察結果



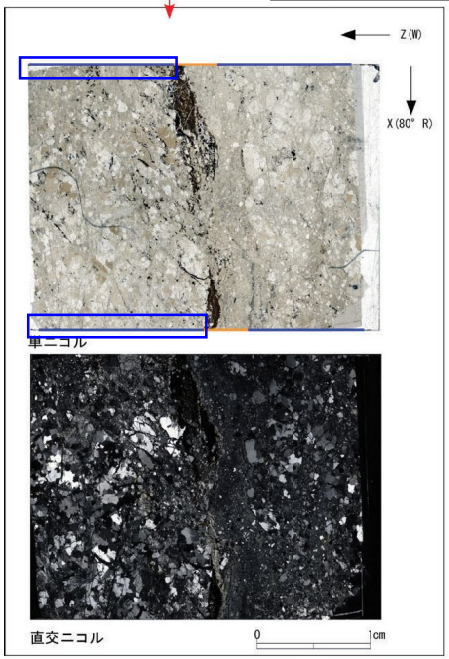
ブロックサンプル

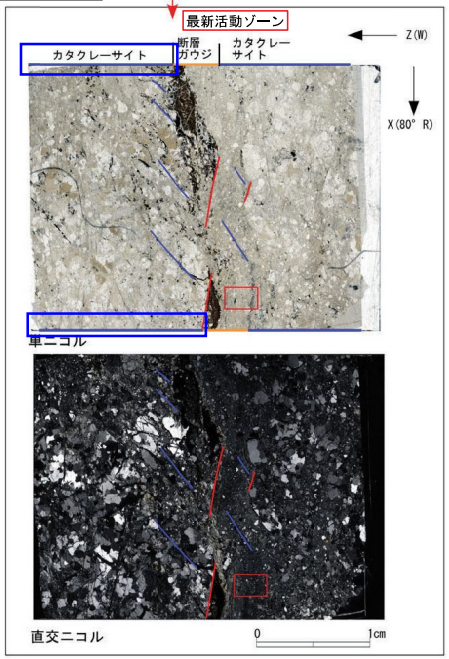
0　10cm

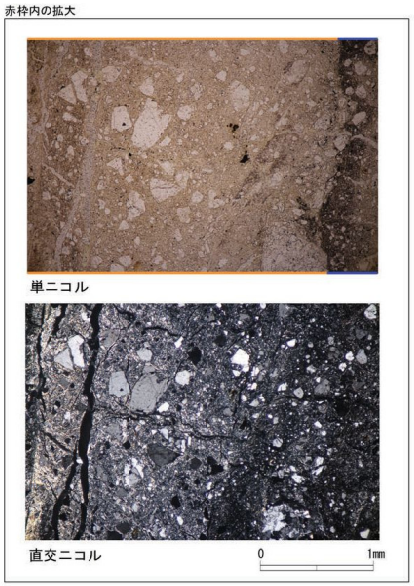
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

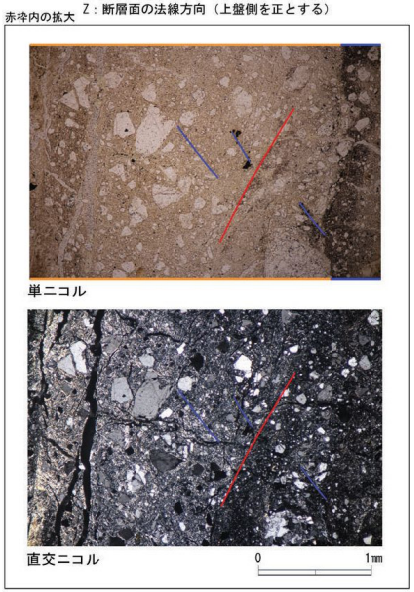


走向・傾斜 N5° W89° W
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）





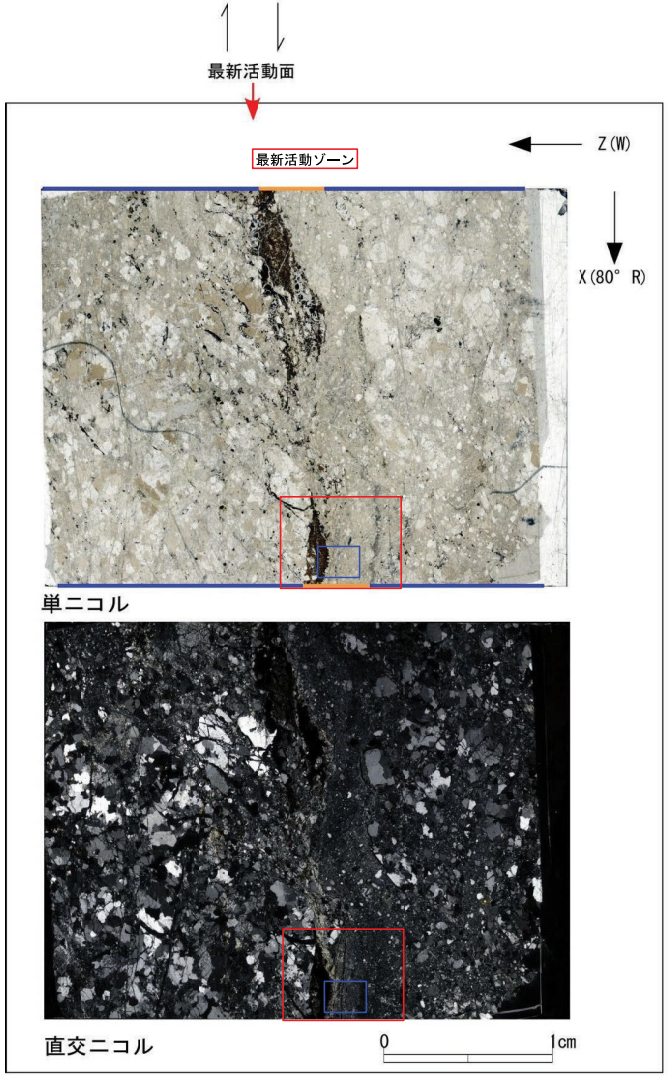


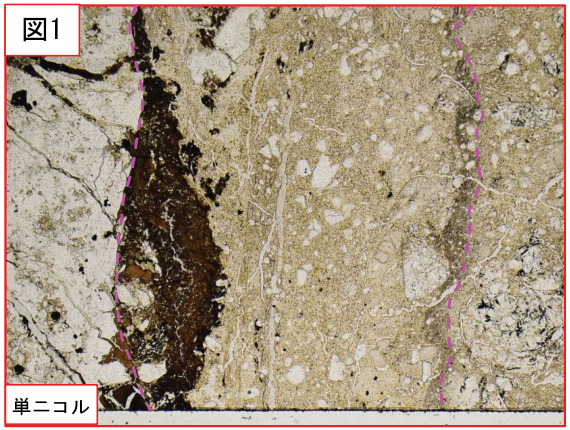


凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-A-11　深度10.20～12.76m　K断層(2/3)

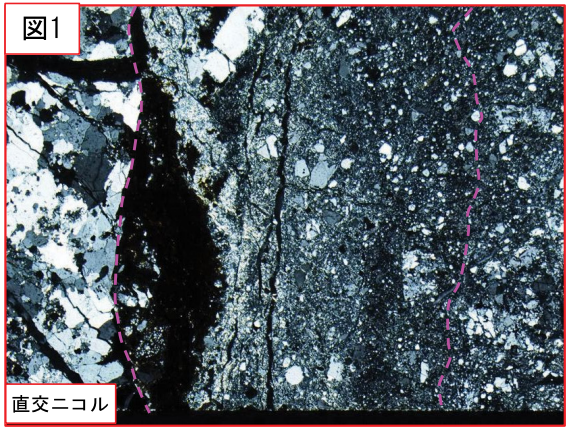
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



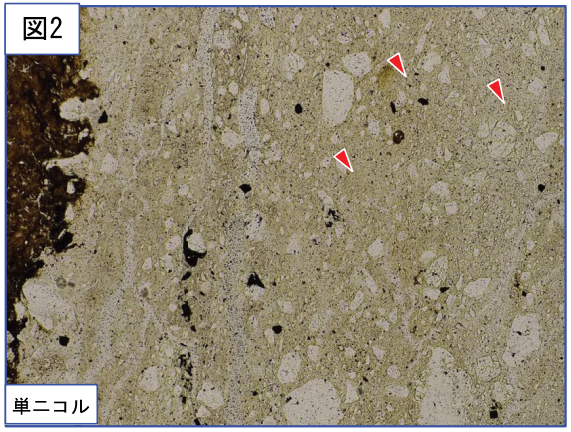


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

1 mm

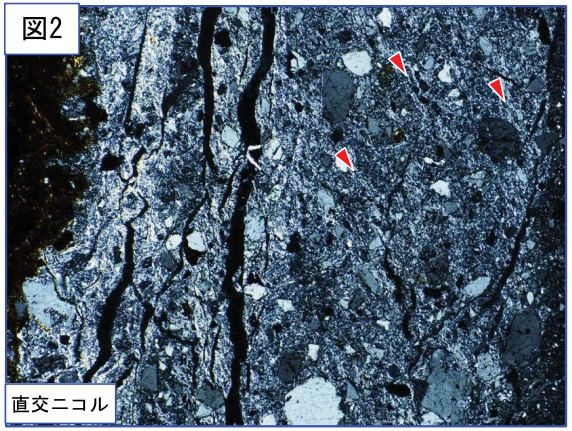


1 mm



500 μm

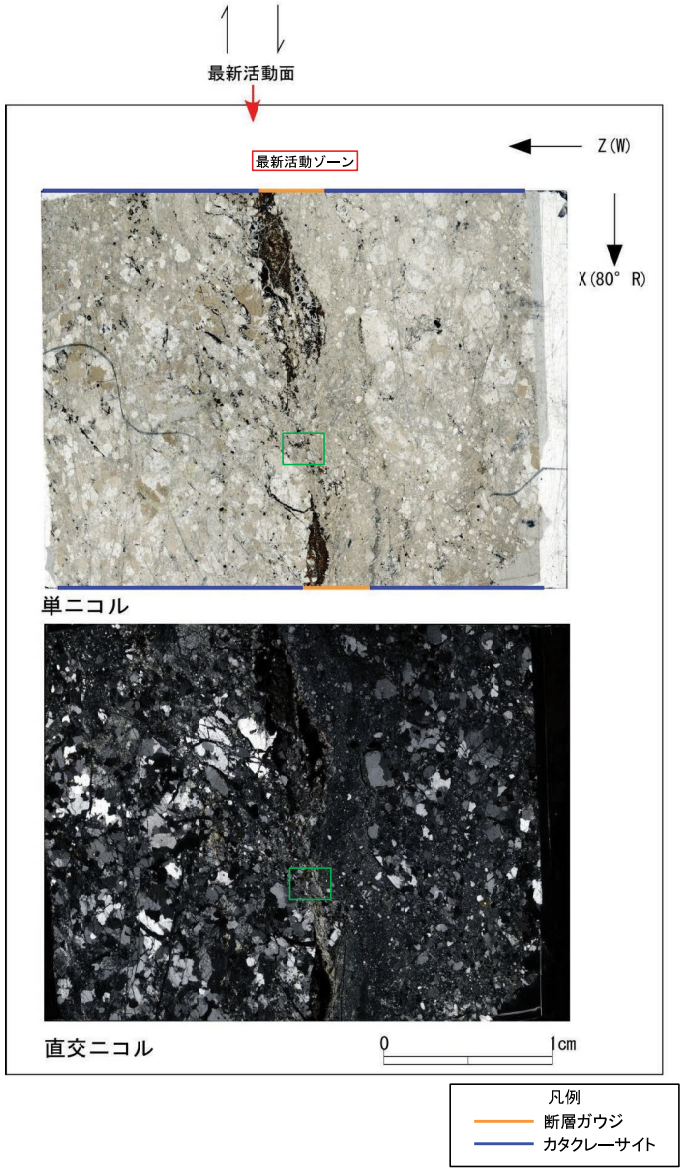
赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

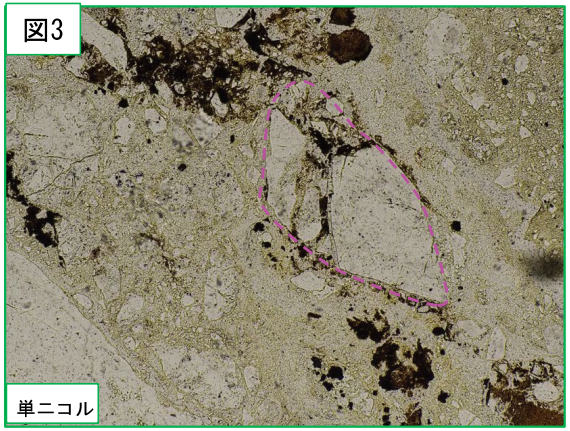


500 μm

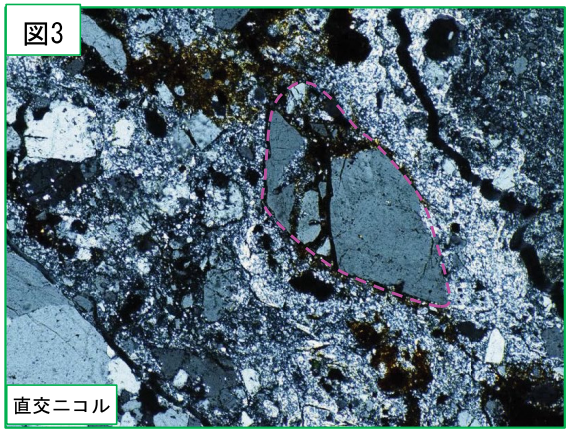
H24-A-11　深度10.20～12.76m　K断層(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)





破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



最新活動面認定根拠(K断層　H24-E-2　深度13.23～15.82m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度13.46mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



青枠部拡大

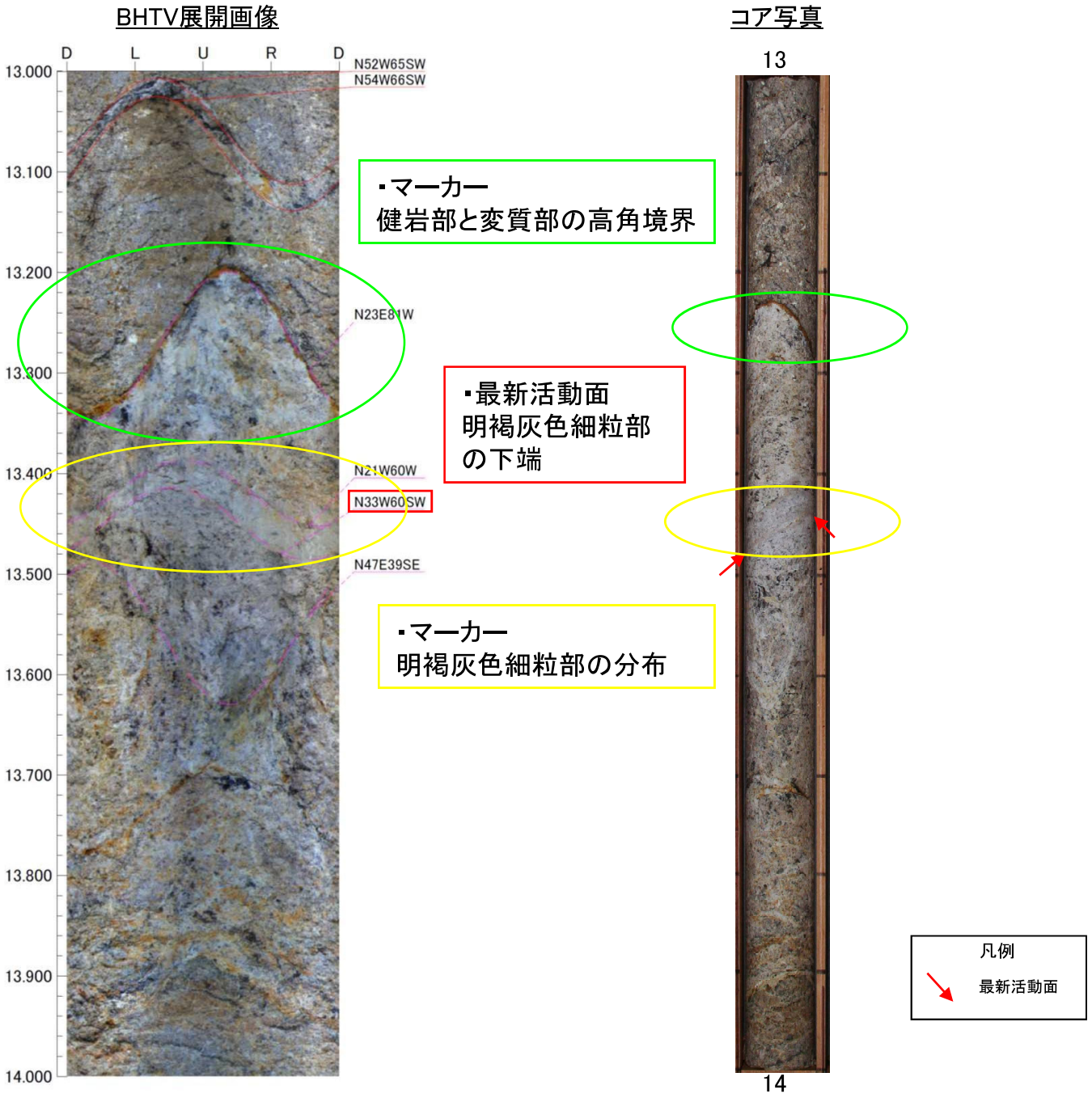
凡例
最新活動面

0　5 cm

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H24-E-2　深度13.23～15.82m）

3のエビデンス（走向・傾斜）

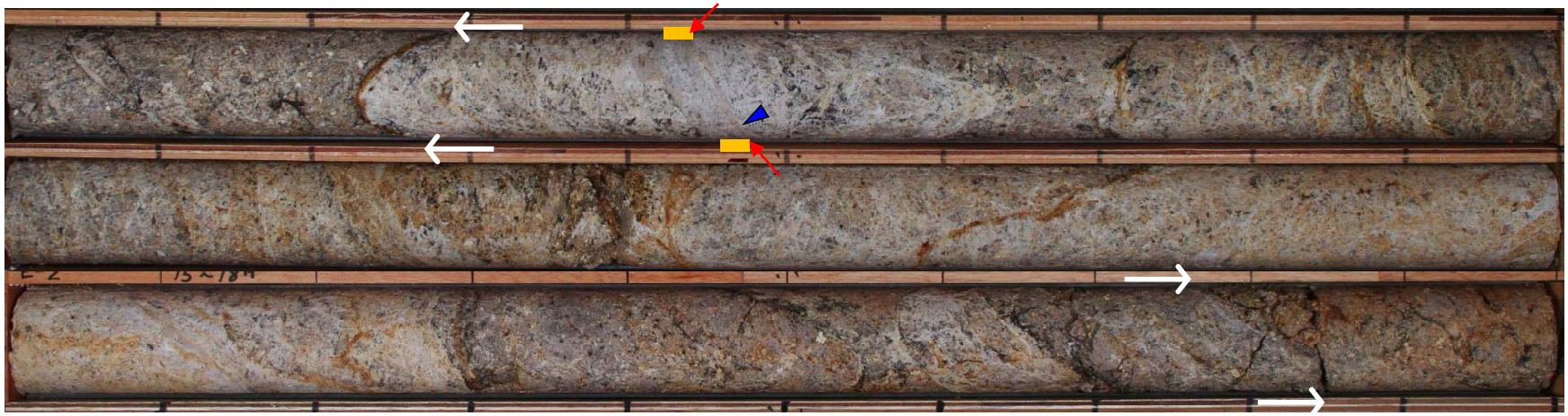
・H24-E-2　深度13.23～15.82mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN33°W60°SWである。



条線観察結果（K断層 H24-E-2孔 深度13.46m）

H24-E-2孔 深度13.46mのK断層の断層面の走向・傾斜はN33° W60° SWであり，53Rの条線が認められる．

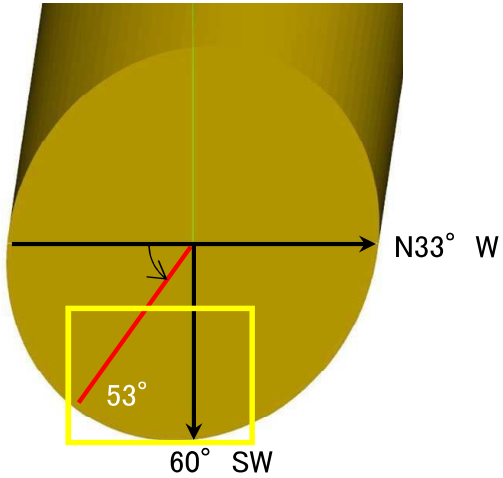
コア写真



凡例
条線観察位置　断層ガウジ　破砕部範囲※　最新活動面
※：写真上は白色で記載

観察模式図

※下盤側から観察



凡 例
最新活動面　レイク

条線観察位置拡大



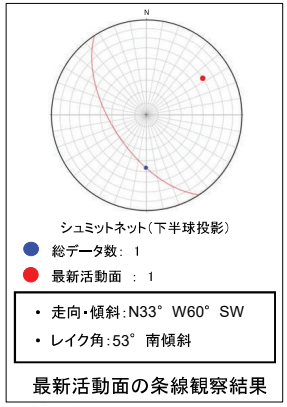
赤枠内拡大



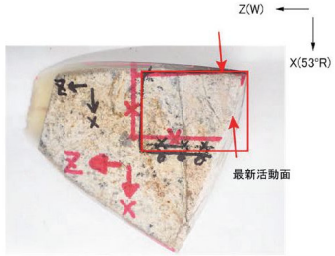
凡 例
条線方向

H24-E-2　深度13.23～15.82m　K断層(1/3)

・H24-E-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度13.46m)の変位センスは，右ずれを伴う逆断層である。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



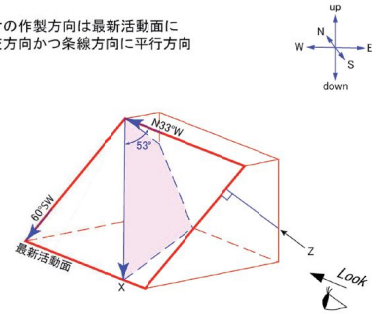
最新活動面の条線観察結果





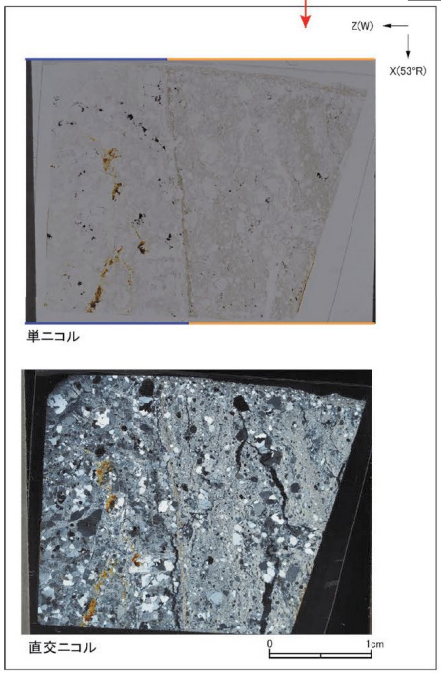
ブロックサンプル

薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



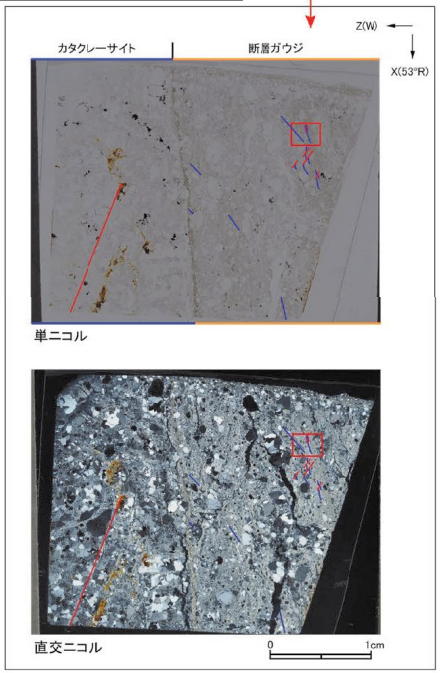
走向・傾斜　N33°W 60°SW
X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

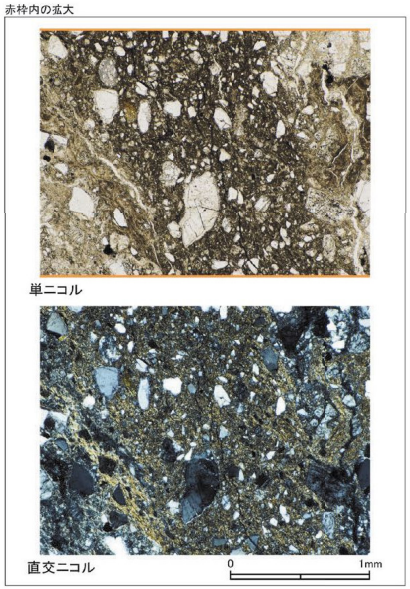
最新活動面

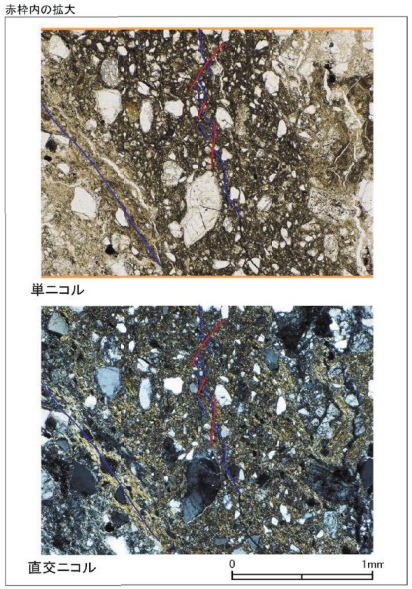


最新活動ゾーン

最新活動面







凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-E-2　深度13.23～15.82m　K断層(2/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)

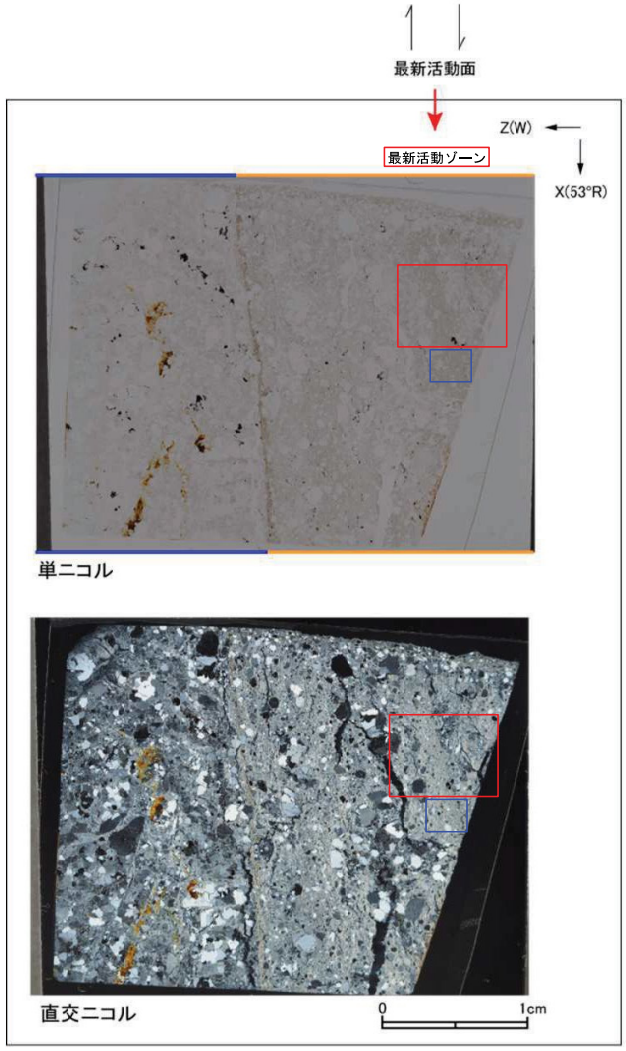
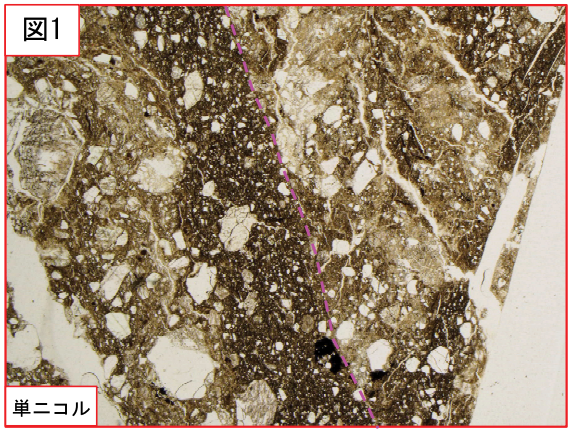


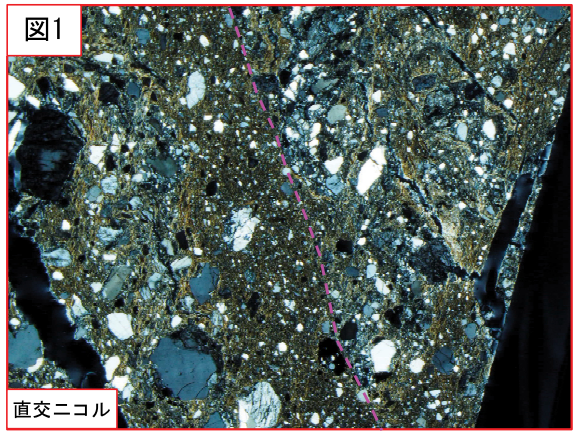
図1



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

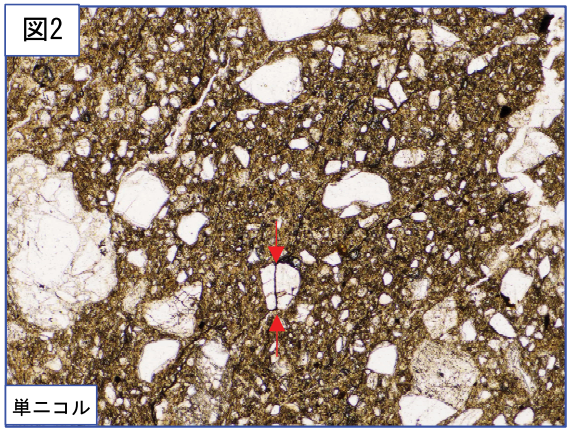
1 mm

図1



1 mm

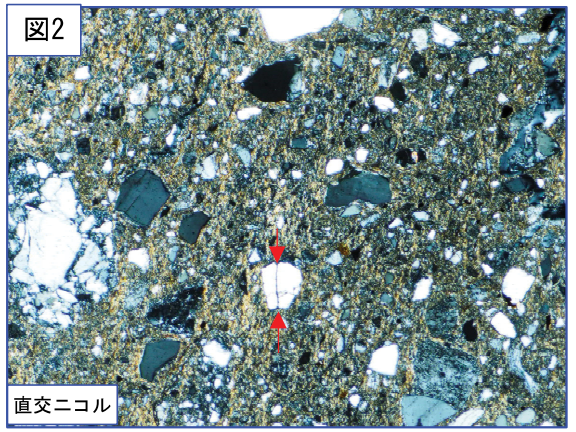
図2



500 μm

赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

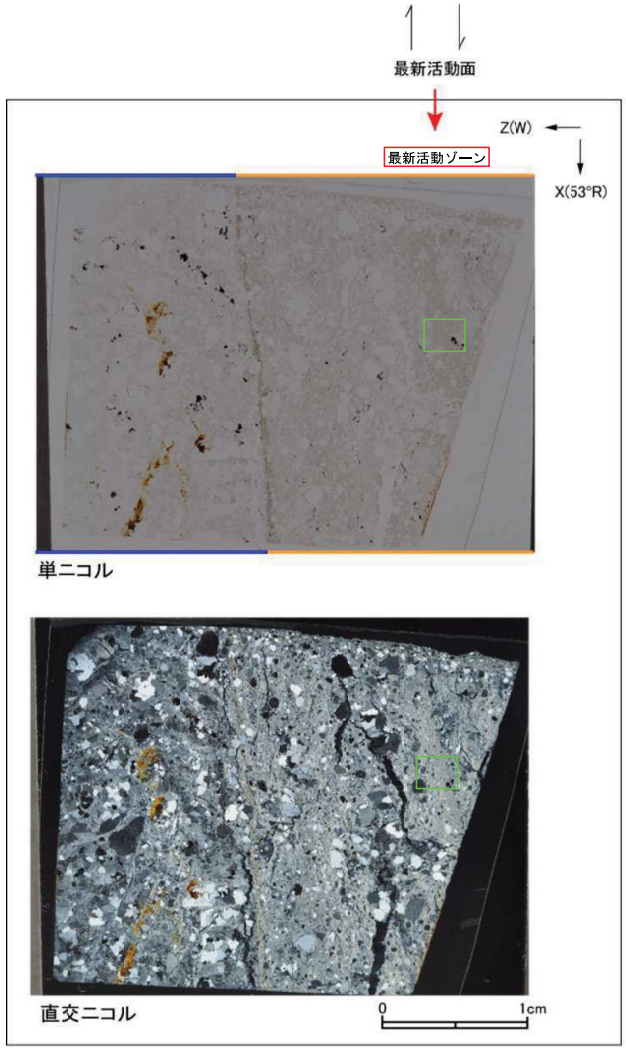
図2

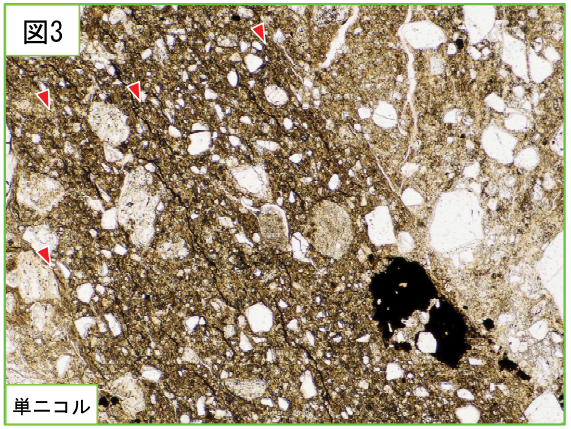


500 μm

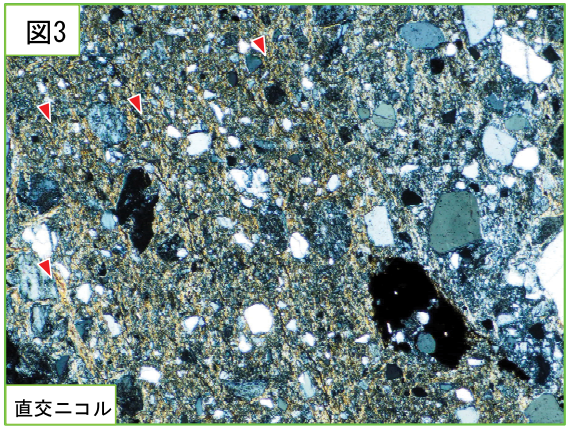
H24-E-2　深度13.23～15.82m　K断層(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)





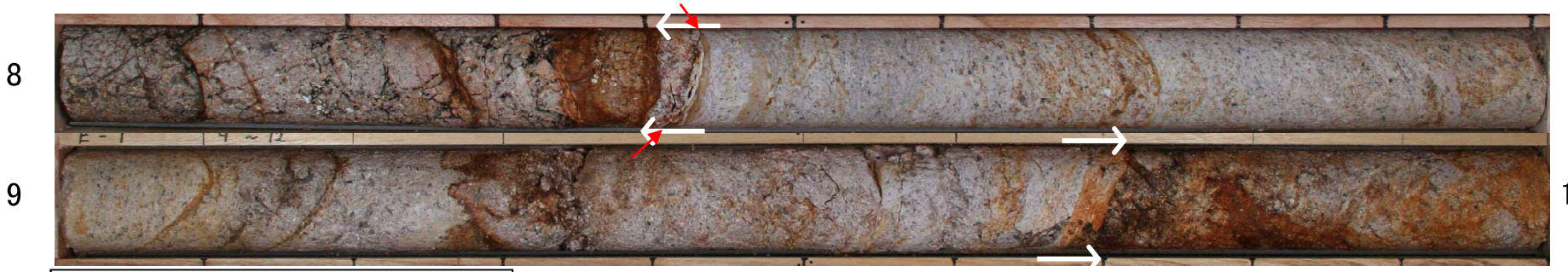
赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



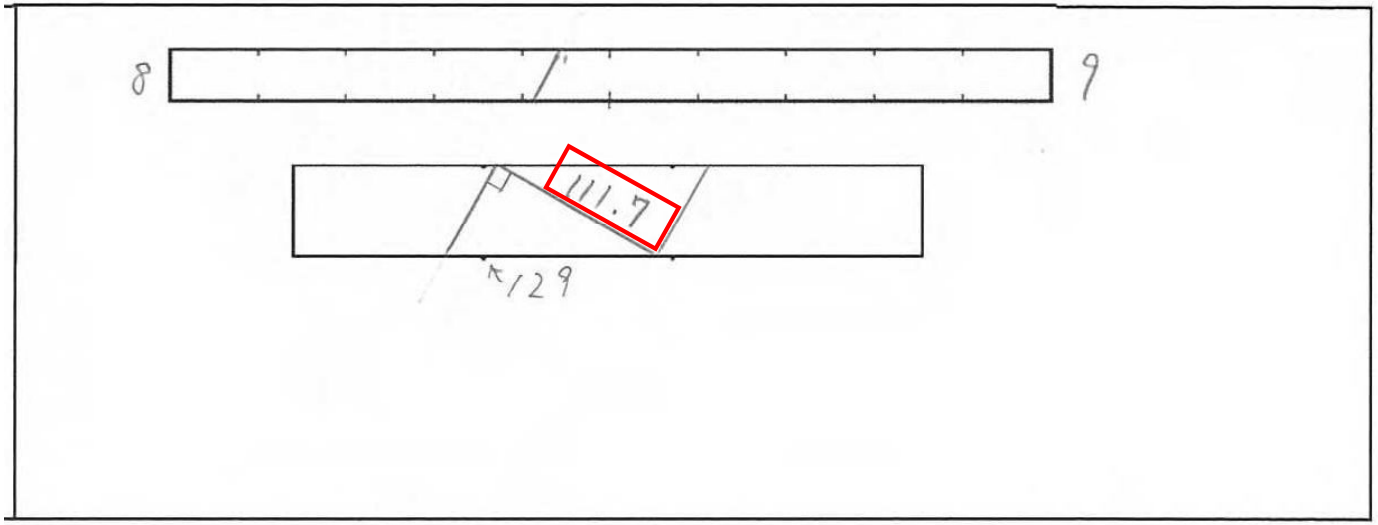
破砕幅算出資料(K断層　H24-E-1　深度8.41～9.70m)

・破砕部の区間長がコア径より長く，破砕幅を実測できないことから，図化した資料から算出した。
・算出した破砕幅は111.7cmである。

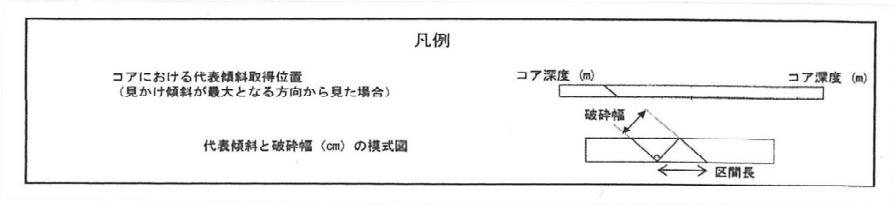
コア写真



凡例
破砕部範囲※　代表傾斜取得位置
※:写真上は白色で記載



破砕幅算出図

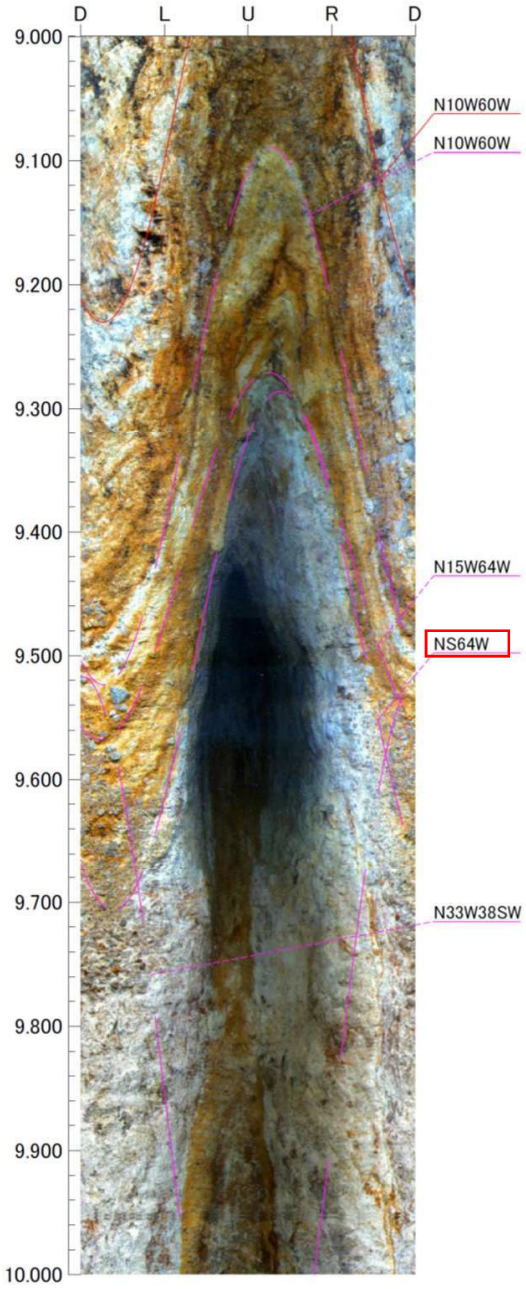


ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H24-H-6-1　深度9.58～14.36m）

7のエビデンス（走向・傾斜）

・H24-H-6-1　深度9.58～14.36mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はNS64°Wである。

BHTV展開画像



・最新活動面
明黄褐色部の下端

コア写真

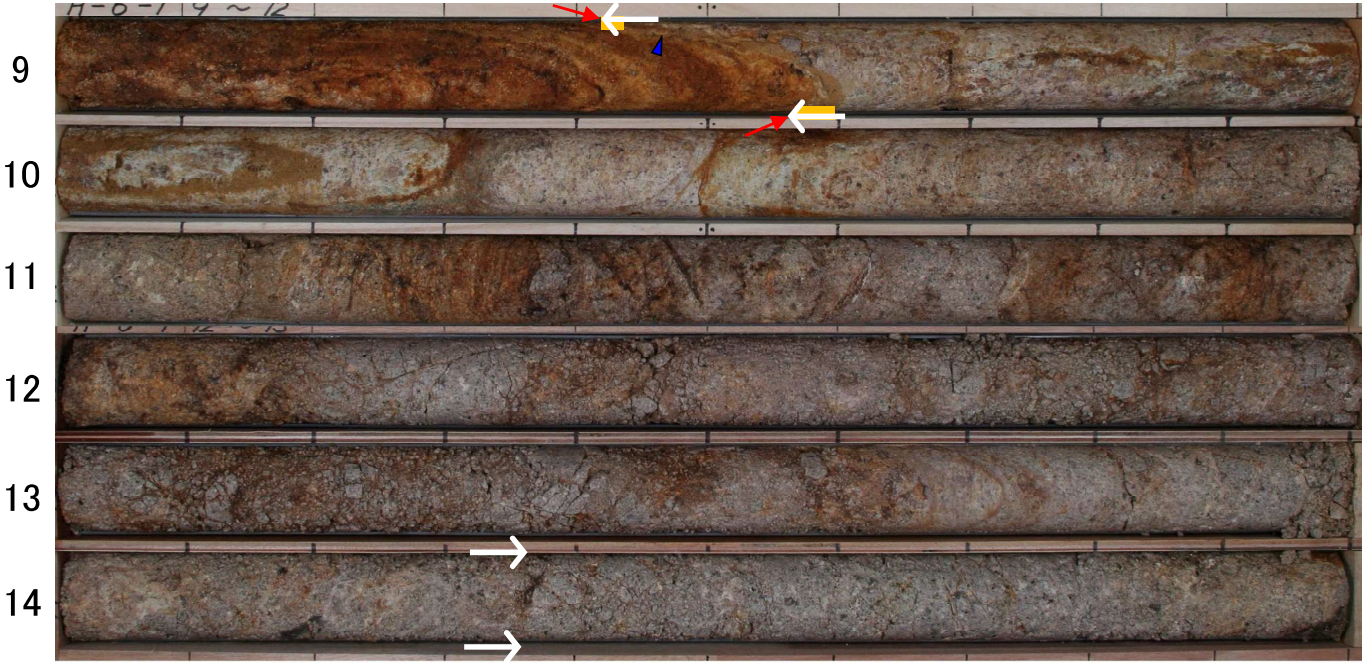


凡例
最新活動面

条線観察結果（K断層 H24-H-6-1孔 深度9.58m）

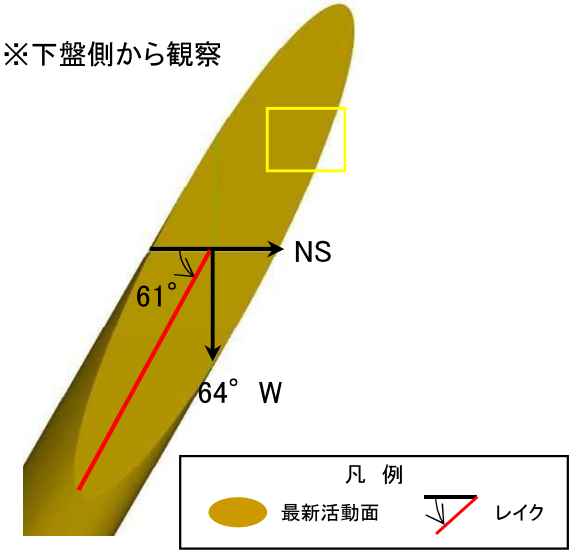
H24-H-6-1孔 深度9.58mのK断層の断層面の走向・傾斜はNS64° Wであり，61Rの条線が認められる。

コア写真

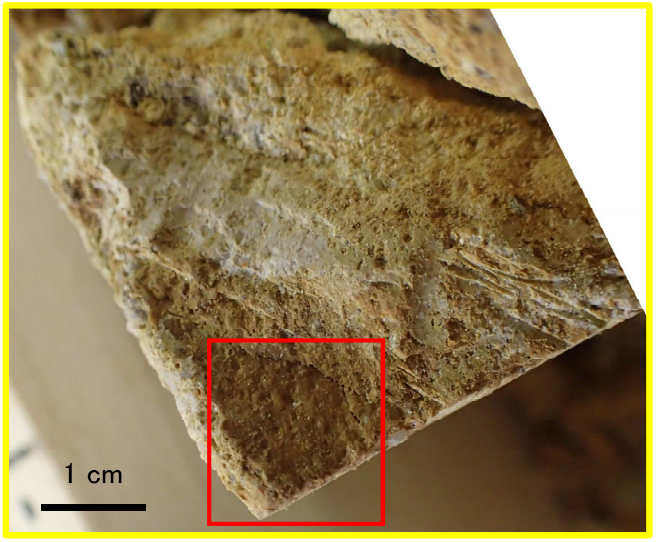


観察模式図

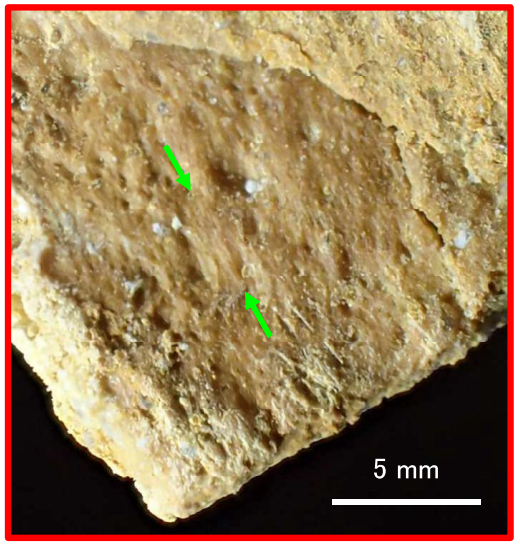
※下盤側から観察



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（K断層　H24-H-14　深度4.93～7.81m）9, 10のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は3.5cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ　←　→　破砕部範囲※
※：写真上は白色で記載



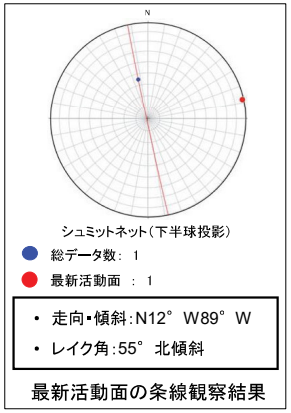
青枠部拡大

0　5 cm

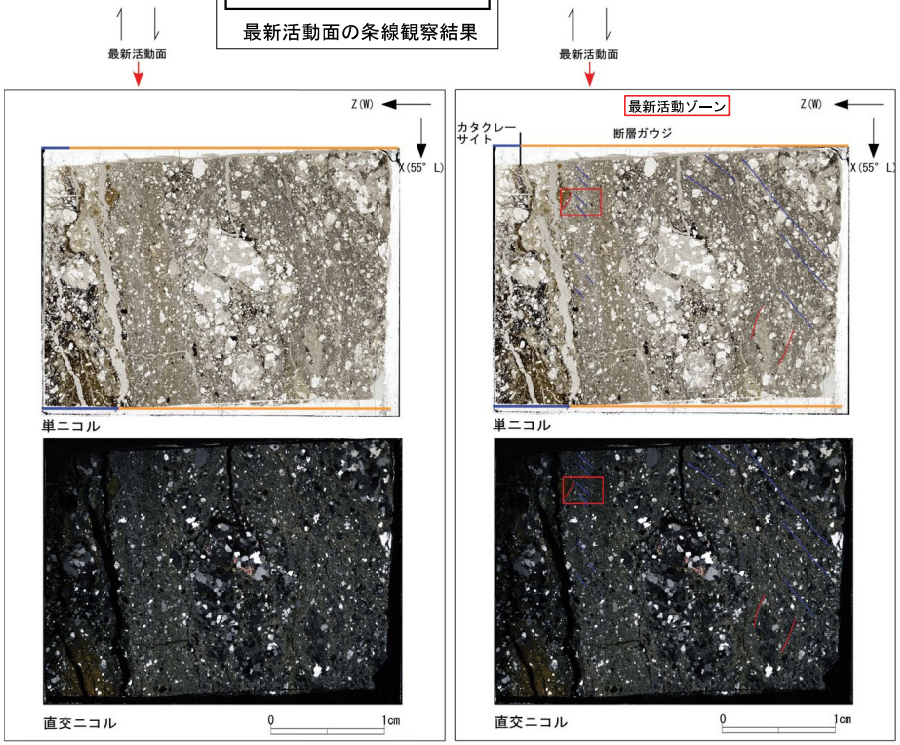
H24-B'-1　深度7.50～10.93m　K断層(1/2)

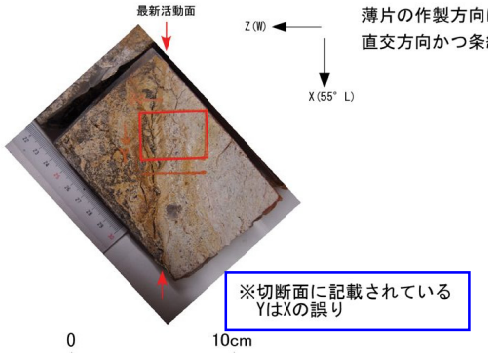
青枠：修正箇所　11のエビデンス（薄片観察結果）（1/2）

・H24-B'-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度7.91m)の変位センスは，左ずれを伴う逆断層である。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



最新活動面の条線観察結果

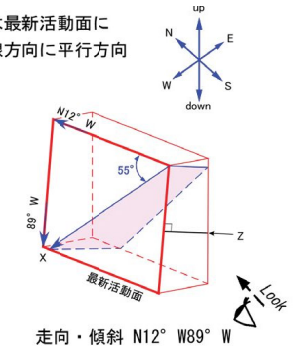




ブロックサンプル

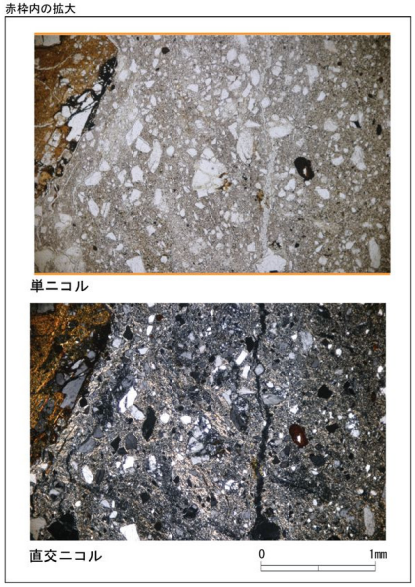
※切断面に記載されている
YはXの誤り

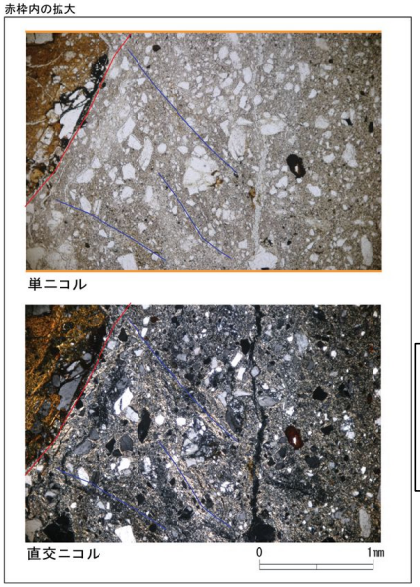
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

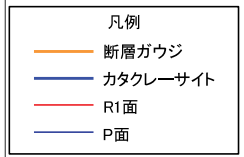


走向・傾斜 N12° W89° W

X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

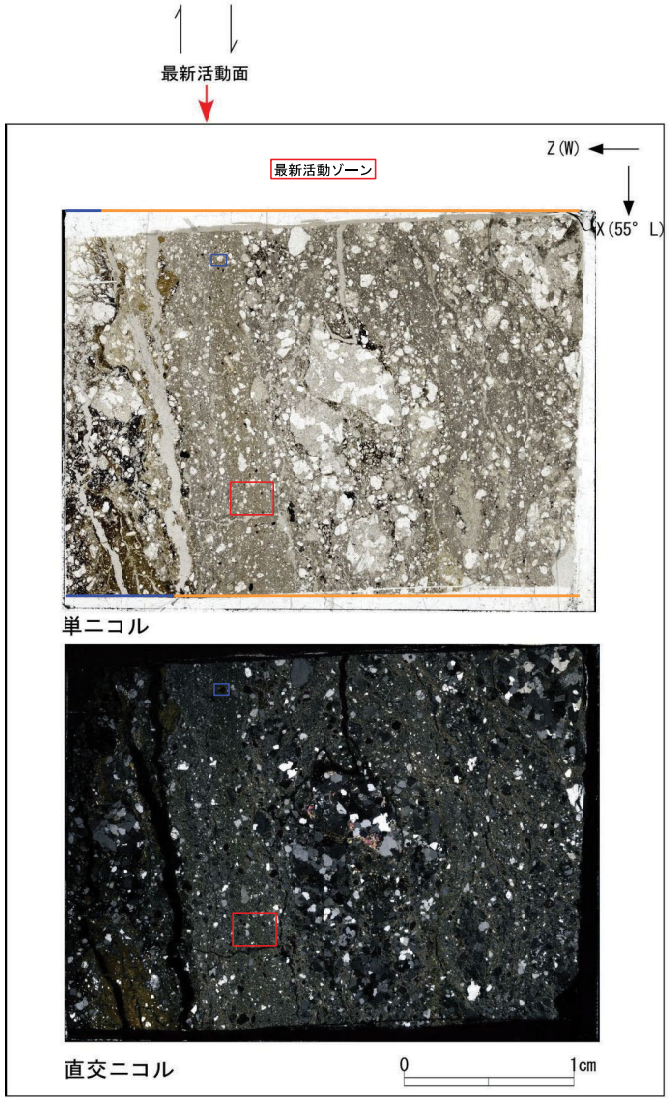


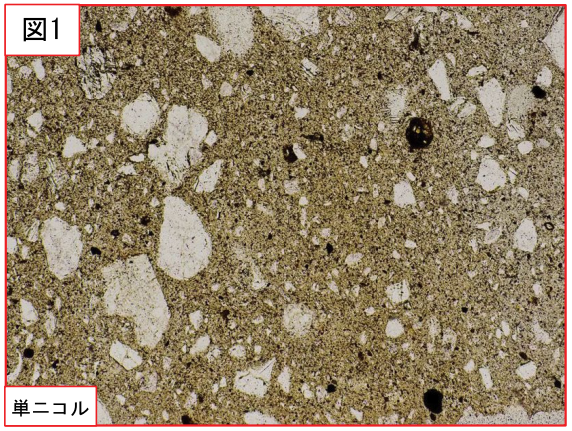


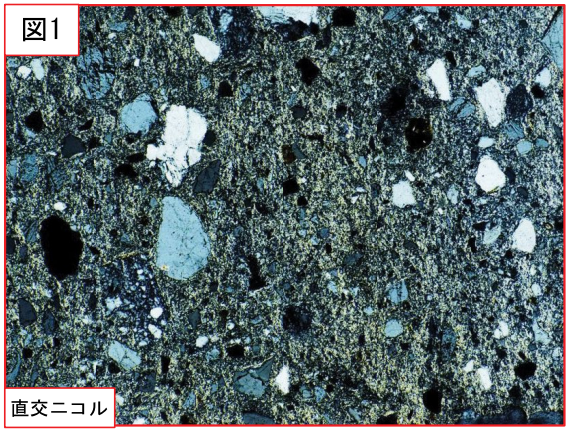


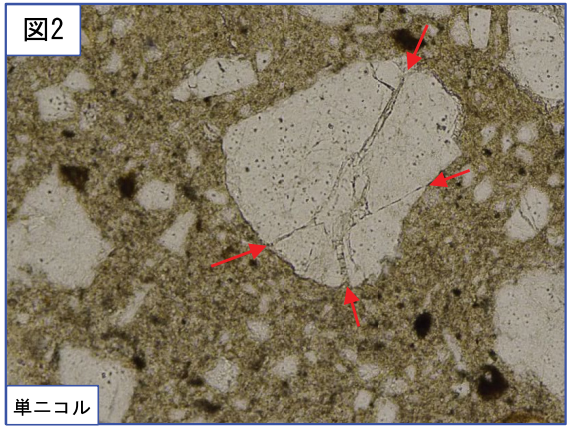
H24-B'-1　深度7.50～10.93m　K断層(2/2)

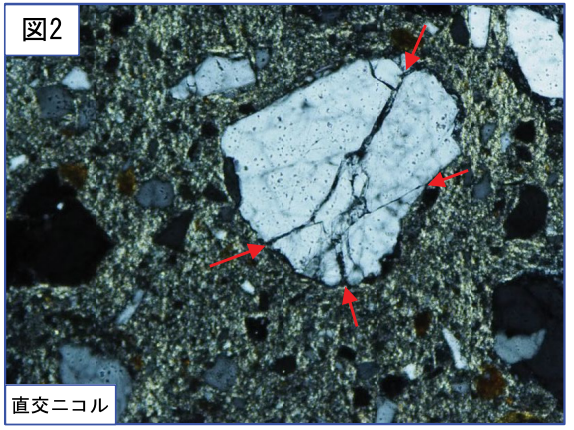
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)











赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

最新活動面認定根拠(H24-D1-1　深度49.20～49.91m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度49.82mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
破砕部範囲※
最新活動面
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

0　5 cm

凡例
最新活動面

最新活動面認定根拠(H24-D1-1　深度53.77～54.54m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度53.80mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
破砕部範囲※
最新活動面
※：写真上は白色で記載



青枠部拡大

凡例
最新活動面

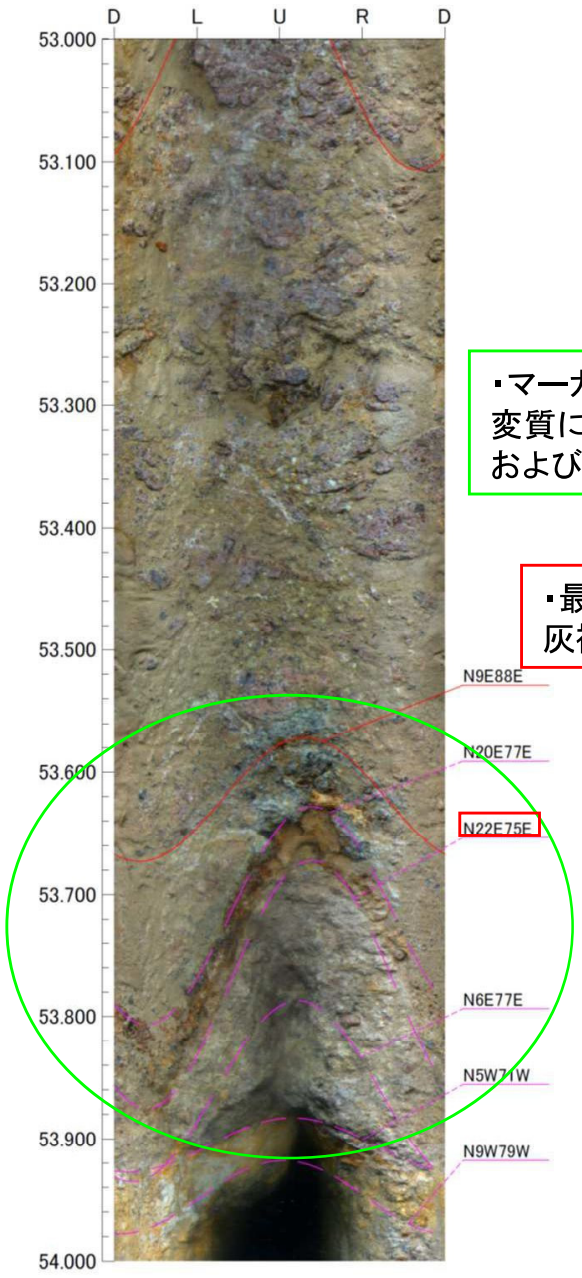
0　5 cm

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H24-D1-1　深度53.77～54.54m）

16のエビデンス（走向・傾斜）

・H24-D1-1　深度53.77～54.54mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN22°E75°Eである。

BHTV展開画像



・マーカー
変質により緑色化した部分
および灰褐色細粒部の分布

・最新活動面
灰褐色細粒部の下端

コア写真



断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-1　深度53.77～54.54m）17のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は1.0cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ　破砕部範囲※
※：写真上は白色で記載

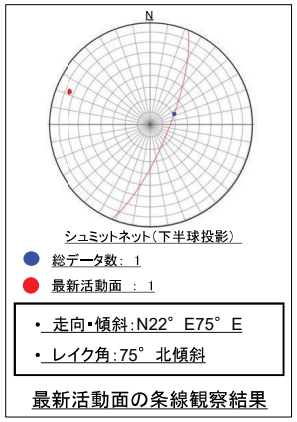


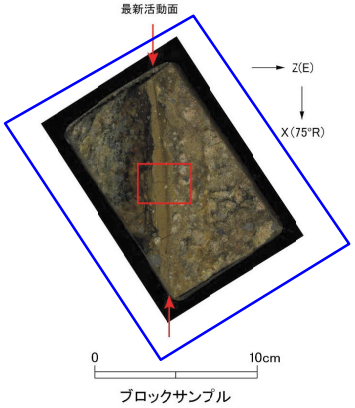
青枠部拡大

H24-D1-1　深度53.77～54.54m　（1/2）

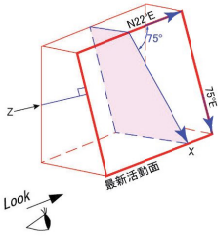
青枠：修正箇所

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度53.80m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，断層ガウジと判断した。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。



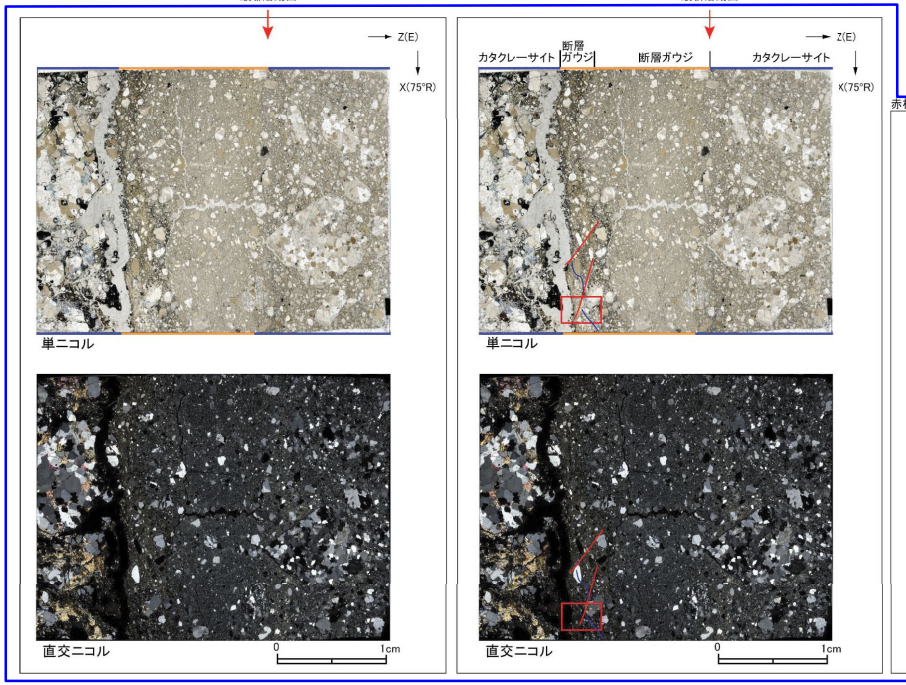


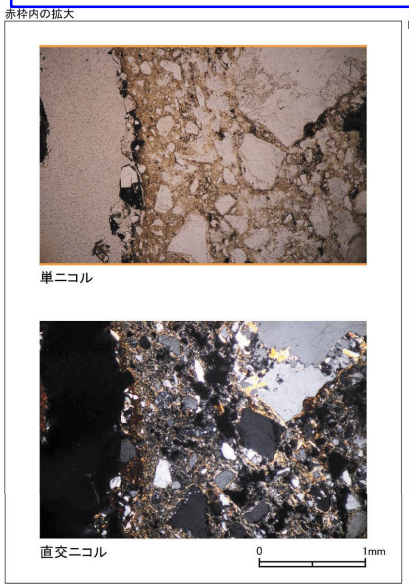
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

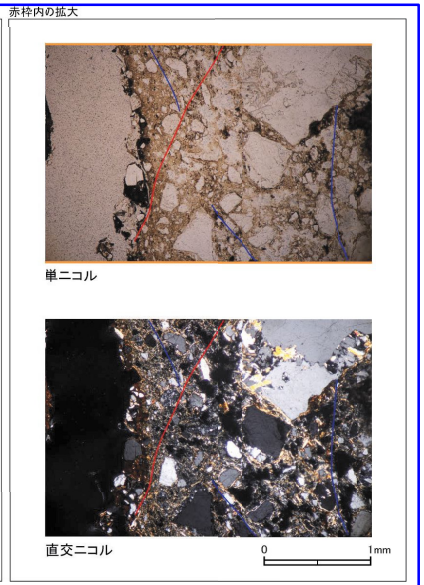


走向・傾斜　N22°E 75°E
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）









凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-D1-1　深度53.77～54.54m　(2/2)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

青枠：修正箇所

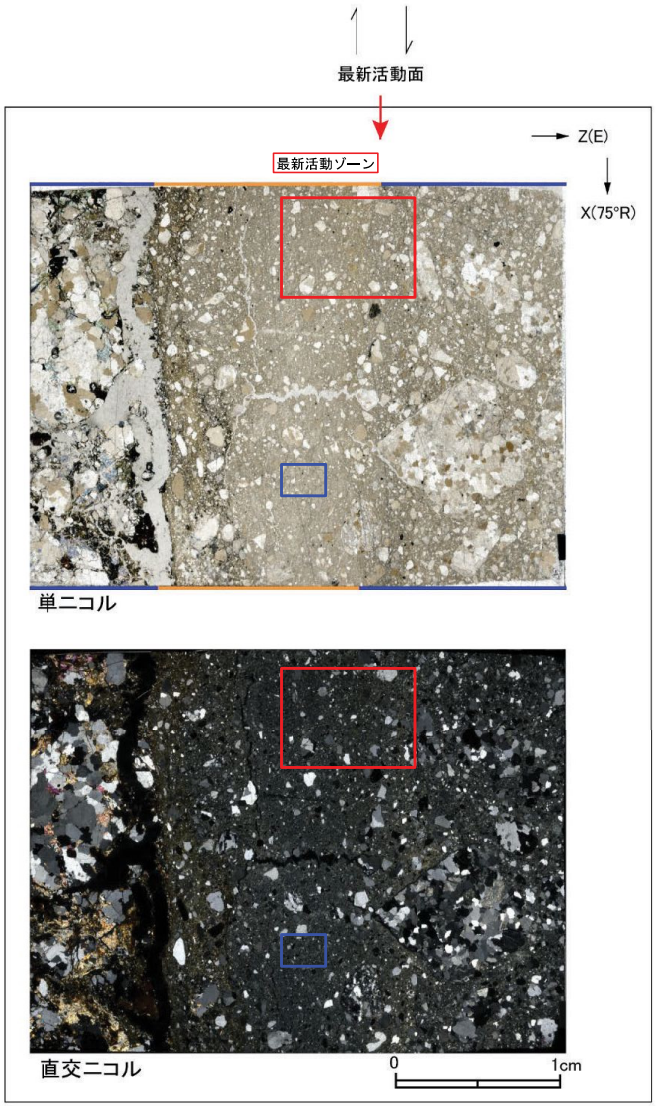
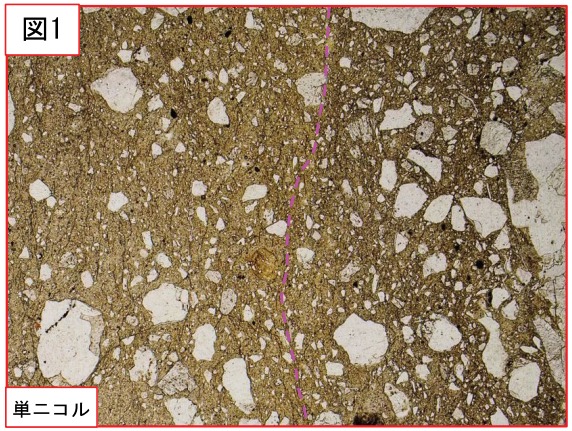


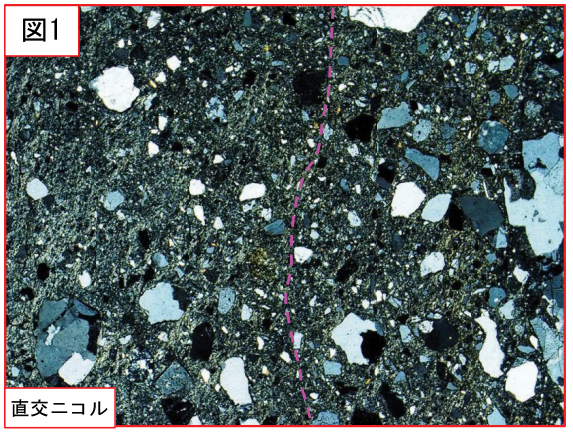
図1



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

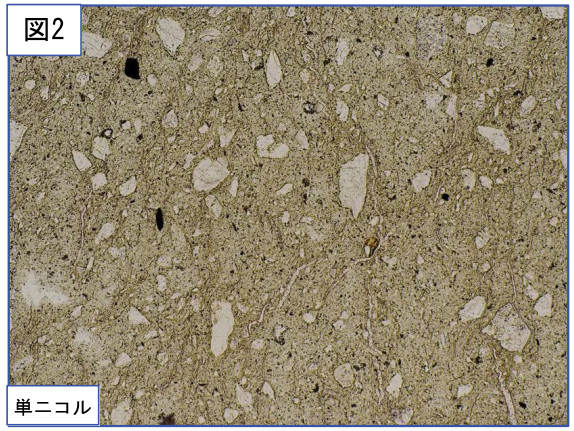
1 mm

図1



1 mm

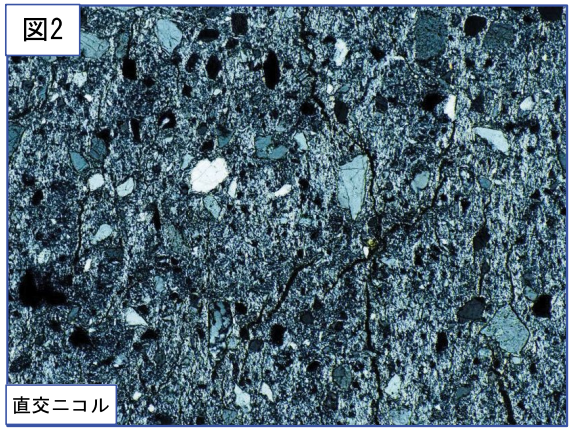
図2



500 μm

凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト

図2



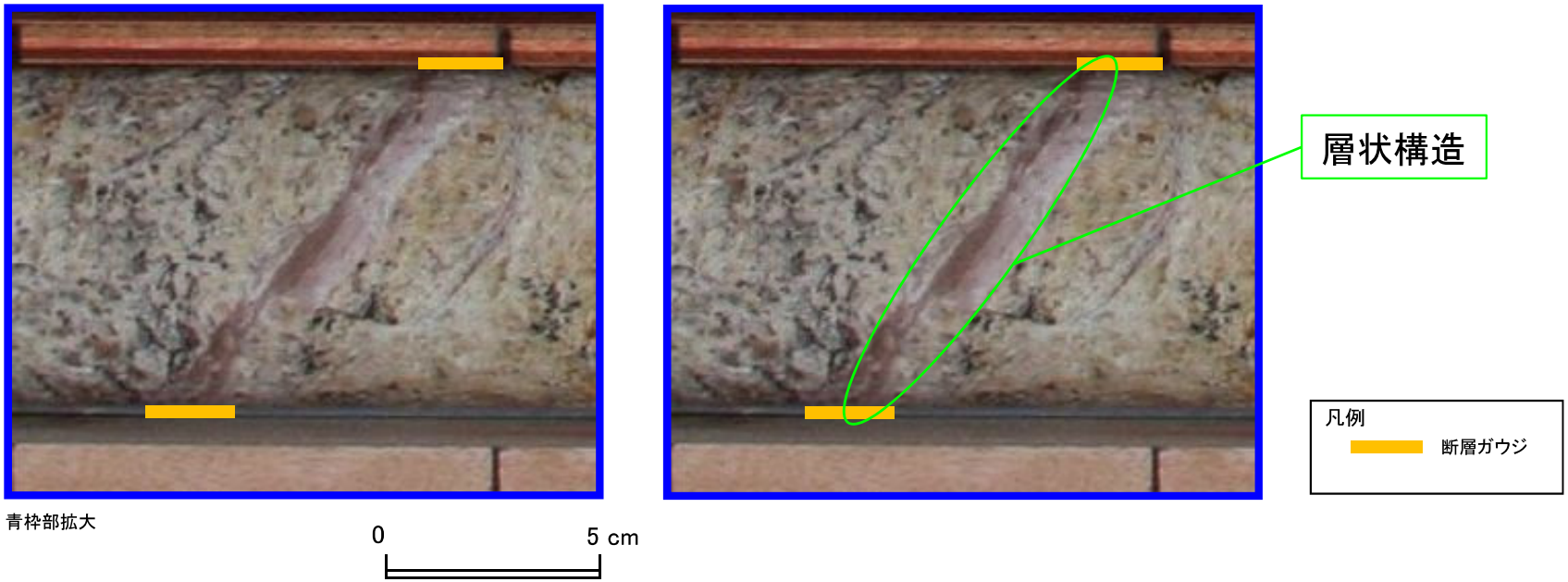
500 μm

明瞭なせん断構造・変形構造の有無（H24-D1-1　深度58.96～59.30m）

・最新活動面に沿った断層ガウジには灰赤色と灰白色の層状構造が認められることから，明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とした。

コア写真





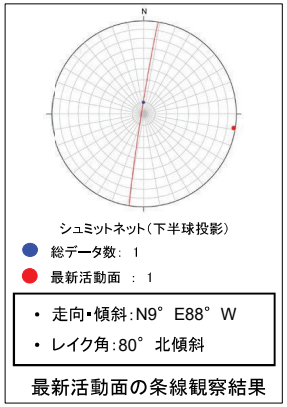
青枠部拡大

H24-D1-1　深度60.12～60.15m　(1/3)

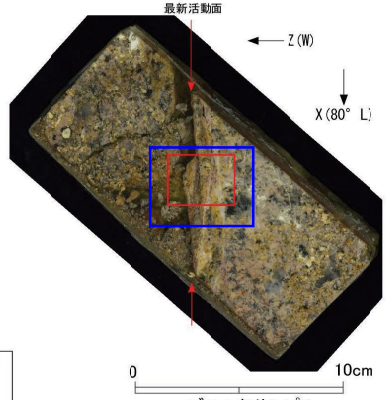
青枠：修正箇所

20のエビデンス（薄片観察結果）　(1/3)

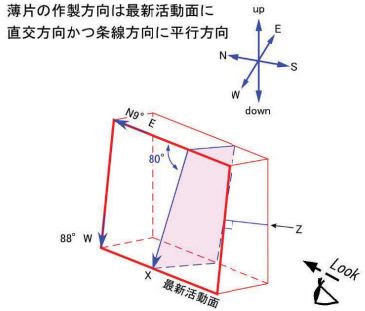
- H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度60.12m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
- 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，断層ガウジと判断した。
  - （断層ガウジ）せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
  - （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。



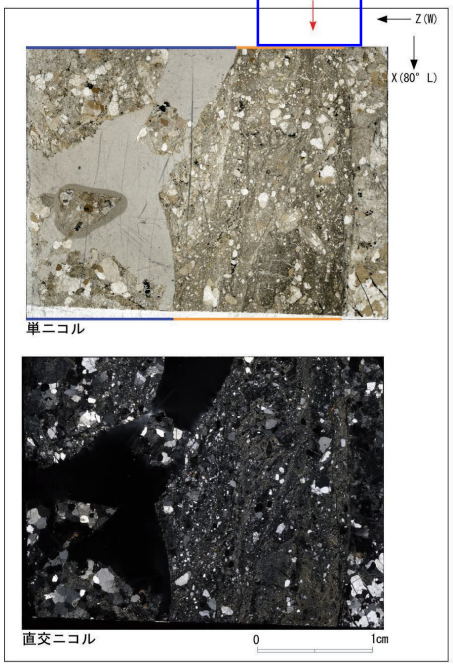
最新活動面の条線観察結果

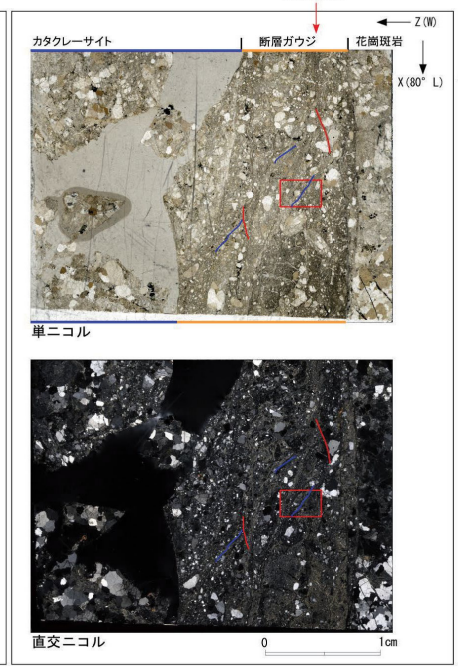


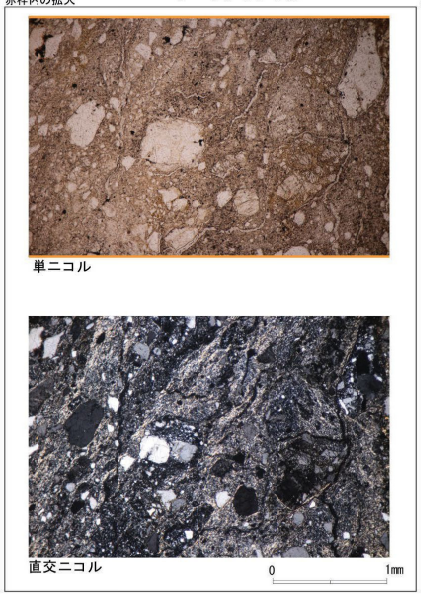
ブロックサンプル

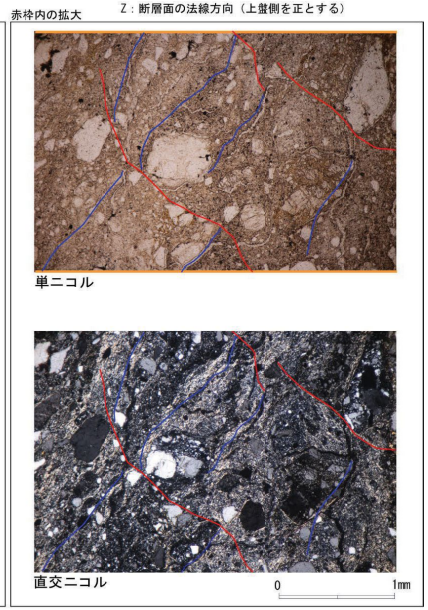


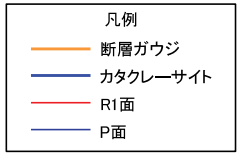
走向・傾斜 N9° E38° W
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）









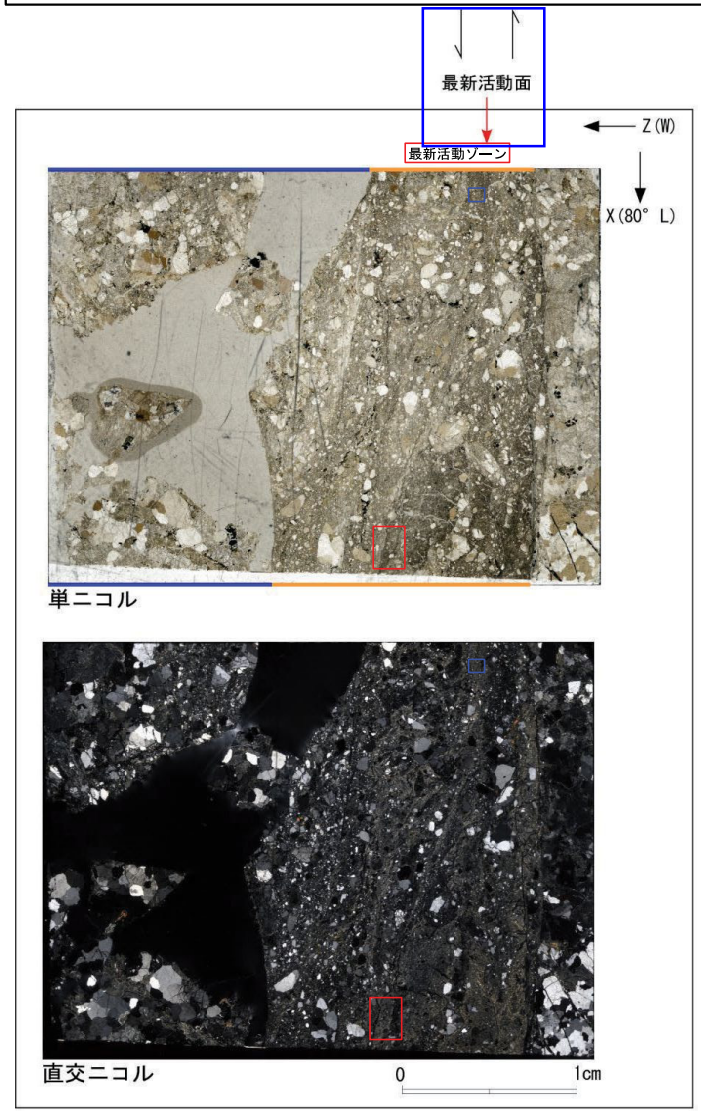


H24-D1-1　深度60.12～60.15m　(2/3)

青枠：修正箇所

20のエビデンス（薄片観察結果）　(2/3)

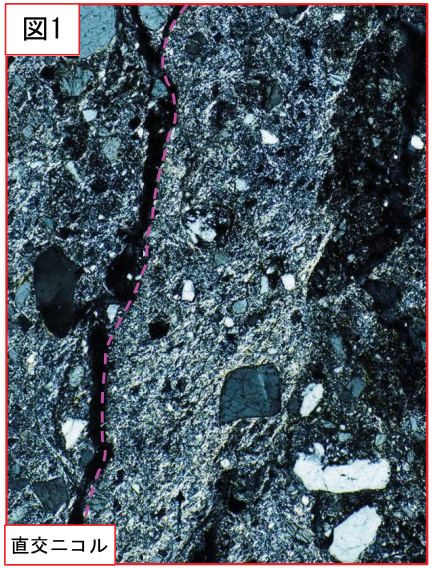
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



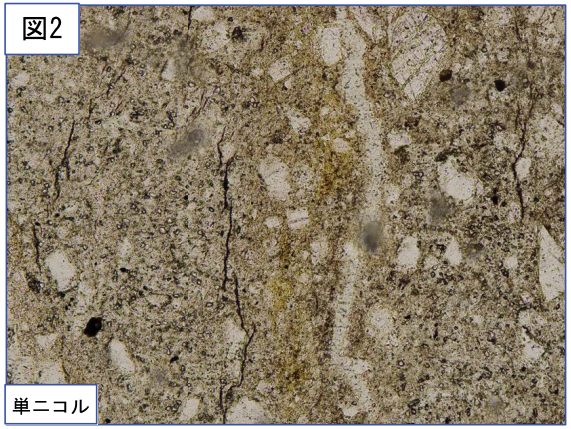


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

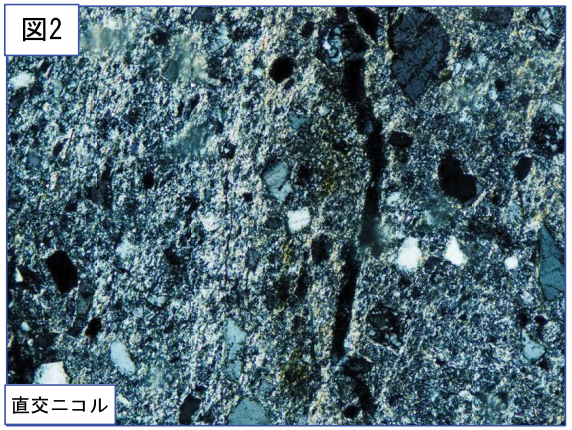
500 μm



500 μm



200 μm

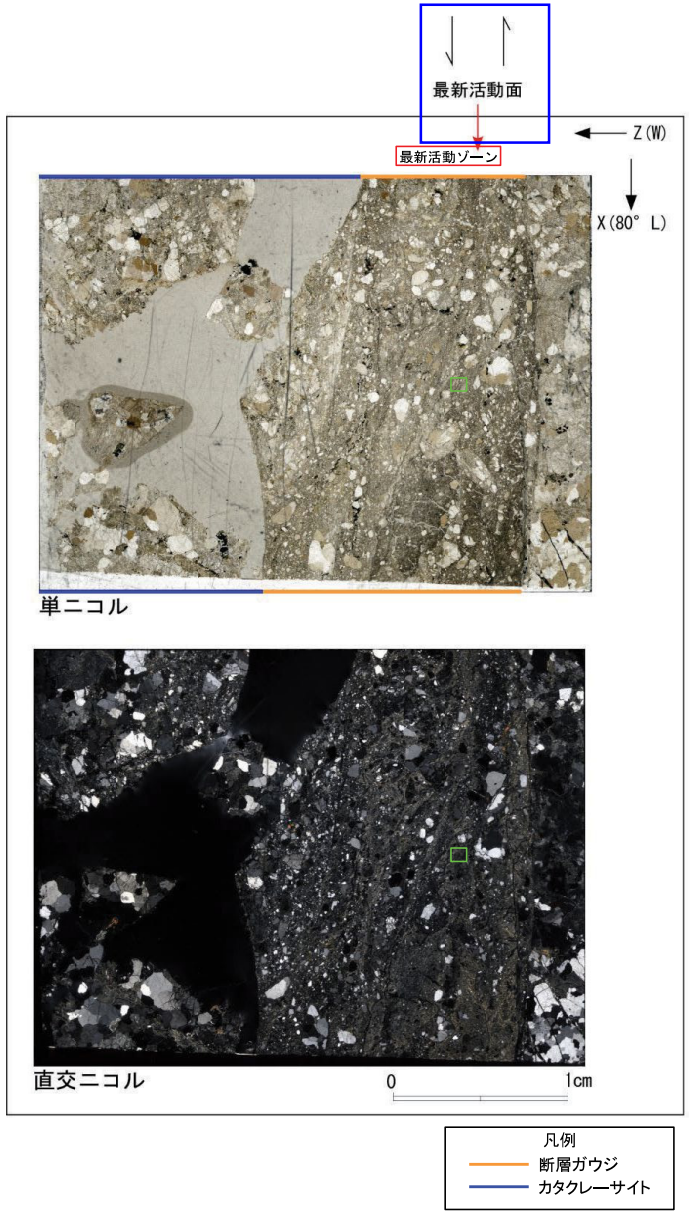


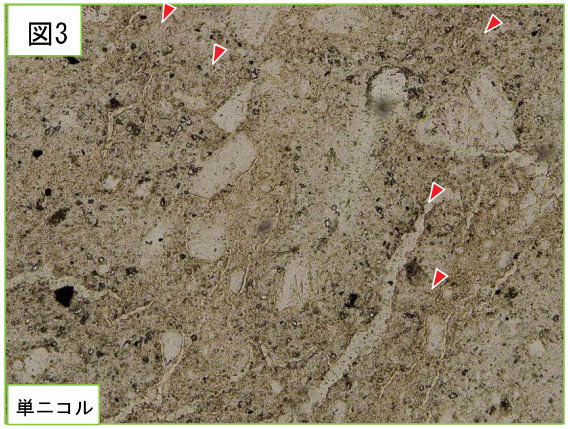
200 μm

青枠：修正箇所

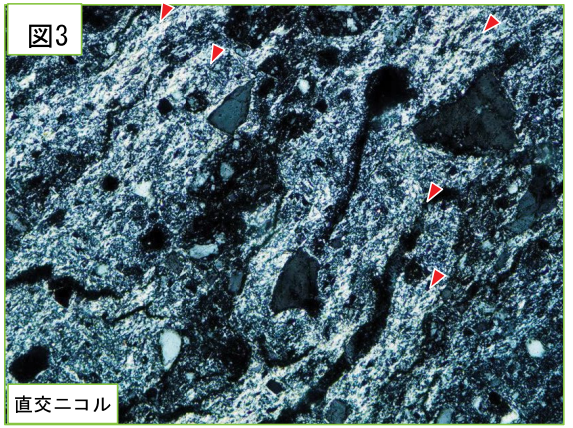
H24-D1-1　深度60.12～60.15m （3/3）

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。（図3）





赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

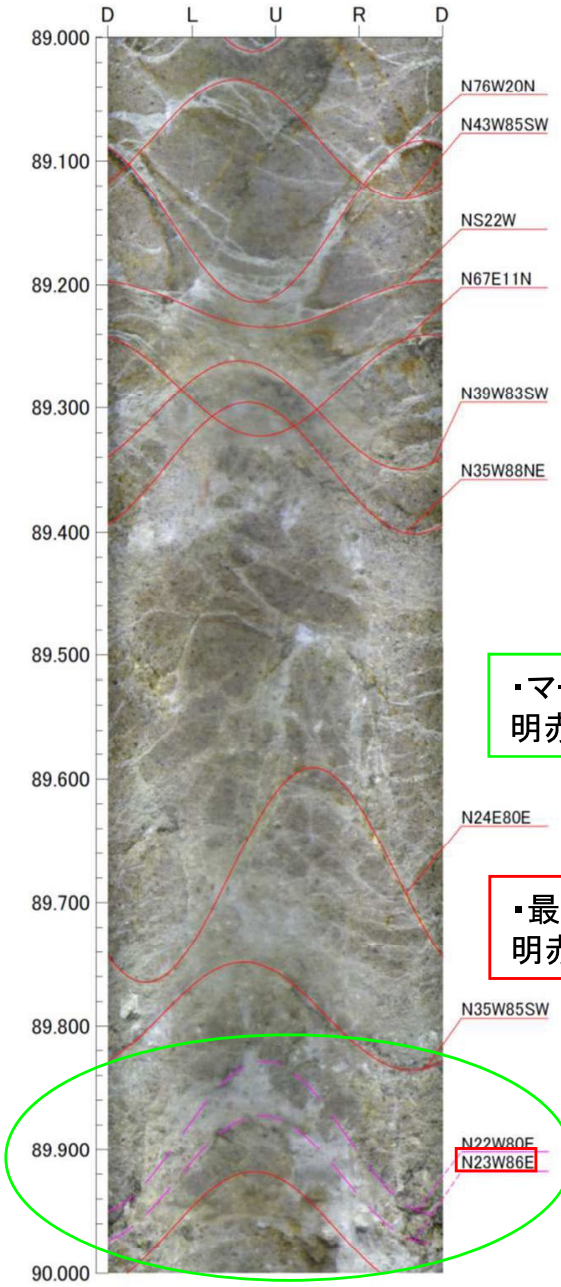


ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H24-D1-1　深度89.91～89.95m）

22のエビデンス（走向・傾斜）

・H24-D1-1　深度89.91～89.95mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN23°W86°Eである。

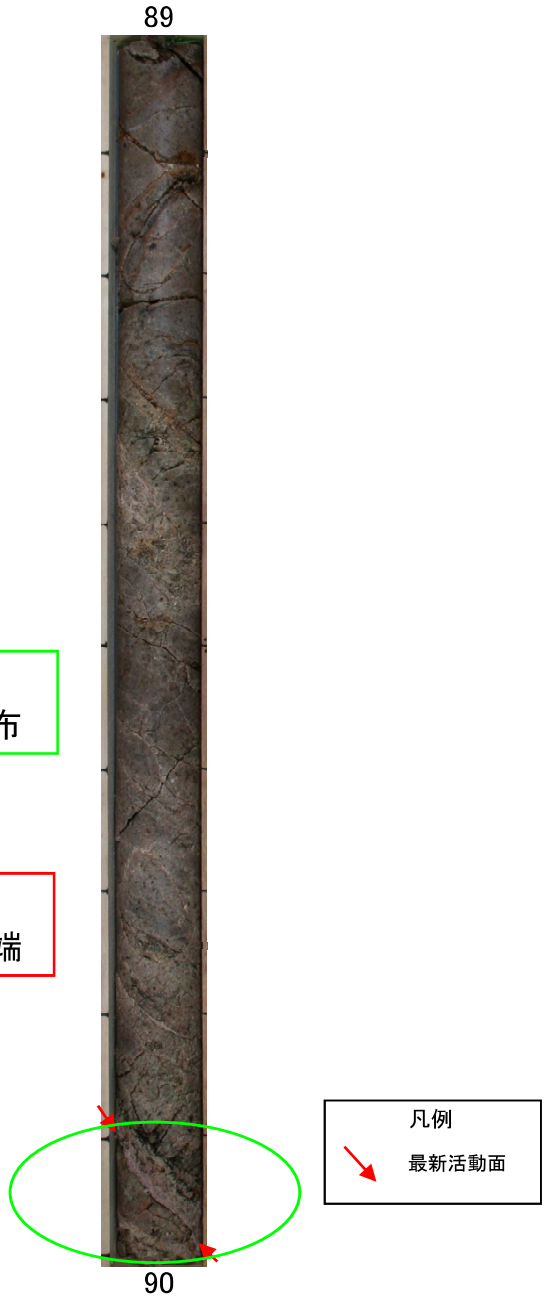
BHTV展開画像



・マーカー
明赤灰色細粒部の分布

・最新活動面
明赤灰色細粒部の下端

コア写真



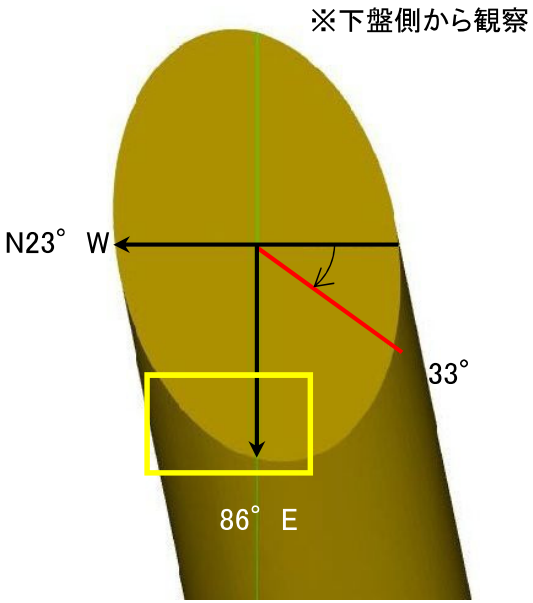
条線観察結果(H24-D1-1孔 深度89.95m)

H24-D1-1孔 深度89.95mの断層面の走向・傾斜はN23° W86° Eであり，33Lの条線が認められる。

コア写真



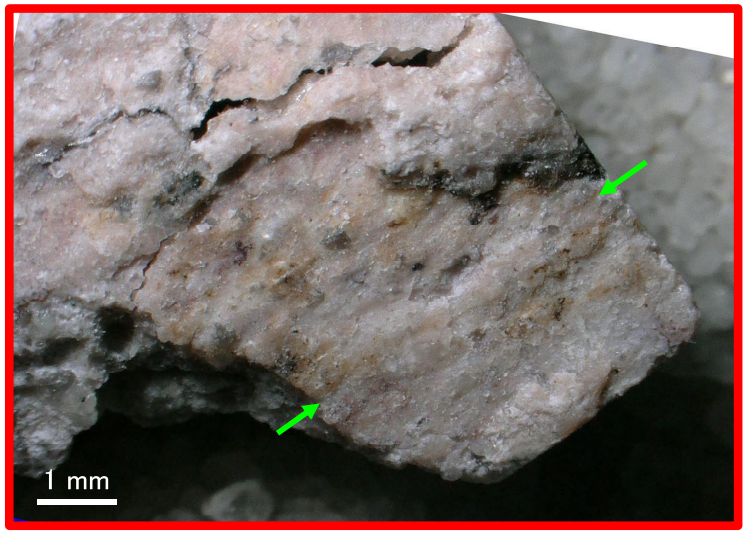
観察模式図



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-1　深度89.91～89.95m）

24のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は0.5cmである。

コア写真

89



90

凡例

断層ガウジ　←　→　破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

0　5 cm

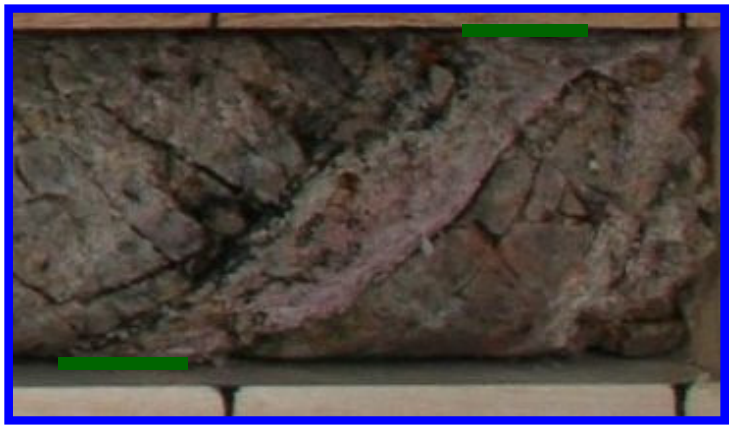
断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-1　深度89.91～89.95m）　24のエビデンス（角礫幅）

・実測した断層角礫の幅は1.5cmである。

コア写真



凡例
断層角礫　破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大



断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-1　深度90.26～90.84m）

25のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は0.2cmである。

コア写真

90



91

凡例

断層ガウジ　←　→　破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載



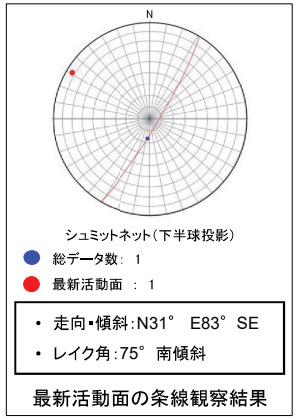
青枠部拡大

0　5 cm

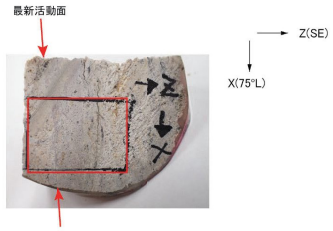
H24-D1-1　深度91.26～91.52m　（1/4）

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度91.31m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- （カタクレーサイト）組織は漸移的に変化する。
- （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。
- （カタクレーサイト）塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



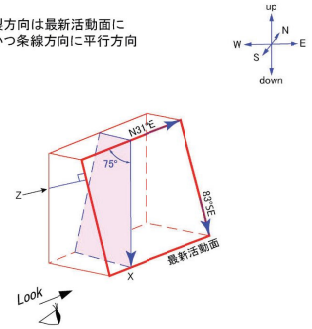
最新活動面の条線観察結果



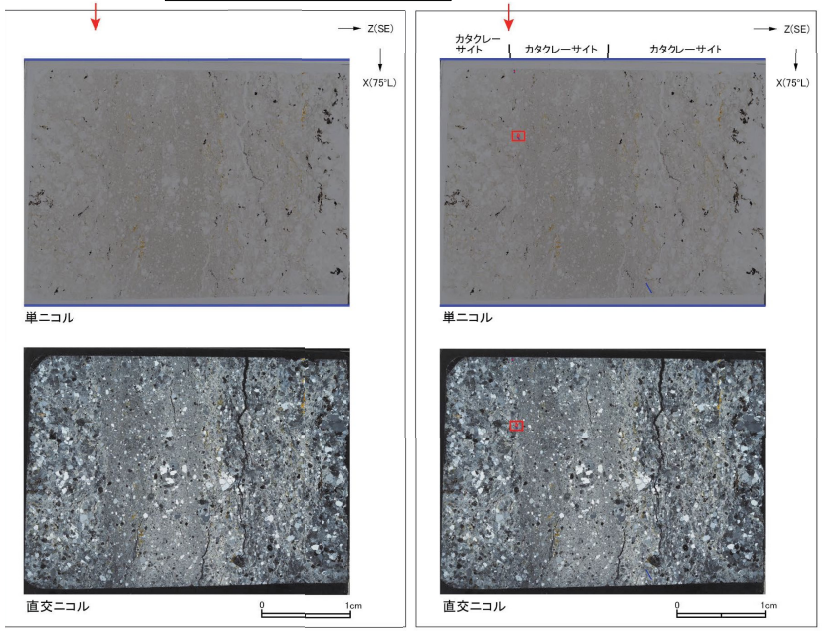


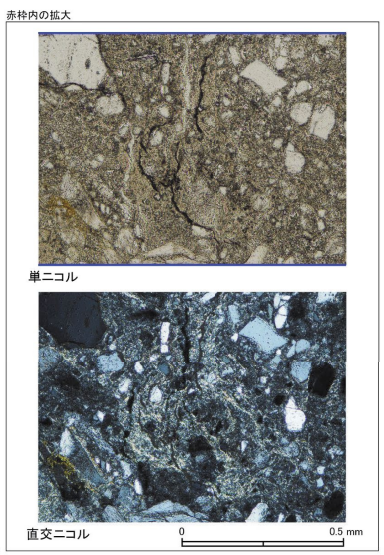
ブロックサンプル

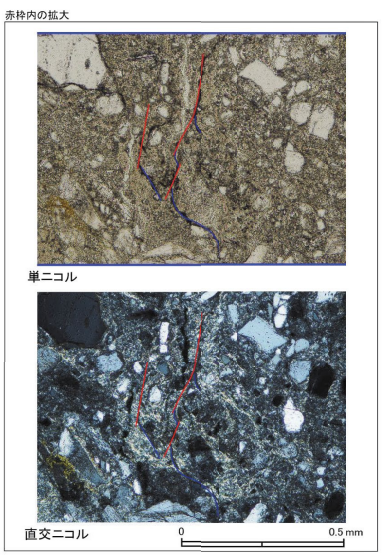
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜　N31°E 83°SE
X：条線方向（下向きを正とする）
∠：断層面の法線方向（上盤側を正とする）



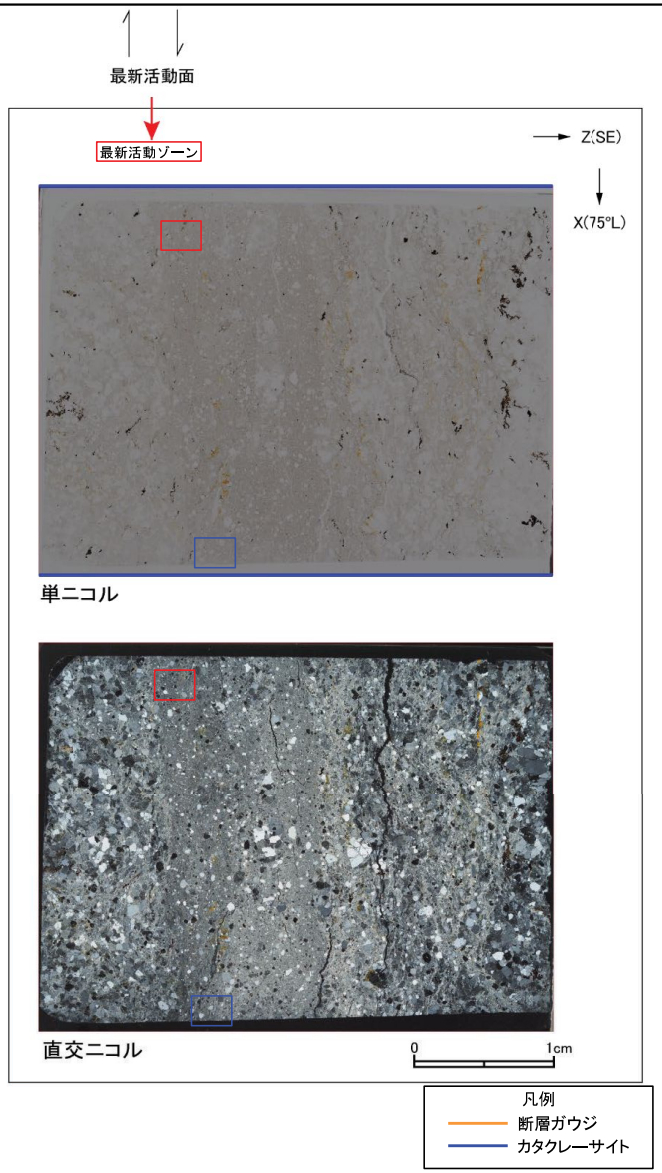


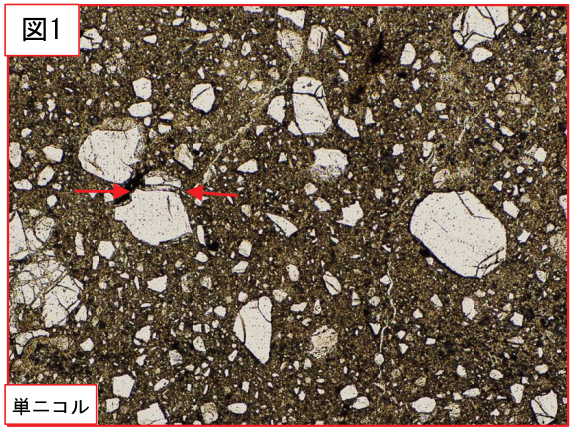


凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-D1-1　深度91.26～91.52m　(2/4)

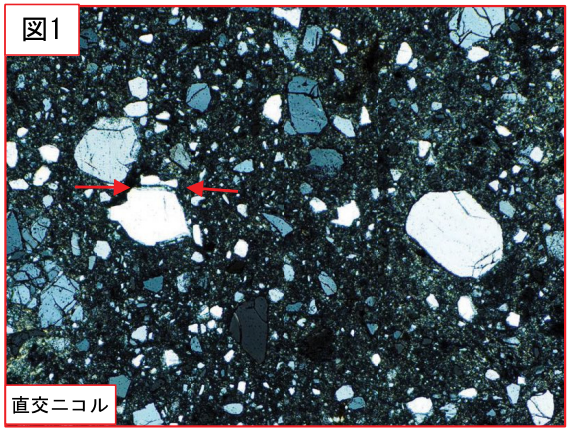
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 組織は漸移的に変化する。(図2)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図1)



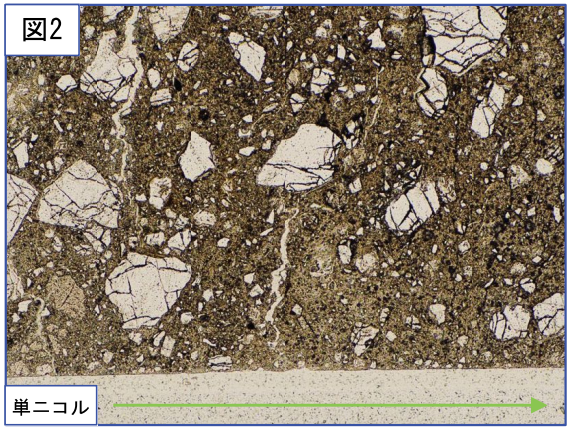


500 μm

赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

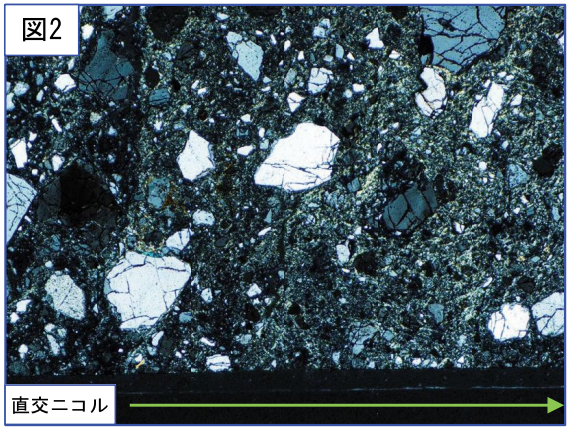


500 μm



緑矢印：粘土鉱物が漸移的に増加する。

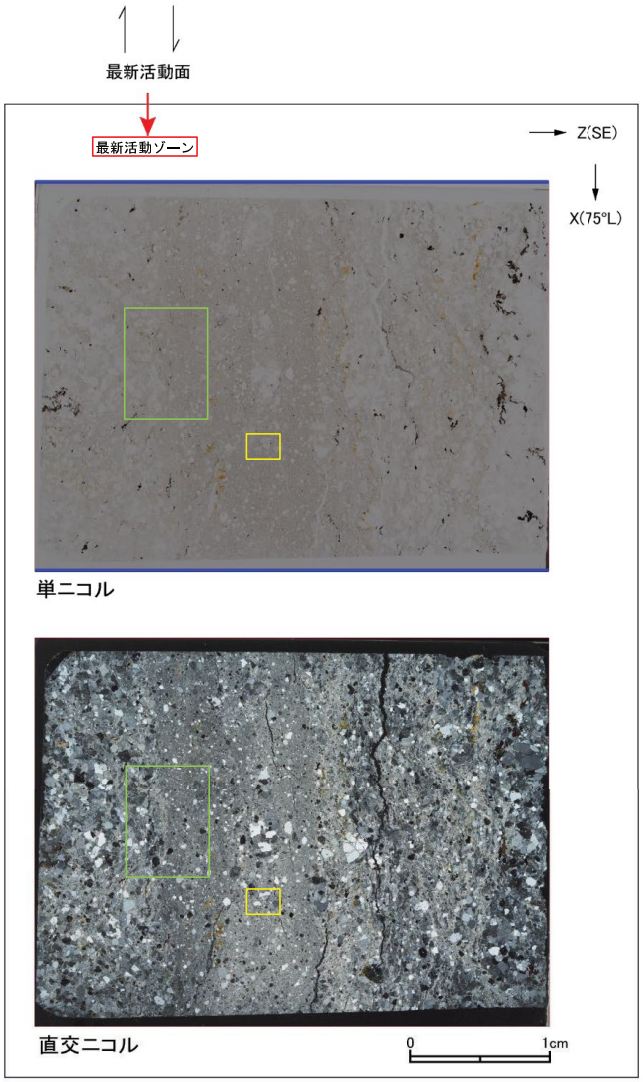
500 μm

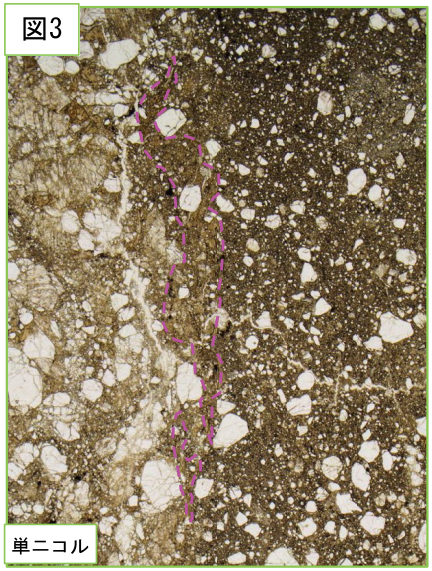


500 μm

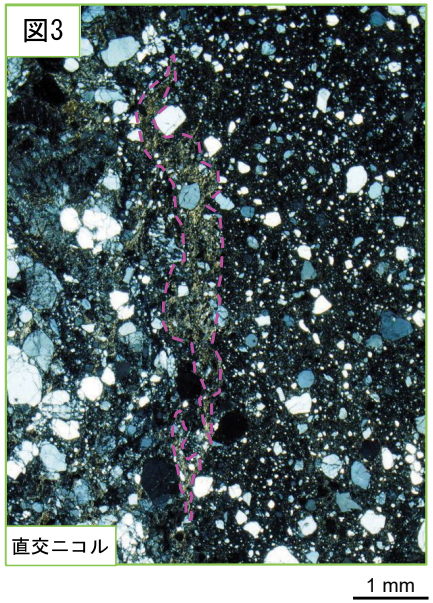
H24-D1-1　深度91.26～91.52m　（3/4）

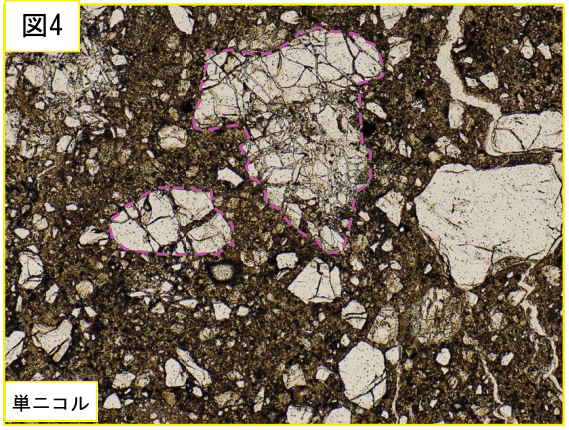
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。（図3）
- ジグソー状の角礫群が認められる。（図4）



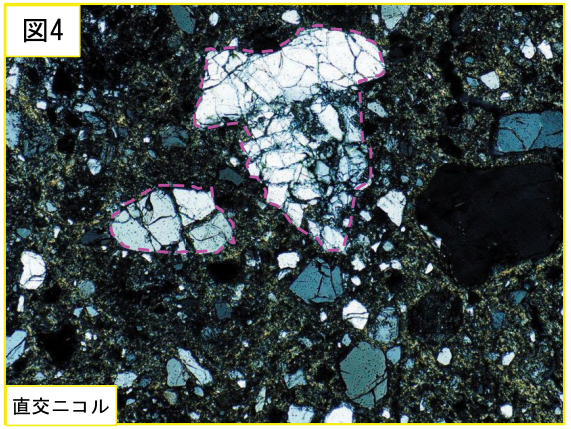


破線は粘土状部の分布範囲を示す。



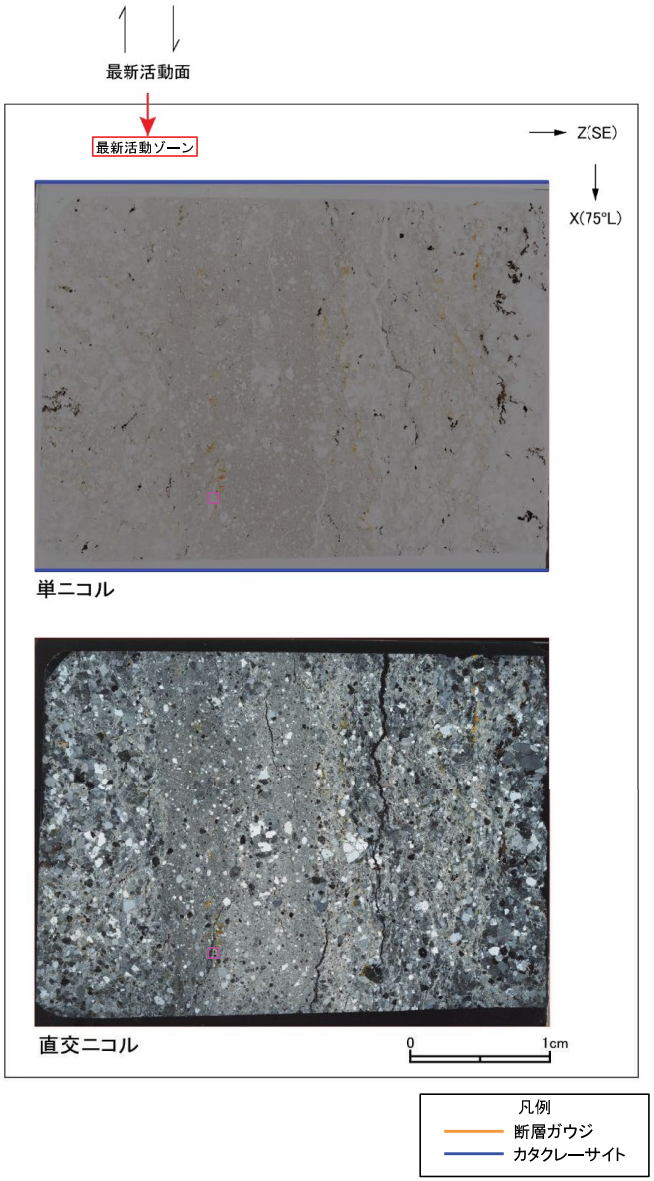


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

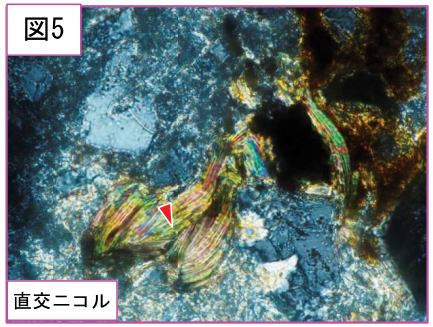


H24-D1-1　深度91.26～91.52m　（4/4）

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。（図5）

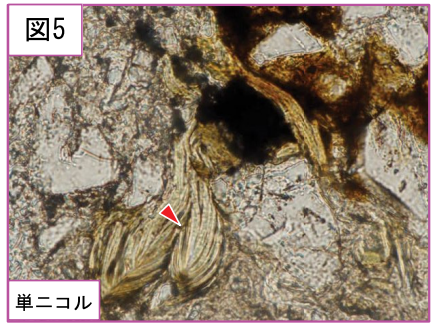


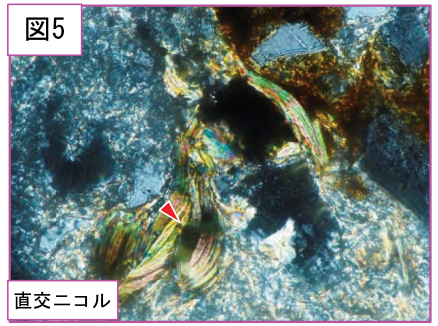




赤矢印は屈曲箇所を示す。　50 μm

ステージを反時計回りに
約24度回転





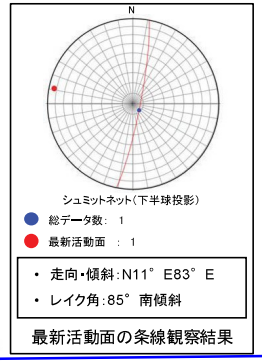
赤矢印は屈曲箇所を示す。　50 μm

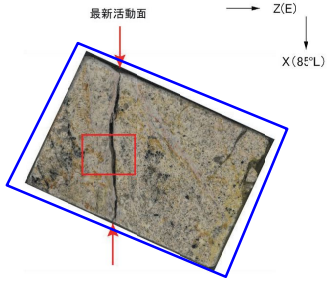
H24-D1-1　深度93.12～93.24m　(1/2)

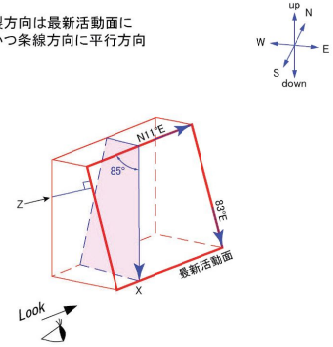
青枠：修正箇所

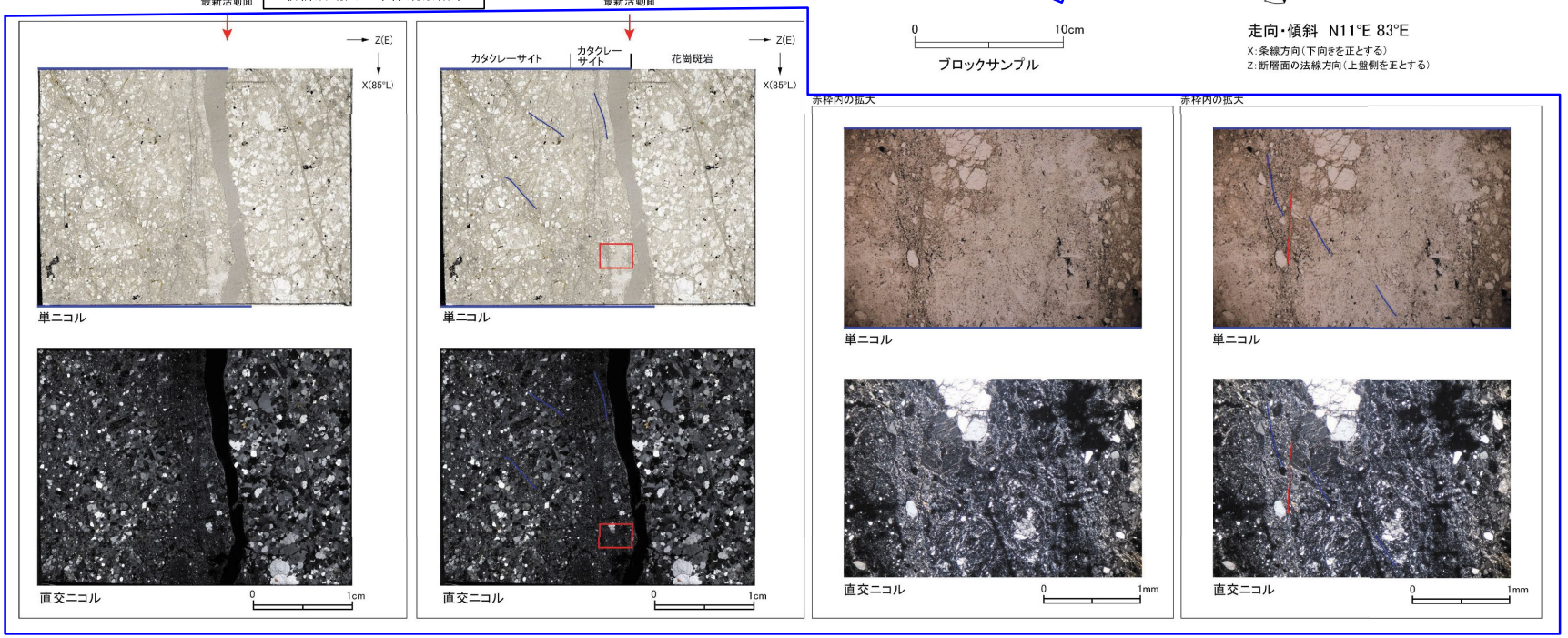
27,28のエビデンス（薄片観察結果）　(1/2)

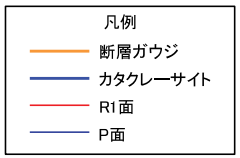
・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度93.20m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）組織は漸移的に変化する。
- （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。
- （カタクレーサイト）塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。









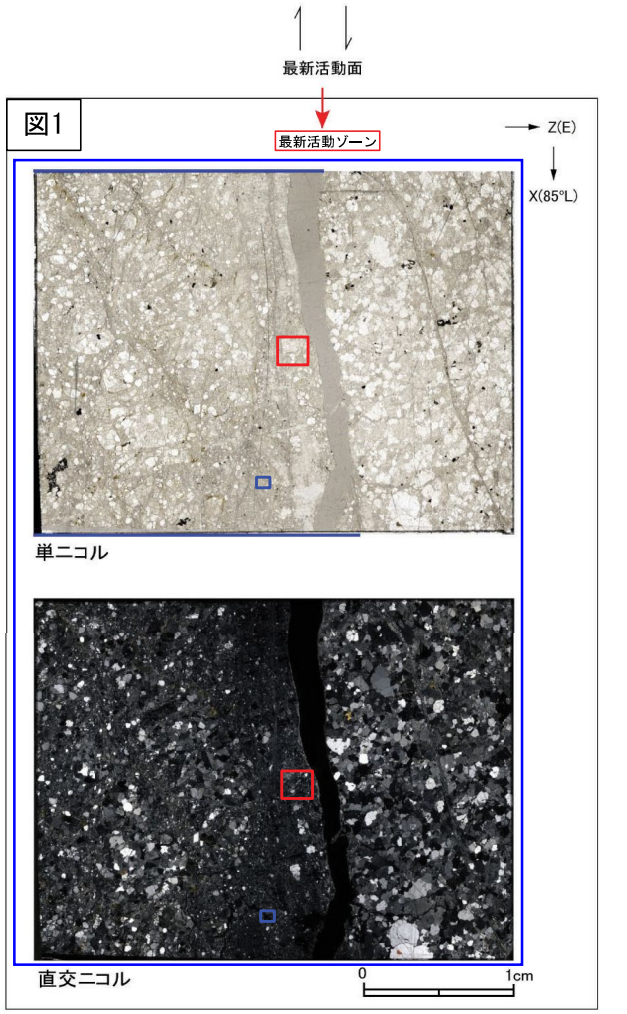


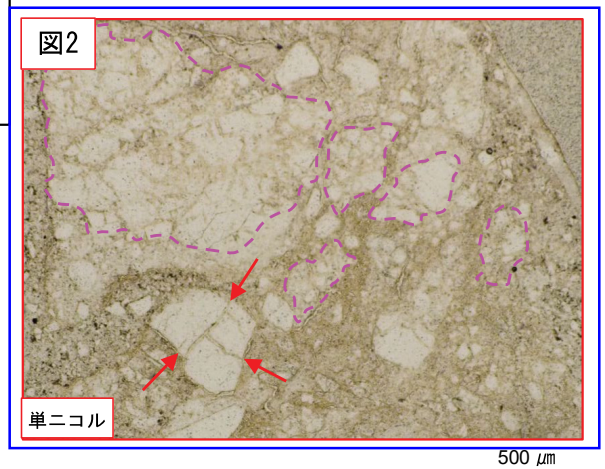
H24-D1-1　深度93.12～93.24m　(2/2)

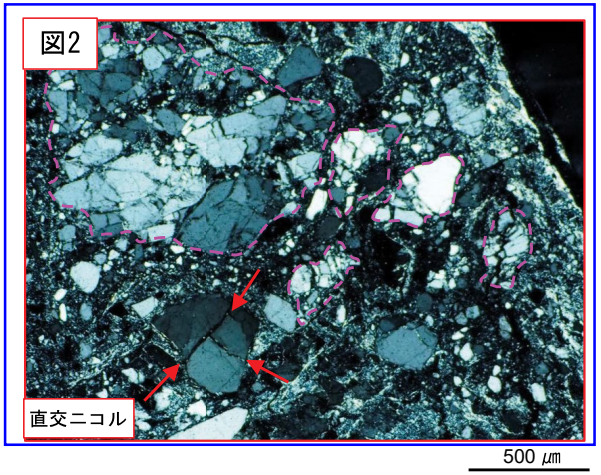
青枠：修正箇所

27, 28のエビデンス（薄片観察結果）　(2/2)

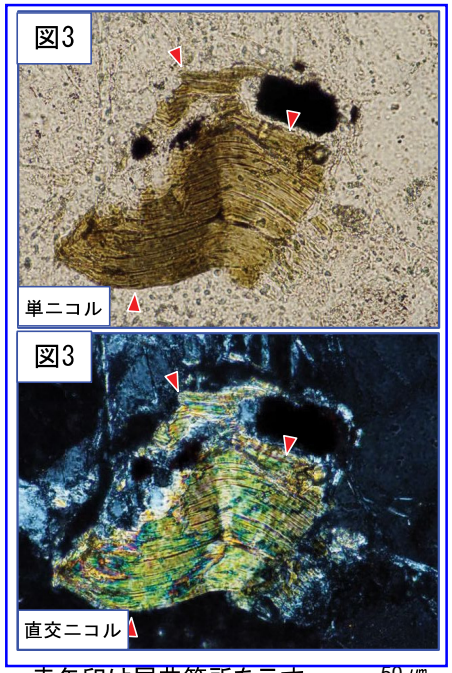
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)





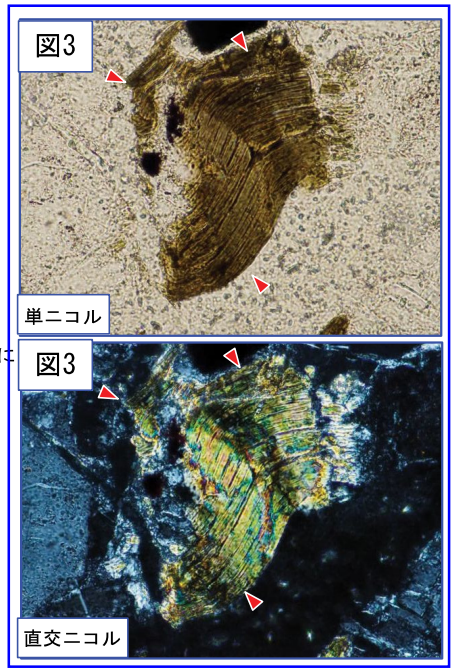


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



赤矢印は屈曲箇所を示す。　50 μm

ステージを反時計回りに約45度回転



赤矢印は屈曲箇所を示す。　50 μm

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-1　深度99.68～99.71m）

29のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は1.2cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ　←　→　破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

0　5 cm

最新活動面認定根拠(H24-D1-1　深度99.68～99.71m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度99.70mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

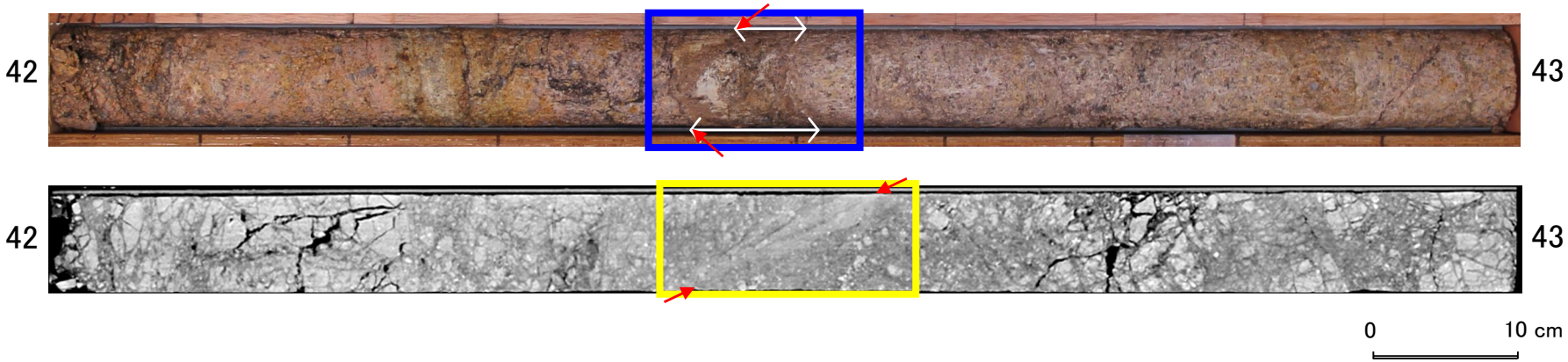




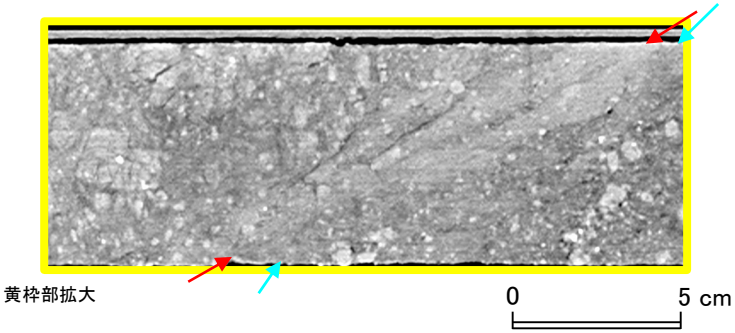
最新活動面認定根拠(H27-B-1　深度42.41～42.49m)

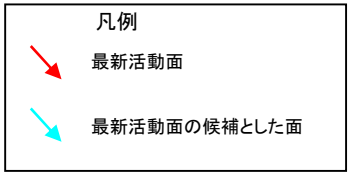
・肉眼観察では，最新活動面が細粒部の上端(深度42.41m)か下端(深度42.43m)かを判断できないため，CT画像を利用した。
・CT画像では，より直線的であることから，深度42.41mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真







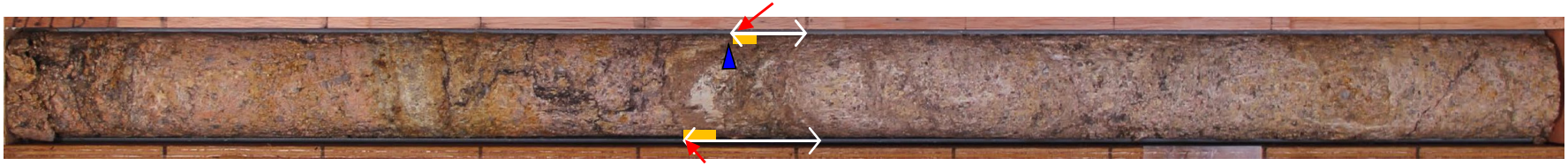


条線観察結果（H27-B-1孔 深度42.41m）

H27-B-1孔 深度42.41mの断層面の走向・傾斜はN65° W36° Nであり，14Rの条線が認められる。

コア写真

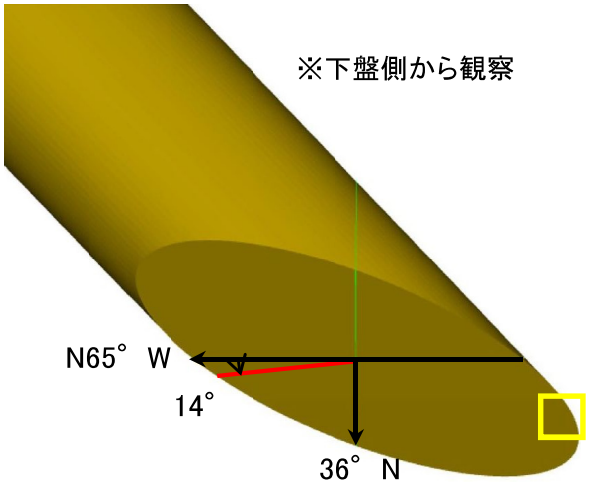
42



43

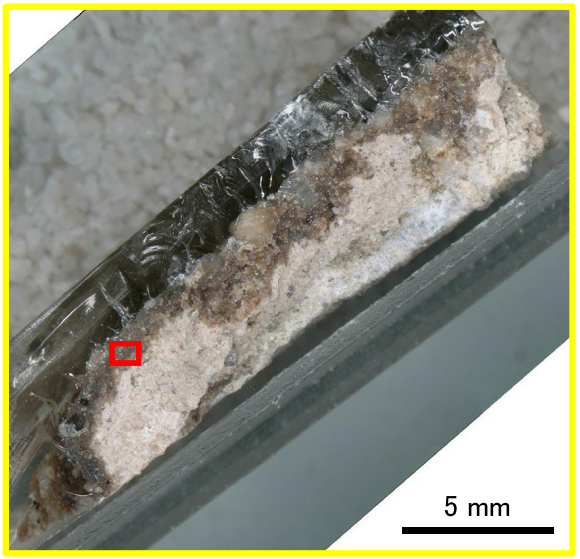
凡例
条線観察位置　断層ガウジ　破砕部範囲※　最新活動面
※：写真上は白色で記載

観察模式図

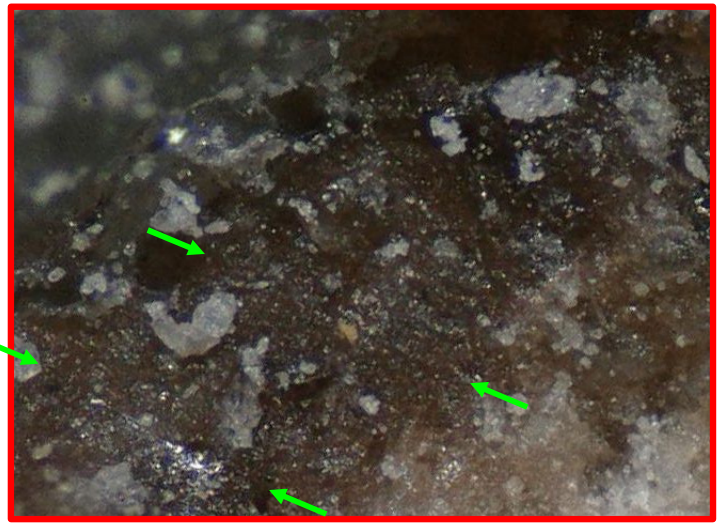


凡 例
最新活動面　レイク

条線観察位置拡大



赤枠内拡大

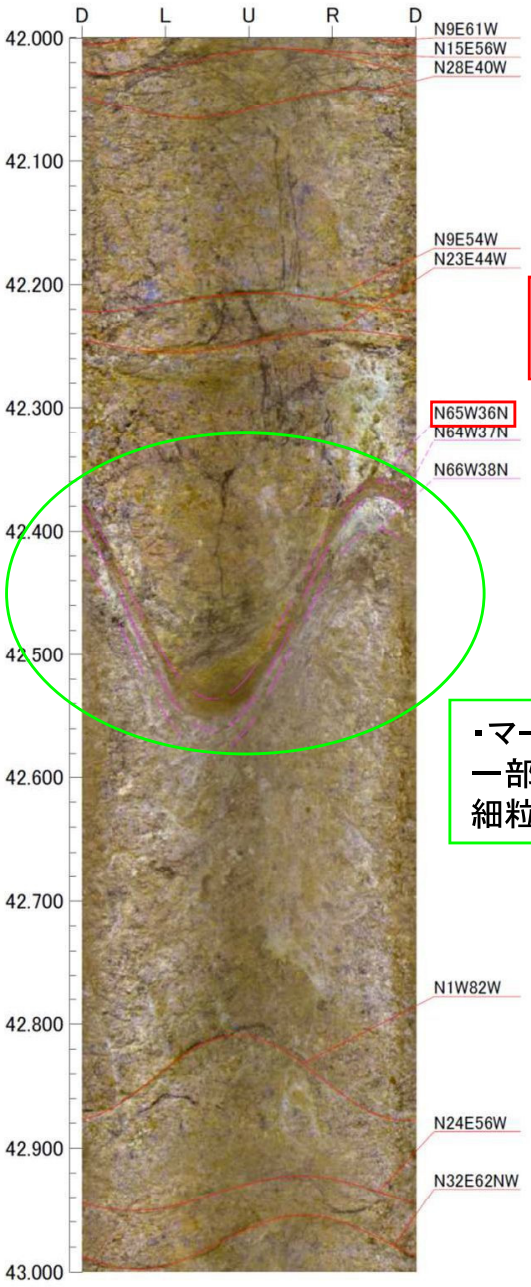


凡 例
条線方向

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-1　深度42.41～42.49m）

・H27-B-1孔　深度42.41～42.49mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN65°W36°Nである。

BHTV展開画像



・最新活動面
にぶい黄褐色細粒部の上端

・マーカー
一部に白色部を伴う，にぶい黄褐色細粒部の分布

コア写真



H27-B-1　深度42.41～42.49m　(1/2)

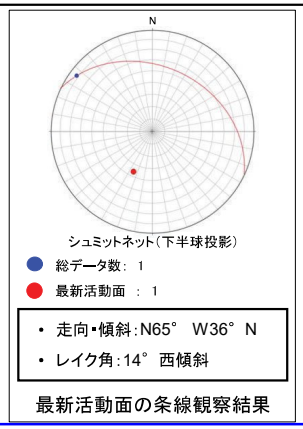
青枠：変位センスに関する部分

35のエビデンス（変位センス）　(1/2)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度42.41m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。

・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

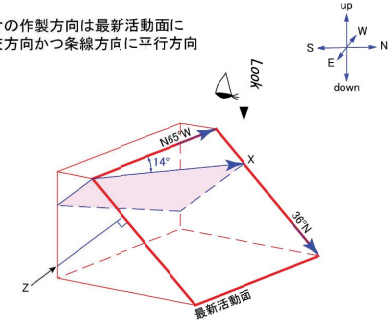


最新活動面の条線観察結果



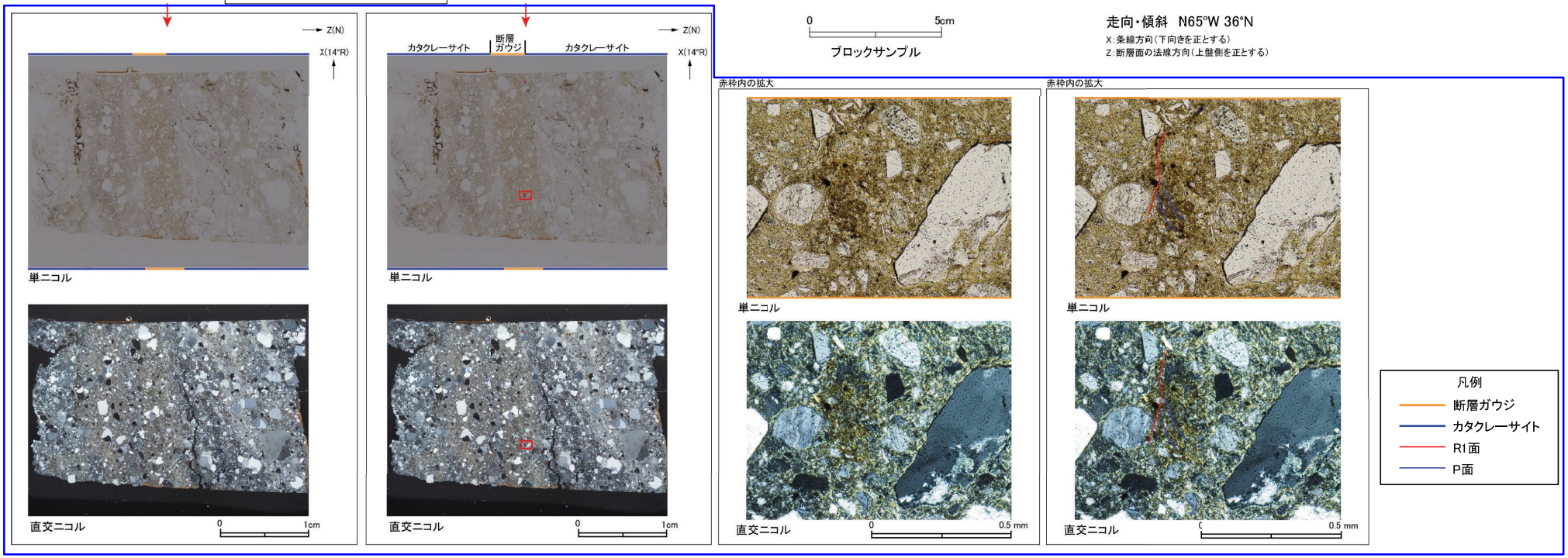
ブロックサンプル

薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜　N65°W 36°N

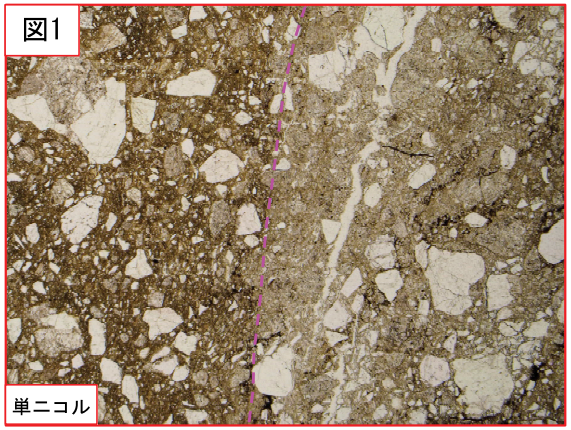
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）



H27-B-1　深度42.41～42.49m　(2/2)

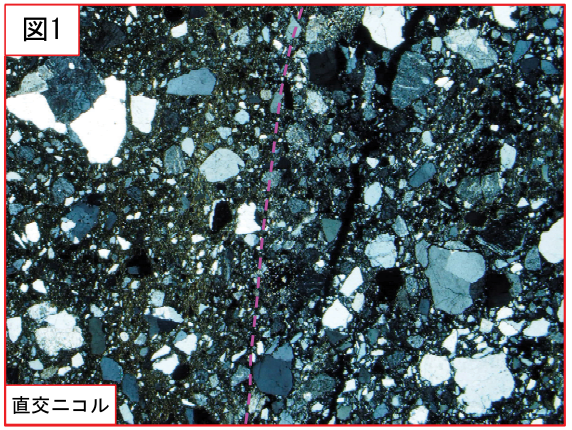
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



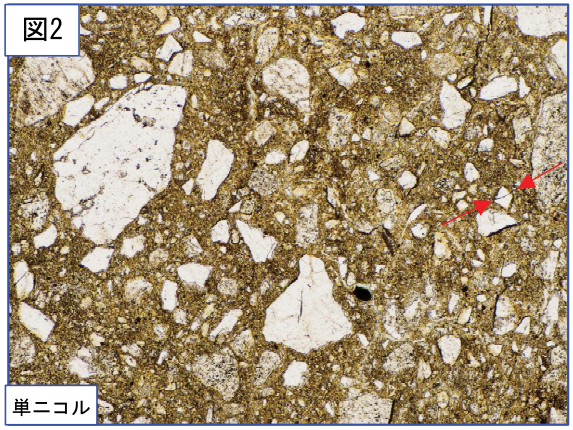


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

1 mm

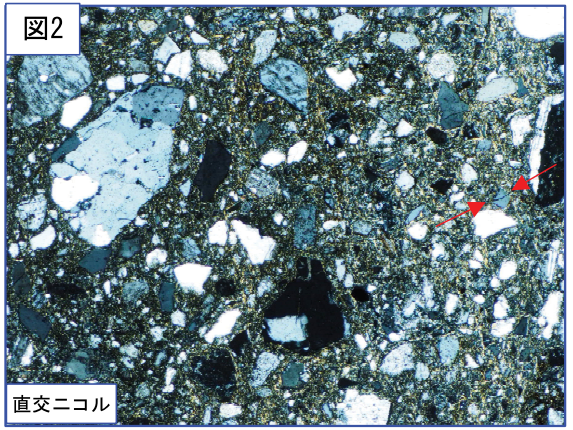


1 mm



500 μm

赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



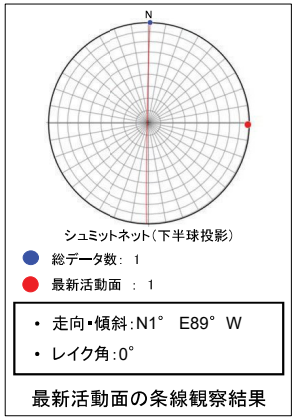
500 μm

H27-B-1　深度44.24～44.53m　(1/3)

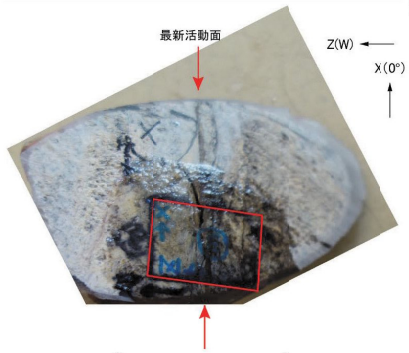
青枠：修正箇所

36のエビデンス（薄片観察結果）　(1/3)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度44.31m）の変位センスは，左ずれ成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，断層ガウジと判断した。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片は少ない。

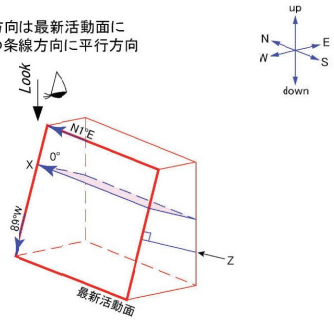


最新活動面の条線観察結果

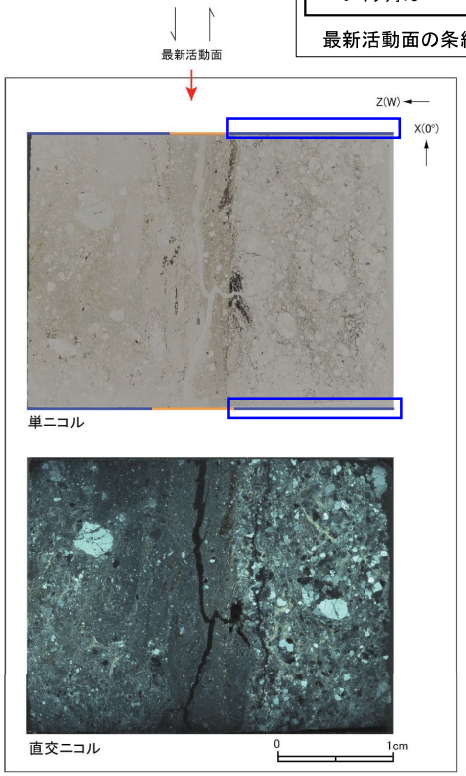


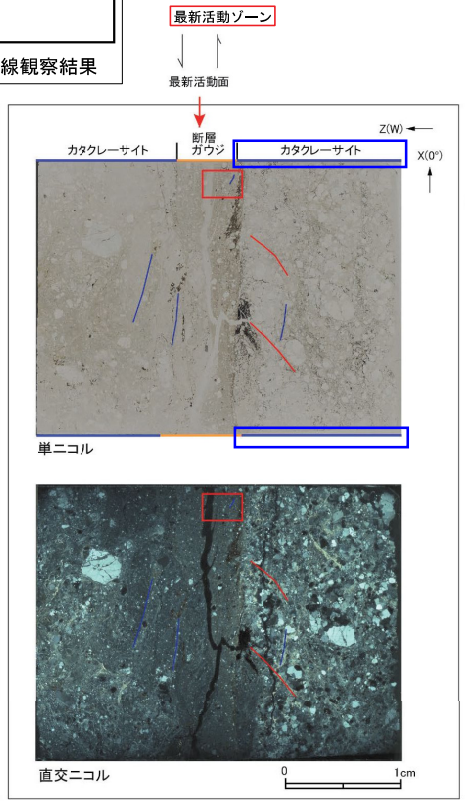
ブロックサンプル

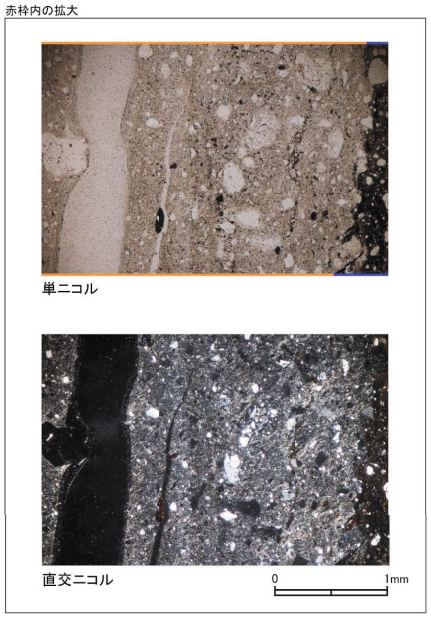
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

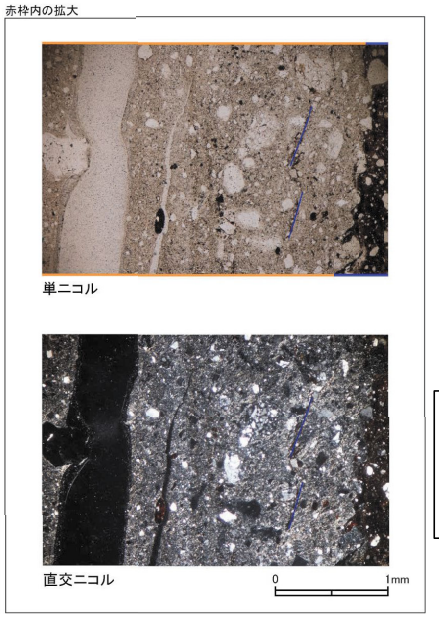


走向・傾斜　N1°E 89°W
X：条線方向（北向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）









凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-1　深度44.24～44.53m　(2/3)

青枠：修正箇所

36のエビデンス（薄片観察結果）　(2/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)

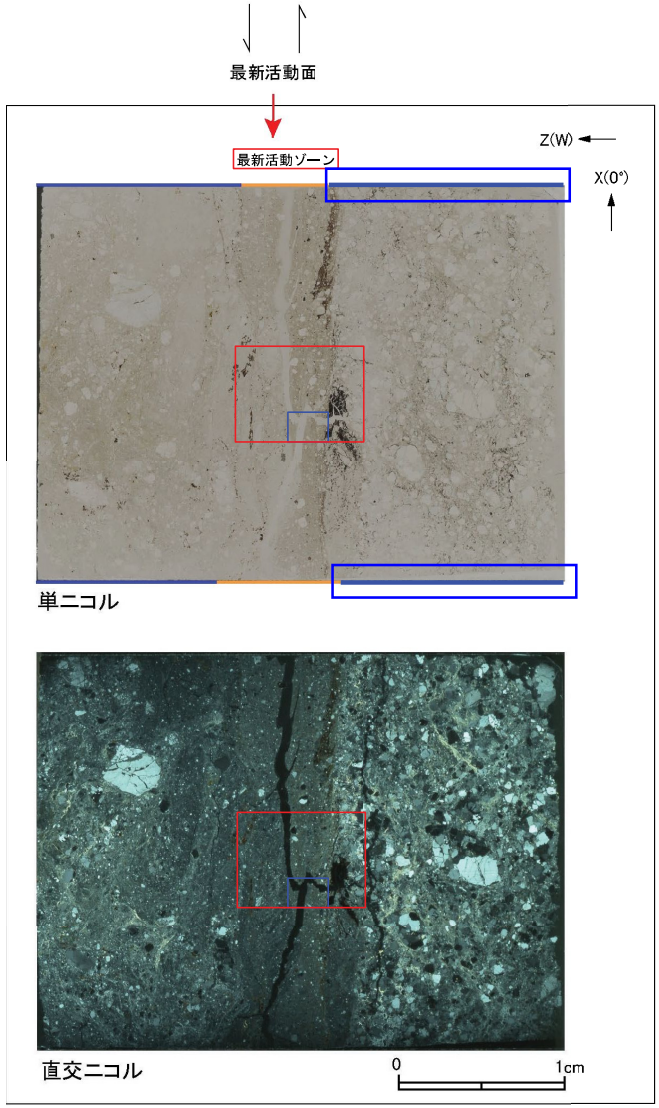
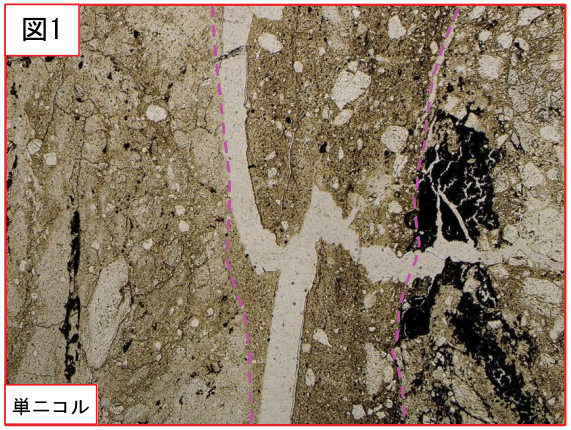


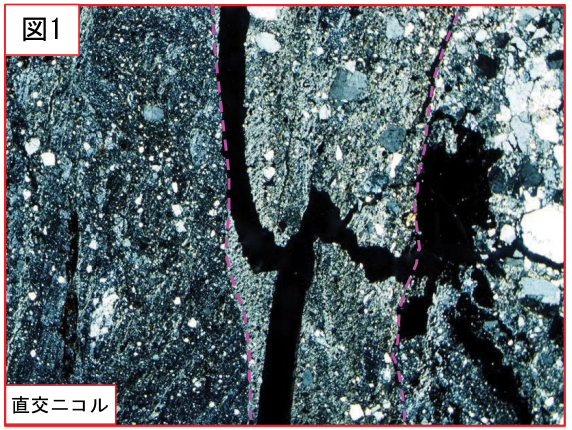
図1



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

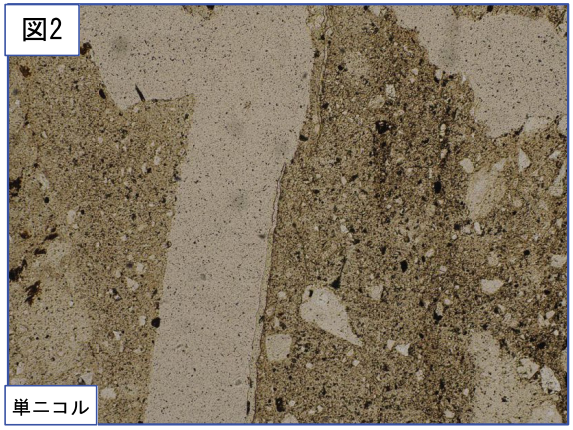
1 mm

図1



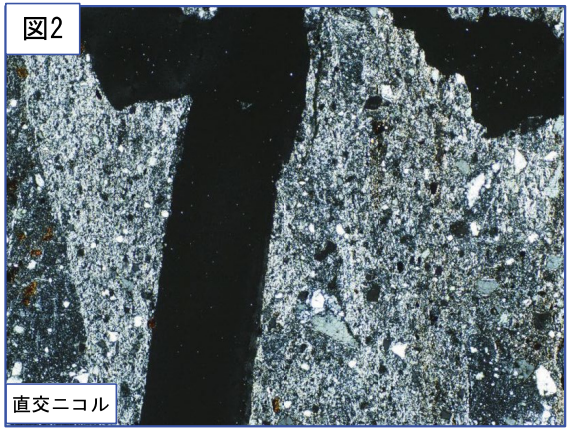
1 mm

図2



500 μm

図2

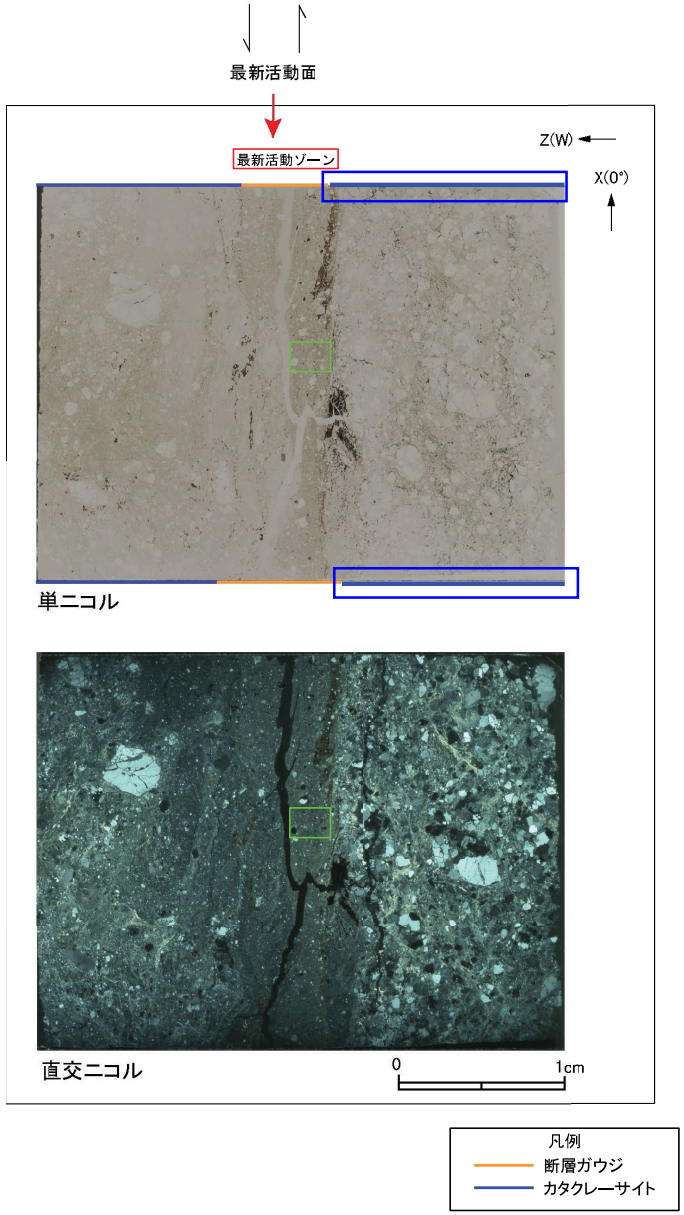


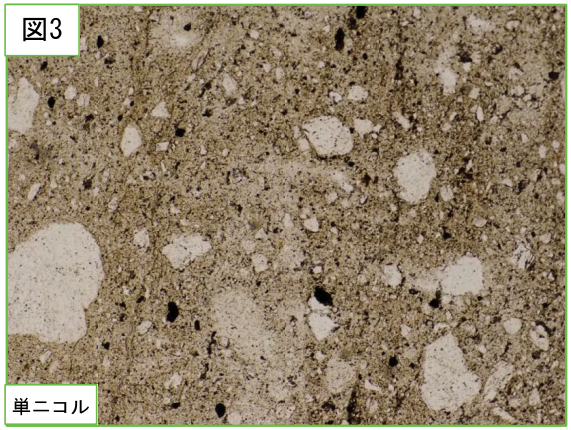
500 μm

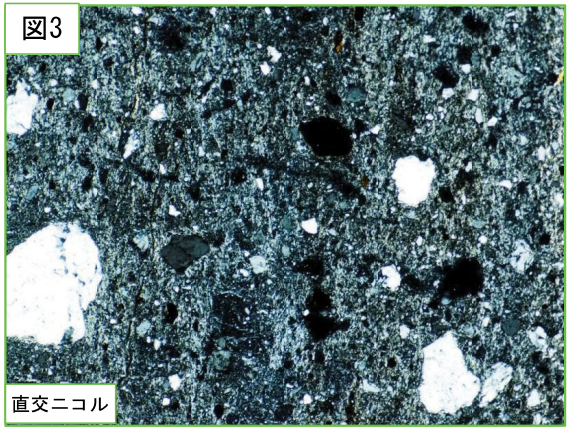
H27-B-1　深度44.24～44.53m　(3/3)

青枠：修正箇所　36のエビデンス（薄片観察結果）　(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 岩片は少ない。（図3）
- 丸みを帯びている岩片が多い。（図3）







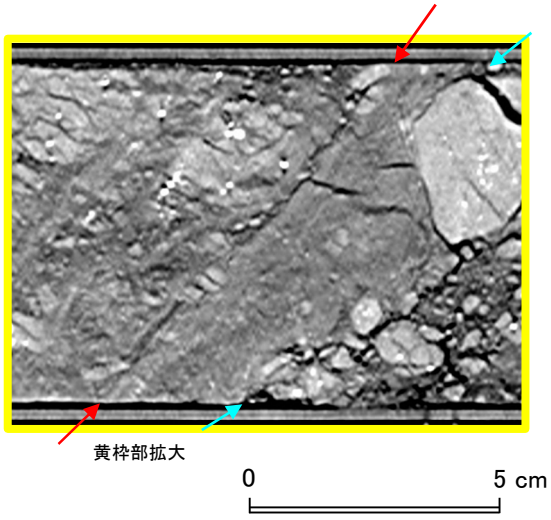
最新活動面認定根拠(H27-B-1　深度46.12～46.17m)

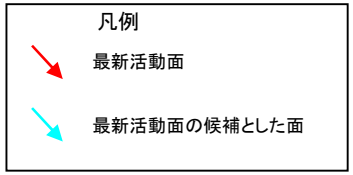
・肉眼観察では，最新活動面が細粒部の上端(深度46.16m)か下端(深度46.17m)かを判断できないため，CT画像を利用した。
・CT画像では，より直線的であることから，深度46.16mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真









最新活動面認定根拠（H27-B-1　深度49.17～49.22m）

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度49.17mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

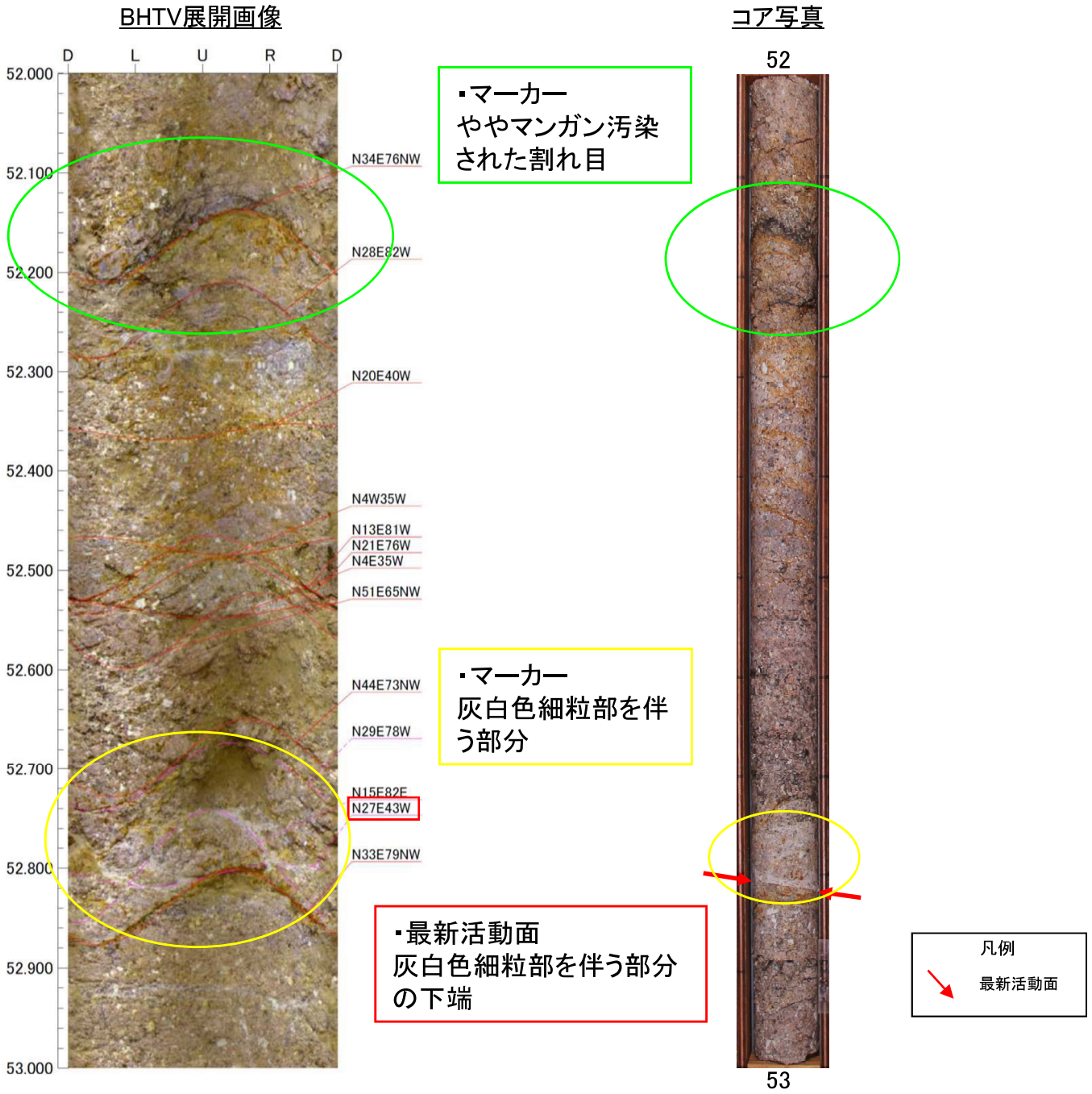




青枠部拡大

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-1　深度52.72～52.81m）　39のエビデンス（走向・傾斜）

・H27-B-1孔　深度52.72～52.81mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN27°E43°Wである。



条線観察結果（H27-B-1孔 深度52.81m）

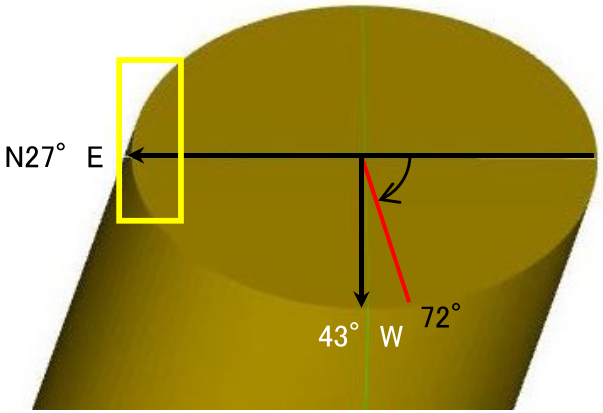
H27-B-1孔 深度52.81mの断層面の走向・傾斜はN27° E43° Wであり，72Rの条線が認められる。

コア写真



観察模式図

※上盤側から観察



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



H27-B-1　深度52.72～52.81m　(1/2)

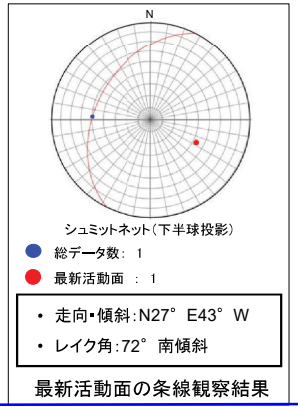
青枠：変位センスに関する部分

41のエビデンス（変位センス）　(1/2)

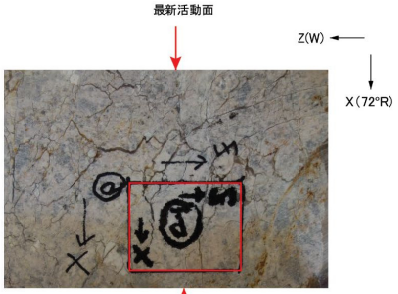
▪H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度52.81m）の変位センスは，逆断層成分が卓越する。

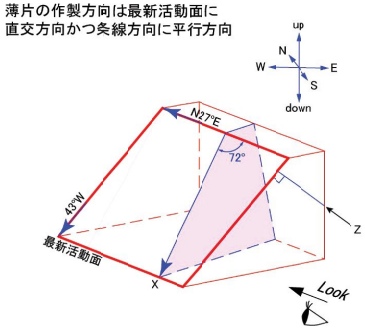
▪最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

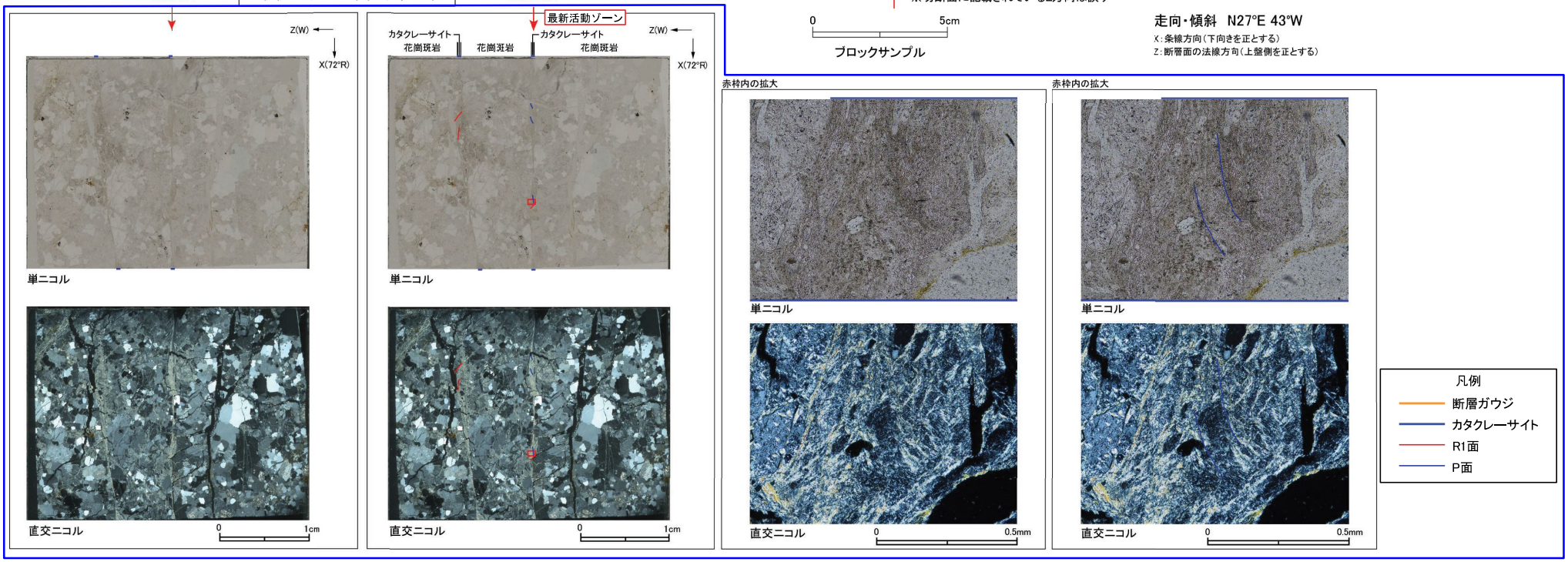
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。
- 岩片は少ない。



最新活動面の条線観察結果







H27-B-1　深度52.72～52.81m　(2/2)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 岩片は少ない。(図2)
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)

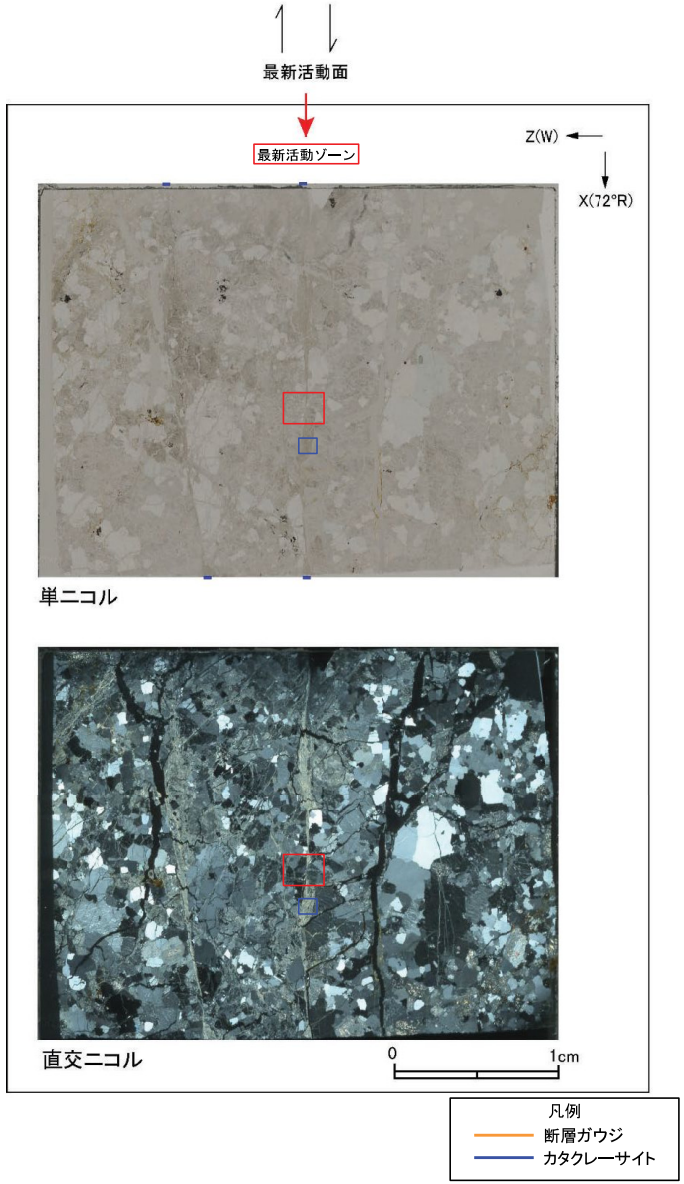
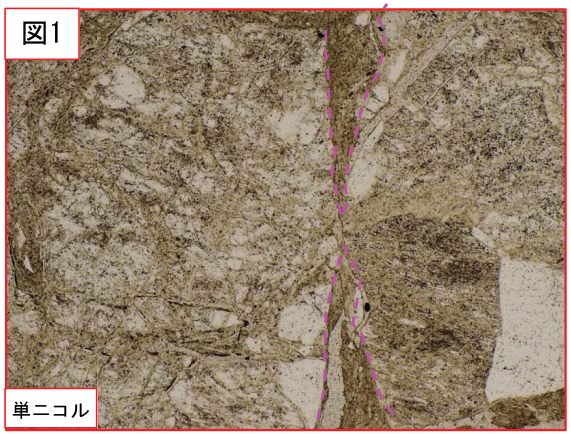


図1



破線は粘土状部の分布範囲を示す。

図1

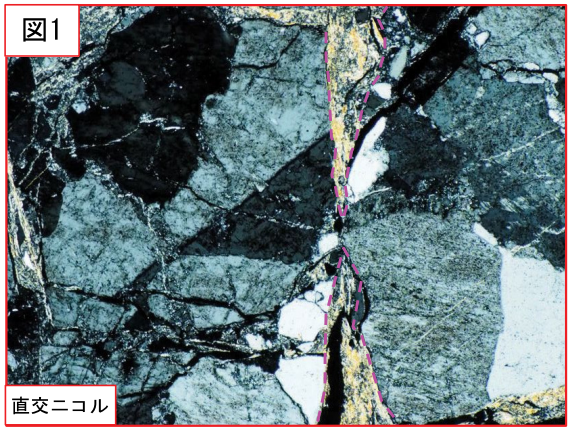
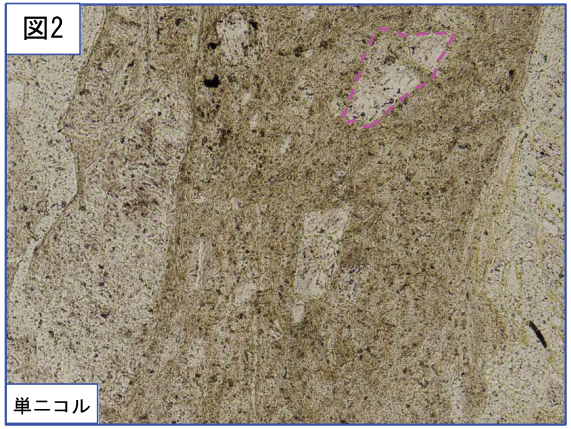
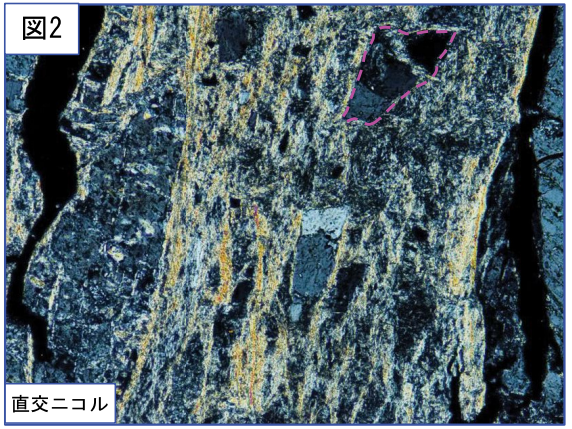


図2



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

図2



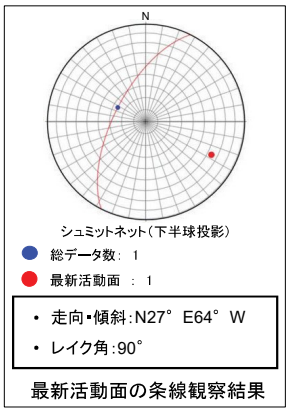
H27-B-1　深度53.17～53.22m　(1/2)

青枠：修正箇所

42のエビデンス（薄片観察結果）　(1/2)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度53.17m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，断層ガウジと判断した。

- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片は少ない。

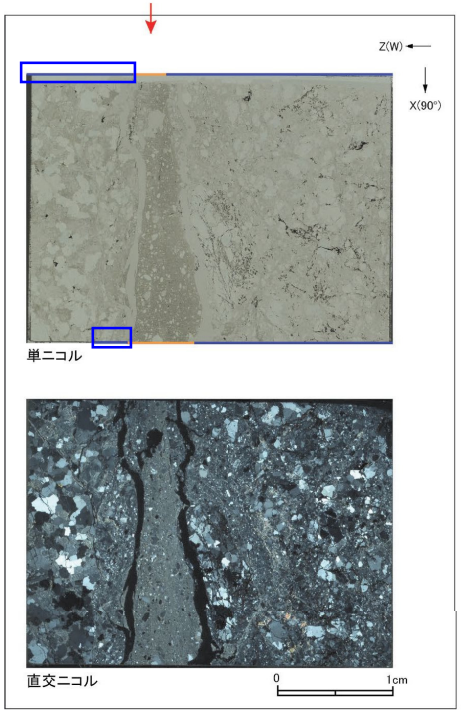


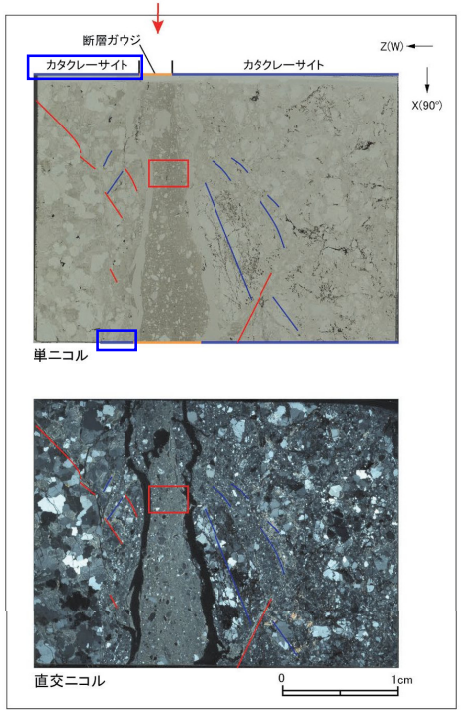
最新活動面の条線観察結果

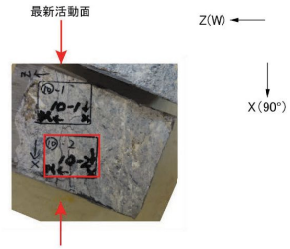




最新活動ゾーン



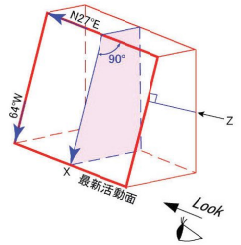




ブロックサンプル

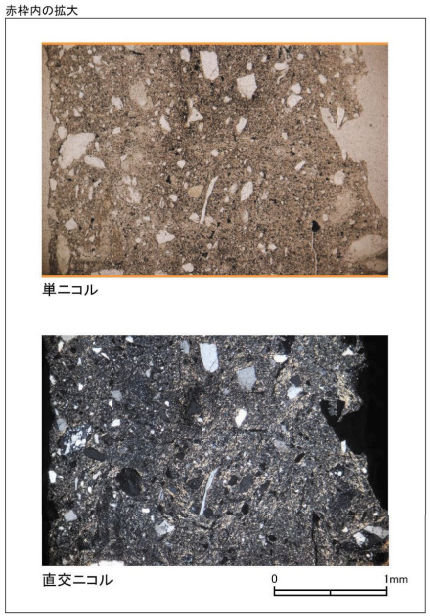
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

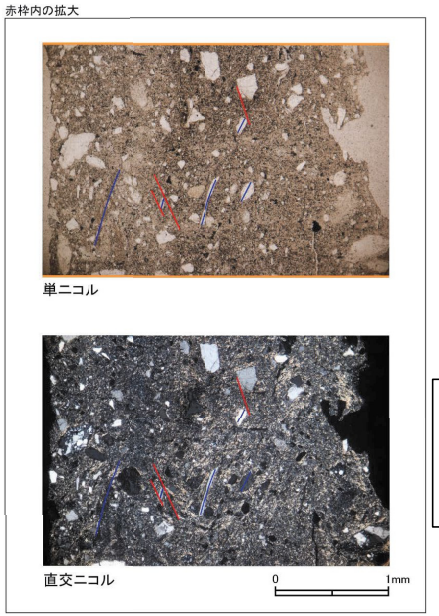


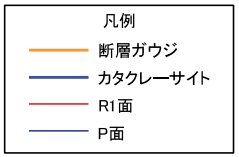


走向・傾斜　N27°E 64°W

X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）





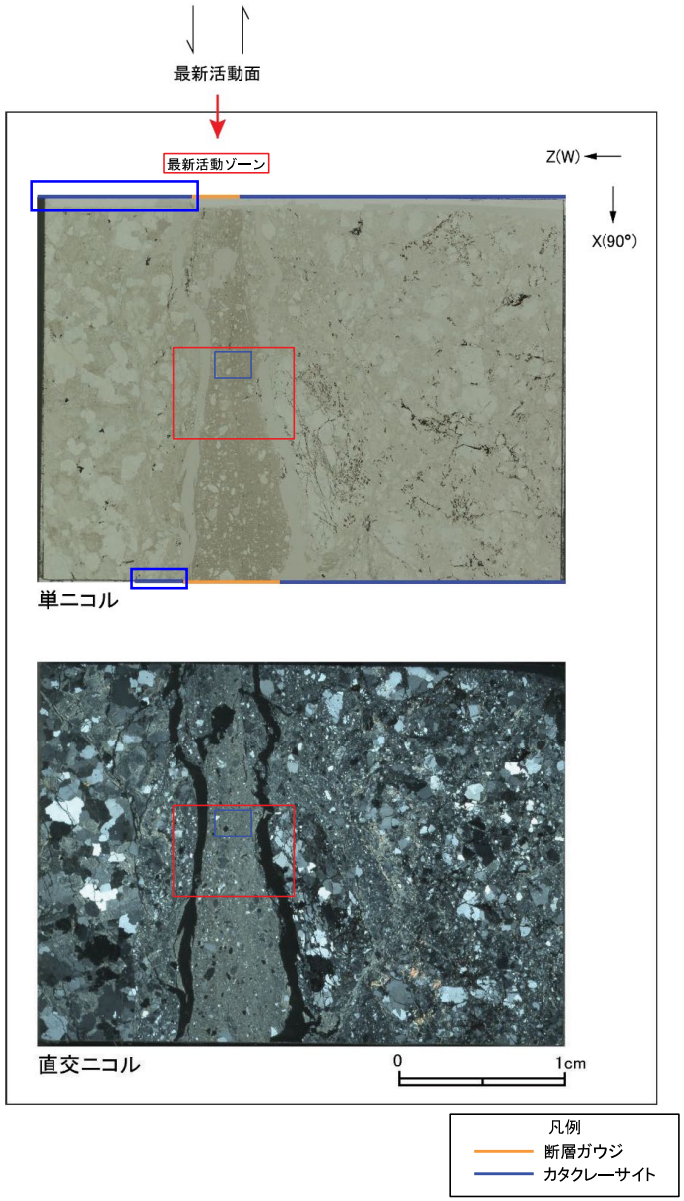


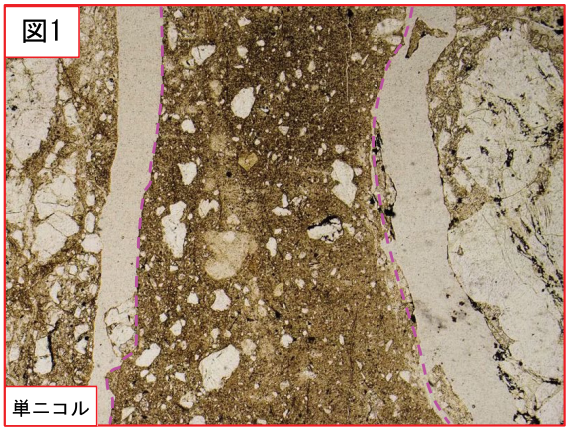
H27-B-1　深度53.17～53.22m　(2/2)

青枠：修正箇所

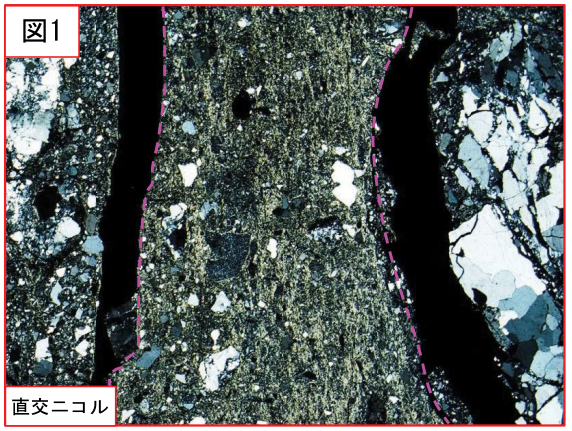
42のエビデンス（薄片観察結果）　(2/2)

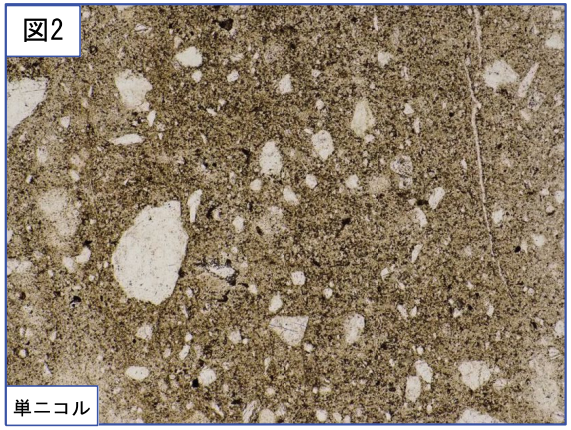
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

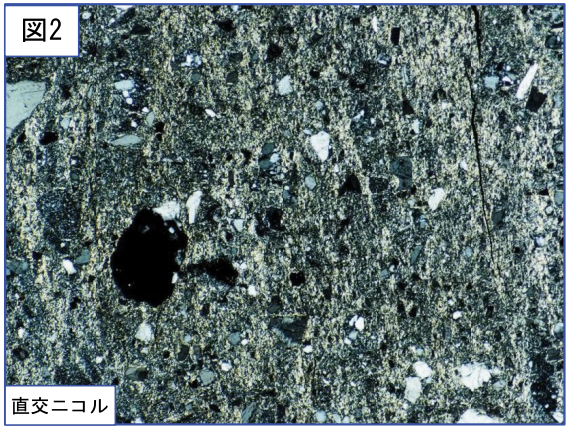




破線は帯状で直線的な範囲を示す。





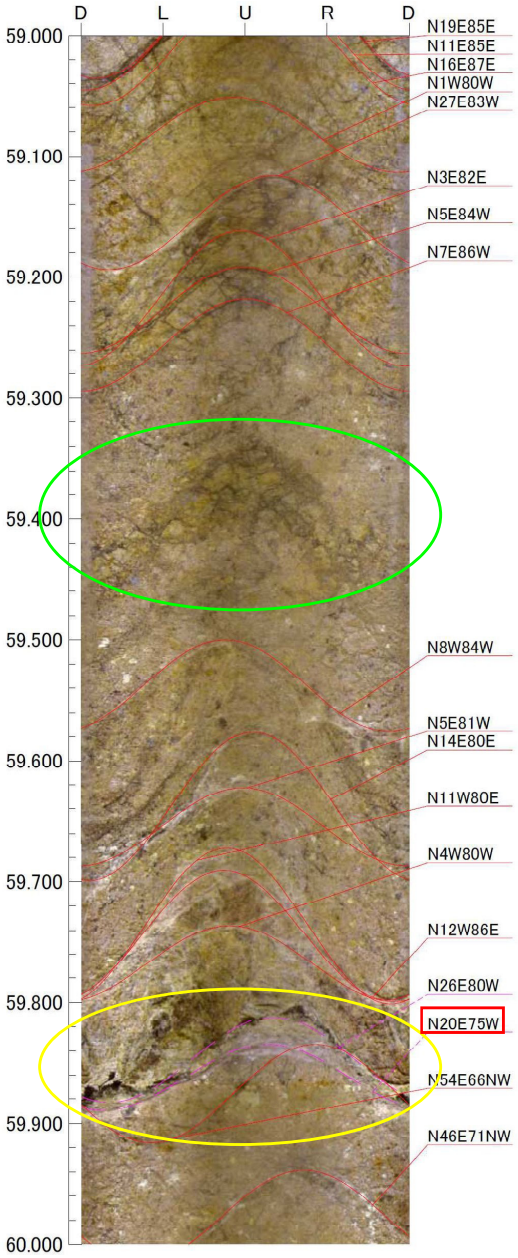


ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-1　深度59.82～59.85m）

43のエビデンス（走向・傾斜）

・H27-B-1孔　深度59.82～59.85mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN20°E75°Wである。

BHTV展開画像



・マーカー
やや礫状化した部分

・マーカー
灰褐～灰白色細粒部
の分布

・最新活動面
灰褐～灰白色細粒部
の下端

コア写真

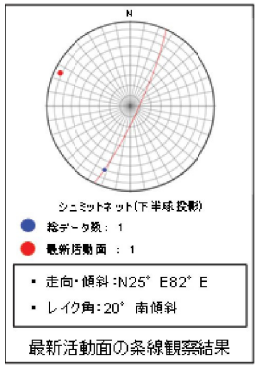


H27-B-1　深度69.70～69.73m　(1/3)

青枠：修正箇所

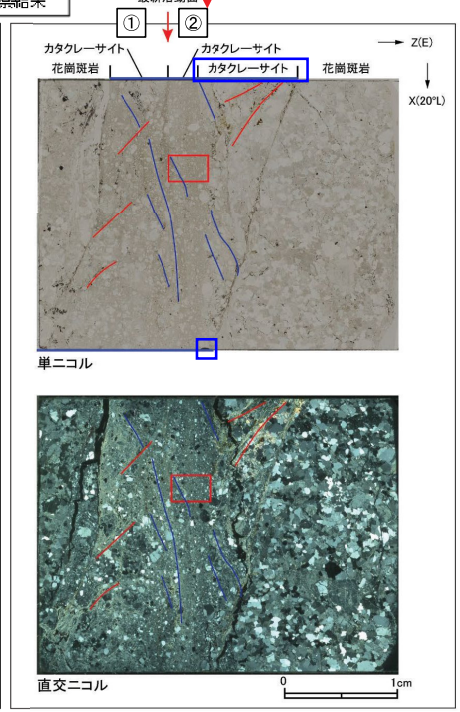
44のエビデンス（薄片観察結果）　(1/3)

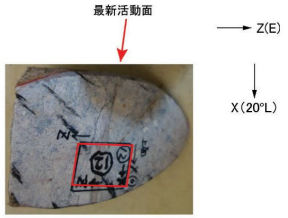
・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度69.70m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
・断層岩区分については，ゾーン（②）はカタクレーサイトと評価したゾーン（①）より細粒であり，破砕流動も比較的少ない。また，全体的に粘土鉱物が認められることから，断層ガウジと判断していた。なお，ゾーン（①）にはジグソー状の角礫群などのカタクレーサイトと示す特徴が認められる。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）組織は漸移的に変化する。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。
- （カタクレーサイト）塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。





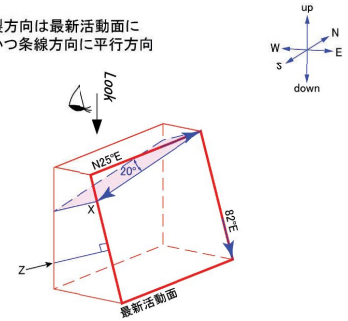
②のゾーンは当初断層ガウジと判断していたが，上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



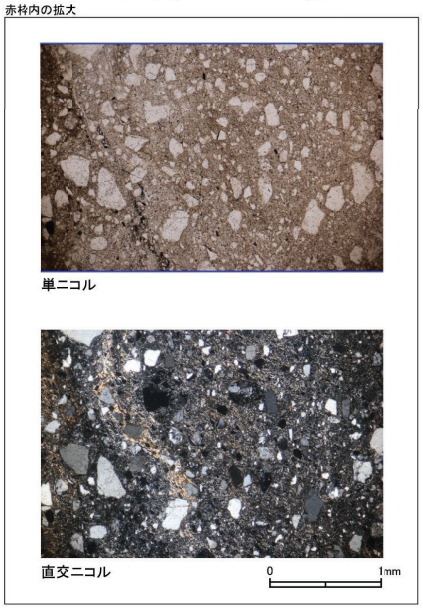


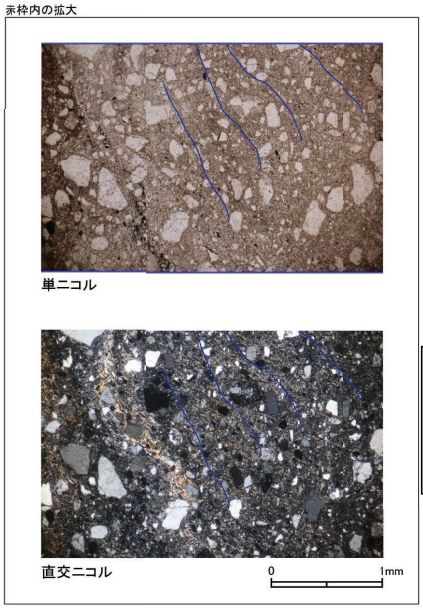
ブロックサンプル
※切断面に記載されているZ方向は誤り

薄片の作製方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜　N25°E 82°E
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）



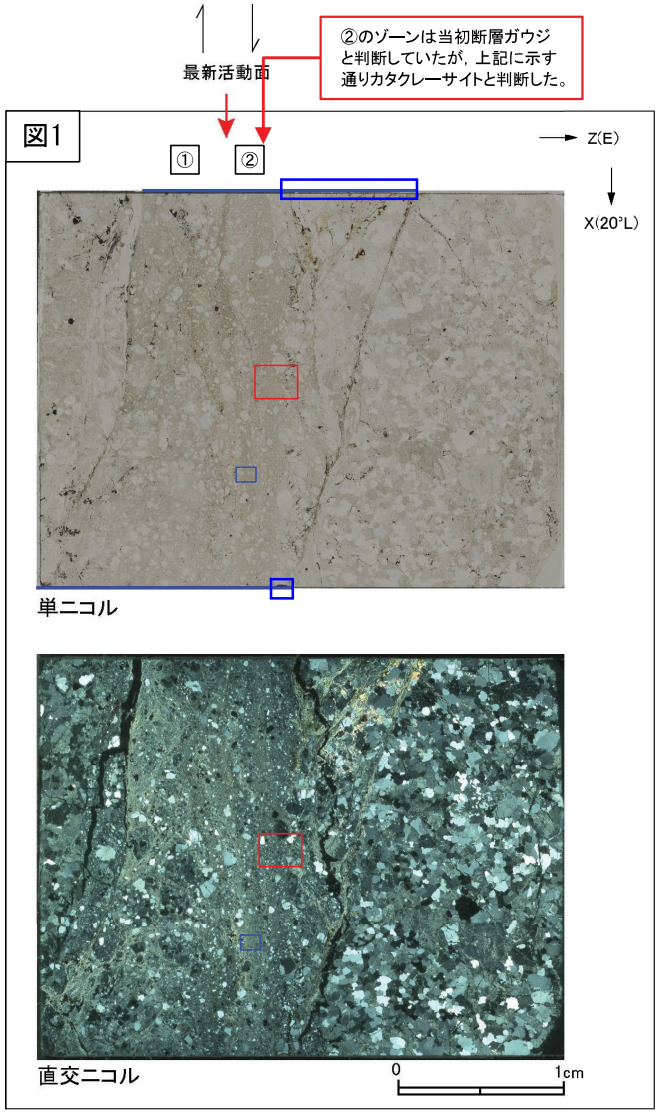


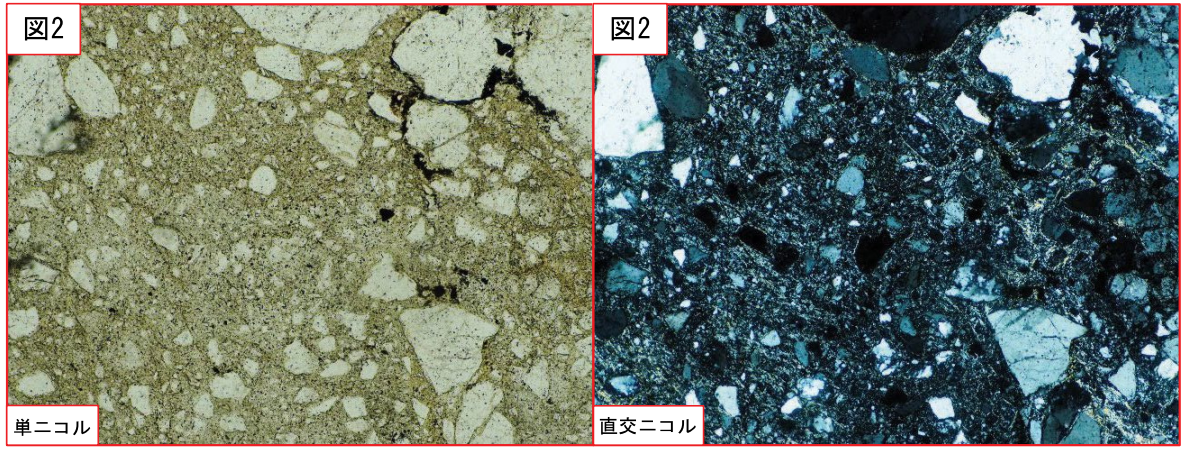
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

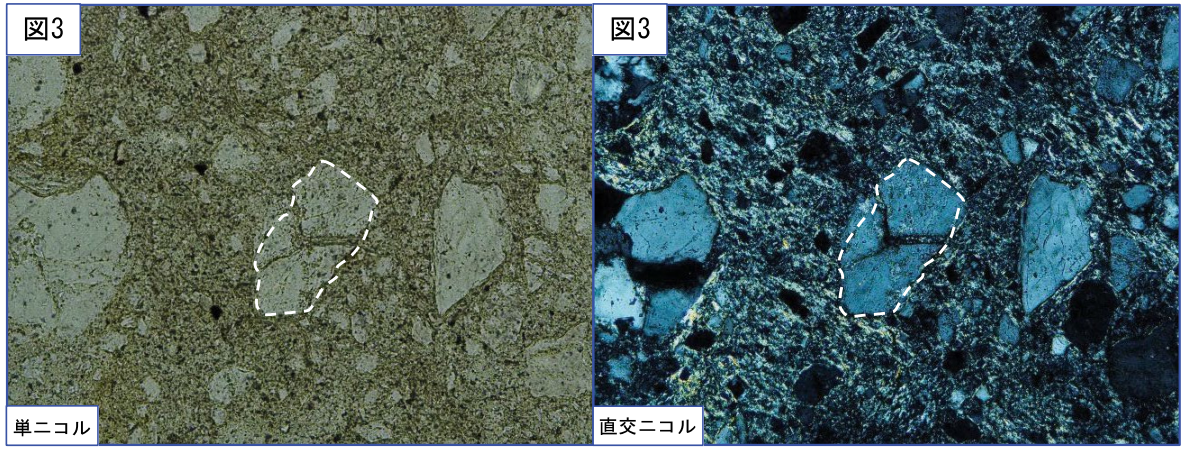
青枠：修正箇所　44のエビデンス（薄片観察結果）（2/3）

H27-B-1　深度69.70～69.73m （2/3）

・②のゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。（図2）
- 組織は漸移的に変化する。（図1）
- 角ばった岩片が多い。（図2）
- ジグソー状の角礫群が認められる。（図3）







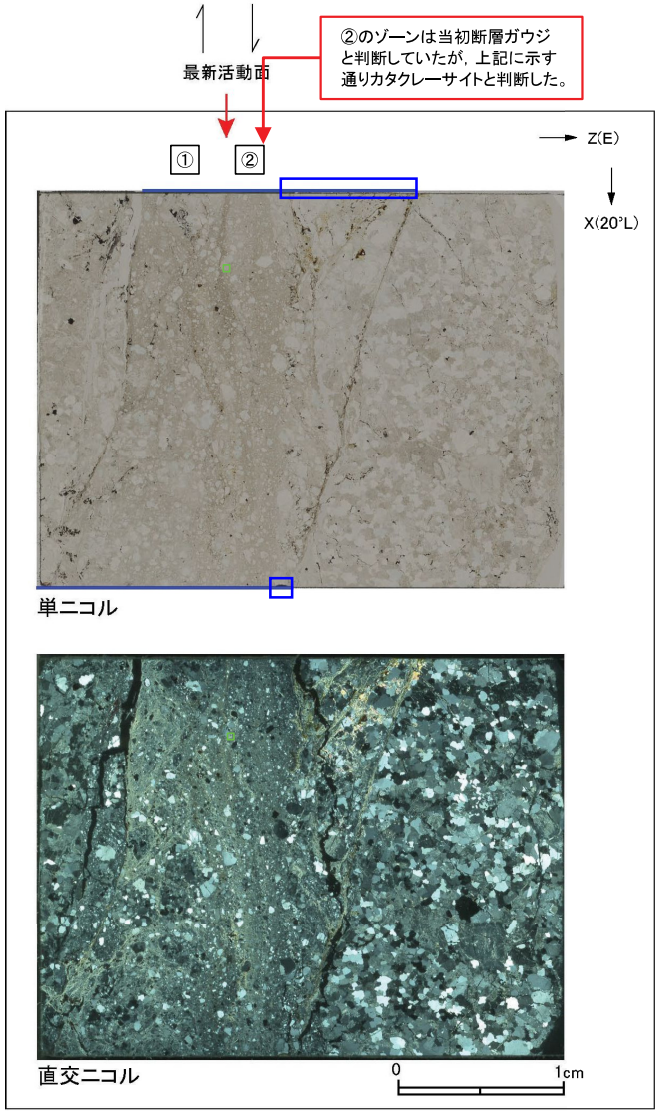
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

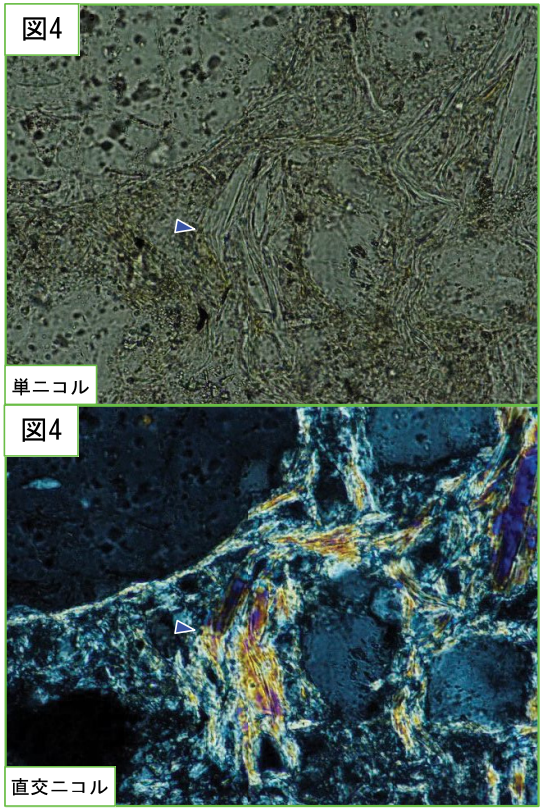
凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト

H27-B-1　深度69.70～69.73m　(3/3)

青枠：修正箇所

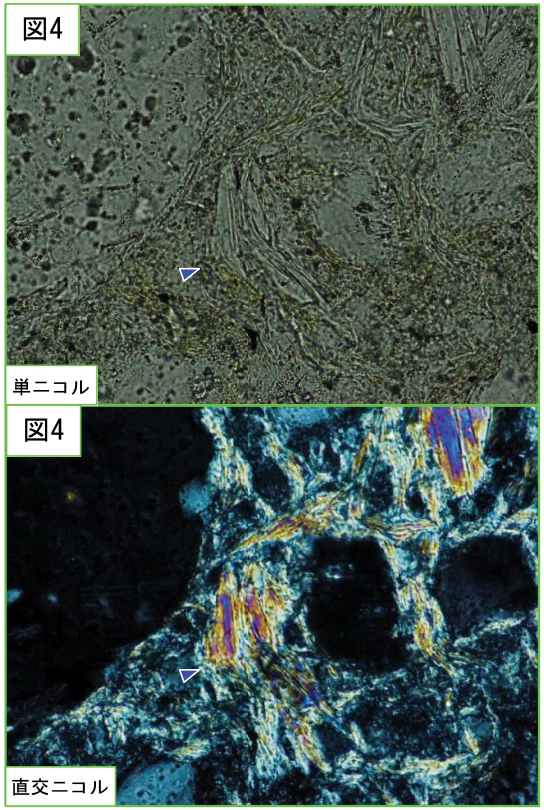
・②のゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)





青矢印は屈曲箇所を示す。

ステージを
反時計回りに
約27度回転



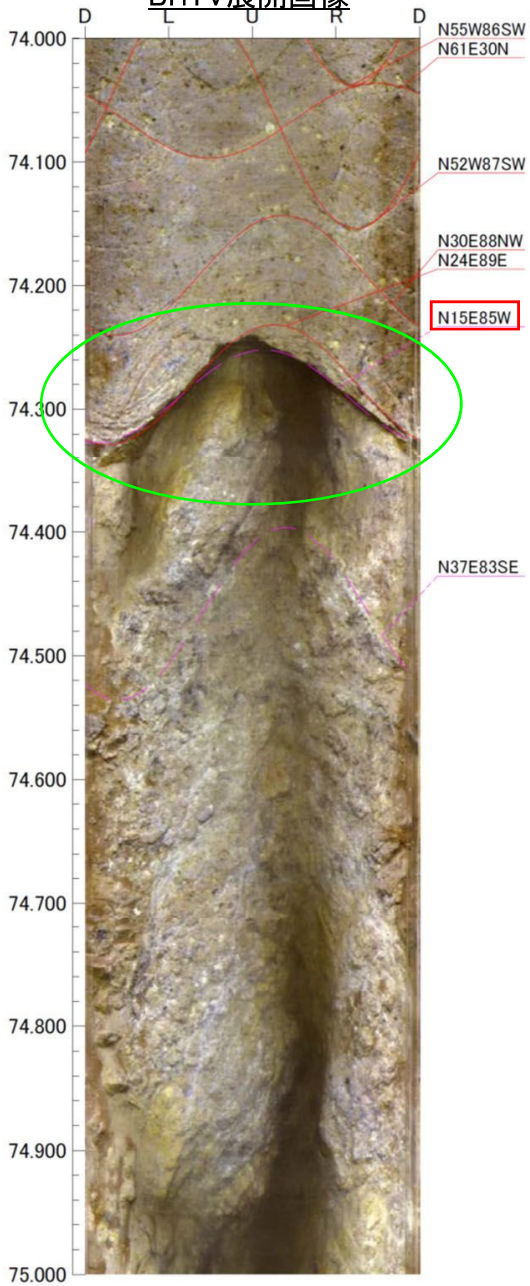
青矢印は屈曲箇所を示す。

凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-1　深度74.36～74.50m）

・H27-B-1孔　深度74.36～74.50mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN15°E85°Wで代用したが，最新活動面と異なる姿勢の走向・傾斜であることが明らかになったので，走向・傾斜が既知の破砕部上端の姿勢から最新活動面の走向・傾斜の復元を行った。

BHTV展開画像



・マーカー（破砕部上端）
健岩部と変質部の境界

コア写真



約90°

マーカー（破砕部上端）

27°

最新活動面

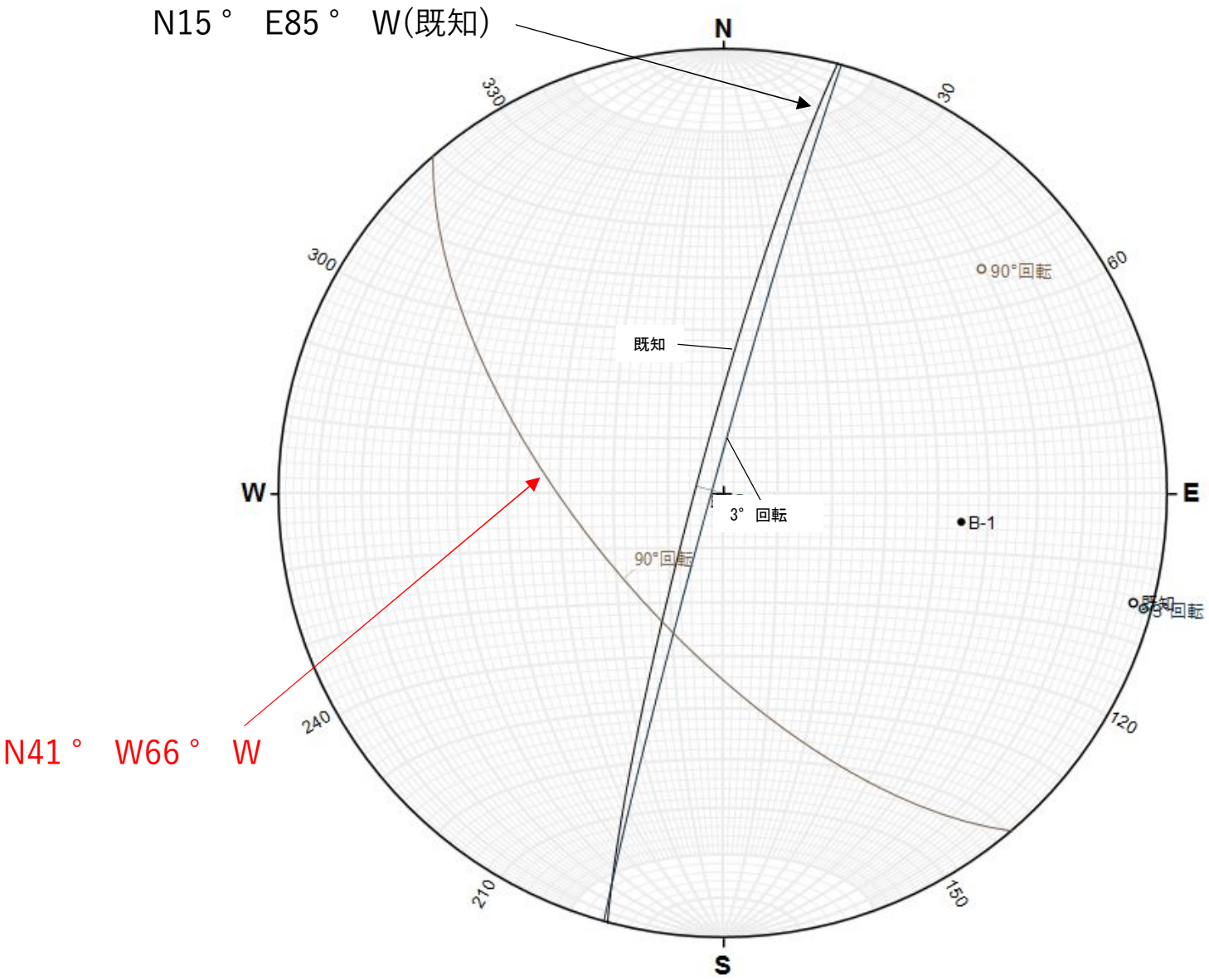
30°

凡例
最新活動面

最新活動面
・深度74.40mの最新活動面に対応するトレース線は，孔壁崩壊で認められないため，破砕部上端の面と最新活動面の姿勢はおおむね似た姿勢であるとの考えから，最新活動面の直上の破砕部上端の走向・傾斜
（N15°E85°W）を代用した。
・再観察において，最新活動面と破砕部上端のコアでの姿勢が大きく異なっていることに気づき，最新活動面の走向・傾斜を既知の破砕部上端の姿勢から復元することとした。

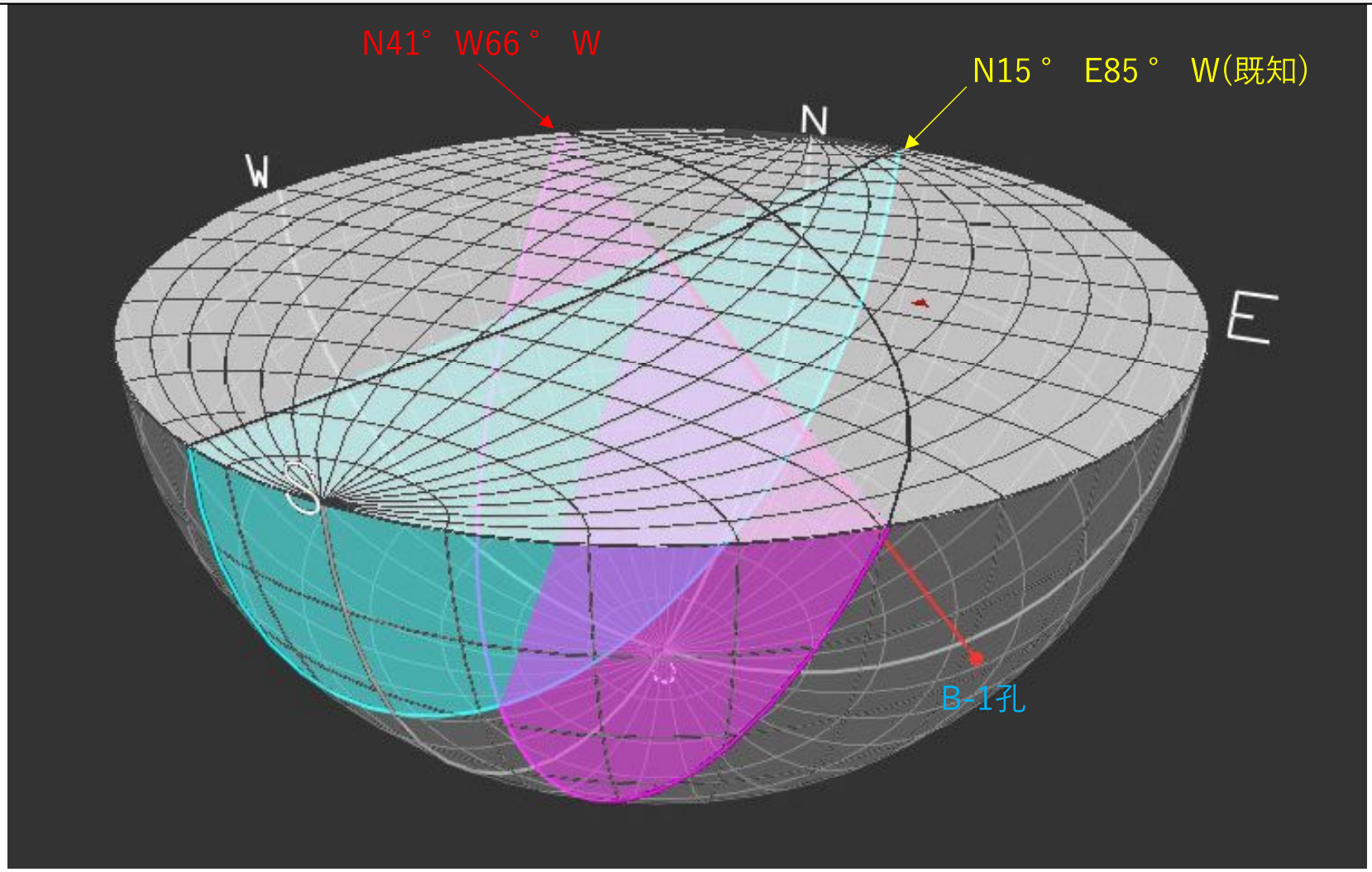
H27-B-1孔　深度74.40m の最新活動面の走向・傾斜

・H27-B-1孔　深度74.36～74.50mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜を，走向・傾斜が既知の破砕部上端の姿勢から，最新活動面の復元を行った。
・走向・傾斜が既知の破砕部上端（ N15° E85° W ）を，最新活動面の見掛けの傾斜角の差3° ，最大傾斜方向のなす角90° 回転し，最新活動面の走向・傾斜N41° W66° Wを推定した。



H27-B-1孔　深度74.40m の最新活動面の走向・傾斜

・H27-B-1孔　深度74.36～74.50mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜を，走向・傾斜が既知の破砕部上端の姿勢から，最新活動面の復元を行った。
・走向・傾斜が既知の破砕部上端（N15°E85°W）を，最新活動面の見掛けの傾斜角の差3°，最大傾斜方向のなす角90°回転し，最新活動面の走向・傾斜N41°W66°Wを推定した。



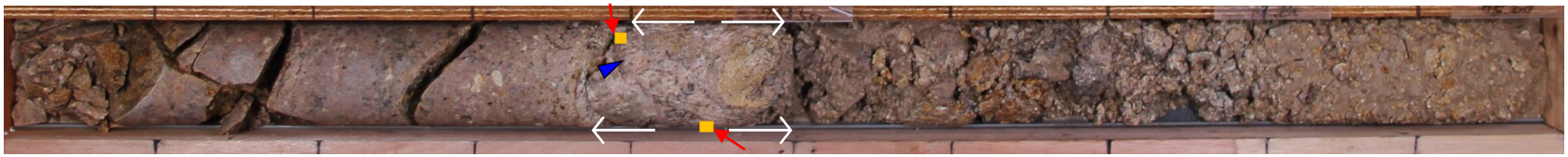
条線観察結果（H27-B-1孔 深度74.40m）

46のエビデンス（条線）

H27-B-1孔 深度74.40mの断層面の走向・傾斜はN41° W66° W※であり，52Rの条線が認められる。（※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから，同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用）

コア写真

74

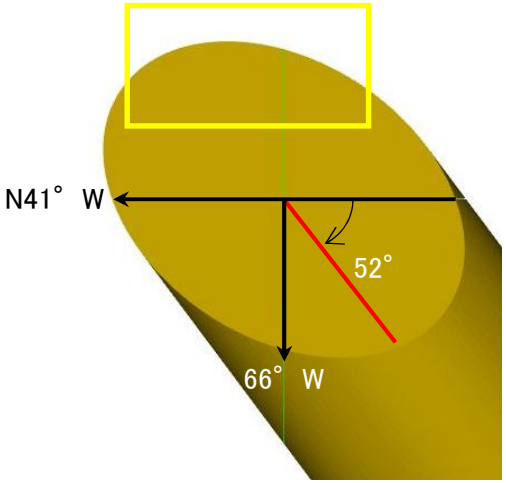


75

凡例
条線観察位置　断層ガウジ　破砕部範囲※　最新活動面
※：写真上は白色で記載

観察模式図

※上盤側から観察

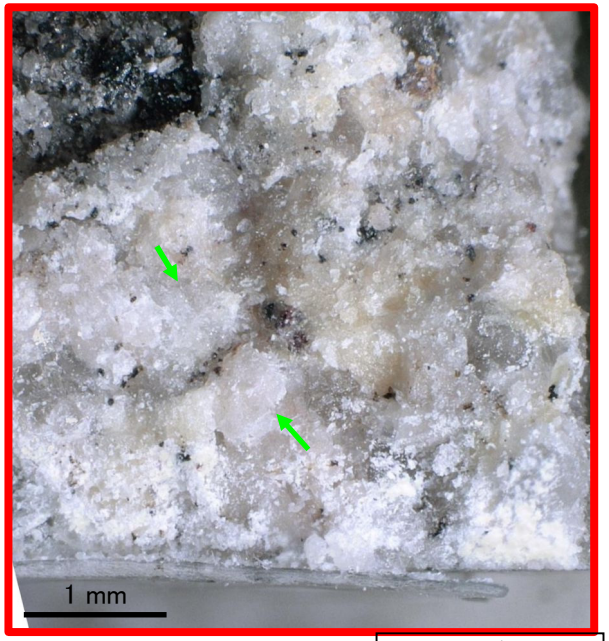


凡 例
最新活動面　レイク

条線観察位置拡大



赤枠内拡大

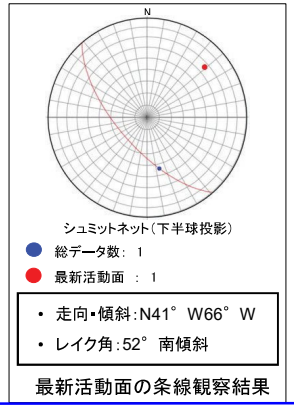


凡 例
条線方向

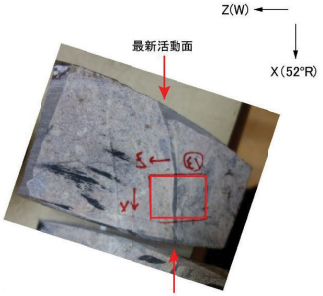
H27-B-1　深度74.36～74.50m　（1/2）

青枠：変位センスに関する部分

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度74.40m）の変位センスは，左ずれを伴う正断層成分が卓越する。
・断層岩区分については，最新活動ゾーンは周辺のカタクレーサイトのゾーンより細粒であり，局所的ではあるが幅6mm程度の範囲で粘土鉱物が若干認められることから，断層ガウジと判断していた。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。

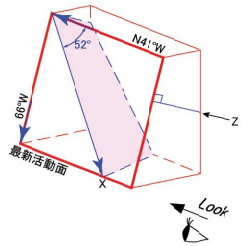


最新活動面の条線観察結果



ブロックサンプル

薄片の作製方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向

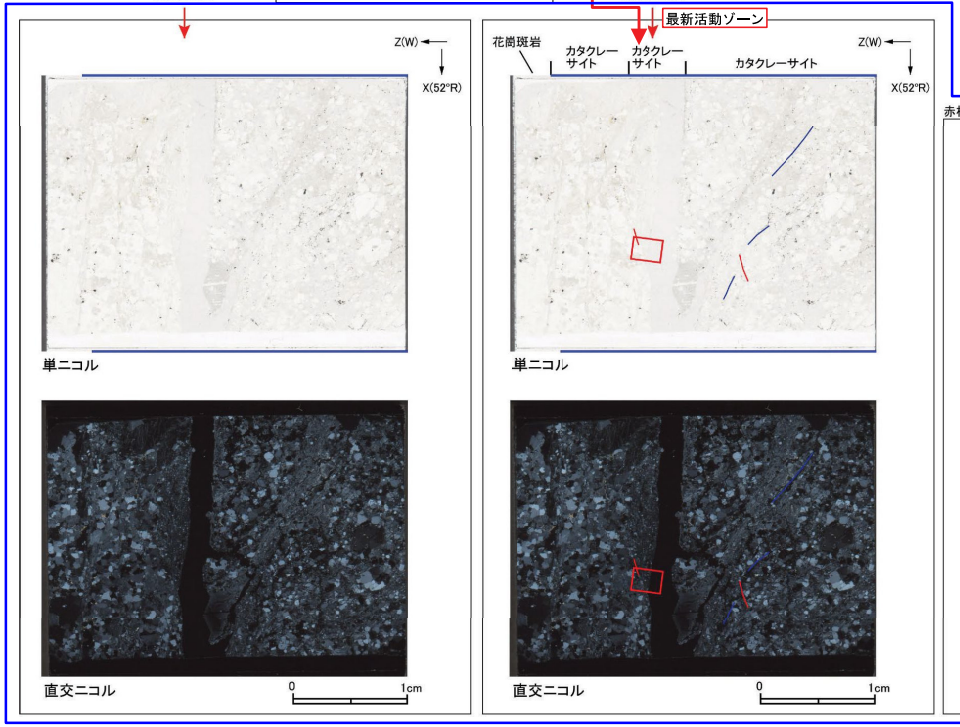


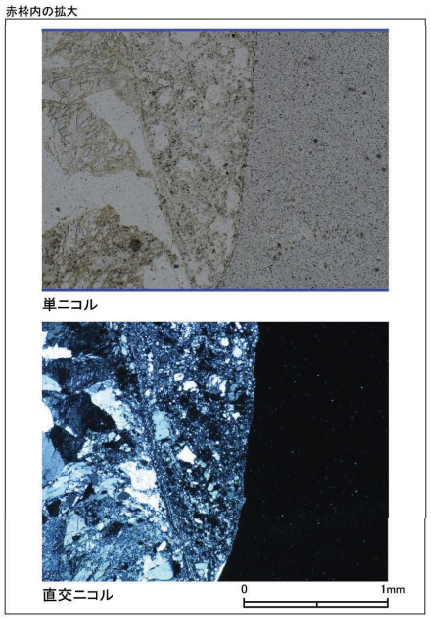
走向・傾斜　N41°W 66°W
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

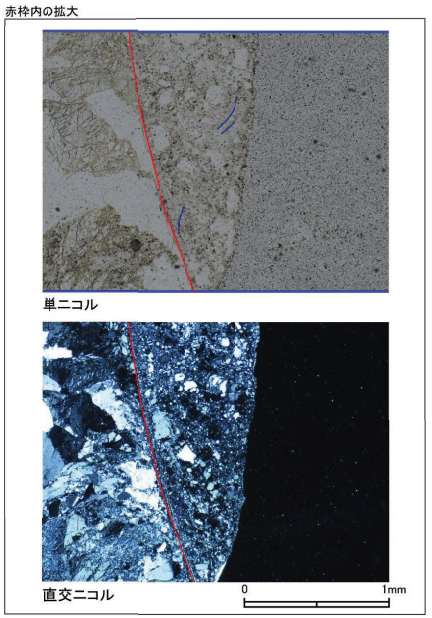


※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから，同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用している。

このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが，上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



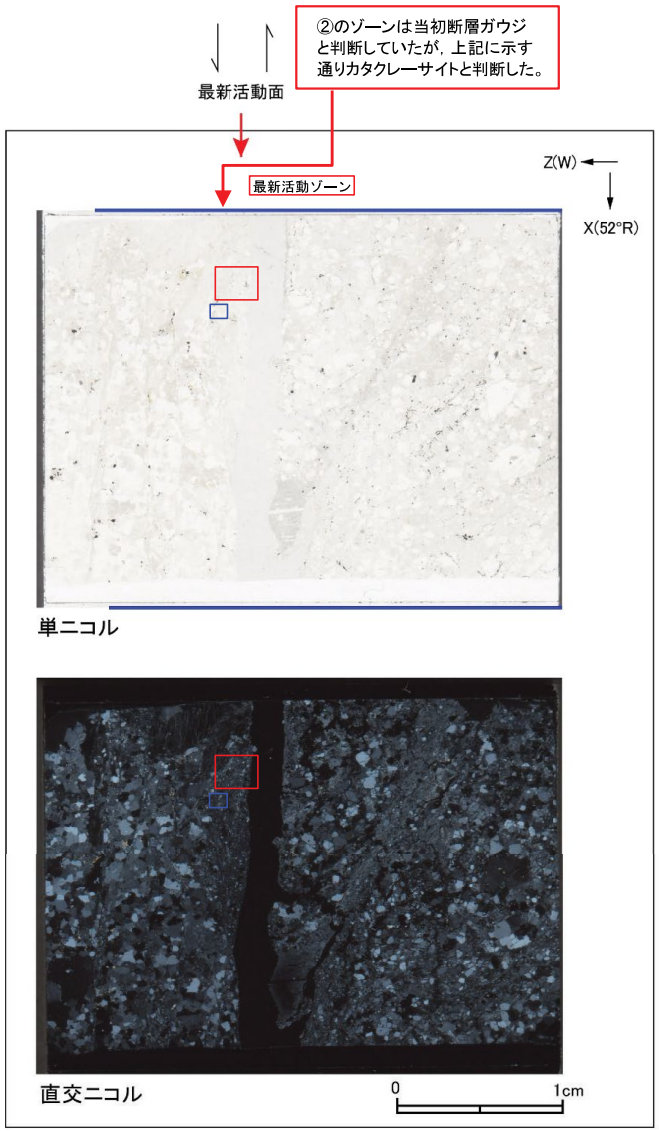


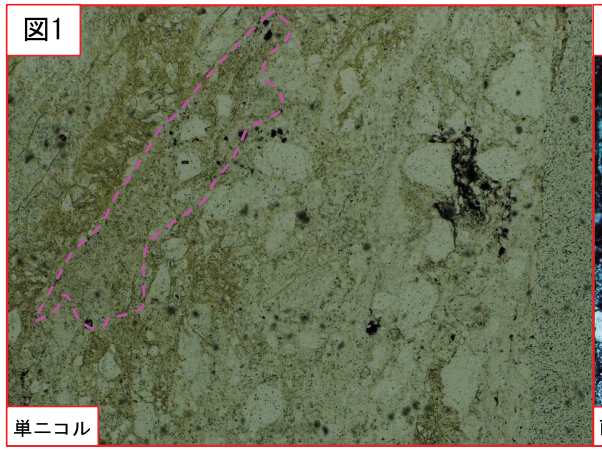


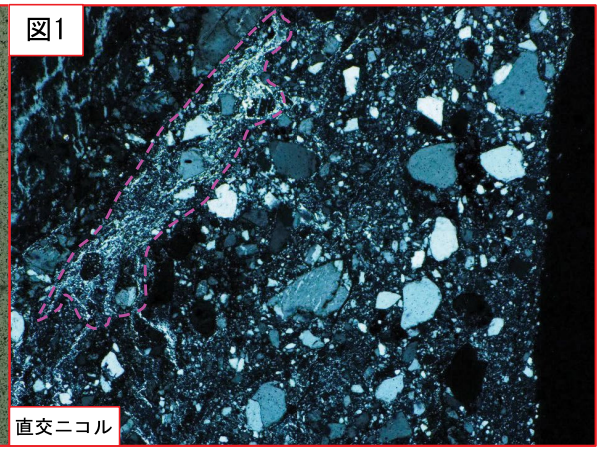
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-1　深度74.36～74.50m　(2/2)

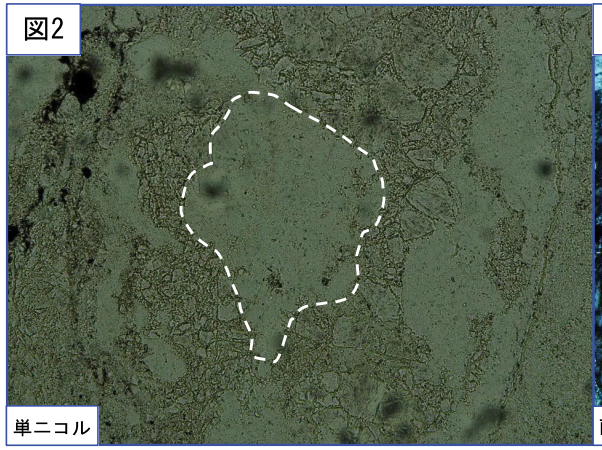
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図1)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)

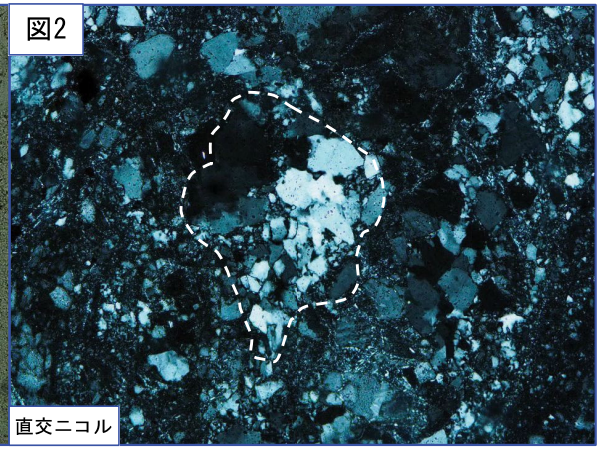






破線は粘土状部の分布範囲を示す。





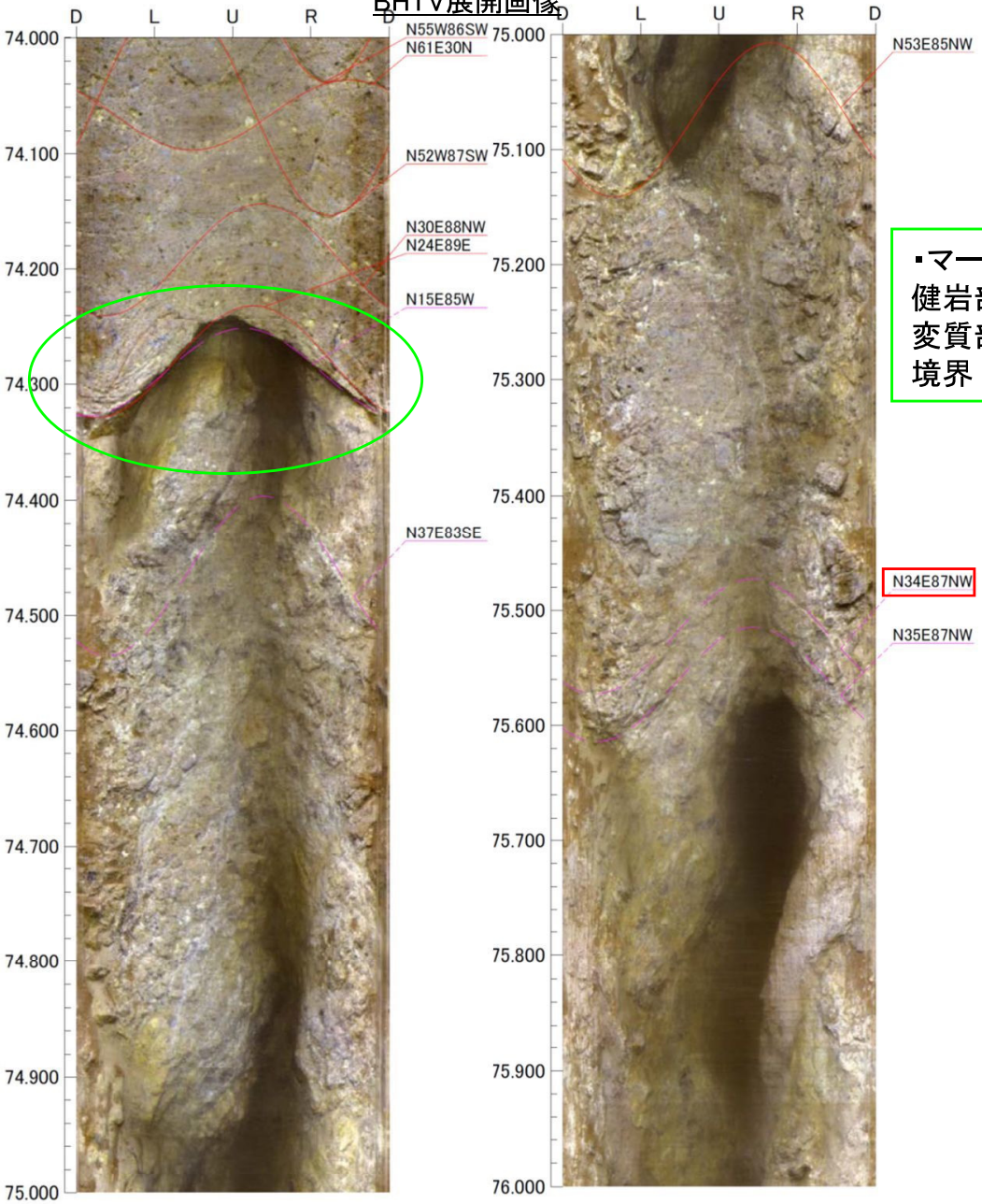
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-1　深度75.57～76.00m）

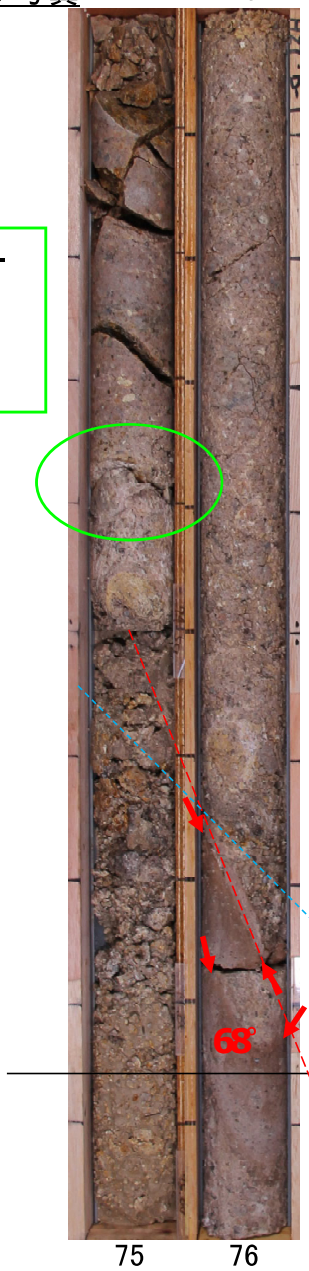
・H27-B-1孔　深度75.57～76.00mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜をN34°E87°NWで代用したが，これはコアで確認される最新活動面よりも見掛けの傾斜が低角度の割れ目のものであることが明らかになったため，走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差（23°）から姿勢の復元を行った。

BHTV展開画像



・マーカー健岩部と変質部の境界

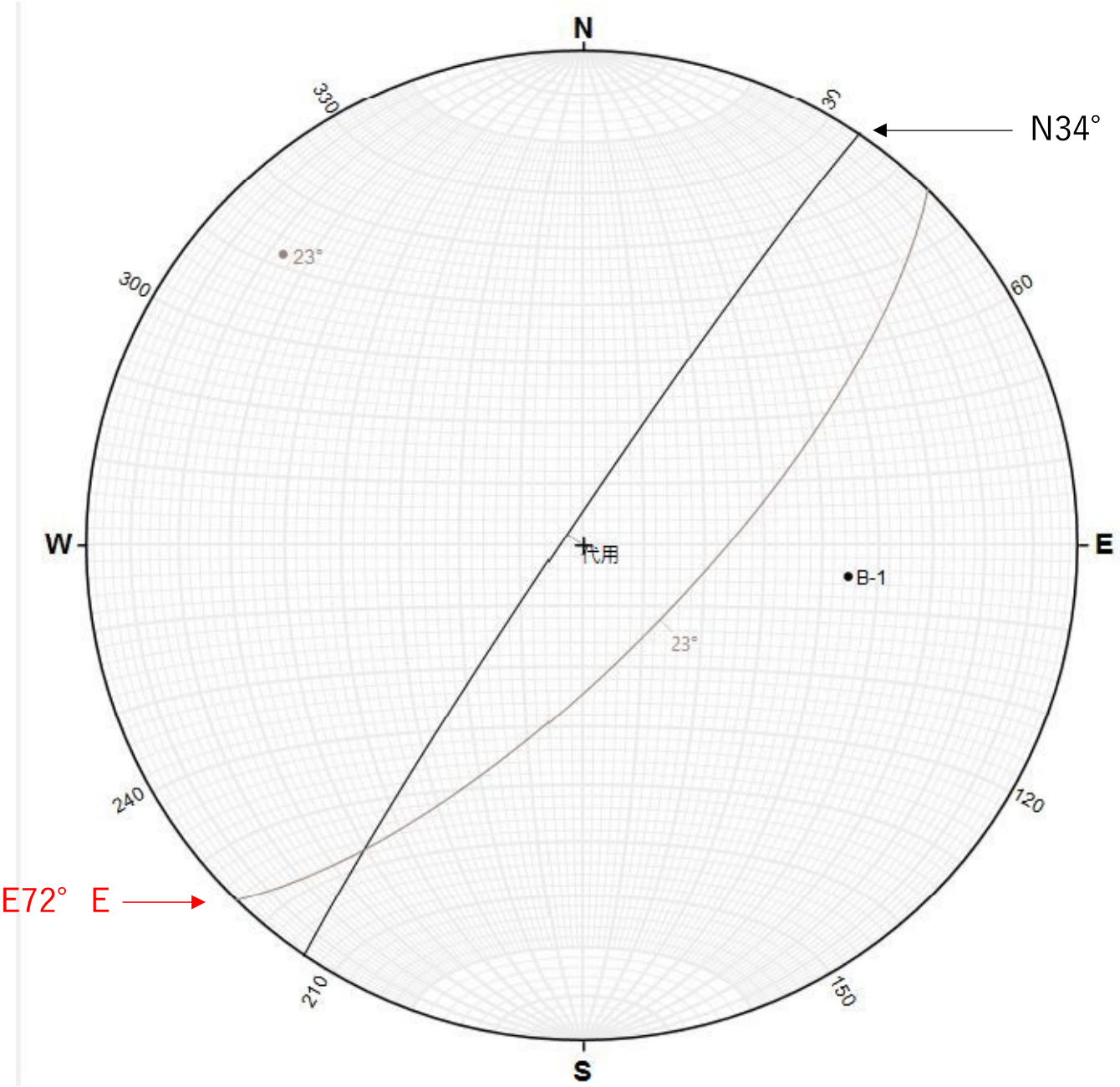
コア写真



・最新活動面マーカーの位置関係から，最新活動面はBHTV展開画像では75.60m付近に出現すると予想される。
・孔壁崩壊により最新活動面の細粒部などは認められなかったが，この付近のトレースを最新活動面と似た姿勢のものであると考え，走向・傾斜の値（N34° E87° NW）を最新活動面に代用した。
・再観察の結果，代用した走向・傾斜のトレースが，コアで確認される最新活動面よりも見掛けの傾斜が低角度の割れ目のものであることが明らかになったため，走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差（23°）から姿勢の復元を行った。

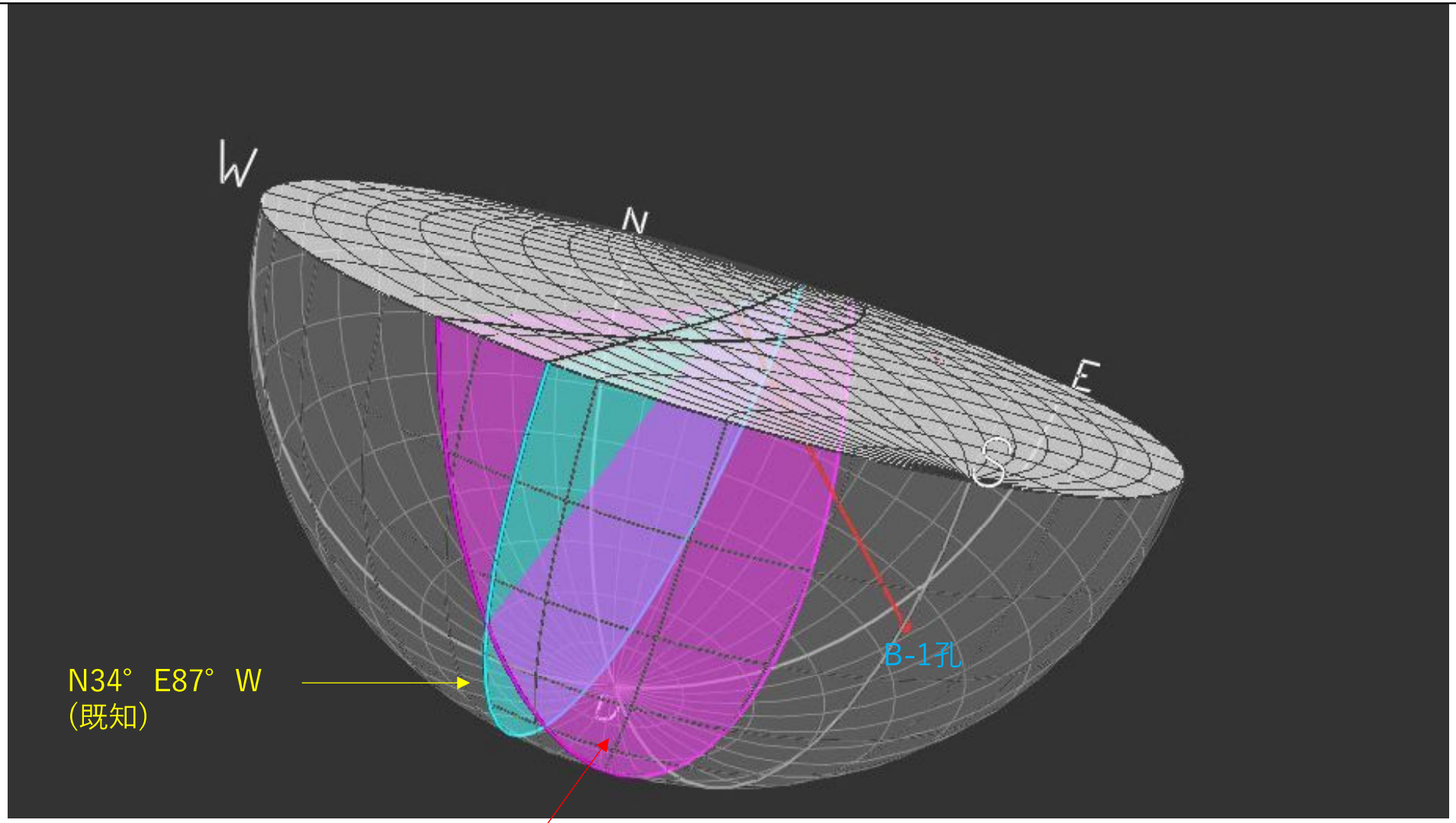
H27-B-1孔　深度75.73m の最新活動面の走向・傾斜

・H27-B-1孔　深度75.57～76.00mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜を，走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差（23°）から姿勢の復元を行い，最新活動面の走向・傾斜N44°E72°Eを推定した。



H27-B-1孔　深度75.73m の最新活動面の走向・傾斜

・H27-B-1孔　深度75.57～76.00mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜を，走向・傾斜が既知の割れ目との見掛けの傾斜角の差（23°）から姿勢の復元を行い，最新活動面の走向・傾斜N44°E72°Eを推定した。



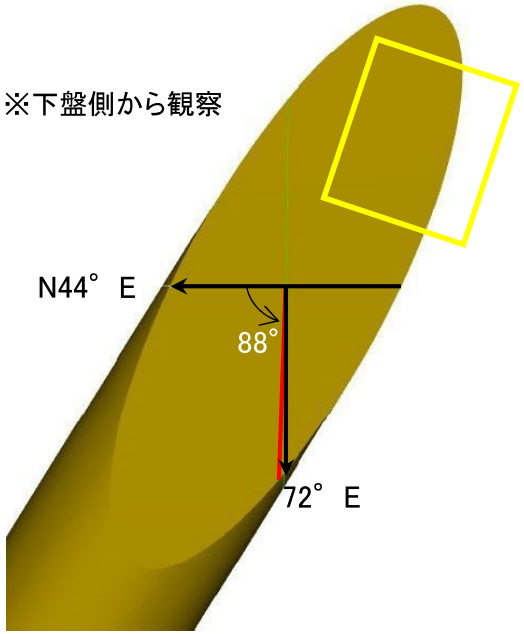
条線観察結果（H27-B-1孔 深度75.73m）

H27-B-1孔 深度75.73mの断層面の走向・傾斜はN44° E72° E※であり，88° Rの条線が認められる。（※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから，同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用）

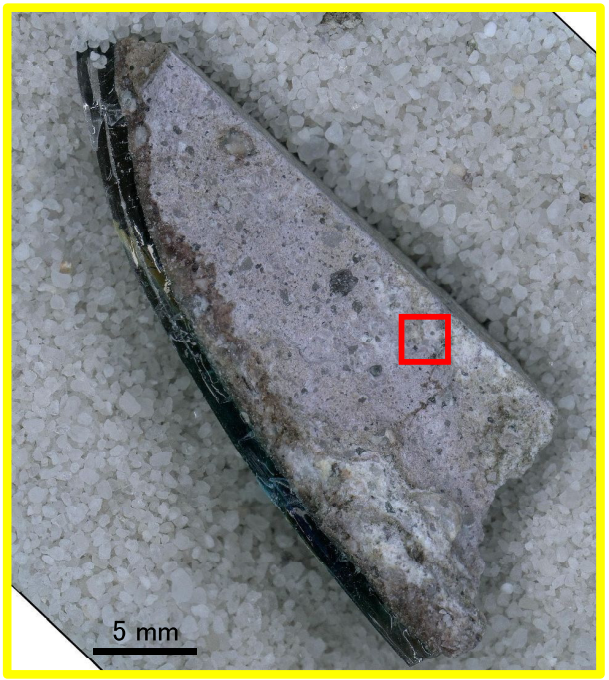
コア写真



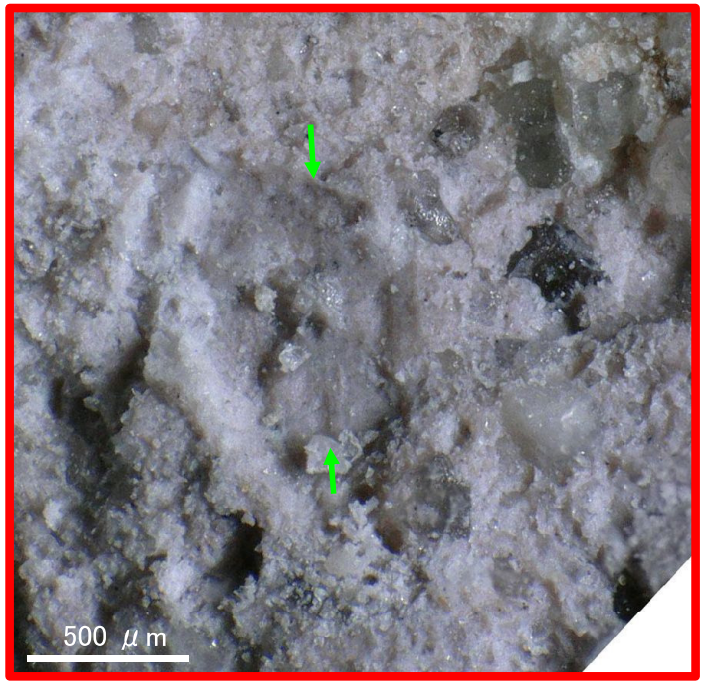
観察模式図



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



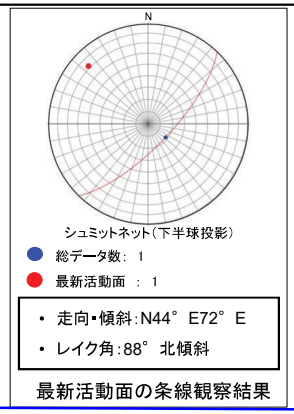
H27-B-1　深度75.57～76.00m　（1/3）

青枠：変位センスに関する部分

50のエビデンス（変位センス）（1/3）

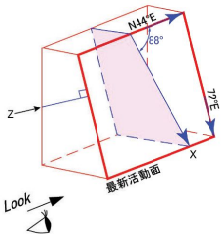
▪H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度75.73m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
▪最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）組織は漸移的に変化する。
- （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。
- （カタクレーサイト）塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。





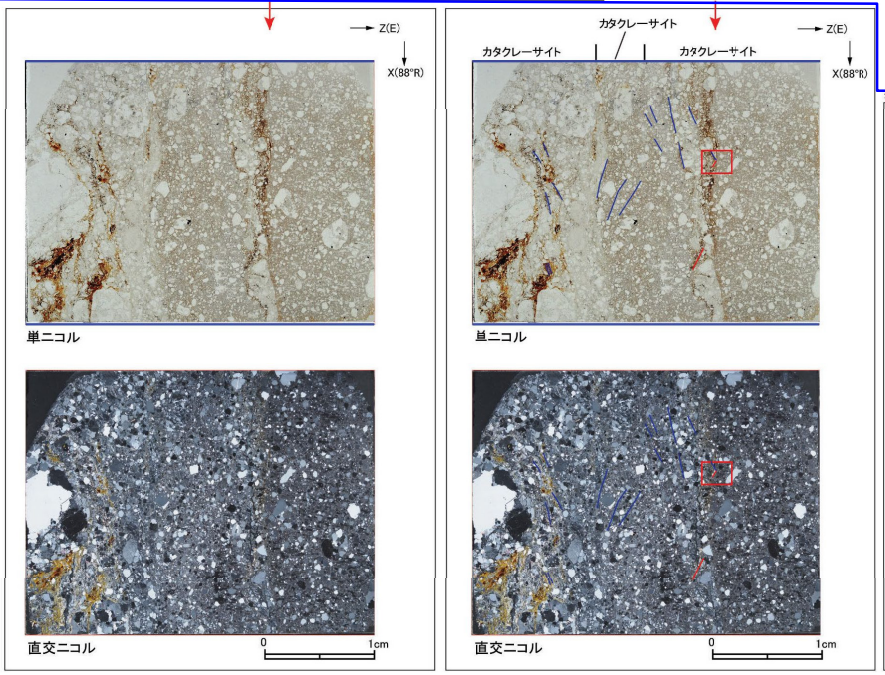
薄片の作製方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向

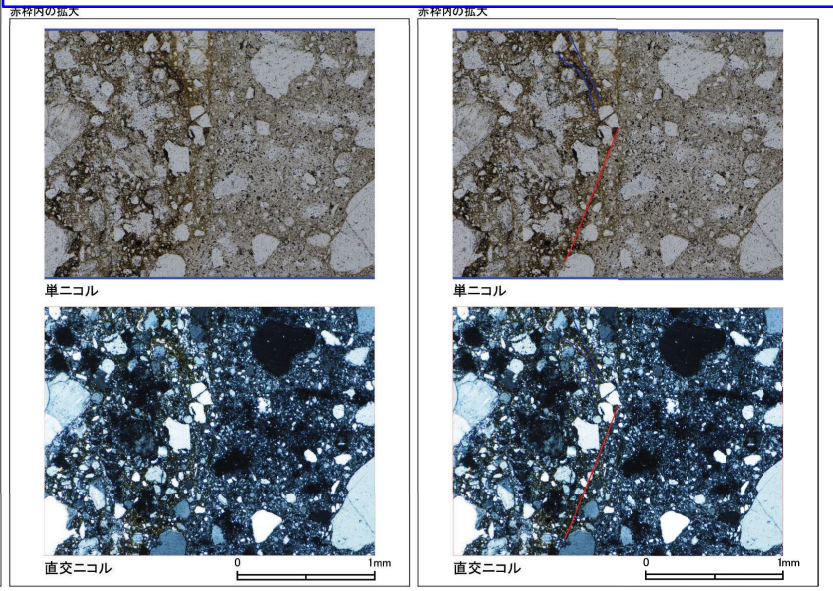




※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから，同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用している。

最新活動面
最新活動ゾーン
最新活動面

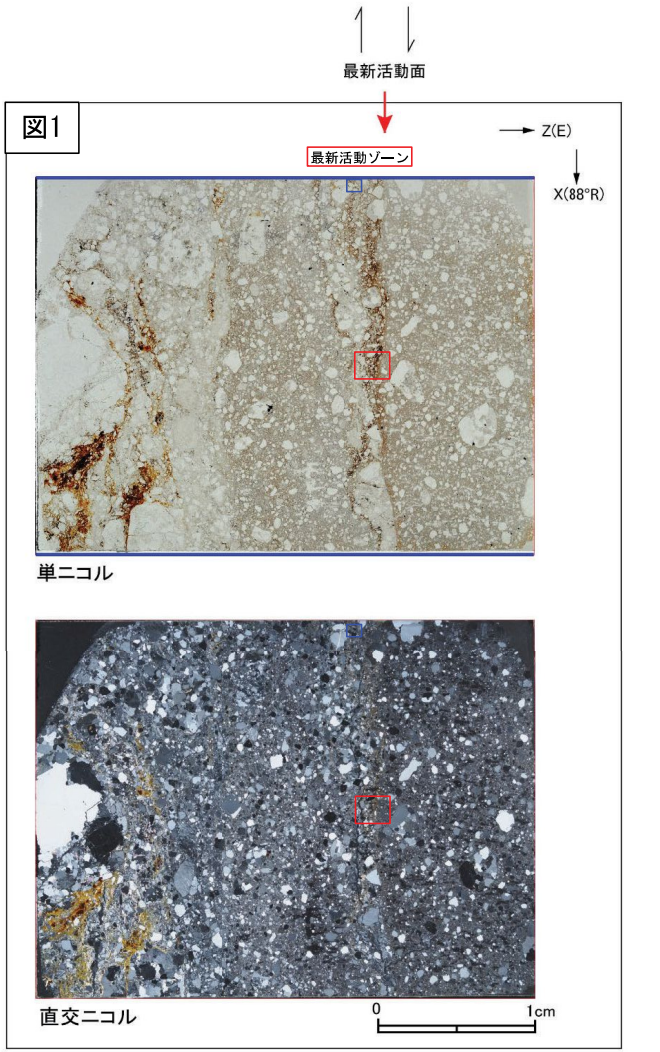


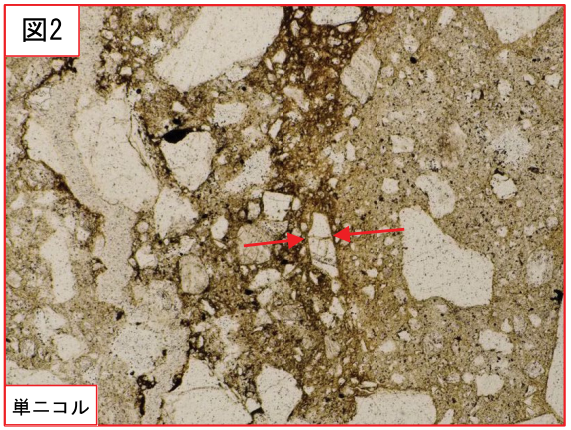


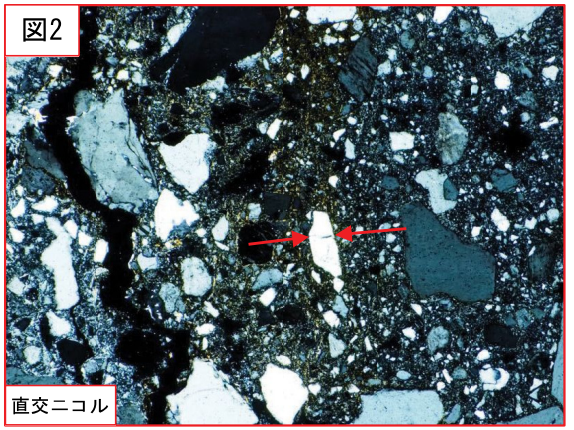
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-1　深度75.57～76.00m　（2/3）

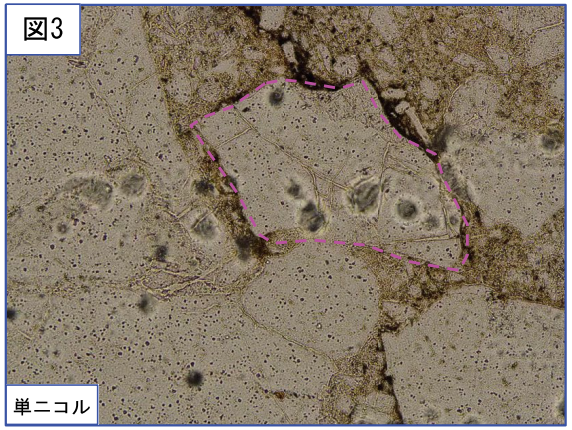
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
- 組織は漸移的に変化する。（図1）
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)

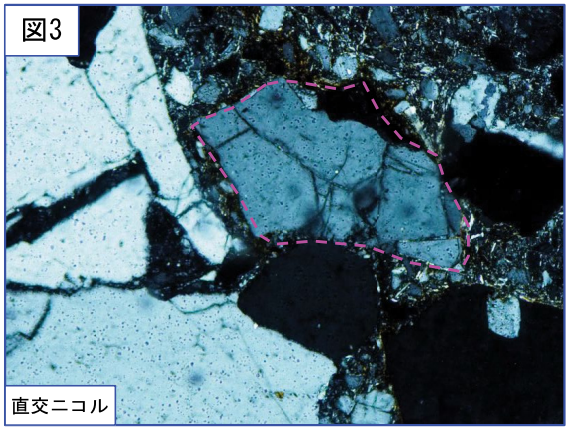






赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

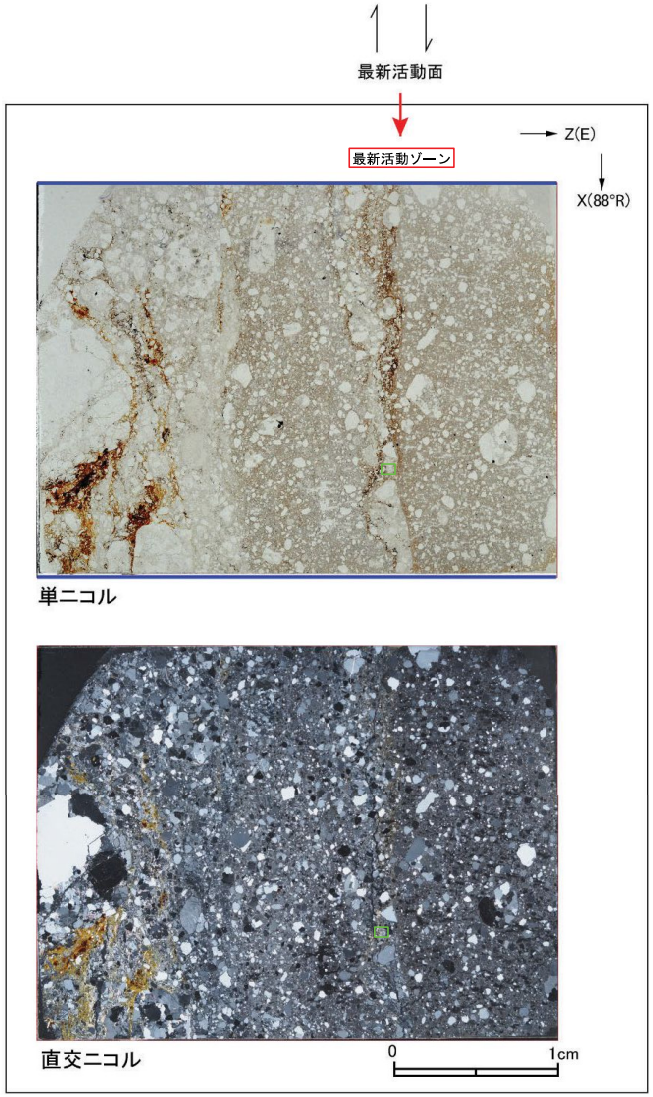




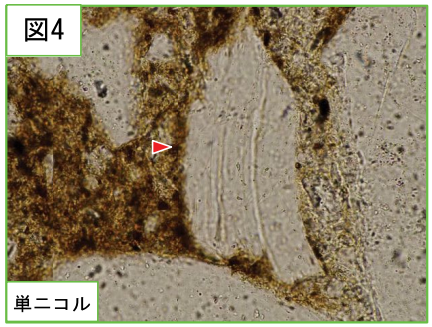
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

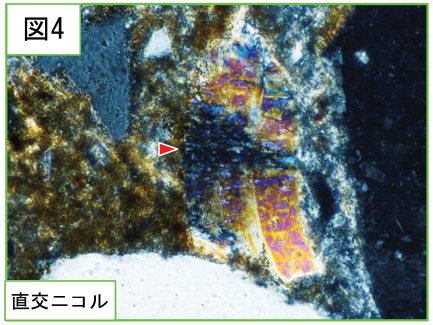
H27-B-1　深度75.57～76.00m　(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



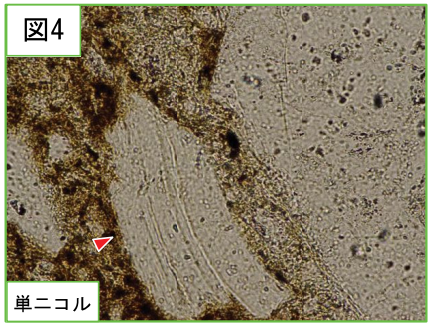
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

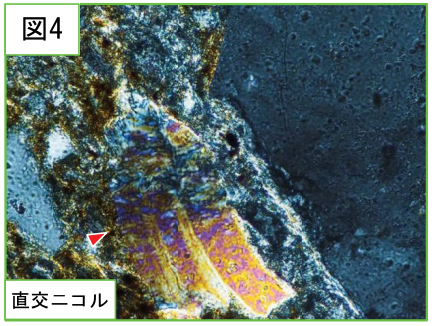




赤矢印は屈曲箇所を示す。　50 μm

ステージを反時計回りに約20度回転



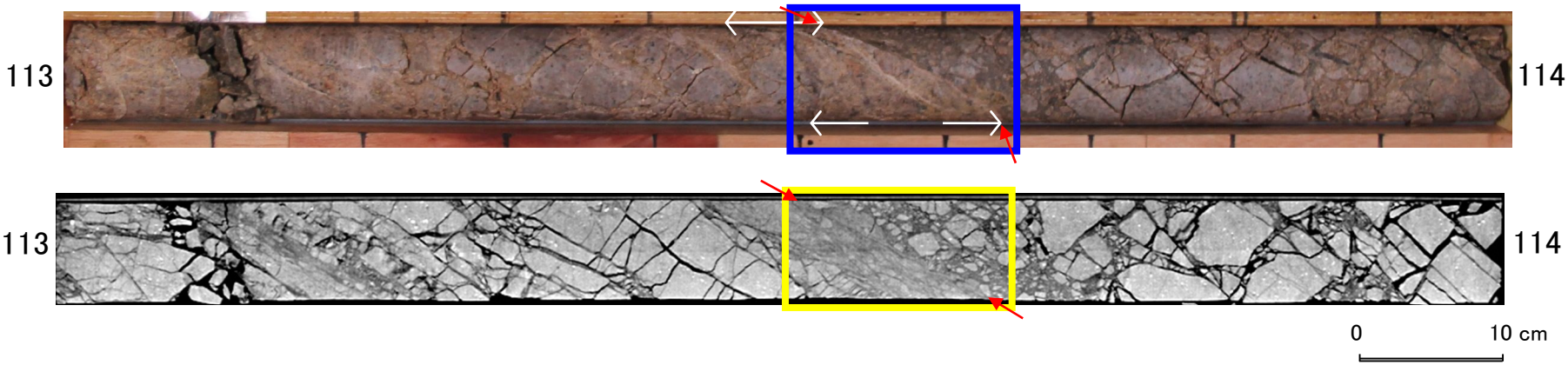


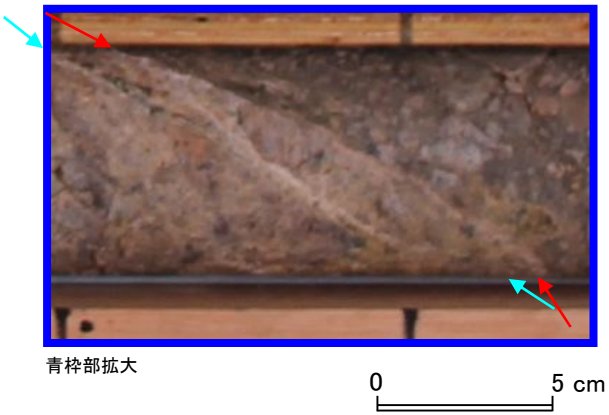
赤矢印は屈曲箇所を示す。　50 μm

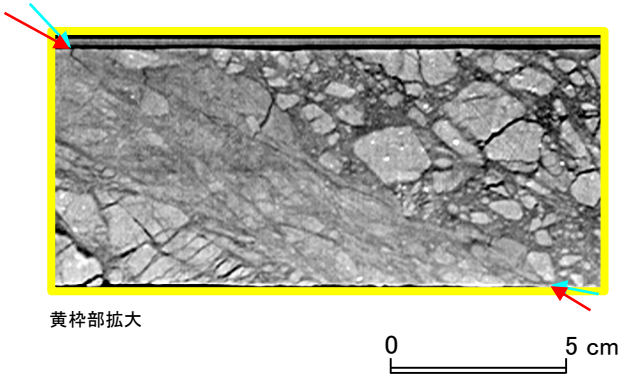
最新活動面認定根拠(H27-B-1　深度113.51～113.60m)

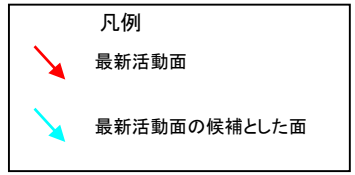
・肉眼観察では，最新活動面が深度113.56mか深度113.60mかを判断できないため，CT画像を利用した。
・CT画像では，より直線的であることから，深度113.60mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真





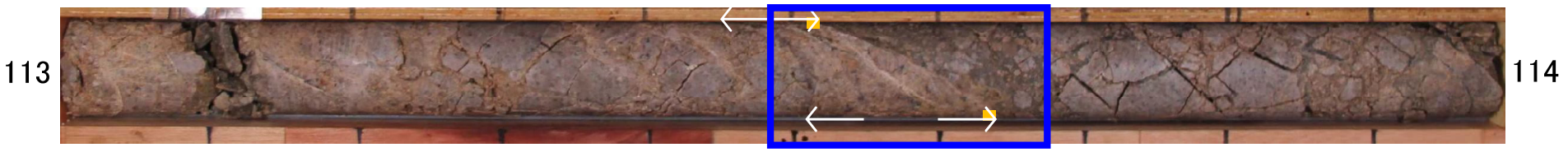




断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H27-B-1　深度113.51～113.60m） 54のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は0.1cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ　破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載



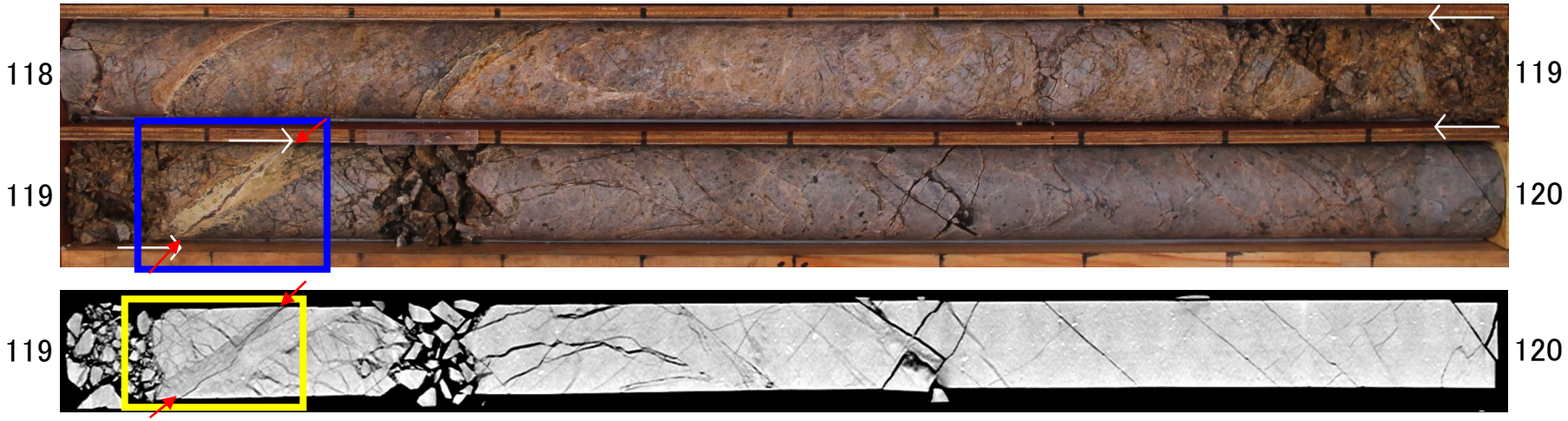
青枠部拡大



最新活動面認定根拠(H27-B-1　深度118.94～119.12m)

・肉眼観察では，最新活動面が浅黄色細粒部の上端(深度119.10m)か黒色粘土脈(深度119.12m)かを判断できないため，CT画像を利用した。
・CT画像では，より直線的であることから，深度119.12mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



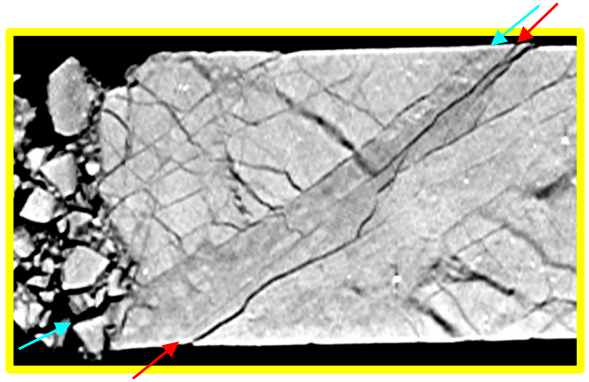
凡例
破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面

0　10 cm



青枠部拡大

0　5 cm



黄枠部拡大

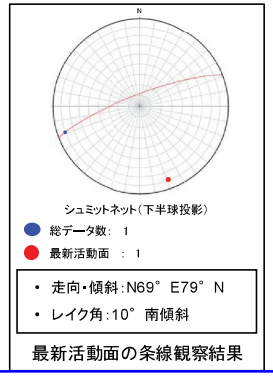
0　5 cm

凡例
最新活動面
最新活動面の候補とした面

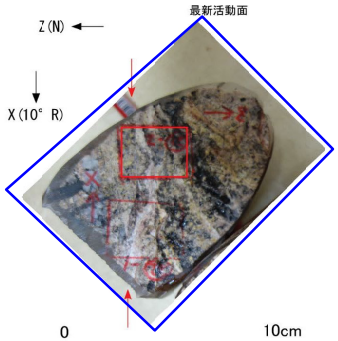
H27-B-2　深度35.36～35.46m　(1/2)

青枠：修正箇所　58のエビデンス（薄片観察結果）　(1/2)

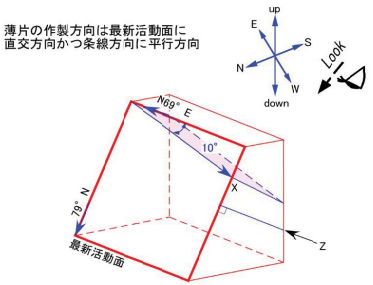
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度35.40m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。



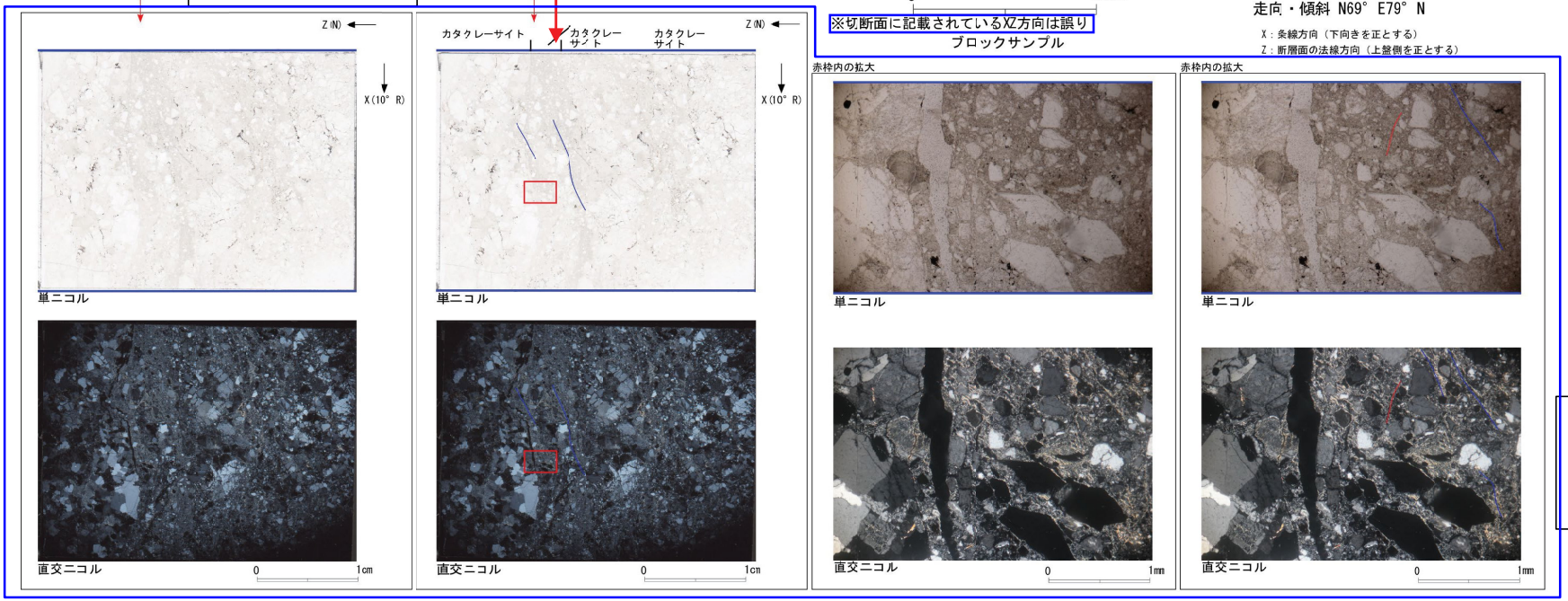
最新活動面の条線観察結果



※切断面に記載されているXZ方向は誤り
ブロックサンプル



走向・傾斜 N69° E79° N
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

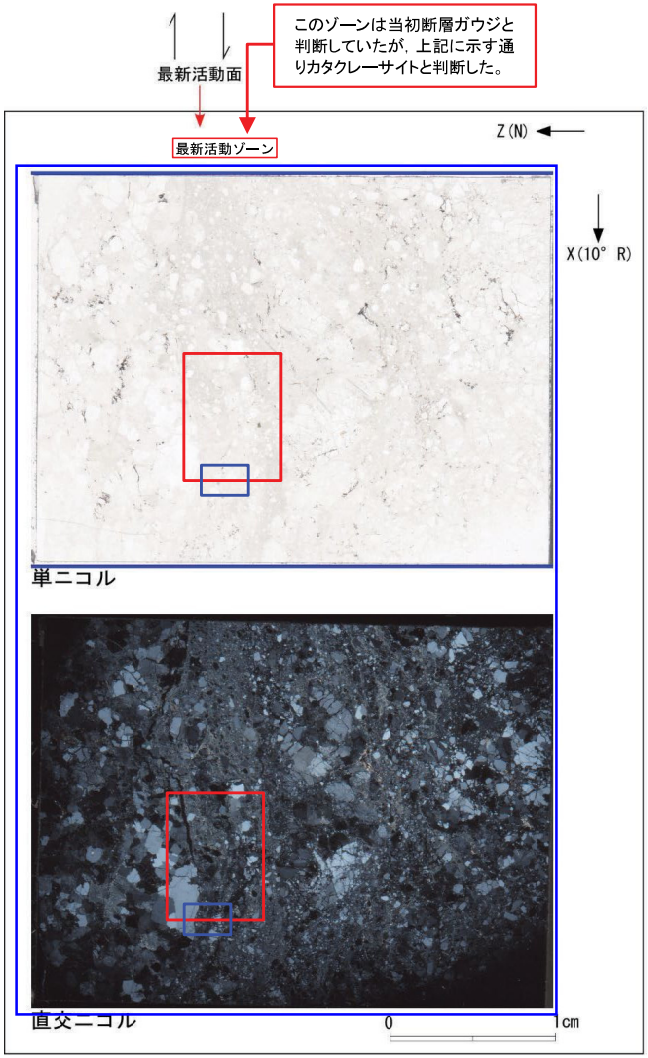


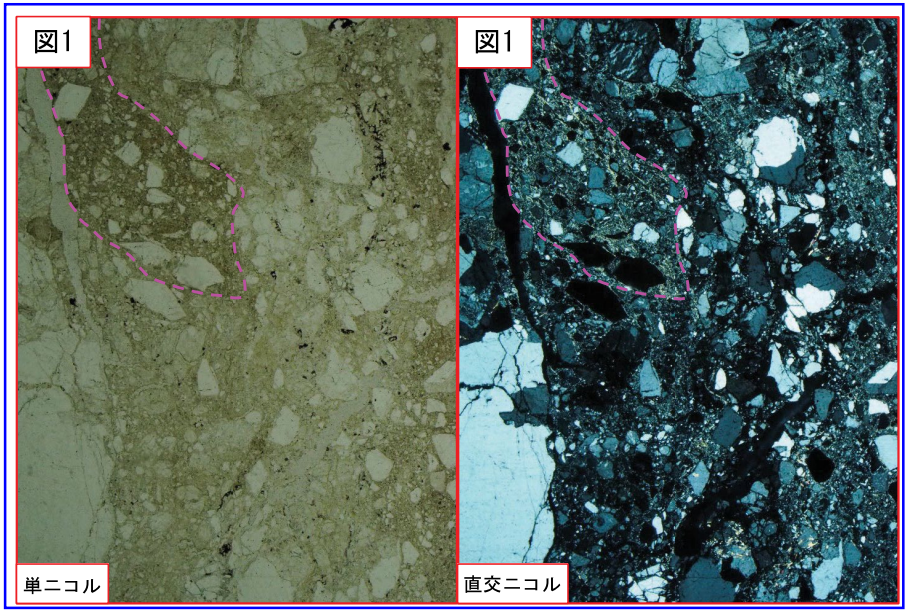
H27-B-2　深度35.36～35.46m　(2/2)

青枠：修正箇所

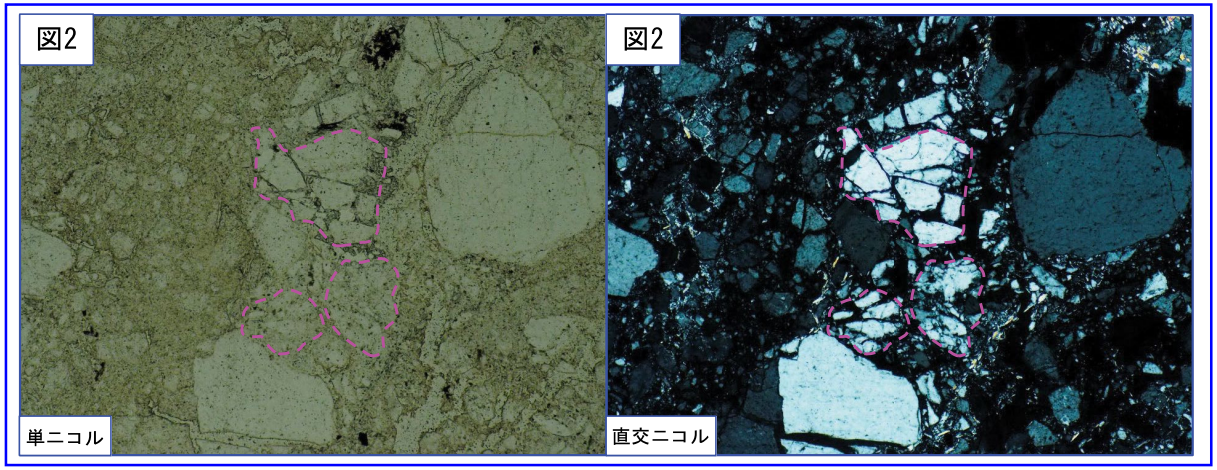
58のエビデンス（薄片観察結果）　(2/2)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)





破線は粘土状部の分布範囲を示す。

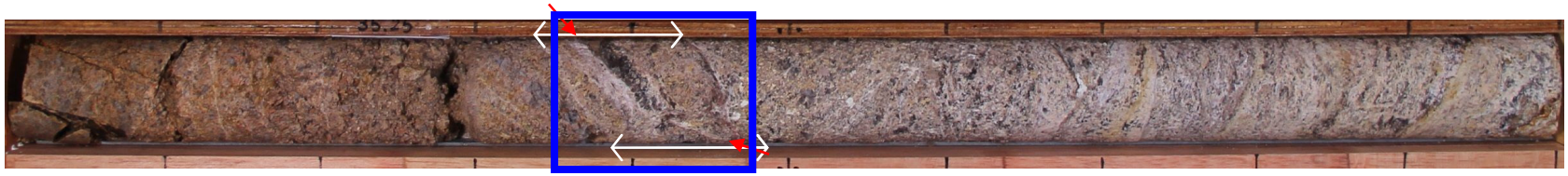


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

最新活動面認定根拠(H27-B-2　深度35.36～35.46m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度35.40mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真





青枠部拡大

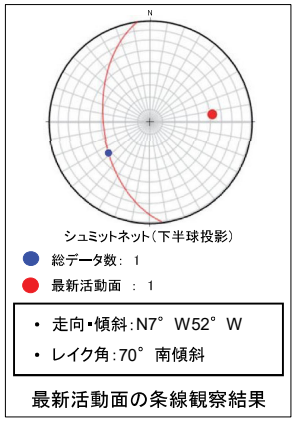
H27-B-2　深度35.68～35.73m　（1/3）

青枠：修正箇所

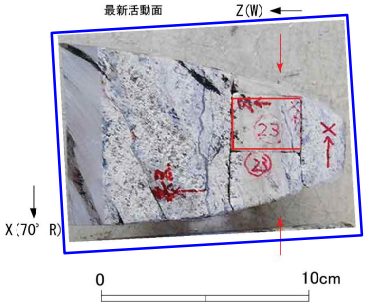
60のエビデンス（薄片観察結果）　（1/3）

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度35.73m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

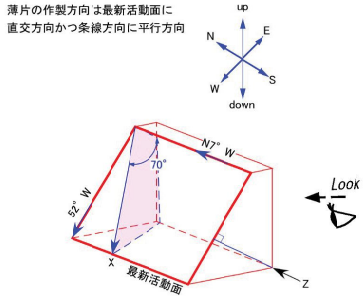


最新活動面の条線観察結果



※切断面に記載しているX方向は誤り。

ブロックサンプル

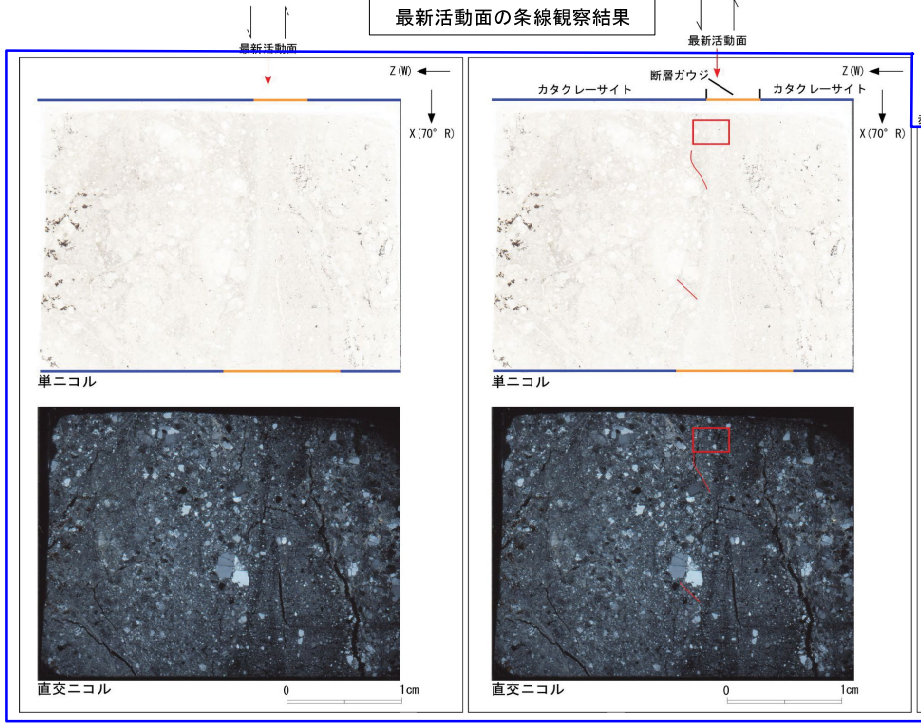


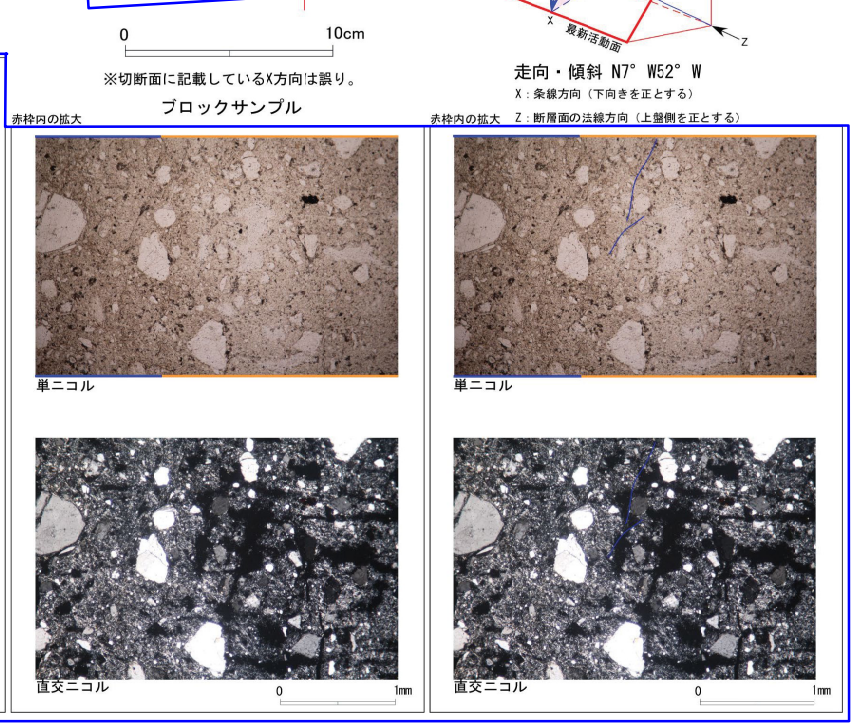
走向・傾斜 N7° W52° W

X：条線方向（下向きを正とする）

Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

最新活動ゾーン





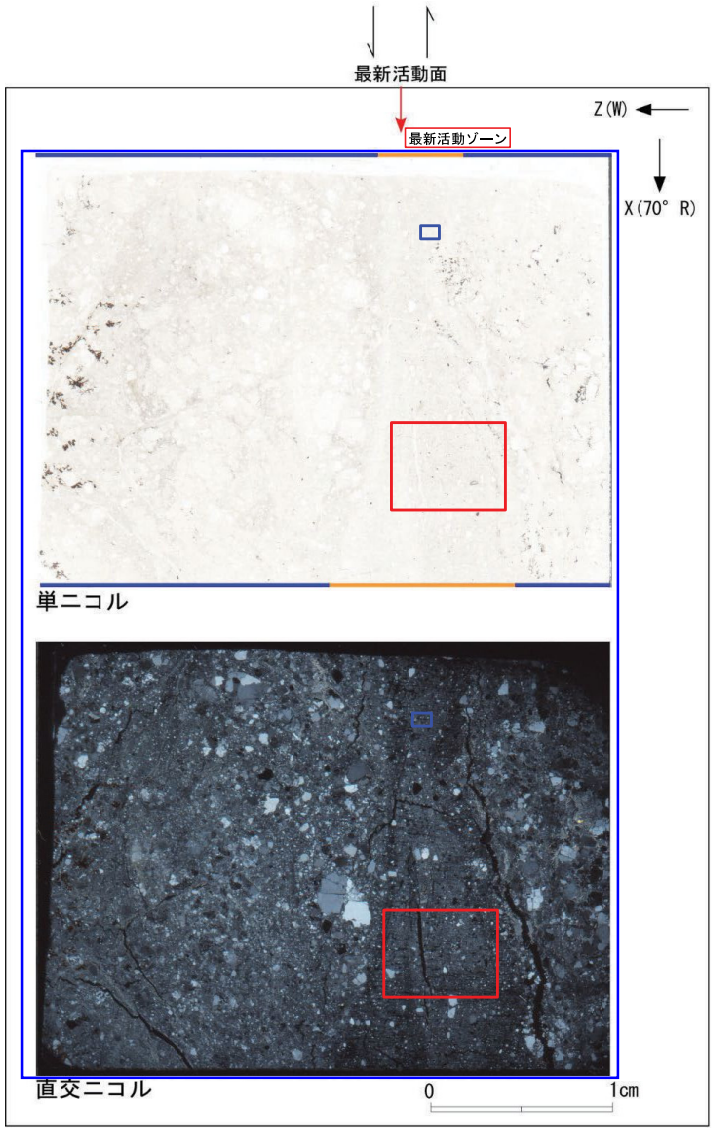
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

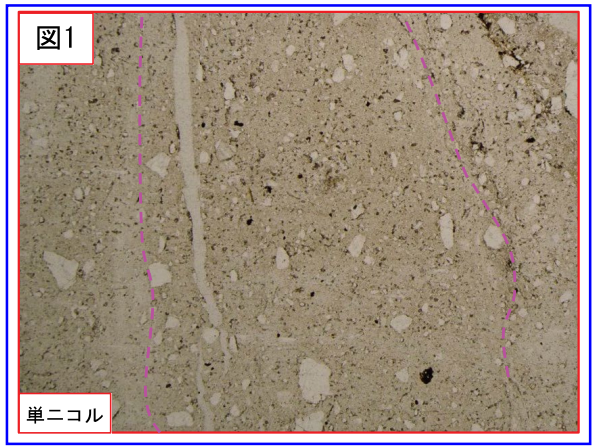
H27-B-2　深度35.68～35.73m　(2/3)

青枠：修正箇所

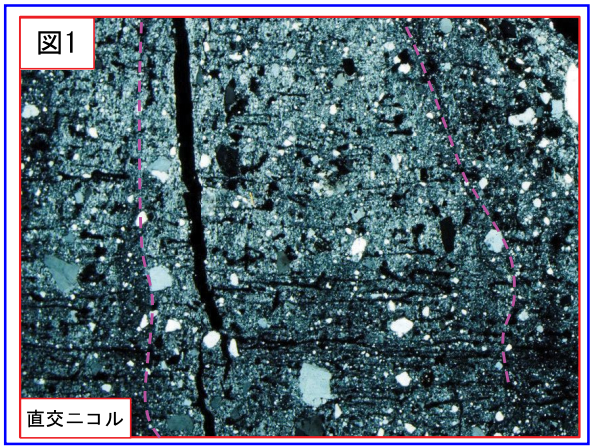
60のエビデンス（薄片観察結果）　(2/3)

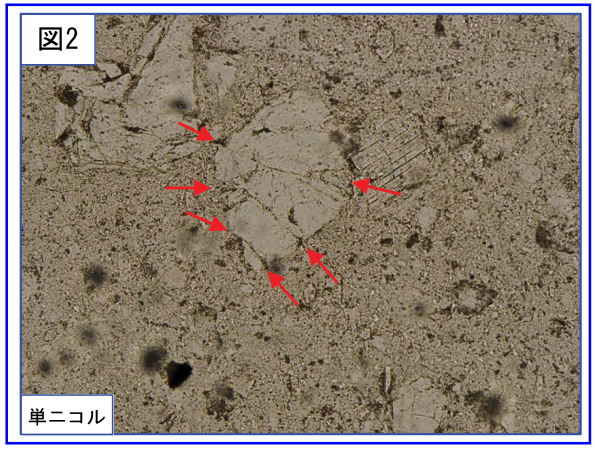
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



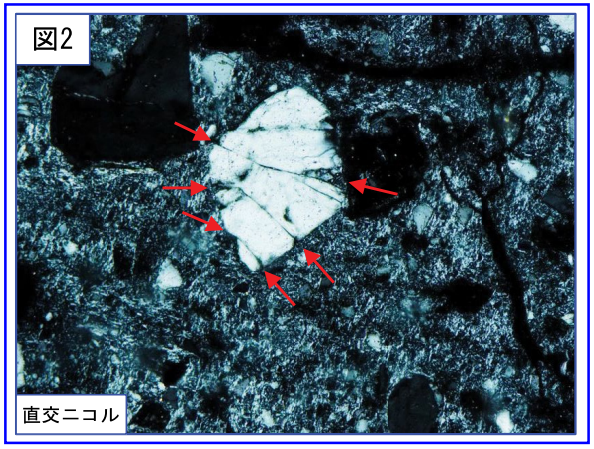


破線は帯状で直線的な範囲を示す。





赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

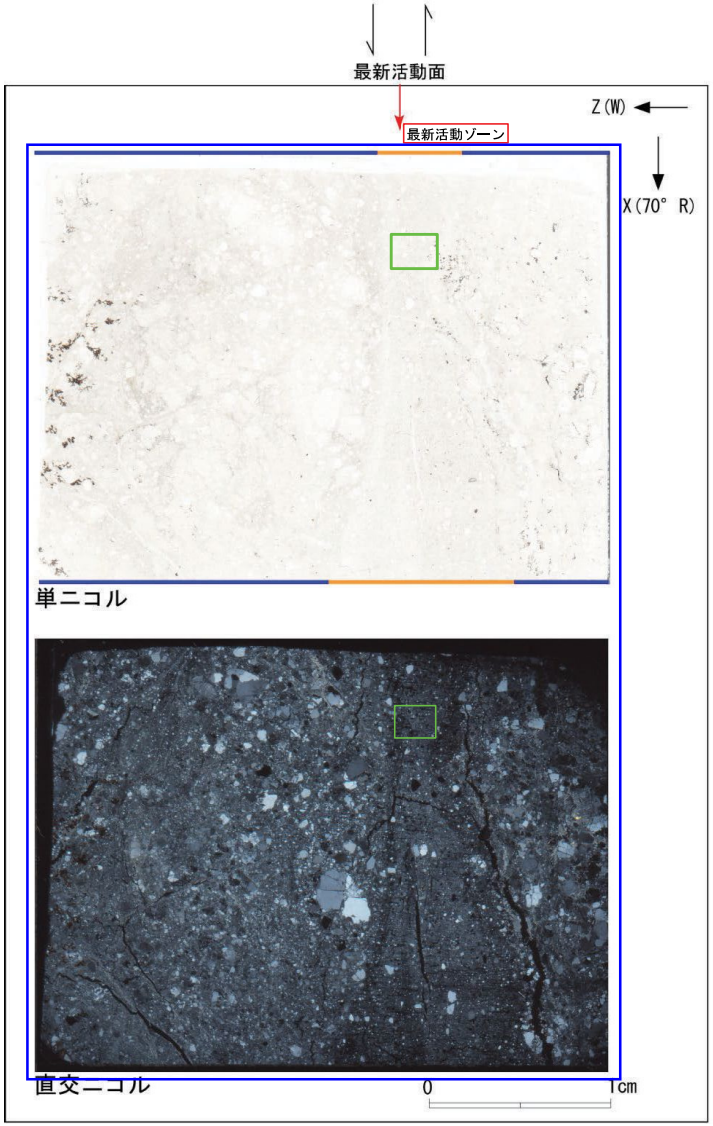


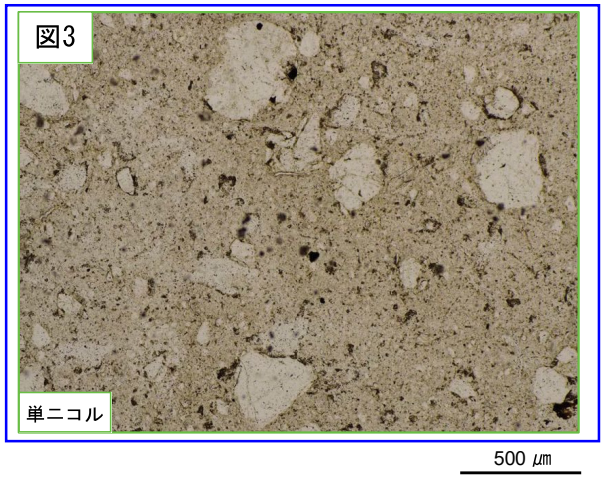
H27-B-2　深度35.68～35.73m　(3/3)

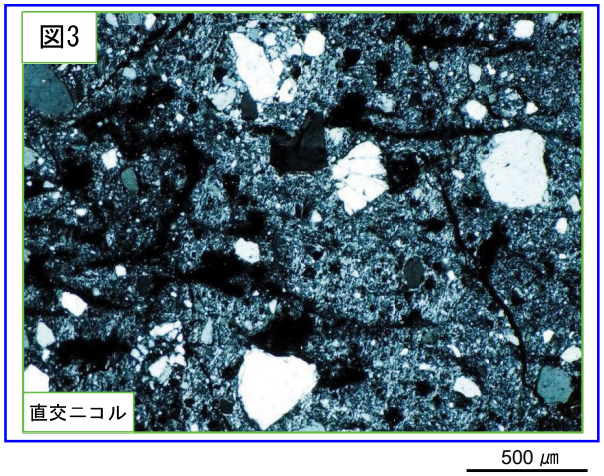
青枠：修正箇所

61のエビデンス（薄片観察結果）　(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 岩片は少ない。（図3）
- 丸みを帯びている岩片が多い。（図3）





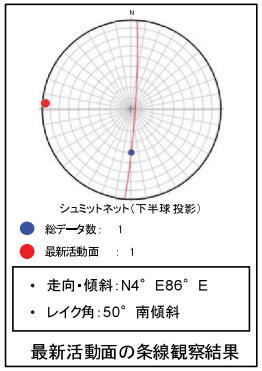


凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

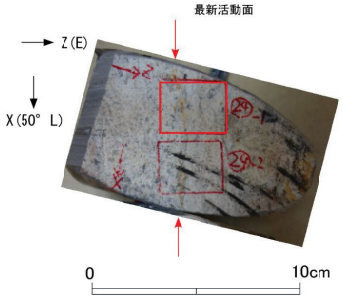
H27-B-2　深度35.92～35.95m　(1/3)

青枠：変位センスに関する部分

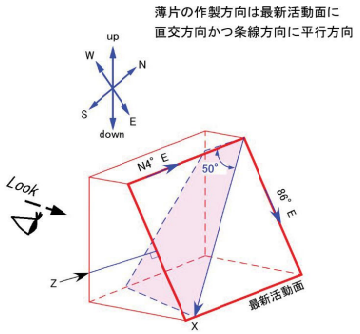
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度35.92m）の変位センスは，右ずれを伴う正断層である。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）組織は漸移的に変化する。
- （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。
- （カタクレーサイト）塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



最新活動面の条線観察結果



ブロックサンプル



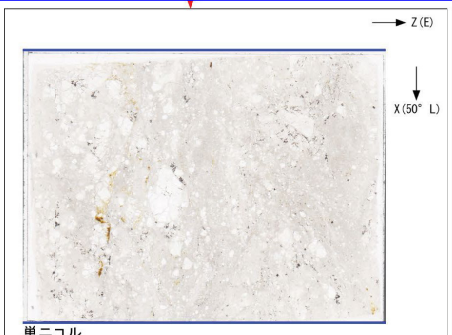
走向・傾斜 N4° E86° E

X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

最新活動面

最新活動ゾーン

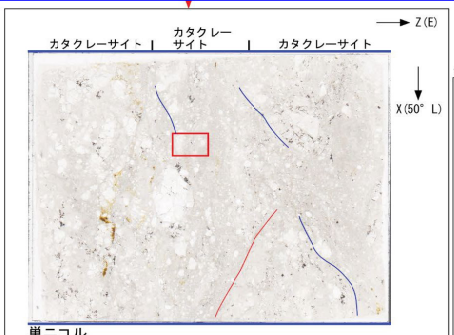
最新活動面



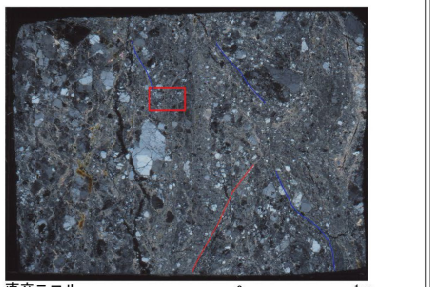
単ニコル



直交ニコル

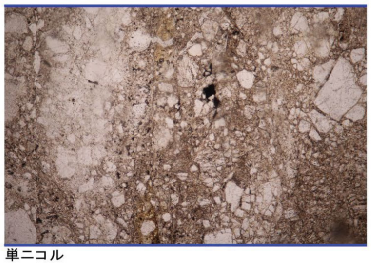


単ニコル

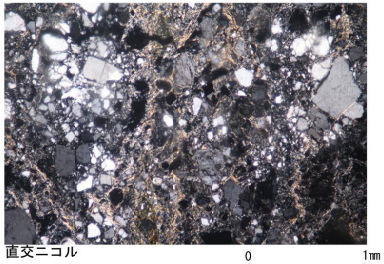


直交ニコル

赤枠内の拡大

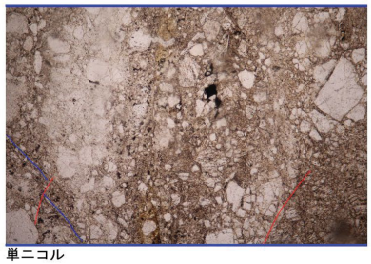


単ニコル

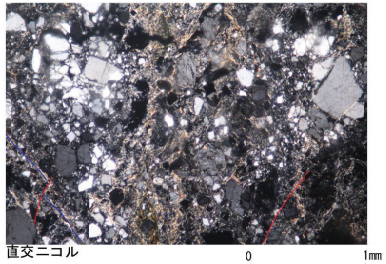


直交ニコル

赤枠内の拡大



単ニコル



直交ニコル

凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-2　深度35.92～35.95m　(2/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2，3)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2，3)
- 角ばった岩片が多い。(図2，3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)

図1

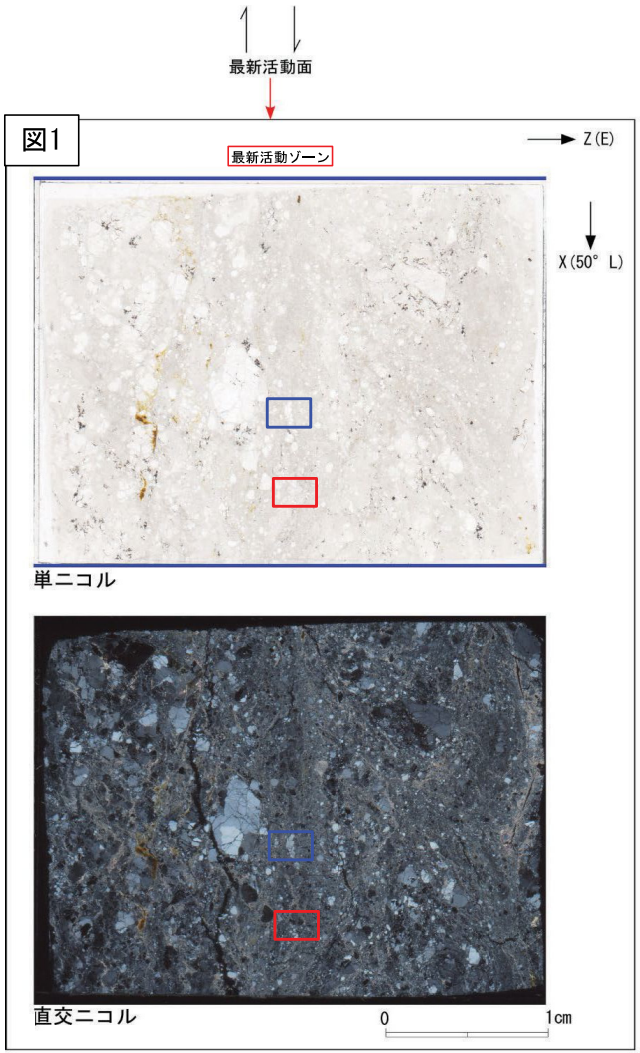


図2

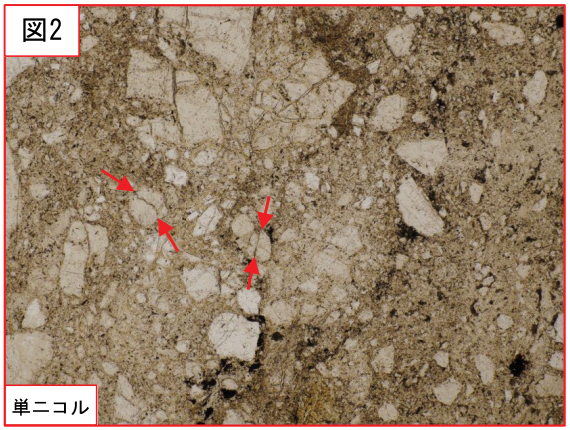
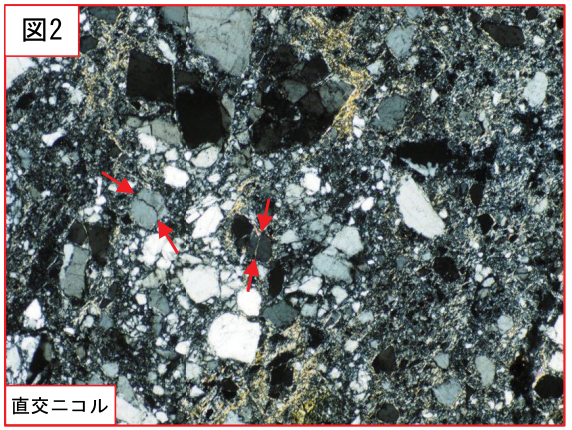


図2



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

図3

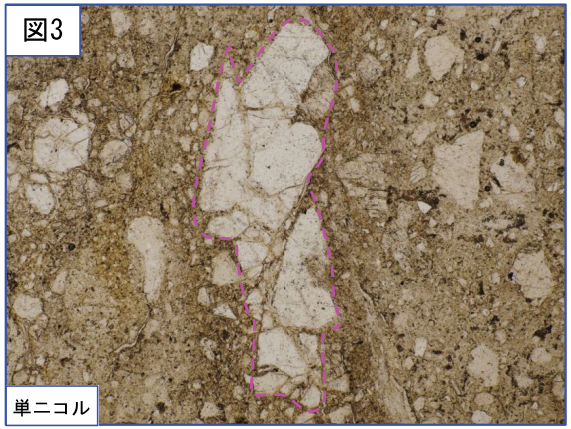
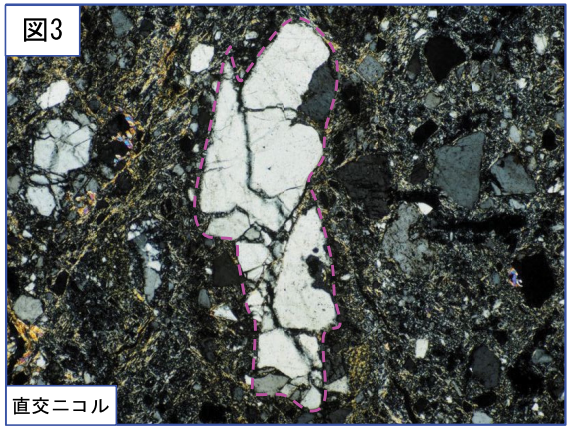


図3

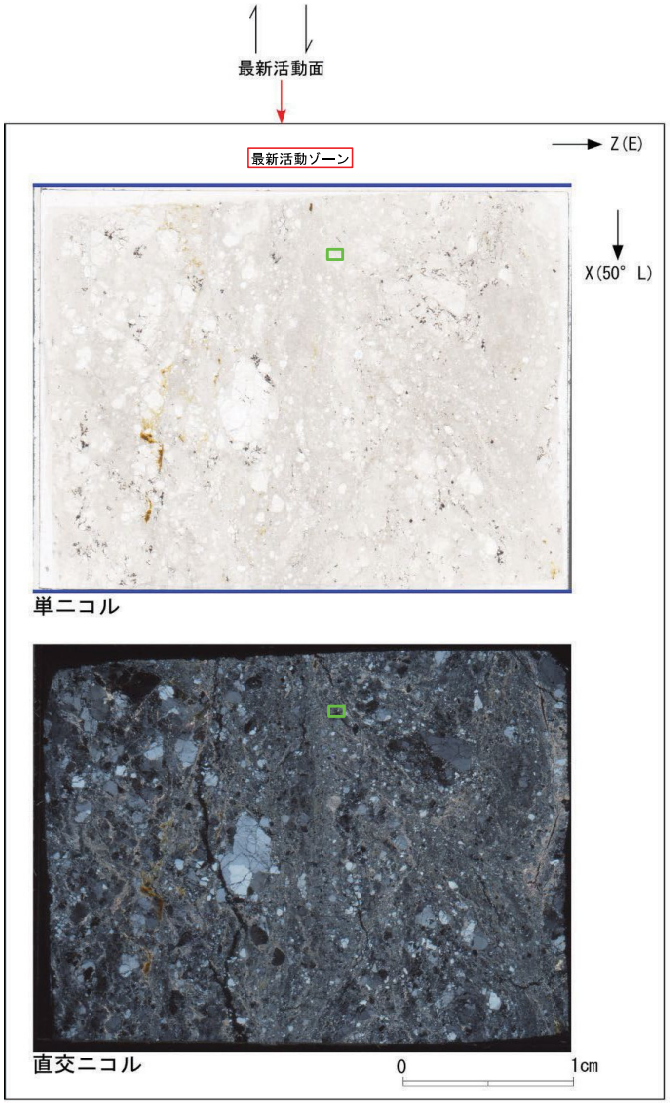


凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト

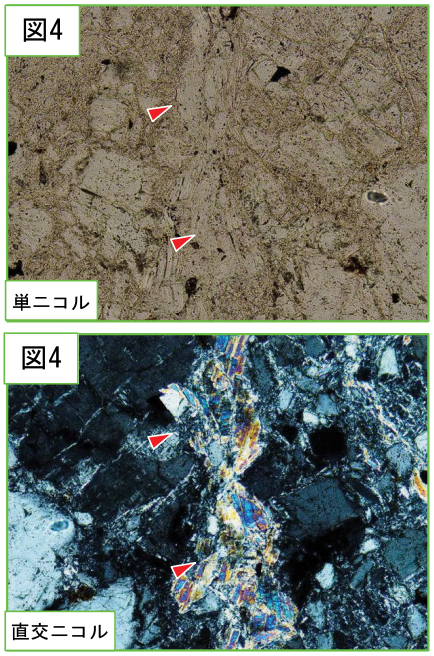
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

H27-B-2　深度35.92～35.95m　(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)

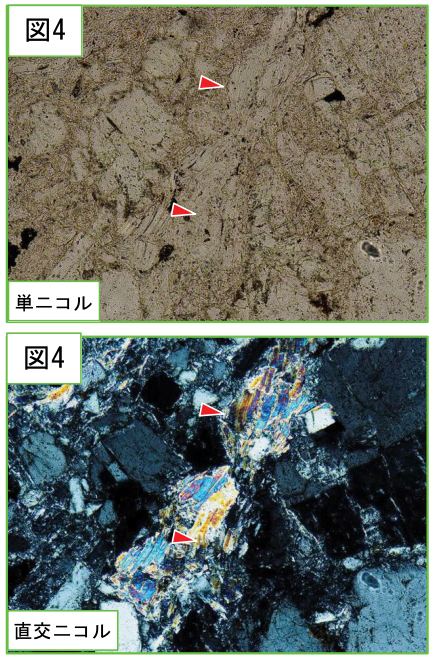


凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



赤矢印は屈曲箇所を示す。　50 μm

ステージを反時計回りに
約25度回転



赤矢印は屈曲箇所を示す。　50 μm

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H27-B-2　深度48.08～48.12m）

63のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は0.1cmである。

コア写真

48



49

凡例

断層ガウジ　←→ 破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載



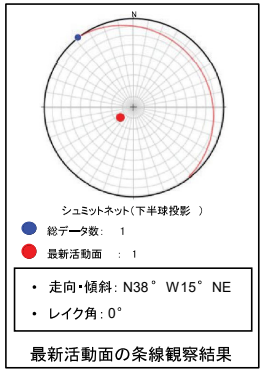
青枠部拡大

0　5 cm

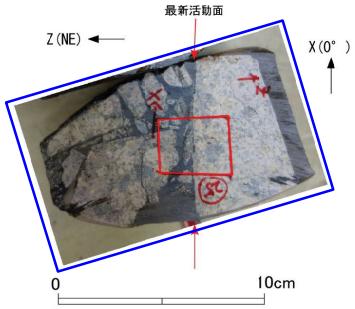
H27-B-2　深度48.08～48.12m　(1/3)

青枠：修正箇所　64のエビデンス（薄片観察結果）　(1/3)

- H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度48.12m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
- 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
  - （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - （カタクレーサイト）最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
  - （カタクレーサイト）岩片の粒径は漸移的に変化する。
  - （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。

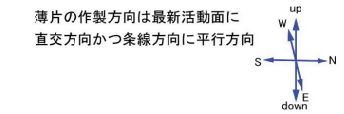


最新活動面の条線観察結果



※切断面に記載されているZ方向は誤り

ブロックサンプル



走向・傾斜 N38° W15° NE

X：条線方向（北向きを正とする）

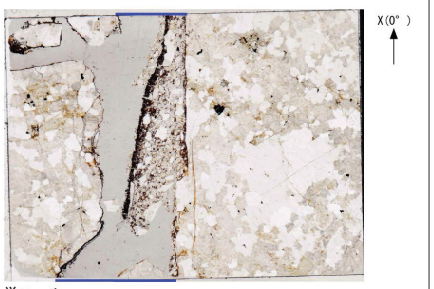
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

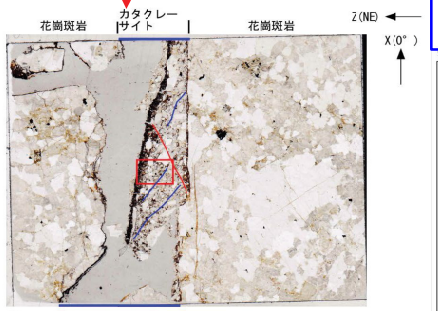
このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが，上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。

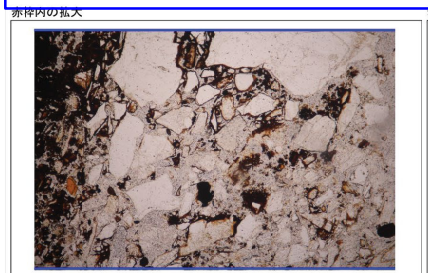
最新活動ゾーン

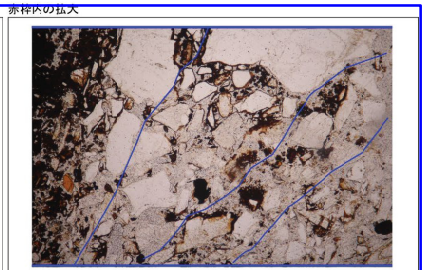
最新活動面

最新活動面







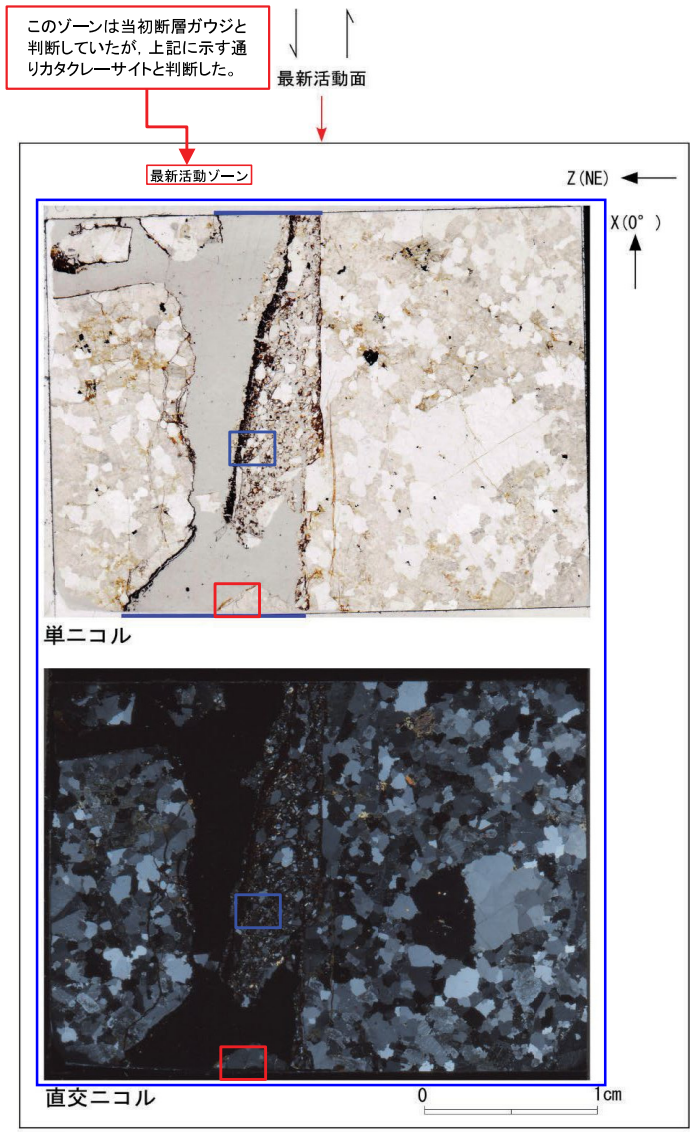


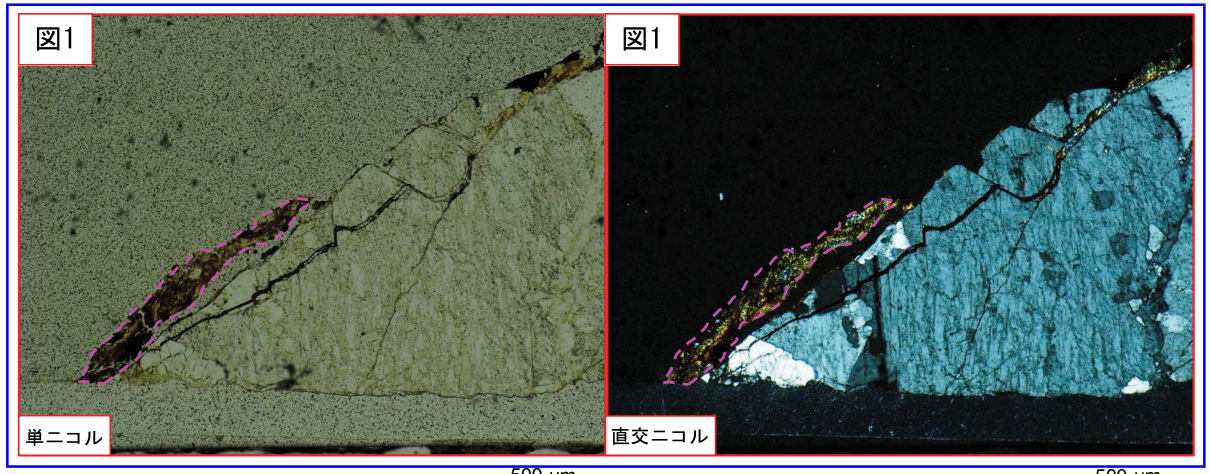
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-2　深度48.08～48.12m　(2/3)

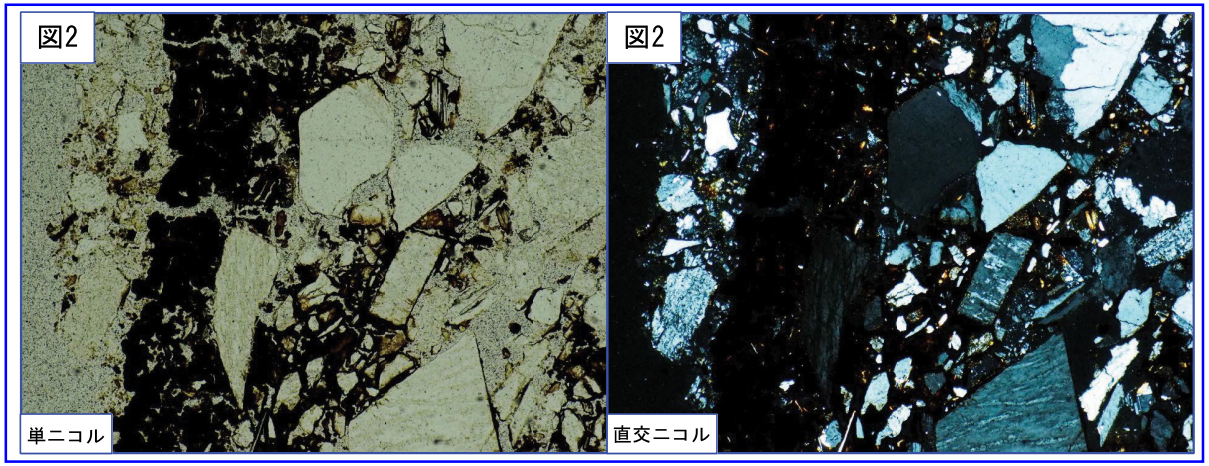
青枠：修正箇所　64のエビデンス（薄片観察結果）　(2/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)





破線は粘土状部の分布範囲を示す。

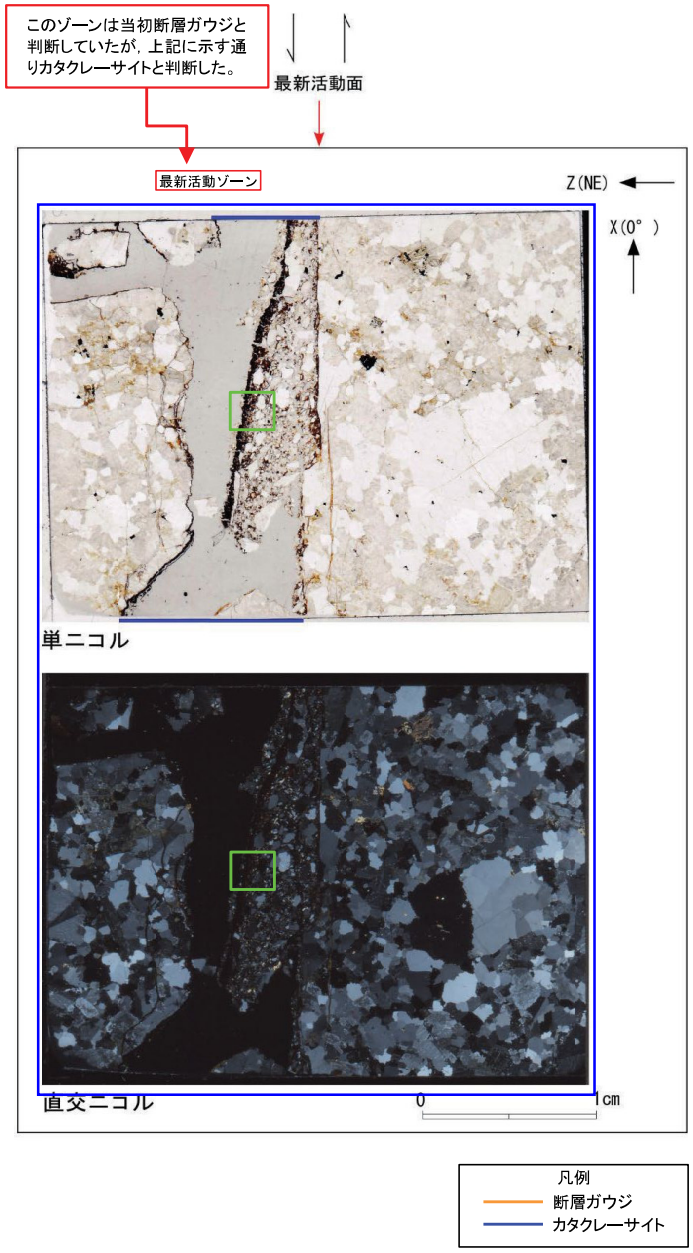


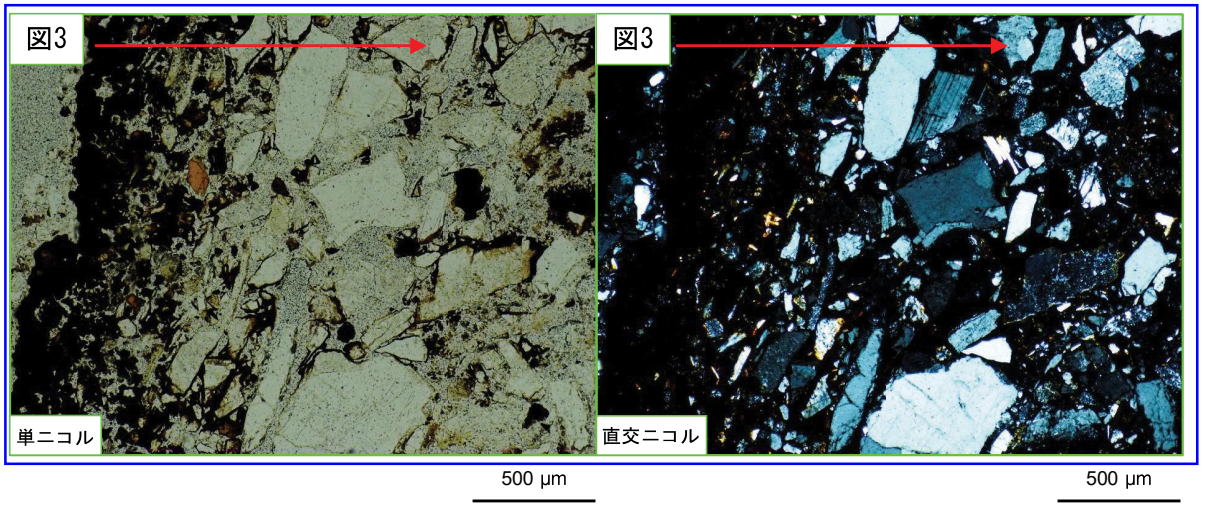
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

H27-B-2　深度48.08～48.12m　(3/3)

青枠：修正箇所　64のエビデンス（薄片観察結果）　(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒径は漸移的に変化する。(図3)





赤矢印：岩片の粒径が漸移的に大きくなる。

赤矢印：岩片の粒径が漸移的に大きくなる。

最新活動面認定根拠（H27-B-2　深度60.26～60.69m）

・波打つが，破砕部範囲内では細粒部を伴い最も直線的であることから，深度60.59mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

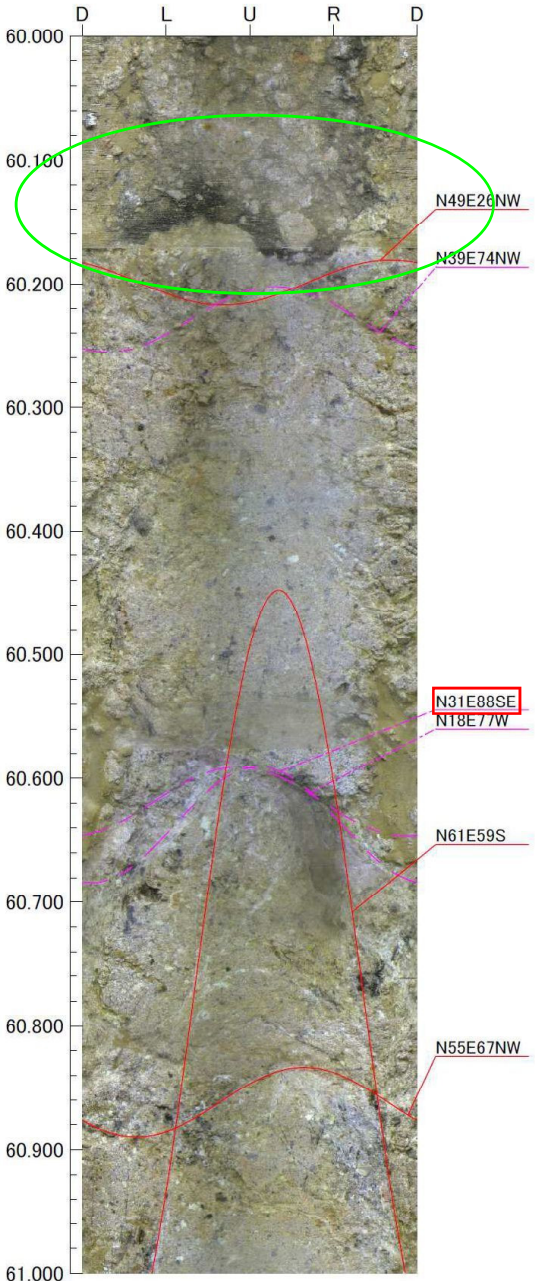




ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-2　深度60.26～60.69m）66のエビデンス（走向・傾斜）

・H27-B-2　深度60.26～60.69mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN31°E88°SEである。

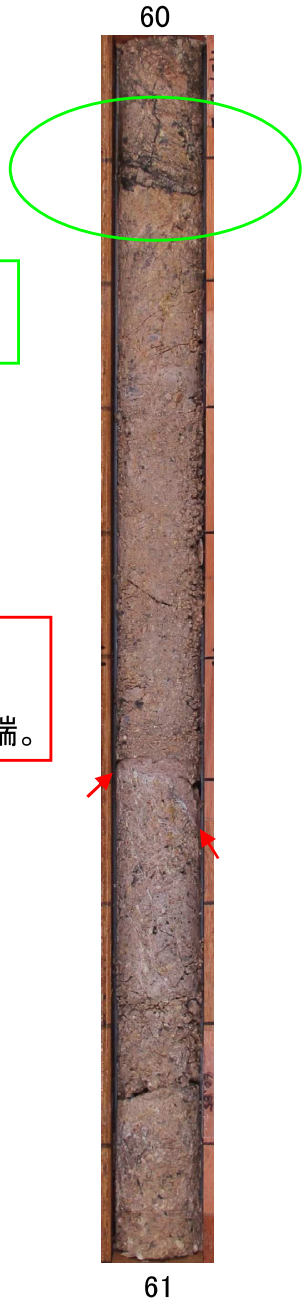
BHTV展開画像



・マーカー
マンガン汚染部

・最新活動面
60.59m付近の
明褐灰色部の下端。

コア写真



凡例
最新活動面

条線観察結果(H27-B-2孔　深度60.59m)

H27-B-2孔　深度60.59mの断層面の走向・傾斜はN31°E88°SEであり，75Lの条線が認められる。

コア写真

60

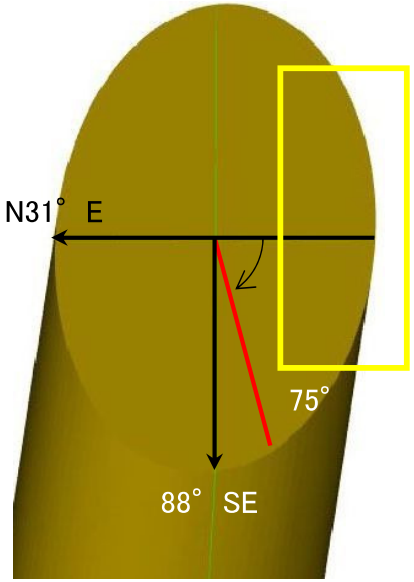


61

凡例
条線観察位置　破砕部範囲※　最新活動面
※:写真上は白色で記載

観察模式図

※下盤側から観察



凡 例
最新活動面　レイク

条線観察位置拡大



赤枠内拡大

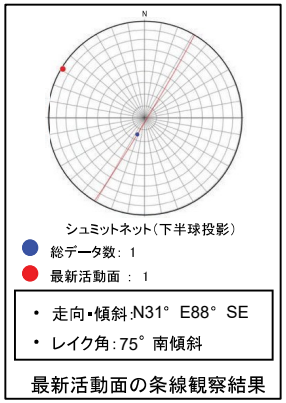


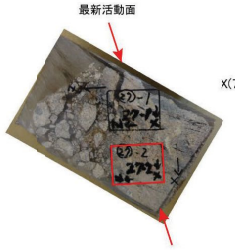
凡 例
条線方向

H27-B-2　深度60.26～60.69m　（1/3）

青枠：変位センスに関する部分

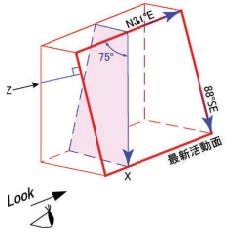
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度60.59m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。
- （カタクレーサイト）塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。





薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

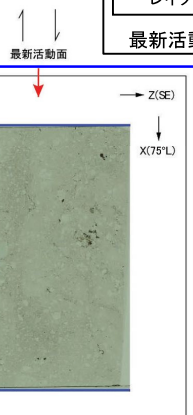


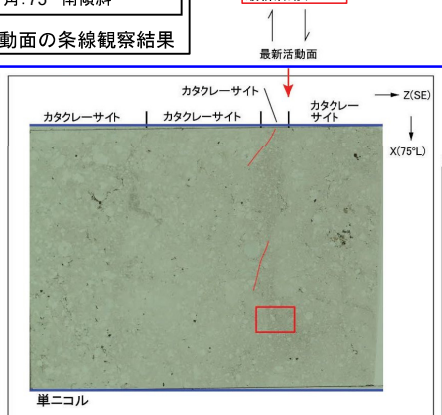


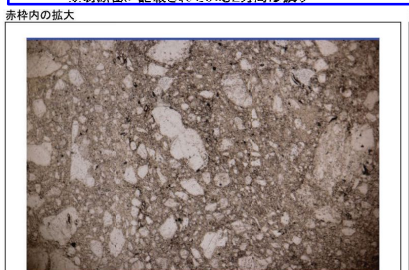
走向・傾斜　N31°E 88°SE
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

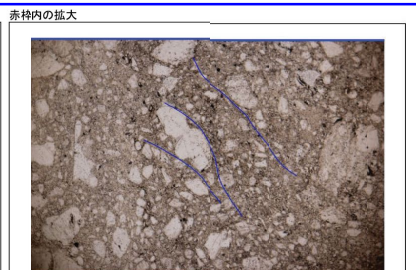


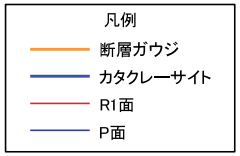
ブロックサンプル
※切断面に記載されているZ方向は誤り





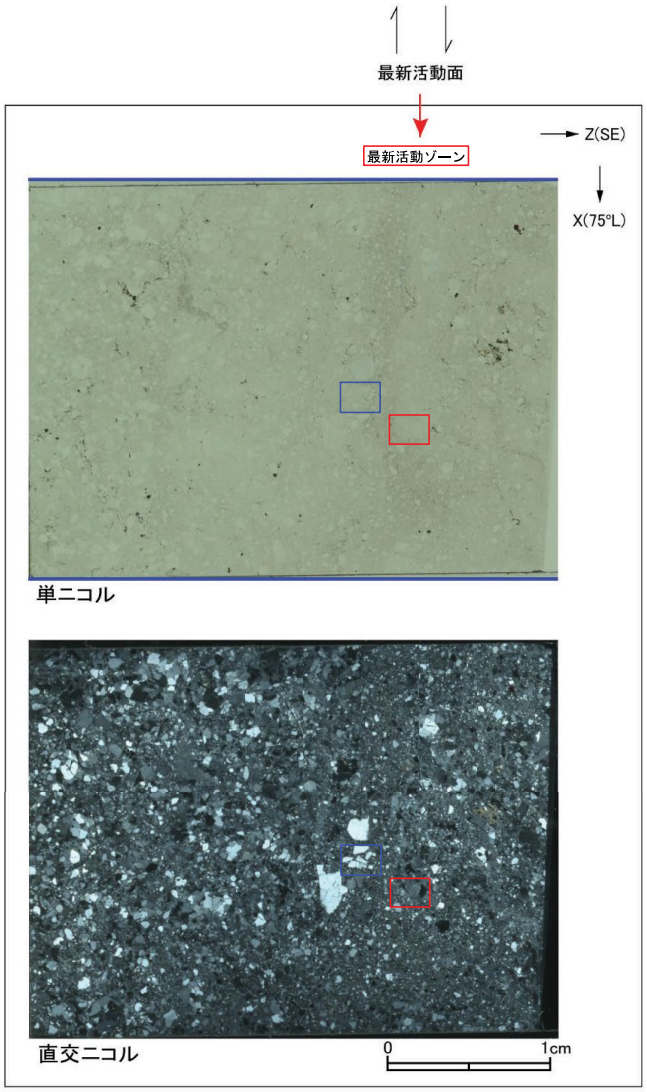


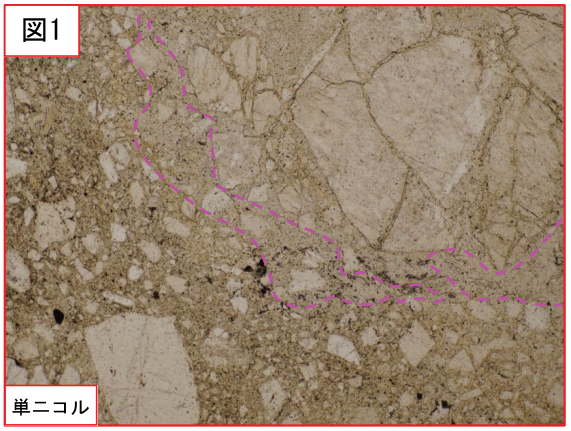




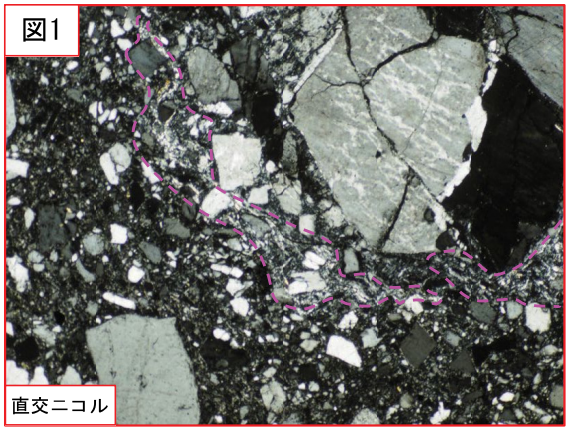
H27-B-2　深度60.26～60.69m　(2/3)

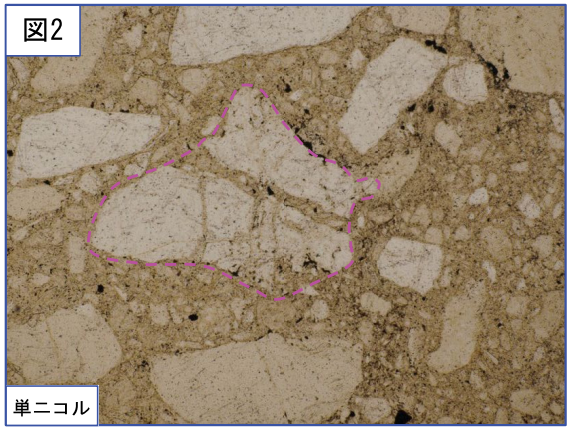
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。（図1）
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。（図1）
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。（図2）
- 角ばった岩片が多い。（図2）
- ジグソー状の角礫群が認められる。（図2）



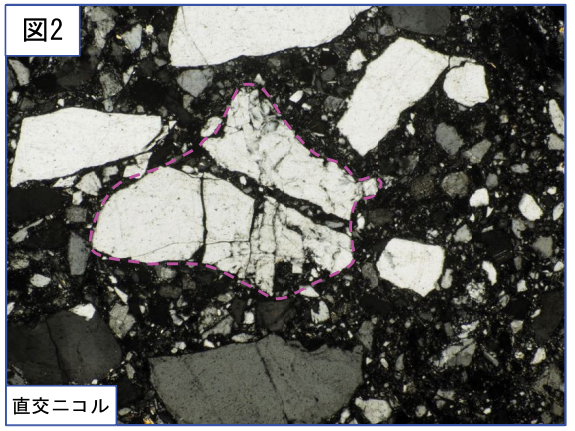


破線は粘土状部の分布範囲を示す。



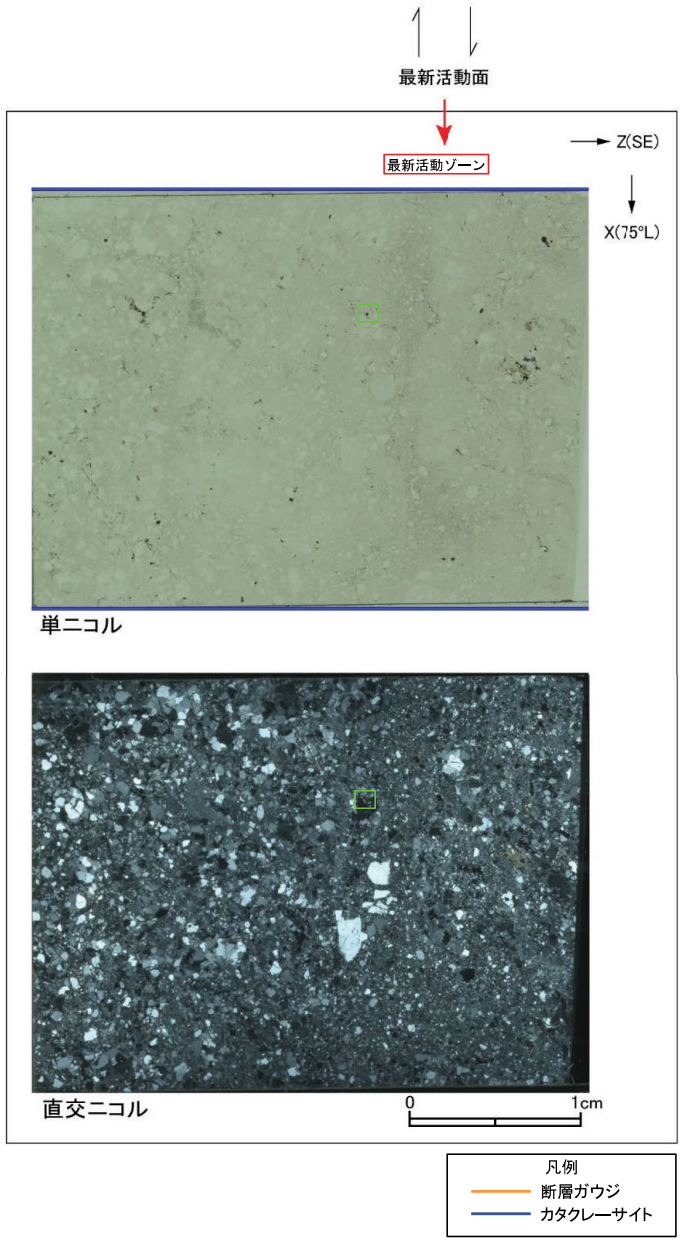


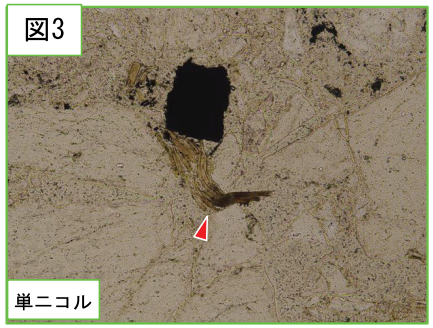
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

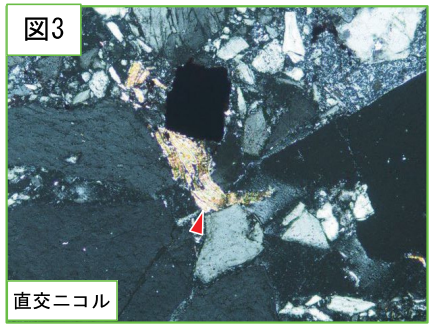


H27-B-2　深度60.26～60.69m　(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)

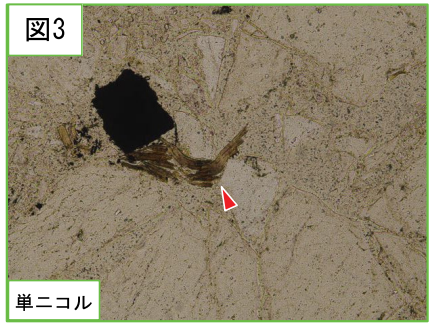


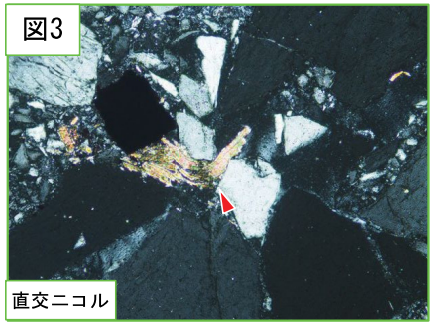




赤矢印は屈曲箇所を示す。　200 μm

ステージを反時計回りに
約45度回転

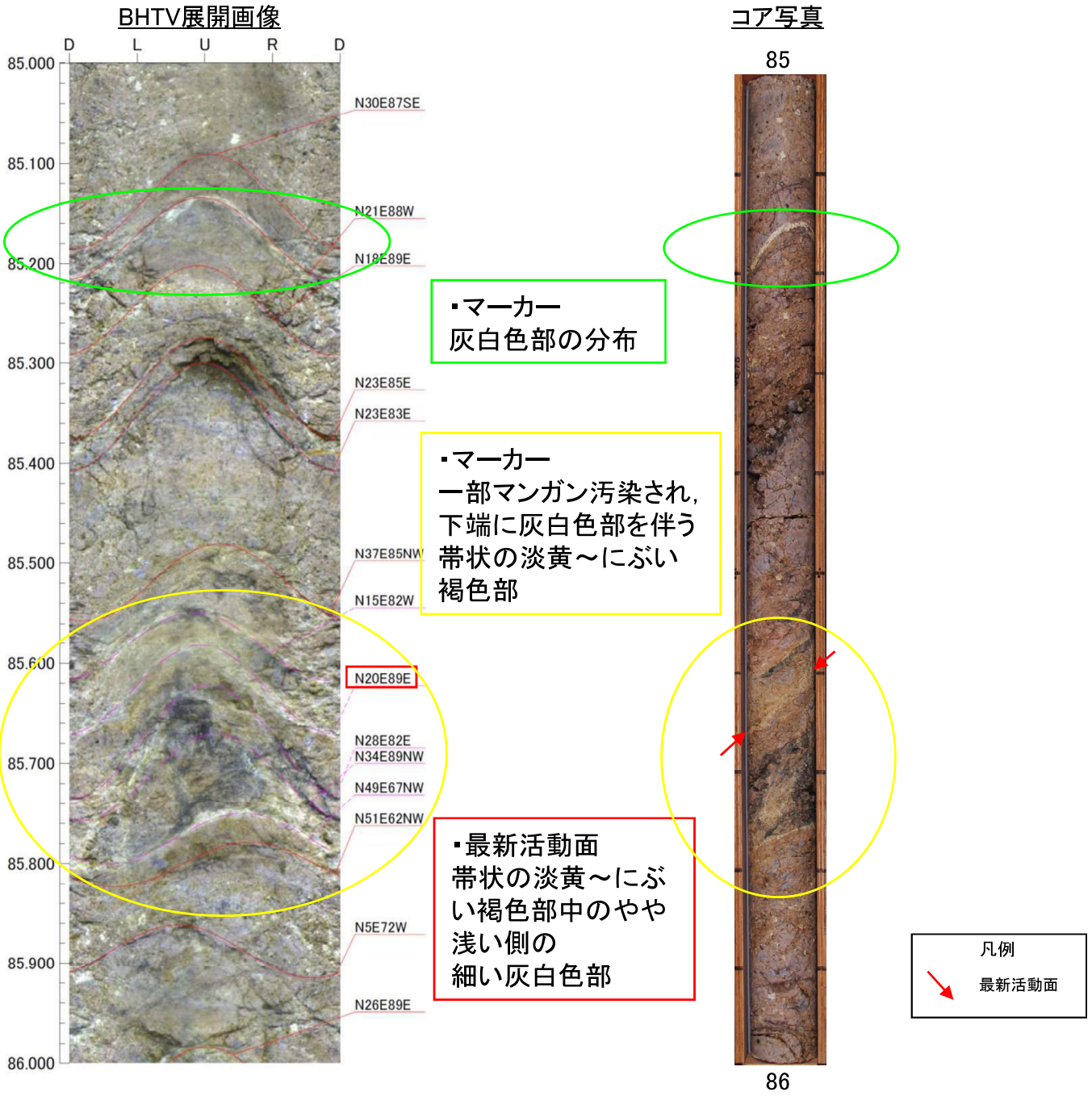




赤矢印は屈曲箇所を示す。　200 μm

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-2　深度85.58～85.76m）69のエビデンス（走向・傾斜）

・H27-B-2　深度85.58～85.76mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN20°E89°Eである。



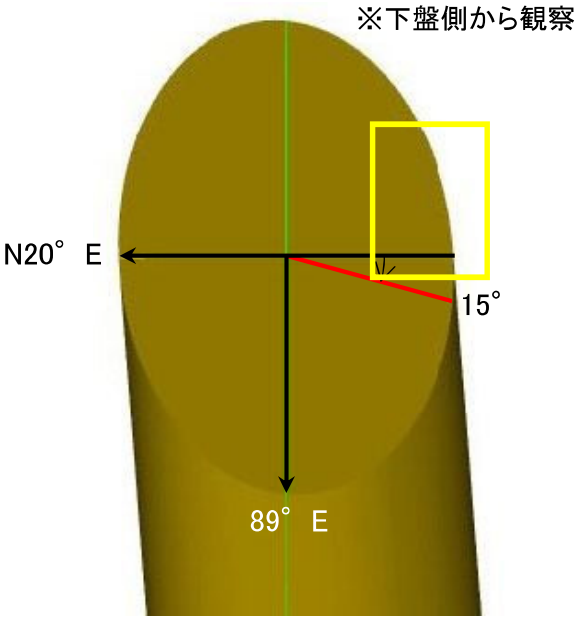
条線観察結果(H27-B-2孔　深度85.63m)

H27-B-2孔　深度85.63mの断層面の走向・傾斜はN20°E89°Eであり，15Lの条線が認められる。

コア写真



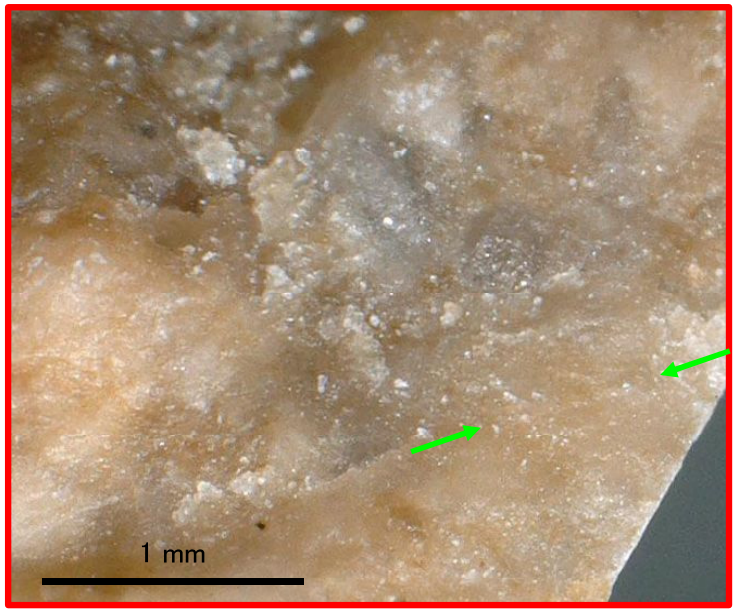
観察模式図



条線観察位置拡大



赤枠内拡大

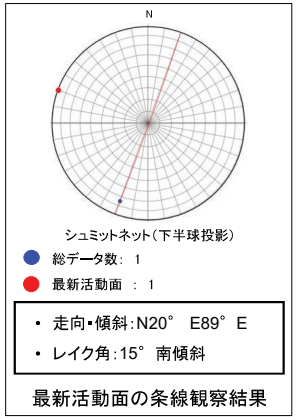


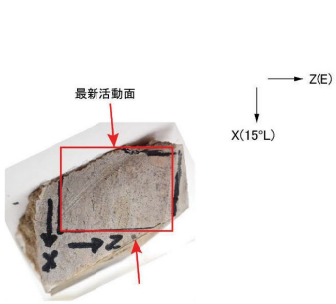
H27-B-2　深度85.58～85.76m　（1/2）

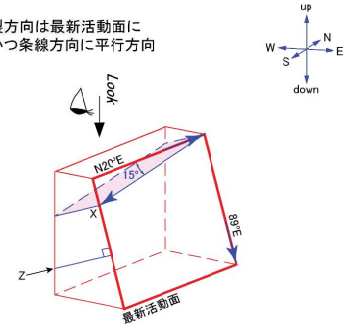
青枠：変位センスに関する部分

71のエビデンス（変位センス）（1/2）

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度85.63m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。



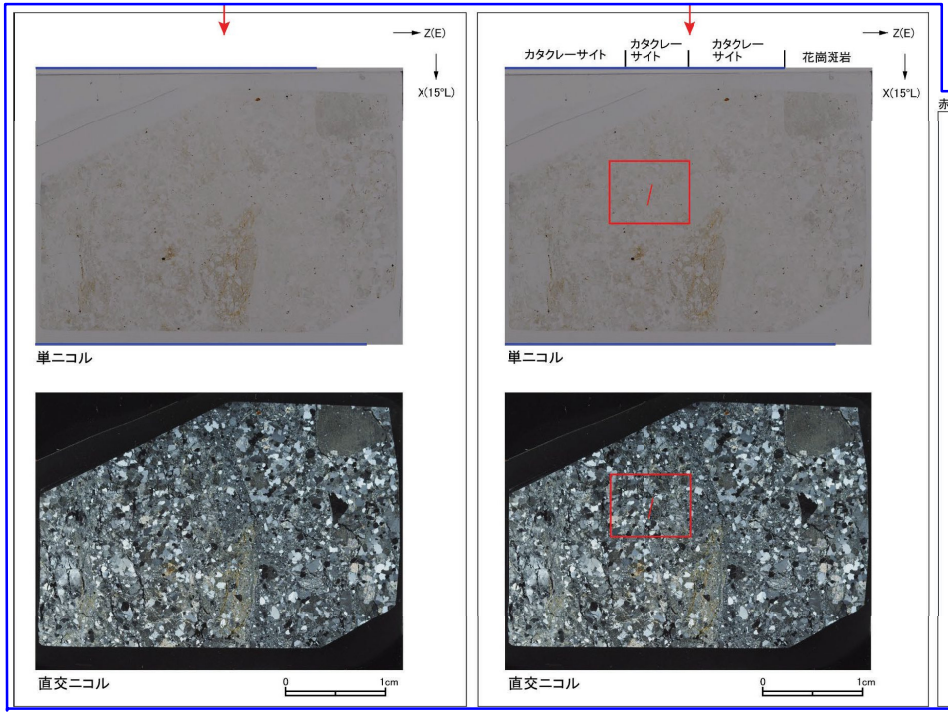


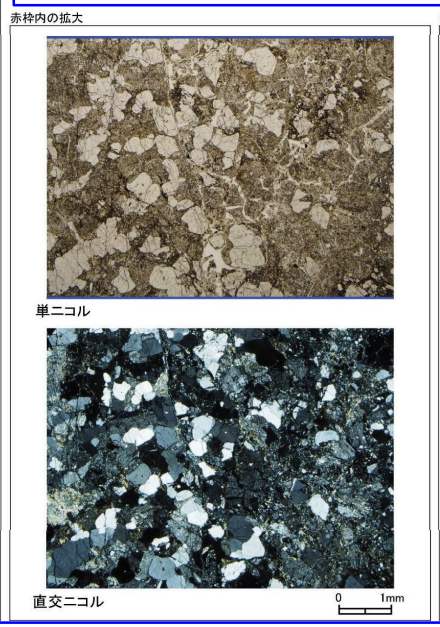


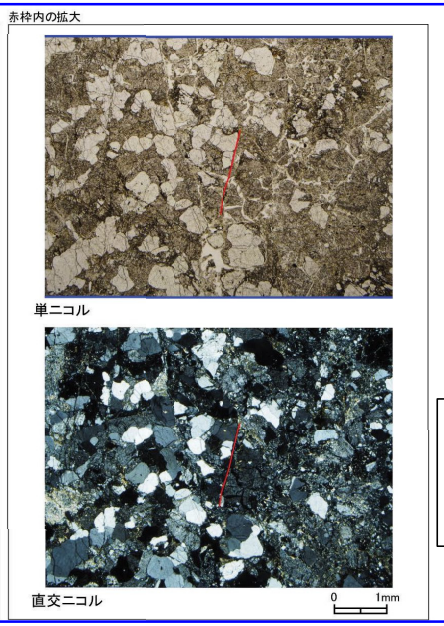


走向・傾斜　N20°E 89°E
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

最新活動面　最新活動面



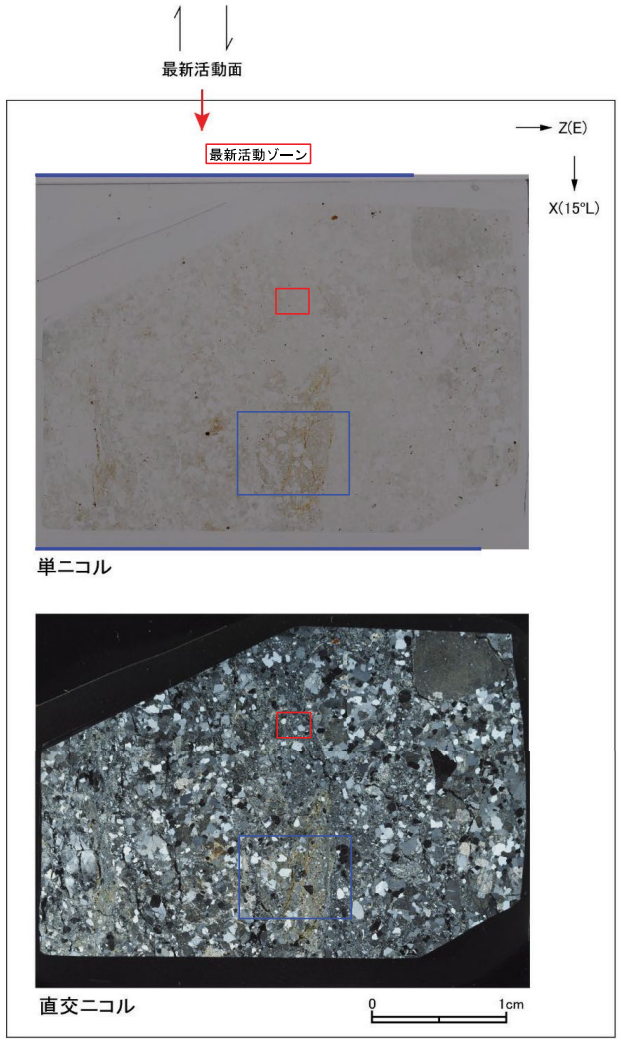




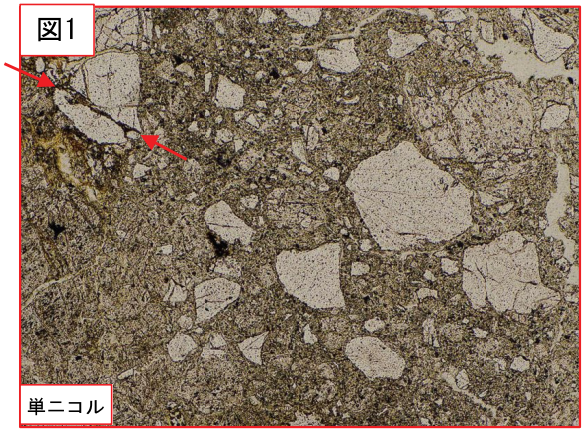
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-2　深度85.58～85.76m　（2/2）

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。（図1）
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。（図2）
- 角ばった岩片が多い。（図1）
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。（図1）
- ジグソー状の角礫群が認められる。（図2）

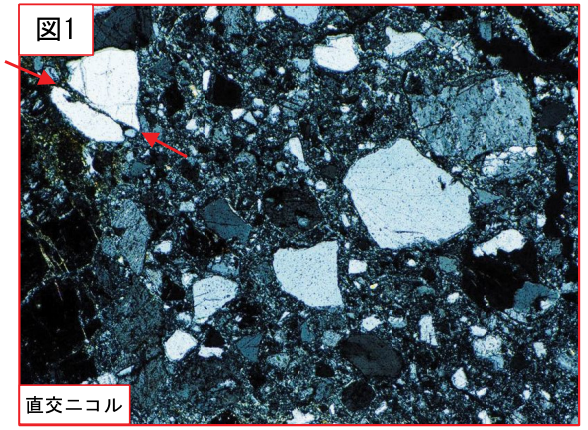


凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

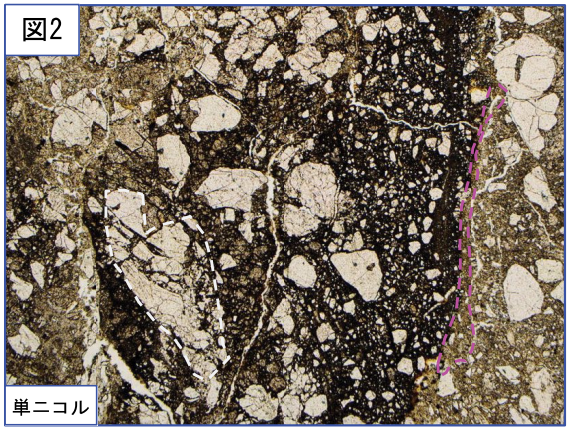


500 μm

赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

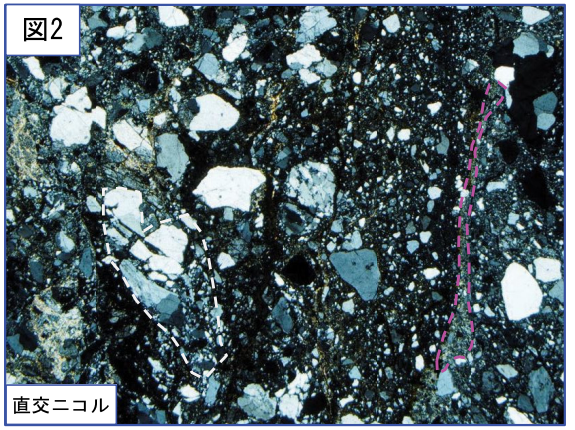


500 μm



1 mm

白破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。
桃破線は粘土状部の分布範囲を示す。

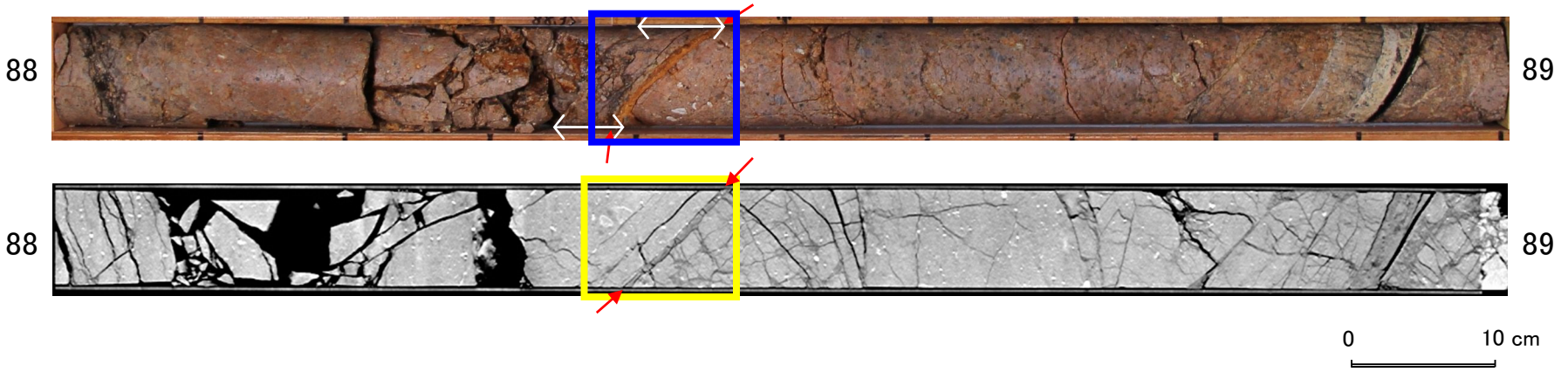


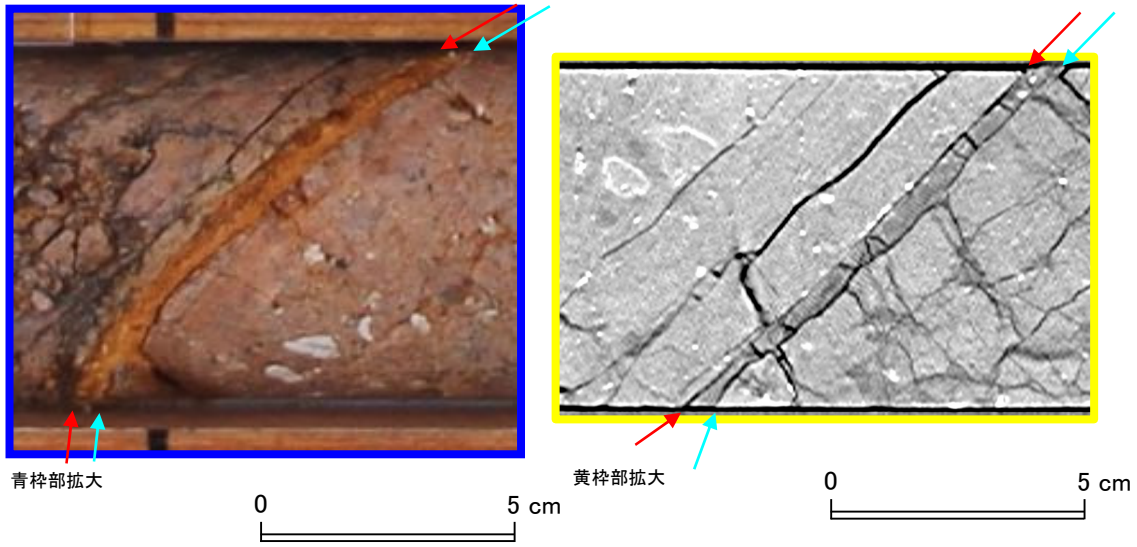
1 mm

最新活動面認定根拠(H27-B-2　深度88.38～88.43m)

・肉眼観察では，最新活動面が深度88.42mか深度88.43mかを判断できないため，CT画像を利用した。
・CT画像では，より直線的であることから，深度88.42mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真





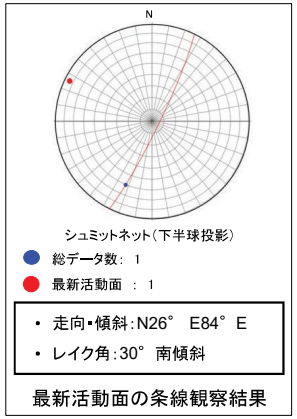
凡例
破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面

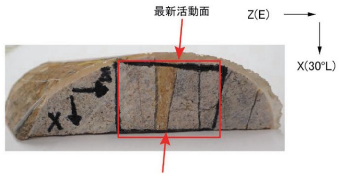
凡例
最新活動面
最新活動面の候補とした面

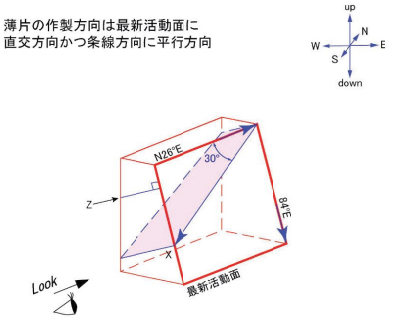
H27-B-2　深度88.38～88.43m　(1/3)

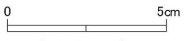
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度88.42m）の変位センスは，右ずれを伴う正断層である。
最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- （断層ガウジ）せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



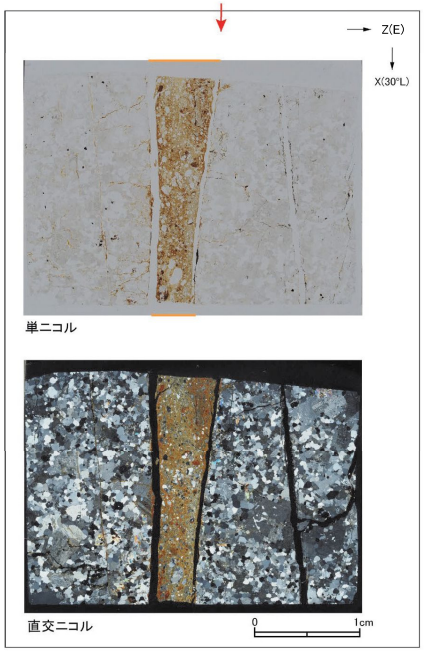


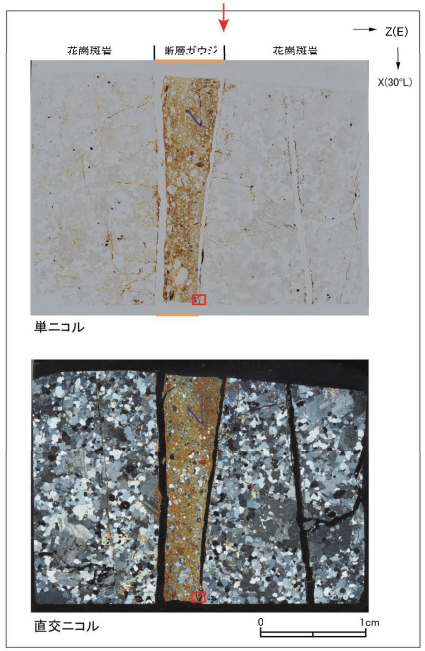


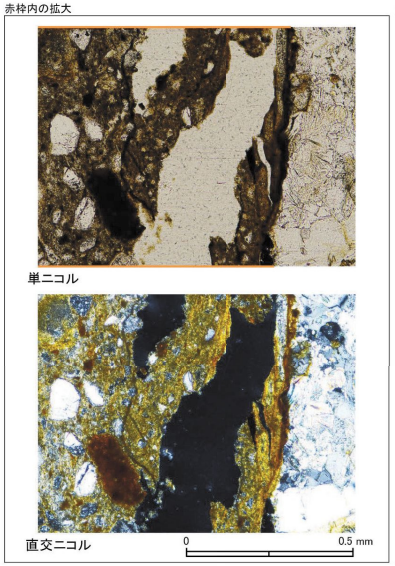


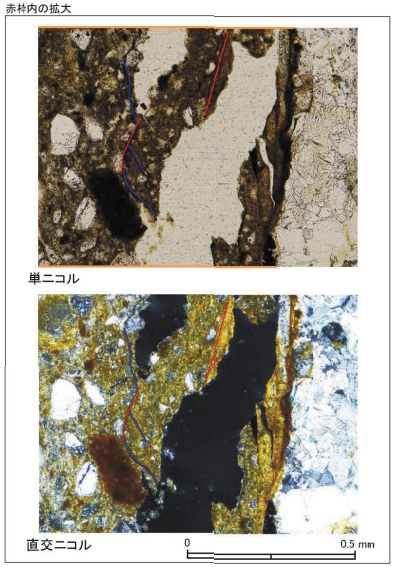
ブロックサンプル

走向・傾斜　N26°E 84°E
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）







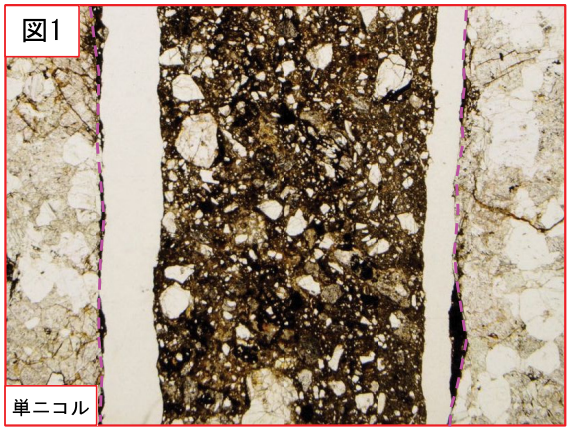


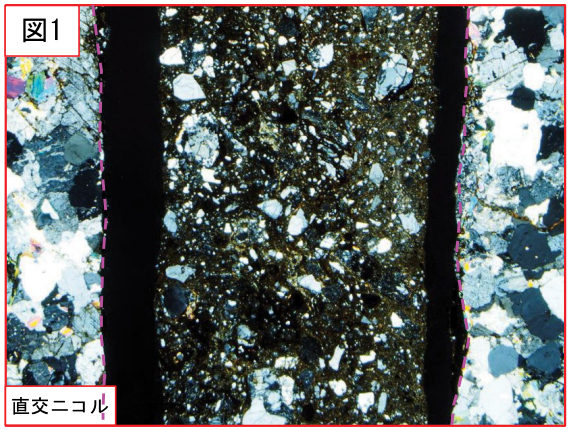
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-2　深度88.38～88.43m　(2/3)

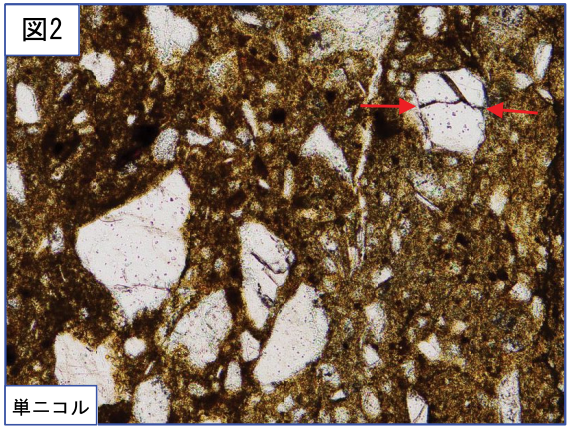
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)

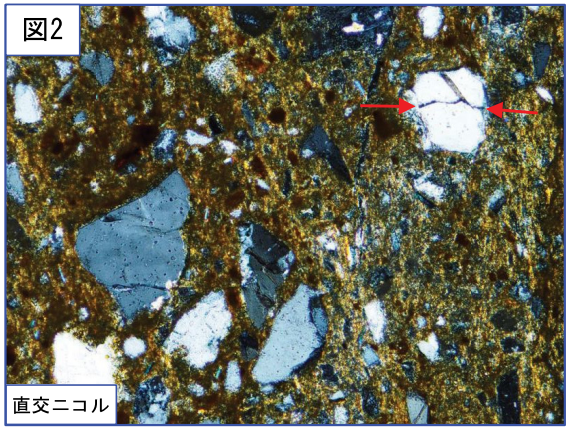






破線は粘土状部の分布範囲を示す。



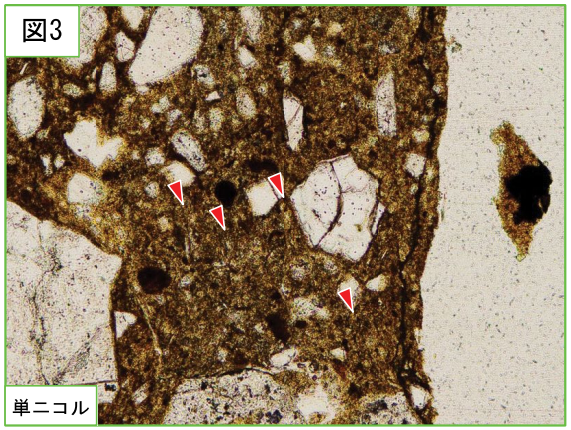


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

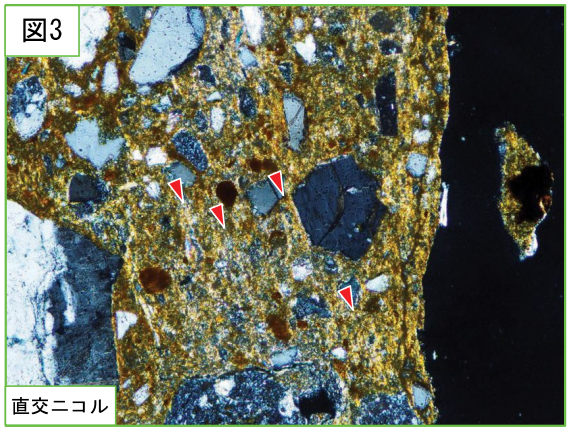
H27-B-2　深度88.38～88.43m　(3/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)





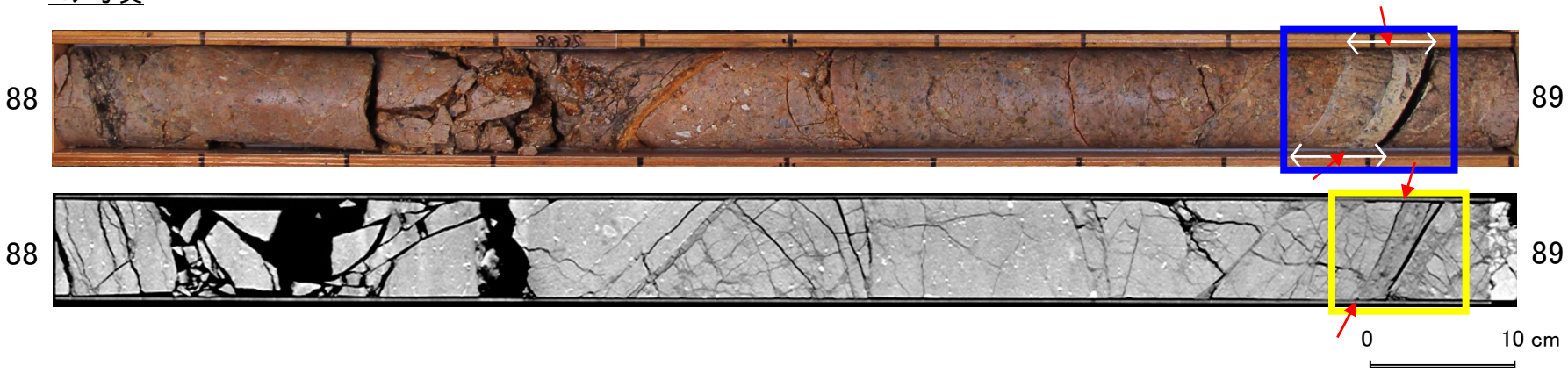
赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

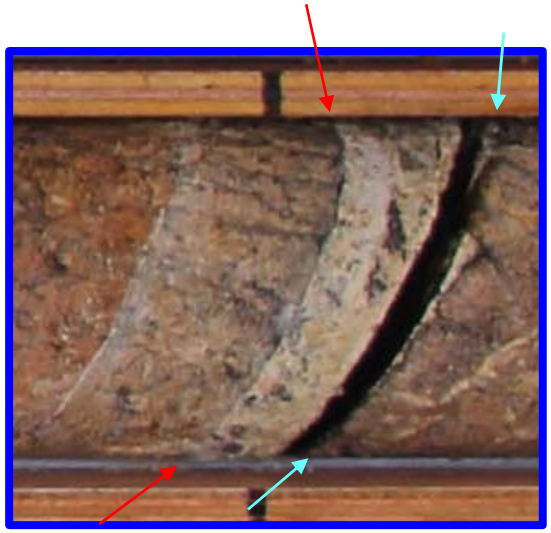


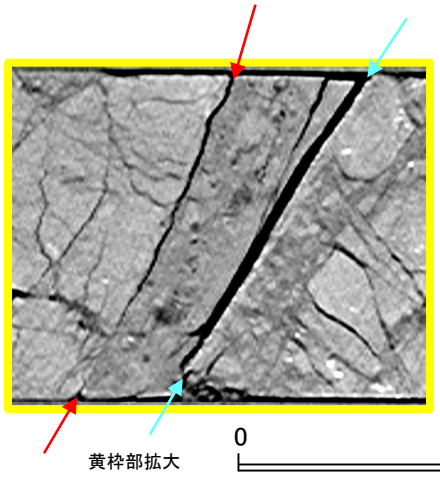
最新活動面認定根拠（H27-B-2　深度88.88～88.94m）

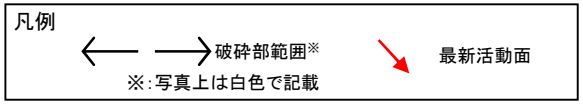
・肉眼観察では，最新活動面が深度88.92mか深度88.94mかを判断できないため，CT画像を利用した。
・CT画像では，どちらも直線的であるが，より密度低下しており細粒化していると考えられることから，深度88.92mのせん断面を最新活動面に認定した。

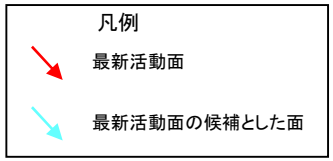
コア写真







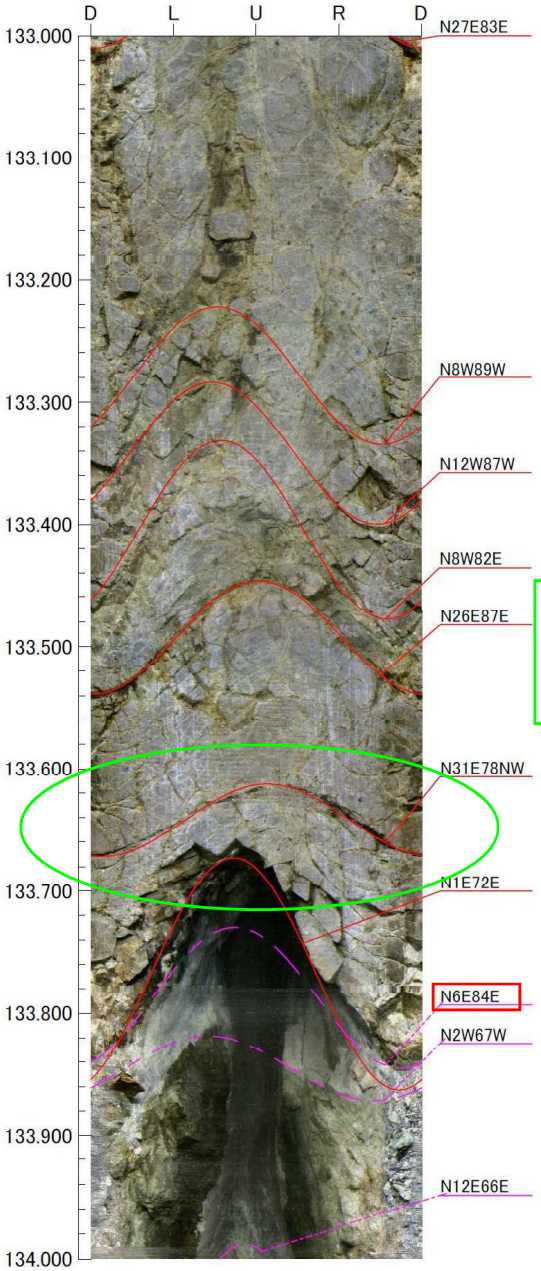




ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-2　深度133.75～133.92m）77のエビデンス（走向・傾斜）

・H27-B-2　深度133.75～133.92mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN6°E84°Eである。

BHTV展開画像



・マーカー
他深度より低角度な
割れ目

・最新活動面
明緑灰色細粒部
の上端

コア写真



凡例
最新活動面

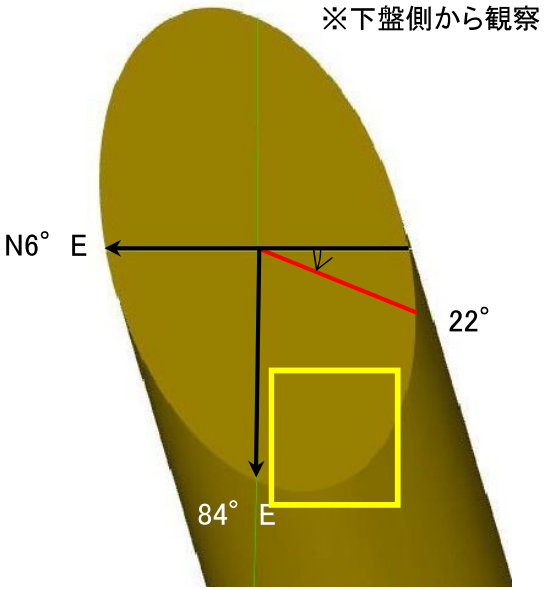
条線観察結果（H27-B-2孔 深度133.75m）

H27-B-2孔 深度133.75mの断層面の走向・傾斜はN6° E84° Eであり，22Lの条線が認められる。

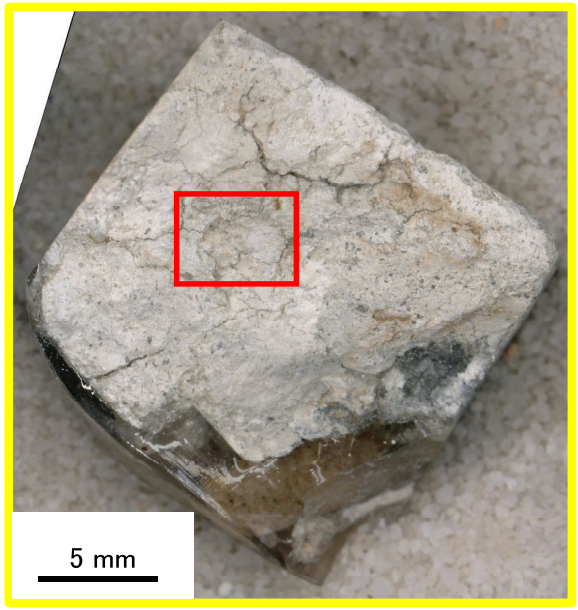
コア写真



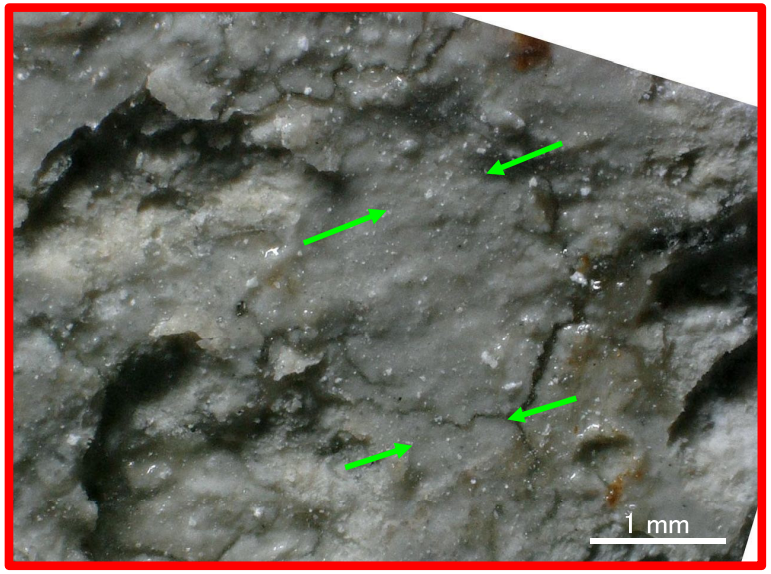
観察模式図



条線観察位置拡大

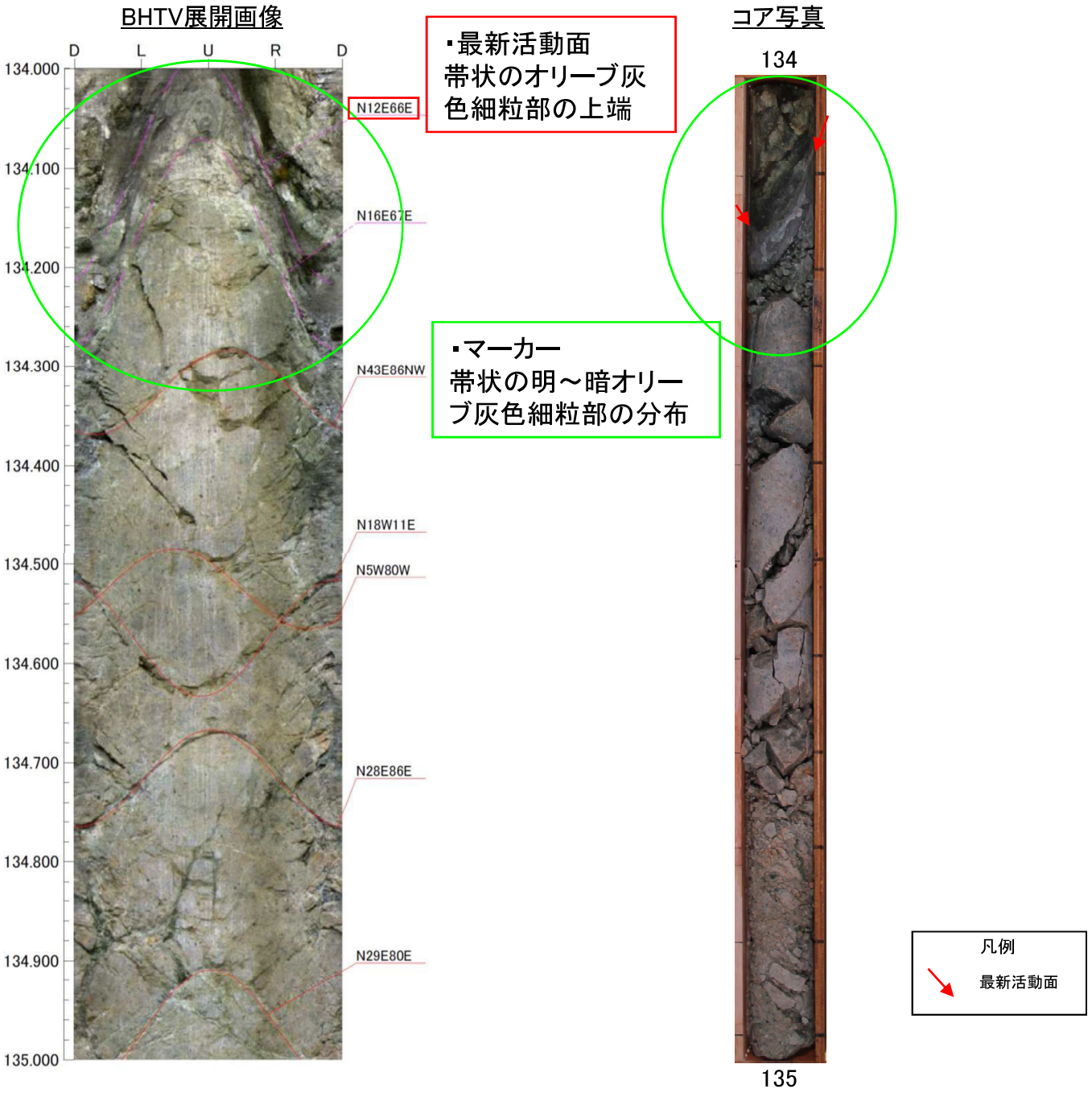


赤枠内拡大



ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-2　深度134.15～134.23m）79のエビデンス（走向・傾斜）

・H27-B-2　深度134.15～134.23mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN12°E 66°Eである。



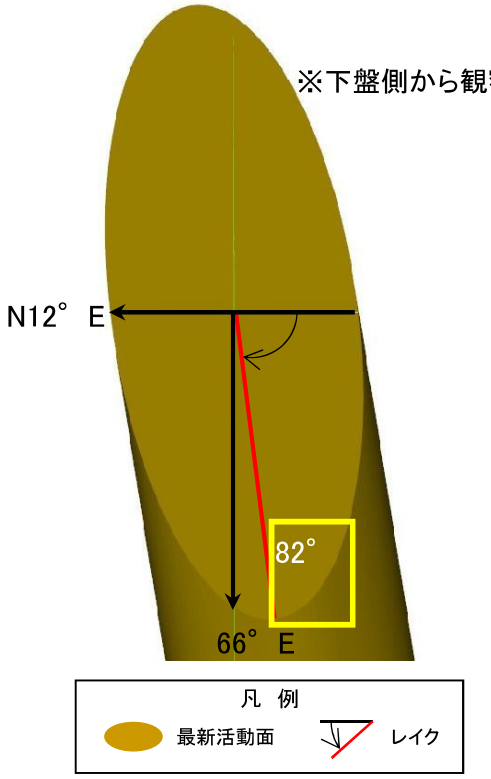
条線観察結果(H27-B-2孔 深度134.15m)

H27-B-2孔 深度134.15mの断層面の走向・傾斜はN12° E 66° Eであり，82Lの条線が認められる。

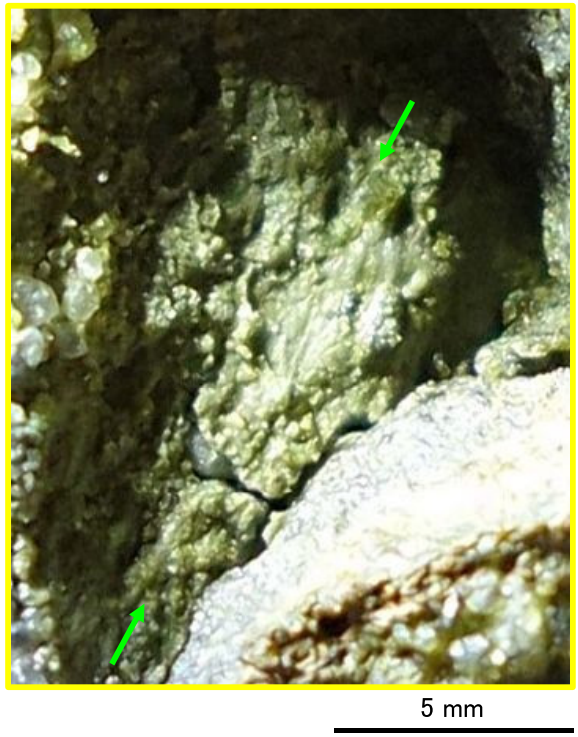
コア写真



観察模式図



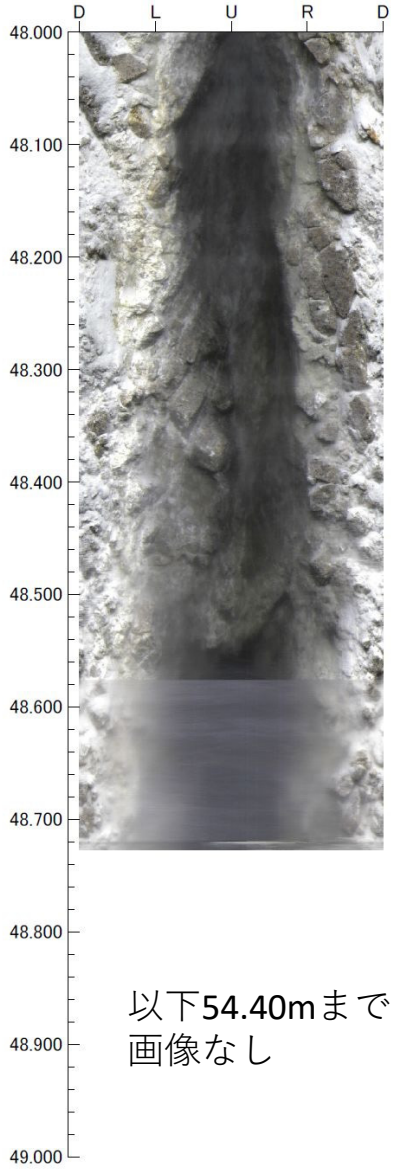
条線観察位置拡大



ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H24-B14-2　深度49.24～49.55m）

・H24-B14-2　深度49.24～49.55mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜は，孔壁の崩壊で画像が撮影できなかったことから測定できなかった。

BHTV展開画像



以下54.40mまで
画像なし

コア写真



H24-B14-2孔 49.26mの破砕部(最新活動面)の走向傾斜について



1．当該破砕部については，BHTV撮影前に孔壁が崩壊しBHTV画像が取得できなかったことから，2．に示す方法によって，当該破砕部の最新活動面における走向・傾斜を取得した。

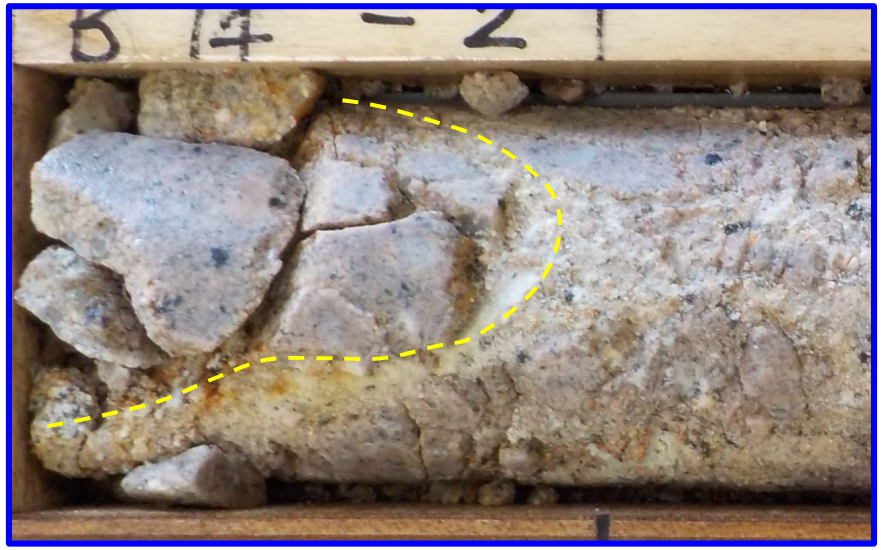
2．走向・傾斜の取得方法
走向・傾斜が既知の破砕部から当該破砕部の姿勢を再現することによって，当該破砕部の最新活動面の走向・傾斜を取得することとした(コアが端部で回転してる場合は，割れ目などの性状から元の姿勢を再現した)。
なお，走向・傾斜が既知の破砕部は，当該破砕部の約2m上位の破砕部（深度47.40m）とした。

H24-B14-2孔 49.26mの破砕部(最新活動面)の走向傾斜について（深度48mのコア端部の繋がり）



最新活動面（49.26m）



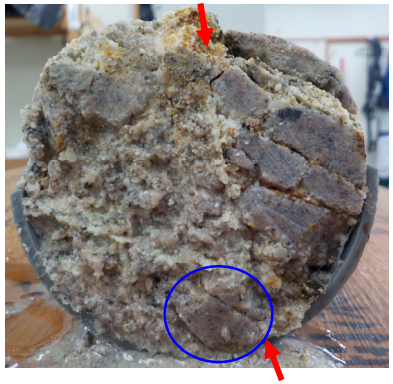


・健岩部と変質部の分布や境界面から，黄色破線部が連続すると考えられる。

H24-B14-2孔 49.26mの破砕部(最新活動面)の走向傾斜について（深度48mのコア端部の繋がり）



(A)



・コアの切り口を対比するため，(B)の画像を61° 回転させた後，左右反転させた(B')。
・(A)と(B')は，割れ目位置(赤矢印)や健岩部の分布(青枠)が対応している。

(B)

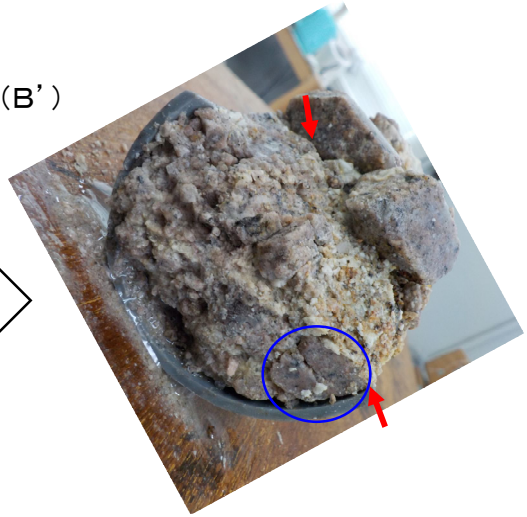


61° 回転



左右反転

(B')



H24-B14-2孔 49.26mの破砕部(最新活動面)の走向傾斜について（深度49mのコア端部の繋がり）



最新活動面（49.26m）





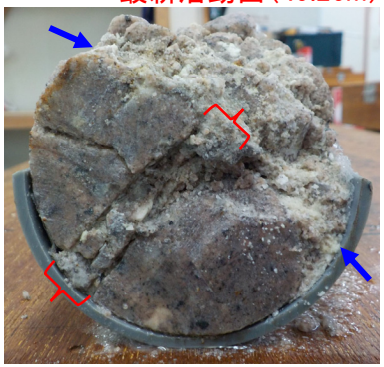
・コアの表面からは，コア同士の対比関係は不明である。

H24-B14-2孔 49.26mの破砕部(最新活動面)の走向傾斜について（深度49mのコア端部の繋がり）



最新活動面(49.26m)

(A)

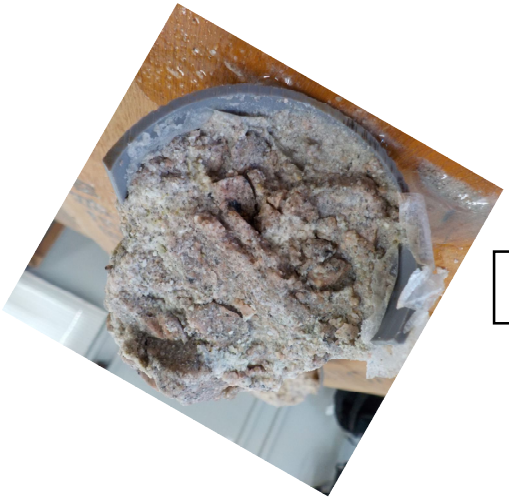


・コアの切り口を対比するため，(B)の画像を150° 回転させた後，左右反転させた(B’)。
・(A)と(B’)は，紙面上左下がりの構造の分布(赤枠)や，これに斜交する構造(青矢印)が対応している。

(B)

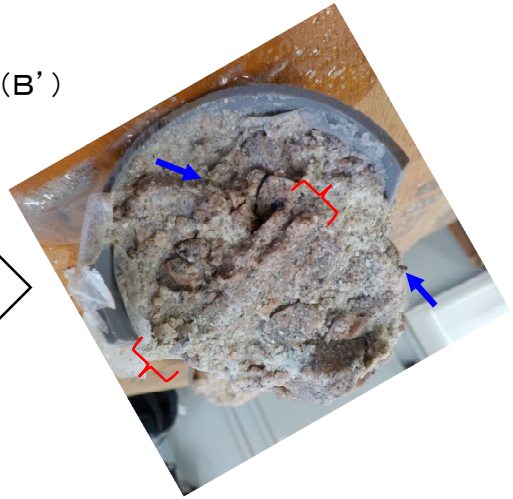


150° 回転

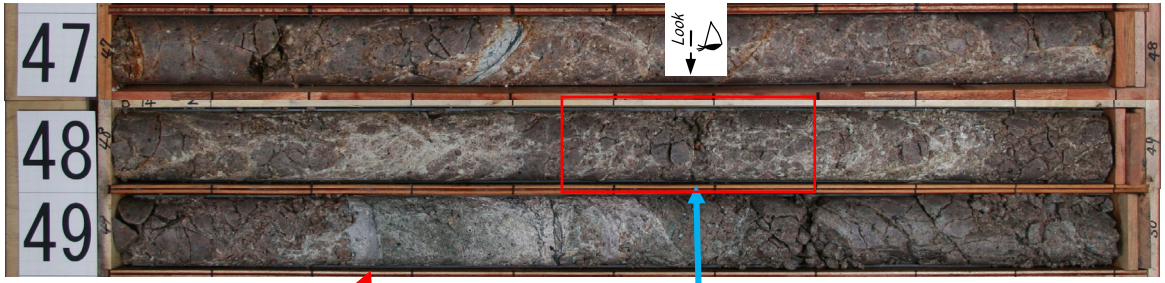


左右反転

(B’)



H24-B14-2孔 49.26mの破砕部(最新活動面)の走向傾斜について（深度48.58mのコア切断部の繋がり）

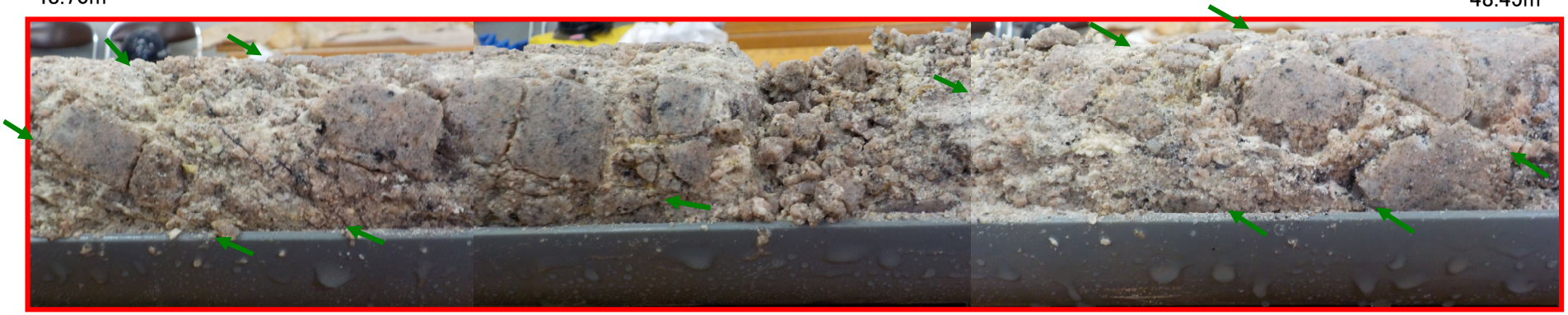


最新活動面（49.26m）

掘削時にコアを切断している（48.58m）

48.70m

48.45m



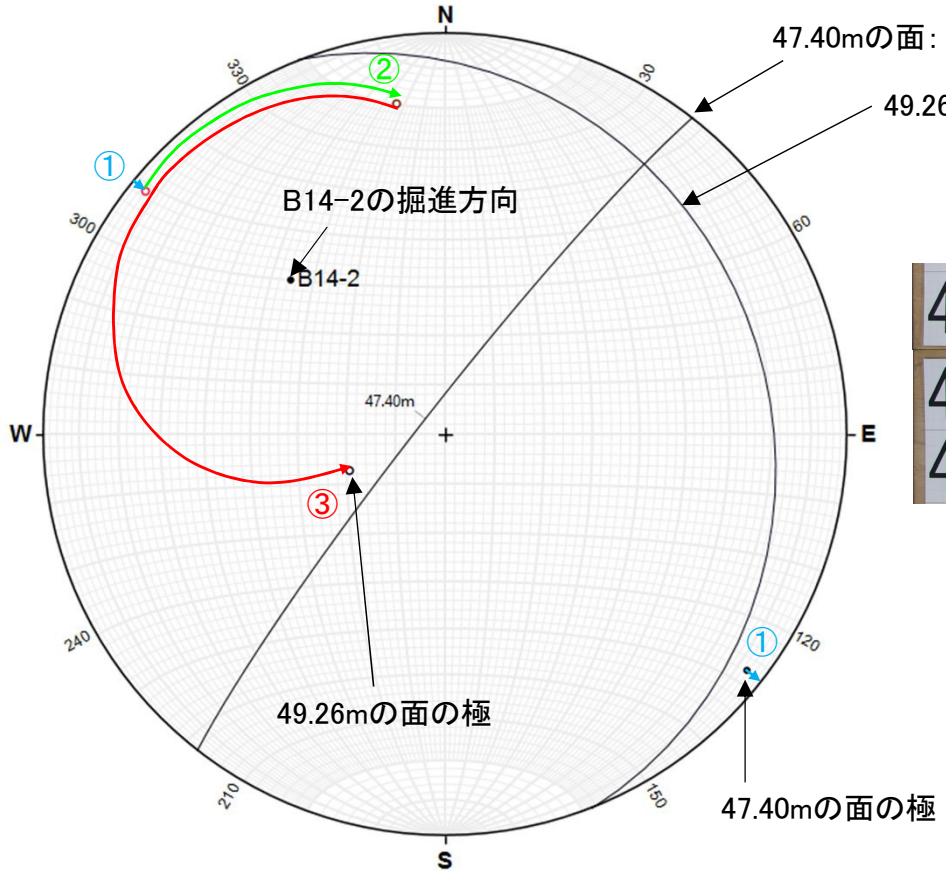
・48.58m付近で，掘削時にコアを切断している。
・48.58m前後のコアでは，紙面上右下がりの構造（緑矢印）が同様に連続していることから，48.58mを境にコアは回転していないと判断した。

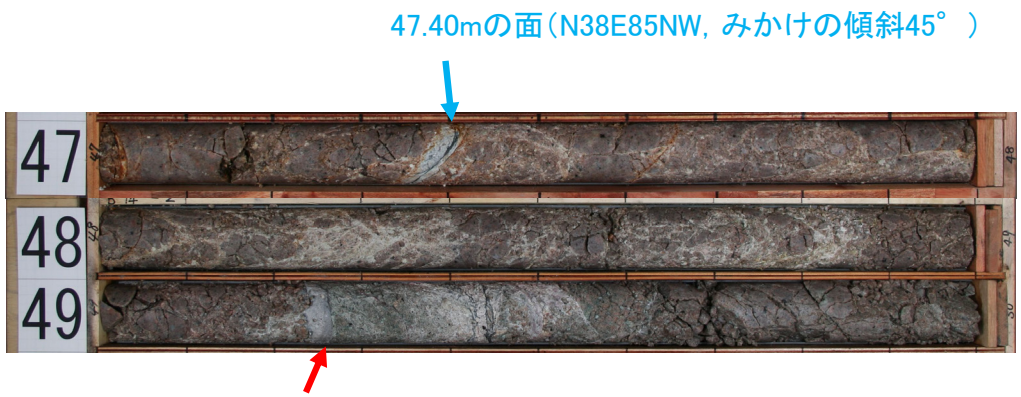
H24-B14-2孔 49.26mの破砕部(最新活動面)の走向傾斜について

・走向・傾斜を取得している47.40mの面を基準に，49.26mの最新活動面の走向・傾斜を以下の手順で検討する（ステレオネット使用）。

①47.40mの面を，ボーリングコアでの面の短軸を回転軸として，49.26mの面の見かけの傾斜角の差（10°）だけ回転する。
⇒47.40mの面のみかけの傾斜角を，49.26mの最新活動面の見かけの傾斜角に合わせる。
②コア箱に収まっている状態での，47.40mの面と49.26mの面の見かけの最大傾斜方向（ボーリングコアでの面の長軸方向）のなす角（コア写真から70°と推定）だけ回転する。
⇒みかけ上の姿勢を合わせる。
③ボーリングの掘進方向を回転軸に，コアの回転角度（61+150=211°）だけ回転する。
⇒コアが回転している分回転させる。

・結果，49.26mの面の走向・傾斜をN21W21Eと推定した。





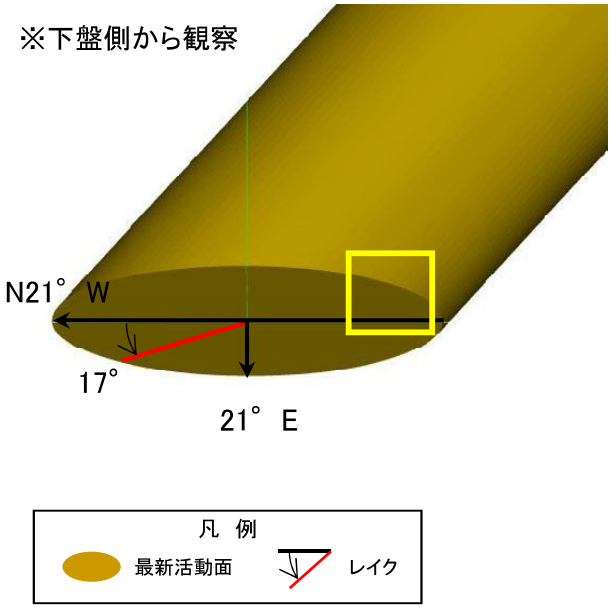
条線観察結果（H24-B14-2孔 深度49.26m）

H24-B14-2孔 深度49.26mの断層面の走向・傾斜はN21° W21° E※であり，17Rの条線が認められる。（※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから，同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用）

コア写真



観察模式図



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



H24-B14-2　深度49.24～49.55m　(1/3)

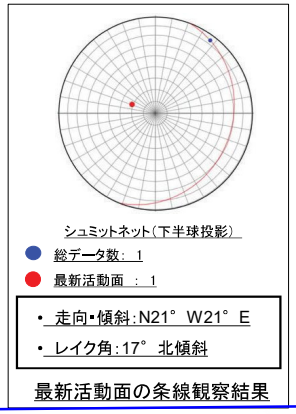
青枠：変位センスに関する部分

84のエビデンス（変位センス）　(1/3)

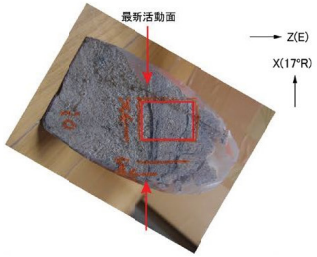
・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度49.26m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。

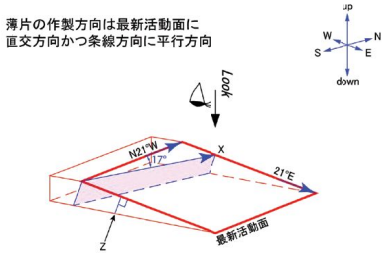
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- 岩片は少ない。
- （カタクレーサイト）組織は周囲と漸移的である。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。



最新活動面の条線観察結果





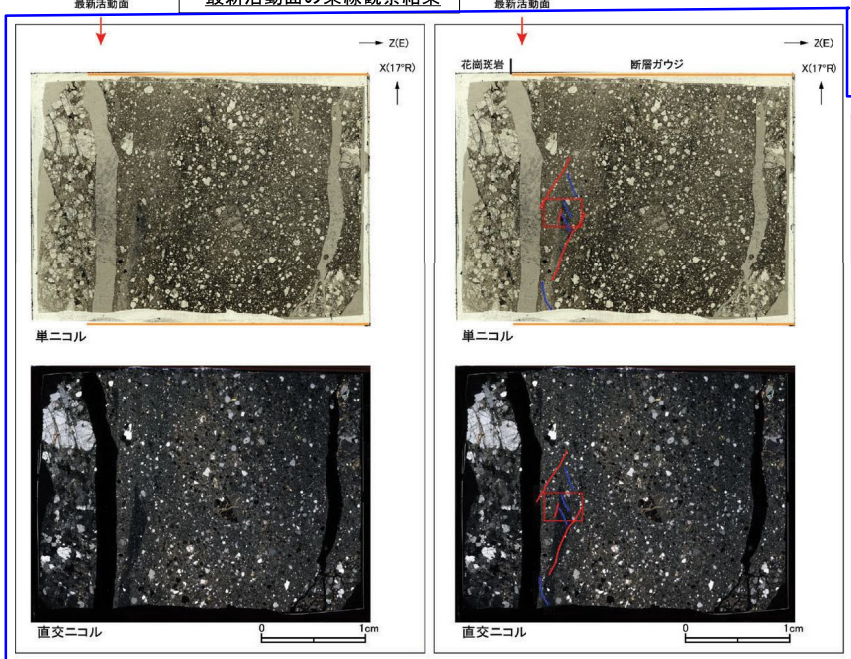
※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから，同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用している。

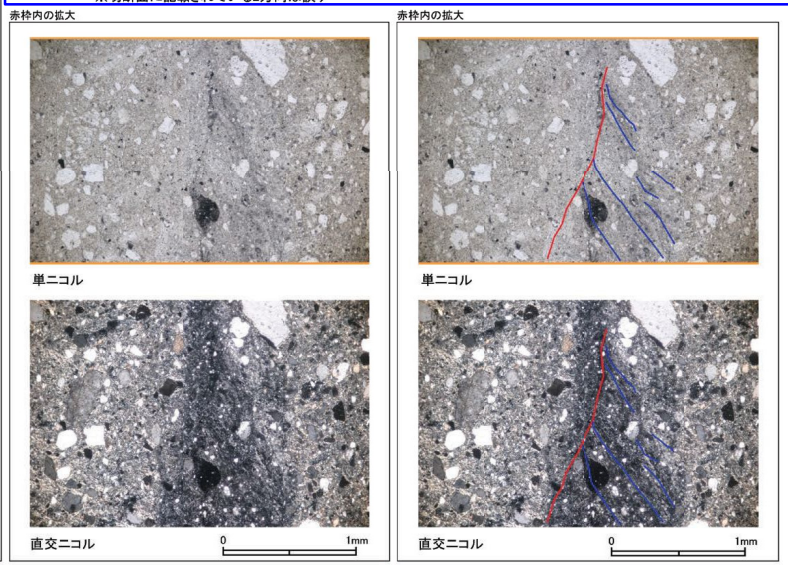


ブロックサンプル
※切断面に記載されているZ方向は誤り

走向・傾斜　N21°W 21°E
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

最新活動ゾーン





凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-B14-2　深度49.24～49.55m　(2/3)

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 岩片は少ない。(図2)
- 組織は周囲と漸移的である。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)

図1

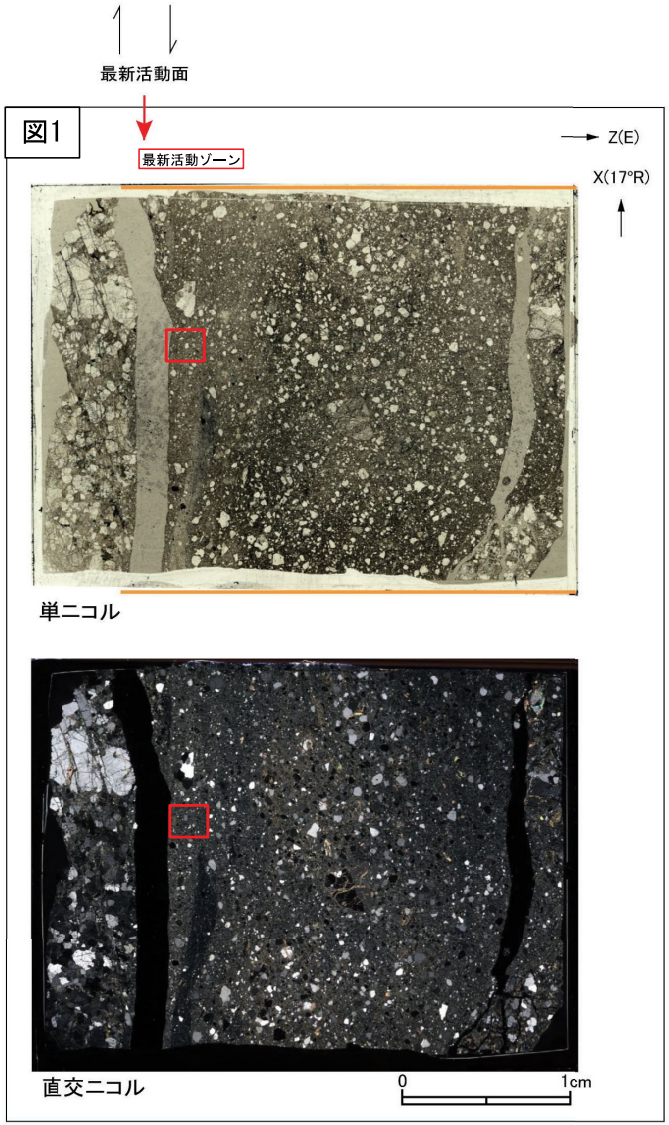
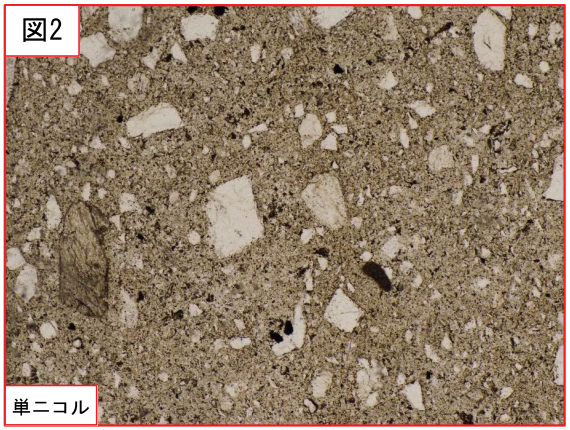
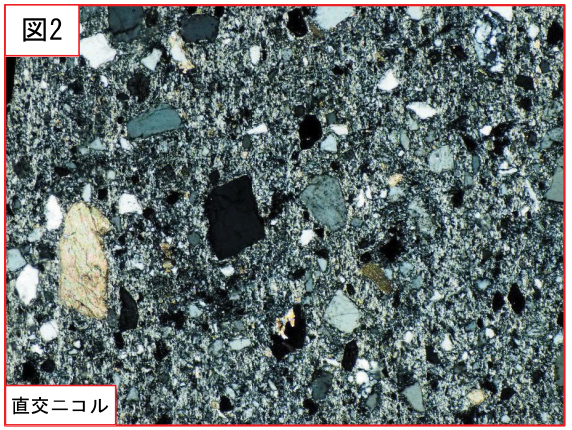


図2



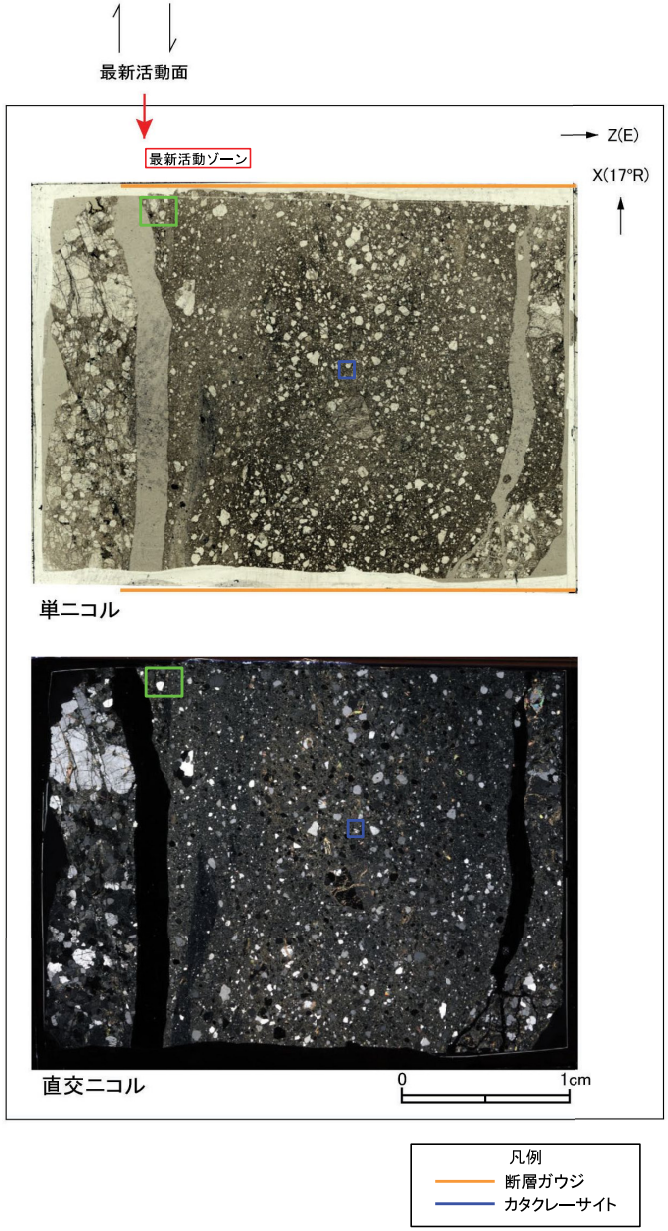
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

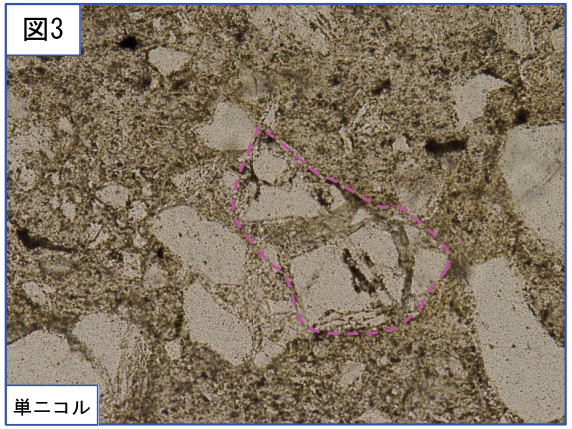
図2



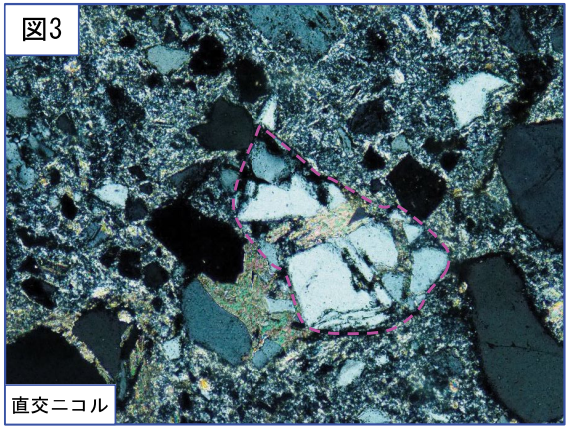
H24-B14-2　深度49.24～49.55m　(3/3)

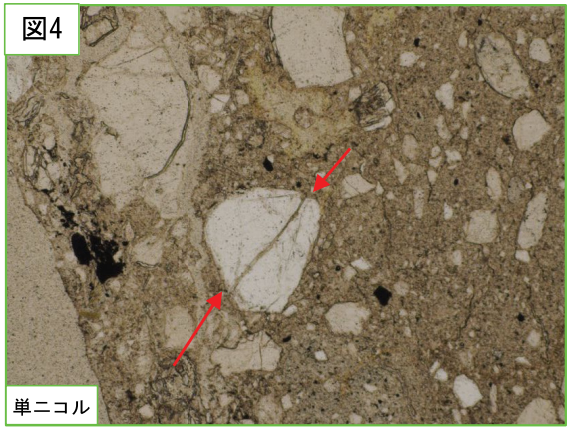
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。（図4）
- ジグソー状の角礫群が認められる。（図3）



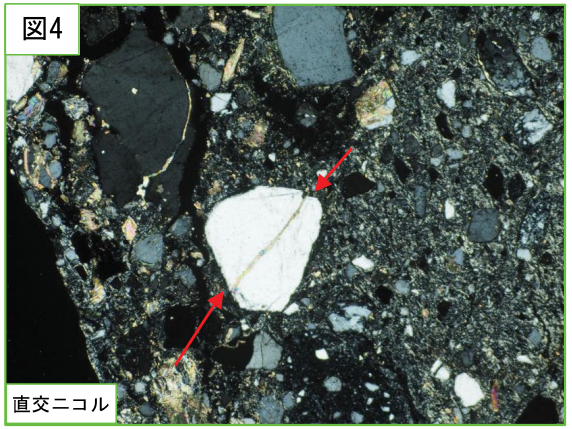


破線部はジグソー状の角礫群の範囲を示す。





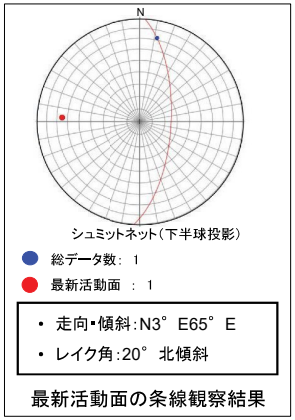
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



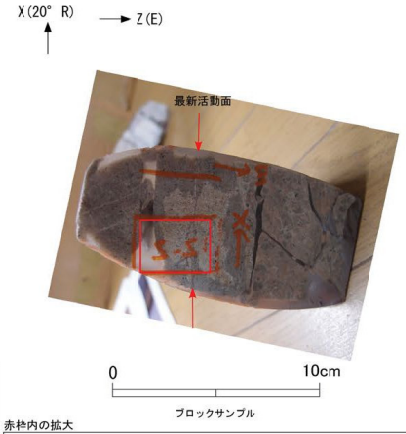
H24-B14-2　深度101.47～101.52m　(1/2)

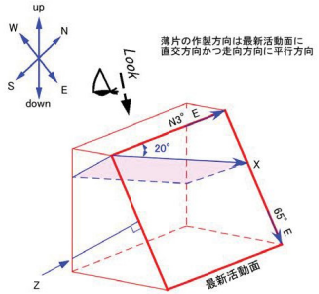
青枠：修正箇所　86のエビデンス（薄片観察結果）　(1/2)

・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度101.50m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った粘土状部の分布は局所的である。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。

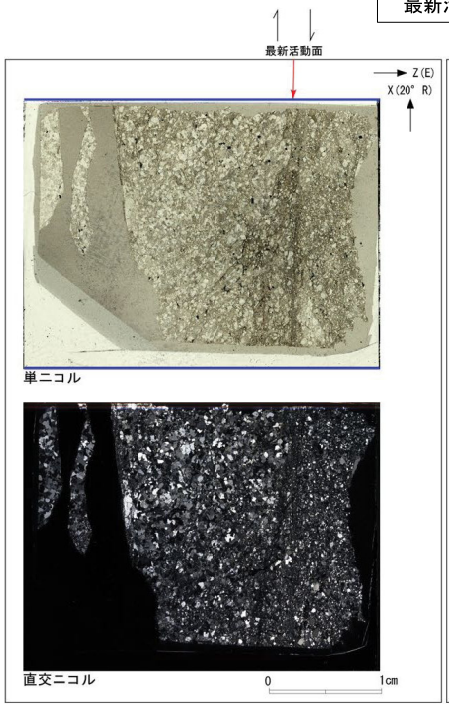


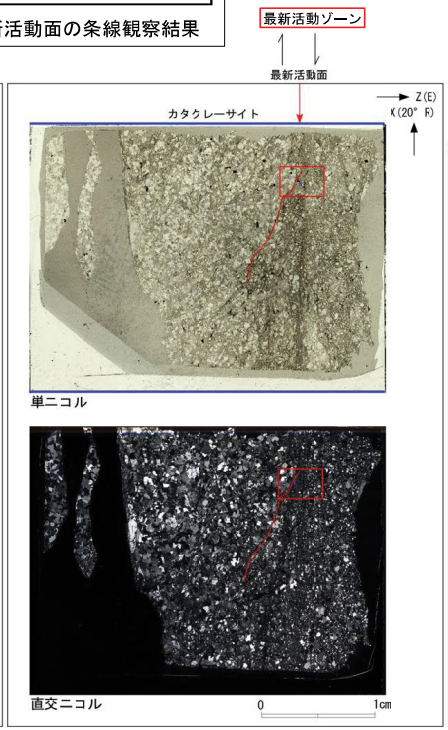
最新活動面の条線観察結果

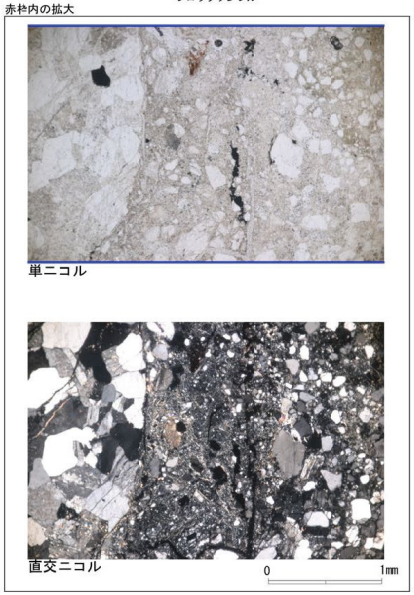


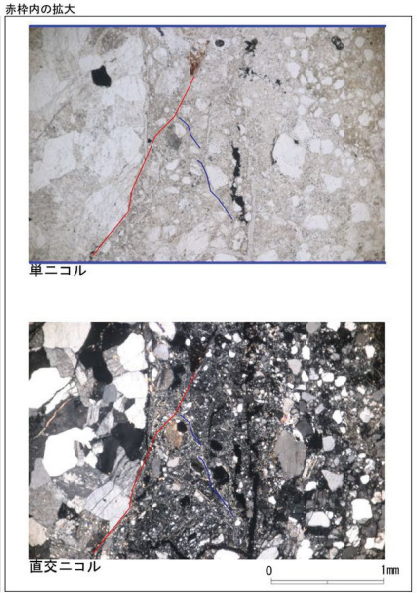


走向・傾斜 N3° E65° E
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）





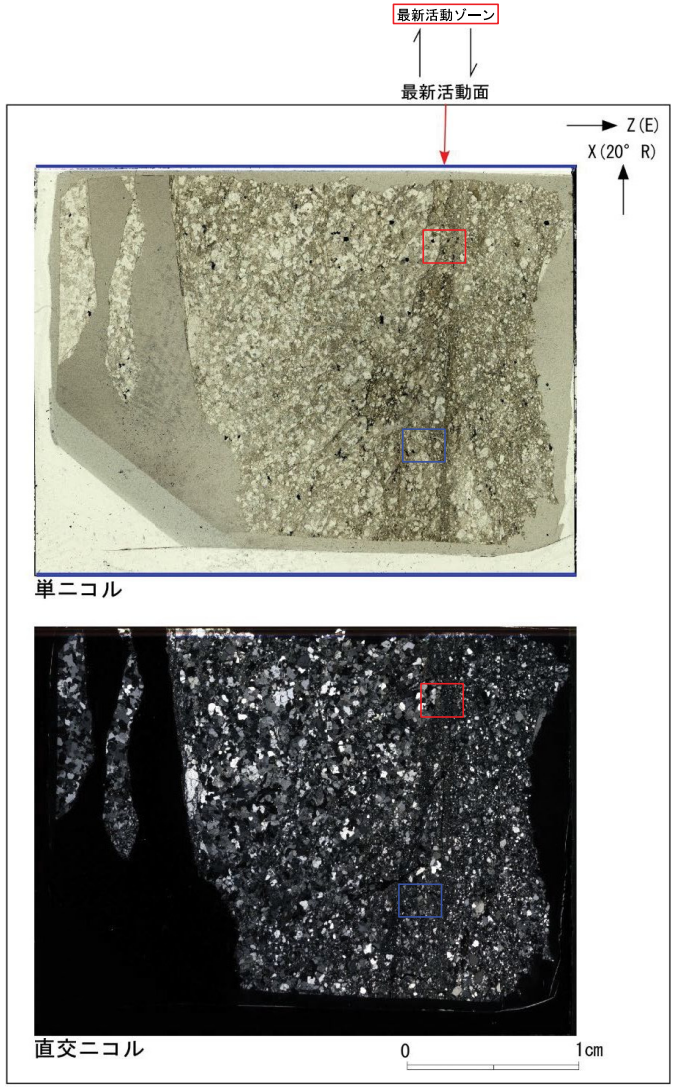


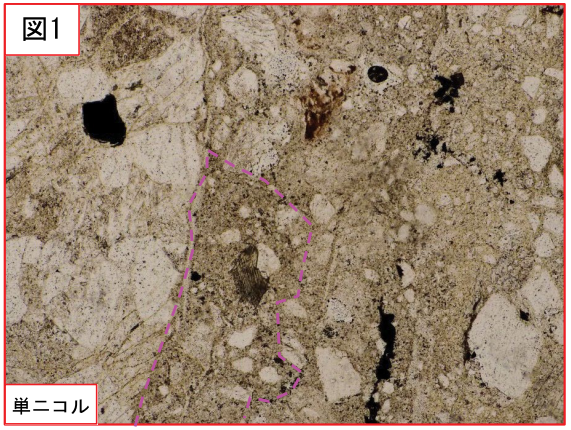


凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

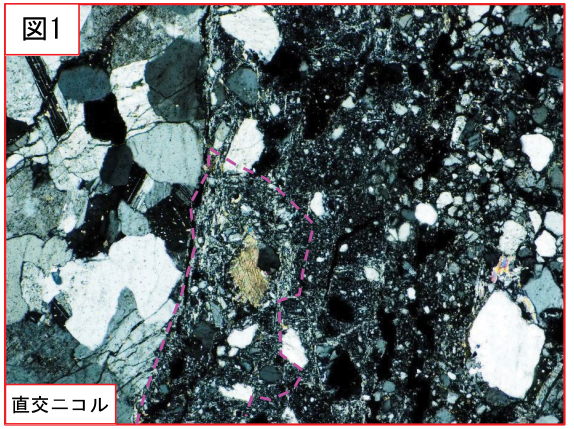
H24-B14-2　深度101.47～101.52m　（2/2）

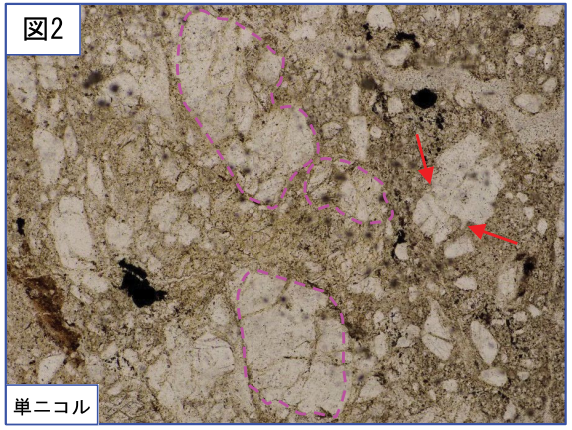
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。（図1）
- 最新活動面に沿った粘土状部の分布は局所的である。（図1）
- 角ばった岩片が多い。（図2）
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。（図2）
- ジグソー状の角礫群が認められる。（図2）



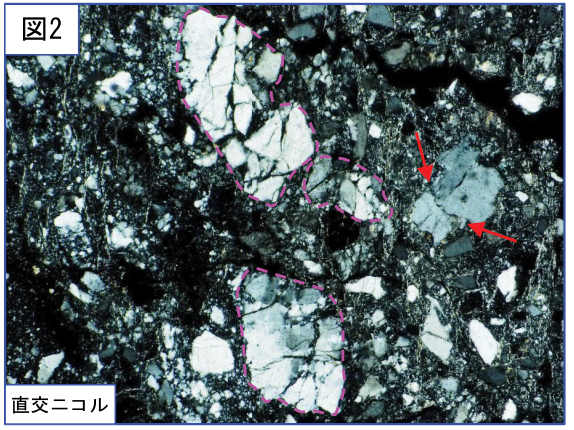


破線は粘土状部の分布範囲を示す。





赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。
破線部はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-B14-2　深度109.16～109.46m） 88のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は1.0cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ　破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大



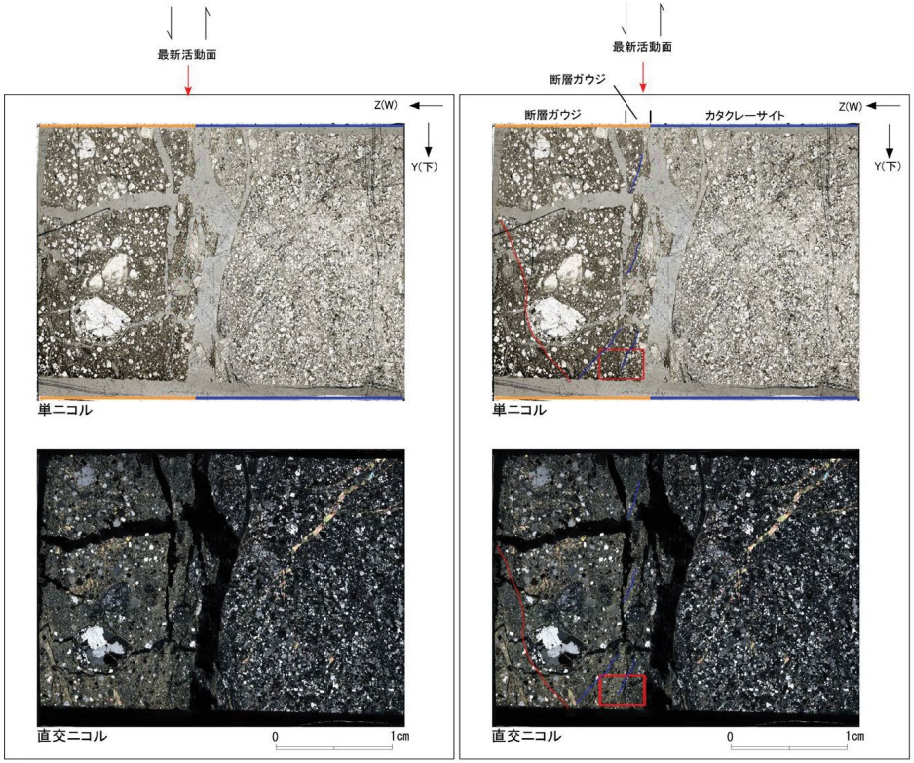
H24-B14-2　深度109.16～109.46m　(1/5)

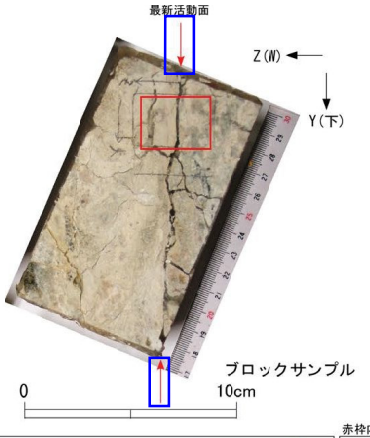
青枠：修正箇所　89のエビデンス（薄片観察結果）　(1/5)

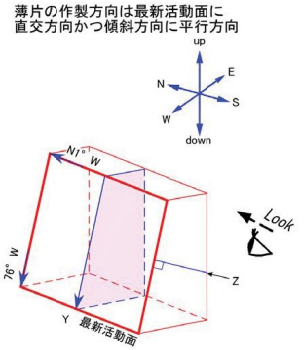
・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度109.16m）の変位センスは，右ずれを伴う正断層である。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，断層ガウジと判断した。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。

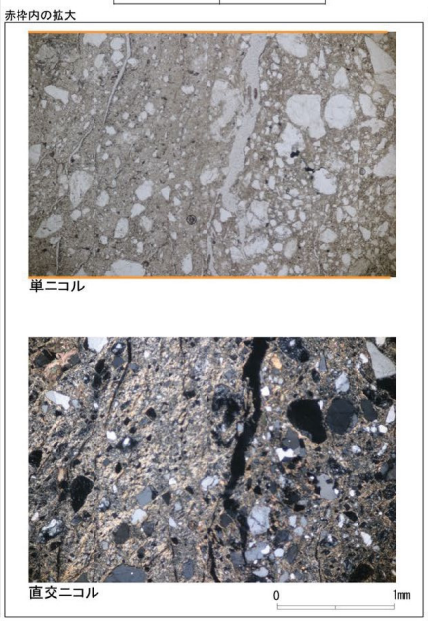
鉛直断面：最新活動面の変位センスは，正断層成分が卓越する。

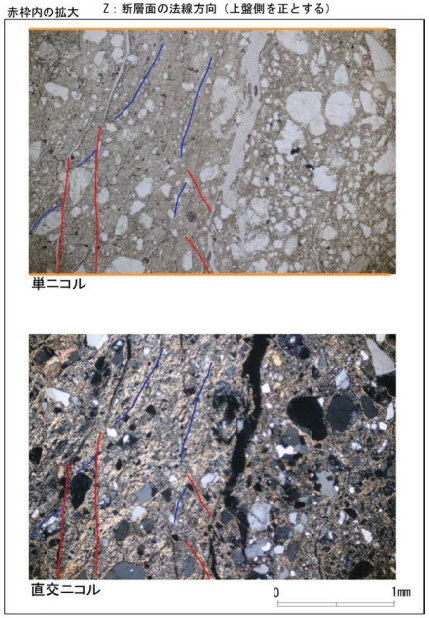
条線データなし







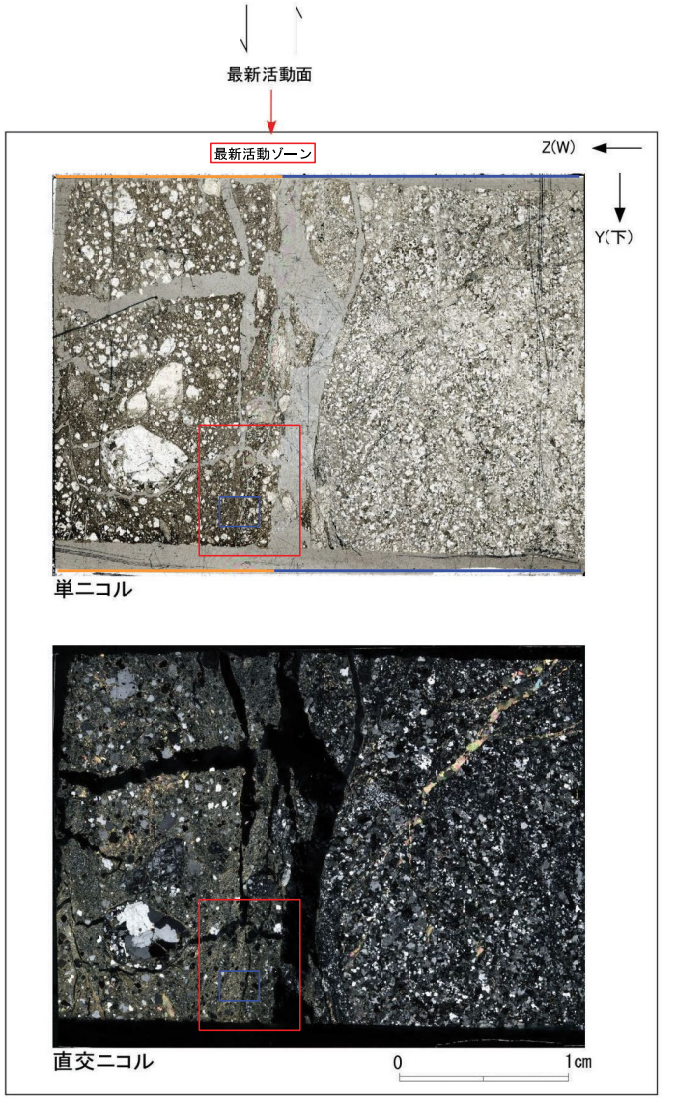


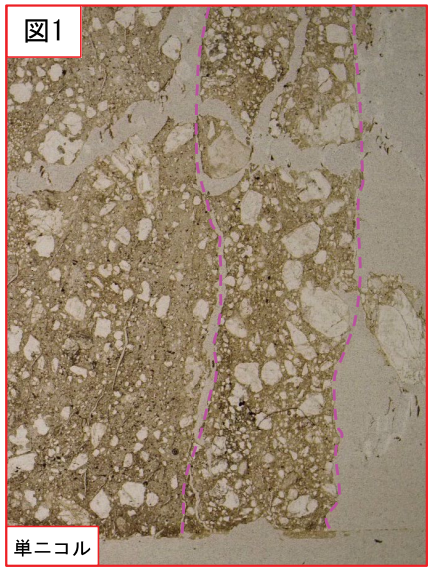


凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

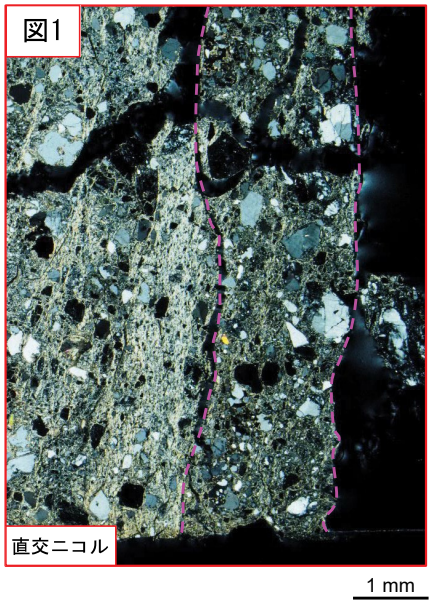
H24-B14-2　深度109.16～109.46m　(2/5)

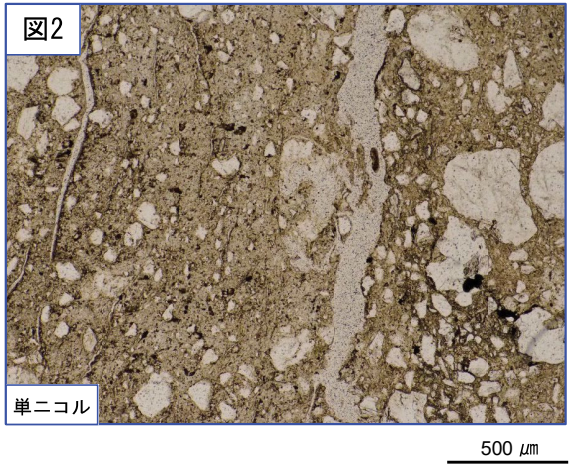
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

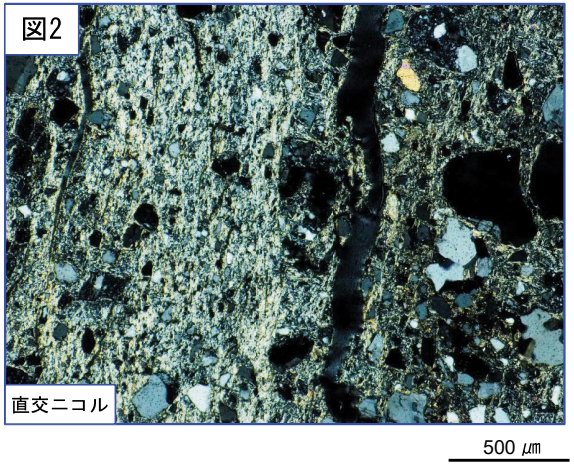




破線は帯状で直線的な範囲を示す。







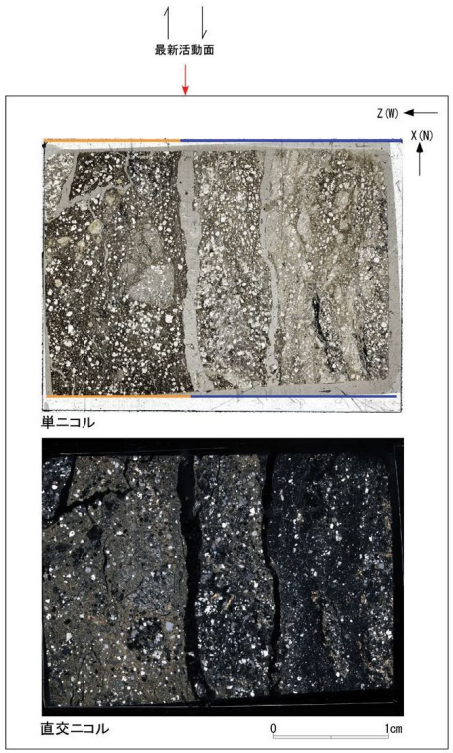
H24-B14-2　深度109.16～109.46m　(3/5)

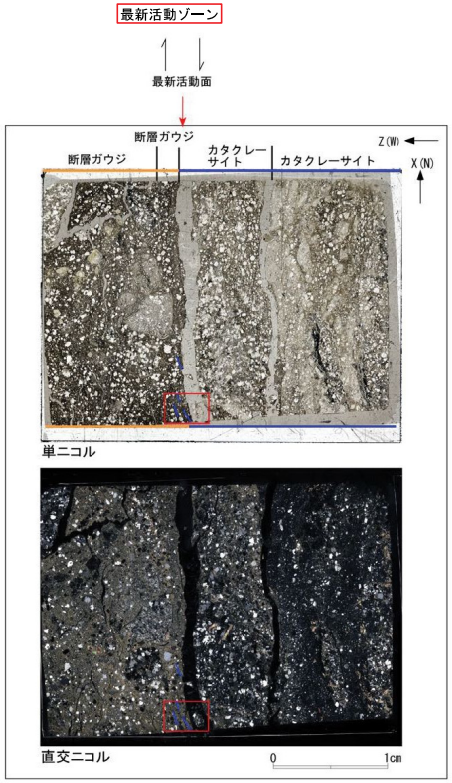
・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度109.16m）の変位センスは，右ずれを伴う正断層である。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

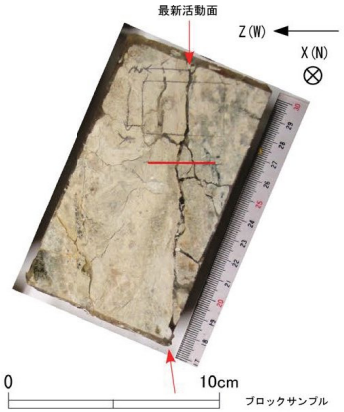
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

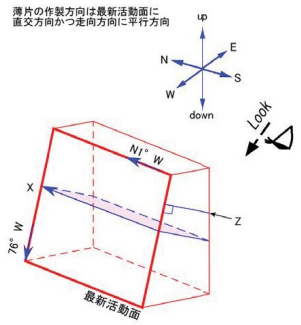
水平断面：最新活動面の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。

条線データなし



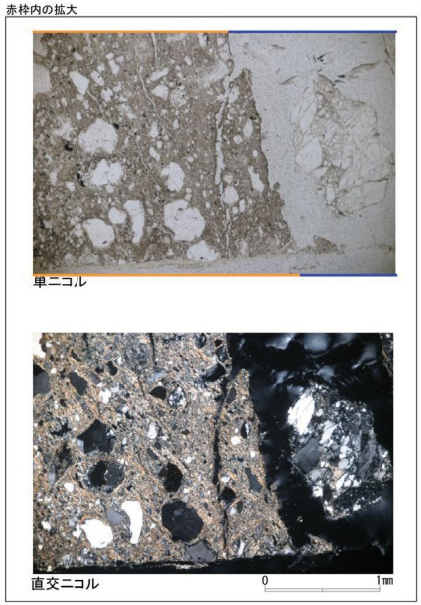


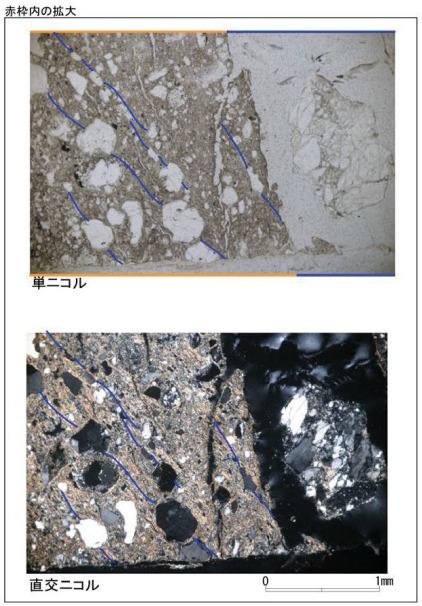




走向・傾斜 N1° W76° W

X：走向方向（北向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

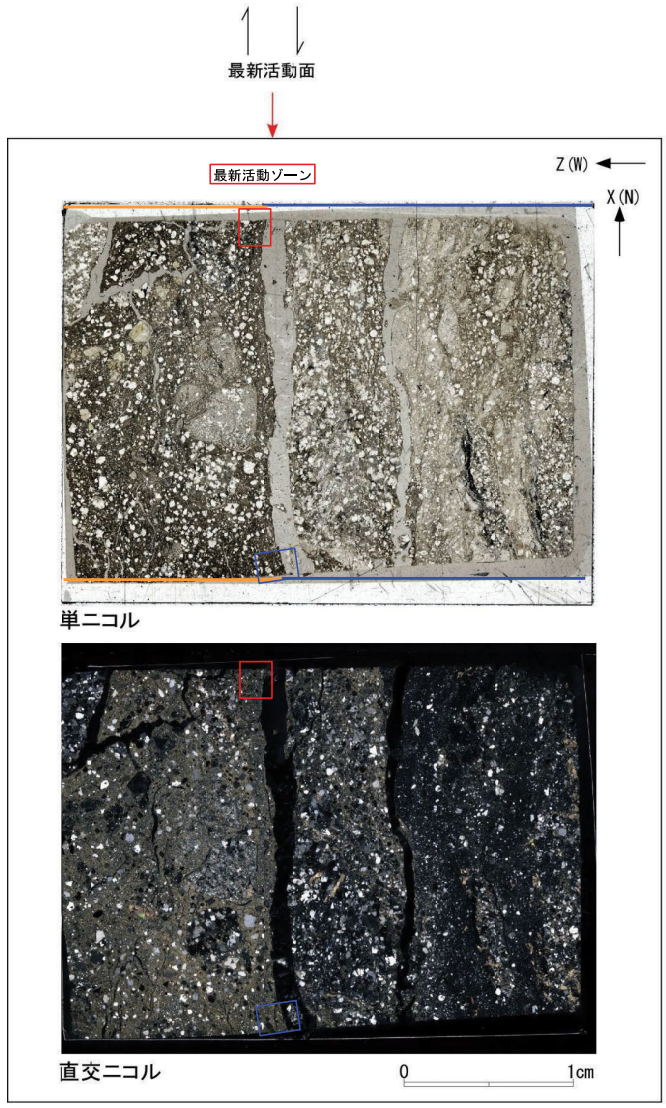


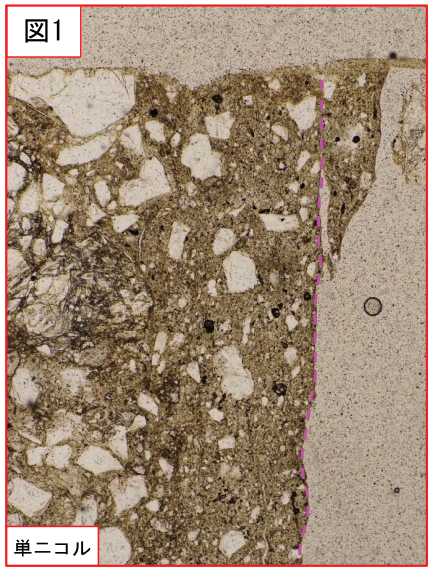


凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

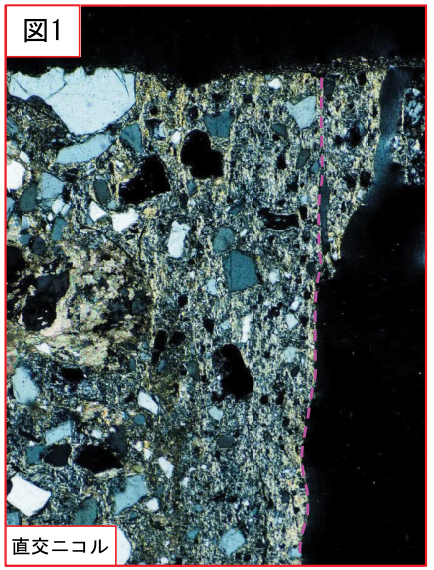
H24-B14-2　深度109.16～109.46m　(4/5)

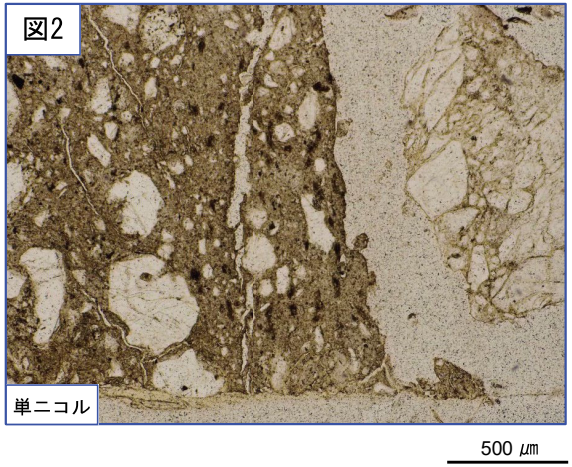
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

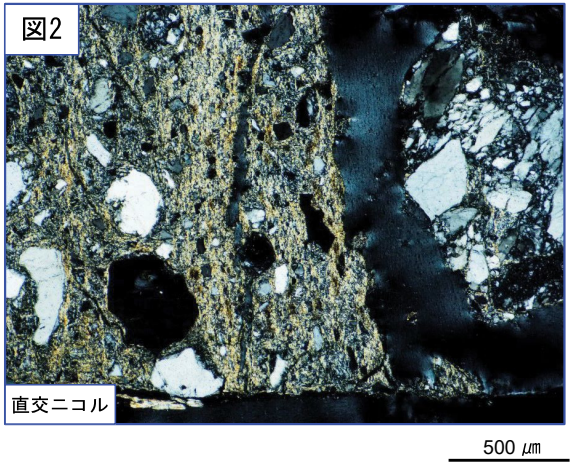




破線は帯状で直線的な範囲を示す。

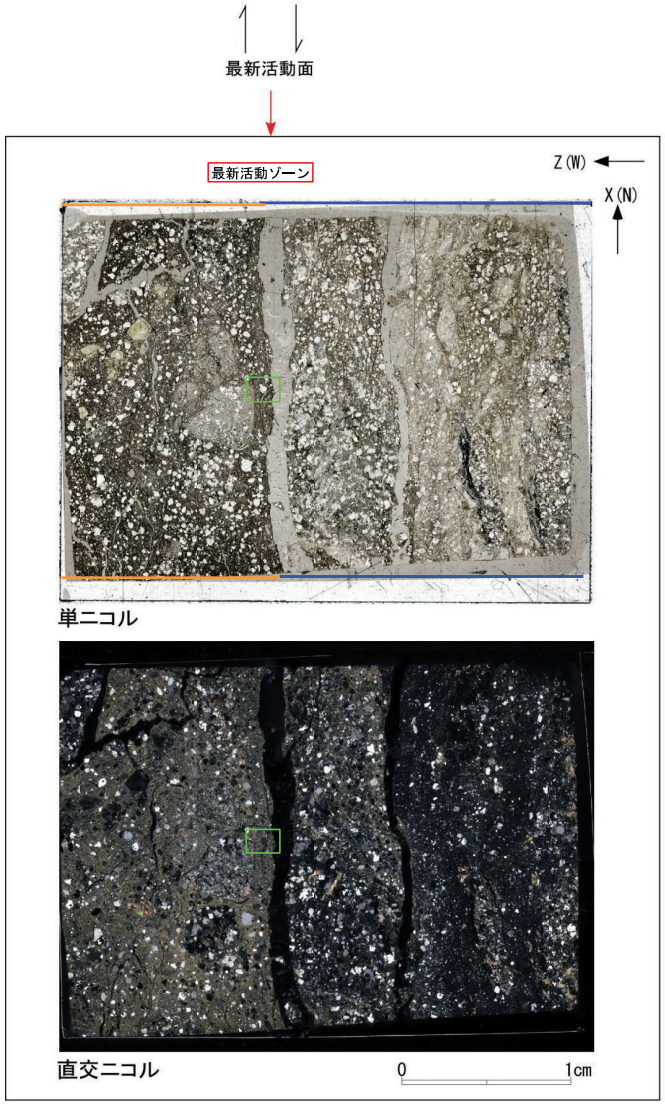






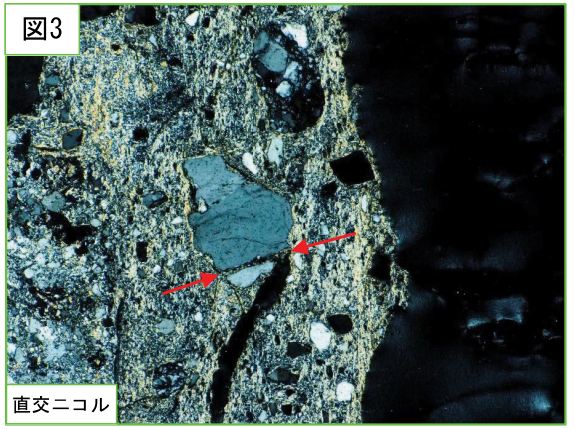
H24-B14-2　深度109.16～109.46m（5/5）

・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。（図3）





赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



最新活動面認定根拠(H24-D1-2　深度12.38～12.97m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度12.86mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

12



13

凡例
破砕部範囲※
最新活動面
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

凡例
最新活動面

0　5 cm

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-2　深度12.38～12.97m）　91のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は0.5cmである。

コア写真

12



13

凡例

断層ガウジ　←　→　破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

0　5 cm

最新活動面認定根拠(H24-D1-2　深度19.78～19.87m)

92のエビデンス（最新活動面）

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度19.82mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

19



20

凡例
破砕部範囲※
最新活動面
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

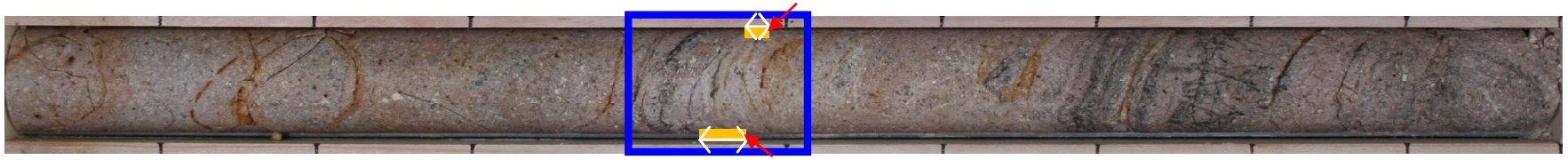
凡例
最新活動面

0　5 cm

明瞭なせん断構造・変形構造の有無（H24-D1-2　深度31.44～31.46m）

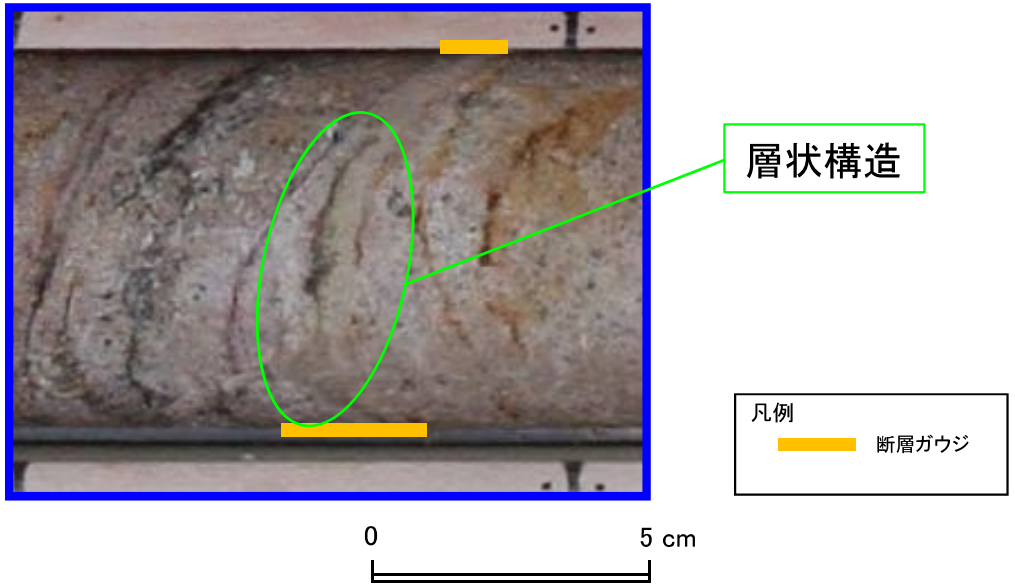
・最新活動面に沿った断層ガウジには灰白色，にぶい黄橙色，灰赤色の層状構造が認められることから，明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とした。

コア写真





青枠部拡大



最新活動面認定根拠(H24-D1-4　深度10.91～10.93m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度10.93mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

10



11

凡例
破砕部範囲※
最新活動面
※：写真上は白色で記載



青枠部拡大

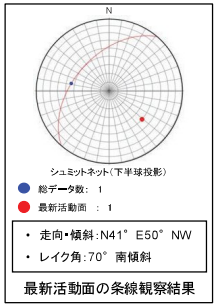
0　5 cm

凡例
最新活動面

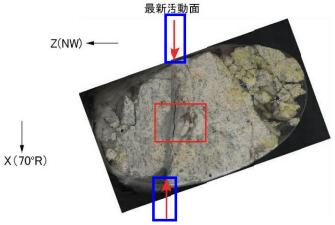
H24-D1-4　深度52.97～53.46m　(1/3)

青枠：修正箇所　95のエビデンス（薄片観察結果）　(1/3)

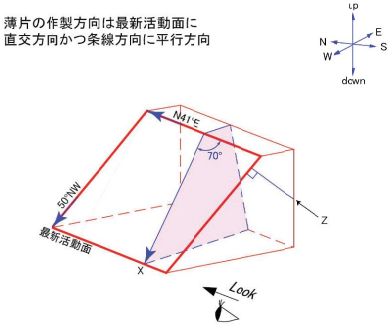
・H24-D1-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度53.05m）の変位センスは，正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った粘土状部は連続しない。
- （カタクレーサイト）岩片量は漸移的に変化する。
- （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。
- （カタクレーサイト）塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



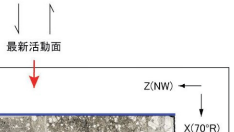
最新活動面の条線観察結果



0　10cm
ブロックサンプル

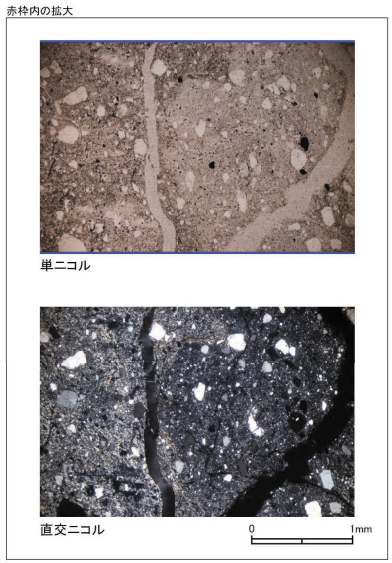


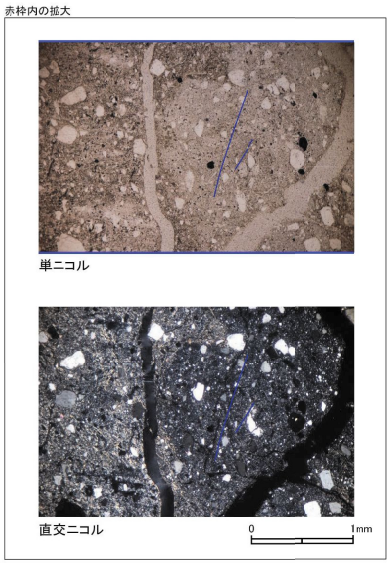
走向・傾斜　N41°E 50°NW
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）


最新活動面


最新活動ゾーン

最新活動面

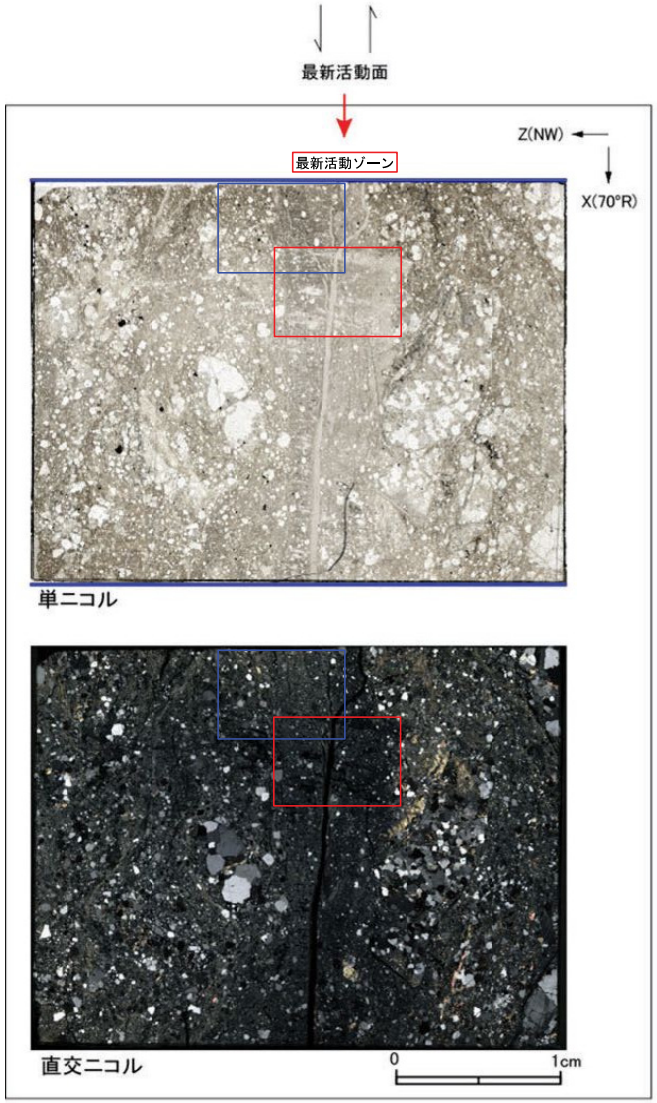




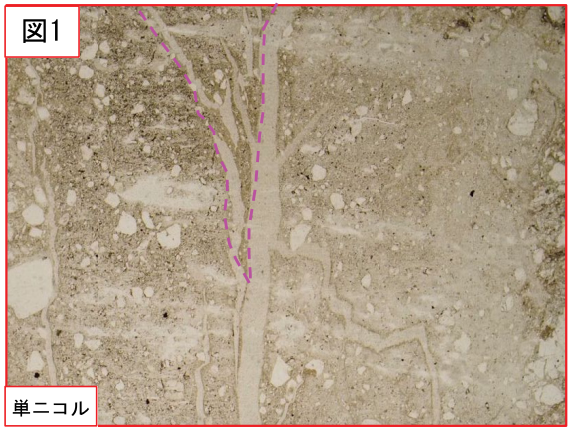
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-D1-4　深度52.97～53.46m　(2/3)

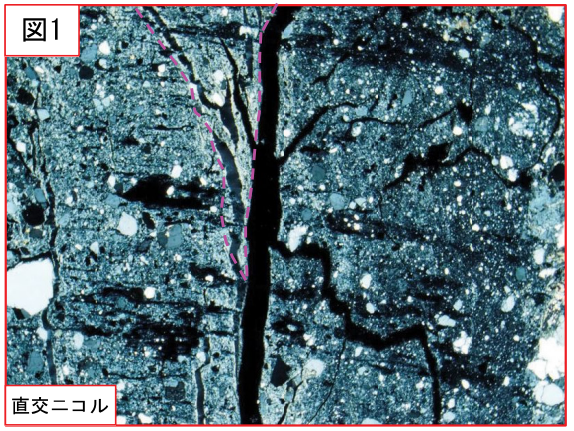
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 最新活動面に沿った粘土状部は連続しない。(図1)
- 岩片量は漸移的に変化する。(図2)



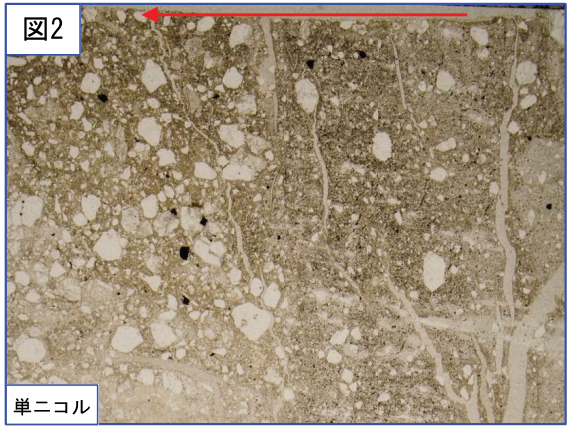
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



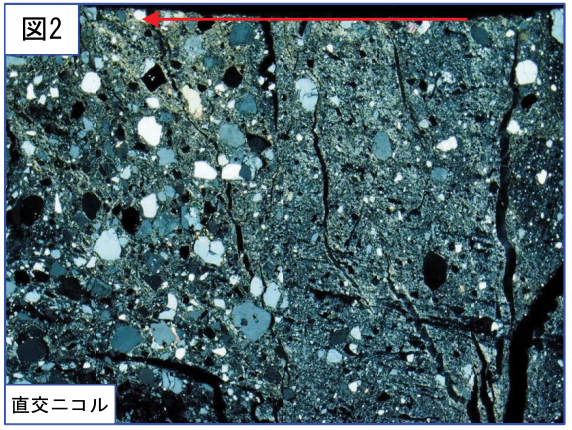
破線は粘土状部の分布範囲を示す。　1 mm



1 mm



赤矢印：岩片量が漸移的に増加する。　1 mm

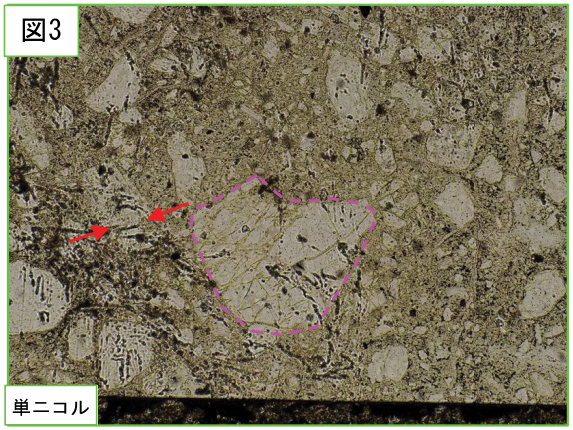


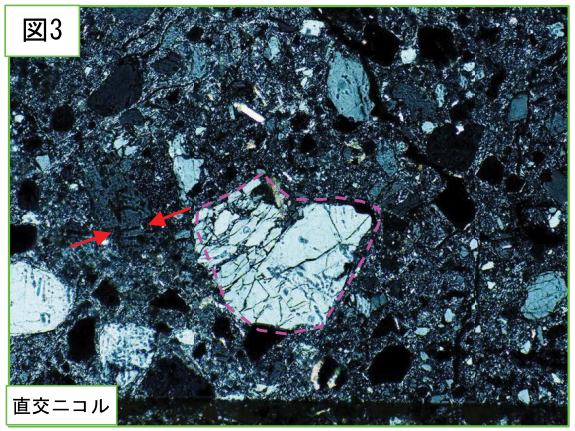
1 mm

H24-D1-4　深度52.97～53.46m　(3/3)

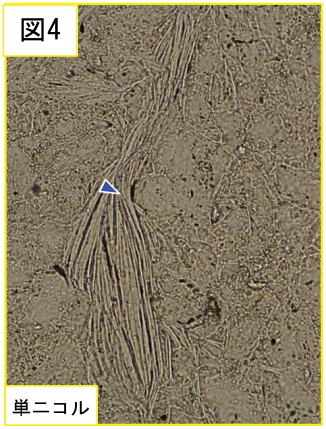
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図3)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図3)
- 角ばった岩片が多い。(図3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)





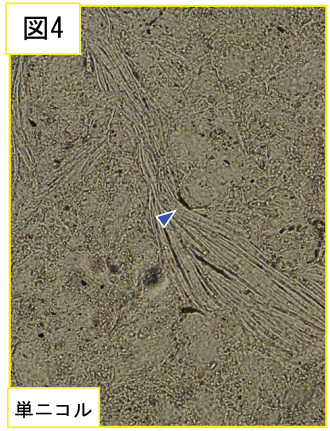


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。





ステージを反時計回りに
約45度回転





青矢印は屈曲箇所を示す。
50 μm

50 μm

最新活動面認定根拠(H24-D1-4　深度63.67～63.90m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度63.90mのせん断面を最新活動面に認定した。

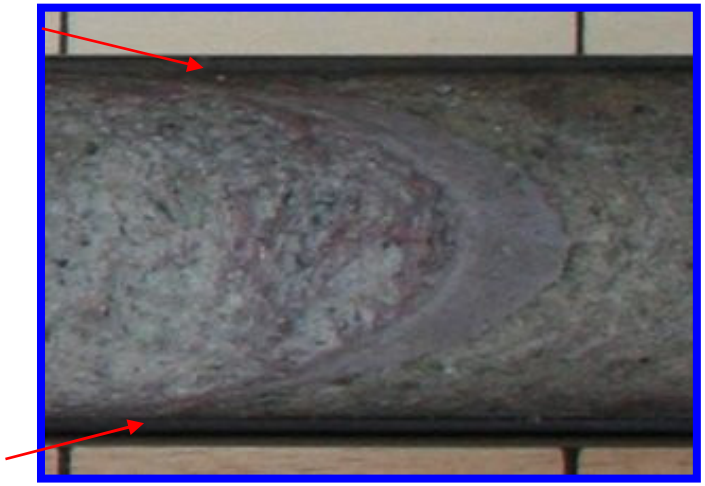
コア写真

63



64

凡例
破砕部範囲※
最新活動面
※：写真上は白色で記載



凡例
最新活動面

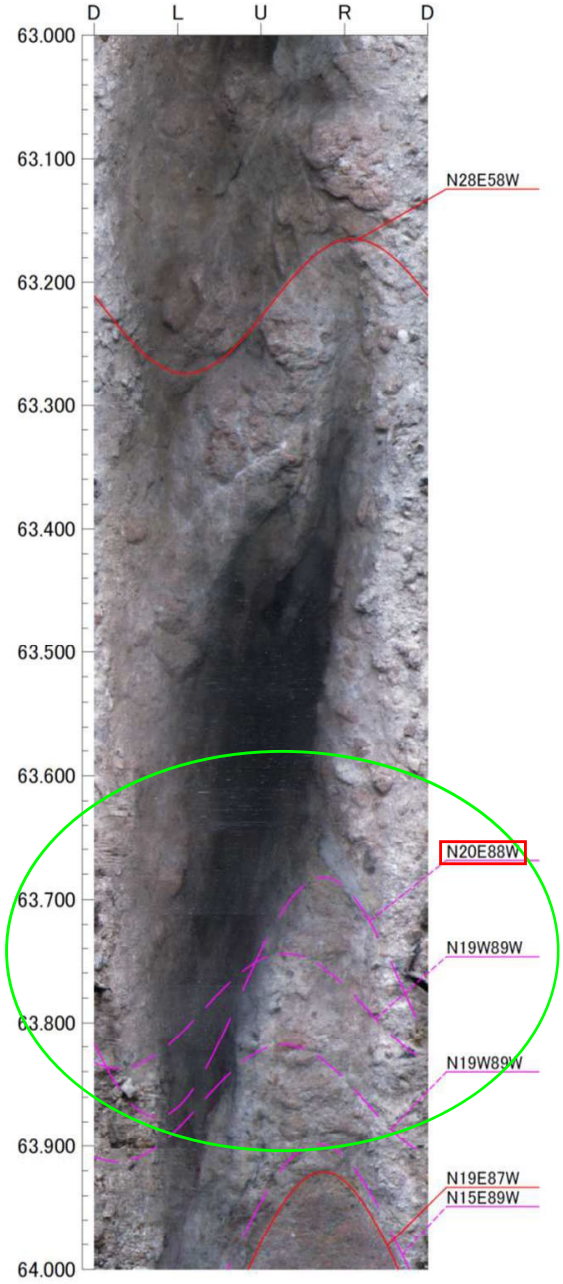
青枠部拡大

0　5 cm

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H24-D1-4　深度63.67～63.90m）99のエビデンス（走向・傾斜）

・H24-D1-4　深度63.67～63.90mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN20°E88°Wでである。

BHTV展開画像



・最新活動面
赤灰色部

・マーカー
赤灰色部の分布

コア写真



条線観察結果（H24-D1-4孔 深度63.90m）

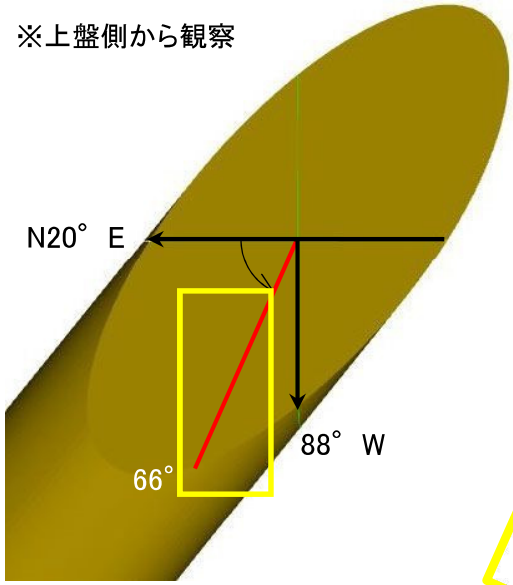
100のエビデンス（条線）

H24-D1-4孔 深度63.90mの断層面の走向・傾斜はN20° E88° Wであり，66Lの条線が認められる。

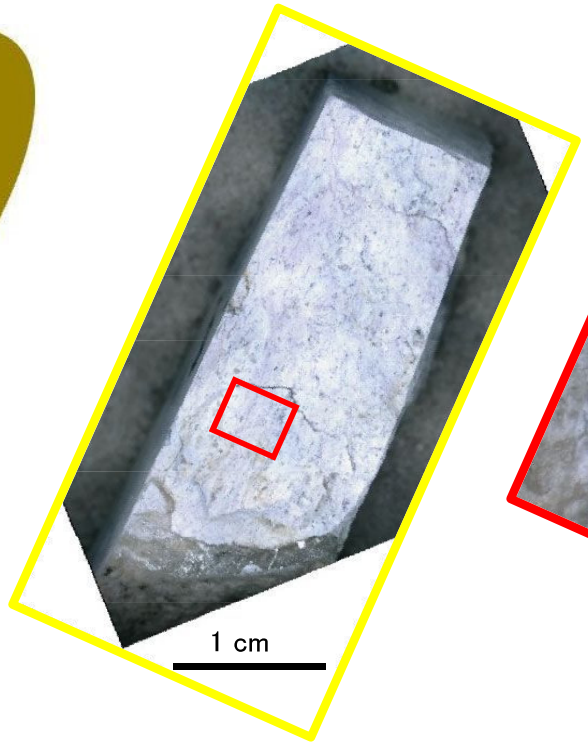
コア写真



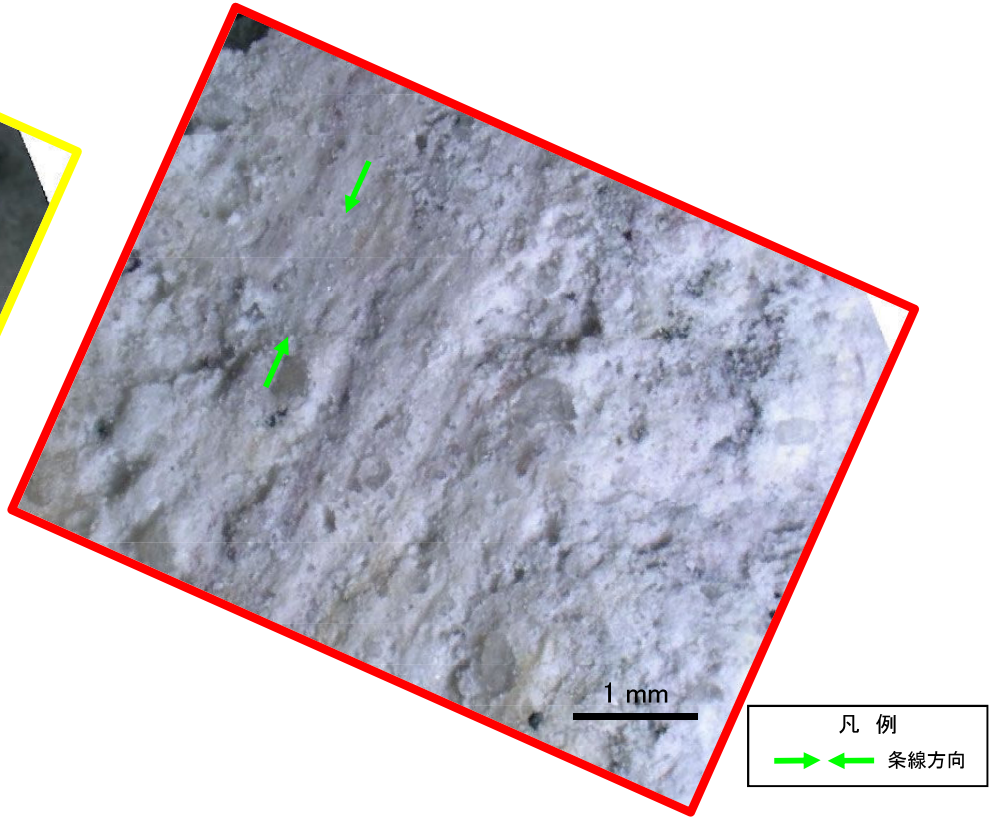
観察模式図



条線観察位置拡大



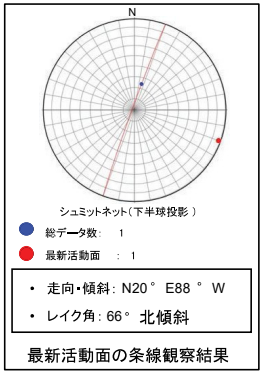
赤枠内拡大



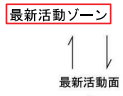
H24-D1-4　深度63.67～63.90m　(1/2)

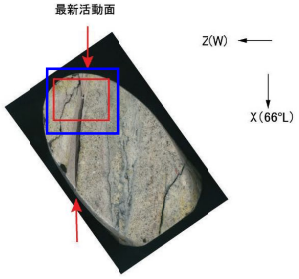
青枠：修正箇所　101のエビデンス（薄片観察結果）　(1/2)

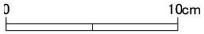
・H24-D1-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度63.90m）の変位センスは，逆断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- （カタクレーサイト）基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- （カタクレーサイト）最新活動面に沿った粘土状部の分布は局所的である。
- （カタクレーサイト）多様な粒径の岩片が多く認められる。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。



最新活動面の条線観察結果



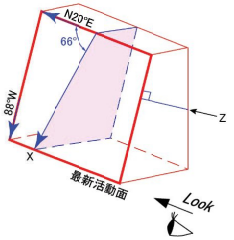




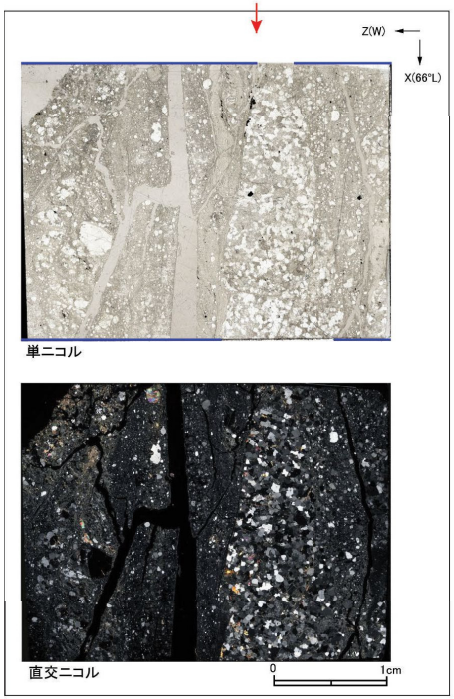
ブロックサンプル

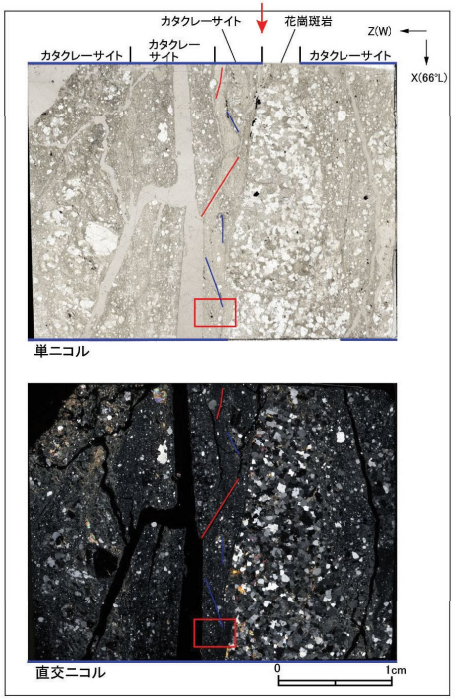
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

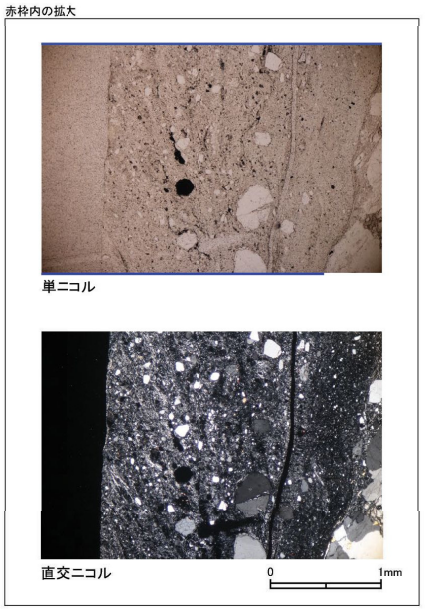


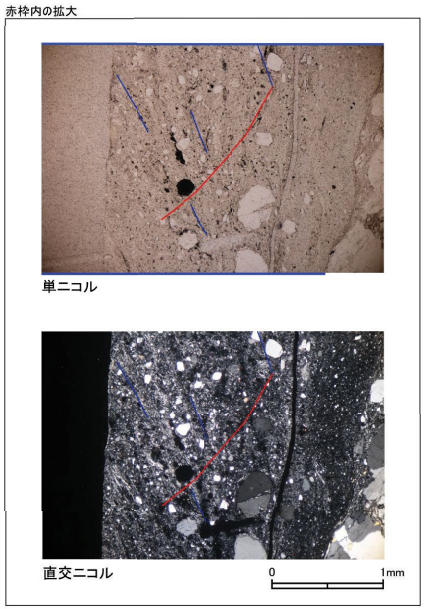


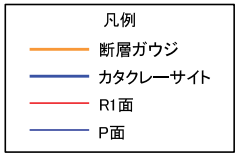
走向・傾斜　N20°E 88°W
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）





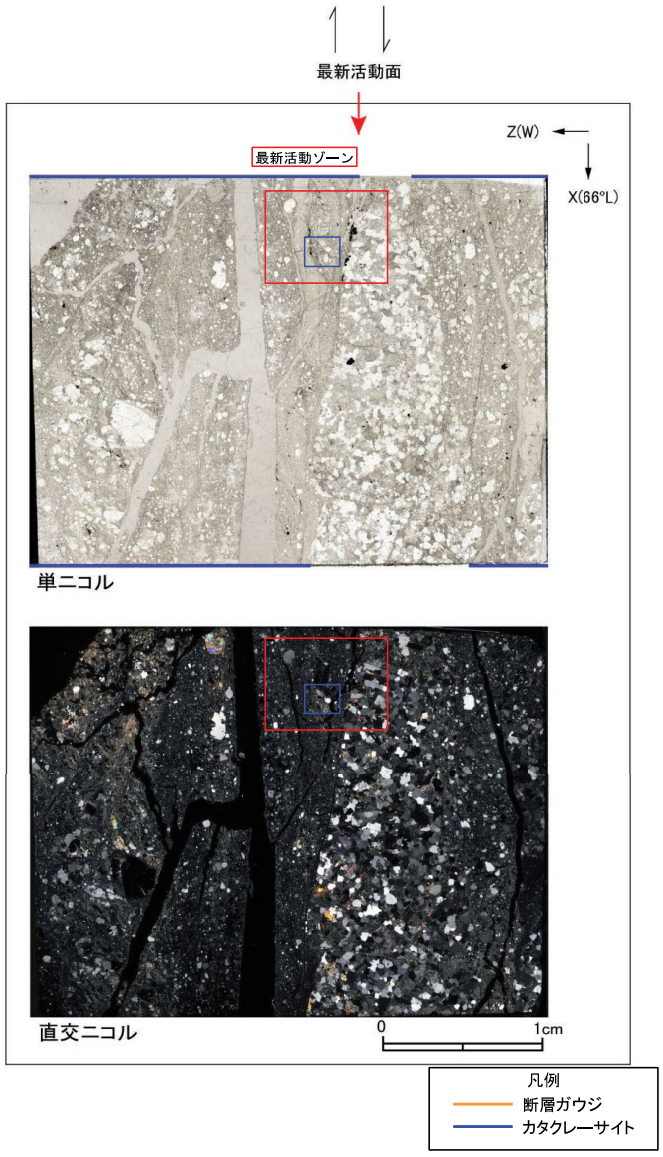


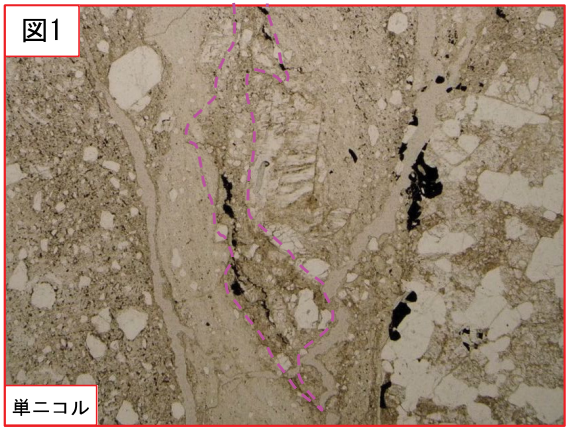




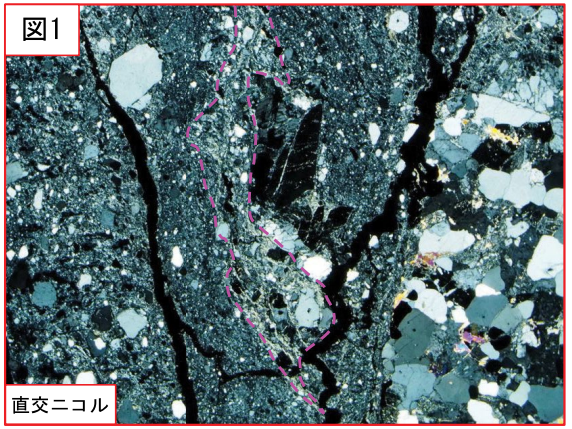
H24-D1-4　深度63.67～63.90m　（2/2）

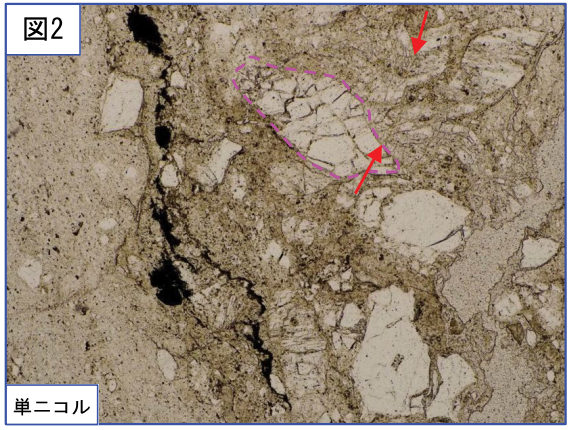
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。（図1）
- 最新活動面に沿った粘土状部の分布は局所的である。（図1）
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。（図2）
- 角ばった岩片が多い。（図2）
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。（図2）
- ジグソー状の角礫群が認められる。（図2）



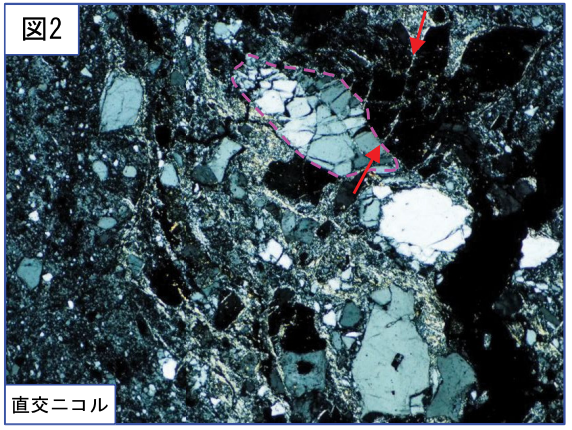


破線は粘土状部の分布範囲を示す。





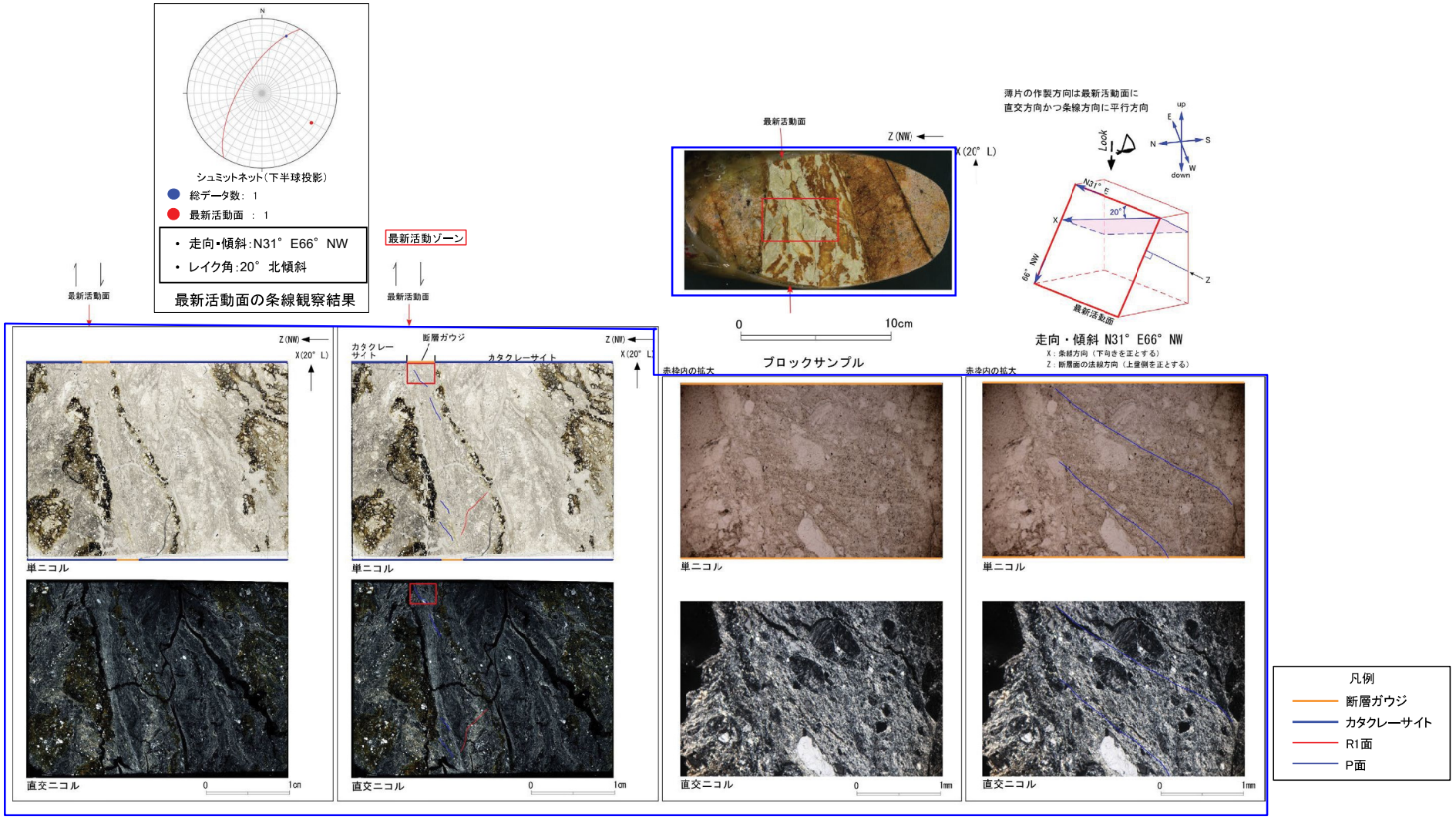
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



H24-D1-3　深度14.41～14.52m　(1/2)

青枠：修正箇所

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度14.47m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，断層ガウジと判断した。
- （断層ガウジ）せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。

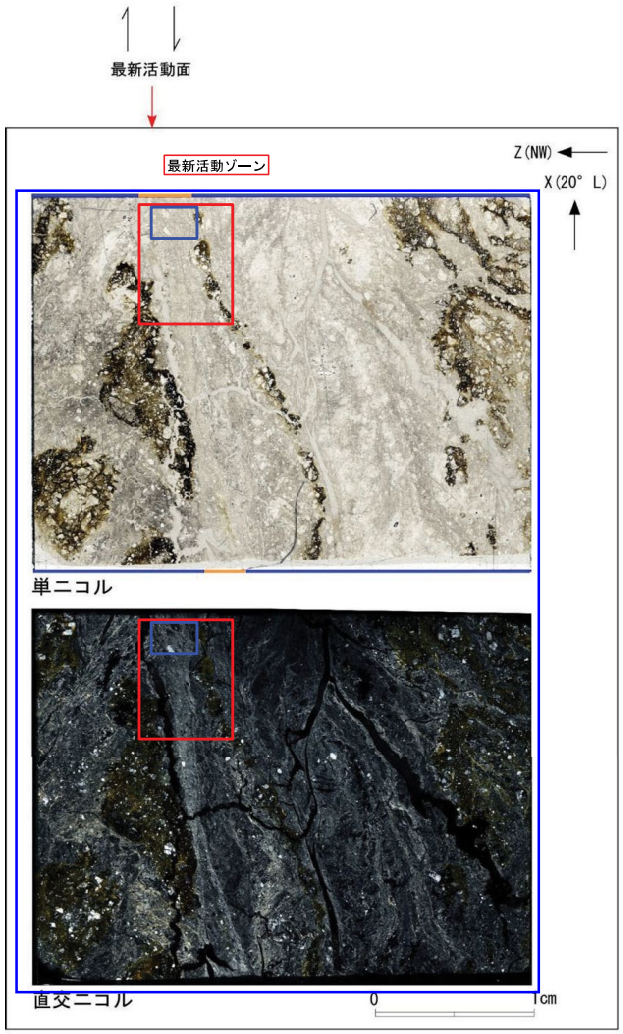


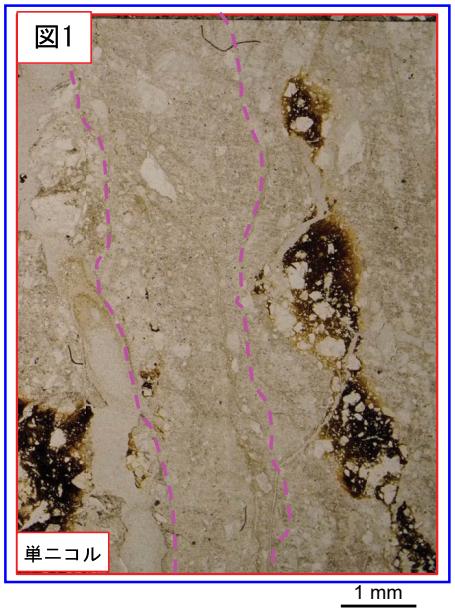
H24-D1-3　深度14.41～14.52m　(2/2)

青枠：修正箇所

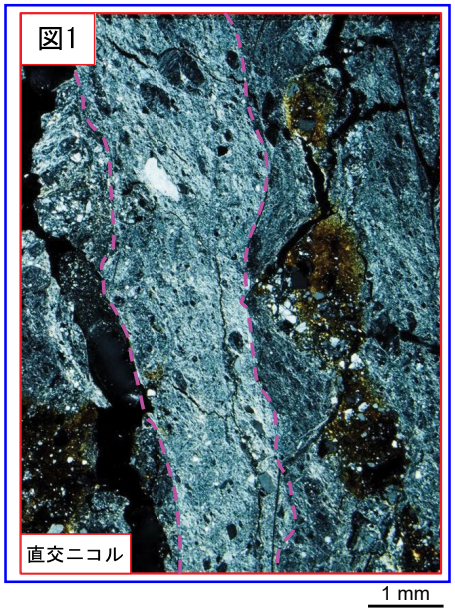
103のエビデンス（薄片観察結果）　(2/2)

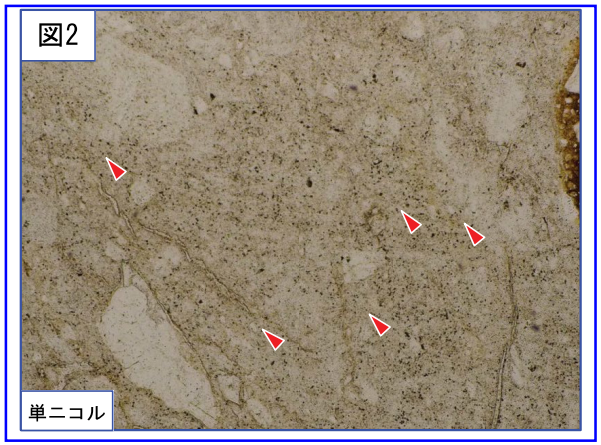
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1，2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



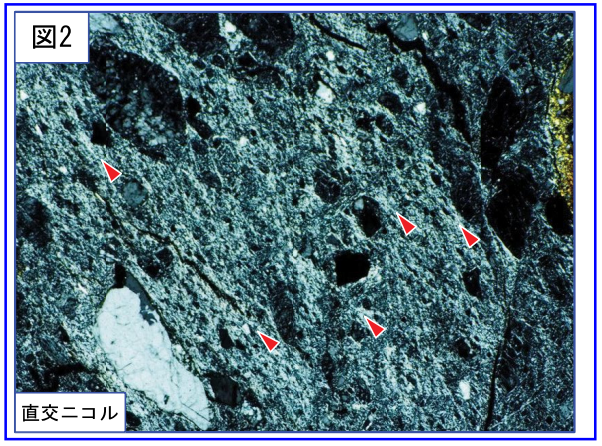


破線は帯状で直線的な範囲を示す。





赤矢印は粘土鉱物の配列を示す。



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト

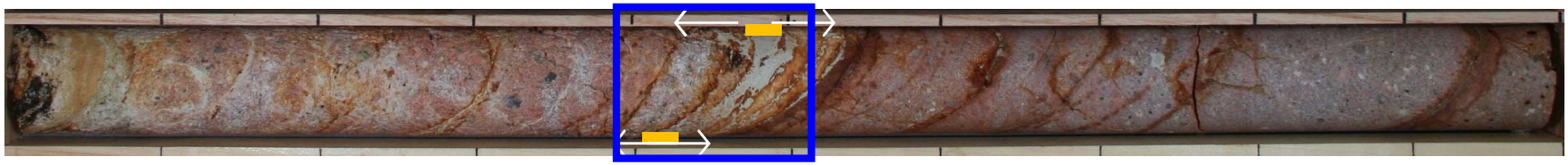
断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-3　深度14.41～14.52m）

104のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は1.8cmである。

コア写真

14



15

凡例

断層ガウジ　←　→　破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載



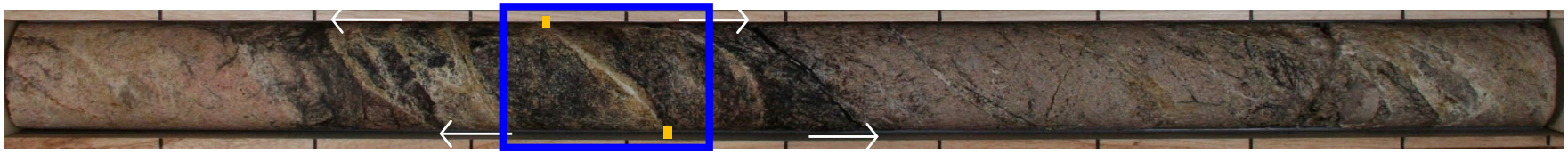
青枠部拡大

0　5 cm

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-3　深度34.23～34.52m）

・実測した断層ガウジの幅は0.7cmである。

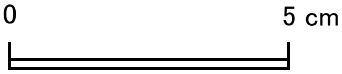
コア写真



凡例
断層ガウジ　破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大



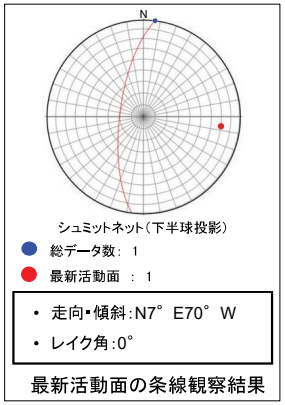
H24-D1-3　深度52.13～52.28m　（1/2）

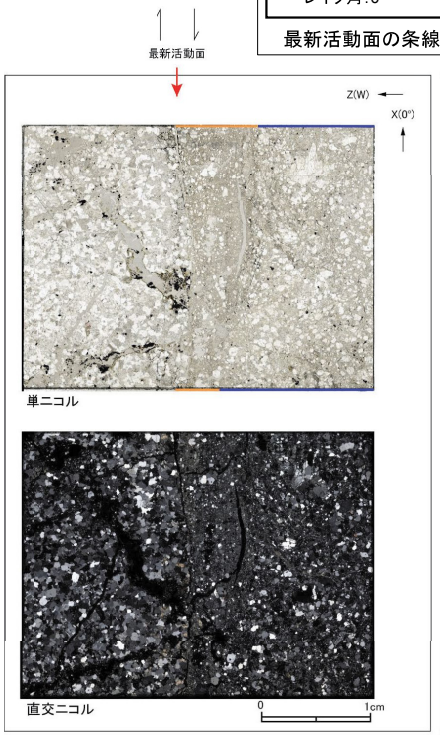
青枠：修正箇所

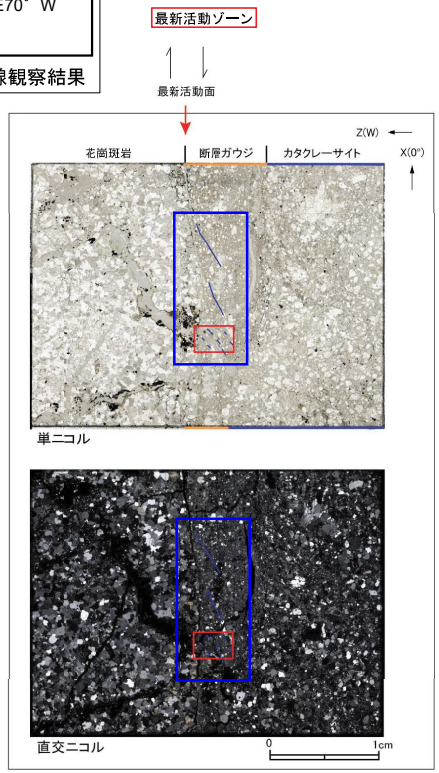
107のエビデンス（薄片観察結果）（1/2）

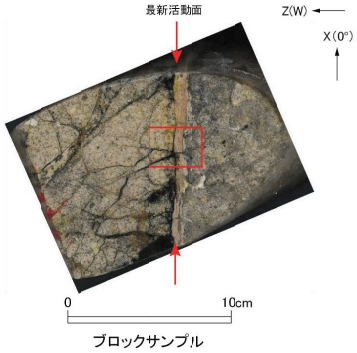
・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度52.13m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。



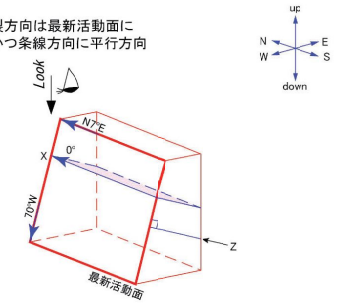






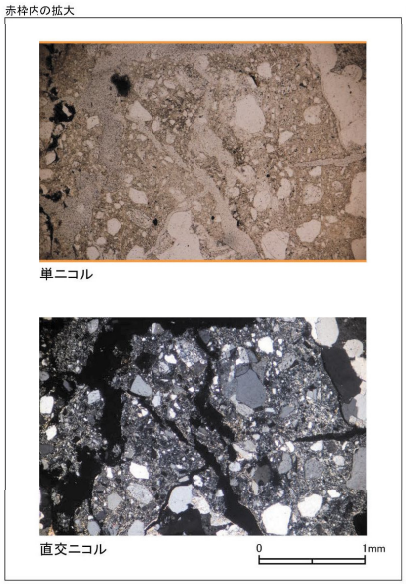
ブロックサンプル

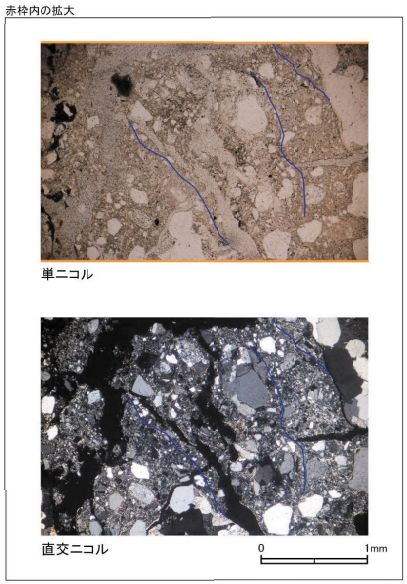
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

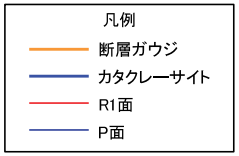


走向・傾斜　N7°E 70°W

X：条線方向（北向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

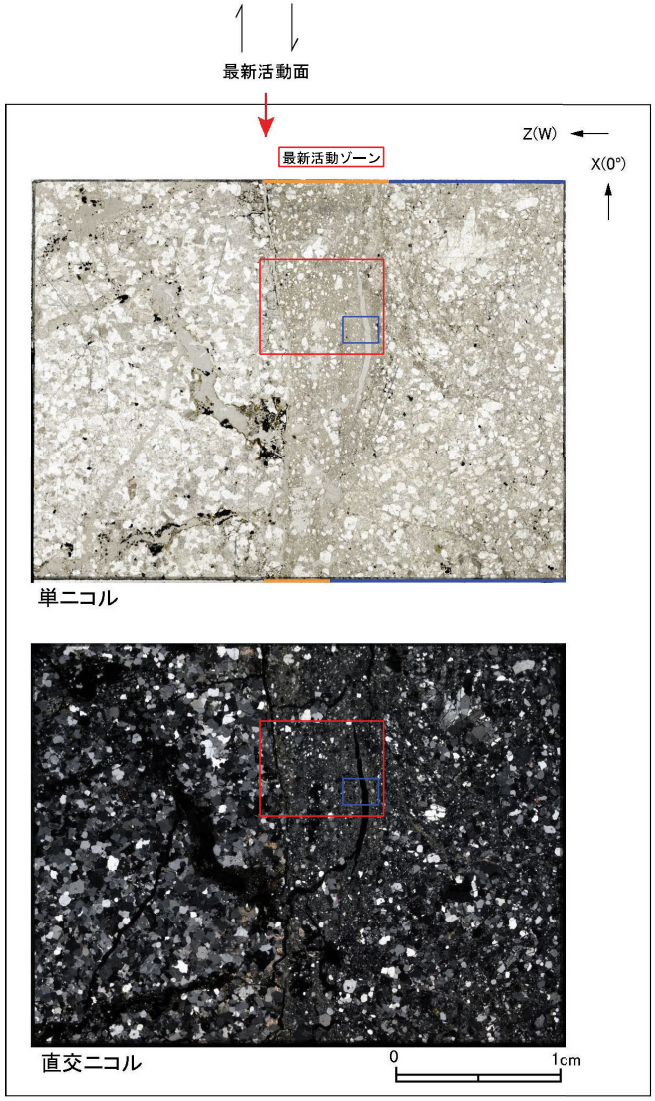


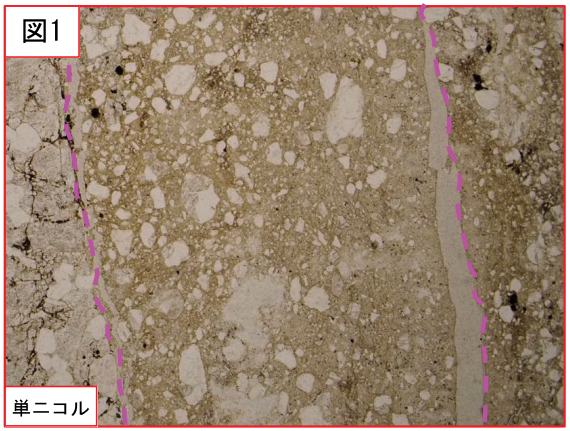


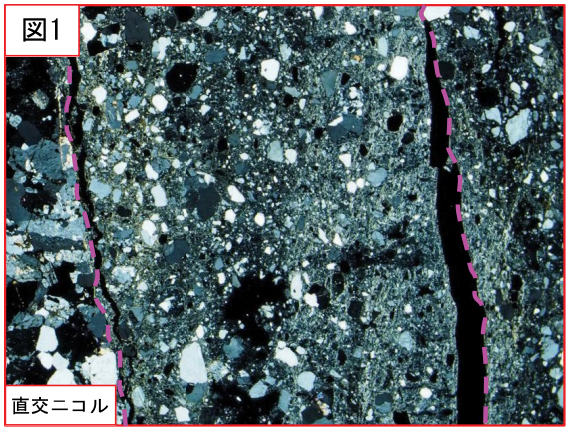


H24-D1-3　深度52.13～52.28m　（2/2）

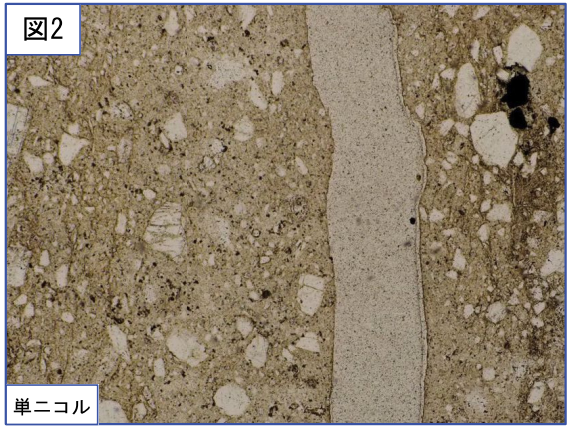
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。（図2）
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。（図1）
- 岩片は少ない。（図2）
- 角ばった岩片が多い。（図2）

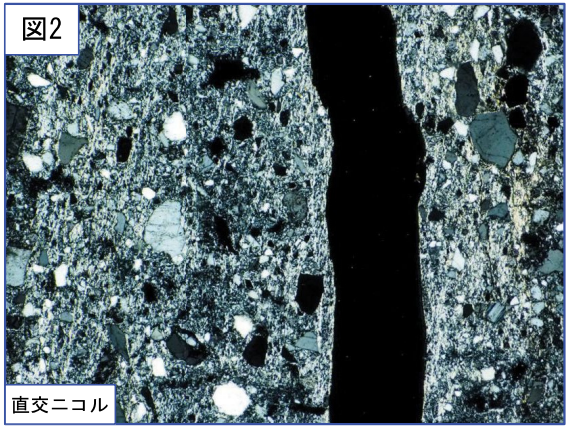






破線は帯状で直線的な範囲を示す。





最新活動面認定根拠(H27-B-3　深度26.70～26.90m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度26.71mのせん断面を最新活動面に認定した。

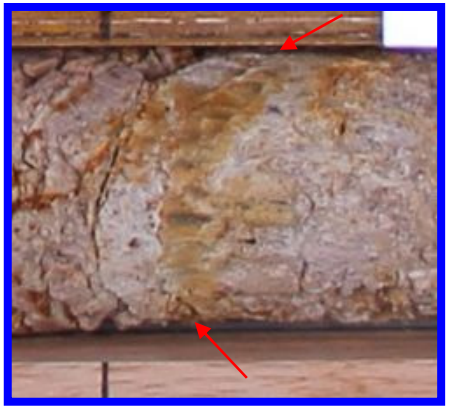
コア写真

26



27

凡例
破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



凡例
最新活動面

青枠部拡大

0　5 cm

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H27-B-3　深度26.70～26.90m）

109のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅の合計は0.2cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ　破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

破砕幅算出資料(H27-B-3　深度28.12～28.14m)

・実測した破砕幅は1.0cmである。

コア写真

28



29

凡例

破砕部範囲※

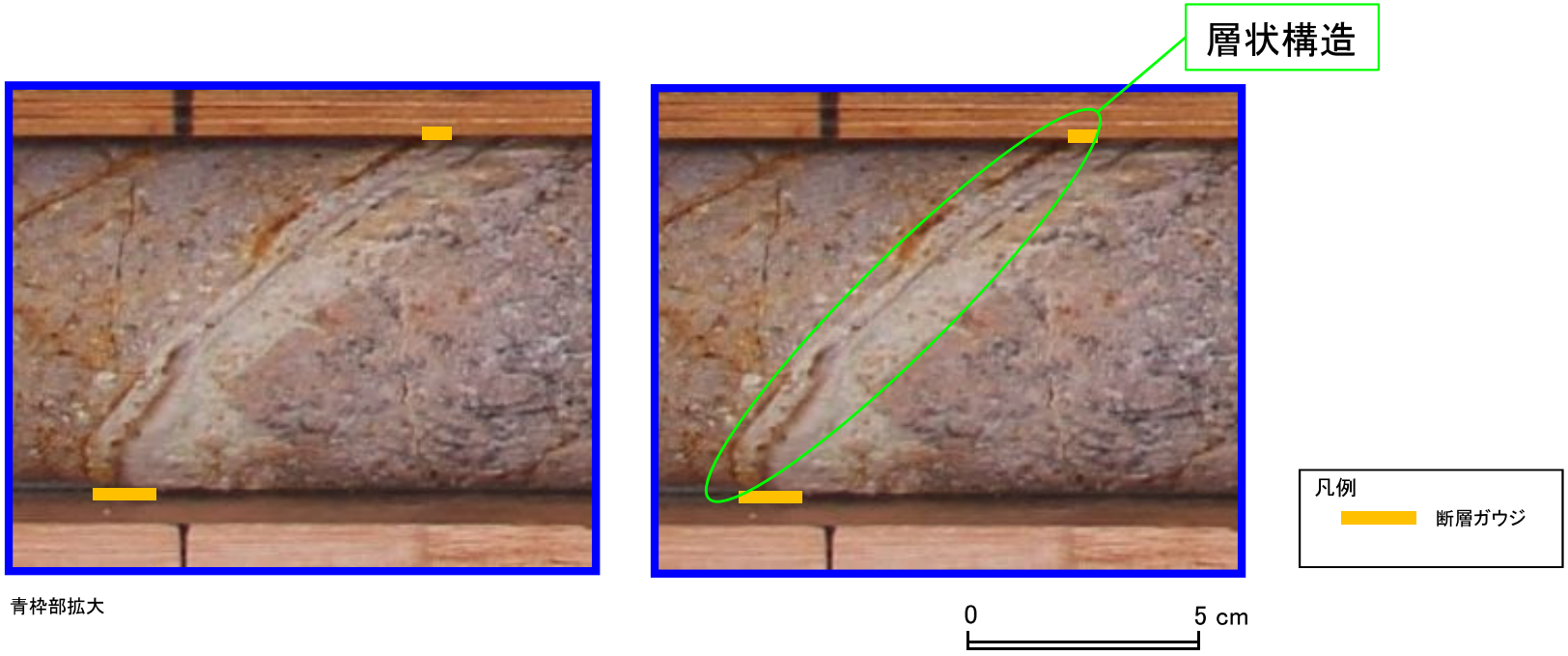
※：写真上は白色で記載

明瞭なせん断構造・変形構造の有無（H27-B-3　深度29.10～29.12m）

・最新活動面に沿った断層ガウジには灰白色と灰黄褐色の層状構造が認められることから，明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とした。

コア写真





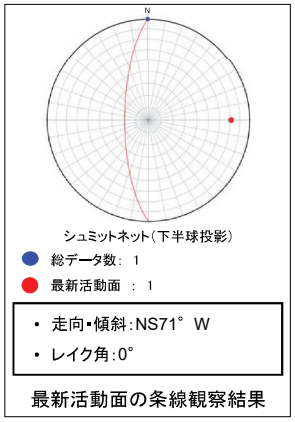
青枠部拡大

H27-B-3　深度42.85～42.91m　(1/2)

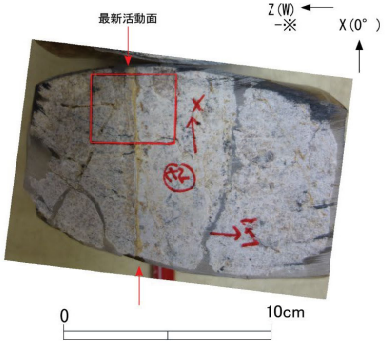
青枠：修正箇所

114のエビデンス（薄片観察結果）　(1/2)

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度42.85m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，断層ガウジと判断した。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。

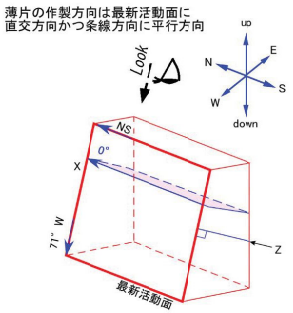


最新活動面の条線観察結果



※切断面に記載されているZ方向は誤り

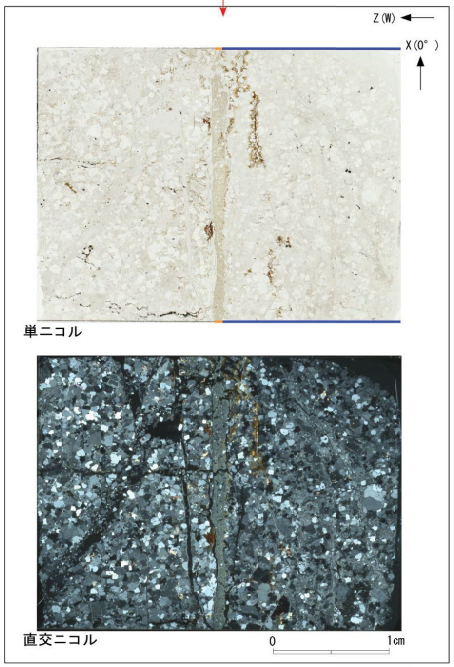
ブロックサンプル



走向・傾斜　NS 71° W

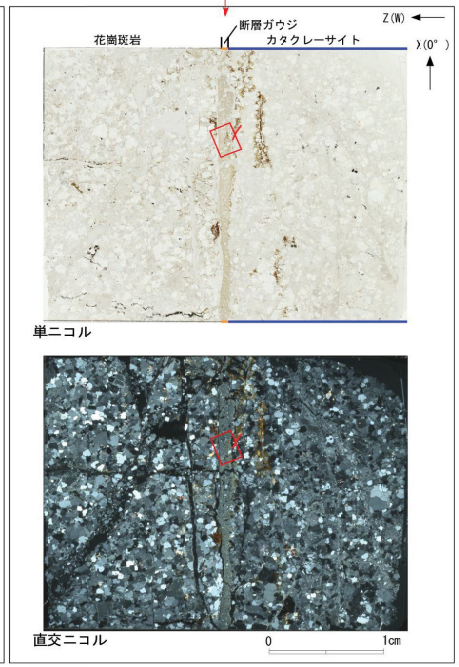
X：条線方向（北向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

最新活動面

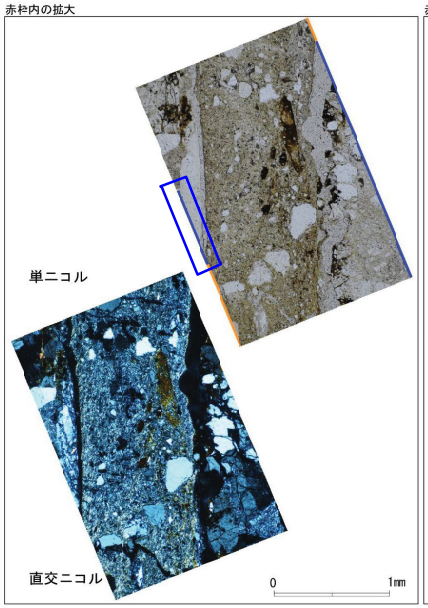


最新活動ゾーン

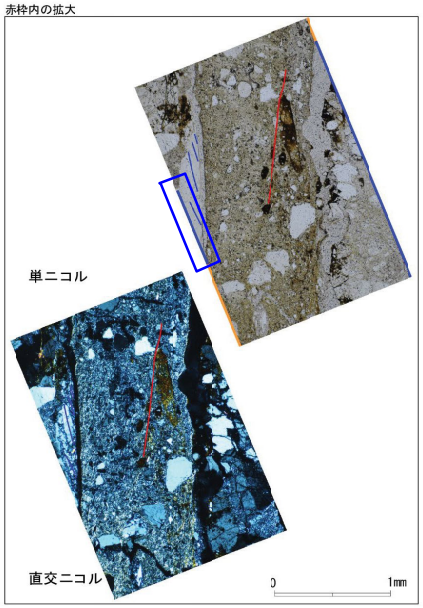
最新活動面

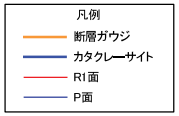


赤枠内の拡大



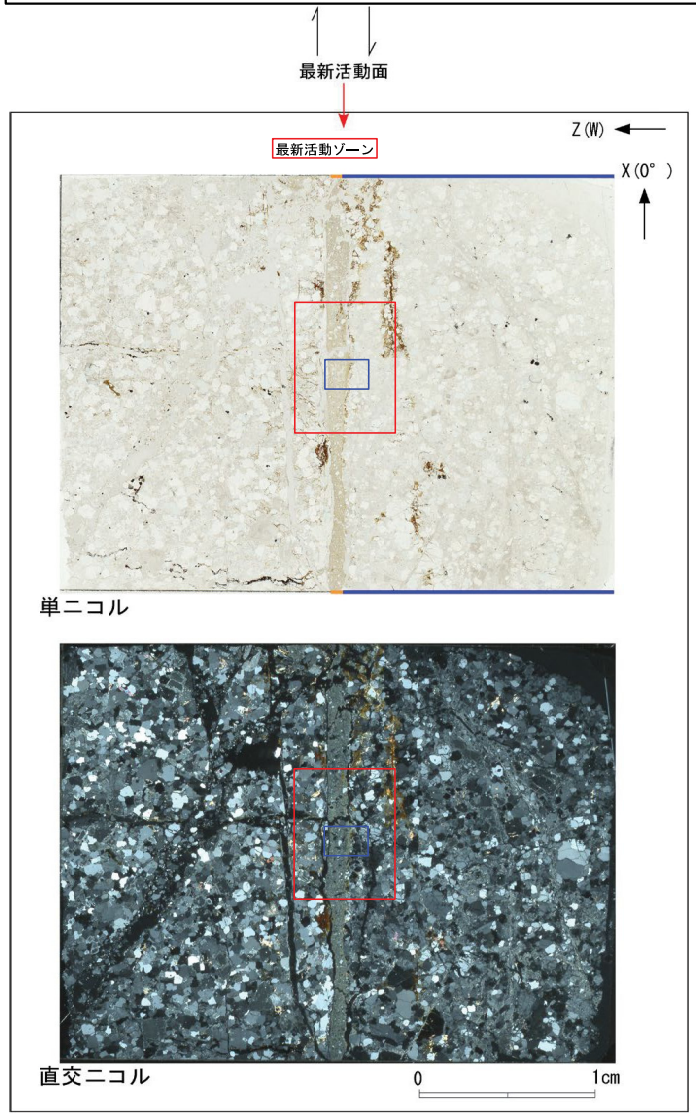
赤枠内の拡大





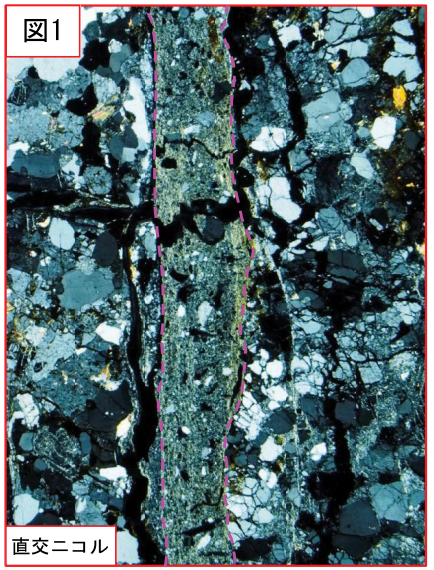
H27-B-3　深度42.85～42.91m　(2/2)

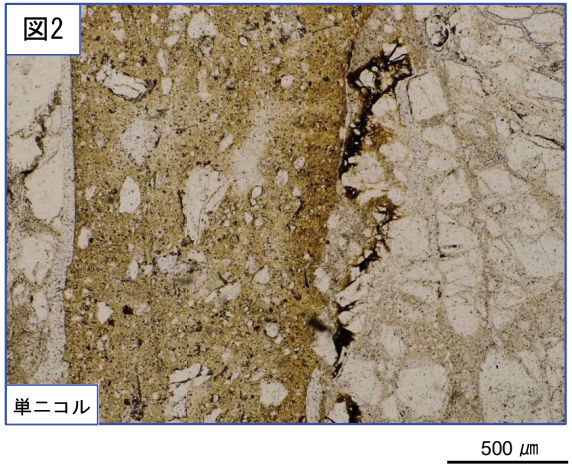
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

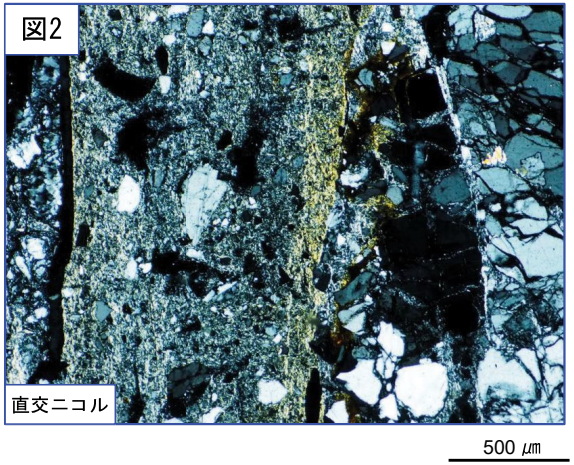




破線は帯状で直線的な範囲を示す。





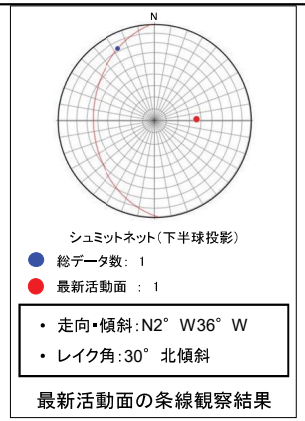


H27-B-3　深度56.69～56.72m　(1/2)

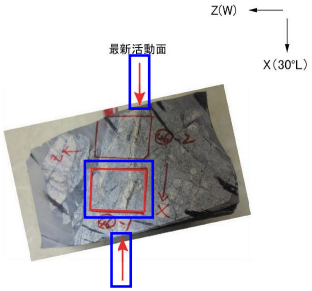
青枠：修正箇所　115，116のエビデンス（薄片観察結果）　(1/2)

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度56.72m）の変位センスは，右ずれを伴う正断層である。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

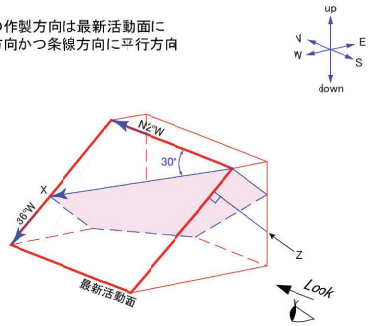


最新活動面の条線観察結果



ブロックサンプル

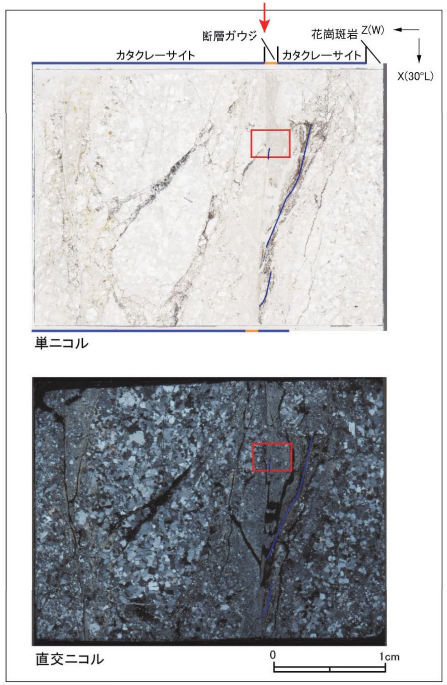
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

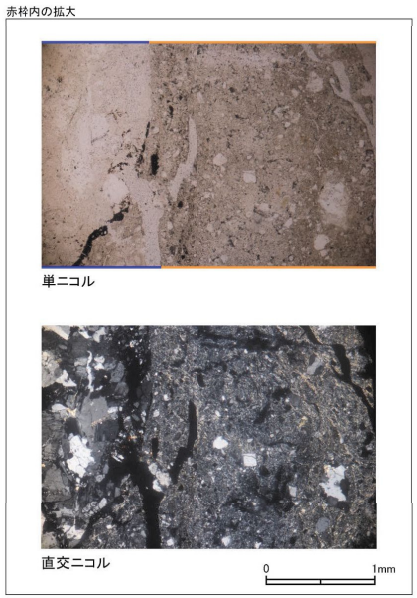


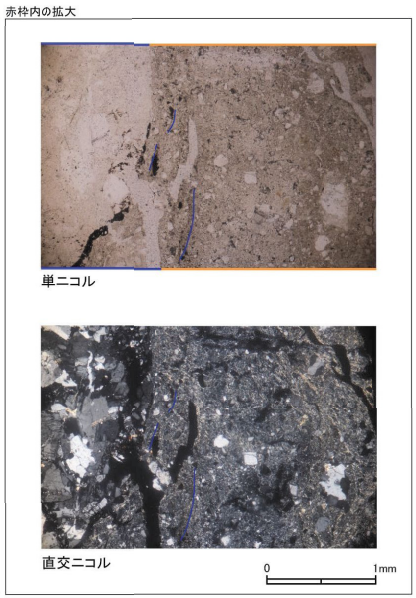
走向・傾斜　N2°W 36°W
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

最新活動面　最新活動ゾーン　最新活動面





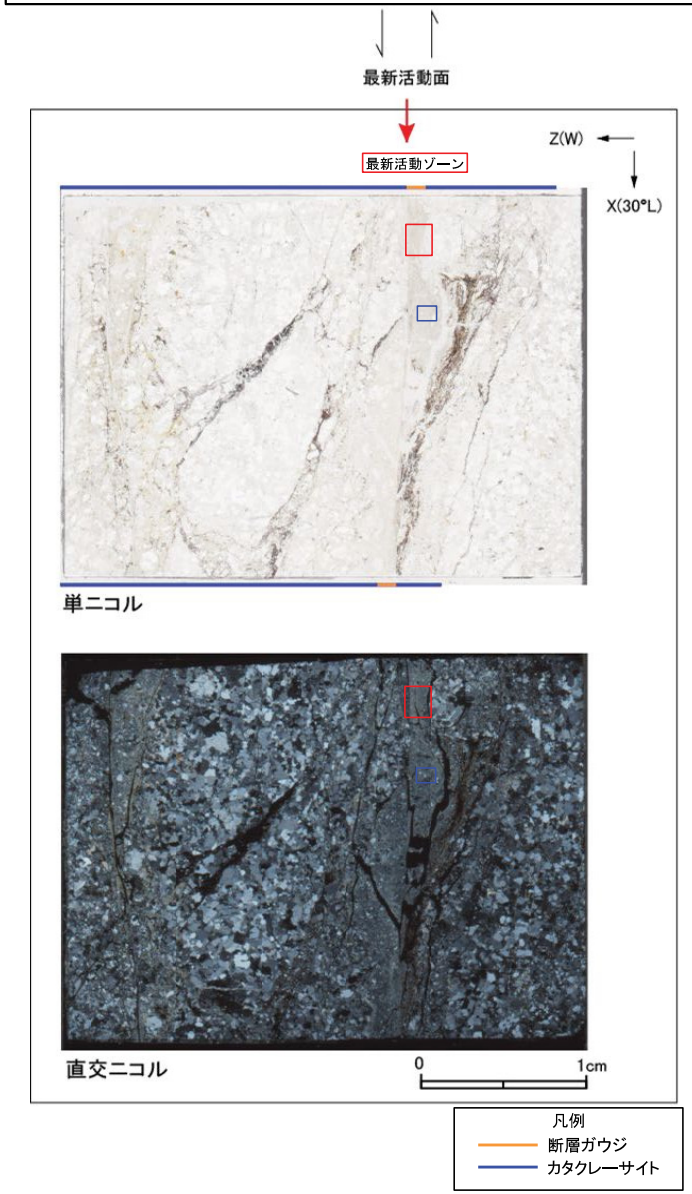




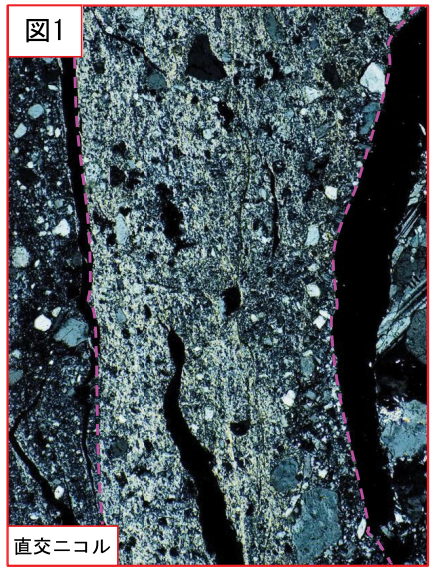
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-3　深度56.69～56.72m（2/2）

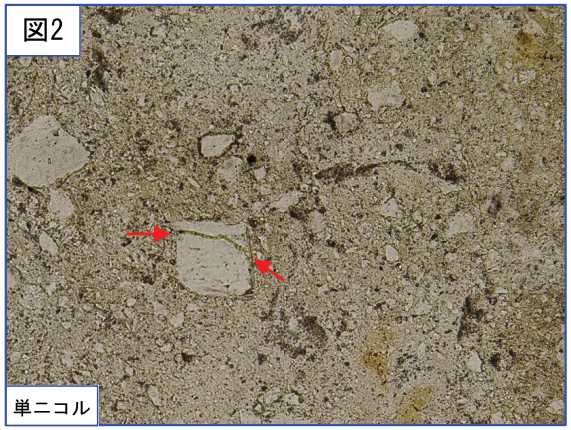
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。（図1）
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。（図1）
- 岩片は少ない。（図1）
- 角ばった岩片が多い。（図1）
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。（図2）

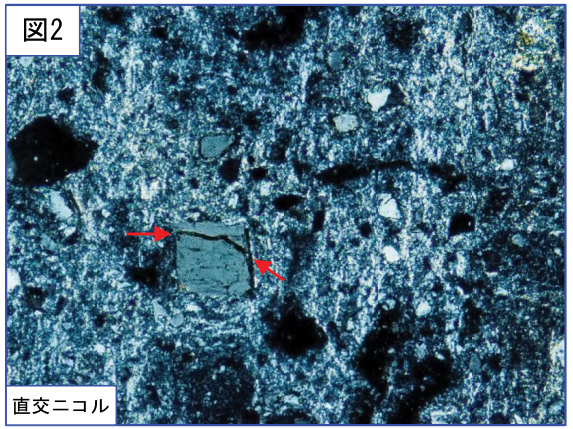






破線は帯状で直線的な範囲を示す。



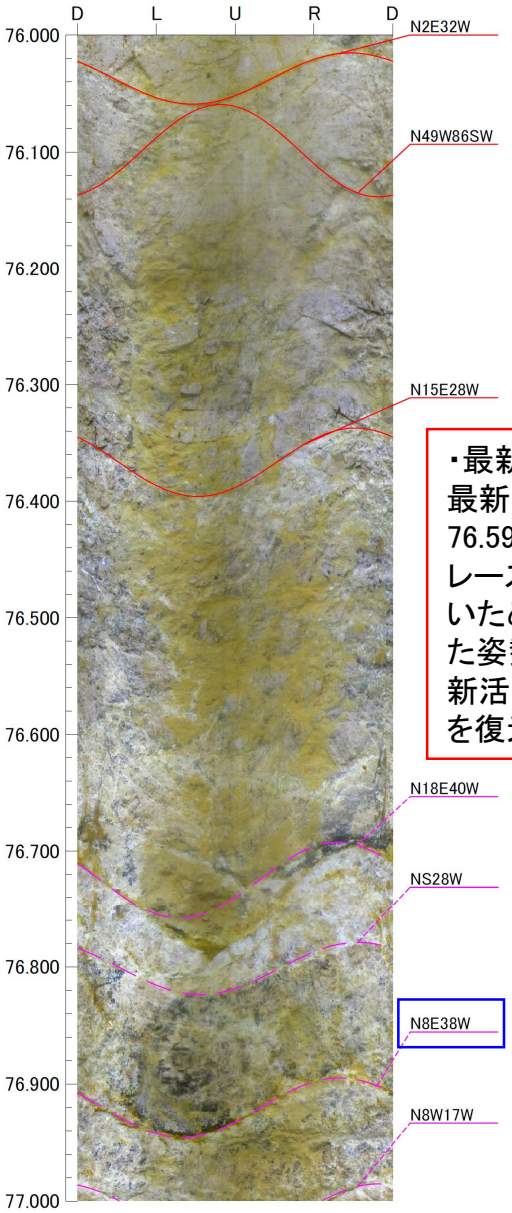


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-3　深度76.59～76.89m）

・H27-B-3孔　深度76.59～76.89mの破砕部は，最新活動面（深度76.59m）に対応するトレース線が確認できないため，破砕部内で似た姿勢の割れ目（N8° E38° W）から最新活動面の走向・傾斜を復元した。

BHTV展開画像



・最新活動面
最新活動面（深度76.59m）に対応するトレース線が確認できないため，破砕部内で似た姿勢の割れ目から最新活動面の走向・傾斜を復元した。

コア写真



コア写真（再撮影）

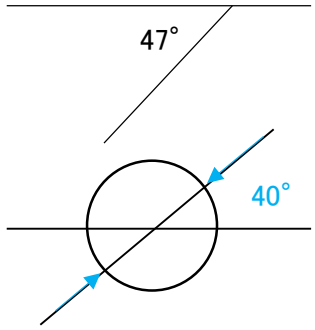
凡例

破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載

最新活動面

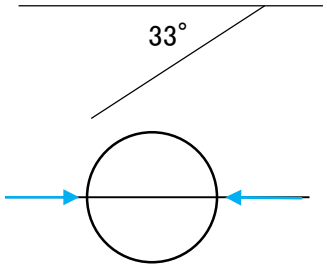
N8° E38° Wの割れ目

最新活動面



面の最大傾斜方向

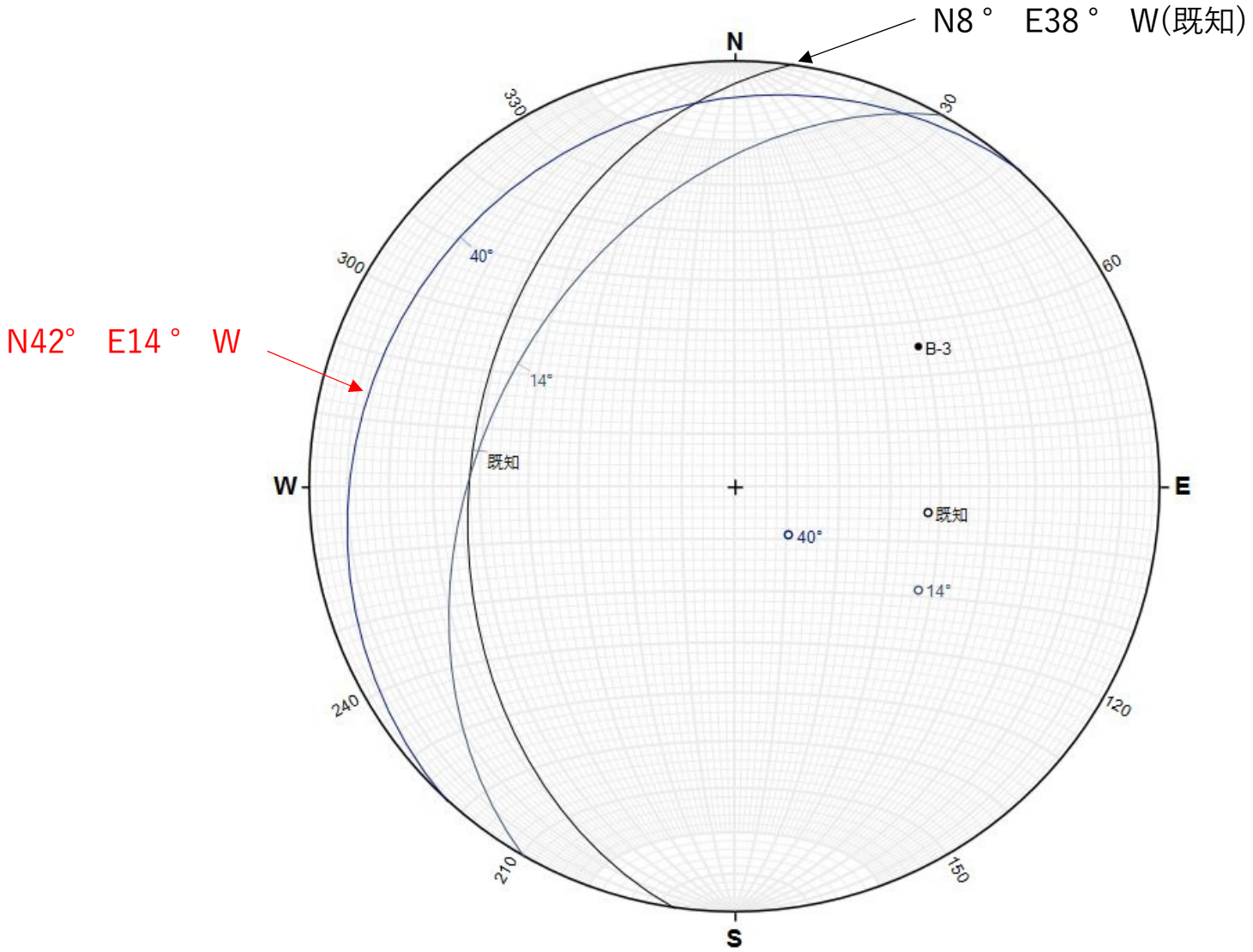
N8° E38° Wの割れ目



面の最大傾斜方向

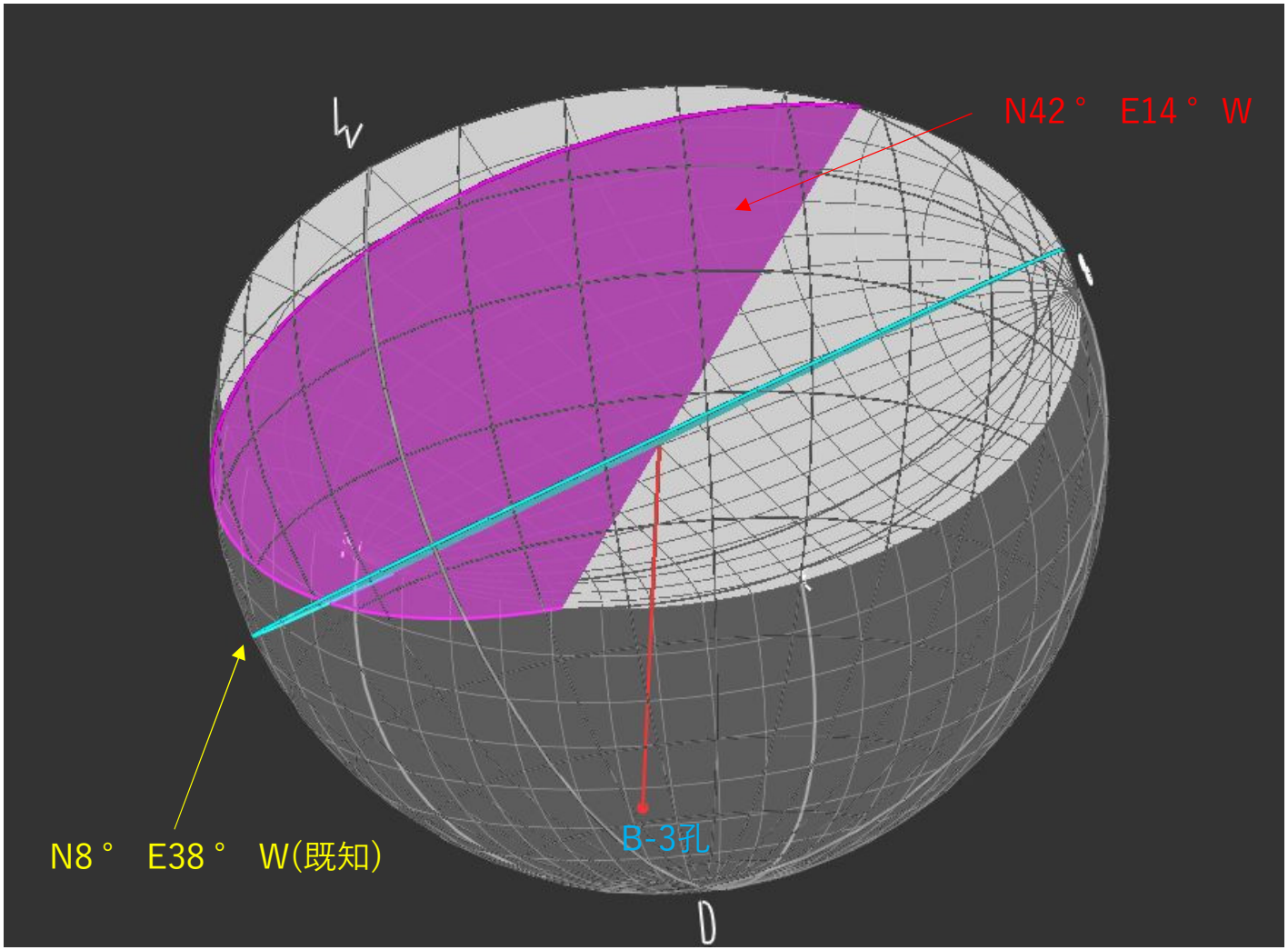
H27-B-3孔　深度76.59m の最新活動面の走向・傾斜

・H27-B-3孔　深度76.59～76.89mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜を，走向・傾斜が既知の割れ目の姿勢から復元を行った。
・走向・傾斜が既知の割れ目（N8° E38° W）を，最新活動面の見掛けの傾斜角の差14°，最大傾斜方向のなす角40° 回転し，最新活動面の走向・傾斜N42° E14° Wを推定した。



H27-B-3孔　深度76.59m の最新活動面の走向・傾斜

・H27-B-3孔　深度76.59～76.89mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜を，走向・傾斜が既知の割れ目の姿勢から復元を行った。
・走向・傾斜が既知の割れ目（N8°E38°W）を，最新活動面の見掛けの傾斜角の差14°，最大傾斜方向のなす角40°回転し，最新活動面の走向・傾斜N42°E14°Wを推定した。



条線観察結果（H27-B-3孔 深度76.59m）

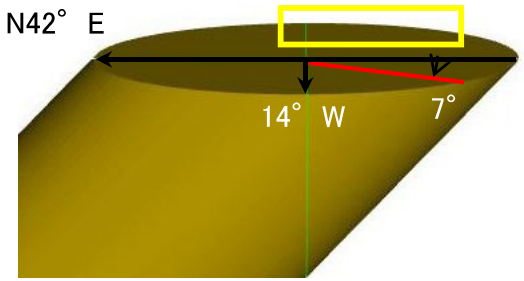
H27-B-3孔 深度76.59mの断層面の走向・傾斜はN42° E14° W※であり，7Rの条線が認められる（※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから，同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用）。

コア写真



観察模式図

※上盤側から観察

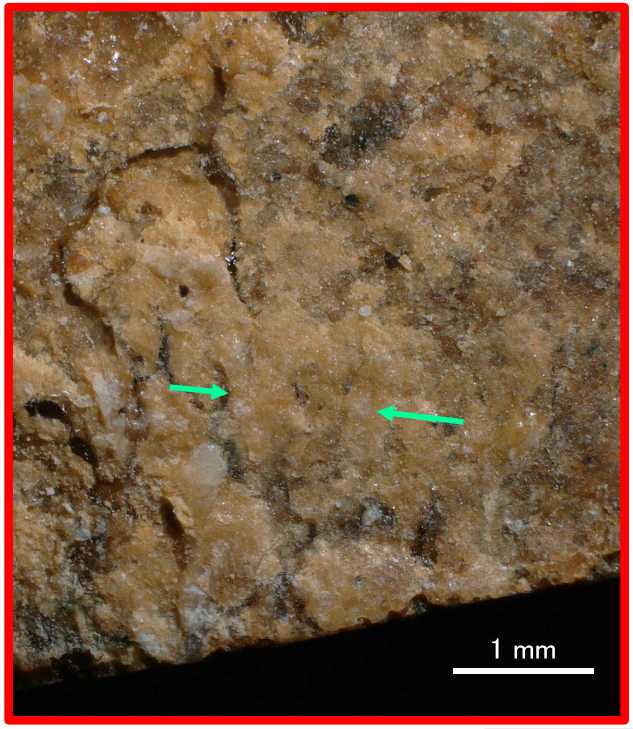


凡 例
最新活動面
レイク

条線観察位置拡大



赤枠内拡大

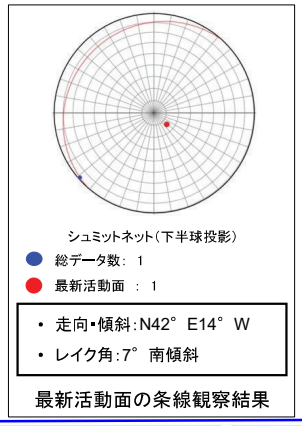


凡 例
条線方向

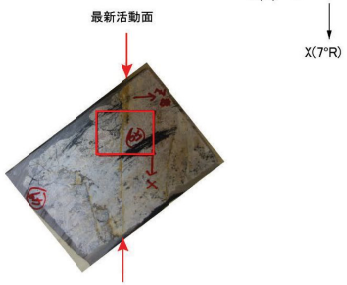
H27-B-3　深度76.59～76.89m　（1/2）

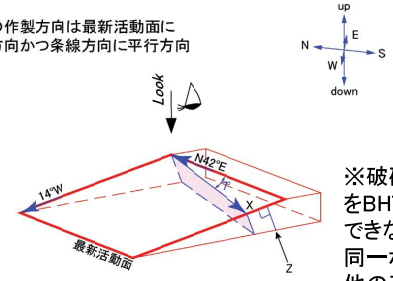
青枠：変位センスに関する部分　緑枠：修正箇所

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面（深度76.59m）の変位センスは，右ずれ成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから，断層ガウジと判断した。
- （断層ガウジ）せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。



最新活動面の条線観察結果





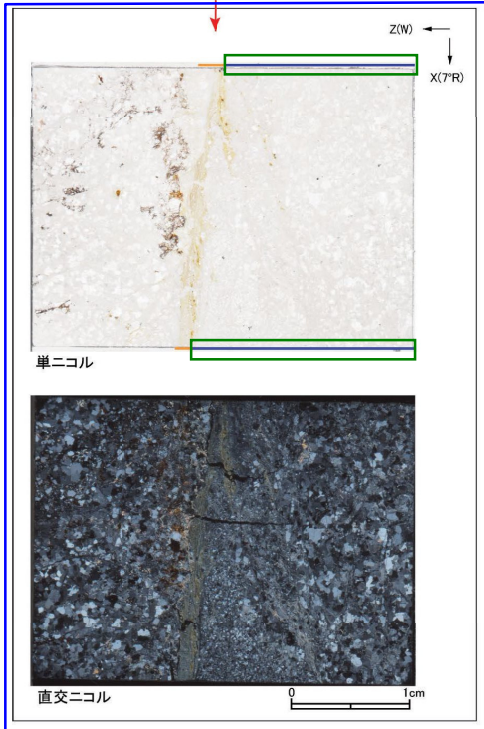
※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから，同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用している。

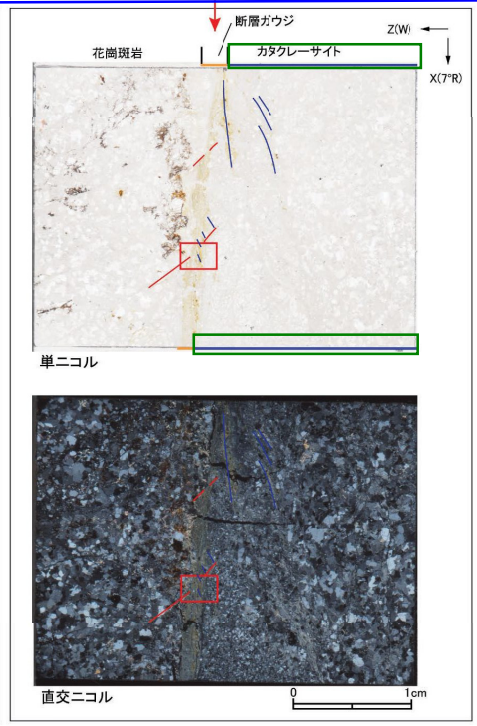


ブロックサンプル
※切断面に記載されているZ方向は誤り

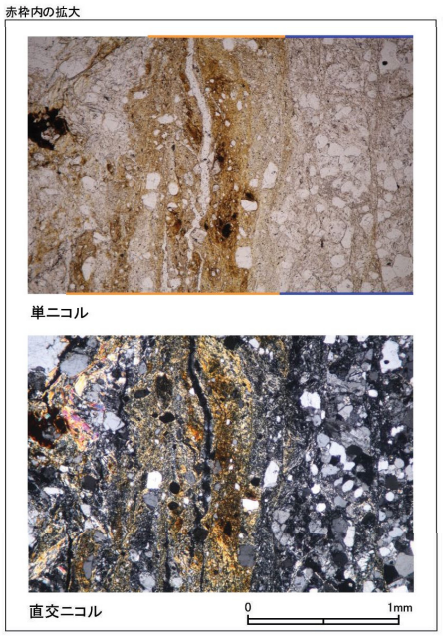
走向・傾斜　N42°E 14°W
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

最新活動面　最新活動ゾーン　最新活動面

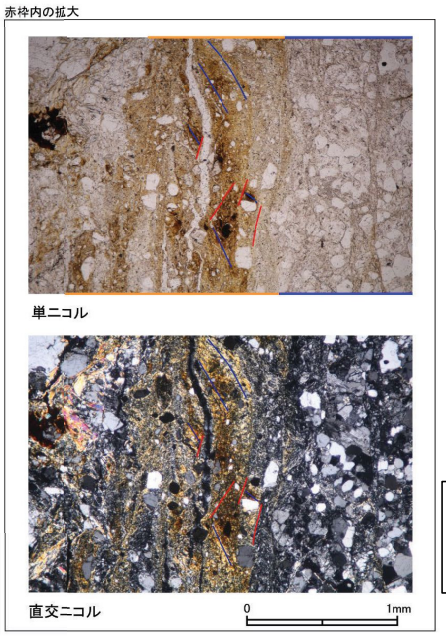


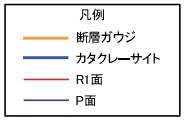


赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

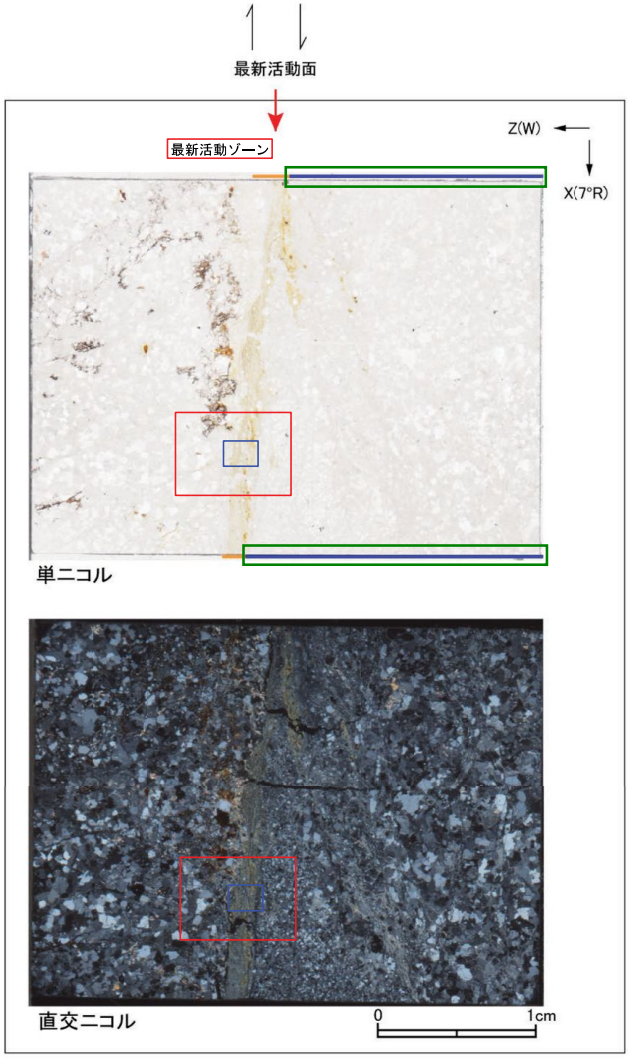


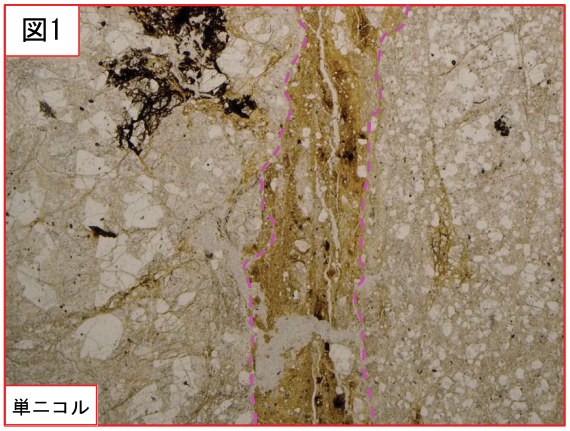


H27-B-3　深度76.59～76.89m　（2/2）

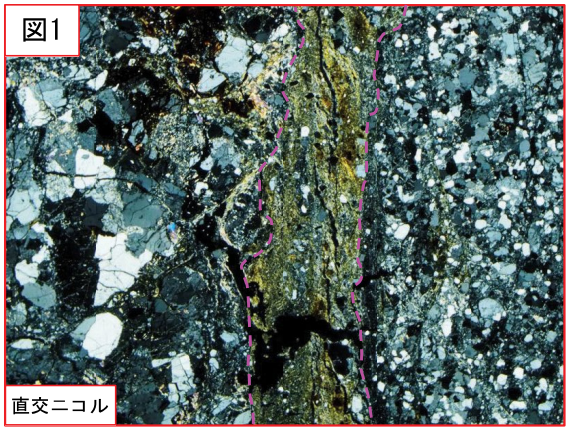
緑枠：修正箇所

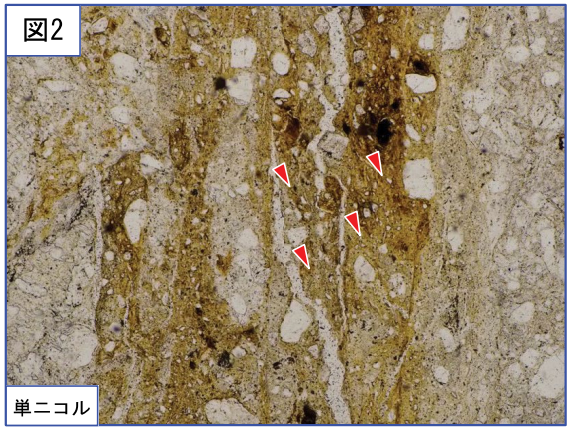
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。（図2）
- 基質は粘土鉱物を主体とする。（図2）
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。（図1）
- 岩片は少ない。（図2）
- 丸みを帯びている岩片が多い。（図2）



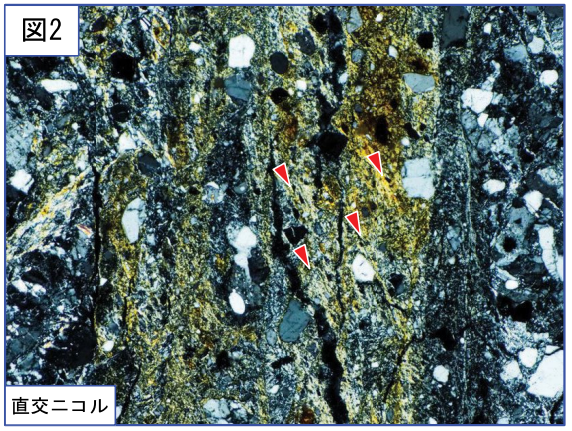


破線は帯状で直線的な範囲を示す。





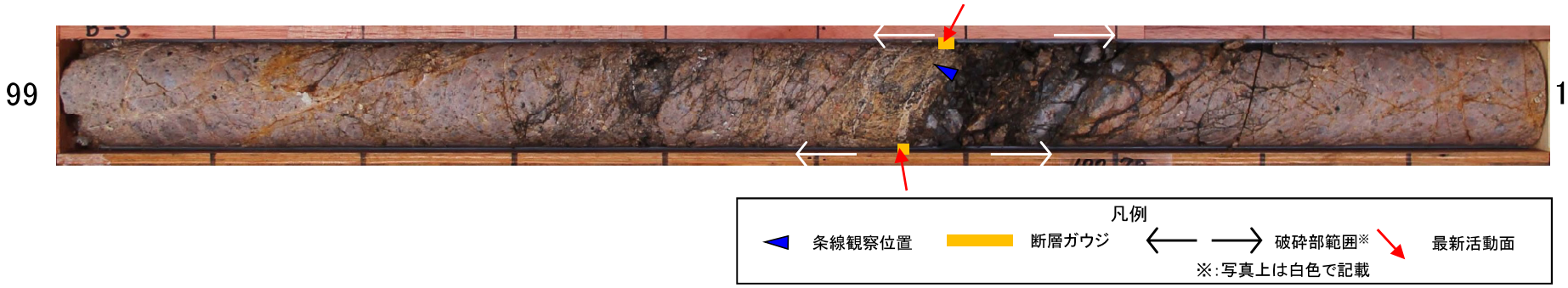
赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



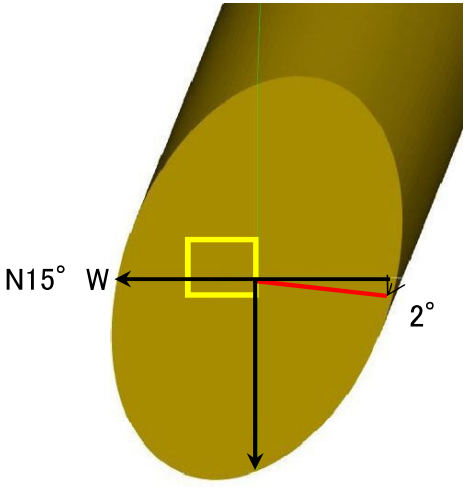
条線観察結果(H27-B-3孔 深度99.56m)

H27-B-3孔 深度99.56mの断層面の走向・傾斜はN15° W89° Eであり，2Rの条線が認められる。

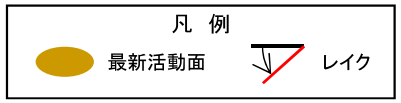
コア写真



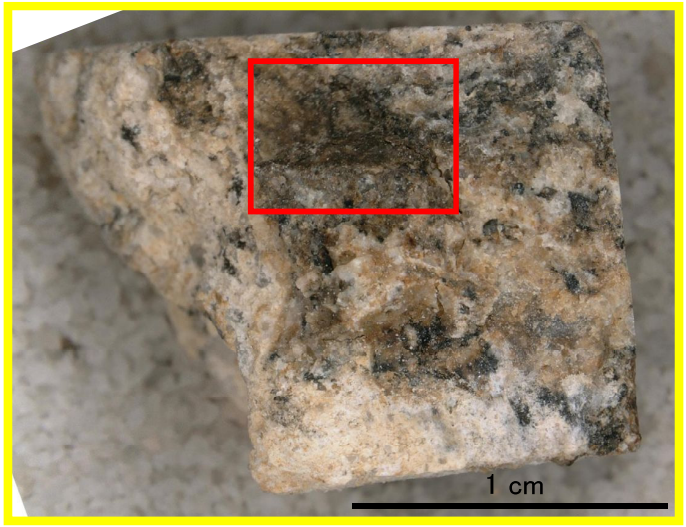
観察模式図



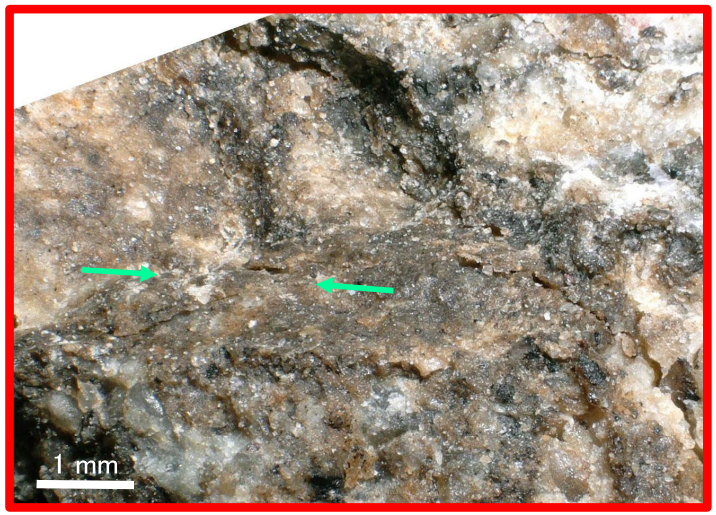
※上盤側から観察



条線観察位置拡大



赤枠内拡大





最新活動面認定根拠(H27-B-3　深度119.11～119.25m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度119.18mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
破砕部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



青枠部拡大

0　5 cm

凡例
最新活動面

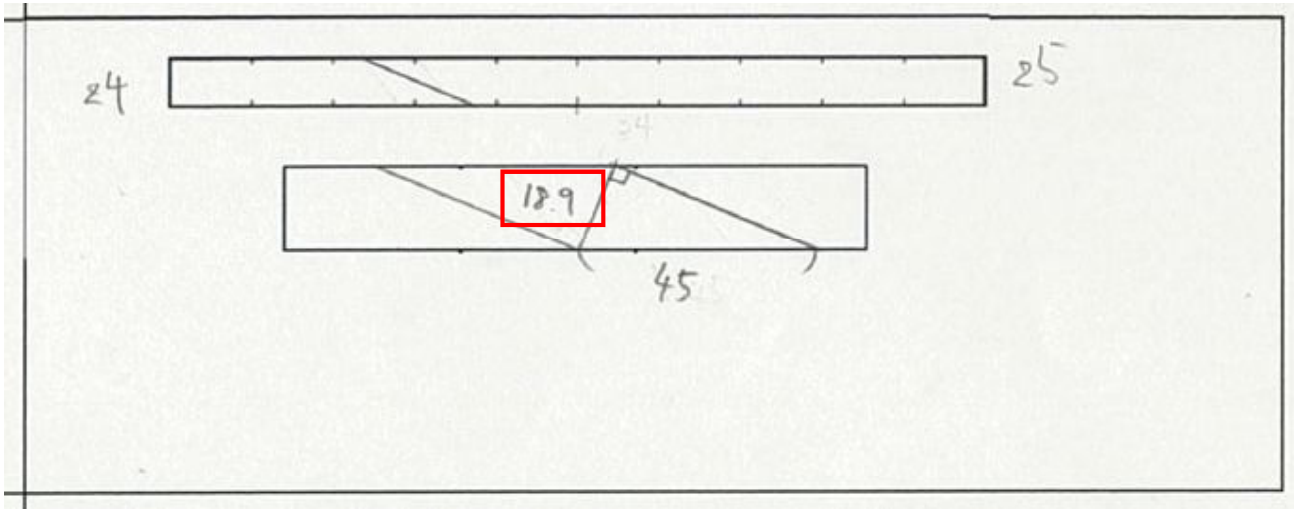
破砕幅算出資料(H27-B-4’　深度23.97～24.42m)

・破砕部の区間長が長く，破砕幅を実測できないことから，図化した資料から算出した。
・算出した破砕幅は18.9cmである。

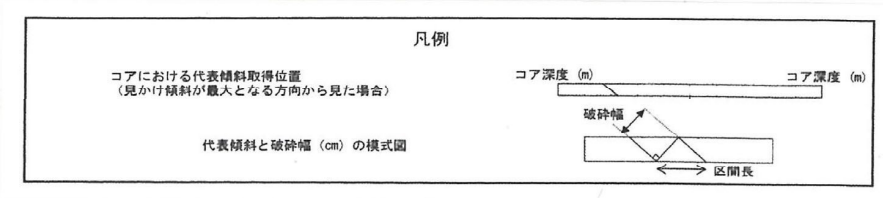
コア写真



凡例
破砕部範囲※　代表傾斜取得位置
※:写真上は白色で記載



破砕幅算出図



破砕幅算出資料(H27-B-4　深度29.74～29.78m)

・実測した破砕幅は2.3cmである。

コア写真

29



30

凡例

破砕部範囲※

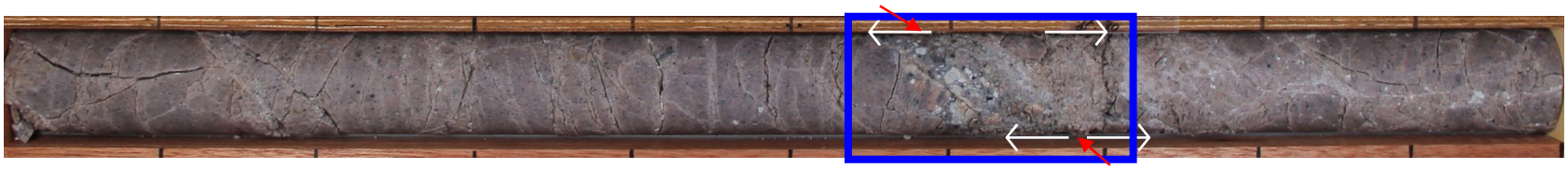
※:写真上は白色で記載

最新活動面認定根拠(H27-B-4　深度65.59～65.72m)

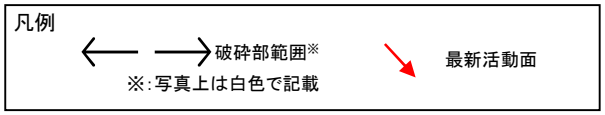
・細粒部を伴い最も直線的であることから，深度65.65mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

65

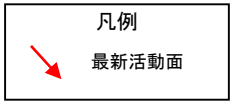


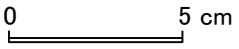
66





青枠部拡大

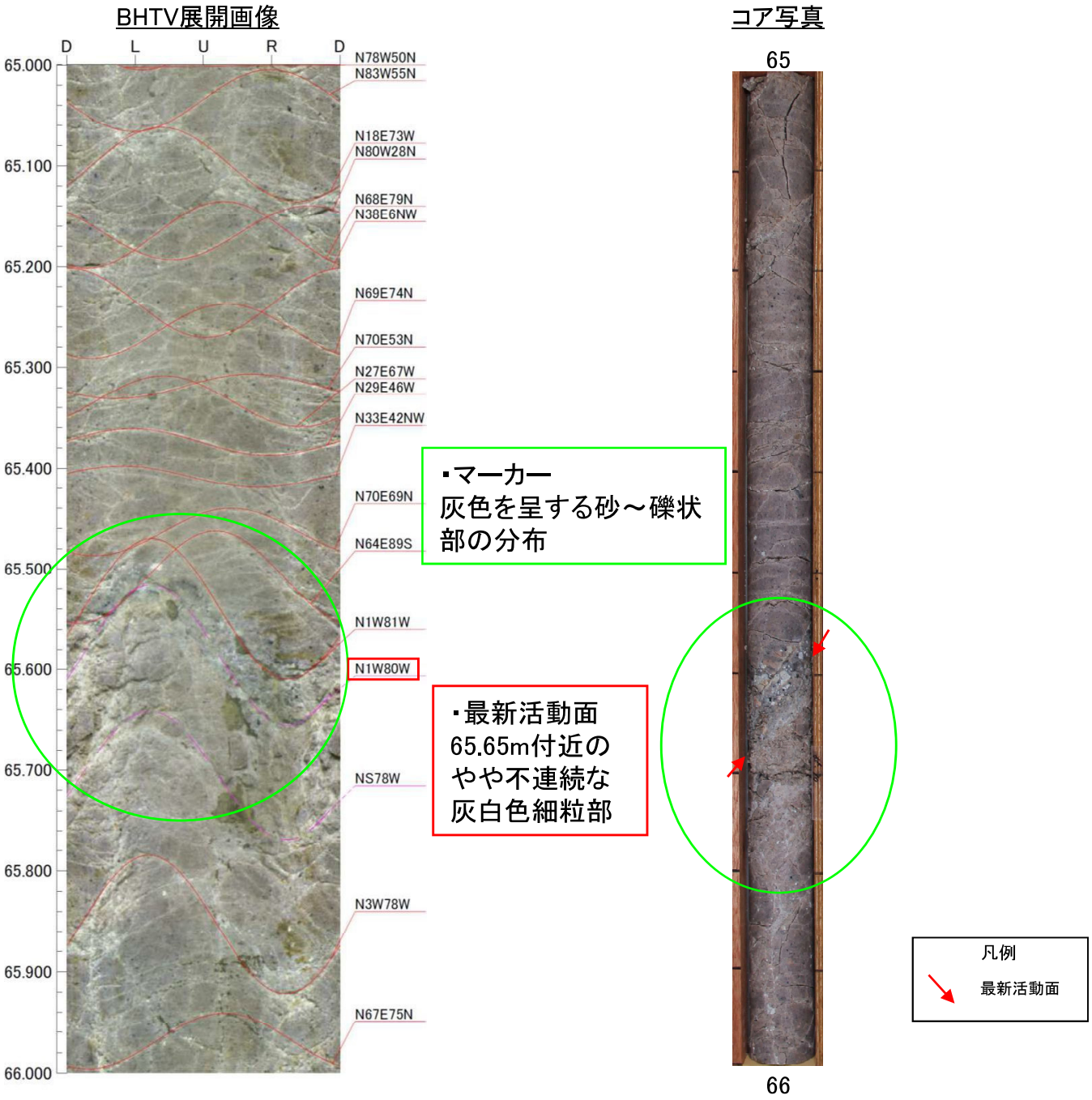




ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-4　深度65.59～65.72m）

132のエビデンス（走向・傾斜）

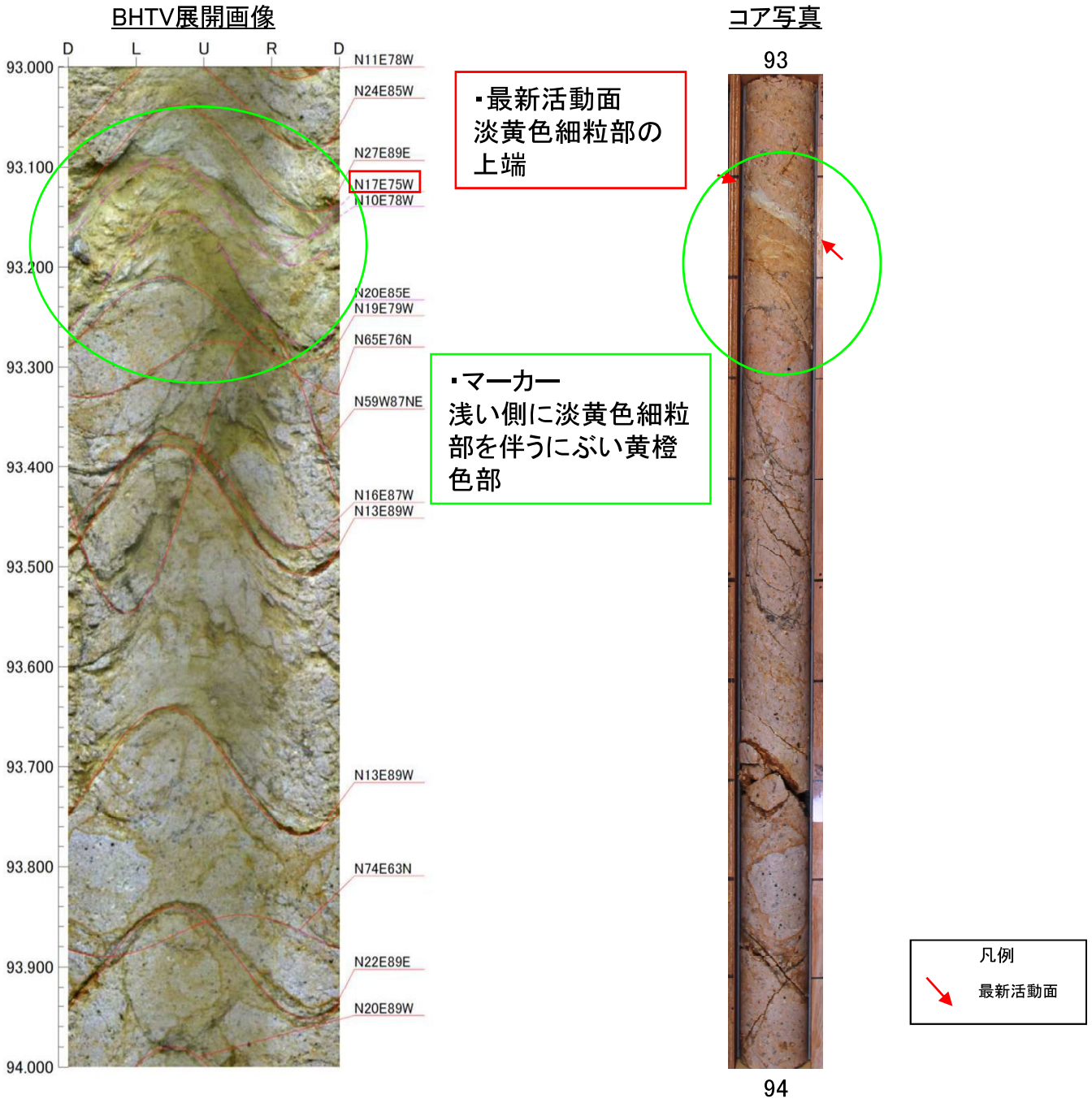
・H27-B-4　深度65.59～65.72mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN1°　W80°　Wである。



ボアホールカメラ展開画像との対比結果（H27-B-4　深度93.13～93.22m）

133のエビデンス（走向・傾斜）

・H27-B-4　深度93.13～93.22mの破砕部の最新活動面の走向・傾斜はN17°E75°Wである。



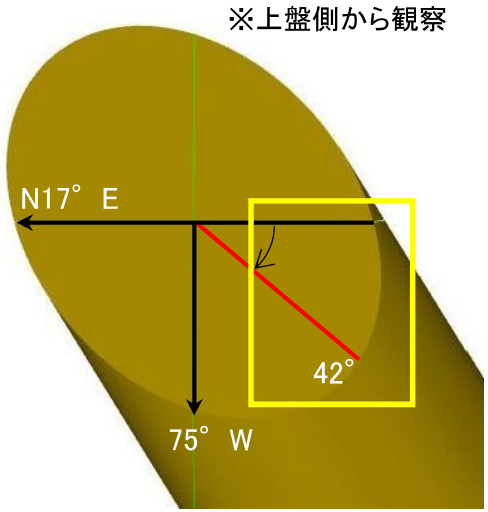
条線観察結果（H27-B-4孔 深度93.13 m）

H27-B-4孔 深度93.13mの断層面の走向・傾斜はN17° E75° Wであり，42Rの条線が認められる．

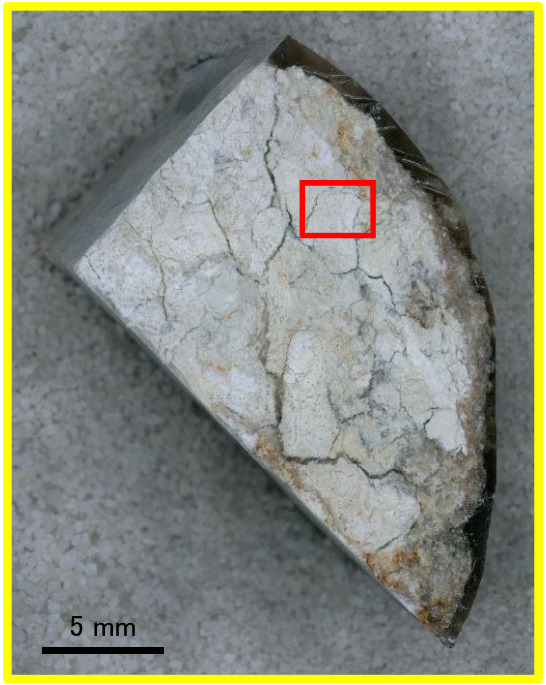
コア写真



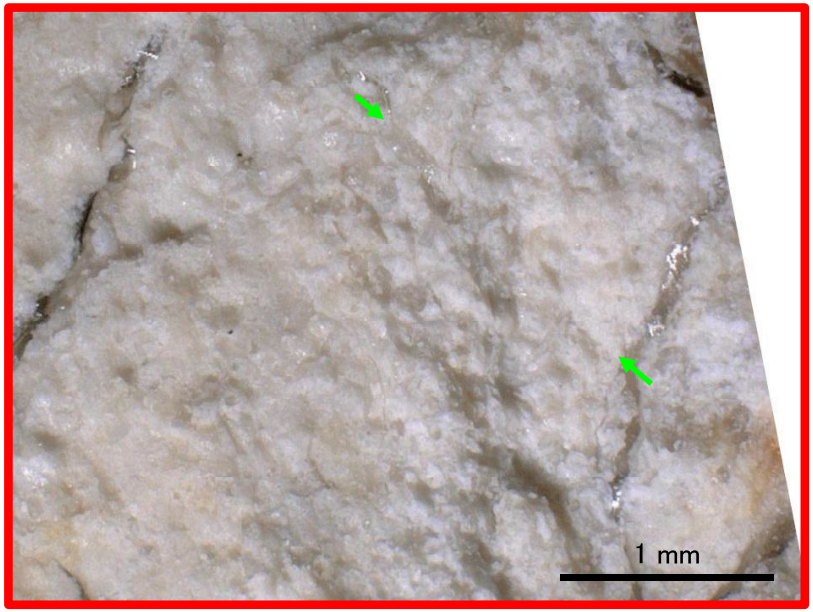
観察模式図



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料（H24-D1-5　深度47.47～47.89m）

135のエビデンス（ガウジ幅）

・実測した断層ガウジの幅は0.6cmである。

コア写真

47



48

凡例

断層ガウジ　←　→　破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

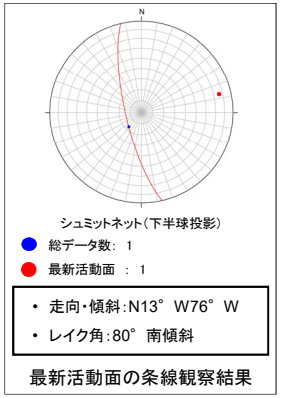
0　5 cm

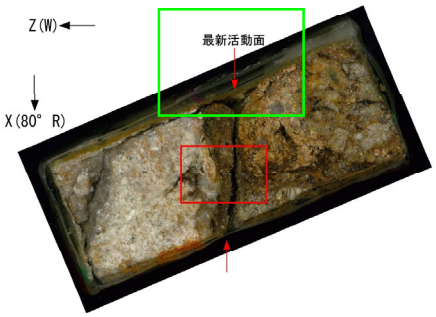
修正前

K断層　薄片試料観察（D-1トレンチLカットピット）

D-1トレンチLカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは，逆断層成分が卓越する。

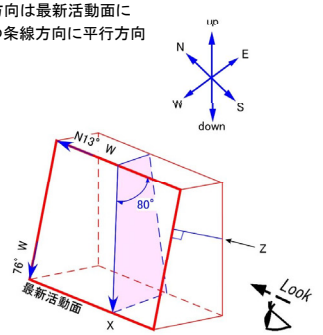
修正箇所：緑色枠（令和3年7月16日提出資料において修正）
橙色枠（今回修正）





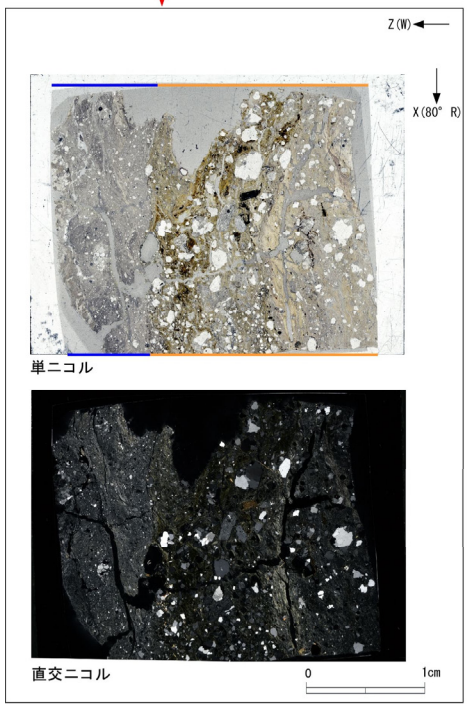
ブロックサンプル

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

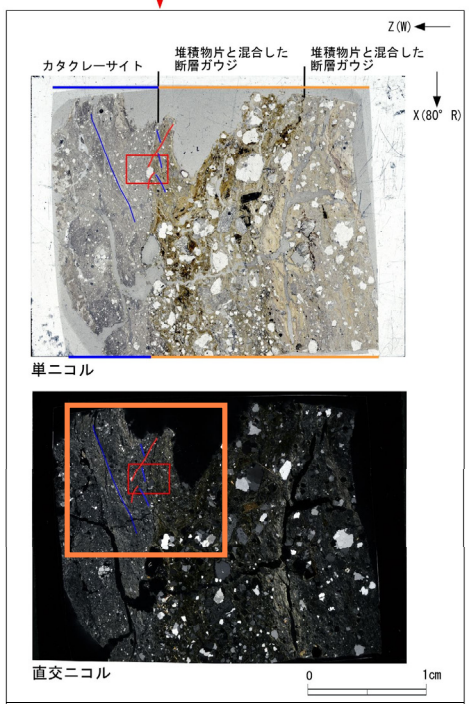


走向・傾斜 N13° W76° W
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

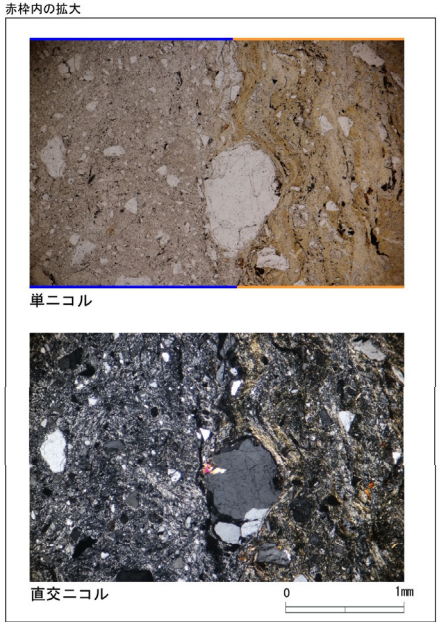
最新活動面



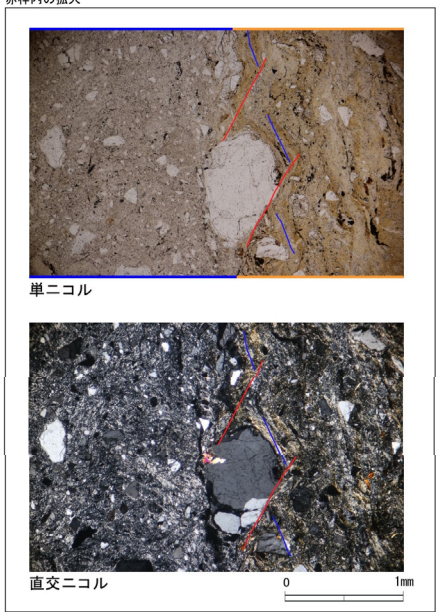
最新活動面



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

修正前

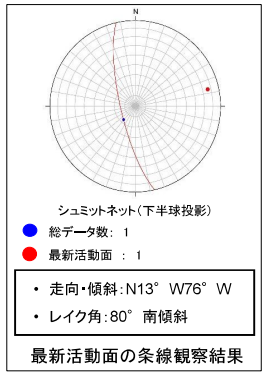
令和3年7月16日提出資料　補足説明資料3
136（薄片観察結果）修正箇所：橙色枠

第833回審査会合
机上配布資料1　修正

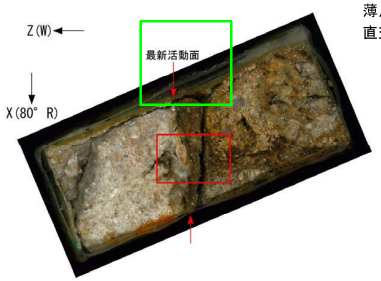
D-1トレンチLカットピット　K断層(1/2)

・D-1トレンチLカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは，逆断層成分が卓越する。
・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し，最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして，断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部は帯状で直線的である。
- 角ばった堆積物片が多い。

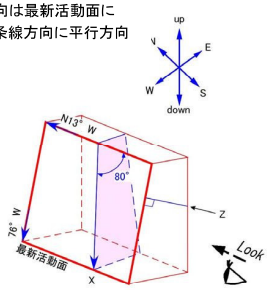


最新活動面の条線観察結果

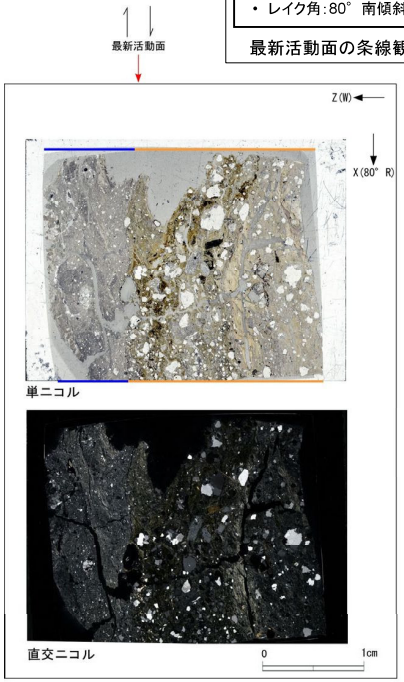


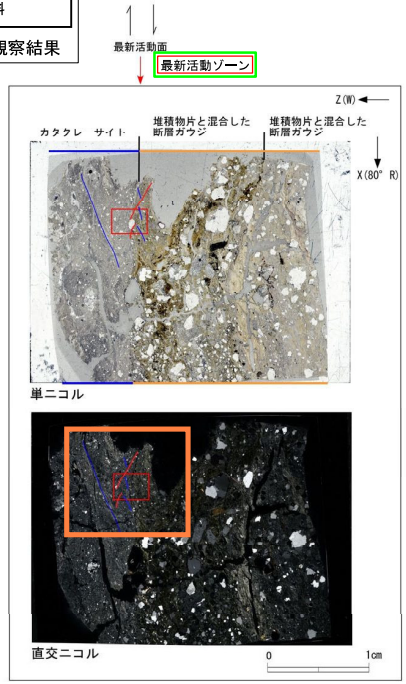
ブロックサンプル

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

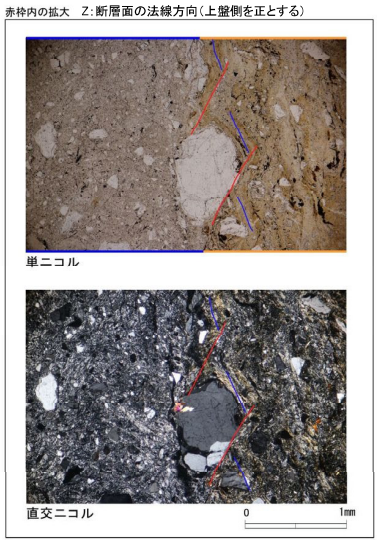


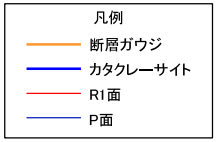
走向・傾斜 N13° W76° W
X：条線方向（下向きを正とする）











補足3-18

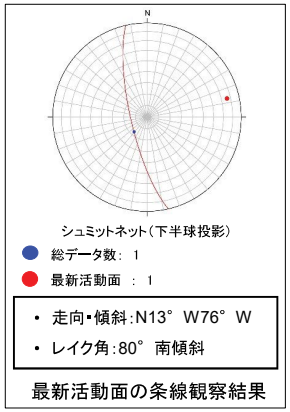
D-1トレンチLカットピット　K断層（1/2）

136, 137（薄片観察結果）（1/2）
緑枠：ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印関する部分
橙色枠：R1，P面の位置に関する部分

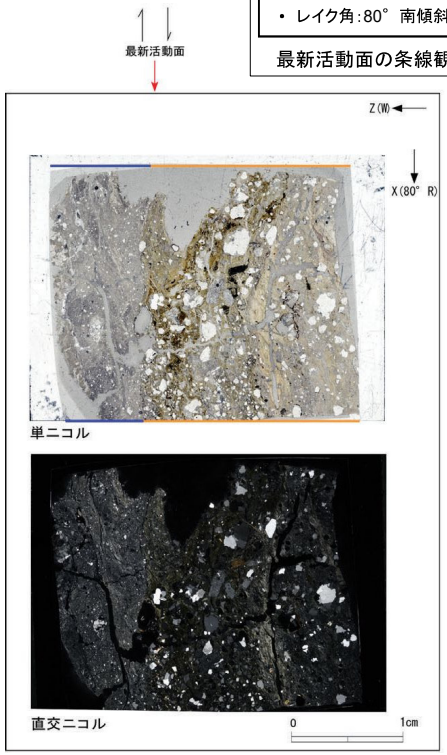
修正後

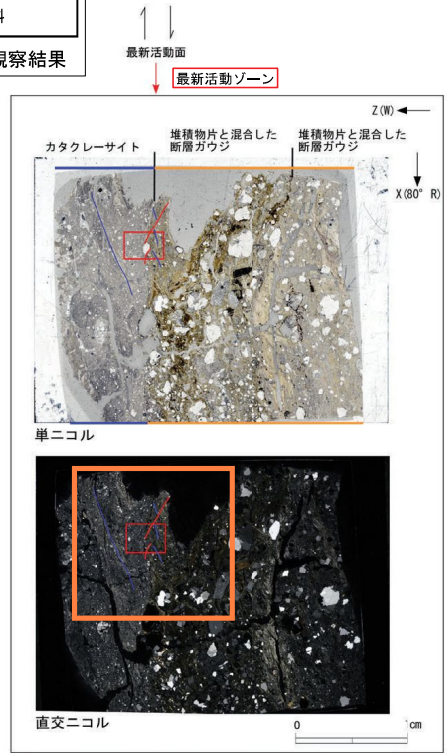
・D-1トレンチLカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは，逆断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

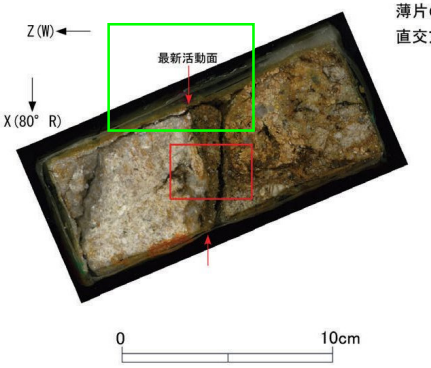
- （断層ガウジ）せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部は帯状で直線的である。
- （カタクレーサイト）角ばった堆積物片が多い。



最新活動面の条線観察結果

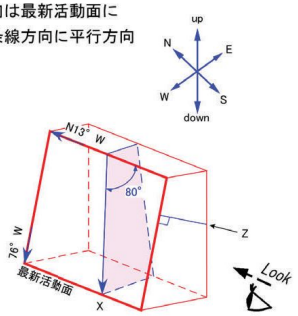




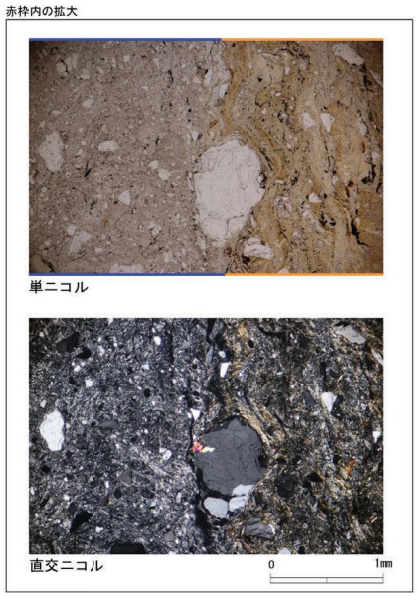


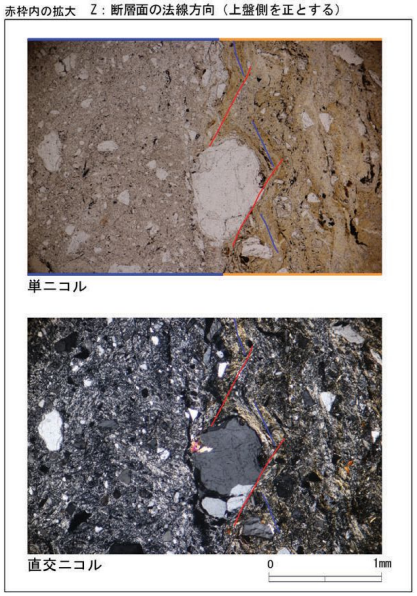
ブロックサンプル

薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N13° W76° W
X：条線方向（下向きを正とする）
Z：断層面の法線方向（上盤側を正とする）

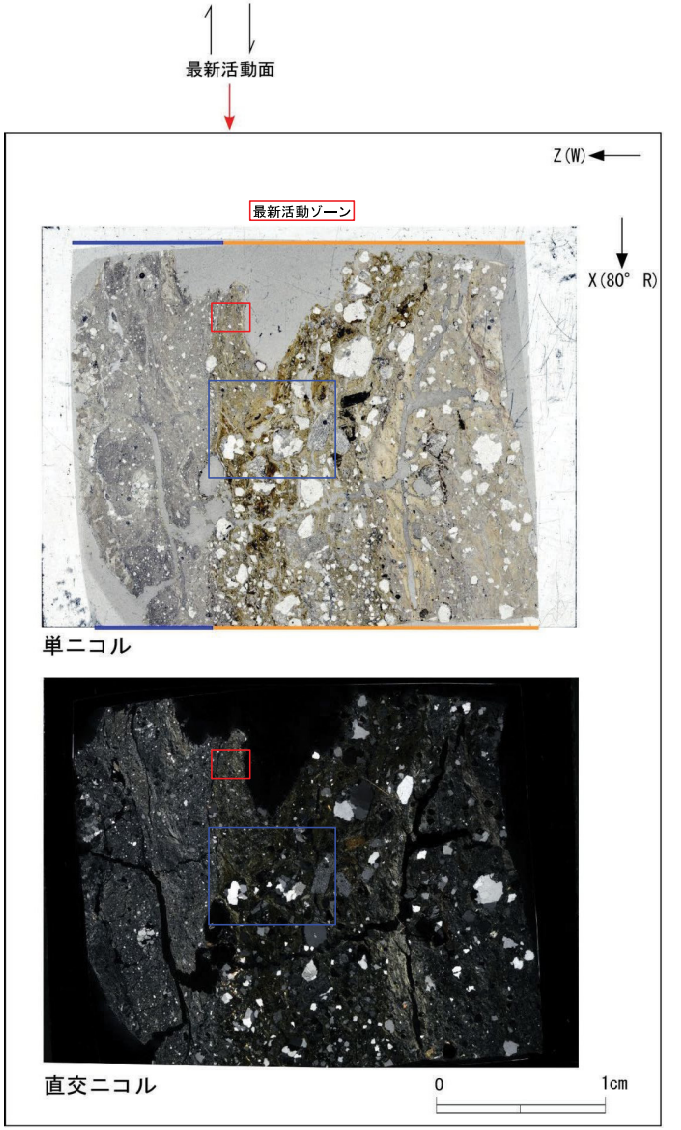


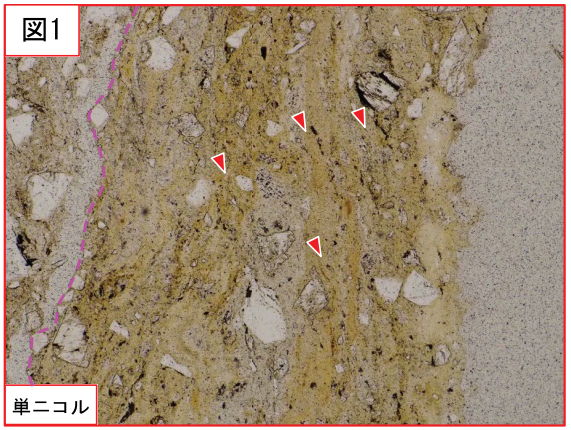


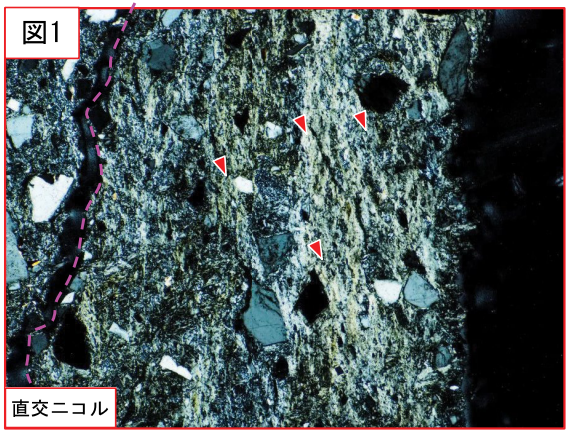
凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

D-1トレンチLカットピット　K断層(2/2)

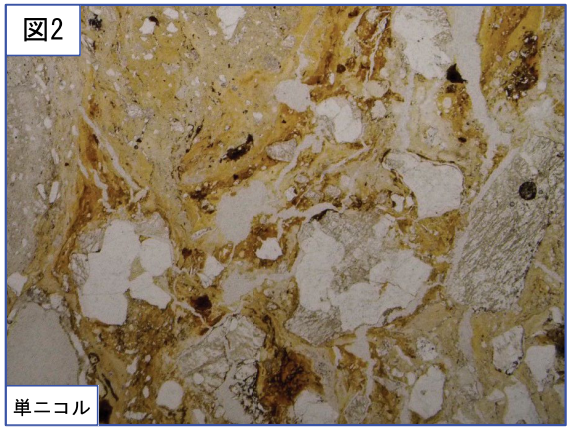
・最新活動ゾーンには，以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部は帯状で直線的である。(図1)
- 角ばった堆積物片が多い。(図2)

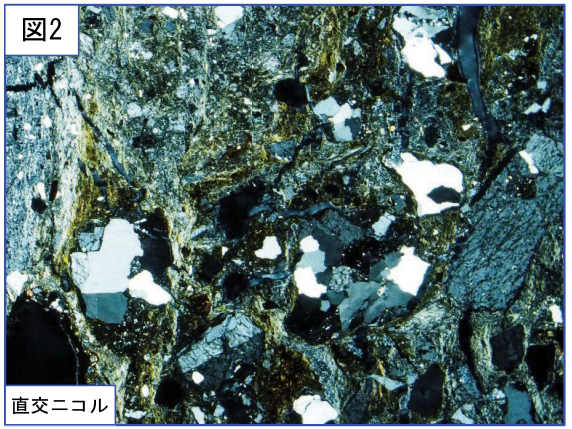






赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。
破線は帯状で直線的な範囲を示す。





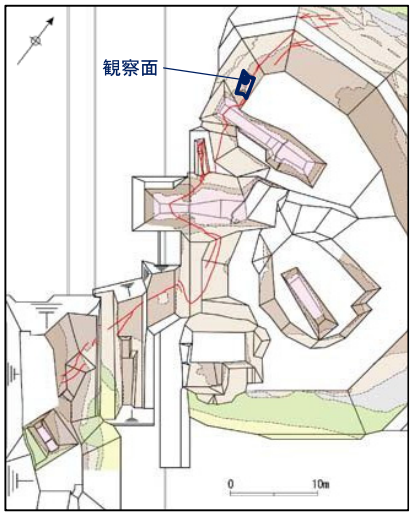
余白

K断層の性状（Lカットピット）

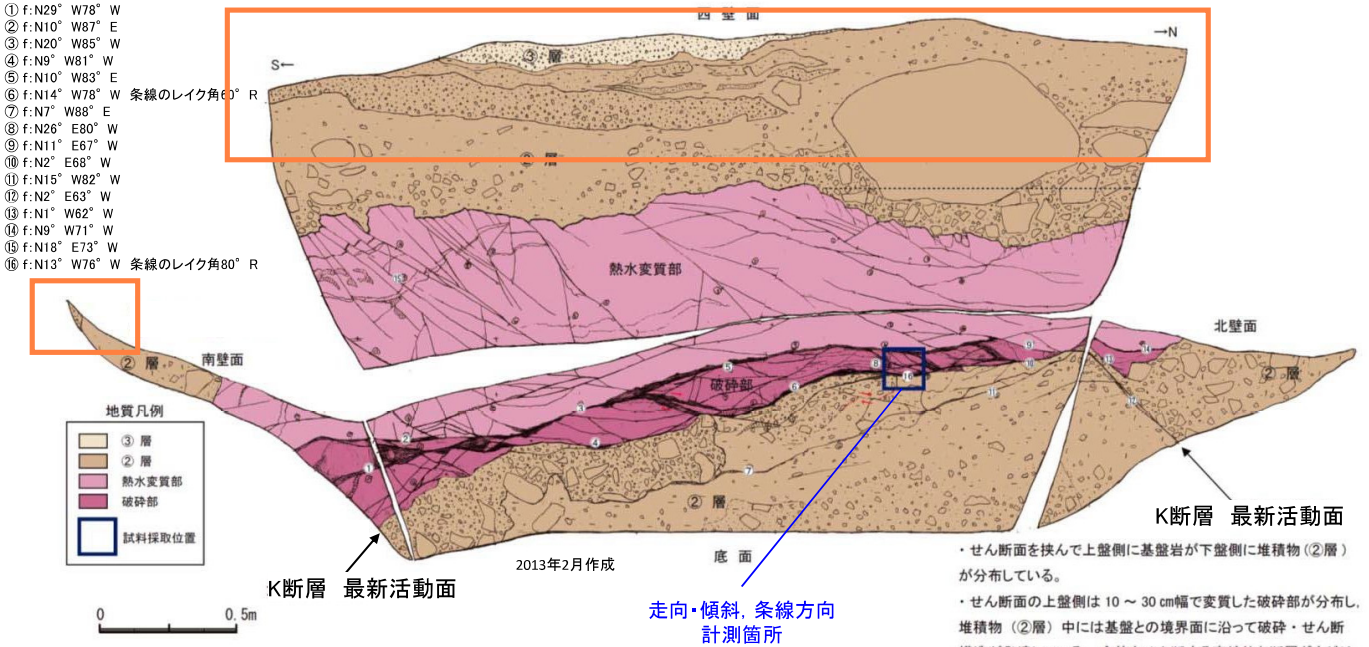
138（スケッチ） 修正箇所：橙色枠

修正前

- Lカットピットのスケッチを以下に示す。
- Lカットピットでは，K断層は基盤岩と堆積物（②層）とを境している。
- 最新活動面の条線方向を確認した結果，縦ずれ成分が卓越する。また，最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



調査位置図



※青枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

・せん断面を挟んで上盤側に基盤岩が下盤側に堆積物（②層）が分布している。
・せん断面の上盤側は 10 ～ 30 cm幅で変質した破砕部が分布し，堆積物（②層）中には基盤との境界面に沿って破砕・せん断構造が発達している。全体をせん断する直線的な断層ガウジは認められない。変位量が数 cm 程度の R1 面がせん断面を細かく右ずれさせている。
・破砕部および堆積物（②層）中に認められる R1 面から右ずれが判読される。

K断層の最新活動面に関するデータの計測箇所について

性状一覧表に記載した走向・傾斜，条線方向：

全ての観察面について，断層面のトレンドを示す代表的な箇所で計測。一連の断層面については，複数計測した平均値を記載。（ただし，Lカットピットについては，走向・傾斜が断層面のトレンドを示す範囲が狭いことから1箇所とした。1-1ピット北面，南面，底盤については各観察面の平均値とした。）

性状一覧表に記載した断層ガウジ・断層角礫の幅：

岩盤中の断層ガウジ・断層角礫について，平均的な幅を示す箇所で計測。

スケッチに記載したデータ：

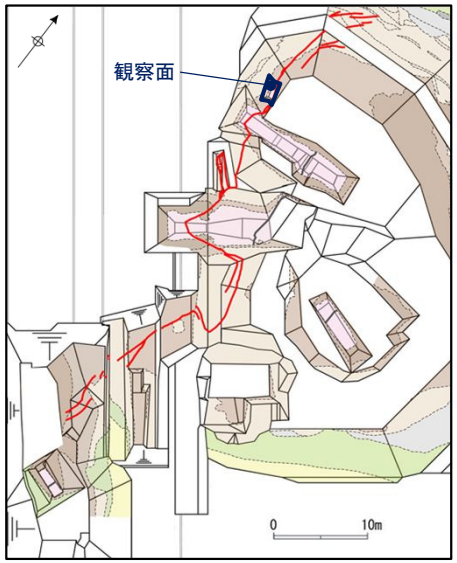
上記に限らず走向・傾斜，条線方向及び断層ガウジ・断層角礫の幅を計測可能な出来るだけ多くの箇所で計測。

K断層の性状（Lカットピット）

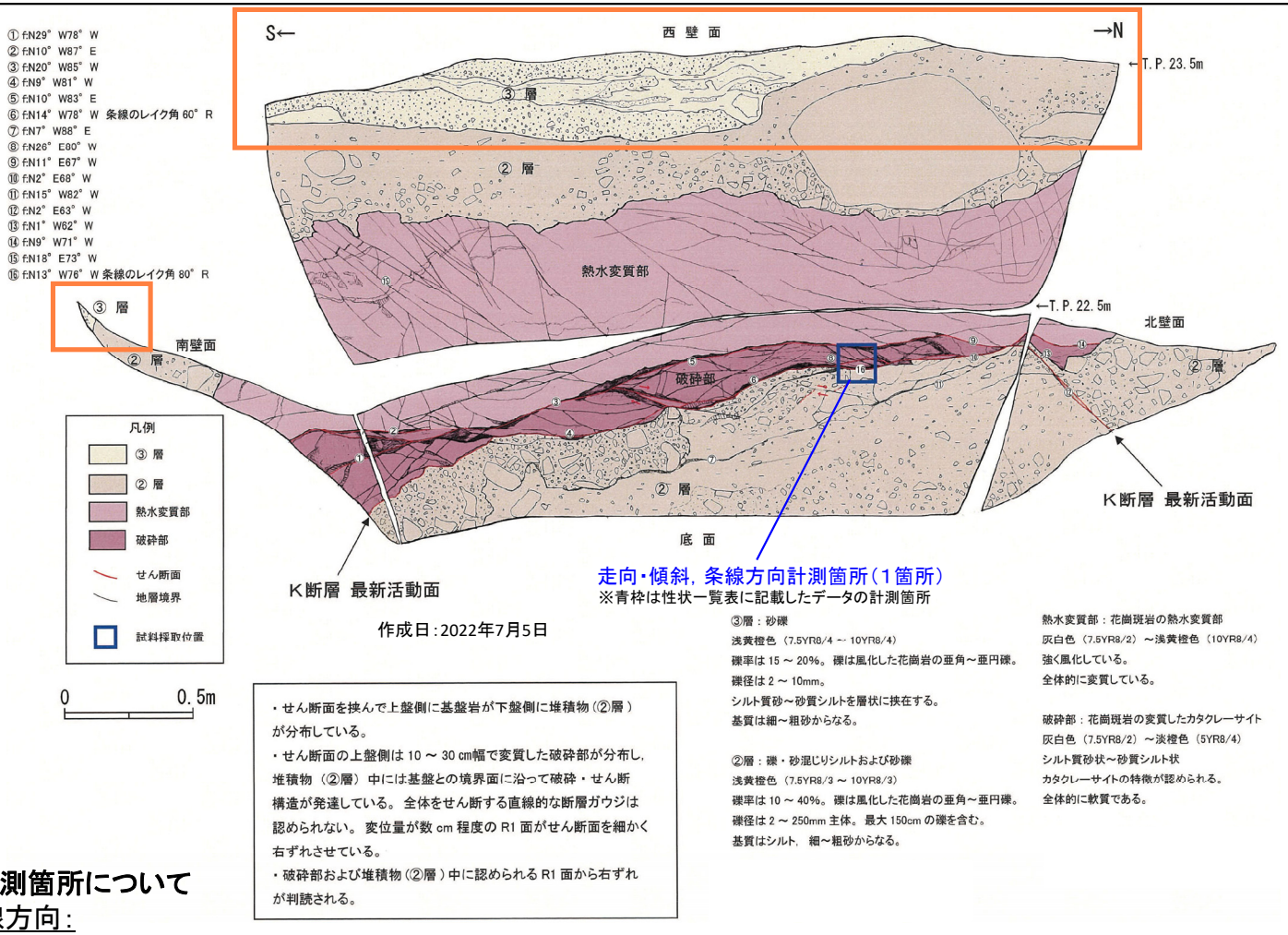
138（スケッチ）：最新版に修正（地層境界の見直し）（橙色枠）

修正後

- Lカットピットのスケッチを以下に示す。
- Lカットピットでは，K断層は基盤岩と堆積物（②層）とを境している。
- 最新活動面の条線方向を確認した結果，縦ずれ成分が卓越する。また，最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。（次頁参照）



調査位置図



作成日：2022年7月5日

・せん断面を挟んで上盤側に基盤岩が下盤側に堆積物（②層）が分布している。
・せん断面の上盤側は 10 ～ 30 cm幅で変質した破砕部が分布し，堆積物（②層）中には基盤との境界面に沿って破砕・せん断構造が発達している。全体をせん断する直線的な断層ガウジは認められない。変位量が数 cm 程度の R1 面がせん断面を細かく右ずれさせている。
・破砕部および堆積物（②層）中に認められる R1 面から右ずれが判読される。

③層：砂礫
浅黄橙色（7.5YR8/4 ～ 10YR8/4）
礫率は 15 ～ 20%。礫は風化した花崗岩の亜角～亜円礫。
礫径は 2 ～ 10mm。
シルト質砂～砂質シルトを層状に挟在する。
基質は細～粗砂からなる。

②層：礫・砂混じりシルトおよび砂礫
浅黄橙色（7.5YR8/3 ～ 10YR8/3）
礫率は 10 ～ 40%。礫は風化した花崗岩の亜角～亜円礫。
礫径は 2 ～ 250mm 主体。最大 150cm の礫を含む。
基質はシルト，細～粗砂からなる。

熱水変質部：花崗斑岩の熱水変質部
灰白色（7.5YR8/2）～淡黄橙色（10YR8/4）
強く風化している。
全体的に変質している。

破砕部：花崗斑岩の変質したカタクレーサイト
灰白色（7.5YR8/2）～淡橙色（5YR8/4）
シルト質砂状～砂質シルト状
カタクレーサイトの特徴が認められる。
全体的に軟質である。

K断層の最新活動面に関するデータの計測箇所について

<u>性状一覧表に記載した走向・傾斜，条線方向：</u>

全ての観察面について，断層面のトレンドを示す代表的な箇所で計測。一連の断層面については，複数計測した平均値を記載。（ただし，Lカットピットについては，走向・傾斜が断層面のトレンドを示す範囲が狭いことから1箇所とした。1-1ピット北面，南面，底盤については各観察面の平均値とした。）

<u>性状一覧表に記載した断層ガウジ・断層角礫の幅：</u>

岩盤中の断層ガウジ・断層角礫について，平均的な幅を示す箇所で計測。

<u>スケッチに記載したデータ：</u>

上記に限らず走向・傾斜，条線方向及び断層ガウジ・断層角礫の幅を計測可能な出来るだけ多くの箇所で計測。

青枠：地層境界に関する部分

138（スケッチ）のエビデンス（1/7）

スケッチ名　D-1トレンチLカットピット　1/10　南面スケッチ

スケッチ	スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

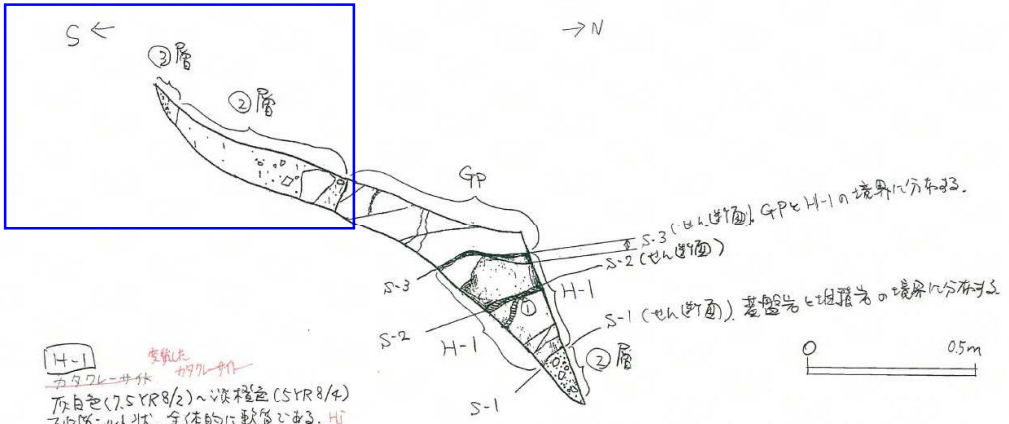
確認日（変質したカタクレーサイト）2022年7月5日
確認者：[redacted]

③層
淡黄褐色(10YR 8/4)の砂礫である。
礫率は15%。硬い風化した花崗岩の亜角～亜円礫。
礫径は2～5mm主体。基質は粗～粗砂からなる

②層
淡黄褐色(7.5YR8/3)の礫混じりシルトみたいな砂礫である
礫率は10～15%。硬い風化した花崗岩の亜角～亜円礫。
礫径は2～20mm主体。基質はシルト，粗～粗砂からなる

GP：灰白色(7.5YR8/2)～淡黄褐色(10YR8/4)の花崗斑岩である。
強く風化している。全体的に軟質している。

①方：N22W，8W



H-1
変質したカタクレーサイト
カタクレーサイト
灰白色(7.5YR8/2)～淡褐色(5YR8/4)
砂質シルト状。全体的に軟質である。Hi
カタクレーサイトの特徴が認められる。
原岩組織が認められる岩片を主体とし，基質も細粒化した岩片からなる粗粒は，
わずかに認められる

基盤岩の分布は局所的である。

D-1トレンチLカットピット　1/10　南面

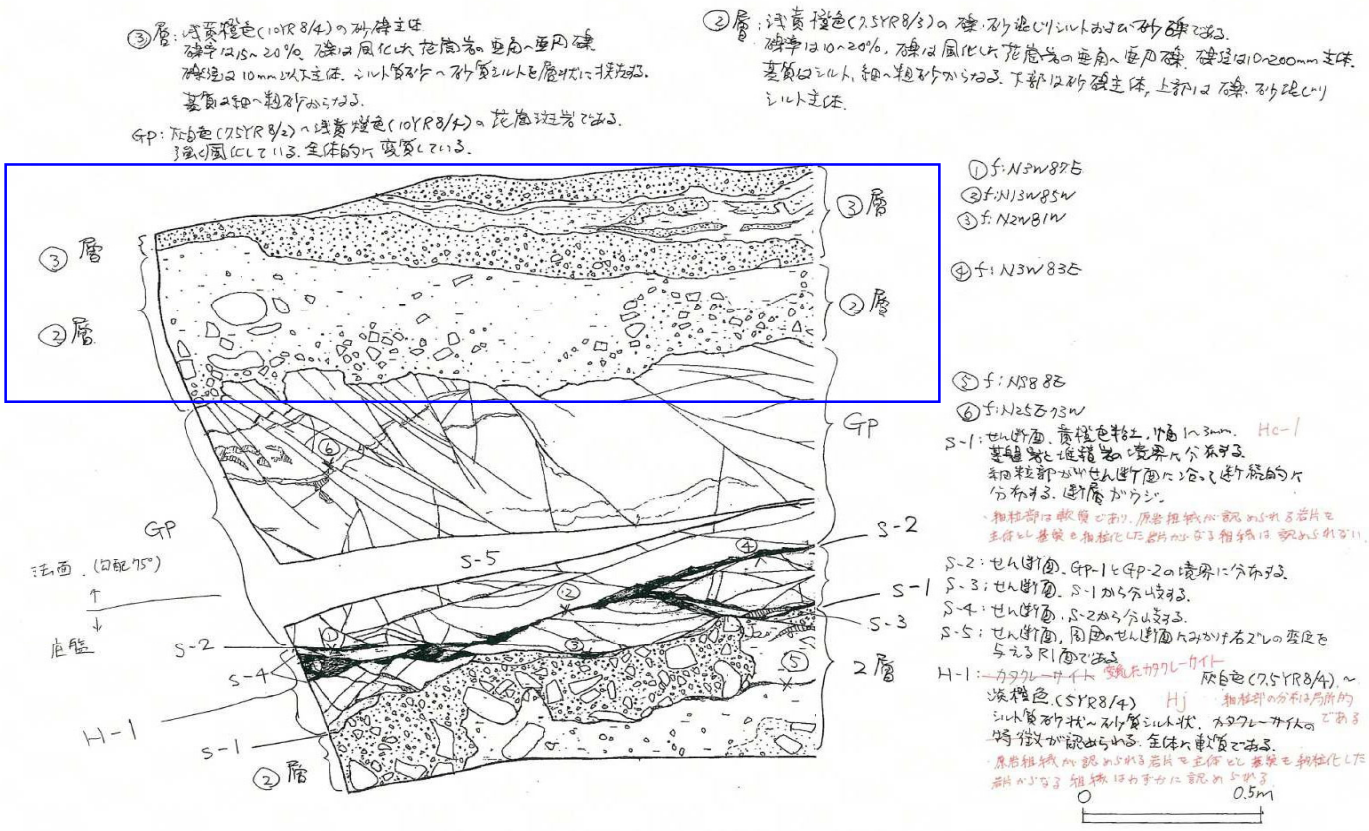
2022年 作成日 7/5　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.7.5

スケッチ名 D-1トレンチLカットピット 1/10 ＿南面記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系）										スケッチ原図（基盤岩）					記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界	堆積構造	土壌化など、堆積環境・時間間隔を示すもの	色調	走向・傾斜	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目	色調	走向・傾斜	
				・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	・堆積構造・層理、黒理、線化など			・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。			・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載		・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
③層	浅黄橙色（10YR8/4）の砂礫である。 礫率は15%。礫は風化した花崗岩の亜角～亜円礫。 礫径は2～5mm主体。 基質は細～粗砂からなる。	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
②層	浅黄橙色（7.5YR8/3）の礫混じりシルトおよび砂礫である。 礫率は10～15%。礫は風化した花崗岩の亜角～亜円礫。 礫径は2～20mm主体。 基質はシルト、細～粗砂からなる。	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
Gp	灰白色（7.5YR8/2）～浅黄橙色（10YR8/4）の花崗斑岩である。 強く風化している。 全体的に変質している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分（Hc,Hb,Hj）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、累帯構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅（実測できる場合）	最新活動面（認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
①	CN22W78W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
S-1	せん断面 基盤岩と堆積岩の境界に分布する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-2	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-3	せん断面 GpとH-1の境界に分布する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H-1	カタクレーサイト 灰白色（7.5YR8/2）～淡橙色（5YR8/4） 砂質シルト状 全体的に軟質である。 カタクレーサイトの特徴が認められる。	変質したカタクレーサイト 砂質シルト状 灰白色（7.5YR8/2）～淡橙色（5YR8/4） Hj 全体的に軟質である。 細粒部の分布は局所的である。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はわずかに認められる。	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	破砕度区分および断層岩区分の判断根拠を記載

スケッチ名　D-1トレンチLカットピット　1/10　底盤，西面①スケッチ

		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔）
スケッチ	 作成日・確認日：2022年3月28日 確認者：[redacted] 確認日（変質したカタクレーサイト）2022年7月5日 確認者：[redacted] D-1 トレンチLカットピット　1/10　底盤，西面①	○

2022年 7/5

作成日 [redacted] 作成者 [redacted] 確認日 2022.7.5

スケッチ名 ヨードトレンデレカットビット 1/16_表層_西面スケッチ

No	地質の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ評価(実施済) 地質の特徴					地質境界			走向・傾斜	スケッチ評価(追記)		割れ目・ゆるみ解析の注		記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	堆積構造、組状・縞の乱れ、堆積・固結・細粒・細粒・風化・異質	一般名称（有機質、長径など）	その他（断面から異なる状況（特殊構造が定義できる場合は、その状態も併せて記載）		地質境界（地質境界の整合・不整合（断層が認定できる場合は、その状態も併せて記載）	境界構造（整理、亀裂、連化など）	上面なだら、境界（断層破砕帯、ガウジ）	角礫	走向・傾斜（地質構造やせん断面の走向・傾斜を記載。一その区間を代表する値例で測定するが、結果的に記載は不要。）	風化・変質	割れ目・ゆるみ解析の注（地質中の亀裂面の割れ目状態、割れ目面の性状や割れ目が生じた原因・傾斜、連続長等などを記載。	角礫	走向・傾斜（割れ目ではその面を代表する値例で測定するが、ただし、亀裂の記載は不要。）	
1	淡黄褐色(10YR8.4)の砂質土層。 礫径は1～20%、最大径2.0cm程度の亜角～亜円礫。 礫径は3mm以下主体。 シルト質～砂質シルトを薄く挟在する。 基質は緩～軟砂からなる。		○	○	○			○	○		○						
2	淡黄褐色(10YR8.3)の礫・砂質ロジシルト及び砂質である。 礫率は10～30%、最大径3.0cm程度の亜角～亜円礫。 礫径は10～20mm主体。 基質はシルト質～粘土質からなる。 下部は砂礫主体 上部は礫・砂質ロジシルト主体		○	○	○			○			○						
3a	凝灰質(7.5YR8.3)～淡黄褐色(10YR8.4)の花崗岩質である。 強く風化している。 全体的に変質している。											○	○		○		

No	破砕帯に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕帯区分（YM/YN/YS）	破砕帯の性状 ・破砕部の幅 ・破砕部内の性質 ・礫径 ・礫性部の連続性・連続性 ・断面幅が変わりある区分を支持した範囲も破砕性たした区分からなる破砕の有無	内部構造（破砕構造、構造亀裂、断層構造、構造亀裂など）	断層区分（断層ガウジ・破砕帯、ガウジゾーサイに区分した記載）	破砕幅（断層ガウジ・破砕帯（断層ガウジ等を含む）	走向・傾斜（断層ガウジ等を含む）	走向	変位・変形量（断層面になり計測した変位・変形量	角礫	走向・傾斜（その面を代表する値例で測定するが、ただし、亀裂の記載は不要。）	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
1	YN2WETE											○	
2	YNCWWEW											○	
3	YNDWETW					○						○	
4	YNSWEEE											○	
5	YNSWE											○	
6	YNZSETW											○	
3a-1	せん断面 走向傾斜 N2…W67～72… 性状 粘土化 幅1～5mm 連続性が良く連続的に分布する。 基盤岩と破砕部の境界に分布する。 破砕部がせん断面になって断続的に分布する。 断層ガウジ	せん断面 走向傾斜 N2…W67～72… 性状 粘土化 幅1～5mm 連続性が良く連続的に分布する。 N2…W67～72… 断層ガウジ 破砕部が変質であり、原岩組織が認められる箇所を主体とし基質も緩性化した箇所からなる組織は認められない。	○	○			○	○				○	破砕部区分および断層破砕区分の判断根拠を記載
3a-2	せん断面 5m×5.5m×2.0mの境界に分布する。												
3a-3	せん断面 3～5mから分離する。												
3a-4	せん断面 3～5mから分離する。												
3a-5	せん断面 断面のせん断面にみられる粘土スレの変位を与える小断層である。												
3b-1	カタクレーサイト 淡白色(7.5YR8.2)～淡黄色(10YR8.4) シルト質砂状～砂質シルト状 カタクレーサイトの特徴が認められる。 全体的に軟質である。	変質したカタクレーサイト 淡白色(7.5YR8.2)～淡黄色(10YR8.4) シルト質砂状～砂質シルト状 カタクレーサイトの特徴が認められる。 全体的に軟質である。 原岩組織が認められる箇所を主体とし基質も緩性化した箇所からなる組織はわずかに認められる。	○	○			○	○				○	破砕部区分および断層破砕区分の判断根拠を記載

青枠：地層境界に関する部分

138（スケッチ）のエビデンス（5/7）

スケッチ名　D-1トレンチLカットピット　1/10　底盤，西面②スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位，スケール（または，グリッドの間隔）

○

③層
浅黄橙色（7.5YR 8/4）のシルト質砂～砂質シルトである。
砂礫を層状に挟在する。

②層
浅黄橙色（10YR 8/3）の礫～砂混じりシルトおよび砂礫である。
礫率は15～40%，礫は風化した花崗岩の亜角～亜円礫。
礫径は10～250mm主体，最大150mmの礫を含む。
基質はシルト，細～粗砂からなる。
下部は砂礫主体，上部は礫～砂混じりシルト主体。

Gp：灰白色（7.5YR 8/2）～浅黄橙色（10YR 8/4）の花崗放路である。
強く風化している。全体的に変質している。

①f：N7W78W
系数・R60

②f：N33E80W

③f：N18E67W

④f：N9E68W

⑤f：N8W82W

⑥f：N6W76W
系数・R80

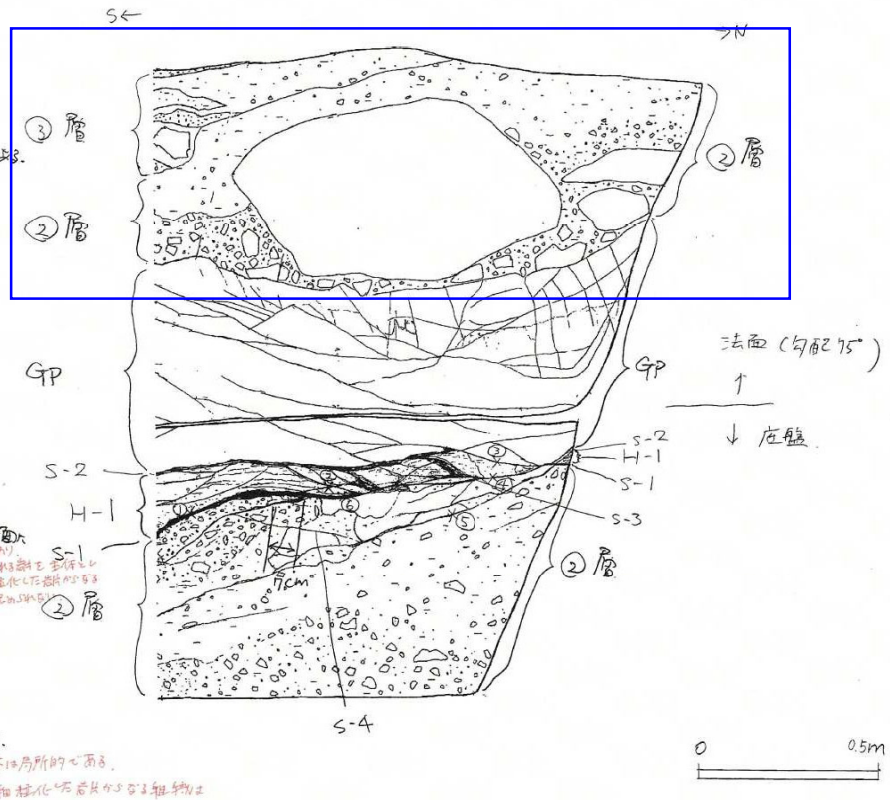
S-1：せん断面，灰白～褐色粘土 幅1～5mm　Hc-1
基盤岩と堆積岩の境界に分布する。粗粒部がせん断面に沿って断続的に分布する。断層ガウジ。
細粒部は軟質であり，原岩組織が認められる部分を主体とし基質を細粒化した岩片からなる組織は認められない

S-2：せん断面，Gp-1とGp-2の境界に分布する。

S-3：せん断面，S-1から分岐する。

S-4：せん断面，a層の砂礫層にみかけ右ズレで7cmの変位を与えるR1面である。

H-1：~~カタクレーサイト~~　変質したカタクレーサイト　Hj
灰白色（7.5YR 8/2）～淡橙色（5YR 8/4）
シルト質砂状～砂質シルト状，全体的に軟質である。
カタクレーサイトの特徴が認められる。　細粒部の分布は局所的である。
原岩組織が認められる岩片を主体とし基質を細粒化した岩片からなる組織はわずかに認められる



作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

D-1 トレンチLカットピット　1/10 底盤，西面②

確認日（変質したカタクレサイト）2022年7月5日
確認者：[redacted]

2024/9/5

作成日　　作成者 [redacted]　　確認者 [redacted]　　確認日 2022.9.5

スケッチ名 ロートレンチ1カットピット 1/10 底盤 西面2スケッチ

No	地層の性状に関する記事	追正化すべき記事内容	スケッチ面(観察面) 地質の特性 地質名	・粒度構成、押の種類・指数・硬度・締まり具合	・礫の風化度	・走向/傾斜、見掛け角など	・その他（周囲に異なる特徴や特徴的な形状があれば、それらについて記載。	地質構造 ・地質境界の整合・不整合・地質構造の特記すべき事項（断層、褶曲、節理、その他構造上特すべき記載）	堆積構造 ・葉理　葉層　連合など	土壌化など、堆積後に受けた特記すべき事項	色調	走向・傾斜 ・堆積構造や分せん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を表もしくは走する線理（地質名）で測定するように、走向傾斜は測定しない。	スケッチ面(基礎面) 風化・変質	割れ目・せん断面の頻度 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔（割れ目面の状態等の種類と頻度）を記載。系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、連続、粘着などを記載。	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する面状で測定するように、基質的に連続性を判断する際に注意。	記事・スケッチを利用・変更・追記した理由
③層	淡黄褐色（10YR8/4）のシルト質砂～砂質シルトである。 砂礫を層状に挟在する。		○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	
②層	淡黄褐色（10YR8/3）の礫・砂混じりシルト及び砂礫である。 層厚は1m～40%、最大粒径の含有～至円礫。 礫径は1m～20cm以上、最大約30cmの礫まで含む。 基質はシルト、粘～細砂からなる。 下部は砂礫主体、上部は礫・砂混じりシルト主体		○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	
Da層	灰白色（10YR8/2）～淡黄褐色（10YR8/4）の花崗岩質である。 強く風化している。 全体的に変質している。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	

No	破砕部に関する記事	追正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分 （Ha,Hb,Hc）	破砕部の性状 ・幅程度の特 ・破砕部内物質 ・礫径 ・破砕部の連続性・連続性 ・周辺岩種が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・構成構造、複合面構造、系統構造、構造区切などの	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイト・断層ガウジ・カタクレーサイトに区分した記載。	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	色調	変質・変形量 ・記載基に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する面状で測定するように、あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを利用・変更・追記した理由
⑤	FAETWSW 条線＝180								○			○	
④	FAD3E8DW											○	
③	FAT8E87W											○	
②	FA5E6BW											○	
①	FAB9BZW											○	
⑥	FA6W7RW 条線＝R85								○			○	
S-1	せん断面 反白～桃色粘土 幅1～3mm Ha-1 断層ガウジ 基質および周辺岩の境界に分布する。 細粒部がせん断面に沿って顕著的に分布する。 断層ガウジ	せん断面 反白～桃色粘土 幅1～3mm Ha-1 断層ガウジ 基質および周辺岩の境界に分布する。 細粒部がせん断面に沿って顕著的に分布する。 細粒部は断層ガウジ、周辺岩種が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	○	○	○	○				○	-	破砕度区分および断層岩区分、最新活動面の判断根拠を記載
S-2	せん断面 N=145E/40-60S傾斜に分布する。												
S-3	せん断面 N-Sから分岐する。												
S-4	せん断面 条線の巻線度にみかけ右ズレで1cmの変位を与える引面である。												
S-5	カタクレーサイト 反白色（10YR8/2）～淡褐色（10YR8/4） シルト質砂～砂質シルト中 全体的に軟質である。 カタクレーサイトの特徴が認められる。	変質したカタクレーサイト 反白色（10YR8/2）～淡褐色（10YR8/4） シルト質砂～砂質シルト中 全体的に軟質である。 細粒部の分布は限局的である。 周辺組織は認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はわずかに認められる。	○	○	○	○	○	○				○	-	破砕度区分および断層岩区分の判断根拠を記載

D-1トレンチLカットピット写真

138（スケッチ）のエビデンス（7/7）



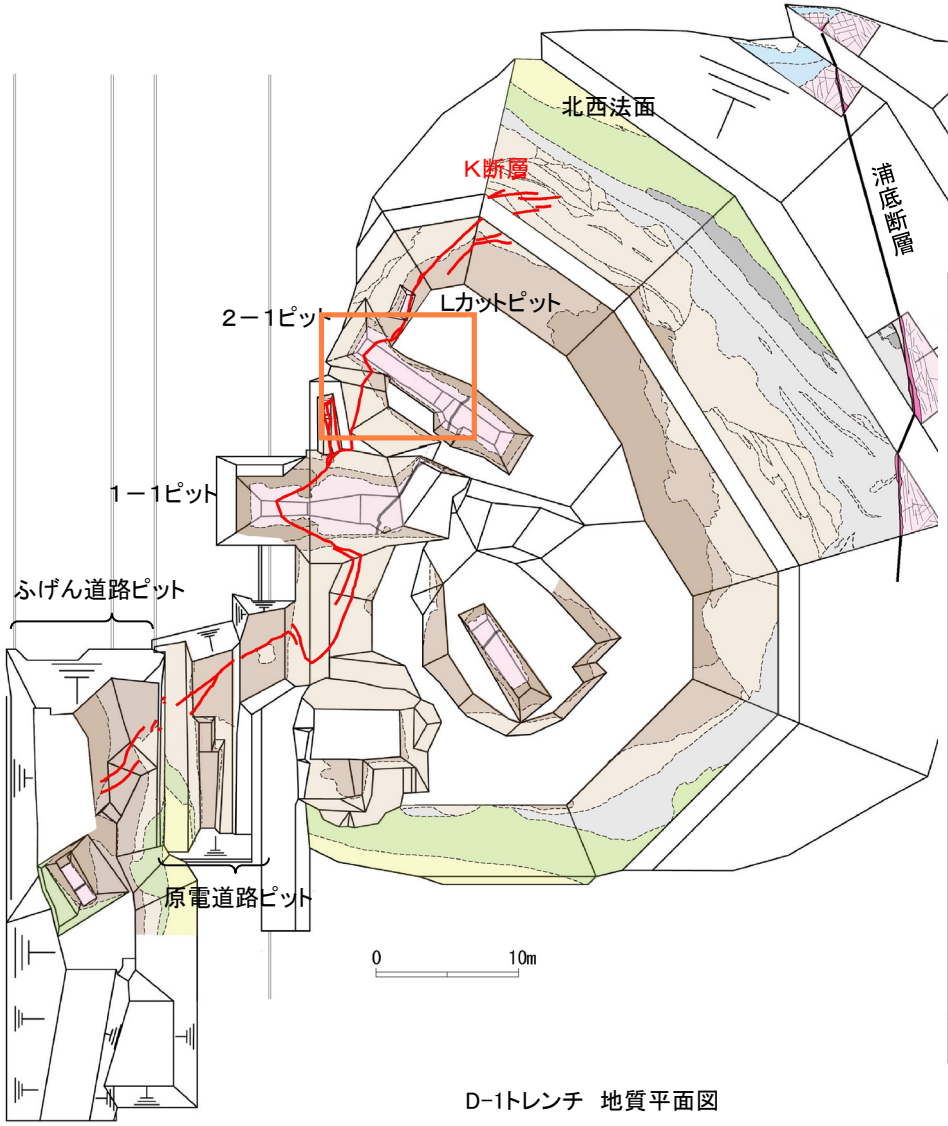
2013年2月撮影

余白

K断層の性状

修正前

- K断層の分布図を以下に示す。
- K断層は，D-1トレンチの北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において連続して認められる断層であるが，後述の通り，これより南方へは連続せず，重要施設の直下に連続していないと判断している。



D-1トレンチ　地質平面図

地質層序表

年代		地層名	色調	層相	年代指標 テフラ	年代指標 花粉	堆積年代
第四紀	完新世	⑨層	褐～にぶい黄褐	礫混じり砂質シルトからなる。⑧層とは平行な不整合面で接する。			MIS2以降
	後期更新世	⑧層	褐～黄橙	シルト質砂を基質とする砂礫からなり，一部に成層構造もみられる。下位の⑦層とは平行な不整合面で接する。	AT降灰層準を含む（約29～27ka）		MIS3とMIS2の境界付近
		⑦層	褐～褐灰	礫混じり砂質シルト～礫混じりシルト質砂よりなる。山地斜面では下位層とは平行な不整合面で，低地では下位層を削剥した不整合面で接する。	DKP降灰層準を含む（約59～58ka）		MIS4～3
		⑥層	灰～暗灰	腐植質砂質シルト～シルト質砂からなり，木片を多く含む。⑤層上部と整合関係で接する。	－		MIS5a～5b
		⑤層 上部	灰白～浅黄橙	シルト質砂礫主体で，シルト層～シルト質砂層が不連続に層状を呈し，腐植質シルトを含む。緩い西側傾斜で一定の層厚を示す。	K-Tz降灰層準を含む（約95ka）	温暖期の花粉を含む	MIS5c
		⑤層 下部	灰白～浅黄橙	シルト質砂礫主体で，シルト層～シルト質砂層が不連続に層状を呈し，腐植質シルトを含む。北法面の東方に向かって層厚が厚くなる。③層とは不整合関係で接する。	美浜テフラ（127.6ka）の降灰層準を含む	温暖期の花粉を含む	MIS5e
	中期更新世	③層	浅黄橙～橙	砂礫主体で，シルト層やシルト質砂層を層状からレンズ状に挟在し，チャネルによる削り込みが複数認められる。最上部には土壌化した地層が認められる。	MIS6のテフラを含む	－	MIS6以前
		②層	にぶい橙～灰白	くさり礫を多く含む塊状で締まった砂質シルトから砂及びシルトと砂の互層からなり，一部には腐植質シルトを含む。	－	温暖期の花粉を含む	
		①層	にぶい赤褐～明黄褐	よく締まった淘汰の悪い砂礫からなり，くさり礫を多く含む。	－		
古第三紀		基盤岩					

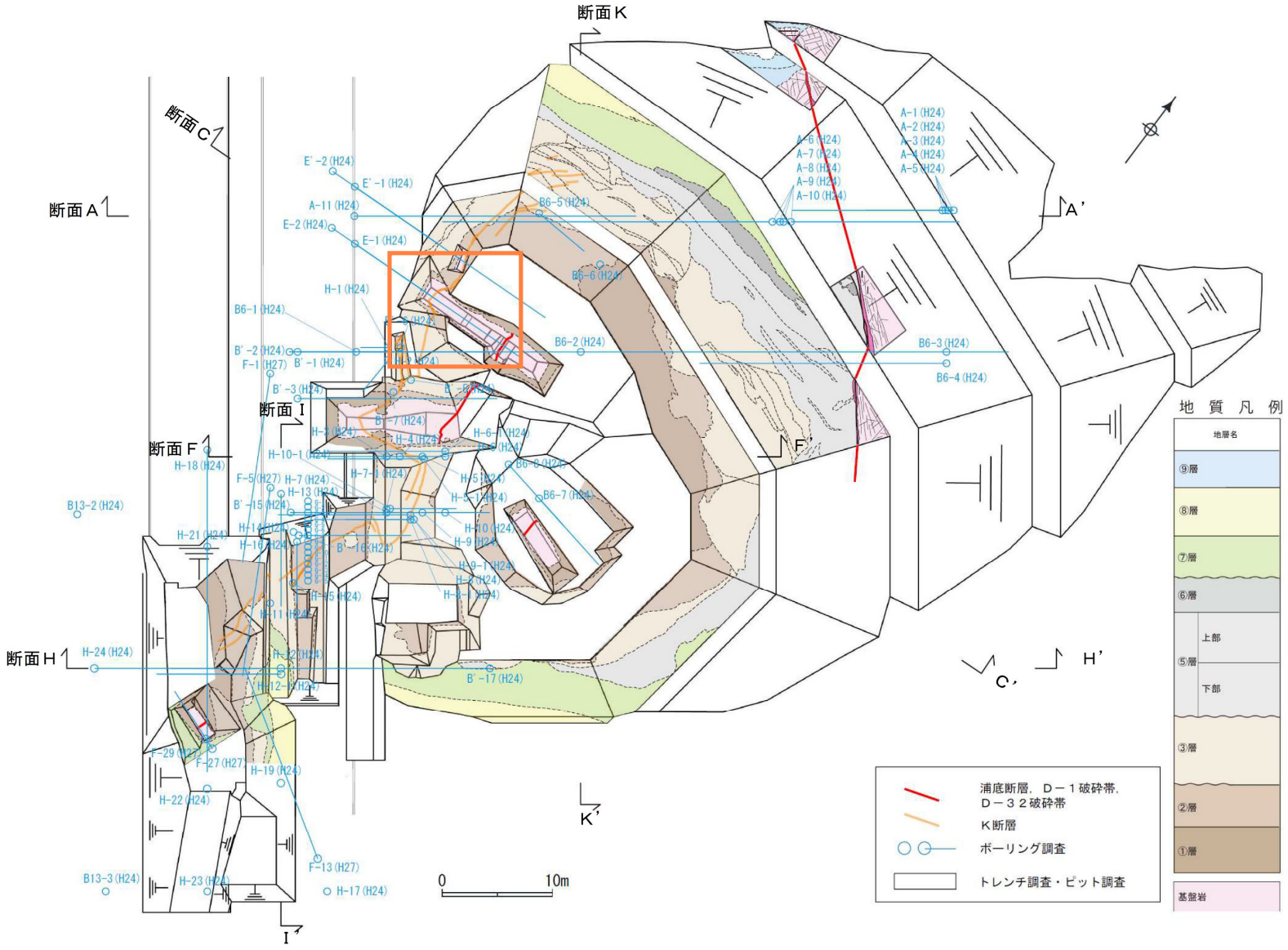
（凡例）
——：整合境界，　－：検出されていない
～～：不整合境界　＼：実施せず

修正後

D-1トレンチ断面図(断面位置図)

139：2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正

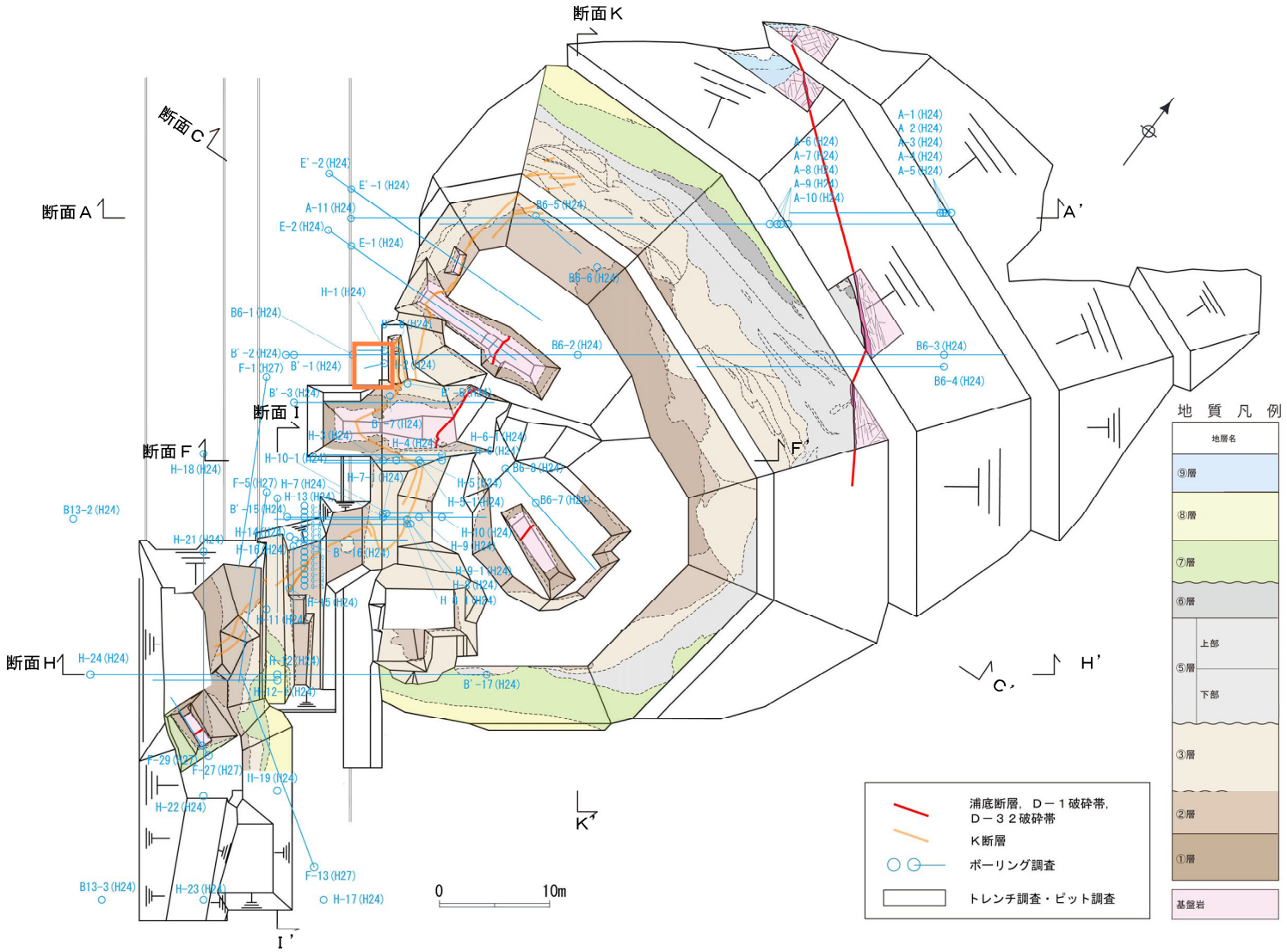
- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては，K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において，連続して認められる(断面K，断面A，断面C，断面F及び断面I)。



修正前

D-1トレンチ断面図（断面位置図）

- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては，K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において，連続して認められる（断面K，断面A，断面C，断面F及び断面I）。

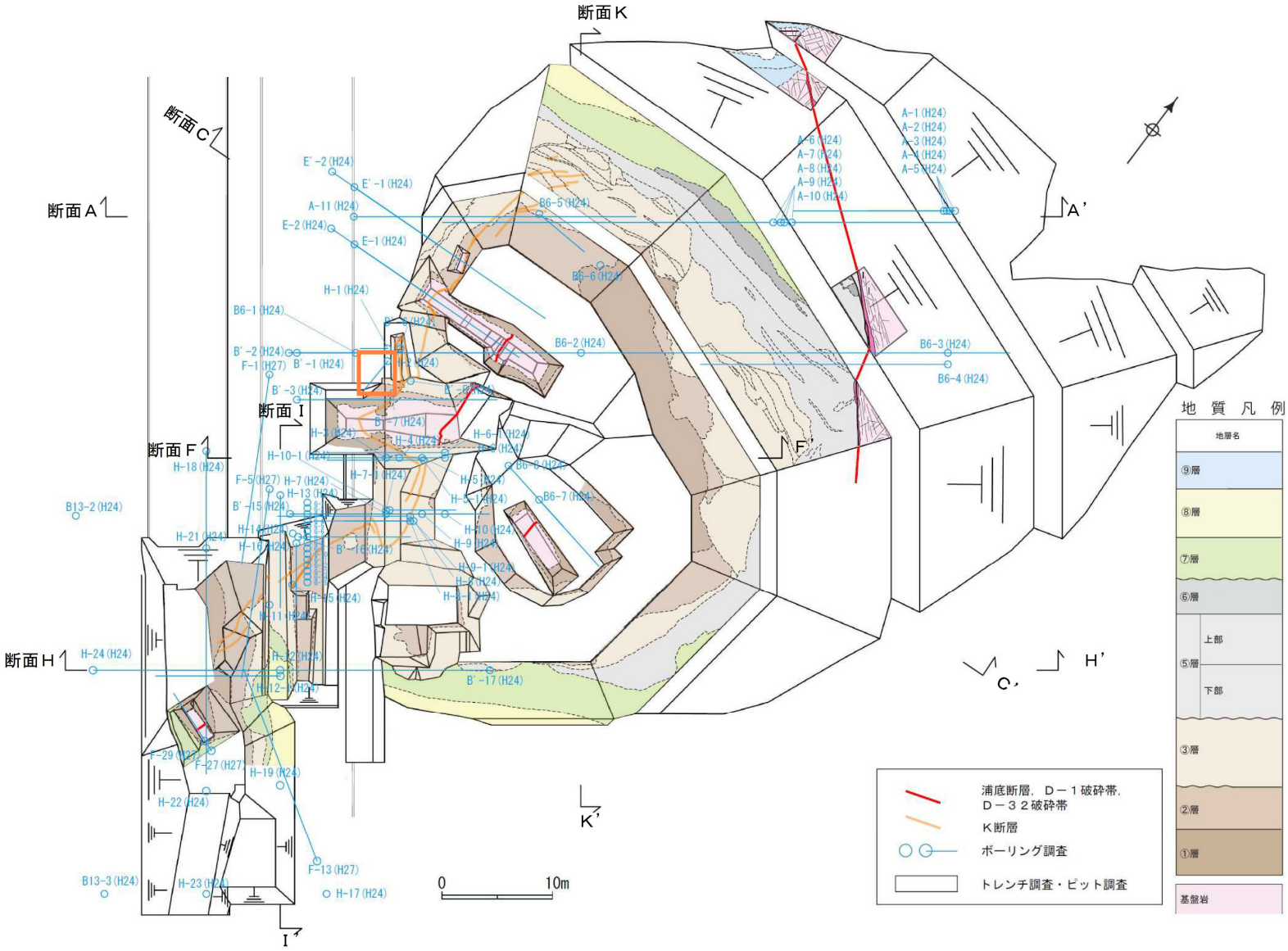


75

140：ボーリング孔H24-H-2の向きと長さを修正　修正後

D-1トレンチ断面図（断面位置図）

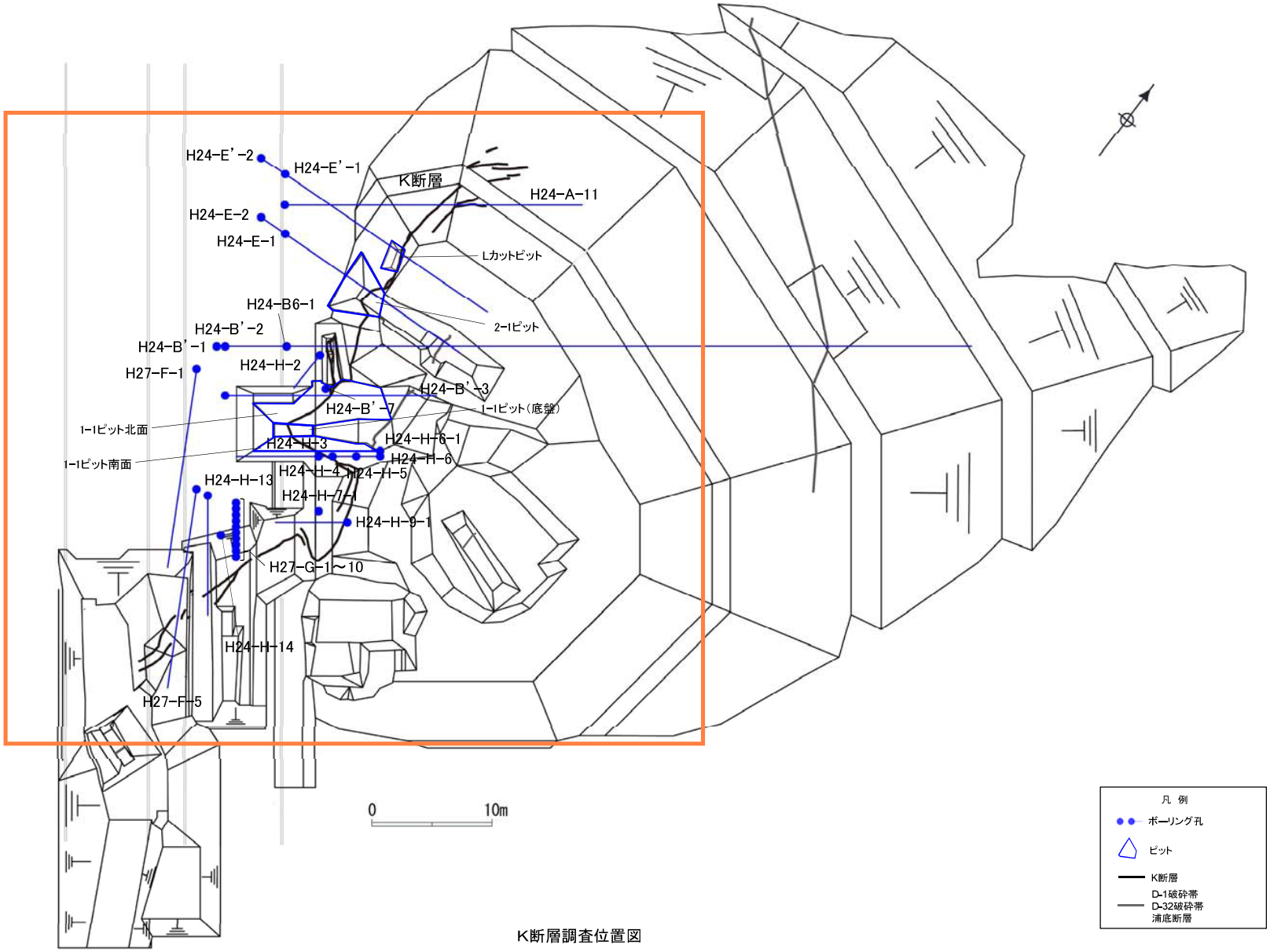
- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては，K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において，連続して認められる（断面K，断面A，断面C，断面F及び断面I）。



修正前

3. K断層

調査位置図



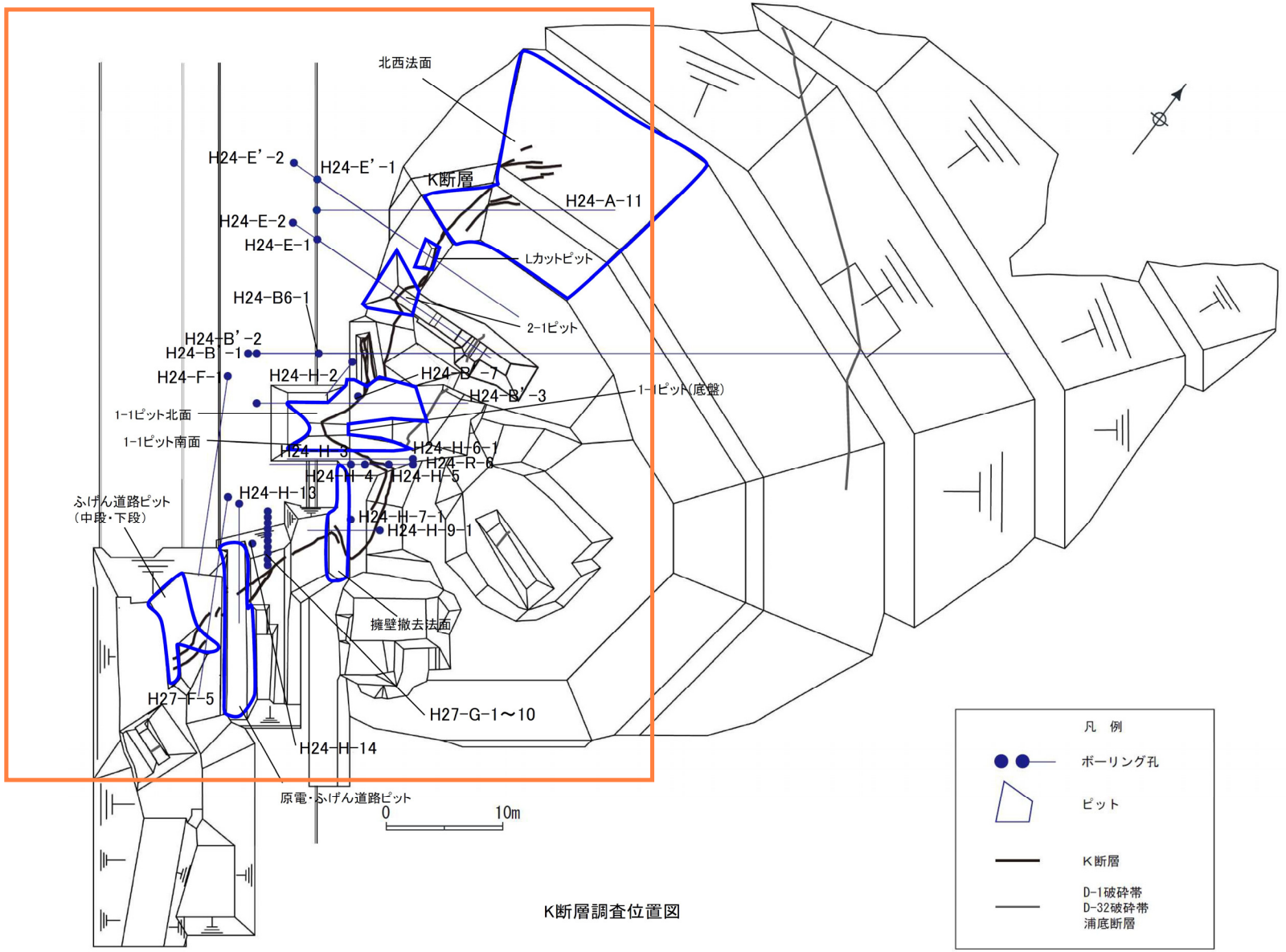
K断層調査位置図

参考2-42

K断層　調査位置図

141：ボーリング位置を修正（北にずれていたため修正）
140:2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正

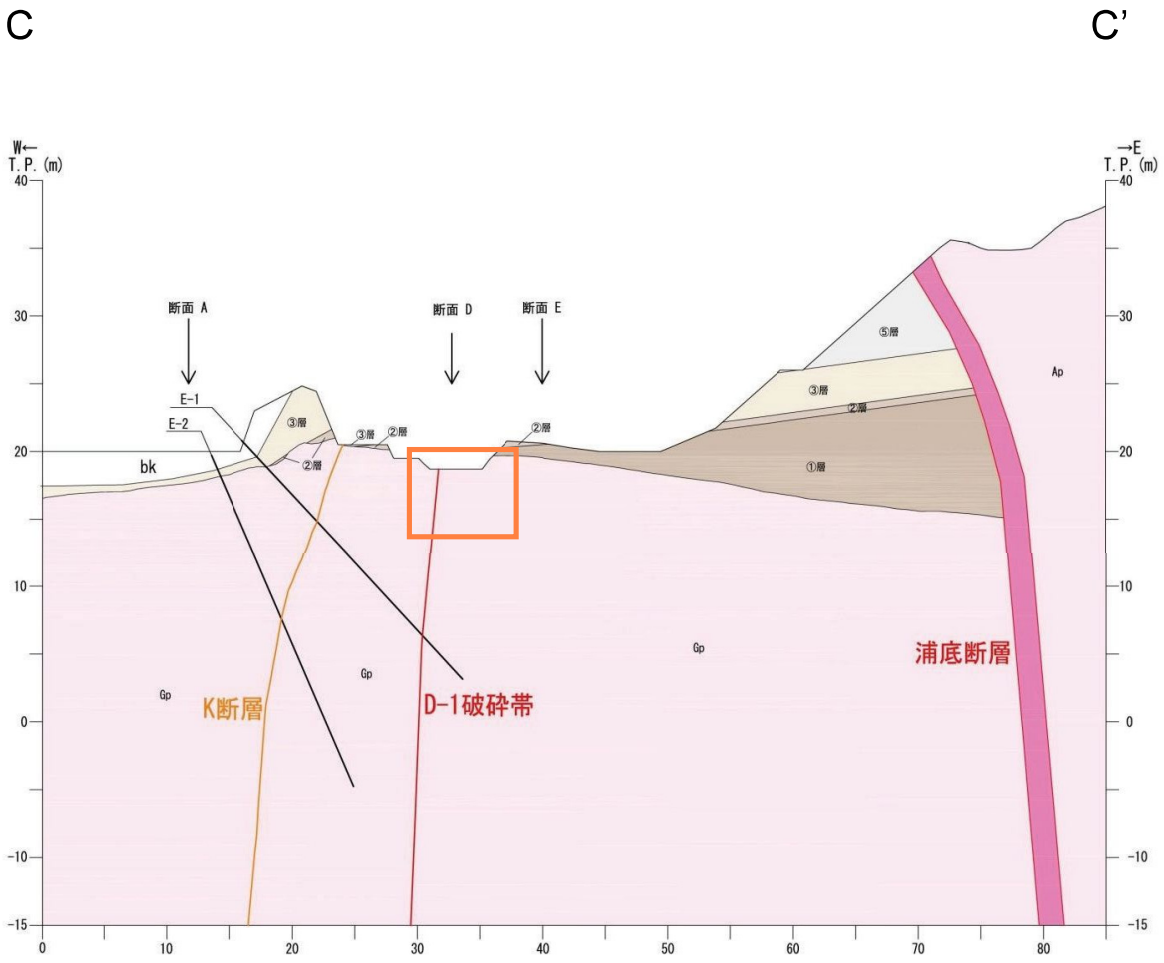
修正後

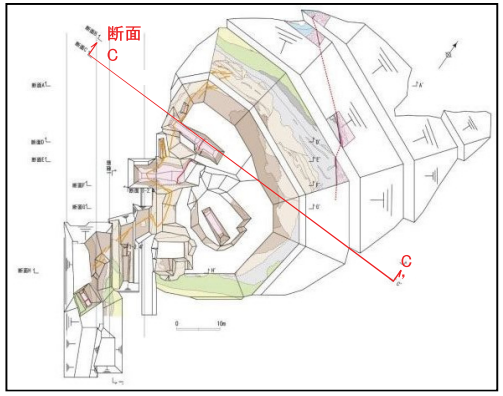


K断層調査位置図

D－1トレンチの地質断面図(C-C’)

修正前





断面位置図

凡　例

bk 盛土・埋戻土	基盤岩
⑤層	地層境界
③層	D-1破砕帯
②層	K断層
①層	

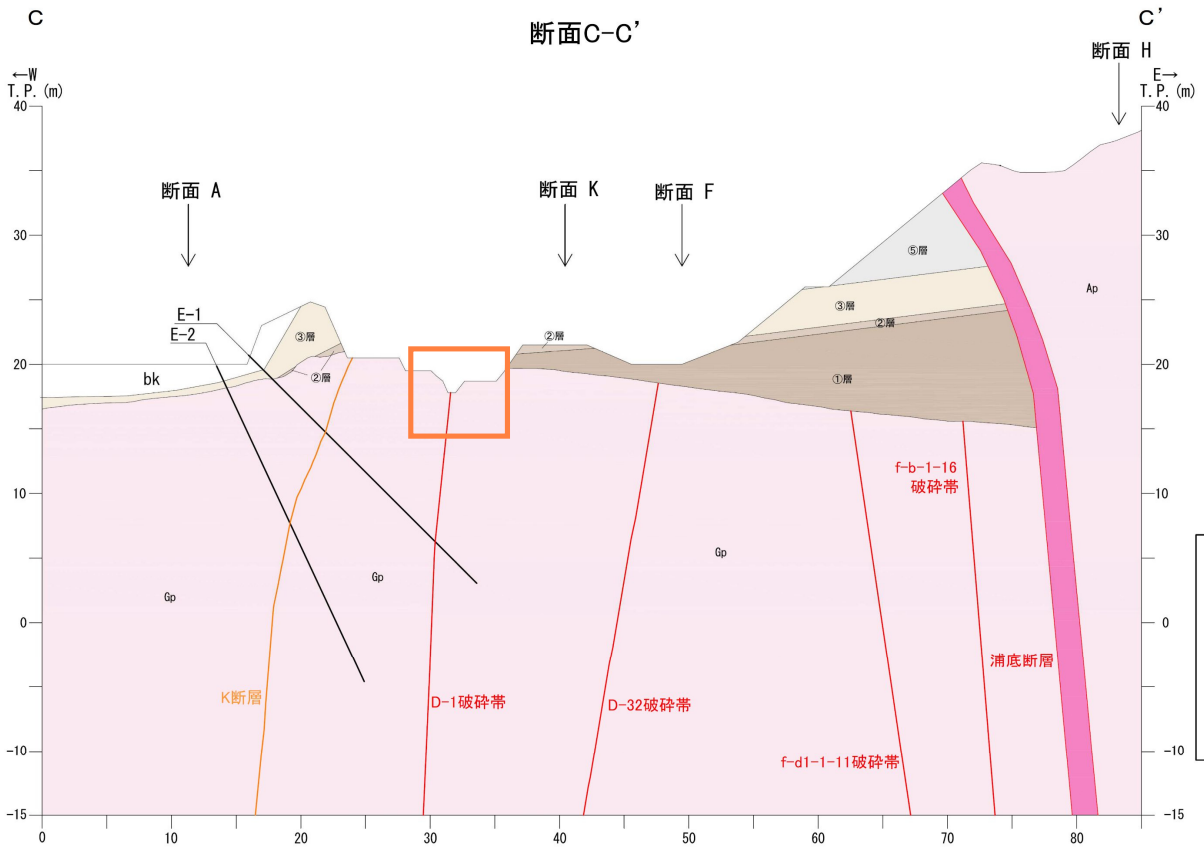
水平・垂直比は1:1

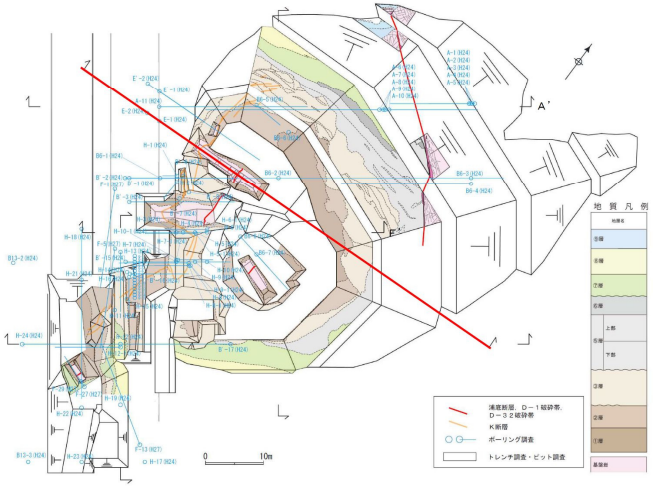
D－1トレンチに分布する地層は，花崗斑岩とそれを覆う第四系からなり，第四系は層相から下位より①層～⑨層に区分した。

D-1トレンチ断面図(C-C')

142：2-1ピット底盤を掘り込み後の形に修正

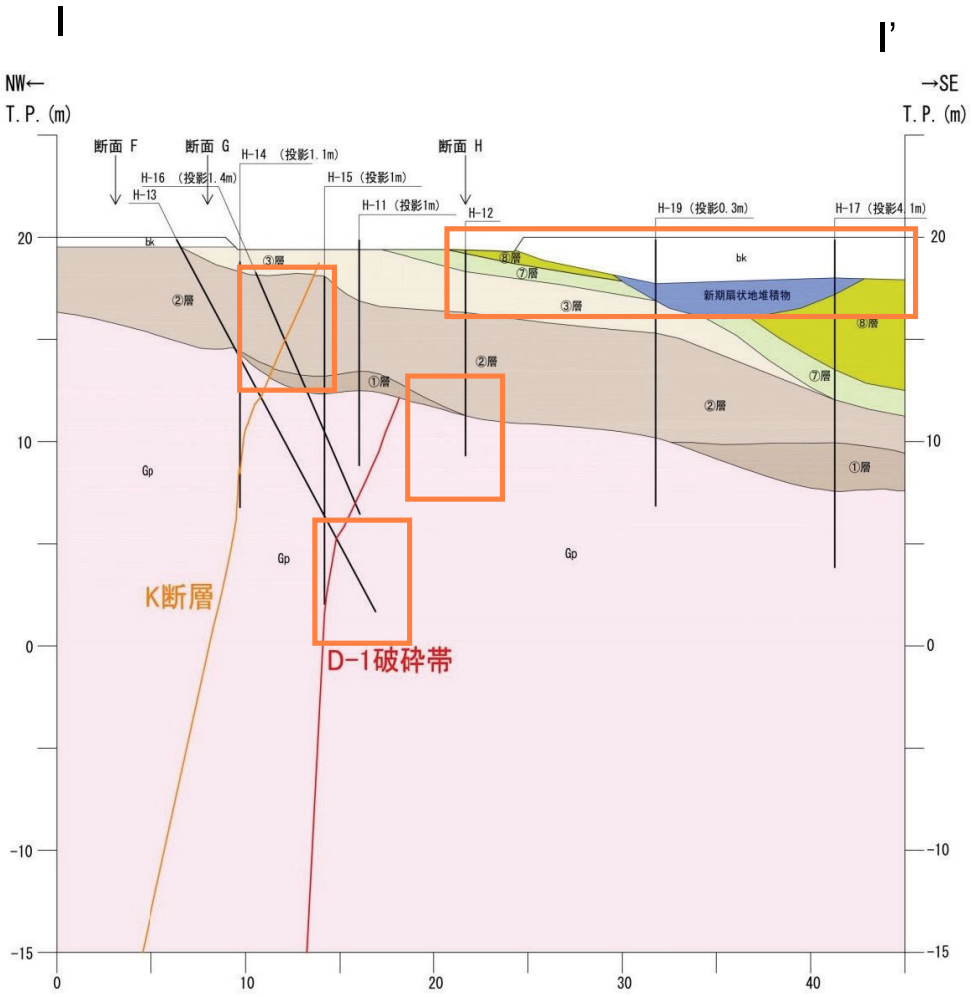
修正後

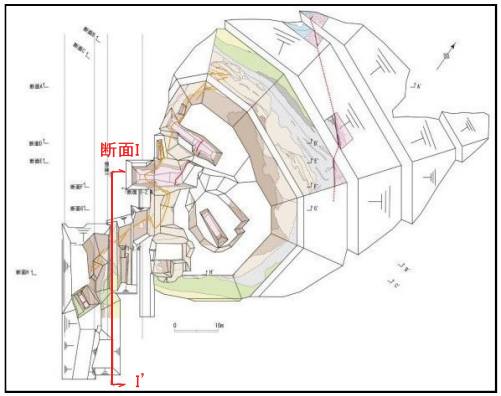




D－1トレンチの地質断面図(I-I’)

修正前





断面位置図

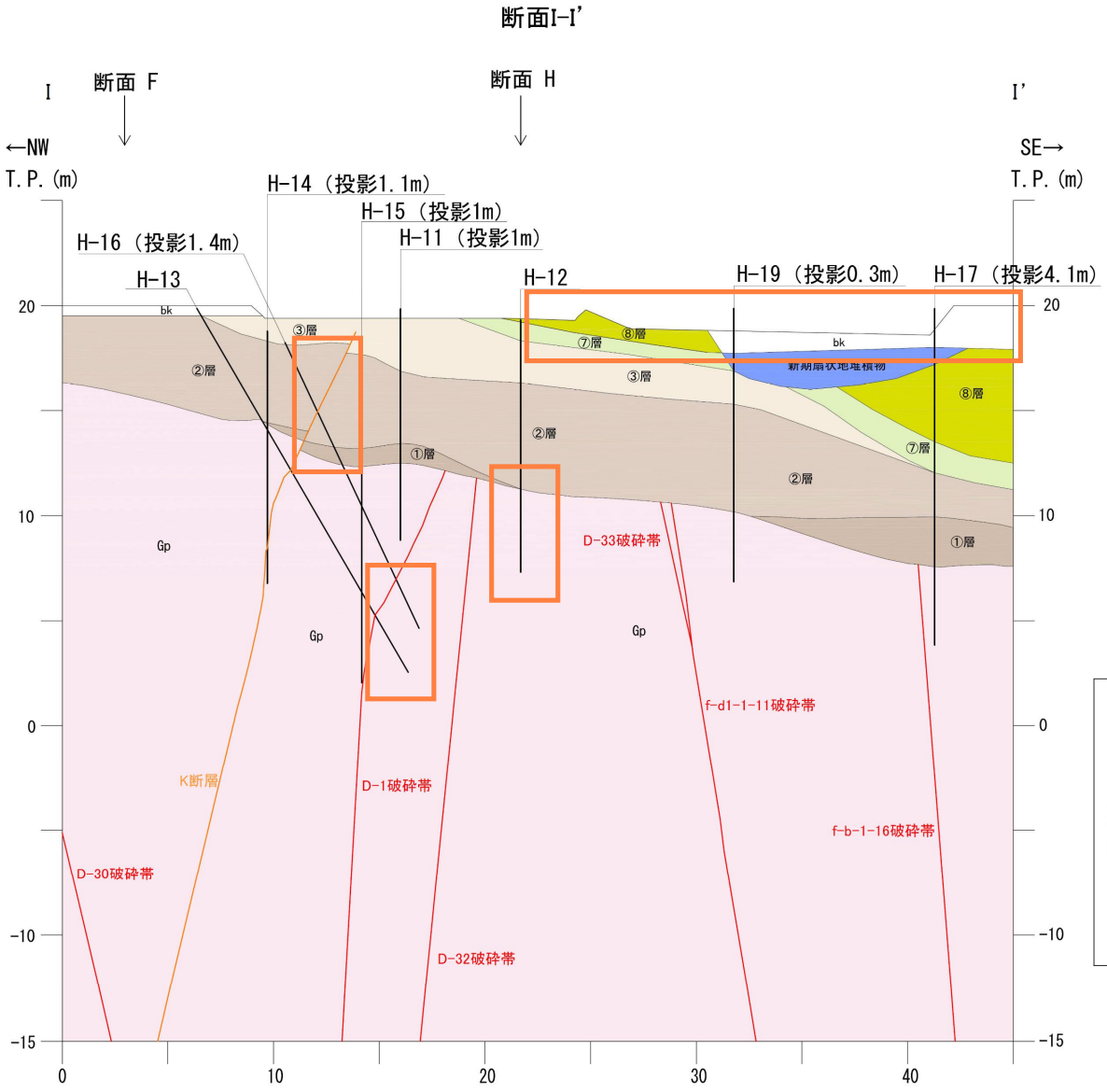
凡　例

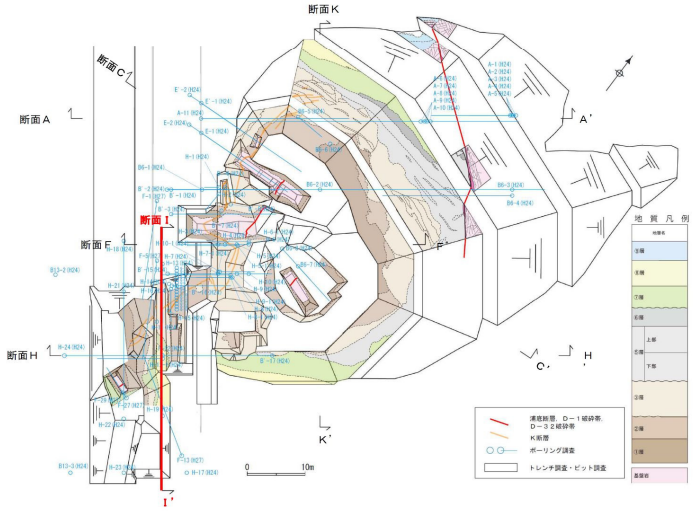
bk 盛土・埋戻土	基盤岩
新期扇状地堆積物	地層境界
⑧層	D-1破砕帯
⑦層	K断層
③層	
②層	水平・垂直比は1:1
①層	

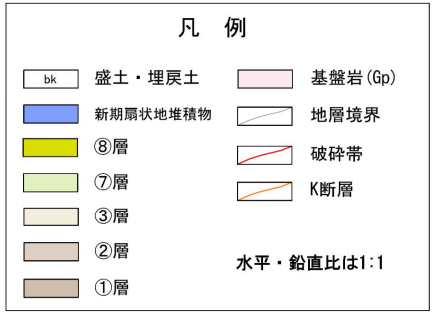
D－1トレンチに分布する地層は，花崗斑岩とそれを覆う第四系からなり，第四系は層相から下位より①層～⑨層に区分した。

D-1トレンチ断面図(I-I')

143，144，145：最新の法面形状に修正　**修正後**







青枠：変位量に関する部分

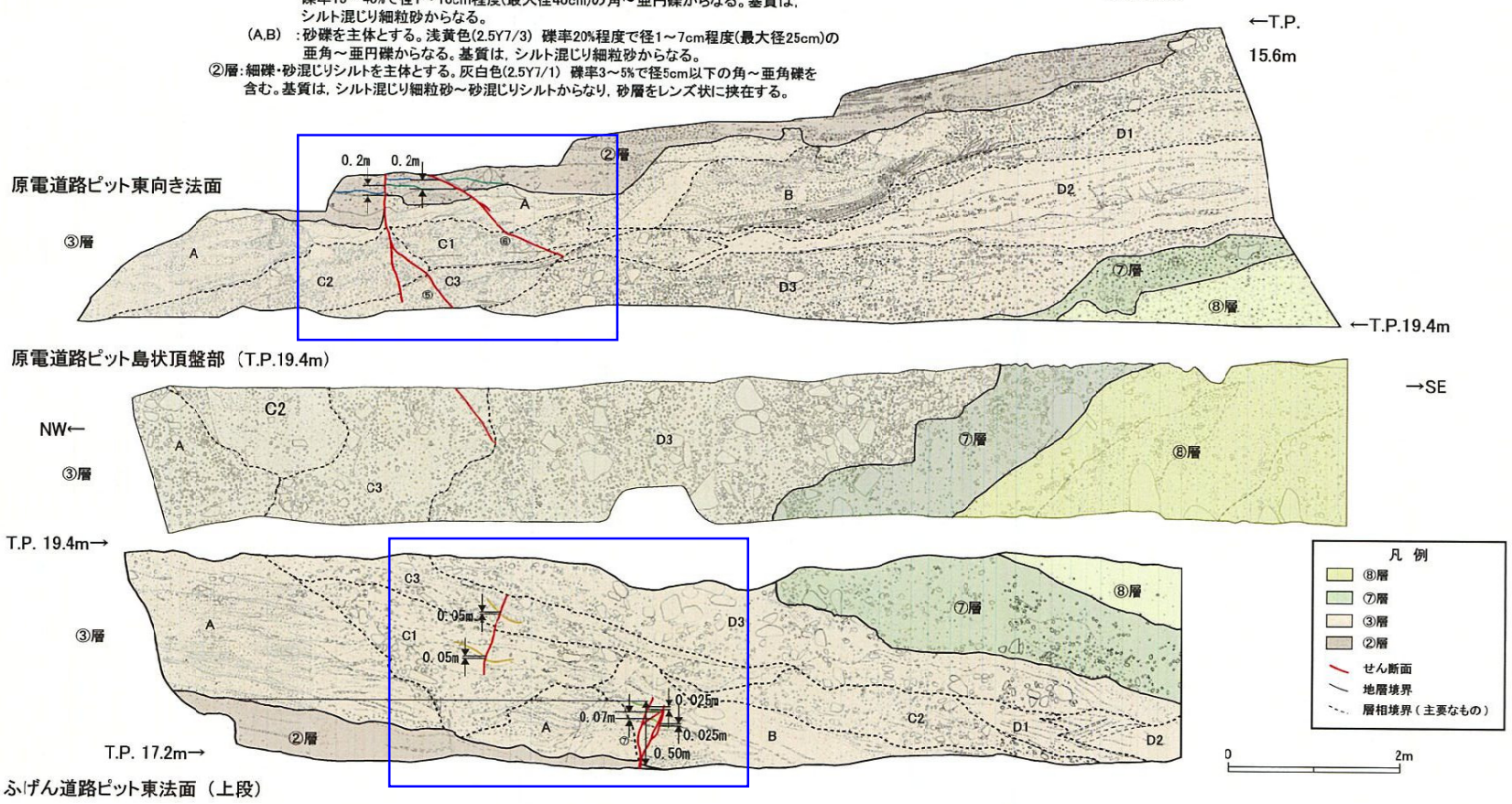
144（変位量）のエビデンス（1/2）

作成日・確認日：2022年3月31日
確認者：[redacted]

原電・ふげん道路ピットスケッチ

⑧層：細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6)。
礫率5～10%で，礫は径2～4cm程度の亜角礫を含む。基質は，シルト質細砂からなり，細礫混じり砂質シルト，砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状～層状に挟在する。
⑦層：礫混じり砂質シルト～砂礫からなる。明赤褐色(5YR5/6)～橙色(7.5YR7/6)
礫率7～40%程度で径3～40cm程度の亜角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細～中粒砂からなる。下部ほど礫の含有率が多い。
③層（C,D）：砂礫及びシルト混じり細粒砂を主体とする。橙色～明褐色(7.5YR6/6～7.5YR5/6)
礫率15～40%で径1～10cm程度(最大径40cm)の角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細粒砂からなる。
（A,B）：砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1～7cm程度(最大径25cm)の亜角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細粒砂からなる。
②層：細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1) 礫率3～5%で径5cm以下の角～亜角礫を含む。基質は，シルト混じり細粒砂～砂混じりシルトからなり，砂層をレンズ状に挟在する。

⑤:f:N9° E74° W
⑥:f:N5° E64° W
⑦:f:N25° E70° E
f: せん断面



原電道路・ふげんピット写真

144（変位量）のエビデンス（2/2）

東向き法面

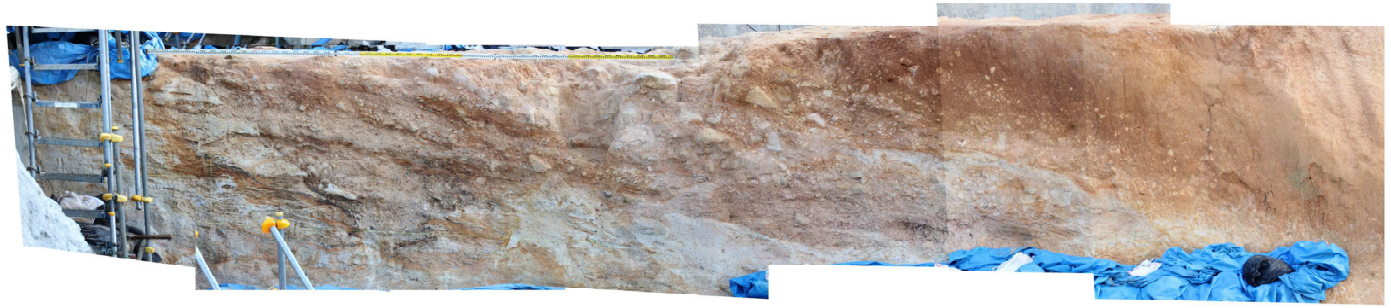


2015年10月撮影

島状頂盤



2015年9月撮影



ふげん道路
東法面

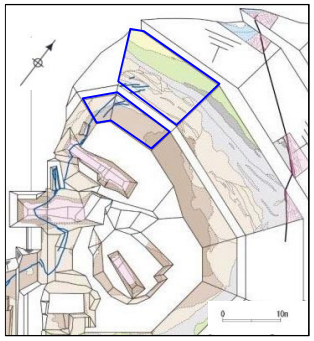
2015年10月撮影

2m

K断層の性状（北西法面）

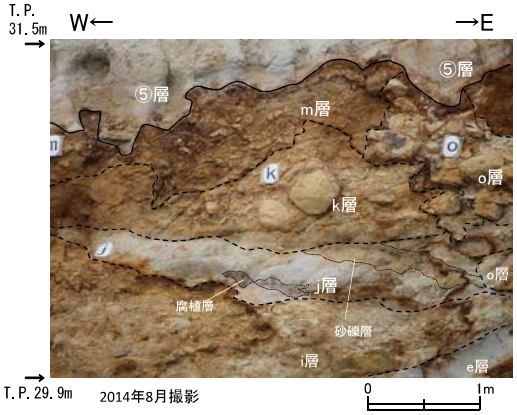
修正前

第536回審査会合
資料2 修正



調査位置図

- 北西法面においてK断層は，③層以下の地層に逆断層変位を与えており，その変位量は90cm程度である。
- また，K断層の変位・変形の形態については，下方の地層では変位が，上方では変形が主体となっている。
- K断層によって変位・変形を受けている③層上部のj層については，腐植層や砂礫層の層理は東へ傾斜しており，同層基底ではK断層による変位・変形量は60cm以上である。
- 一方，j層直上のk層については，j層を傾斜不整合関係で覆っており，k層の基底及びk層中の砂層は概ね水平である。
- 以上のことから，K断層はk層には変位・変形を与えていないと判断される。



2014年8月撮影

⑧層：細礫
礫径5cm以下，特に1cm以下の角～亜角礫を主体とし，まれに10cm程度の礫を含む。礫種は新鮮な花崗斑岩，アプライト，石英である。基質はシルト質細～中粒砂からなり，ゆるい。成層構造（ほぼ水平，一部斜交葉理様）が見られる。

⑦層：礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト（砂礫を伴う）
橙色～明黄褐色（7.5YR6/6～10YR6/6），灰色（10Y6/1）を呈する。

⑥層：腐植質砂質シルト～シルト質砂（一部に砂礫を伴う）
木片を多数含む。

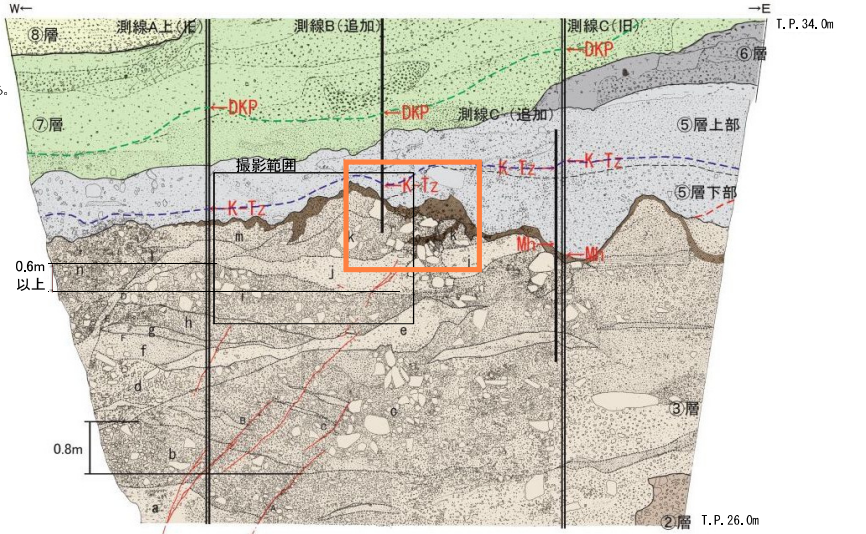
⑤層：砂礫主体（礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト層を伴う）
大局的には上方細粒化の傾向を示す。
黄灰色～明オリーブ灰色（2.5Y6/1～2.5GY7/1）を呈する。

酸化帯：③層と⑤層の境界面付近に多い。

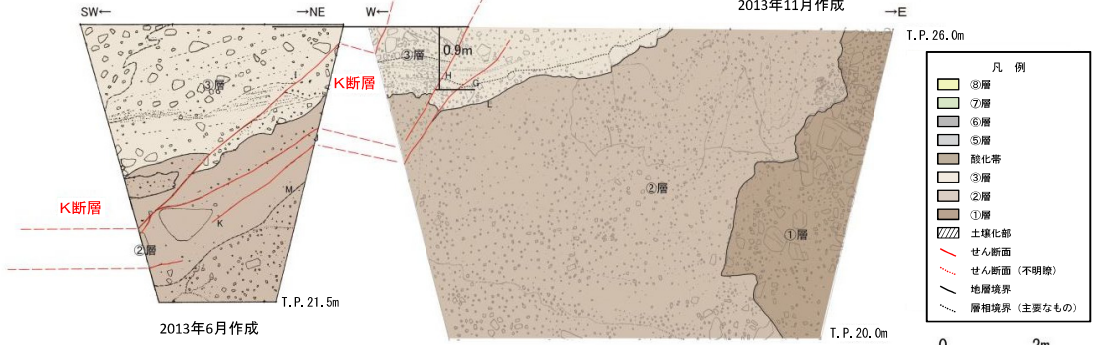
③層：砂礫
主に20cm以下（まれに50cm大）の角～亜角礫を含む。
礫種は花崗斑岩，花崗岩である。淘汰は極めて悪い。
基質は細～粗粒砂で，締まりは良好である。一部レンズ状に砂層を挟む。
にぶい橙色～橙色（7.5YR7/3～7.5YR6/6）を呈する。
K断層近辺の砂礫層は，撓曲を示す。

②層：礫混じりシルト
礫径0.2～30cm（まれに50cm以上）で，亜角～角礫を含む。
礫種はアプライト，粗粒花崗岩からなる。礫率10～20%である。
にぶい橙色～明青灰色（5YR6/4～10B7/1）を呈する。

①層：砂礫
礫径0.5～30cm（最大100cm以上）で，亜角～角礫を含む。
礫種は花崗斑岩，粗粒花崗岩，アプライト，石英である。淘汰は悪い。
基質は砂質シルトで，締まりは良好である。
黄褐色（10YR5/8）を呈する。



2013年11月作成



2013年6月作成

A：せん断面：N25° E58° W
B：せん断面：N20° E63° W
C：せん断面：N22° E57° W
D：層理面（チャネル壁）：N87° W42° S
E：層理面（チャネル壁）：N33° W46° W
F：層理面（堆積構造）：N69° E16° S
G：せん断面：N41° E60° NW
見かけ 15cm 変位（逆断層）
H：せん断面：N33° E72° NW
見かけ 10cm 変位（逆断層）
I：せん断面：N11° W64° W
J：せん断面：N9° W44° W
K：せん断面：N13° E48° NW
L：層理面（②層③層境界）：N47° W20° SW
M：層理面：N19° E56° NW

2013年6月作成

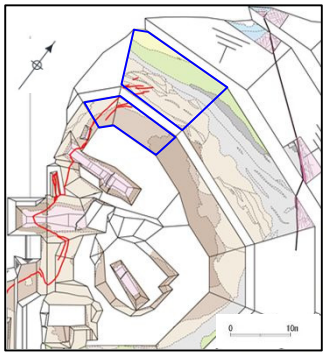
北西法面　スケッチ

K断層の性状（北西法面）

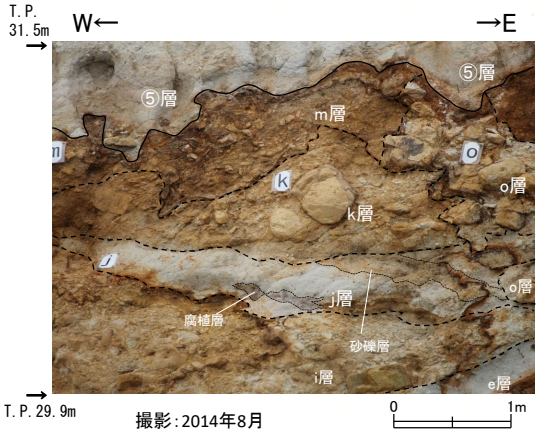
146，147：最新版に修正（土壌化範囲の観察結果の反映もれを修正）
②層の色調修正

修正後

- 北西法面のスケッチを以下に示す。
- 北西法面においてK断層は，③層以下の地層に逆断層変位を与えており，その変位量は90cm程度である。
- また，K断層の変位・変形の形態については，下方の地層では変位が，上方では変形が主体となっている。
- K断層によって変位・変形を受けている③層上部のj層については，腐植層や砂礫層の層理は東へ傾斜しており，同層基底ではK断層による変位・変形量は60cm以上である。
- 一方，j層直上のk層については，j層を傾斜不整合関係で覆っており，k層の基底及びk層中の砂層は概ね水平である。
- 以上のことから，K断層はk層には変位・変形を与えていないと判断される。



調査位置図



撮影：2014年8月

⑧層：砂礫
礫径5cm以下，特に1cm以下の角～亜角礫を主体とし，まれに10cm程度の礫を含む。礫種は新鮮な花崗斑岩，アプライト，石英である。基質はシルト質細～中粒砂からなり，ゆるい。成層構造（ほぼ水平，一部斜交葉理様）が見られる。
褐（7.5YR4/6），黄橙（7.5YR7/8）を呈する。

⑦層：礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト（砂礫を伴う）
橙色～明黄褐色（7.5YR6/6～10YR6/6），灰色（10Y6/1）を呈する。

⑥層：腐植質砂質シルト～シルト質砂（一部に砂礫を伴う）
木片を多数含む。
暗灰（N3/），灰（10Y6/1）を呈する。

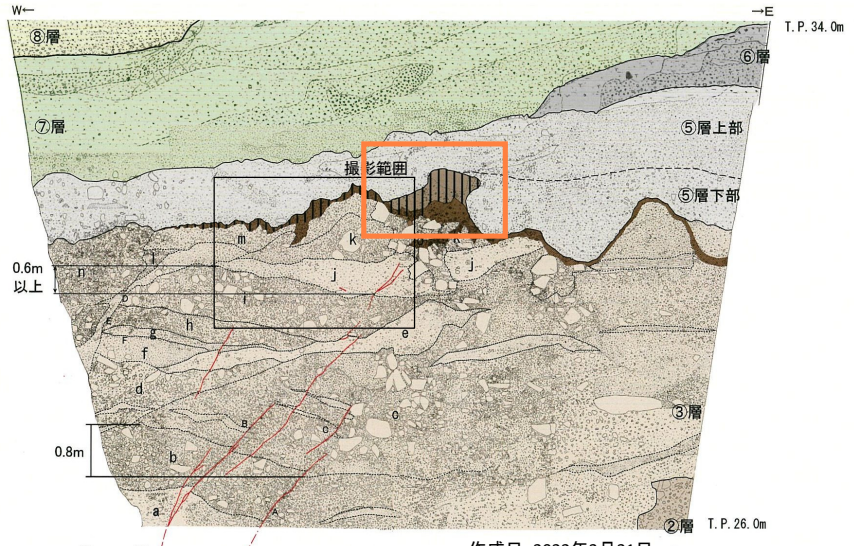
⑤層：砂礫主体（礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト層を伴う）
礫は径0.5～20cmの角～亜円礫主体。
大局的には上方細粒化の傾向を示す。
黄灰色～明オリーブ灰色（2.5Y6/1～2.5GY7/1）を呈する。

酸化帯：③層と⑤層の境界面付近に多い。

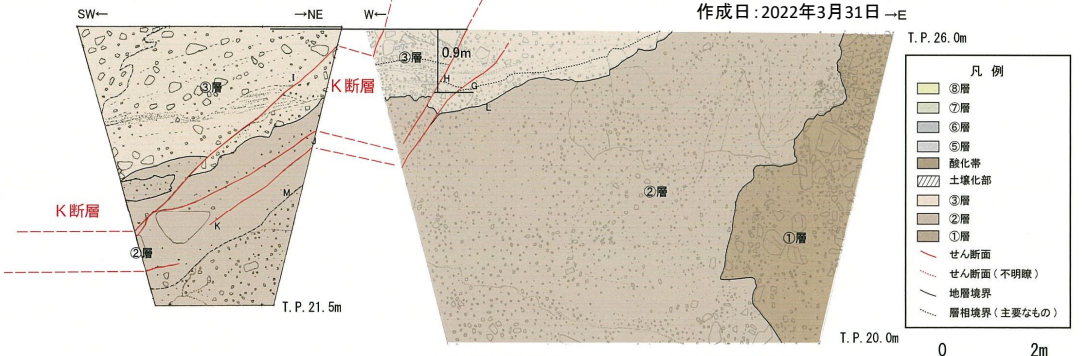
③層：砂礫
主に20cm以下（まれに50cm大）の角～亜角礫を含む。
礫種は花崗斑岩，花崗岩である。淘汰は極めて悪い。
基質は細～粗粒砂で，締まりは良好である。一部レンズ状に砂層を挟む。
にぶい橙色～橙色（7.5YR7/3～7.5YR6/6）を呈する。
K断層近辺の砂礫層は，撓曲を示す。

②層：礫混じりシルト
礫径0.2～30cm（まれに50cm以上）で，亜角～角礫を含む。
礫種はアプライト，粗粒花崗岩からなり，礫率10～20%である。
にぶい橙色～明青灰色（5YR6/4～10BG7/1）を呈する。

①層：砂礫
礫径0.5～30cm（最大100cm以上）で，亜角～角礫を含む。
礫種は花崗斑岩，粗粒花崗岩，アプライト，石英である。淘汰は悪い。
基質は砂質シルトで，締まりは良好である。
黄褐色（10YR5/8）を呈する。



作成日：2022年3月31日



作成日：2022年3月31日

A：せん断面：N25° E58° W
B：せん断面：N20° E63° W
C：せん断面：N22° E57° W
D：層理面（チャネル壁）：N87° W42° S
E：層理面（チャネル壁）：N33° W46° W
F：層理面（堆積構造）：N69° E16° S
G：せん断面：N41° E60° NW
見かけ 15cm 変位（逆断層）
H：せん断面：N33° E72° NW
見かけ 10cm 変位（逆断層）
I：せん断面：N11° W64° W
J：せん断面：N9° W44° W
K：せん断面：N13° E48° NW
L：層理面（②層③層境界）：N47° W20° SW
M：層理面：N19° E56° NW

作成日：2022年3月31日

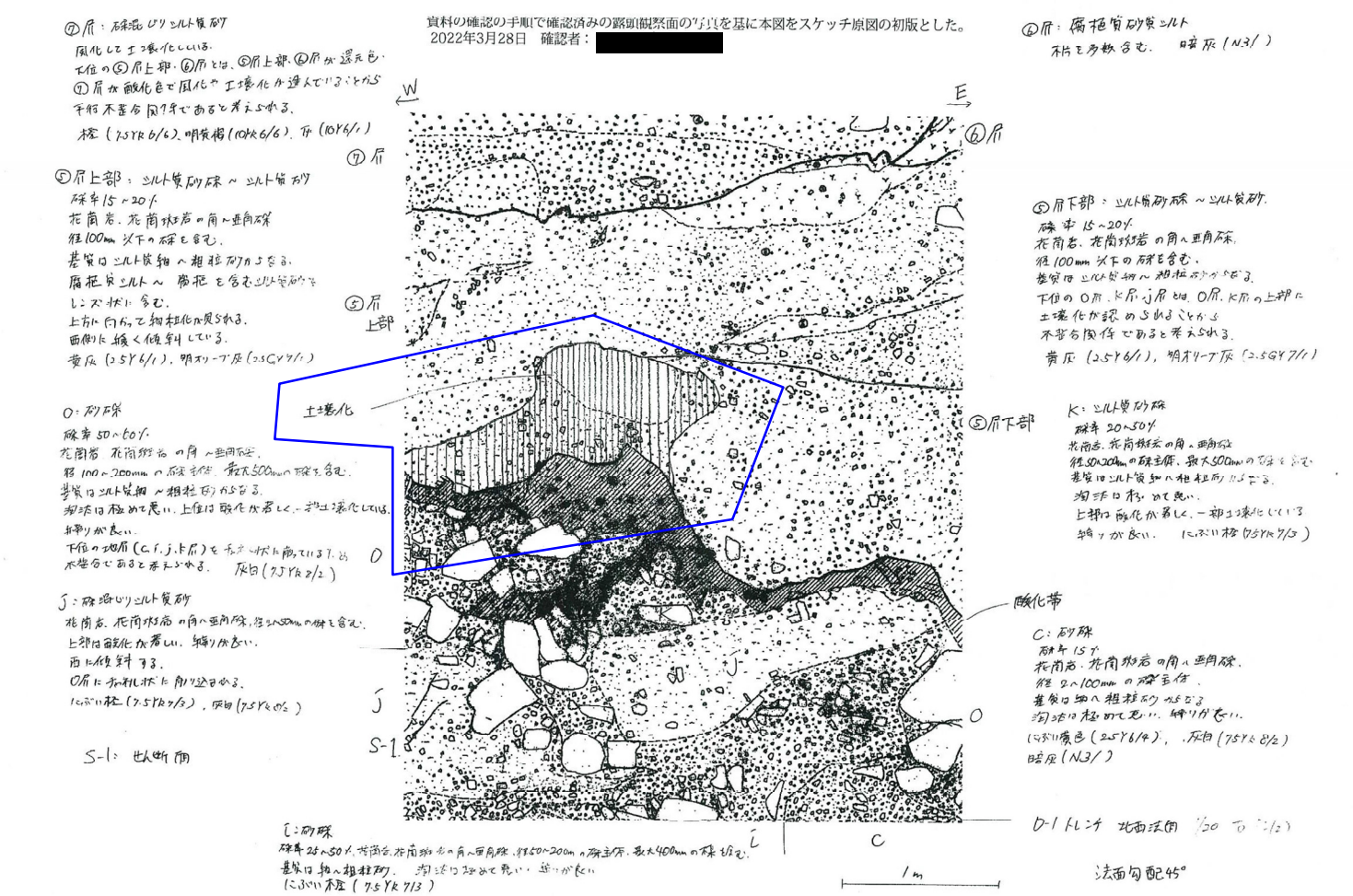
北西法面　スケッチ

青枠：土壌化した範囲に関する部分

146（スケッチ）のエビデンス（1/10）

スケッチ名D-1トレンチ　北西法面　1/20　右(2/2)　スケッチ

スケッチ	スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○



2022

作成日 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.7.28

スケッチ名0-1トレンチ東　北西法面　1/20　右(2/3)__記事

No	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)						記事・スケッチを削除・変更・追記した箇所
			地質名	地質の特徴				地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に最も走向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・複数種の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、頻度、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に最も走向が変化している箇所では測定しない。	
c	砂礫 礫率15% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜角礫、径2～100mmの礫主体。 基質は細～粗粒砂からなる。 淘汰は悪いまで思い。 締りが良い。 にぶい黄橙(2.2Y6/4) 灰白(7.5YR8/2) 暗灰(N3/)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
f	砂礫 礫率25～50% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜角礫、径40～200mmの礫主体。 最大400mmの礫を含む。 基質は細～粗粒砂からなる。 淘汰は悪めで思い。 締りが良い。 にぶい橙(7.5YR7/3)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
j	礫混じりシルト質砂 花崗岩、花崗閃岩の角～亜角礫、径2～50mmの礫を含む。 上部は酸化が著しい。 締りが良い。 西に傾斜する。 ・幅1cmチャネル状に粘り込まれる。 にぶい橙(7.5YR7/3) 灰白(7.5YR8/2)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
k	シルト質砂礫 礫率20～30% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜角礫、径50～200mmの礫主体。 最大500mmの礫を含む。 基質はシルト質細～粗粒砂からなる。 淘汰は悪めで思い。 上部は酸化が著しく一部土壌化している。 締りが良い。 にぶい橙(7.5YR7/3)	-	○	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
g	砂礫 礫率50～60% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜角礫、径100～200mmの礫主体。 最大500mmの礫を含む。 基質はシルト質細～粗粒砂からなる。 淘汰は悪めで思い。 上部は酸化が著しく、一部土壌化している。 締りが良い。 下位のm層（c、j、k層）全チャネル状に削っているため不整合関係であると考えられる。 灰白(7.5YR8/2)	-	○	○	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
i 層下部	シルト質砂礫～シルト質砂 礫率15～20% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜角礫、径100mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細～粗粒砂からなる。 下位のm層、k層、j層とは、m層、k層の上部に土壌化が認められることから不整合関係であると考えられる。 黄灰(2.5Y6/1) 明オリーブ灰(2.5GY7/1)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
i 層上部	シルト質砂礫～シルト質砂 礫率15～20% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜角礫、径100mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細～粗粒砂からなる。 礫種異ンル～凝礫を含むシルト質砂とレンズ状に含む。 上方に向かって緩酸化が見られる。 西側に緩く傾斜している。 黄灰(2.5Y6/1) 明オリーブ灰(2.5GY7/1)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
h 層	礫種異砂質シルト 木片を多数含む。 暗灰(N3/)	-	○	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
f 層	礫混じりシルト質砂 風化して土壌化している。 下位の i 層上部、h 層とは、i 層上部、h 層が還元色、f 層が酸化色で風化や土壌化が進んでいることから平行不整合関係であると考えられる。 橙(7.5YR6/6) 明黄褐(10YR8/6) 灰(N4/1)	-	○	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-

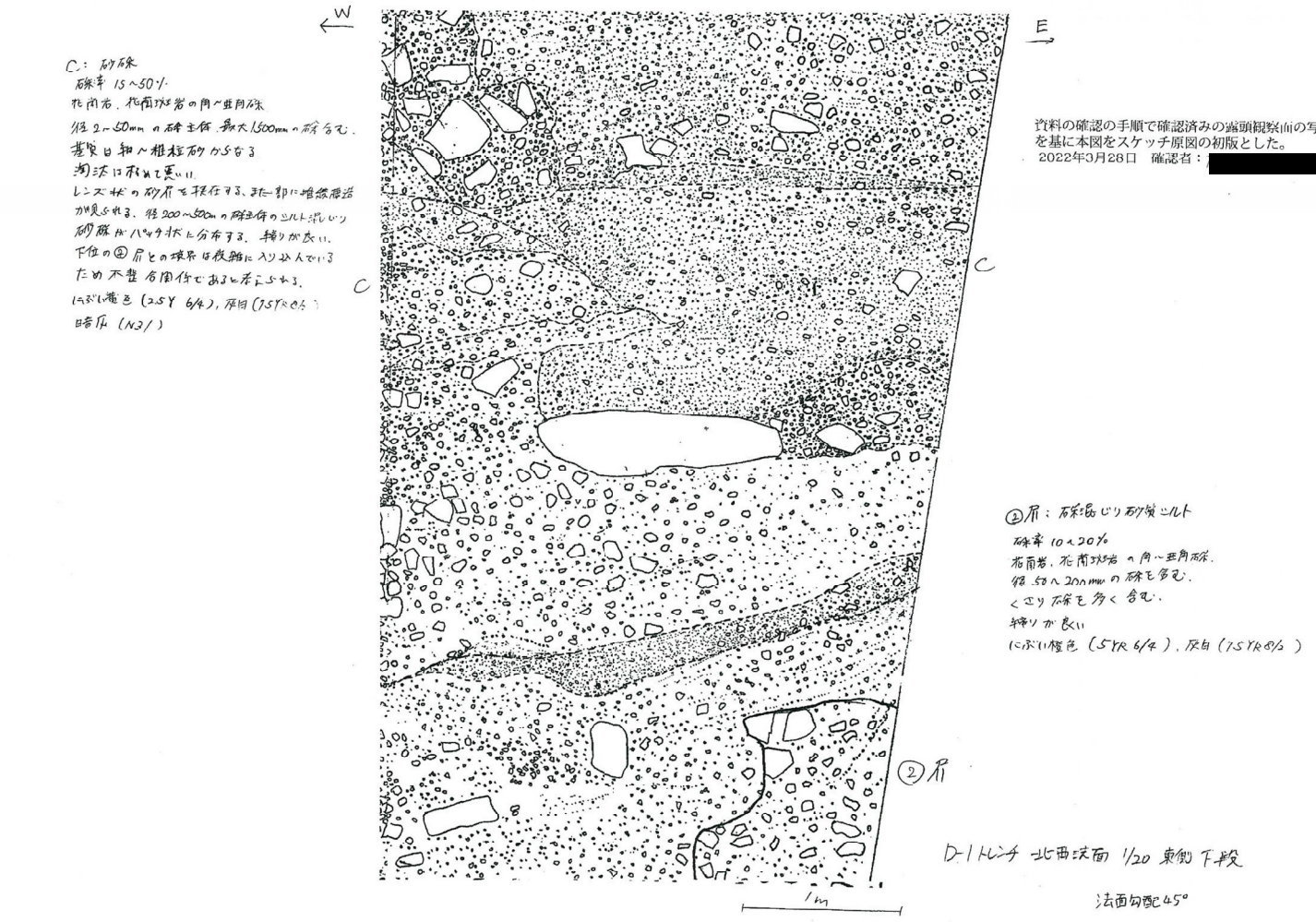
No	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯												記事・スケッチを削除・変更・追記した箇所
			破砕度区分 (H,M,L)	破砕部の性状 ・破砕部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・組織部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、混合面構造、基質構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
S-1	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

D-1トレンチ北西面写真

2014年6月撮影



スケッチ名D-1トレンチ　北西法面　1/20　東側下段＿スケッチ

スケッチ		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○

2022
作成日 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/20 東側下段＿記事

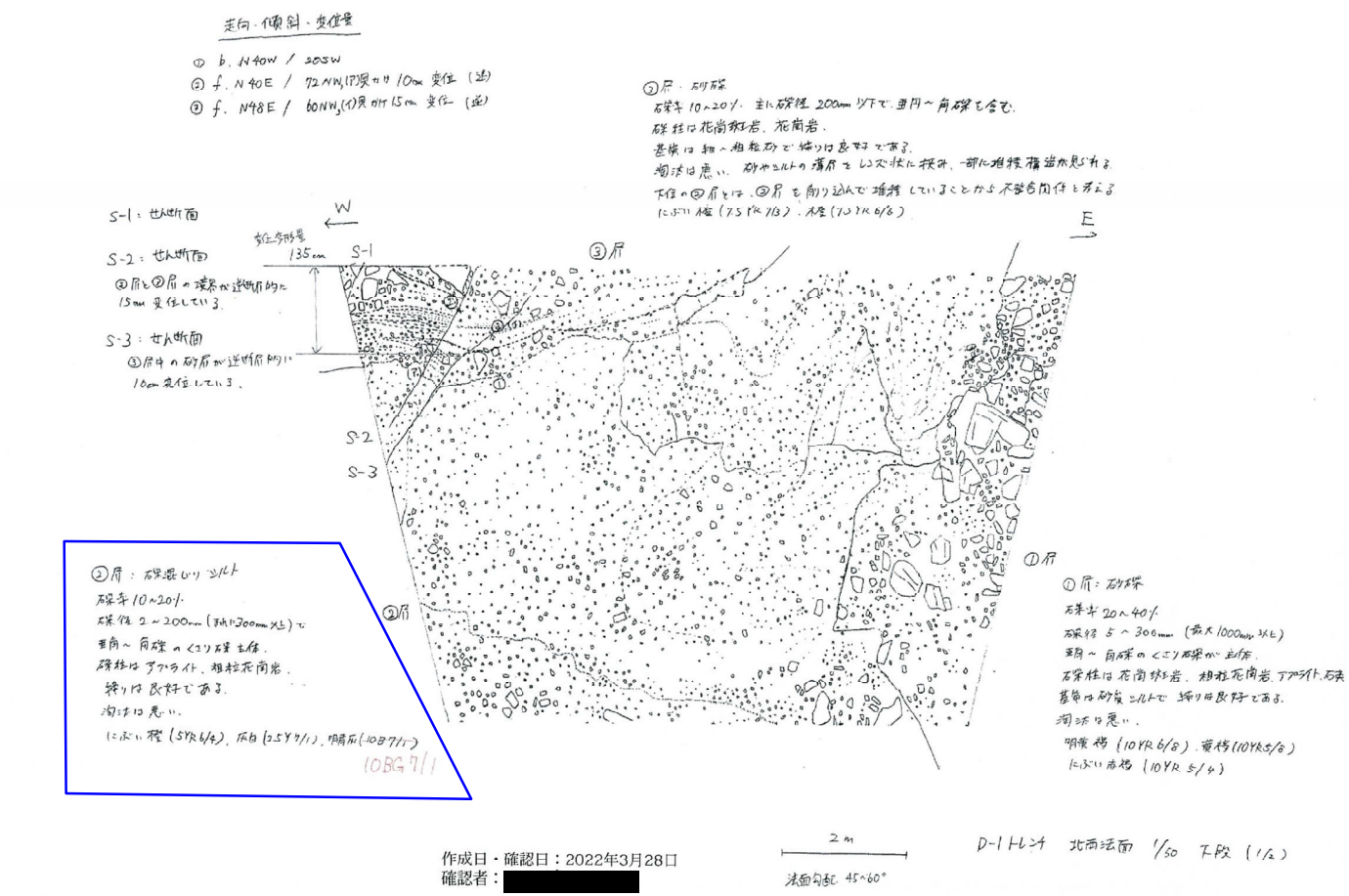
No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)									スケッチ原図(基盤岩)						記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間間隙を 色調		走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するように し、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統的の割れ目関隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統的の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
				・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、詰まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。											
c	砂礫 礫率15～50% 花崗岩、花崗斑岩の角～亜角礫、径2～50mmの礫主体。 最大1500mmの礫を含む。 基質は細～粗粒砂からなる。 淘汰は極めて悪い。 レンズ状の砂層を挟在する。また、一部に堆積構造が見られる。 径200～500mmの礫主体のシルト混じり砂礫がパッチ状に分布する。 締りが良い。 下位の②層との境界は複雑に入り込んでいるため不整合関係であると考えられる。 にぶい黄色(2.5Y6/4) 灰白(7.5YR8/2) 暗灰(N3/)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
②層	礫混じり砂質シルト 礫率10～20% 花崗岩、花崗斑岩の角～亜角礫、径50～200mmの礫を含む。 くさり礫を多く含む。 締りが良い。 にぶい橙色(5YR6/4) 灰白(7.5YR8/2)	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯									記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分(Hc,Hb,Hj)	破砕部の性状 ・破砕部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・破砕部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・境界構造、複合面構造、累帯構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

青枠：②層の色調に関する部分

147（スケッチ）のエビデンス（6/10）

スケッチ名D-1トレンチ　北西法面　1/50　下段(1/2)_スケッチ

		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔）
スケッチ		○

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

青枠：②層の色調に関する部分

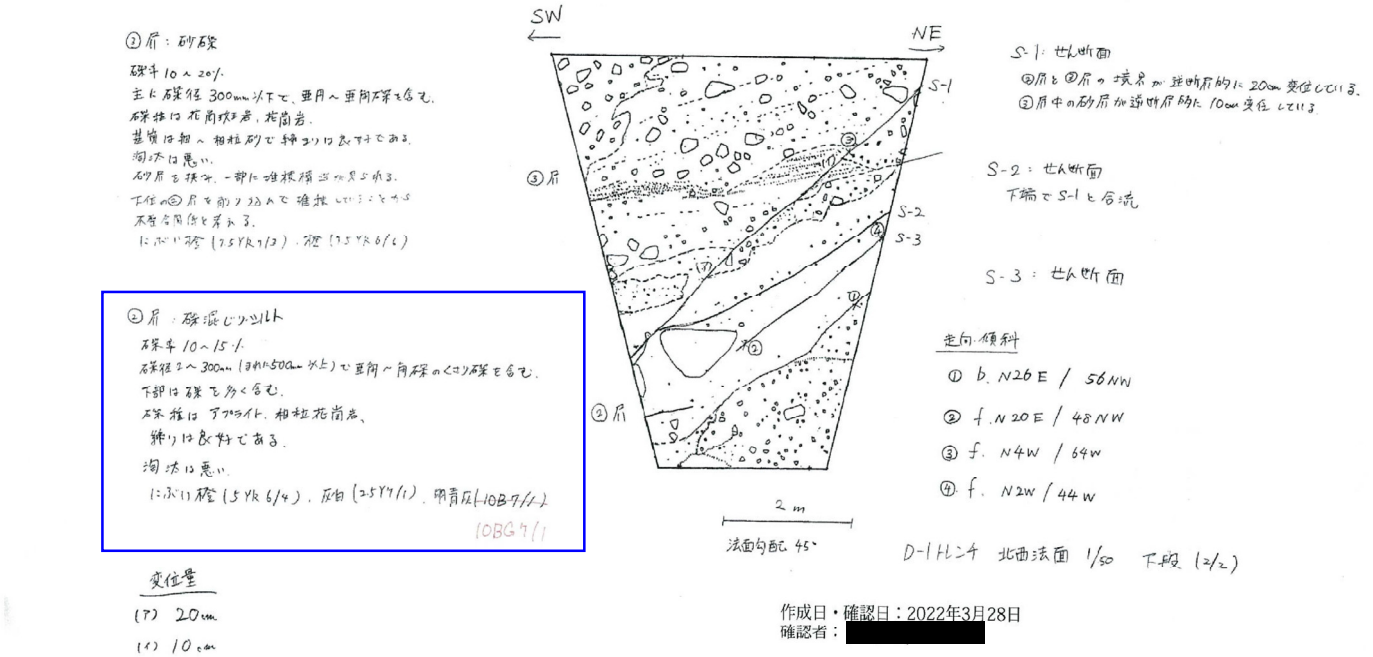
2022
作成日 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/50 下段(1/2)_記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系) 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、業理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間間隔を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図(基盤岩) 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
①層	砂礫 礫率20～40% 礫径5～300mm(最大1000mm以上)で、亜角～角礫のくさり礫が主体。 礫種は花崗斑岩、粗粒花崗岩、アプライト、石英。 基質は砂質シルトで締まりは良好である。 淘汰は悪い。 明黄褐(10YR6/8) 黄褐(10YR5/8) にぶい赤褐(5YR5/4)	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
②層	礫混じりシルト 礫率10～20% 礫径2～200mm(まれに300mm以上)で、亜角～角礫のくさり礫主体。 礫種はアプライト、粗粒花崗岩。 締りは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	礫混じりシルト 礫率10～20% 礫径2～200mm(まれに300mm以上)で、亜角～角礫のくさり礫主体。 礫種はアプライト、粗粒花崗岩。 締りは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10BG7/1)	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(明青灰)と、色調を示す記号(10B7/1)が整合していない。法面写真を確認し、色調(明青灰)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
③層	砂礫 礫率10～20% 主に礫径200mm以下で、亜円～角礫を含む。 礫種は花崗斑岩、花崗岩。 基質は細～粗粒砂で締りは良好である。 淘汰は悪い。 砂やシルトの薄層をレンズ状に挟み、一部に堆積構造が見られる。 下位の②層とは、②層を削り込んで堆積していることから不整合関係と考える。 にぶい橙(7.5YR7/3) 橙(7.5YR6/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
①	b. N40W/20SW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分(HcHbHj)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、系帯構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーリットに区分し記載	破砕幅(実測できる場合)	最新活動面(認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
②	f. N40E/72NW見かけ10cm変位(逆)	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-
③	f. N48E/60NW見かけ15cm変位(逆)	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-
S-1	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-2	せん断面 ②層と③層の境界が逆断層的に15cm変位している。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
S-3	せん断面 ③層中の砂層が逆断層的に10cm変位している。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

スケッチ名D-1トレンチ　北西法面　1/50　下段(2/2)　スケッチ

		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔）
スケッチ		○

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

青枠：②層の色調に関する部分

147（スケッチ）のエビデンス（9/10）

2022
作成日 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022. 3. 28

スケッチ名D-1トレンチ　北西法面　1/50　下段(2/2)　記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系) 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	地質の特徴 ・礫の風化度	地質の特徴 ・含有物(有機質、貝殻など)	地質の特徴 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間間隔を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図(基盤岩) 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と傾及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
②層	礫混じりシルト 礫率10～15% 礫径2～300mm(まれに500mm以上)で、亜角～角礫のくさり礫を含む。 下部は礫を多く含む。 礫種はアプライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	礫混じりシルト 礫率10～15% 礫径2～300mm(まれに500mm以上)で、亜角～角礫のくさり礫を含む。 下部は礫を多く含む。 礫種はアプライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10BG7/1)	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(明青灰)と、色調を示す記号(10B7/1)が整合していない。法面写真を確認し、色調(明青灰)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
③層	砂礫 礫率10～20% 主に礫径300mm以下で、亜円～亜角礫を含む。 礫種は花崗斑岩、花崗岩。 基質は細～粗粒砂で締まりは良好である。 淘汰は悪い。 砂層を挟み、一部に堆積構造が見られる。 下位の②層を削り込んで堆積していることから不整合関係と考える。 にぶい橙(7.5YR7/3) 橙(7.5YR6/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
①	b.N26E/56NW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分(Hc,Hb,Hj)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、黒帯構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅(実測できる場合)	最新活動面(認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
②	f. N20E/48NW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
③	f. N4W/64W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
④	f. N2W/44W	-	-	-			-	-	-	-	-	○	-
S-1	せん断面 ②層と③層の境界が逆断層的に20cm変位している。 ③層中の砂層が逆断層的に10cm変位している。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
S-2	せん断面 下端でS-1と合流する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-3	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

147（スケッチ）のエビデンス（10/10）

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ　北西法面__②層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？	選定した記事内容	スケッチ原図（地層の性状に関する記事）から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 （スケッチ原図（地層の性状に関する記事）を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点）
スケッチ原図東側下段	礫混じり砂質シルト 礫率10～20%。 花崗岩，花崗斑岩の角～亜角礫，径50～200mmの礫を含む。 くさり礫を多く含む。 締りが良い。 にぶい橙色(5YR6/4) 灰白(7.5YR8/2)	-	②層：礫混じりシルト 礫径0.2～30cm（まれに50cm以上）で，亜角～角礫を含む。 礫種はアプライト，粗粒花崗岩からなる。礫率10～20%である。 にぶい橙色～明青灰色(5YR6/4～10BG7/1)を呈する。	・地層名は③層で最も広く分布する砂礫とした。 ・礫径は一部の砂礫を除けば概ね20cm以下である。また最大礫径も50cm程度の箇所が最も多い。 ・色調は，上段・下段で共通して確認されたた色調とした。また局所的な色調は不採用とした。
北西法面下段：スケッチ原図下段（1／2）	礫混じりシルト 礫率10～20% 礫径2～200mm（まれに300mm以上）で，亜角～角礫のくさり礫主体。 礫種はアプライト，粗粒花崗岩。 締りは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	礫混じりシルト 礫率10～20% 礫径2～200mm（まれに300mm以上）で，亜角～角礫のくさり礫主体。 礫種はアプライト，粗粒花崗岩。 締りは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10BG7/1)		
北西法面下段：スケッチ原図下段（2／2）	礫混じりシルト 礫率10～15% 礫径2～300mm（まれに500mm以上）で，亜角～角礫のくさり礫を含む。 下部は礫を多く含む。 礫種はアプライト，粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	礫混じりシルト 礫率10～15% 礫径2～300mm（まれに500mm以上）で，亜角～角礫のくさり礫を含む。 下部は礫を多く含む。 礫種はアプライト，粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10BG7/1)		

修正前

K断層の性状（1－1ピット北面）

149（D-1トレンチ1-1ピット北面） 修正箇所：橙色枠

- 1－1ピット北面のスケッチを以下に示す。
- 1－1ピット北面では，K断層は基盤岩から堆積物（③層）までを逆断層的に変位させている。
- 基盤岩中では，K断層はN-S走向で高角度西傾斜である。最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果，縦ずれ成分が卓越する。

③層：砂礫を主体とする。浅黄橙色（7.5YR8/3）。礫率20～40%で径10cm以下の亜角礫からなる。淘汰は良い。基質は中～粗粒砂からなり，一部，細砂及びシルトからなり，細礫を含み，葉理が発達する。

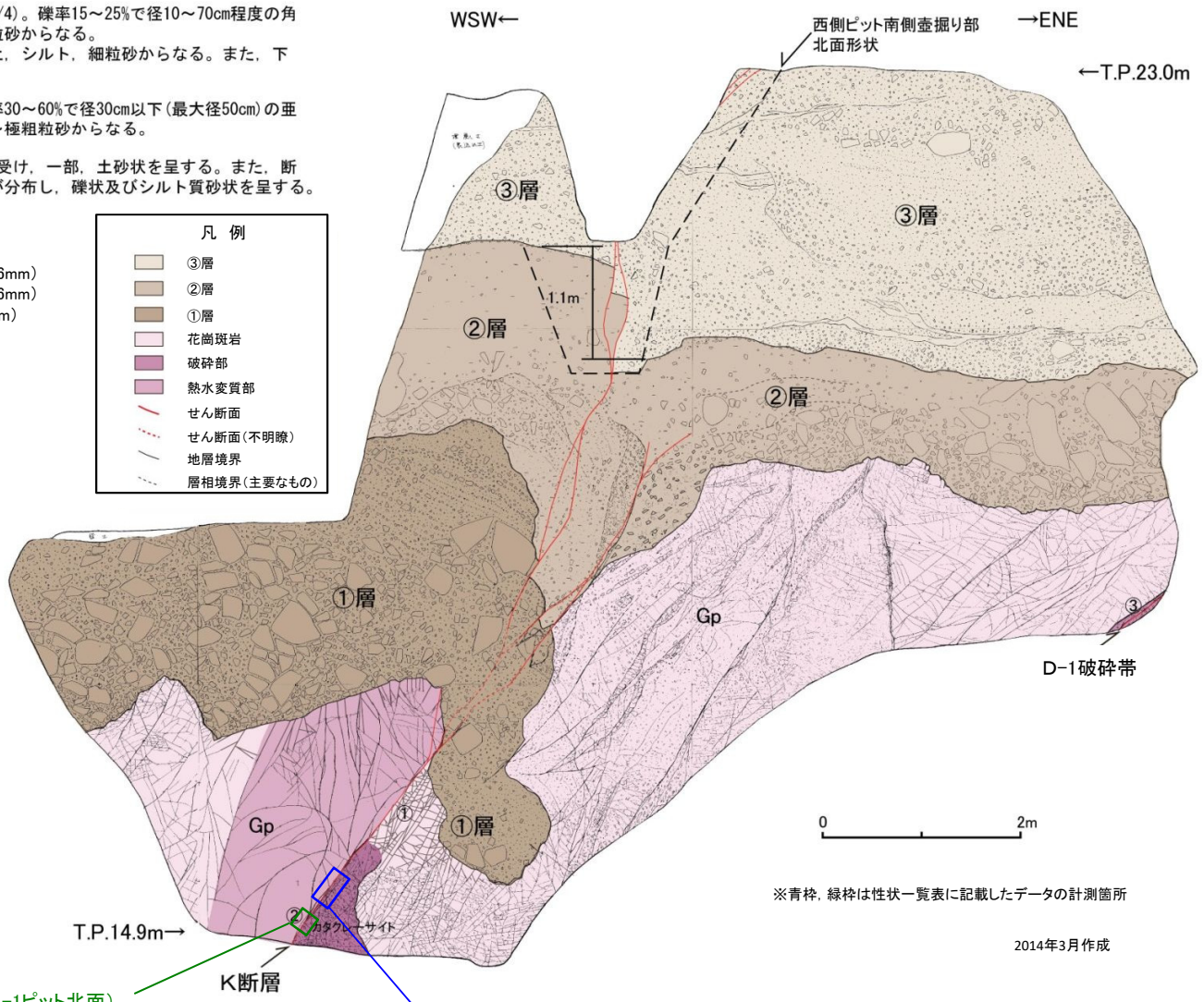
②層：シルト質砂礫を主体とする。にぶい橙色（5YR7/4）。礫率15～25%で径10～70cm程度の角～亜角礫からなる。基質はシルト及び中～細粒砂からなる。
上部には砂礫混じりシルトが分布し，主に粘土，シルト，細粒砂からなる。また，下部の一部には，シルト質砂礫が分布している。

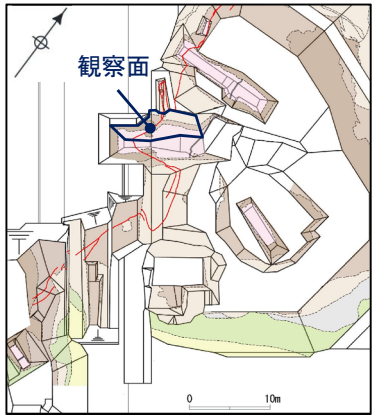
①層：砂礫を主体とする。浅黄橙色（7.5YR7/3），礫率30～60%で径30cm以下（最大径50cm）の亜角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中～極粗粒砂からなる。

Ｇｐ：花崗斑岩：浅黄橙色（7.5YR8/4）。全体に風化を受け，一部，土砂状を呈する。また，断層周辺部では，花崗斑岩質カタクレーサイトが分布し，礫状及びシルト質砂状を呈する。全体的に変質している。

①：f：N14° W64° W　断層ガウジ（灰褐色粘土：幅2～6mm）
②：f：N10° W61° W　断層ガウジ（灰褐色粘土：幅3～6mm）
③：f：N6° E65° W　断層ガウジ（橙色粘土：幅2～15mm）

f：せん断面





調査位置図

※青枠，緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

2014年3月作成

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所（1-1ピット北面）

走向・傾斜，条線方向計測箇所（1-1ピット北面：12箇所のデータを平均化）

K断層の性状（1－1ピット北面）

149：①層の色調修正

修正後

- 1－1ピット北面のスケッチを以下に示す。
- 1－1ピット北面では，K断層は基盤岩から堆積物（③層）までを逆断層的に変位させている。
- 基盤岩中では，K断層はN-S走向で高角度西傾斜である。最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果，縦ずれ成分が卓越する。

③層：砂礫を主体とする。浅黄橙色（7.5YR8/3）。礫率20～40%で径10cm以下の亜角礫からなる。淘汰は良い。基質は中～粗粒砂からなり，一部，細砂及びシルトからなり，細礫を含み，葉理が発達する。

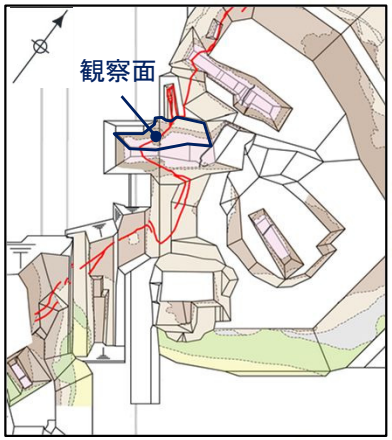
②層：シルト質砂礫を主体とする。にぶい橙色（5YR7/4）。礫率15～25%で径10～70cm程度の角～亜角礫からなる。基質はシルト及び中～細粒砂からなる。
上部には砂礫混じりシルトが分布し，主に粘土，シルト，細粒砂からなる。また，下部の一部には，シルト質砂礫が分布している。

①層：砂礫を主体とする。浅黄橙色（7.5YR8/3）。礫率30～60%で径30cm以下（最大径50cm）の亜角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中～極粗粒砂からなる。

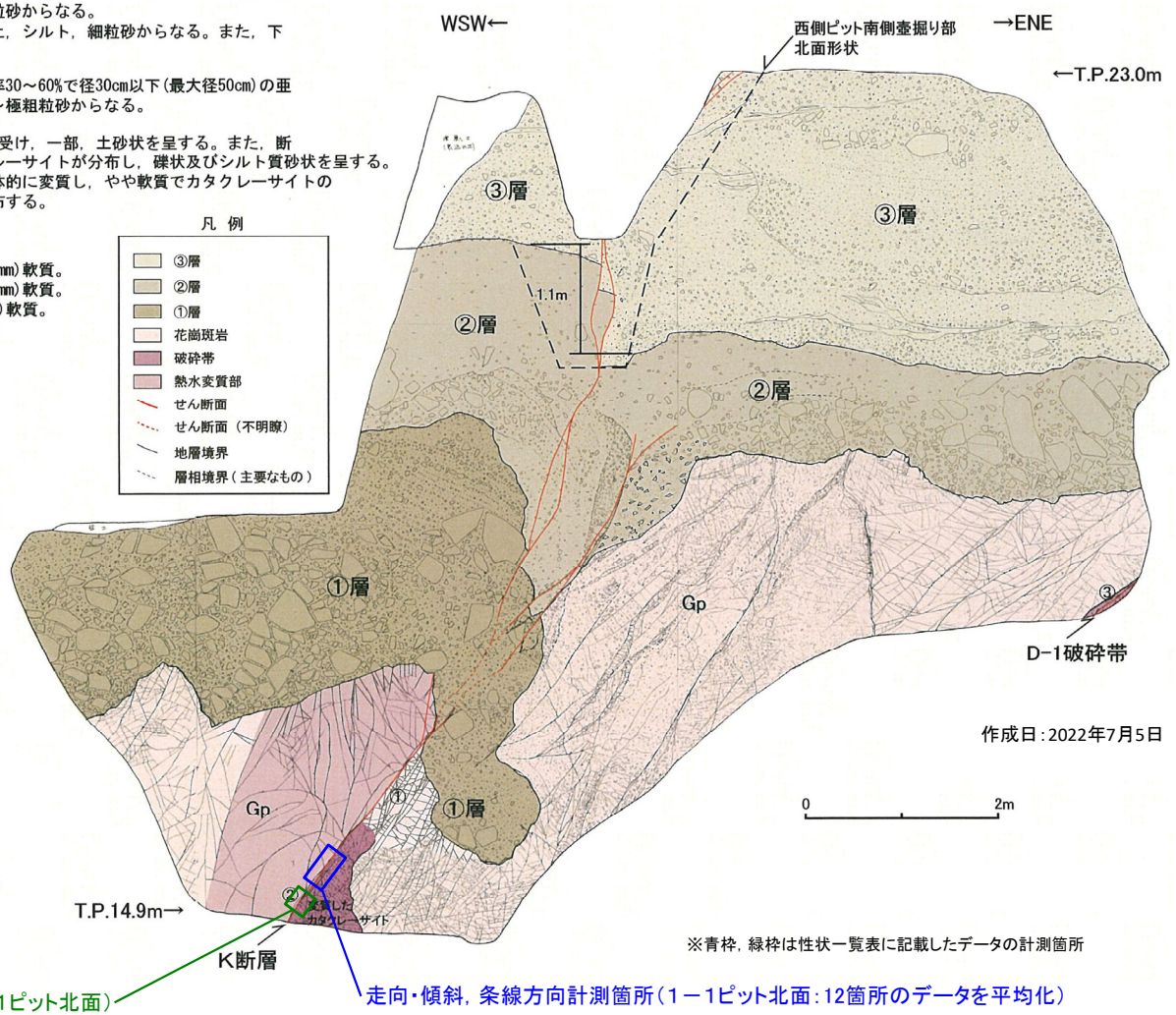
Ｇｐ：花崗斑岩：浅黄橙色（7.5YR8/4）。全体に風化を受け，一部，土砂状を呈する。また，断層周辺部では，花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトが分布し，礫状及びシルト質砂状を呈する。花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトは全体的に変質し，やや軟質でカタクレーサイトの特徴が認められる。また細粒部は網目状に分布する。

①：f：N14° W64° W　断層ガウジ（灰褐色粘土：幅2～6mm）軟質。
②：f：N10° W61° W　断層ガウジ（灰褐色粘土：幅3～6mm）軟質。
③：f：N6° E65° W　断層ガウジ（橙色粘土：幅2～15mm）軟質。

f：せん断面



調査位置図



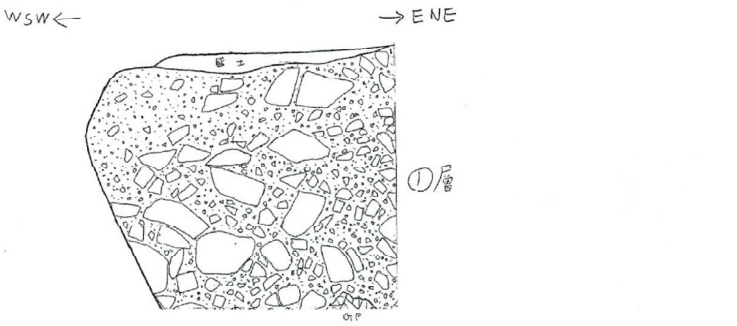
青枠：①層の色調に関する部分　149のエビデンス（1/10）

スケッチ名　D-1トレンチ　1-1ピット北面　1/20　③_スケッチ

		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔）
スケッチ		○

①層
・砂石礫 主体
・浅黄橙（7.5YR8/3）
・径20cm以下の亜角礫主体，最大径40cm
・礫率30~60%
・淘汰は悪い
・基質は中~極粗粒砂からなる。

GP
・風化花崗斑岩
・浅黄橙（7.5YR8/6）



作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

青枠：①層の色調に関する部分　　149のエビデンス（2/10）

2022
作成日 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

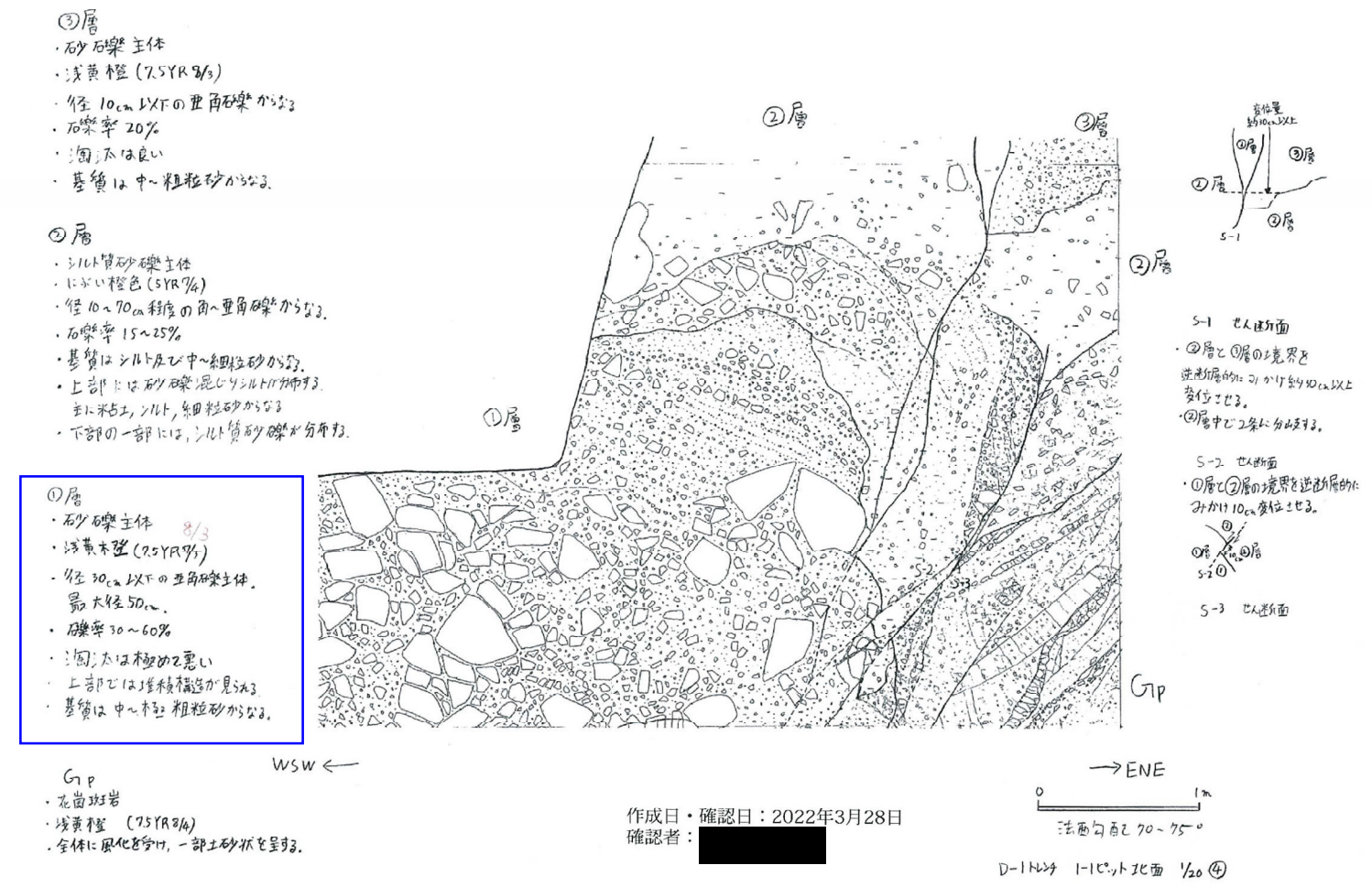
スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ③記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系） 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、線化など	土壌化など、堆積環境・時間間隔を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図（基盤岩） 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
①層	浅黄橙色（7.5YR7/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの亜角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	浅黄橙色（7.5YR8/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの亜角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調（浅黄橙色）と色調を示す記号（7.5YR7/3）が整合していない。法面写真を確認し、色調（浅黄橙色）が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
Gp	風化花崗斑岩：浅黄橙色（7.5YR8/4）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分（Hc,Hb,Hj）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、葉帯構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅（実測できる場合）	最新活動面（認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ名　D-1トレンチ　1-1ピット北面　1/20　④_スケッチ

スケッチ	スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○



青枠：①層の色調に関する部分　　149のエビデンス（4/10）

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ④ 記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系）										スケッチ原図（基盤岩）						記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、線化など	土質化など、堆積環境・時間間隙を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するように、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の様子物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するように、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
				・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。												
③層	浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率20%で、径10cm以下の亜角礫からなる。 淘汰は良い。 基質は中～粗粒砂からなる。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
②層	にぶい橙色(5YR7/4)のシルト質砂礫を主体とする。 礫率15～25%で、径10～70cm程度の角～亜角礫からなる。 基質はシルト～細粒砂からなる。 上部には砂礫混じりシルトが分布する。主に粘土、シルト、細粒砂からなる。 下部の一部には、シルト質砂礫が分布する。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
①層	浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30～60%で、径30cm以下を主体とし最大径50cmの亜角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中～極粗粒砂からなる。	浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30～60%で、径30cm以下を主体とし最大径30cmの亜角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中～極粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	色調（浅黄橙色）と色調を示す記号（7.5YR7/3）が整合していない。法面写真を確認し、色調（浅黄橙色）が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
Gp	花崗斑岩（浅黄橙色(7.5YR8/4) 全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯									記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分（Hc,Hb,Hj）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・傾斜 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・鏡状構造、複合面構造、気泡構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
s-1	せん断面 ②層と③層の境界を逆断層的にみかけ約30cm変位させる。 ②層中で2条に分岐する。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s-2	せん断面 ①層と②層の境界を逆断層的にみかけ10cm変位させる。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s-3	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

青枠：①層の色調に関する部分

149のエビデンス（5/10）

スケッチ名　D-1トレンチ　1-1ピット北面　1/20　⑥_スケッチ

スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位，スケール（または，グリッドの間隔）

○

①層
- 石少 礫生体　8/3
- 浅黄橙　(7.5YR7/3)
- 径20cm以下の亜角礫主体，最大径30cm
- 礫率30~60%
- 淘汰は悪い
- 基質は中~極粗粒砂からなる。

Gp
- 風化花崗玫瑰
- 浅黄橙　(7.5YR8/4)



WSW ←

→ENE

0　1m

法面勾配 70~75°

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

D-1トレンチ 1-1ピット北面　1/20 ⑥

青枠：①層の色調に関する部分

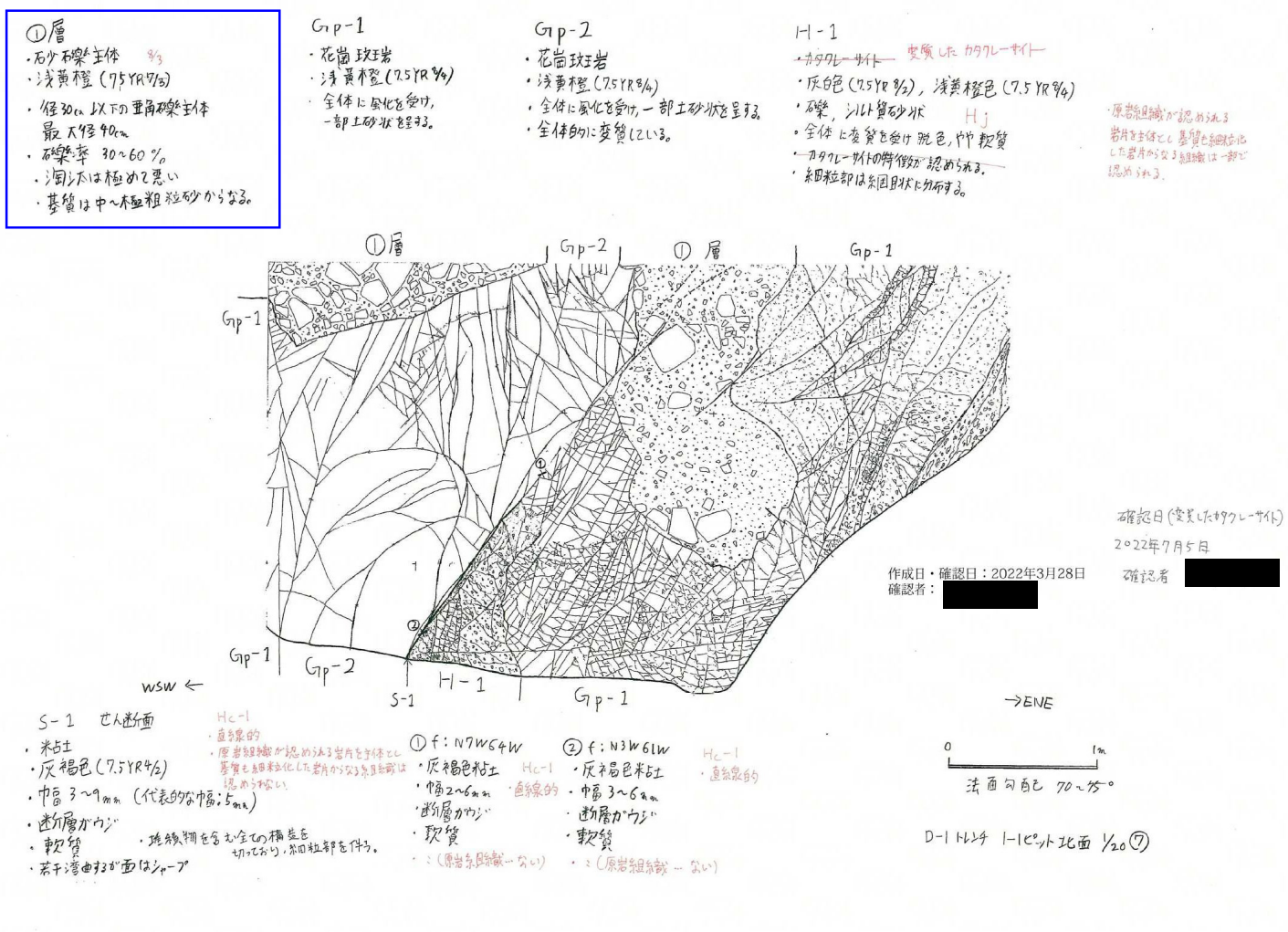
作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⓒ記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系) 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・淘汰・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、周囲と異なる状況の特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図(基盤岩) 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、擦痕、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
① 層	浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30～60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの亜角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30～60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの亜角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(浅黄橙色)と色調を示す記号(7.5YR7/3)が整合していない。画面写真を確認し、色調(浅黄橙色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
Gp	風化花崗斑岩：浅黄橙色(7.5YR8/4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分(Hc,Hb,Hj)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、系帯構造、網目状組土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレ・サイトに区分し記載	破砕幅 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ名　D-1トレンチ　1-1ピット北面　1/20　⑦_スケッチ

スケッチ		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○

青枠：①層の色調に関する部分

作成日 2022 7/5　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.7.5

スケッチ名 D-1トレンチ I-1ピット北面 1/10 ⑦ 記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系） 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・硬径・硬率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図（基盤岩） 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
①層	浅黄橙色（7.5YR7/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で、径30cm以下を主体とし最大径40cmの亜角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	浅黄橙色（7.5YR8/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で、径30cm以下を主体とし最大径40cmの亜角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調（浅黄橙色）と色調を示す記号（7.5YR7/3）が整合していない。造面写真を確認し、色調（浅黄橙色）が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
Gp-1	花崗斑岩 浅黄橙色（7.5YR8/4） 全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-
Gp-2	花崗斑岩 浅黄橙色（7.5YR8/4） 全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。 全体的に変質している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分（Hc,Hb,Hi）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、累帯構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅（実測できる場合）	最新活動面（認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
①	f.N7W64W 灰褐色粘土2～6mm 断層ガウジ 軟質	f.N7W64W 灰褐色粘土2～6mm 断層ガウジ Hc-1 軟質 連続的 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	-	○	○	-	-	-	○	○	破砕度区分と断層岩区分の判断根拠を記載。
②	f.N3W61W 灰褐色粘土3～6mm 断層ガウジ 軟質	f.N3W61W 灰褐色粘土3～6mm 断層ガウジ Hc-1 軟質 連続的 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	-	○	○	-	-	-	○	○	破砕度区分と断層岩区分の判断根拠を記載。
r-1	せん断面 灰褐色（7.5YR4/2）の粘土 幅3～9mm 代表的な幅：5mm 断層ガウジ 軟質 若干湾曲するが面はシャープ 堆積物を含む全ての構造を切っており、細粒部を伴う。	せん断面 灰褐色（7.5YR4/2）の粘土 幅3～9mm 代表的な幅：5mm 断層ガウジ Hc-1 軟質 連続的 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。 若干湾曲するが面はシャープ 堆積物を含む全ての構造を切っており、細粒部を伴う	○	○	-	○	○	-	-	-	○	-	破砕度区分と断層岩区分の判断根拠を記載。
H-1	カタクレーサイト 灰白色（7.5YR8/2）、浅黄橙色（7.5YR8/4）の礫・シルト質砂状 全体に変質を受け脱色、やや軟質 カタクレーサイトの特徴が認められる。 細粒部は網目状に分布する	変質したカタクレーサイト 灰白色（7.5YR8/2）、浅黄橙色（7.5YR8/4）の礫・シルト質砂状 Hi 全体に変質を受け脱色、やや軟質 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は一部で認められる。 細粒部は網目状に分布する	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	破砕度区分と断層岩区分の判断根拠を記載。

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート（D-1トレンチ　1-1ピット北面＿①層の記載）

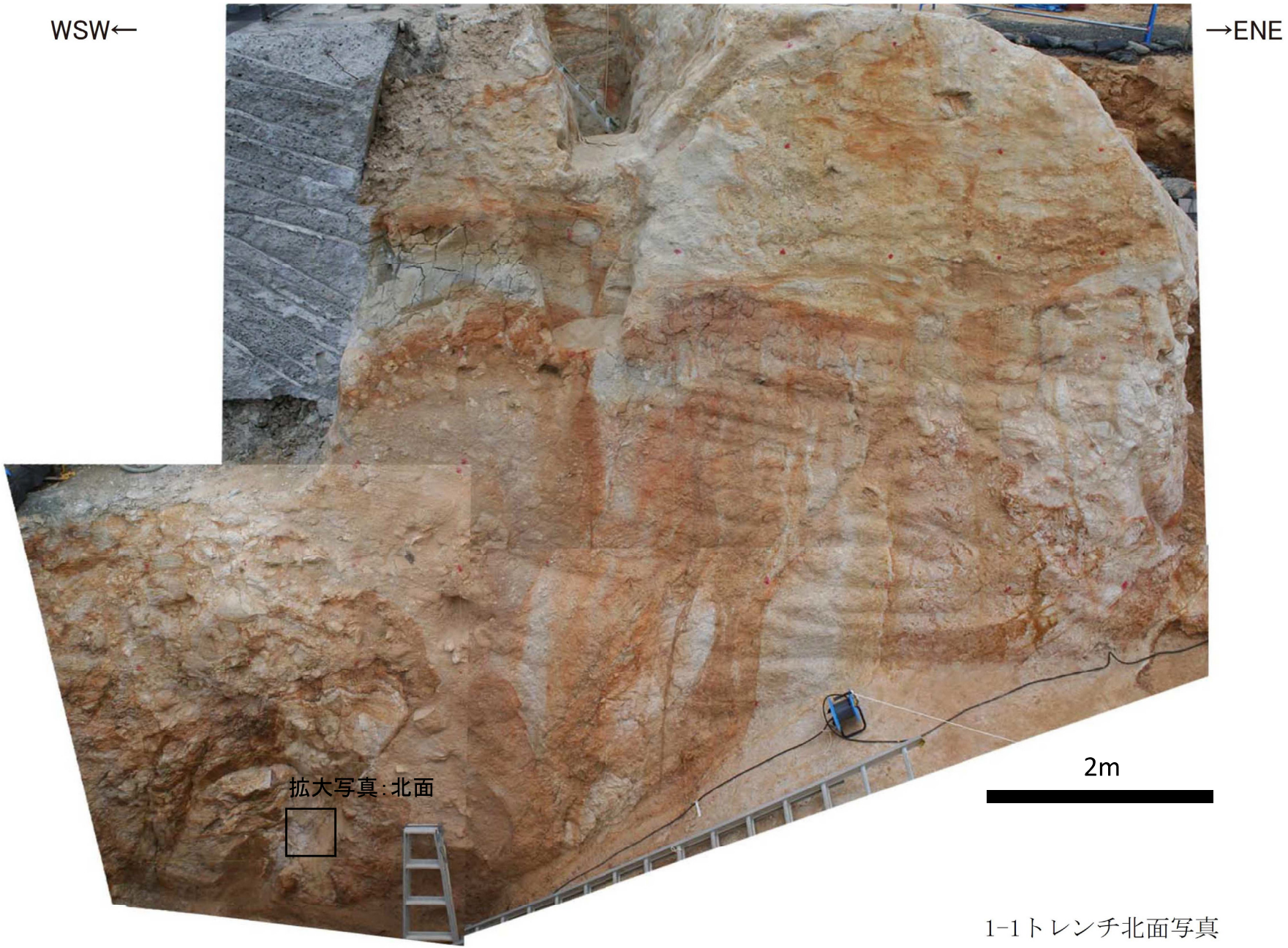
作成日 2022/7/5　作成者 [redacted]　確認日 2022.7.5　確認者 [redacted]

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されている	選定した記事内容	スケッチ原図（地層の性状に関する記事）から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 （スケッチ原図（地層の性状に関する記事）を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点）
スケッチ原図③	浅黄橙色（7.5YR7/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で，径20cm以下を主体とし最大径40cmの亜角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	浅黄橙色（7.5YR8/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で，径20cm以下を主体とし最大径40cmの亜角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	①層：砂礫を主体とする。浅黄橙色（7.5YR8/3）。礫率30～60%で径30cm以下（最大径50cm）の亜角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中～極粗粒砂からなる。	・礫の最大礫径は，観察面で最大となるスケッチ原図④の記載（50cm）を採用した。 ・淘汰度は，①層が最も広く観察されるスケッチ④の記載（極めて悪い）を採用した。 ・色調（浅黄橙色）と色調を示す記号（7.5YR7/3）が整合していない。観察面の写真を確認し，色調（浅黄橙色）が正しく，色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図④	浅黄橙色（7.5YR7/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で，径30cm以下を主体とし最大径50cmの亜角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中～極粗粒砂からなる。	浅黄橙色（7.5YR8/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で，径30cm以下を主体とし最大径50cmの亜角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中～極粗粒砂からなる。		
スケッチ原図⑥	浅黄橙色（7.5YR7/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で，径20cm以下を主体とし最大径30cmの亜角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	浅黄橙色（7.5YR8/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で，径20cm以下を主体とし最大径30cmの亜角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。		
スケッチ原図⑦	浅黄橙色（7.5YR7/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で，径30cm以下を主体とし最大径40cmの亜角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。	浅黄橙色（7.5YR8/3）の砂礫主体である。 礫率30～60%で，径30cm以下を主体とし最大径40cmの亜角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中～極粗粒砂からなる。		

D-1トレンチ1-1ピット北面写真

149のエビデンス（10/10）

2013年6月撮影

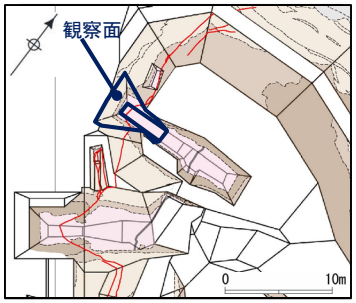


1-1トレンチ北面写真

K断層の性状（2－1ピット）

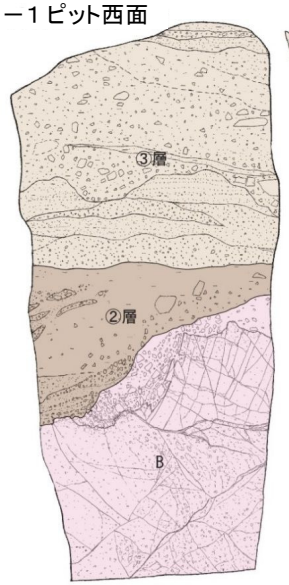
修正前

- 2－1ピットのスケッチを以下に示す。
- 2－1ピットでは，K断層は基盤岩から堆積物（②層）までを変位させている。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果，縦ずれ成分が卓越する。また，最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。

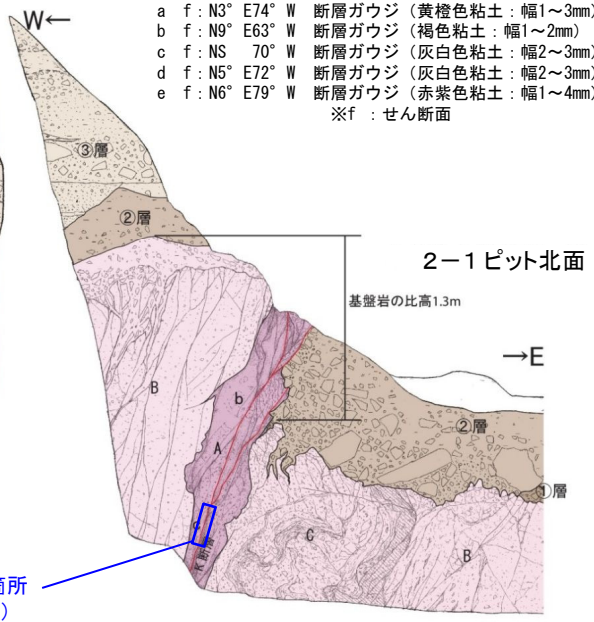


調査位置図

2－1ピット西面



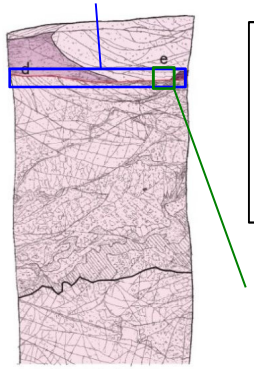
2－1ピット南面



2－1ピット北面

a　f：N3°E74°W　断層ガウジ（黄橙色粘土：幅1～3mm）　条線(rake)=67°R
b　f：N9°E63°W　断層ガウジ（褐色粘土：幅1～2mm）
c　f：NS　70°W　断層ガウジ（灰白色粘土：幅2～3mm）
d　f：N5°E72°W　断層ガウジ（灰白色粘土：幅2～3mm）
e　f：N6°E79°W　断層ガウジ（赤紫色粘土：幅1～4mm）
※f　：せん断面

走向・傾斜，条線方向計測箇所
（16箇所のデータを平均化）



2－1ピット底盤

凡　例
③層
②層
花崗斑岩
破砕部
熱水変質部
せん断面
せん断面（不明瞭）
地層境界

0　1(m)

※青枠，緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所

基盤岩
（花崗斑岩）

A：花崗斑岩質カタクレーサイト：砂質シルト～礫混じりシルト質砂状。
やや軟質。全体的に変質を受けている。
B：風化花崗斑岩：浅黄橙色（7.5YR8/4～7.5YR8/6）。
主にやや脆弱な角礫状。
C：花崗斑岩（破砕質部）：黒褐色～浅黄橙色（7.5YR3/2～7.5YR8/6）。
主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト～シルト質砂状を呈する。

②層：礫混じり砂質シルト：明褐色～明褐灰色（7.5YR7/1～7.5YR8/6）。
礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。
シルト質砂礫：礫径50cm以下の亜角礫を含む。
③層：礫混じりシルト質細砂：橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/2）。
基質はシルト，細～中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み，淘汰が悪い。
礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。径15cmのものも見られる。

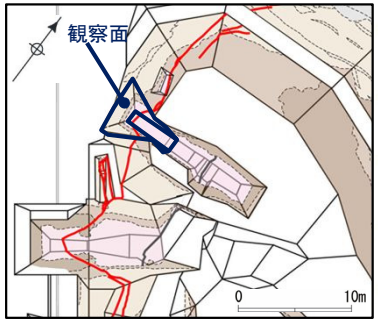
2013年4月作成

K断層の性状（2－1ピット）

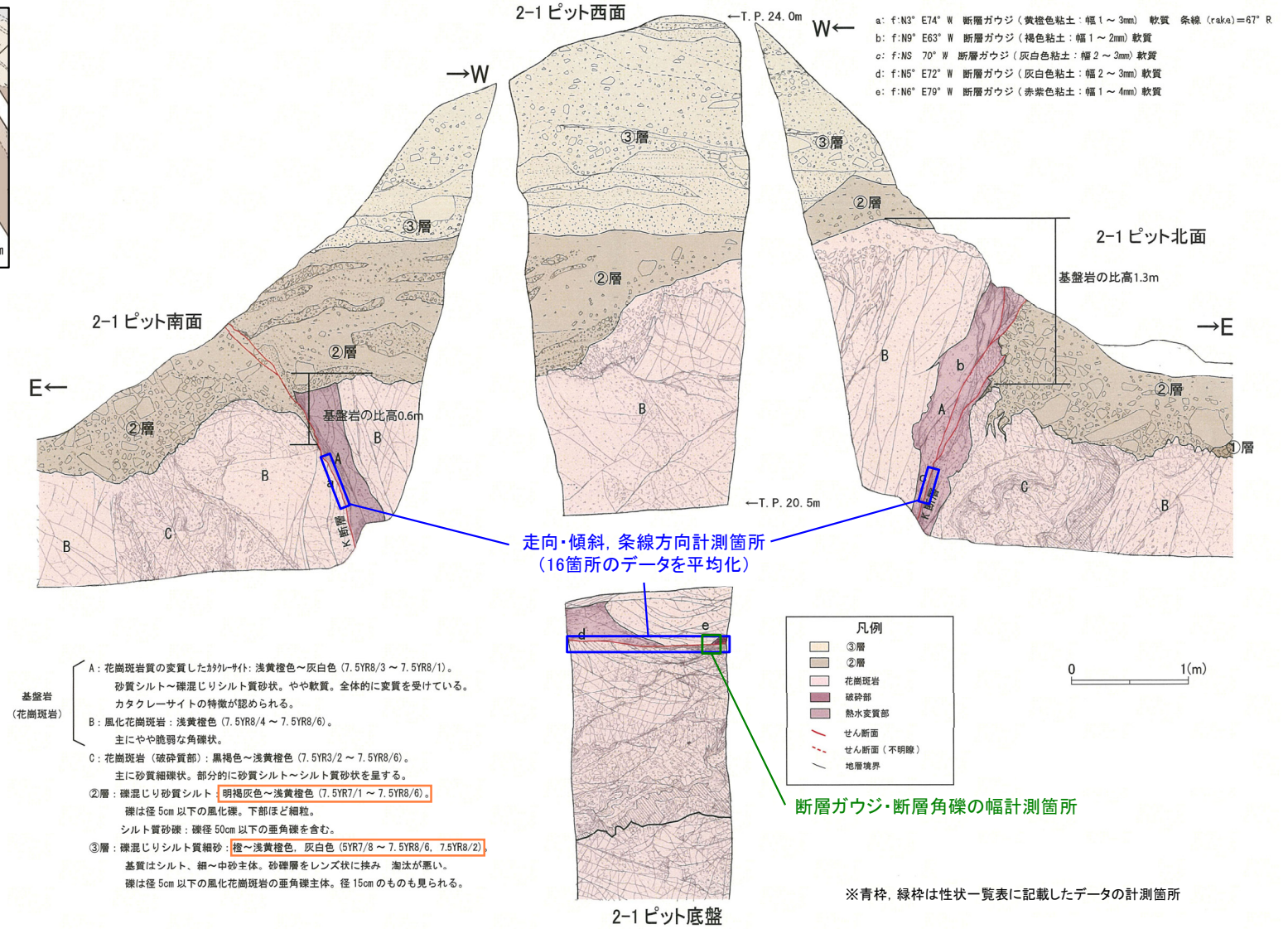
150：②層の色調修正
151：③層の色調修正

修正後

- 2－1ピットのスケッチを以下に示す。
- 2－1ピットでは，K断層は基盤岩から堆積物（②層）までを変位させている。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果，縦ずれ成分が卓越する。また，最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



調査位置図



基盤岩（花崗斑岩）

A：花崗斑岩質の変質したｶﾀｸﾚｰｻｲﾄ：浅黄橙色～灰白色（7.5YR8/3～7.5YR8/1）。
砂質シルト～礫混じりシルト質砂状。やや軟質。全体的に変質を受けている。
カタクレーサイトの特徴が認められる。

B：風化花崗斑岩：浅黄橙色（7.5YR8/4～7.5YR8/6）。
主にやや脆弱な角礫状。

C：花崗斑岩（破砕質部）：黒褐色～浅黄橙色（7.5YR3/2～7.5YR8/6）。
主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト～シルト質砂状を呈する。

②層：礫混じり砂質シルト：明褐灰色～浅黄橙色（7.5YR7/1～7.5YR8/6）。
礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。
シルト質砂礫：礫径50cm以下の亜角礫を含む。

③層：礫混じりシルト質細砂：橙～浅黄橙色，灰白色（5YR7/8～7.5YR8/6，7.5YR8/2）。
基質はシルト、細～中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み 淘汰が悪い。
礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。径15cmのものも見られる。

2-1 ピット底盤

※青枠，緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

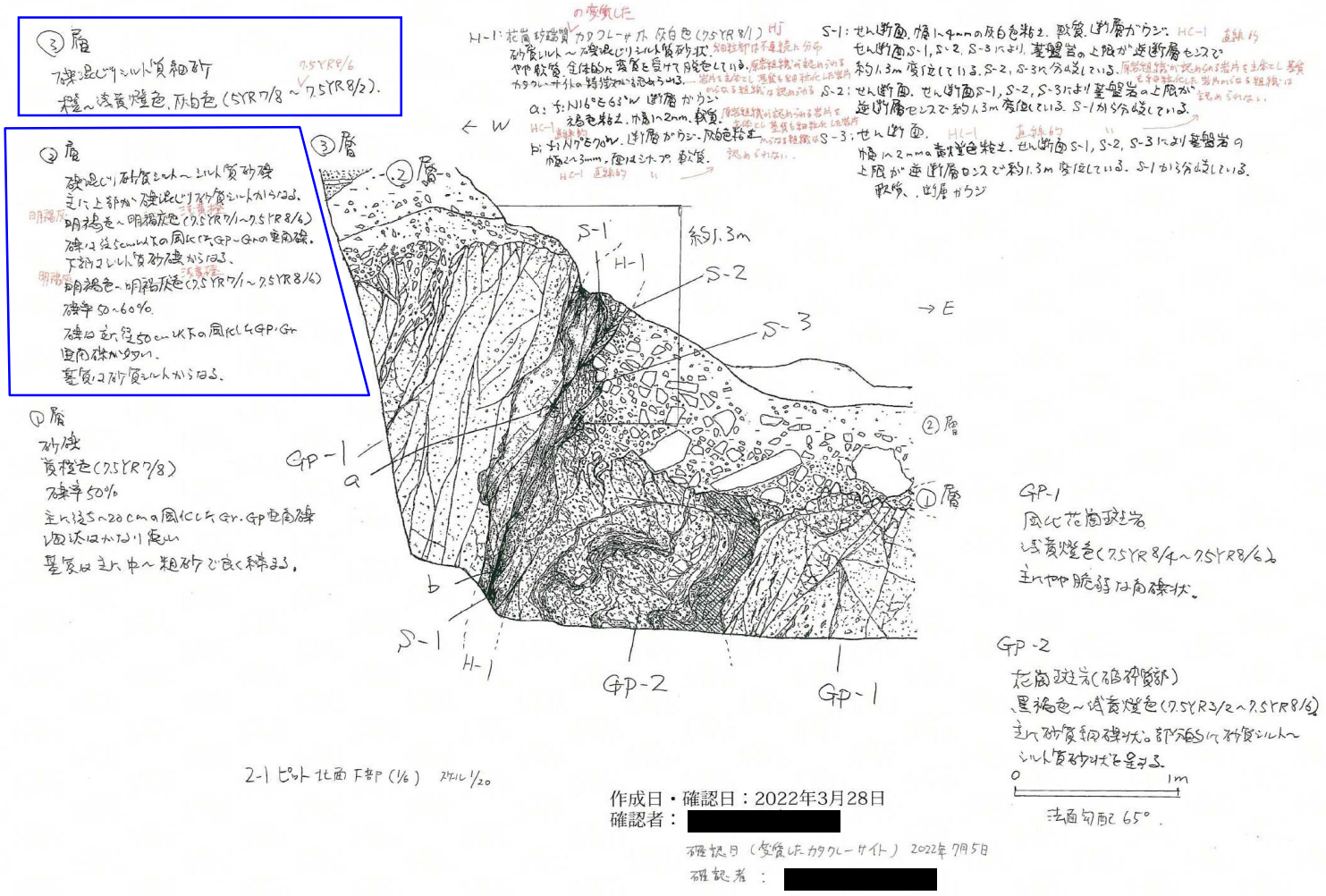
作成日：2022年7月5日

スケッチ名：D-1トレンチ　2-1ピット　1/20　北面下部(1/6)＿スケッチ

スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位，スケール（または，グリッドの間隔）
・観察年月日，観察者

○



2-1ピット北面下部（1/6）　スケール1/20

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

確認日（変質したカタクレーサイト）2022年7月5日
確認者：[redacted]

青枠：②層，③層の色調に関する部分

2022/7/5 作成日 作成者 [redacted] 確認者 [redacted] 確認日 2022.7.5

スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ビット 1/20 北面下部(1/6) 記事

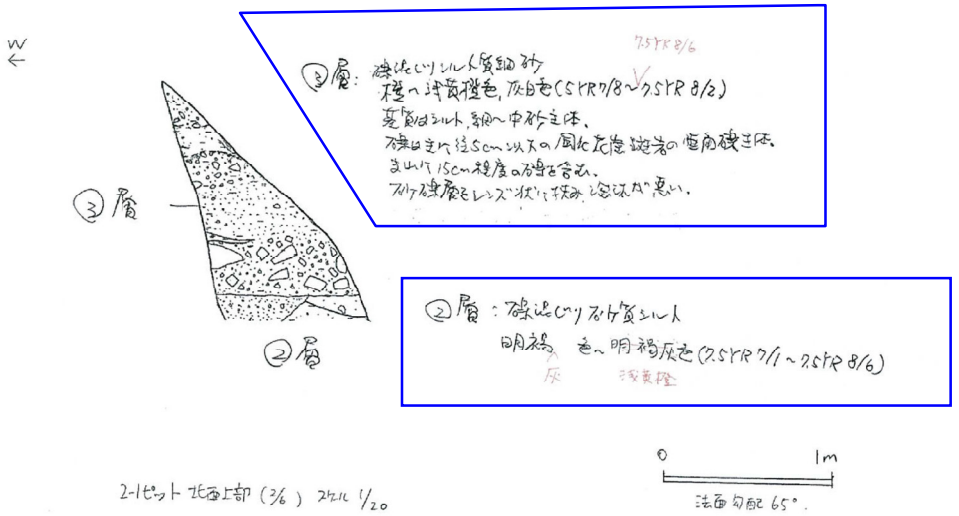
No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系) 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	地種構造 ・層理、葉理、縞化など	土壌化など、堆積環境・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に層曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図(基盤岩) 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の検在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に層曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
③層	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/4, 7.5YR8/2)。	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調の記号を追加
②層	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐色～明褐灰色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫は径5cm以下の風化したGp-Gr の亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐色～明褐灰色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp-Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐灰色～浅黄橙色(7.5YR7/1～7.5YR8/4) 礫は径5cm以下の風化したGp-Gr の亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐灰色～浅黄橙色(7.5YR7/1～7.5YR8/4) 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp-Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(明褐色～明褐灰色)と色調を表す記号(7.5YR7/1～7.5YR8/6)が不一致であったため、真鍮写真を確認して色調の記載を修正した。
①層	砂礫 黄橙色(7.5YR7/8) 礫率50% 主に径5～10cmの風化したGr-Gp亜角礫 淘汰はかなり悪い 基質は主に中～細砂で良く締まる。	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
Gp-1	風化花崗斑岩 浅黄橙色(7.5YR8/4～7.5YR8/6)。 主にやや脆弱な角礫状。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-
Gp-2	花崗斑岩(破砕質部) 黒褐色～浅黄橙色(7.5YR3/2～7.5YR8/6)。 主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト～シルト質砂状を呈する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分(Hc,Hb,Hg)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、異常構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅(実測できる場合)	最新活動面(認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
H-1	花崗斑岩質カタクレーサイト 灰白色(7.5YR8/1) 砂質シルト～礫混じりシルト質砂状。 やや軟質。全体的に変質を受けて脱色している。 カタクレーサイトの特徴が認められる。	花崗斑岩質の変質したカタクレーサイト Hg 灰白色(7.5YR8/1) 砂質シルト～礫混じりシルト質砂状。 やや軟質。全体的に変質を受けて脱色している。 細粒部は不連続に分布。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	破砕度区分、および断層岩区分の判断根拠を記載。
a	f-N16° E63° W 断層ガウジ 褐色粘土 幅1～2mm 軟質	f-N16° E63° W 断層ガウジ 褐色粘土 Hc-1 幅1～2mm 軟質 直線的 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	-	○	○	-	-	-	○	○	破砕度区分、および断層岩区分の判断根拠を記載。
b	f-N7° E70° W 断層ガウジ 灰白色粘土 幅2～3mm 面はシャープ 軟質	f-N7° E70° W 断層ガウジ 灰白色粘土 Hc-1 幅2～3mm 面はシャープ 軟質 直線的 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	-	○	○	-	-	-	○	○	破砕度区分、および断層岩区分の判断根拠を記載。
S-1	せん断面 幅1～4mmの灰白色粘土 軟質 断層ガウジ せん断面S-1, S-2, S-3により基盤岩の上層が逆断層センスで約1.3m変位している。 S-2,S-3に分岐している。	せん断面 幅1～4mmの灰白色粘土 Hc-1 軟質 断層ガウジ せん断面S-1, S-2, S-3により基盤岩の上層が逆断層センスで約1.3m変位している。 S-2,S-3に分岐している。 直線的 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	-	○	○	-	-	○	○	-	破砕度区分、および断層岩区分の判断根拠を記載。
S-2	せん断面 せん断面S-1, S-2, S-3により基盤岩の上層が逆断層センスで約1.3m変位している。 S-1から分岐している。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
S-3	せん断面 幅1～2mmの黄橙色粘土。 断層ガウジ 軟質 せん断面S-1, S-2, S-3により基盤岩の上層が逆断層センスで約1.3m変位している。 S-1から分岐している。	せん断面 幅1～2mmの黄橙色粘土。 Hc-1 断層ガウジ 軟質 せん断面S-1, S-2, S-3により基盤岩の上層が逆断層センスで約1.3m変位している。 S-1から分岐している。 直線的 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	-	○	○	-	-	○	○	-	破砕度区分、および断層岩区分の判断根拠を記載。

青枠：②層，③層の色調に関する部分　150，151のエビデンス（3/13）

スケッチ名：D-1トレンチ　2-1ピット　1/20　北面上部(2/6)＿スケッチ

スケッチ	スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ・観察年月日，観察者 ○



作成日・確認日：2022年3月28日

確認者：[redacted]

青枠：②層，③層の色調に関する部分

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 北面上部(2/6) 記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系） 地質名	地質の特徴 ・粒度構成，礫の種類・形状・礫径・礫率，締まり具合	地質の特徴 ・礫の風化度	地質の特徴 ・含有物（有機質，貝殻など）	地質の特徴 ・その他，固結と異なる状況があれば，それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は，その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理，葉理，撓化など	土壌化など，堆積環境・時間間隙を色調示すもの	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するように，局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図（基盤岩） 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔，割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調，系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜，鏡肌，条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし，局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
③層	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色，灰白色（5YR7/8～7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み，淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色，灰白色（5YR7/8～7.5YR8/6，7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み，淘汰が悪い。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調の記号を追加
②層	礫混じり砂質シルト 明褐色～明褐灰色（7.5YR7/1～7.5YR8/6）。	礫混じり砂質シルト 明褐灰色～浅黄橙色（7.5YR7/1～7.5YR8/6）。	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調（明褐色～明褐灰色）と色調を表す記号（7.5YR7/1～7.5YR8/6）が不一致であったため，露頭写真を確認して色調の記載を修正した。

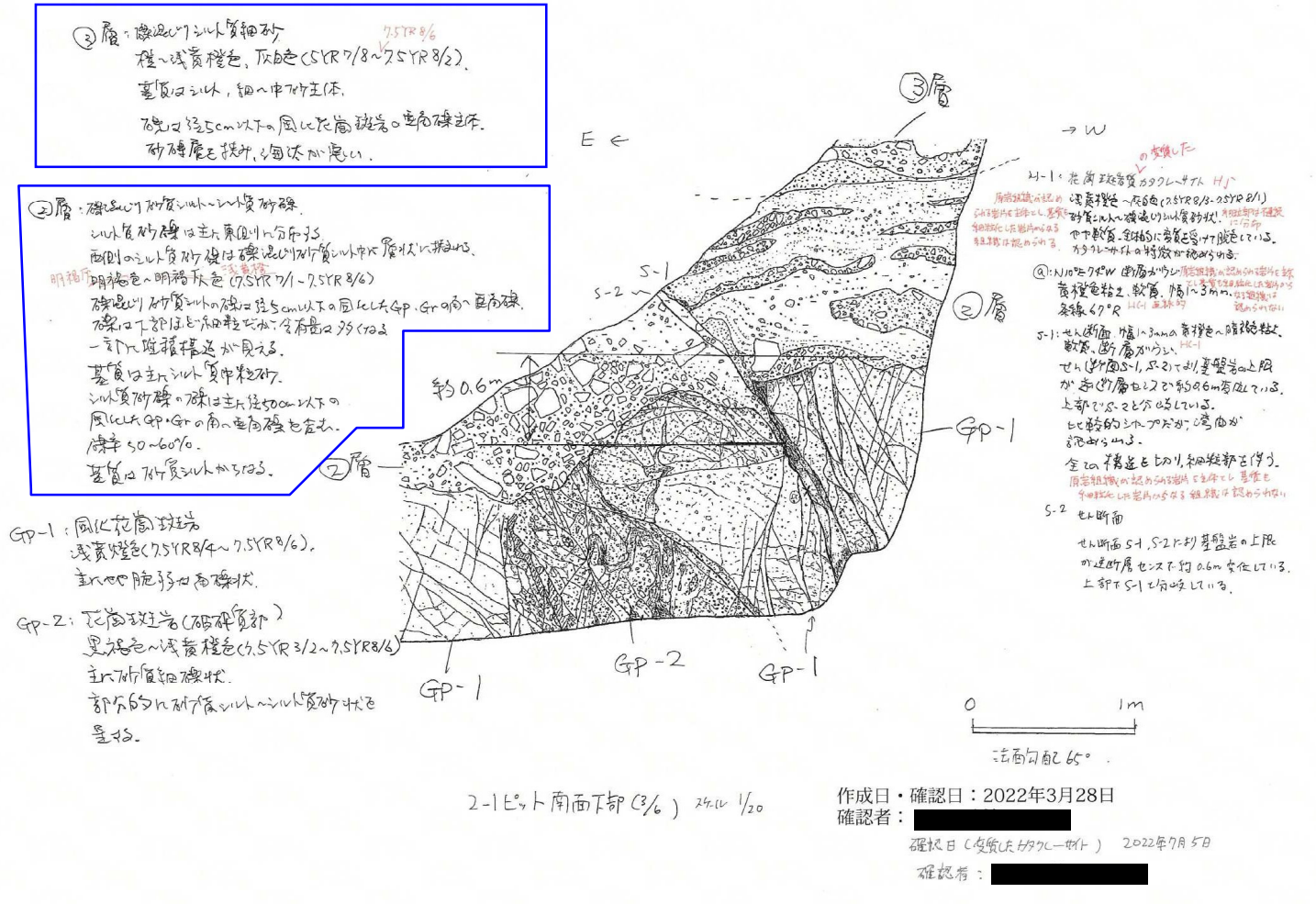
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分（Hc,Hb,Hj）	破砕部の性状 ・破砕部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・破砕部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・構成構造，複合面構造，累帯構造，網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅（深測できる場合）	最新活動面（認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは，主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ名：D-1トレンチ　2-1ピット　1/20　南面下部(3/6)＿スケッチ

スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位，スケール（または，グリッドの間隔）
・観察年月日，観察者

○



2-1ピット南面下部(3/6)　スケール 1/20

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]
確認日（変質したカタクレーサイト）　2022年7月5日
確認者：[redacted]

青枠：②層，③層の色調に関する部分

作成日 2022/7/5　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.7.5

スケッチ名 D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 南面下部(3/6) 記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系) 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	地積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、地積環境・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・地積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に間曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図(基盤岩) 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に間曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
③層	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。 砂礫層を挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6、7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。 砂礫層を挟み、淘汰が悪い。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調の記号を追加
②層	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～明褐灰色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐灰色～浅黄橙色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(明褐色～明褐灰色)と色調を表す記号(7.5YR7/1～7.5YR8/6)が不一致であったため、露頭写真を確認して色調の記載を修正した。
GP-1	風化花崗斑岩 浅黄橙色(7.5YR8/4～7.5YR8/6)。 主にやや脆弱な角礫状。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-
GP-2	花崗斑岩(破砕質部) 黒褐色～浅黄橙色(7.5YR3/2～7.5YR8/6)。 主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト～シルト質砂状を呈する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分(Hc,Hb,Hj)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・緩状構造、複合面構造、異常構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅(実測できる場合)	最新活動面(認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
H-1	花崗斑岩質カタクレーサイト 浅黄橙色～灰白色(7.5YR8/3～7.5YR8/1) 砂質シルト～礫混じりシルト質砂状。 やや軟質。全体的に変質を受けて脱色している。 カタクレーサイトの特徴が認められる。	花崗斑岩質の変質したカタクレーサイト Hj 浅黄橙色～灰白色(7.5YR8/3～7.5YR8/1) 砂質シルト～礫混じりシルト質砂状。 やや軟質。全体的に変質を受けて脱色している。 細粒部は不連続に分布。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	破砕度区分、および断層岩区分の判断根拠を記載。
a	f:N10° E74° W 断層ガウジ 黄橙色粘土 軟質 幅1～3mm 条線67° R	f:N10° E74° W 断層ガウジ 黄橙色粘土 Hc-1 幅1～3mm 条線67° R 軟質 直線的 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	-	○	○	-	○	-	○	○	破砕度区分、および断層岩区分の判断根拠を記載。
s-1	せん断面 幅1～3mmの黄橙色～暗褐色粘土。 軟質 断層ガウジ せん断面S-1、S-2により基盤岩の上限が逆断層センスで約0.6m変位している。 上部でS-2と分岐している。 比較的シャープだが、湾曲が認められる。 全ての構造を切り、細粒部を伴う。	せん断面 幅1～3mmの黄橙色～暗褐色粘土。 Hc-1 軟質 断層ガウジ せん断面S-1、S-2により基盤岩の上限が逆断層センスで約0.6m変位している。 上部でS-2と分岐している。 比較的シャープだが、湾曲が認められる。 全ての構造を切り、細粒部を伴う。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	○	○	-	○	○	-	-	○	○	-	破砕度区分、および断層岩区分の判断根拠を記載。
s-2	せん断面 せん断面S-1、S-2により基盤岩の上限が逆断層センスで約0.6m変位している。 上部でS-1と分岐している。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

青枠：③層の色調に関する部分

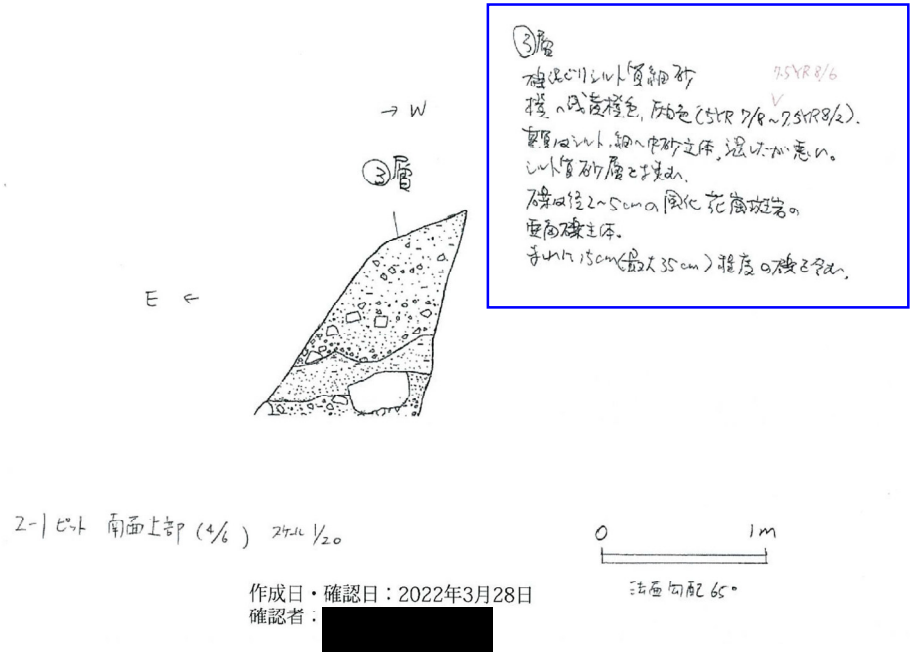
151のエビデンス（7/13）

スケッチ名：D-1トレンチ　2-1ピット　1/20　南面上部（4/6）＿スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位，スケール（または，グリッドの間隔）
- 観察年月日，観察者

○

スケッチ



作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

青枠：③層の色調に関する部分

2022

作成日 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ビット 1/20 南面上部(4/6) 記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)					記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界										
				・粒度構成、礫の種類・形状・硬径・硬率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、原図と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
③層	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。	○	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調の記号を追加

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯											
			破砕度区分(Hc,Hb,Hj)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、累帯構造、胴目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅(実測できる場合)	最新活動面(認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

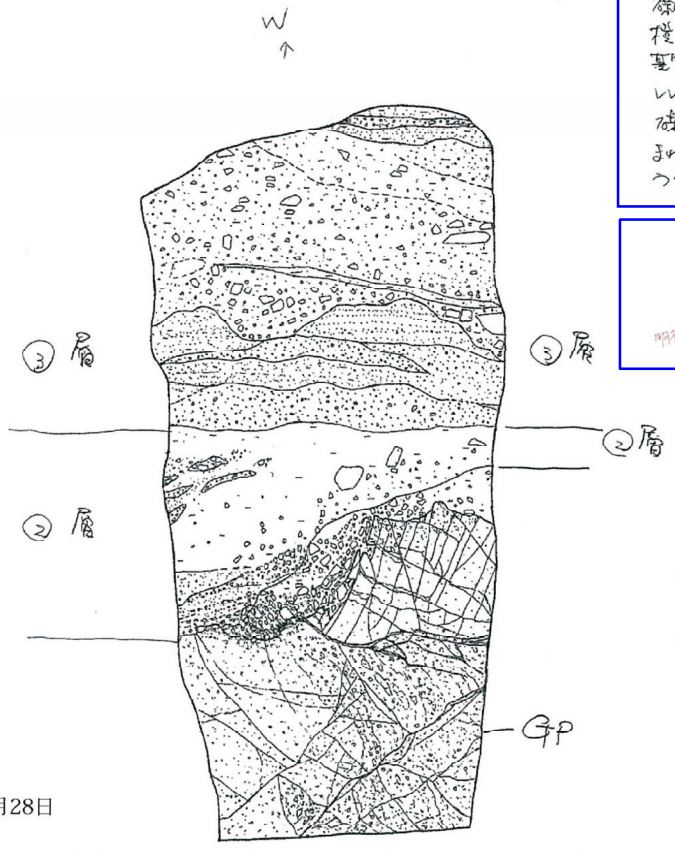
青枠：②層，③層の色調に関する部分

150，151のエビデンス（9/13）

スケッチ名：D-1トレンチ　2-1ピット正面壁面　1/20　正面壁面(6/6)　スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位，スケール（または，グリッドの間隔）
- 観察年月日，観察者

○



③層
礫混じりシルト質細砂。
7.5YR 8/6
橙～浅黄橙色・灰白色（5YR 7/8～7.5YR 8/2）。
基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。
礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。
まれに径15cm程度のものも見られる。
つぎ土が明瞭なところあり。

②層
礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫
シルト質砂礫は主に下部に分布。
上部は礫混じり砂質シルトが主体。
明褐色
明褐色～明褐灰色（7.5YR 7/1～7.5YR 8/6）
浅黄橙
礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGP・Grの亜角礫
一部に堆積構造が見える。
シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGP・Grの亜角礫を含む。
礫率 50～60%。
基質は砂質シルトからなる

GP
風化花崗斑岩。
浅黄橙色（7.5YR 8/4～7.5YR 8/6）
主に脆弱な角礫状、ブロックサイズ。
割れ目明瞭。

0　1m

法面勾配 65°

2-1ピット 正面壁面 スケール 1/20

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

スケッチ

青枠：②層，③層の色調に関する部分

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ピット正面壁面 1/20 正面壁面(6/6)＿記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)						記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界	堆積構造	土壌化など、堆積環境・時間関係を示すもの	走向・傾斜	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目	色調	走向・傾斜		
				・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、異物など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	・堆積構造 ・層理、葉理、級化など		・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するように、局所的に屈曲の方向が変化している箇所では測定しない。			・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、錨前、条線などを記載		・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するように、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
③層	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗岩起源の亜角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6、7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗岩起源の亜角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調の記号を追加
②層	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布、上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐色～明褐灰色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布、上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐灰色～浅黄橙色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調(明褐色～明褐灰色)と色調を表す記号(7.5YR7/1～7.5YR8/6)が不一致であったため、露頭写真を確認して色調の記載を修正した。
Gp	風化花崗斑岩 浅黄橙色(7.5YR8/4～7.5YR8/6)。 主に節理状角礫状。 ブロック状、割れ目明瞭。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分(Hc,Hb,Hj)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、異常構造、網目状貼土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート（D-1トレンチ 2-1ピット ②層の記載）

作成日 2022 7/5 作成者 [redacted] 確認日 2022.7.5 確認者 [redacted]

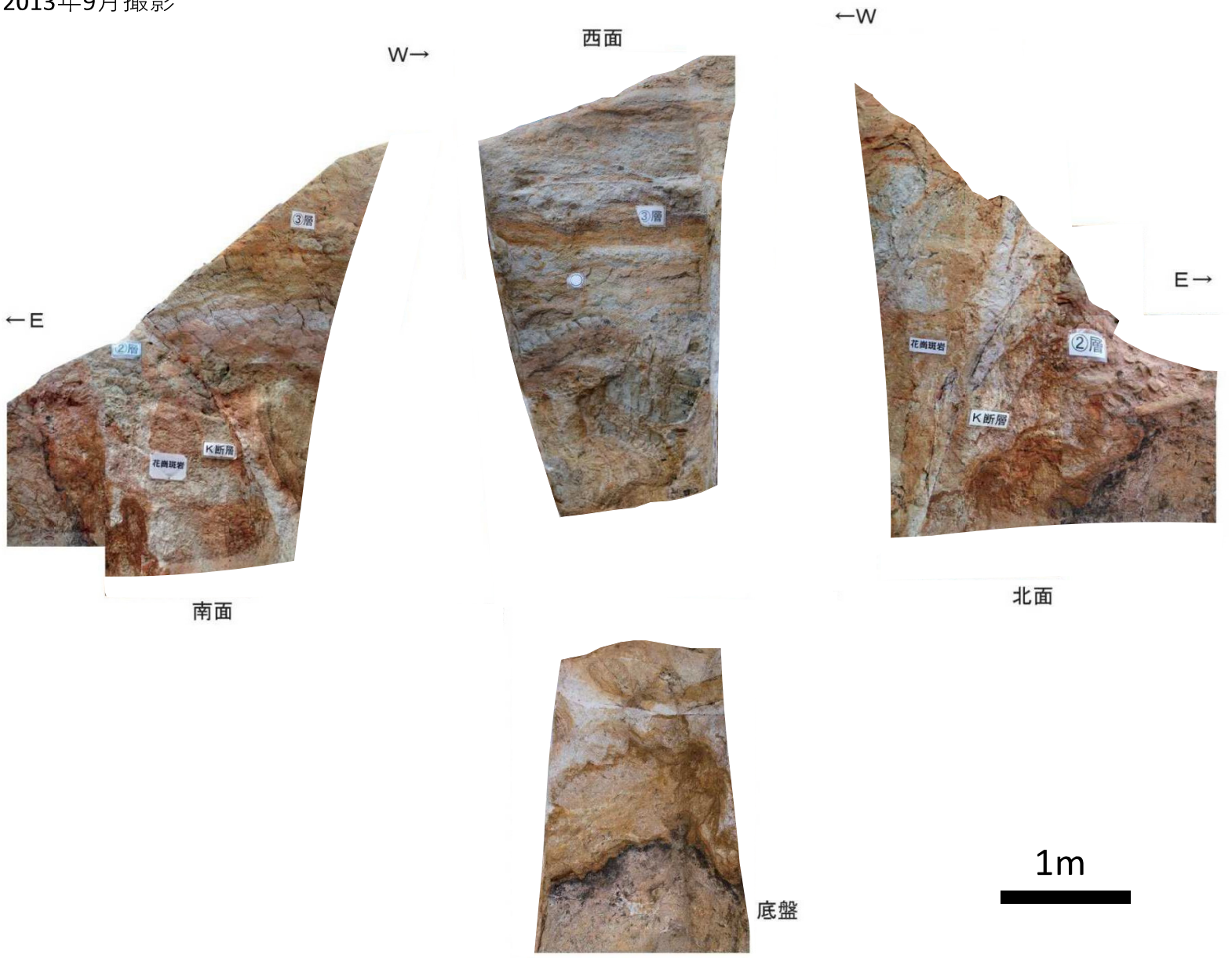
No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？ ☑	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されている ☑	選定した記事内容	スケッチ原図（地層の性状に関する記事）から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 （スケッチ原図（地層の性状に関する記事）を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点）
スケッチ原図（北面下部）	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐色～明褐灰色（7.5YR7/1～7.5YR8/6） 礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐色～明褐灰色（7.5YR7/1～7.5YR8/6） 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp・Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐灰色～浅黄橙色（7.5YR7/1～7.5YR8/6） 礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐灰色～浅黄橙色（7.5YR7/1～7.5YR8/6） 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp・Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。	②層：礫混じり砂質シルト：明褐灰色～浅黄橙色（7.5YR7/1～7.5YR8/6）。礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。 シルト質砂礫：礫径50cm以下の亜角礫を含む。	・北面上部の記載は観察面が狭いため不採用とした。 ・シルト質砂礫の礫径は，②層の観察面が広い南面下部，北面下部の記載（50cm以下）を採用した。 ・礫の形状はスケッチ原図（北面下部，正面壁面）で記載されている亜角礫を代表的な形状とした。 ・色調（明褐色～明褐灰色）と色調を表す記号（7.5YR7/1～7.5YR8/6）が不一致であったため，観察面写真を確認して色調の記載を修正した。
スケッチ原図（北面上部）	礫混じり砂質シルト 明褐色～明褐灰色（7.5YR7/1～7.5YR8/6）。	礫混じり砂質シルト 明褐灰色～浅黄橙色（7.5YR7/1～7.5YR8/6）。		
スケッチ原図（南面下部）	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～明褐灰色（7.5YR7/1～7.5YR8/6） 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが，含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐灰色～浅黄橙色（（7.5YR7/1～7.5YR8/6） 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが，含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。		
スケッチ原図（正面壁面）	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布。上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐色～明褐灰色（7.5YR7/1～7.5YR8/6） 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。	礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布。上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐灰色～浅黄橙色（7.5YR7/1～7.5YR8/6） 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。		

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート（D-1トレンチ　2-1ピット__③層の記載）

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図（地層の性状に関する記事）から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 （スケッチ原図（地層の性状に関する記事）を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点）
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？ ☑	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されている ☑	選定した記事内容	
スケッチ原図（北面下部）	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/2）。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/6，7.5YR8/2）。	礫混じりシルト質砂：橙～浅黄橙色，灰白色（5YR7/8～7.5YR8/6，7.5YR8/2），基質はシルト，細～中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み，淘汰が悪い。礫は径5cm以下の風化花崗岩の亜角礫主体。径15cmのものもみられる。	・シルト層，シルト質砂層の挟みは局所的なもののため不採用とした。 ・礫径の最大礫35cmは局所的な性状のため記載しない。 ・色調（浅黄橙色）の記号を追加した。
スケッチ原図（北面上部）	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み，淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/6，7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み，淘汰が悪い。		
スケッチ原図（南面下部）	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色，灰白色（5YR7/8～7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。 砂礫層を挟み，淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/6，7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。 砂礫層を挟み，淘汰が悪い。		
スケッチ原図（南面上部）	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに15cm（最大35cm）程度の礫を含む。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/6，7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに15cm（最大35cm）程度の礫を含む。		
スケッチ原図（正面壁面）	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。シルト層，砂礫層をレンズ状に挟み，淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色（5YR7/8～7.5YR8/6，7.5YR8/2）。 基質はシルト，細～中砂主体。シルト層，砂礫層をレンズ状に挟み，淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。		

D-1トレンチ2-1ピット全体写真

2013年9月撮影



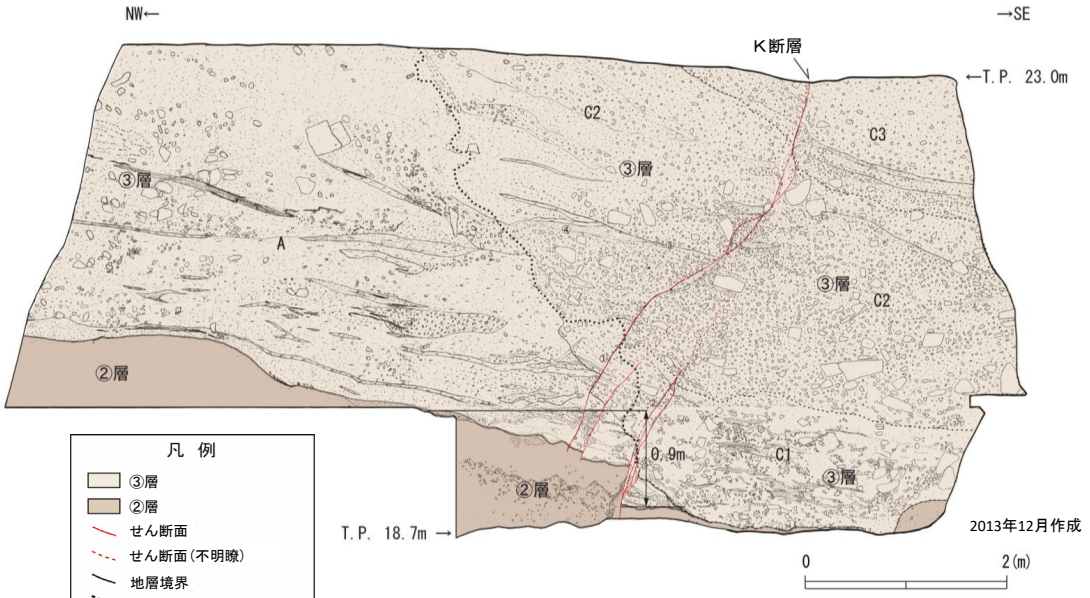
余白

K断層の性状（擁壁撤去法面）

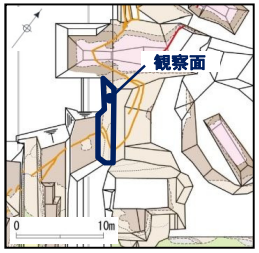
②層：礫混じりシルト質砂：褐灰色～浅黄橙色（7.5YR6/1～10YR8/4）
基質はシルト，細～中粒砂であり，礫は径100㎜以下の角～亜角礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
②層上限面の傾斜は，K断層の上盤側で10°程度で，下盤側でほぼ水平を示す。

③層
A層：礫・シルト混じり砂：浅橙色～浅黄橙色（5YR8/3～10YR8/3）
礫は径20㎜以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。
基質は細～粗粒砂主体であり，レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。
C1層：砂礫：明黄褐色～にぶい橙色（10YR6/6～7.5YR7/3）
礫率30～60%であり，レンズ状に砂層を挟む。
礫混じり砂質シルト：淡赤橙色～灰白色（2.5YR7/3～7.5Y8/1）
基質は細～中粒砂であり，淘汰はやや良い。
礫は径40㎜以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
C2層：砂礫：にぶい橙色～明黄褐色（7.5YR7/3～10YR6/6）
礫率30～60%であり，淘汰はきわめて悪い。
礫は径200㎜以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
基質は中～粗粒砂であり，レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。
C3層：礫質砂：にぶい橙色～浅黄橙色（5YR6/4～7.5YR8/3）
礫は径100㎜以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
基質は中～粗粒砂で，淘汰はやや悪い。

① f：N26° E57° W
② f：N19° E48° W
③ b：N66° E14° S
④ b：N6° E12° E
f：せん断面
b：層理面



2013年12月作成



調査位置図



2013年12月撮影

- D－1トレンチ擁壁撤去法面では，②層，③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は，撓曲変形を含めて約0.9mである。

K断層の性状（擁壁撤去法面）

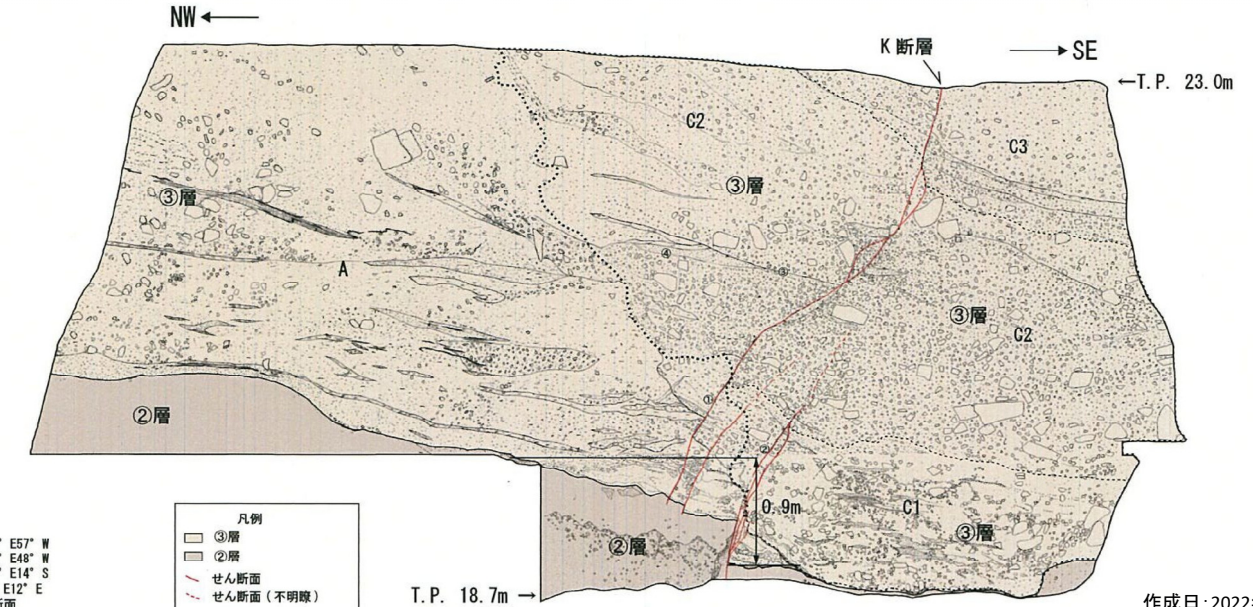
152：③層A層の色調修正

修正後

- D－1トレンチ擁壁撤去法面では，②層，③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は，撓曲変形を含めて約0.9mである。

②層：礫混じりシルト質砂：褐灰色～浅黄橙色（7.5YR6/1 ～ 10YR8/4）
基質はシルト，細～中粒砂であり，礫は径 100mm 以下の角～亜角
礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
②層上限面の傾斜は，K 断層の上盤側で 10° 程度で，
下盤側でほぼ水平を示す。

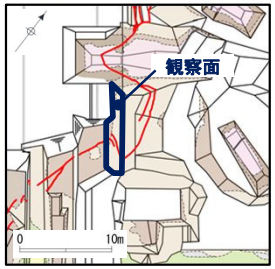
③層
A層：礫・シルト混じり砂：淡橙色～浅黄橙色（5YR8/3 ～ 10YR8/3）
礫は径 20mm 以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。
基質は細～粗粒砂主体であり，レンズ状のシルト～シルト質砂
を含む。
C1 層：砂礫：明黄褐色～にぶい橙色（10YR6/6 ～ 7.5YR7/3）
礫率 30 ～ 60% であり，レンズ状に砂層を挟む。
礫は計 200mm 以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
礫混じり砂質シルト：淡赤橙色～灰白色（2.5YR7/3 ～ 7.5Y8/1）
基質は細～中粒砂であり，淘汰はやや良い。
礫は径 40mm 以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
C2 層：砂礫：にぶい橙色～明黄褐色（7.5YR7/3 ～ 10YR6/6）
礫率 30 ～ 60% であり，淘汰はきわめて悪い。
礫は径 200mm 以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
基質は中～粗粒砂であり，レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。
C3 層：礫質砂：にぶい橙色～浅黄橙色（5YR6/4 ～ 7.5YR8/3）
礫は径 100mm 以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
基質は中～粗粒砂で，淘汰はやや悪い。



作成日：2022年3月31日



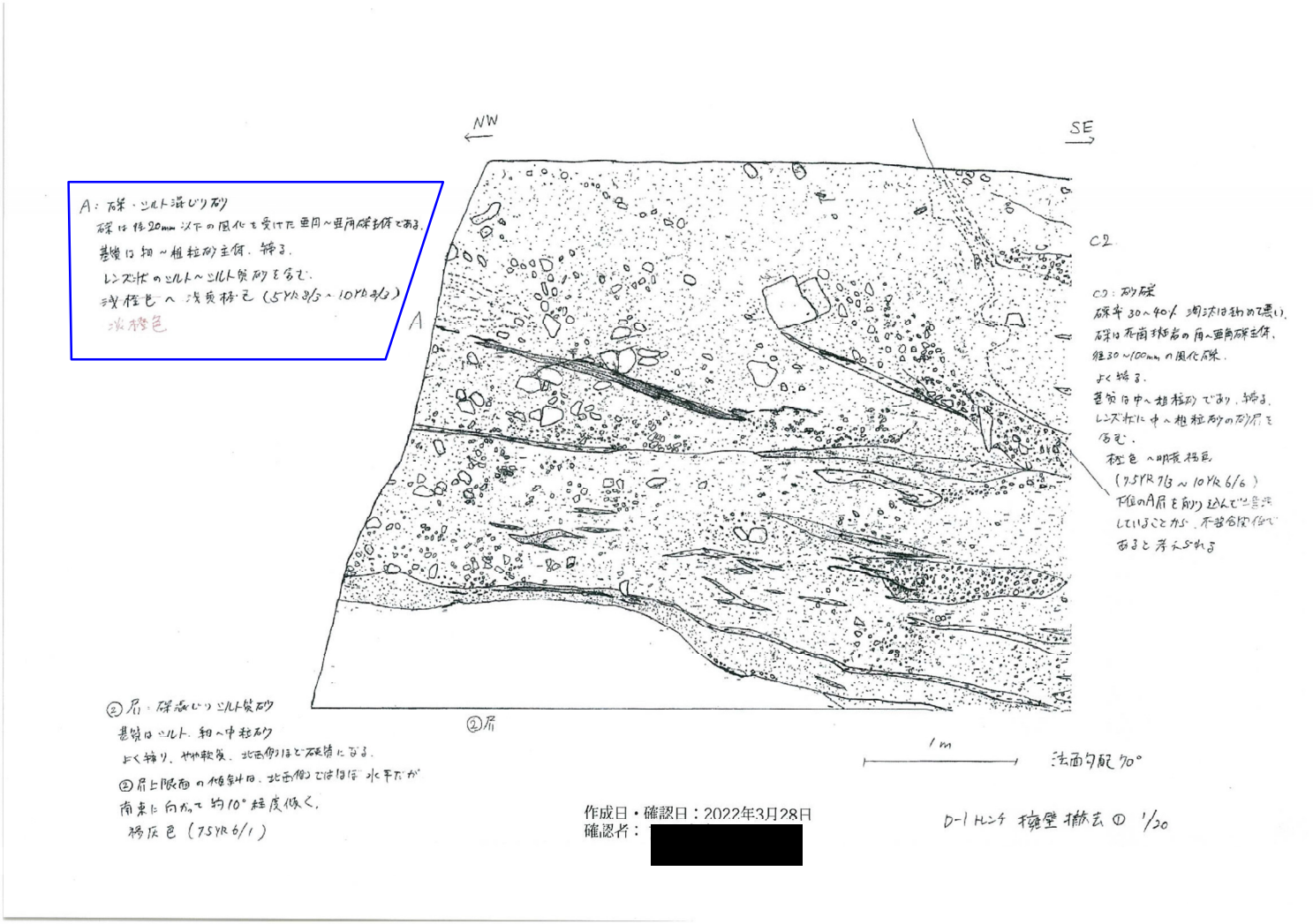
撮影：2013年12月



調査位置図

青枠：Aの色調に関する部分

スケッチ名：D-1トレンチ　擁壁撤去①　1/20　＿スケッチ

		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔）
スケッチ		○

青枠：Aの色調に関する部分

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

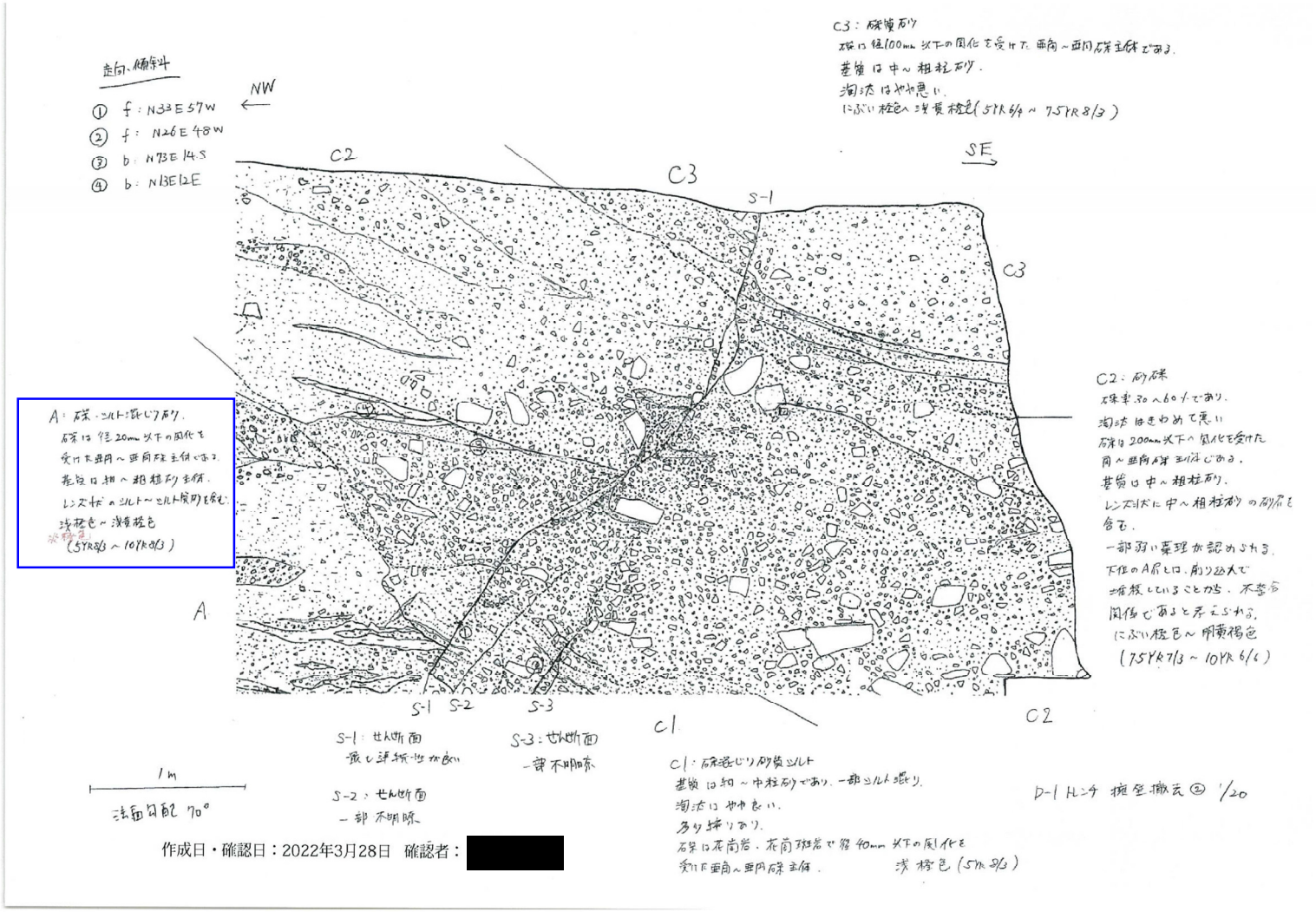
スケッチ名D-1トレンチ 掘壁撤去① 1/20_記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)						記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	地質の特徴 ・礫の風化度	地質の特徴 ・含有物（有機質、貝殻など）	地質の特徴 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するように、局所的に層理や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の存在物の種類と幅及び色調、条線等の代表的な割れ目の走向・傾斜 鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するように、局所的に層理や方向が変化している箇所では測定しない。	
C2	砂礫 礫率30～40%、淘汰はきわめて悪い。 礫は花崗岩質の亜～亜角礫主体、径30～100mmの風化礫。よく締る。 基質は中～粗粒砂であり、締る。 レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。 橙色～明黄褐色(7.5YR7/2～10YR6/6) 下位のA層を削り込んで堆積していることから不整合関係であると考えられる。	-	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
A	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淺橙色～淺黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～淺黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調（淡橙色）と色調を示す記号（5YR8/3）が整合していない。法面写真を確認し、色調を示す記号（5YR8/3）が正しく、色調の書き間違いであると判断した。
②層	礫混じりシルト質砂 基質はシルト、細～中粒砂 よく締り、やや軟質、北西側ほど硬質になる。 ②層上端面の傾斜は、北西側ではほぼ水平だが、南東側に向かって約10°程度傾く。 褐灰色(7.5YR6/1)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分 (Hc,Hb,Hy)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・礫数 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、葉理構造、網目状脈土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、左セん断面について複数点で測定する。	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

青枠：Aの色調に関する部分　152のエビデンス（3/8）

スケッチ名：D-1トレンチ　擁壁撤去②　1/20　スケッチ

		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔）
スケッチ		○

青枠：Aの色調に関する部分

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022. 3. 28

スケッチ名：D-1トレンチ 掘壁撤去② 1/20 記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系） 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・硬さ・礫率、詰まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図（基盤岩） 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
C3	礫質砂 礫は径100mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。 基質は中～粗粒砂。 淘汰はやや悪い。 にぶい橙色～浅黄橙色(5YR6/4～7.5YR8/3)	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
C2	砂礫 礫率30～60%であり、淘汰はきわめて悪い。 礫は径200mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。 基質は中～粗粒砂。 レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。 一部弱い葉理が認められる。 にぶい橙色～明黄褐色(7.5YR7/3～10YR6/6) 下位のA層とは、削り込んで堆積していることから不整合関係であると考えられる。	-	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
C1	礫混じり砂質シルト 基質は細～中粒砂であり、一部シルト混り。 淘汰はやや良い。 多少締りあり。 礫は花崗岩、花崗斑岩で径40mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体。 浅橙色(5YR8/3)	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
A	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調（浅橙色）と色調を示す記号（5YR8/3）が整合していない。法面写真を確認し、色調を示す記号（5YR8/3）が正しく、色調の書き間違いであると判断した。
③	b:N73E14S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
④	b:N13E12E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分（Hc,Hb,Hj）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・頻度 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・構成構造、複合面構造、異常構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅（実測できる場合）	最新活動面（認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
s-1	せん断面 最も連続性が良い。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
s-2	せん断面 一部不明瞭。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
s-3	せん断面 一部不明瞭。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
①	f:N33E57W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
②	f:N26E48W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-

青枠：Aの色調に関する部分

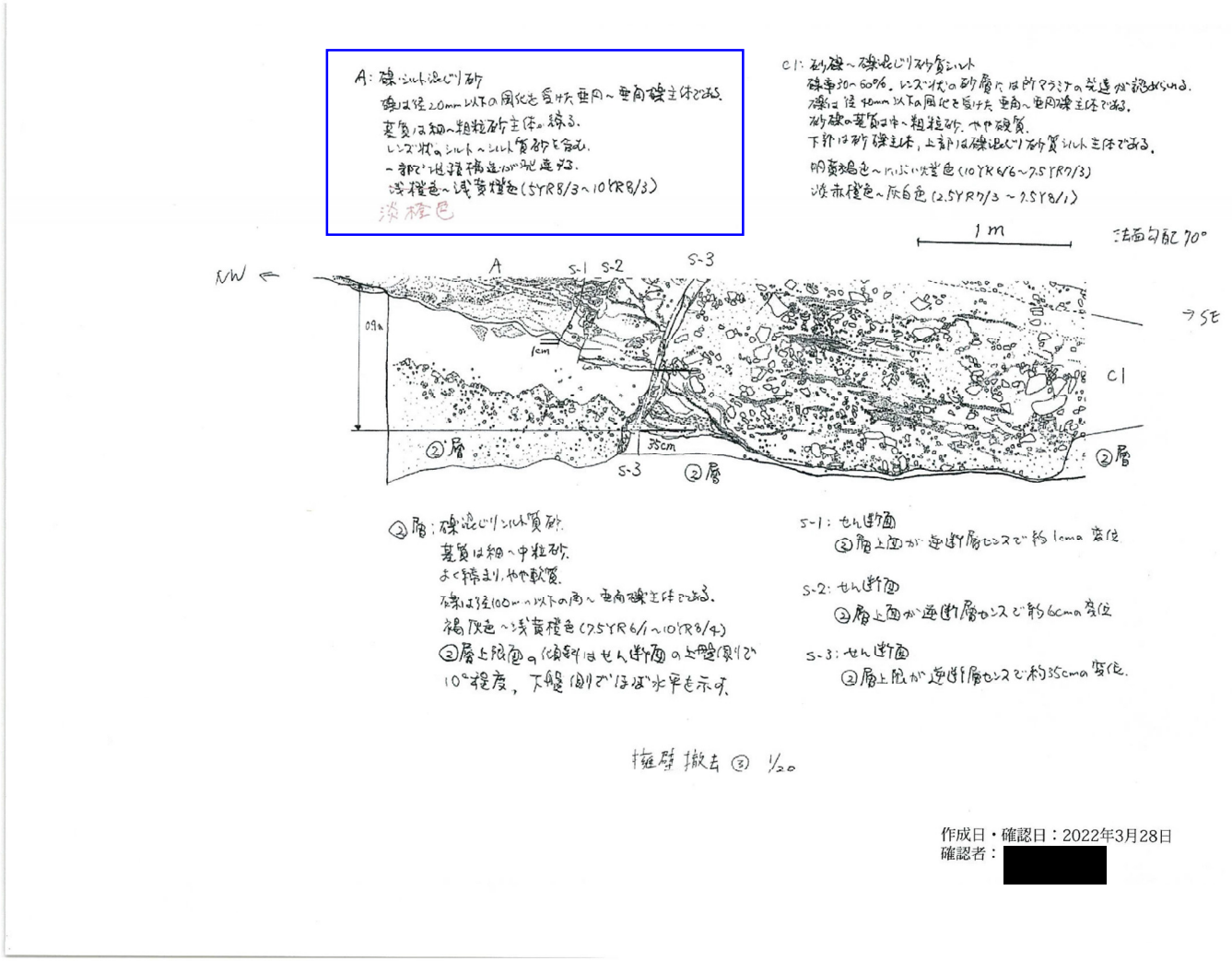
152のエビデンス（5/8）

スケッチ名：D-1トレンチ　擁壁撤去③　1/20　＿スケッチ

スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位，スケール（または，グリッドの間隔）

○



作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

青枠：Aの色調に関する部分

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022. 3. 28

スケッチ名：D-1トレンチ 掘壁撤去③ 1/20__記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系）										スケッチ原図（基盤岩）						記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴 ・粒度構成、砕の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	地質の特徴 ・礫の風化度	地質の特徴 ・含有物（有機質、貝殻など）	地質の特徴 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が把握できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積理律・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
C1	砂礫～礫混じり砂質シルト 礫率30～40%。 レンズ状に砂層を挟む。レンズ状の砂層には所々ラミナの発達が認められる。 礫は径40mm以下の風化を受けた亜角 ～亜円礫主体である。 砂礫の基質は中～粗粒砂。 やや硬質。 下部は砂礫主体、上部は礫混じり砂質シルト主体である。 明黄褐色～にぶい橙色（10YR6/4～7.5YR7/3） 淡赤橙色～灰白色（2.5YR7/3～7.5Y8/1）	-	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
A	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締◇。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 浅橙色～浅黄橙色（5YR8/3～10YR8/3）	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締◇。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 浅橙色～浅黄橙色（5YR8/3～10YR8/3）	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調（浅橙色）と色調を示す記号（5YR8/3）が整合していない。法面変基を確認し、色調を示す記号（5YR8/3）が正しく、色調の書き間違いであると判断した。
②層	礫混じりシルト質砂 基質は細～中粒砂 よく締り、やや軟質 礫は径100mm以下の角～亜角礫主体である。 褐灰色～浅黄橙色（7.5YR6/1～10YR8/4） ②層上限面の傾斜はせん断面の上盤側で10°程度、下盤側でほぼ水平を示す。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-

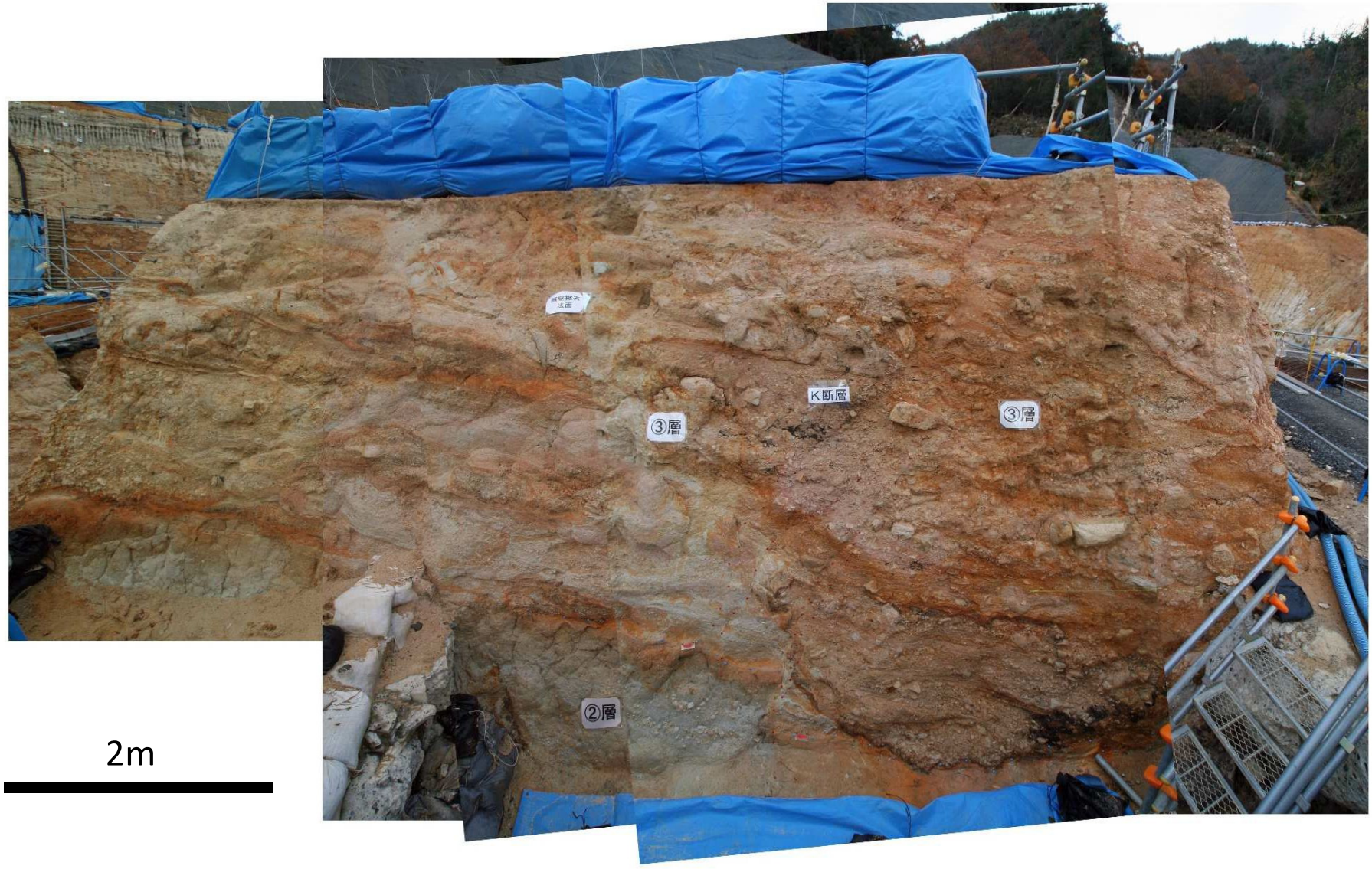
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕等										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分（Hc,Hu,Hj）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・構造構造、複合面構造、葉理構造、網目状貼土など	断層岩区分 ・断層カウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅（実測できる場合）	最新活動面（認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・できり面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
s-1	せん断面 ②層上面が逆断層センスで約1cmの変位。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s-2	せん断面 ②層上面が逆断層センスで約6cmの変位。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s-3	せん断面 ②層上限が逆断層センスで約35cmの変位。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ　擁壁撤去法面__③A層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？ ☑	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	選定した記事内容	スケッチ原図（地層の性状に関する記事）から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 （スケッチ原図（地層の性状に関する記事）を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点）
スケッチ原図①	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂：淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3) 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体であり，レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。	・色調（浅橙色）と色調を示す記号（5YR8/3）が整合していない。観察面写真を確認し，色調を示す記号(5YR8/3)が正しく，色調の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図②	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)		
スケッチ原図③	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)		

D-1トレンチ擁壁撤去法面写真

2013年12月撮影



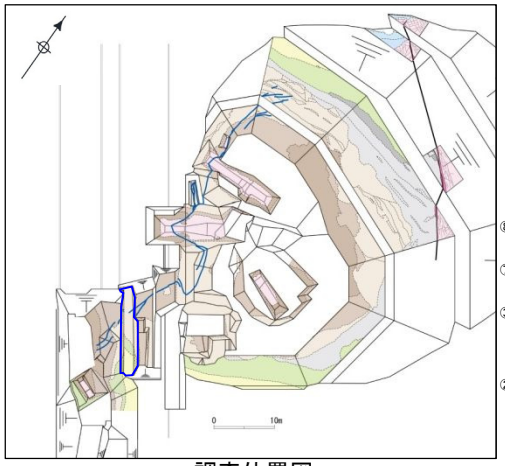
K断層の性状（原電道路ピット/ふげん道路ピット）

153（原電道路ピット/ふげん道路ピット）
修正箇所：橙色枠

修正前

第536回審査会合
資料2　修正

- 原電道路ピット東向き法面部では，K断層は②層及びC層（③層）までの地層に変位を与えているが，その上位の地層であるD3層（③層）は変位・変形を受けておらず，下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面（上段）では，C層までの地層に変位・変形を与えているが，その直上に分布するD3層の基底には，原電道路ピット東向き法面部と同様，K断層による変位・変形は及んでおらず，D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから，原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて，K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。

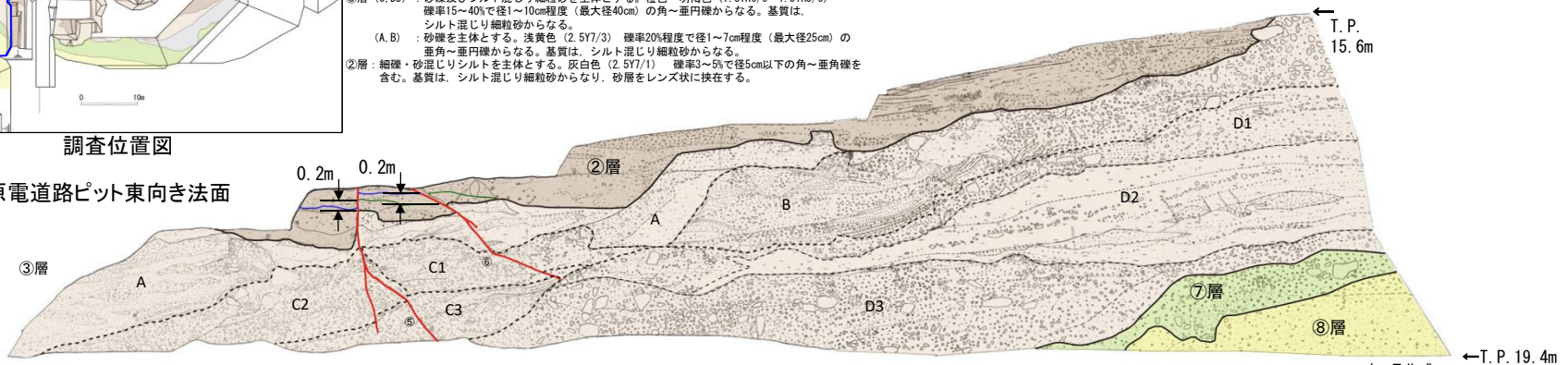


調査位置図

⑧層：細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色（5Y6/6）
礫率5～10%で，礫は径2～4cm程度の亜角礫を含む。基質は，シルト質細砂からなり，細礫混じり砂質シルト，砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状～層状に挟在する。
⑦層：礫混じり砂質シルト～砂礫からなる。明赤褐色～橙色（5YR5/6～7.5YR7/6）
礫率7～40%程度で径3～40cm程度の亜角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細～中粒砂からなる。下部ほど礫の含有率が多い。
③層（C,D3）：砂礫及びシルト混じり細粒砂を主体とする。橙色～明褐色（7.5YR6/6～7.5YR5/6）
礫率15～40%で径1～10cm程度（最大径40cm）の角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細粒砂からなる。
（A,B）：砂礫を主体とする。浅黄色（2.5Y7/3）　礫率20%程度で径1～7cm程度（最大径25cm）の亜角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細粒砂からなる。
②層：細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色（2.5Y7/1）　礫率3～5%で径5cm以下の角～亜角礫を含む。基質は，シルト混じり細粒砂からなり，砂層をレンズ状に挟在する。

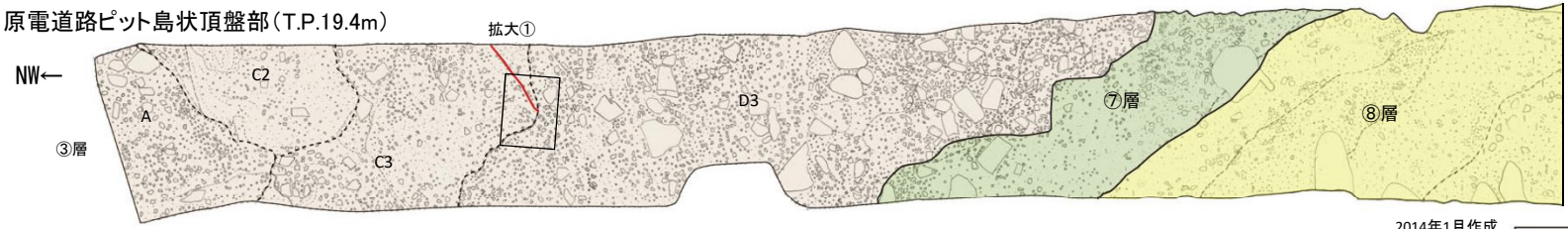
⑤f:N9° E74° W
⑥f:N5° E64° W
⑦f:N25° E70° E
f:せん断面

原電道路ピット東向き法面

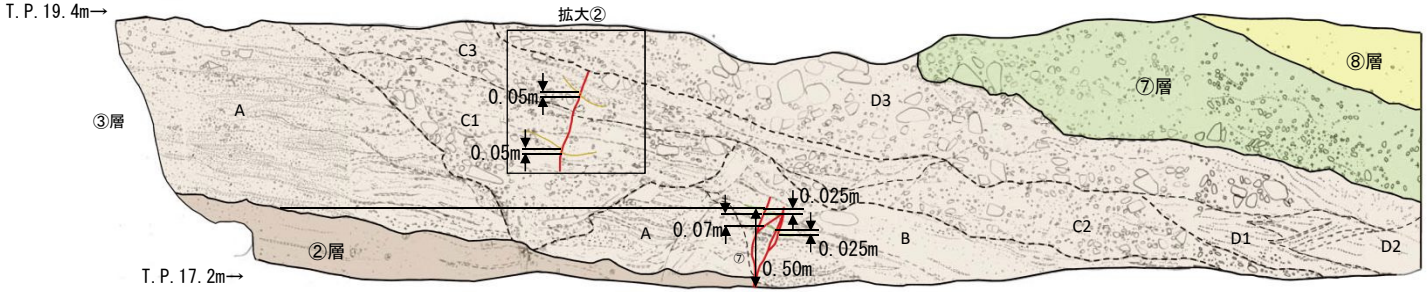


2014年1月作成

原電道路ピット島状頂盤部（T.P.19.4m）



2014年1月作成



凡　例
⑧層
⑦層
③層
②層
せん断面
地層境界
層相境界（主要なもの）

0　2m

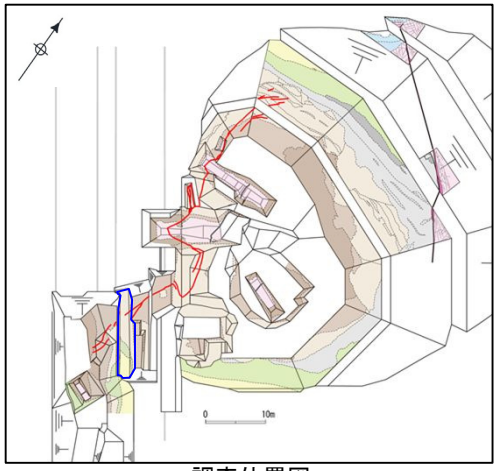
2015年7月作成

ふげん道路ピット東法面（上段）

K断層の性状（原電道路ピット/ふげん道路ピット）

153：⑧層の色調修正

修正後

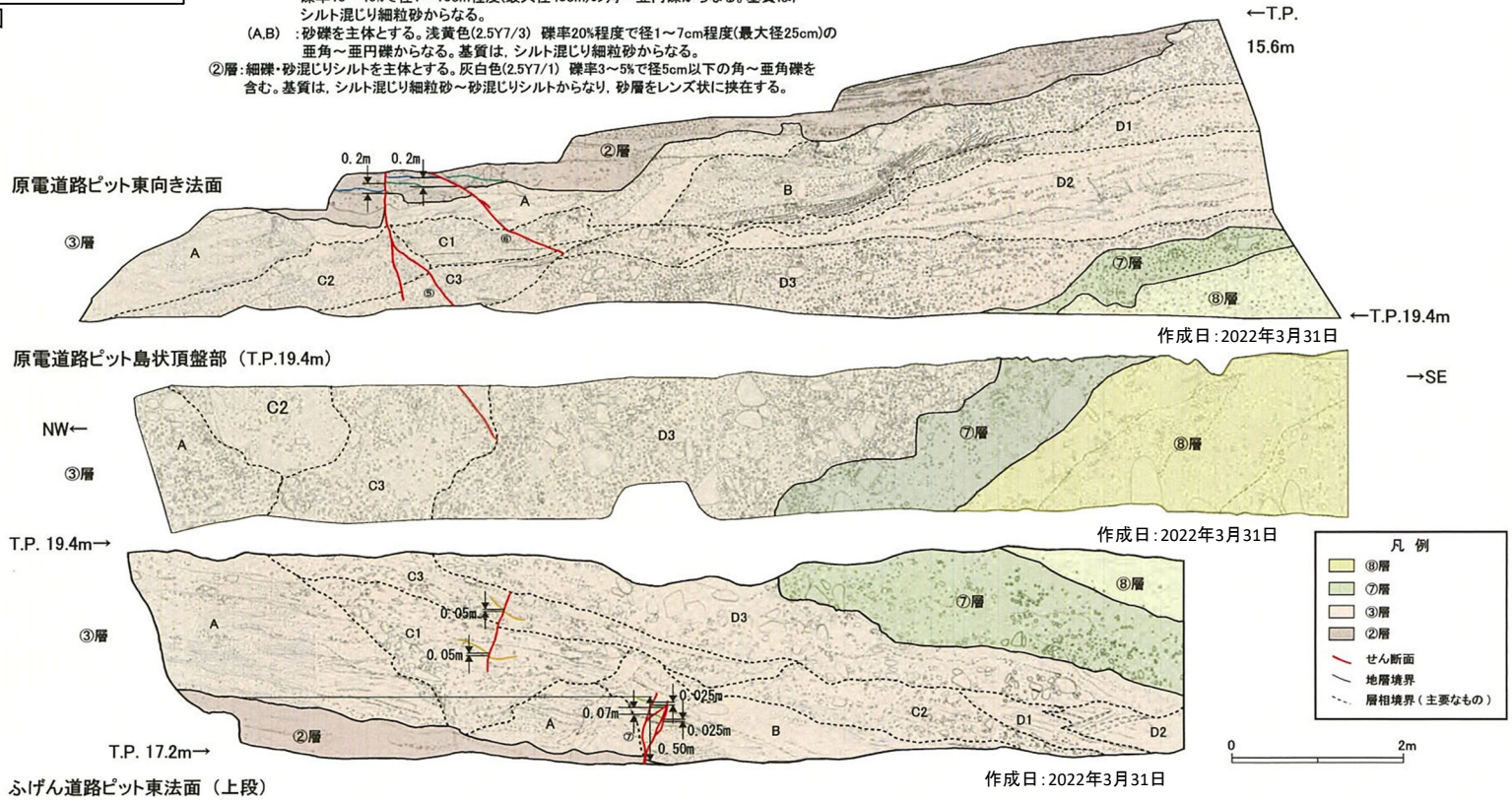


調査位置図

- 原電道路ピット東向き法面部では，K断層は②層及びC層（③層）までの地層に変位を与えているが，その上位の地層であるD3層（③層）は変位・変形を受けておらず，下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面（上段）では，C層までの地層に変位・変形を与えているが，その直上に分布するD3層の基底には，原電道路ピット東向き法面部と同様，K断層による変位・変形は及んでおらず，D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから，原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて，K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。

⑧層：細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6)。
礫率5～10%で，礫は径2～4cm程度の亜角礫を含む。基質は，シルト質細砂からなり，細礫混じり砂質シルト，砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状～層状に挟在する。
⑦層：礫混じり砂質シルト～砂礫からなる。明赤褐色(5YR5/6)～橙色(7.5YR7/6)
礫率7～40%程度で径3～40cm程度の亜角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細～中粒砂からなる。下部ほど礫の含有量が多い。
③層（C,D）：砂礫及びシルト混じり細砂を主体とする。橙色～明褐色(7.5YR6/6～7.5YR5/6)
礫率15～40%で径1～10cm程度(最大径40cm)の角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細粒砂からなる。
（A,B）：砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1～7cm程度(最大径25cm)の亜角～亜円礫からなる。基質は，シルト混じり細粒砂からなる。
②層：細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1) 礫率3～5%で径5cm以下の角～亜角礫を含む。基質は，シルト混じり細粒砂～砂混じりシルトからなり，砂層をレンズ状に挟在する。

⑤:f:N9° E74° W
⑥:f:N5° E64° W
⑦:f:N25° E70° E
f: せん断面

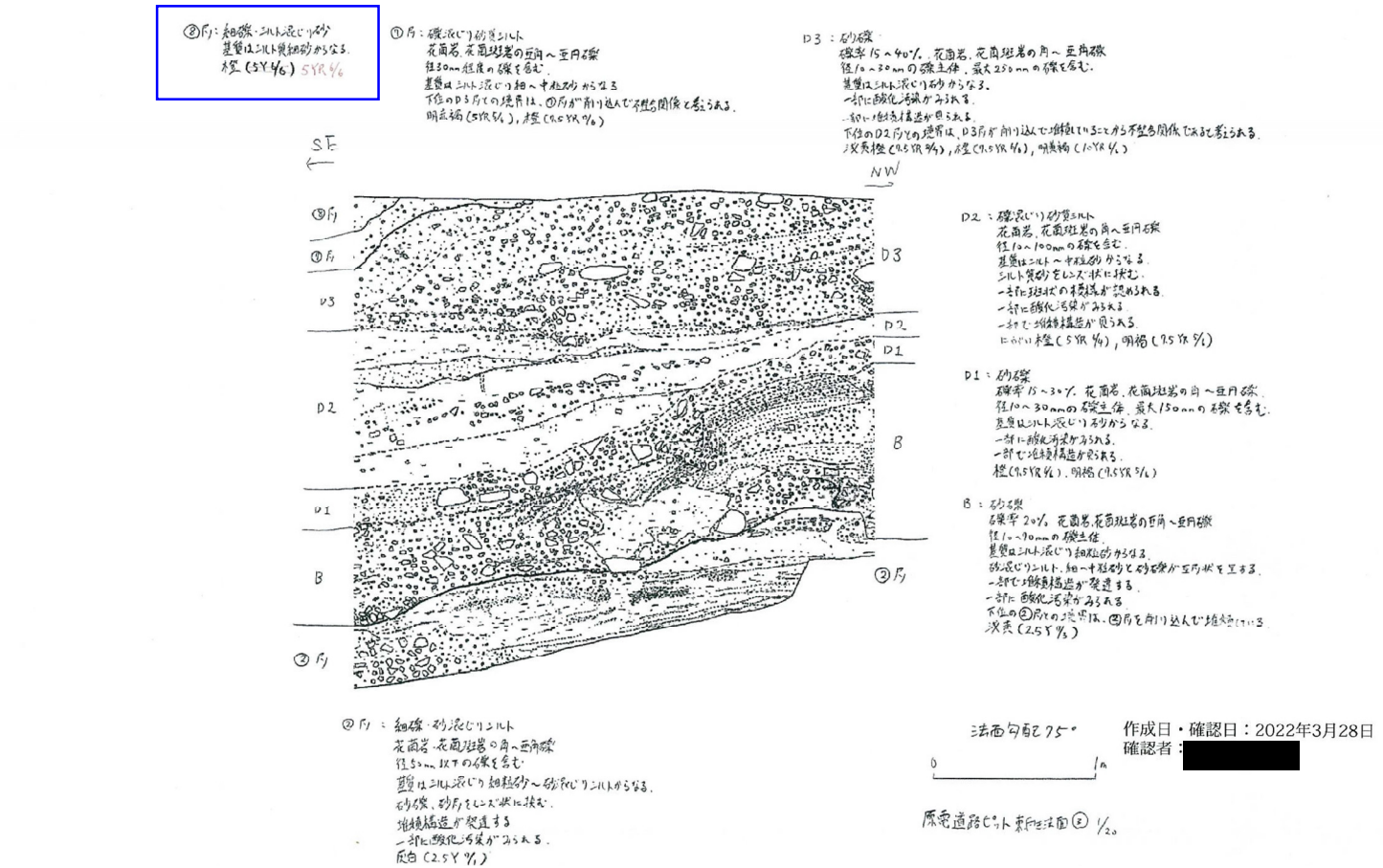


青枠：⑧層の色調に関する部分

153のエビデンス（1/10）

スケッチ名： D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ③ __スケッチ

スケッチ	スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○



青枠：⑧層の色調に関する部分

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名：D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ③ __記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系）										スケッチ原図（基盤岩）						記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土質化など、堆積環境・時間間隙を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に層厚や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の状態や物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に層厚や方向が変化している箇所では測定しない。	
				・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。												
②層	細礫・砂混じりシルト 花崗岩、花崗斑岩の角～亜角礫、径50mm以下の礫を含む。 基質はシルト混じり細粒砂～砂混じりシルトからなる。 砂礫、砂層をレンズ状に挟む。 堆積構造が発達する。 一部に酸化汚染がみられる。 灰白(2.5Y7/1)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
R	砂礫 礫率20% 花崗岩、花崗斑岩の亜角～亜円礫、径10～70mmの礫主体。 基質はシルト混じり細粒砂からなる。 砂混じりシルト、細～中粒砂より砂礫が盲層状を呈する。 一部で堆積構造が発達する。 一部に酸化汚染がみられる。 下位の②層との境界は、②層を削り込んで堆積している。 浅黄(2.5Y7/3)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
D1	砂礫 礫率15～30% 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫、径10～30mmの礫主体。最大150mmの礫を含む。 基質はシルト混じり砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 一部で堆積構造が見られる。 橙(7.5YR6/6) 明褐(7.5YR5/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
D2	礫混じり砂質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫、径10～100mmの礫を含む。 基質はシルト～中粒砂からなる。 シルト質砂もレンズ状に挟む。 一部に斑状の模様が認められる。 一部に酸化汚染がみられる。 一部で堆積構造が見られる。 にぶい橙(5YR6/4) 明褐(7.5YR5/6)	-	○	○	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
D3	砂礫 礫率15～40% 花崗岩、花崗斑岩の角～亜角礫、径10～30mmの礫主体。最大250mmの礫を含む。 基質はシルト混じり砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 一部に堆積構造が見られる。 下位のD2層との境界は、D3層が削り込んで堆積していることから不整合関係であると考えられる。 浅黄橙(7.5YR8/4) 橙(7.5YR6/6) 明黄褐(10YR6/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
⑦層	礫混じり砂質シルト 花崗岩、花崗斑岩の亜角～亜円礫、径30mm程度の礫を含む。 基質はシルト混じり細～中粒砂からなる。 下位のD3層との境界は、⑦層が削り込んで不整合関係と考えられる。 明赤褐(5YR5/6) 橙(7.5YR7/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
⑧層	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細粒砂からなる。 橙(5YR6/6)	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細粒砂からなる。 橙(5YR6/6)	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調（橙）と、色調を示す記号(5YR6/6)が整合していない。法面写真を確認し、色調（橙）が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

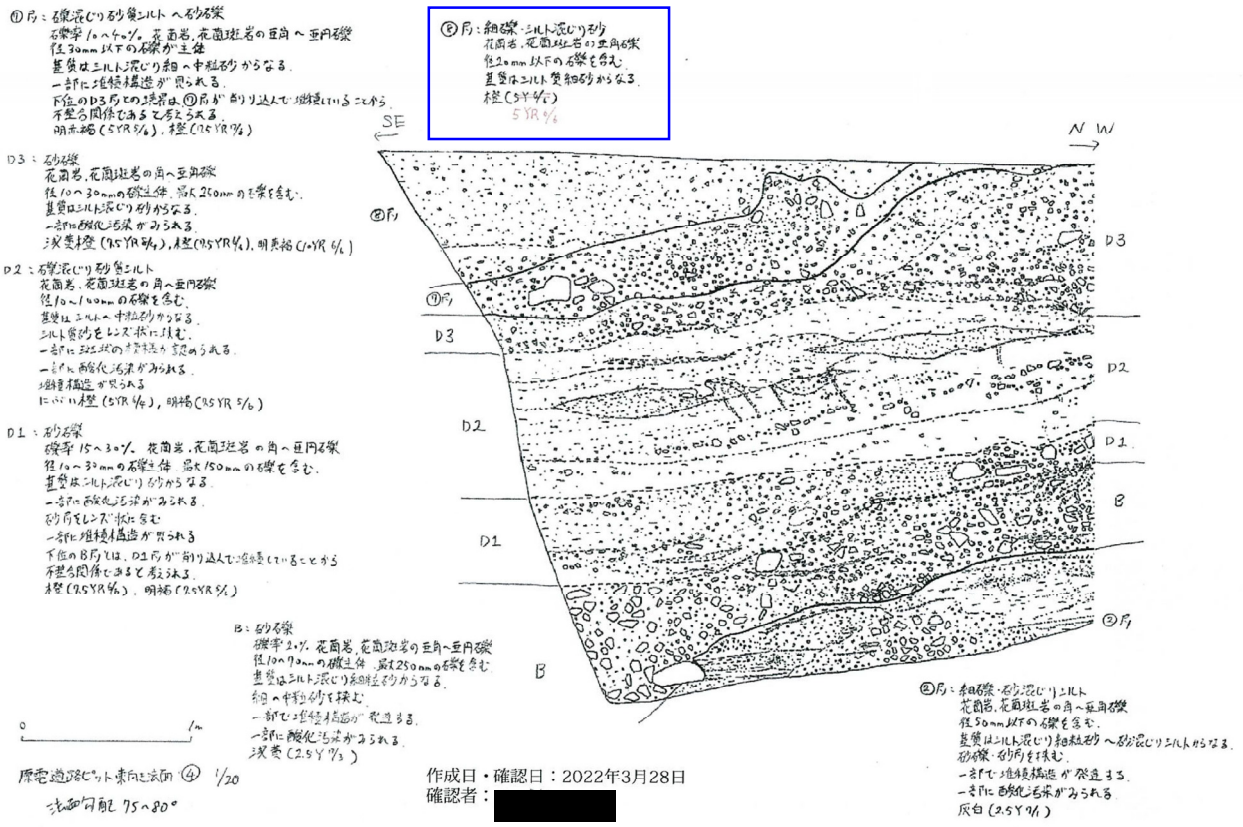
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分（Hc,Hb,Hj）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・礫数 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・構状構造、複合面構造、異常構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

青枠：⑧層の色調に関する部分

153のエビデンス（3/10）

スケッチ名D-1トレンチ　原電道路ピット東向き法面　1/20　④　スケッチ

スケッチ	スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○



青枠：⑧層の色調に関する部分

2022
作成日 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名：D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ④ __記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系）										スケッチ原図（基盤岩）					記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界	堆積構造	土壌化など	色調	走向・傾斜	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目	色調	走向・傾斜	
				・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	・堆積構造・層理、葉理、級化など	・土壌化など、堆積環境・時間間隔を示すもの		・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。			・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の状態物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載		・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
②層	細礫・砂混じりシルト 花崗岩、花崗斑岩の角～亜角礫、径50mm以下の礫を含む。 基質はシルト混じり細粒砂～砂混じりシルトからなる。 砂礫、砂層を挟む。 一部で堆積構造が発達する。 一部に酸化汚染がみられる。 灰白(2.5Y7/1)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
B	砂礫 礫率20% 花崗岩、花崗斑岩の亜角～亜円礫、径10～70mmの礫主体。最大250mmの礫を含む。 基質はシルト混じり細粒砂からなる。 細～中粒砂を挟む。 一部で堆積構造が発達する。 一部に酸化汚染がみられる。 浅黄(2.5Y7/3)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
D1	砂礫 礫率15～30% 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫、径10～30mmの礫主体。最大150mmの礫を含む。 基質はシルト混じり砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 砂層をレンズ状に含む。一部に堆積構造が見られる。 下位のD層とは、D1層が削り込んで堆積していることから不整合関係であると考えられる。 橙(7.5YR6/6) 明褐(7.5YR5/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
D2	礫混じり砂質シルト 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫、径10～100mmの礫を含む。 基質はシルト～中粒砂からなる。 シルト質砂をレンズ状に挟む。 一部に斑状の模様が認められる。 一部に酸化汚染がみられる。 堆積構造が見られる。 にぶい橙(5YR6/4) 明褐(7.5YR5/6)	-	○	○	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
D3	砂礫 花崗岩、花崗斑岩の角～亜角礫、径10～30mmの礫主体。最大250mmの礫を含む。 基質はシルト混じり砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 浅黄橙(7.5YR8/4) 橙(7.5YR6/6) 明黄褐(10YR6/6)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
⑦層	礫混じり砂質シルト～砂礫 礫率10～40% 花崗岩、花崗斑岩の亜角～亜円礫、径30mm以下の礫が主体。 基質はシルト混じり細～中粒砂からなる。 一部に堆積構造が見られる。 下位のD3層との境界は、⑦層が削り込んで堆積していることから不整合関係であると考えられる。 明赤褐(5YR5/6) 橙(7.5YR7/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
⑧層	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の亜角礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の亜角礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(橙)と、色調を示す記号(5Y6/6)が整合していない。法面写真を確認し、色調(橙)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分(Hc,Hb,Hj)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、異常構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ名：D-1トレンチ　ふげん道路ピット 東法面　1/20　　③ __スケッチ

スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位，スケール（または，グリッドの間隔）

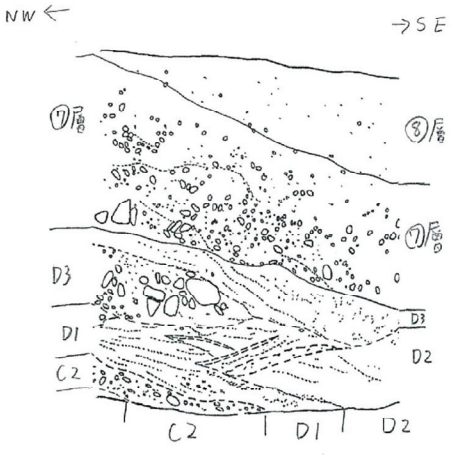
○

⑧層
・細礫・シルト混じり砂．
・橙（5YR6/6）5YR6/6
・花崗岩，花崗斑岩の亜角礫，径10mm以下の礫を含む．
・基質はシルト質細砂からなる．

⑦層
・礫混じり砂質シルト～砂礫
・明赤褐，橙（5YR 5/6，7.5YR6/6）
・花崗岩，花崗斑岩の亜角～亜円礫，径20mm以下の礫主体．
・基質はシルト混じり細～中粒砂からなる．
・下位のD3層との境界は，D3層中の堆積構造と斜交していることから不整合関係であると考えられる．
・礫率7～15%
・下部ほど礫の含有率が多い．

D3
・砂礫～シルト混じり細粒砂
・浅黄橙，橙，明黄褐（7.5YR8/4，7.5YR6/6，10YR6/6）
・花崗岩，花崗斑岩の角～亜角礫，径10～300mmの礫主体．
・礫率15～30%
・基質はシルト混じり砂からなる．
・一部に酸化汚染が見られる．
・堆積構造が見られる．
・下位のD1層，D2層との境界は，D3層が削り込んで堆積していることから，不整合関係であると考えられる．

D2
・シルト質砂
・にぶい橙，明褐（5YR5/4，7.5YR5/6）
・中粒砂からなる．
・堆積構造が見られる．



D1
・砂礫
・橙，明褐（7.5YR6/6，7.5YR5/6）
・礫率15～30%
・花崗岩，花崗斑岩の角～亜円礫
径10～300mmの礫主体
・基質は砂からなる．
・堆積構造が見られる．

C2
・砂礫
・橙，明褐（7.5YR6/6，7.5YR5/6）
・礫率15～20%
・花崗岩，花崗斑岩の角～亜円礫，
径10～100mmの礫主体．
・基質はシルト混じり細粒砂からなる．
・一部に酸化汚染がみられる．
・弱く堆積構造が見られる．

法面勾配 80°

0　1m

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

D-1トレンチ ふげん道路ピット東法面 ③ 1/20

青枠：⑧層の色調に関する部分

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名：D-1トレンチ ふげん道路ピット 東法面 1/20 ③＿記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)						記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間間隙を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するように。局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の構成物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するように。局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
				・粒度構成、礫の種類・形状・硬さ・締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。												
C2	砂礫 礫率15～20% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜円礫、径10～100mmの礫主体。 基質はシルト混じり細粒砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 弱く堆積構造が見られる。 橙(7.5YR6/6) 明褐(7.5YR5/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
D1	砂礫 礫率15～30% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜円礫、径10～200mmの礫主体。 基質は砂からなる。 堆積構造が乱れる。 橙(7.5YR6/6) 明褐(7.5YR5/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
D2	シルト質砂 中粒砂からなる。 堆積構造が見られる。 にぶい橙(5YR6/4) 明褐(7.5YR5/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
D3	砂礫～シルト混じり細粒砂 礫率15～30% 花崗岩、花崗閃岩の角～亜角礫、径10～300mmの礫主体。 基質はシルト混じり砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 堆積構造が見られる。 下位のD1層、D2層との境界は、D3層が削り込んで堆積していることから不整合関係であると考えられる。 淡黄橙(7.5YR8/4) 橙(7.5YR6/6) 明黄褐(10YR6/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
⑦層	礫混じり砂質シルト～砂礫 礫率7～15% 花崗岩、花崗閃岩の亜角～亜円礫、径20mm以下の礫主体。 基質はシルト混じり細～中粒砂からなる。 下位のD3層との境界は、D3層中の堆積構造と斜交していることから不整合関係であると考えられる。 下部ほど礫の含有率が多い。 明赤褐(5YR5/6) 橙(7.5YR7/6)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
⑧層	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗閃岩の亜角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗閃岩の亜角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調(橙)と、色調を示す記号(5YR6/6)が整合していない。法面写真を確認し、色調(橙)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分(Hc/Hb/Ht)	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・礫数 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、累帯構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

青枠：⑧層の色調に関する部分

153のエビデンス（7/10）

スケッチ名： D-1トレンチ 原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20 __スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位，スケール（または，グリッドの間隔）

○

スケッチ



⑦層
- 石礫混じり砂質シルト～砂石礫
- 明赤褐、橙（5YR5/6、7.5YR7/6）
- 花崗岩，花崗玻璃岩の亜角～亜円礫，径36～400mmの礫主体。最大径500mmの礫を含む
- 礫率20%
- 基質はシルト混じり細～中粒砂からなる。

⑧層
- 石礫，シルト混じり砂
- 橙（5Y6/6） 5YR6/6
- 花崗岩，花崗玻璃岩の亜角礫，径20～40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。礫率5～10%。
- 基質はシルト質細砂からなる。
- 石少礫混じり砂質シルト，石少混じり米粒，砂質シルトをレンズ状～層状に挟む

0 1m

作成日・確認日：2022年3月28日
確認者：[redacted]

D-1トレンチ原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20

青枠：⑧層の色調に関する部分

作成日 2022 3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名：D-1トレンチ 原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20 __記事

No	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系) 地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・風化・礫率、締まり具合	地質の特徴 ・礫の風化度	地質の特徴 ・含有物(有機質、貝殻など)	地質の特徴 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間間隙を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その測定箇所でも代表する箇所で測定するように、局所的に層理や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図(基盤岩) 地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の粗度等の種類と幅及び色調、条線等の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に層造や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
⑦層	礫混じり砂質シルト～砂礫 礫率20% 花崗岩、花崗斑岩の亜角～亜円礫、径30～400mmの礫主体。最大500mmの礫を含む。 基質はシルト混じり細～中粒砂からなる。 明赤褐(5YR5/6) 橙(7.5YR7/6)	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
⑧層	礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の亜角礫、径20～40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5～10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土、砂質シルトをレンズ状～層状に挟む。 橙(5YR6/6)	礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の亜角礫、径20～40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5～10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土、砂質シルトをレンズ状～層状に挟む。 橙(5YR6/6)	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(橙)と、色調を示す記号(5YR6/6)が整合していない。法面写真を確認し、色調(橙)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯 破砕度区分(Hc,Hs,Hj)	破砕部の性状 ・地粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・地粒部の連続性・連続性 ・混在組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、葉理構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	記事・スケッチ追記・変更・追記した理由
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート（D-1トレンチ　原電・ふげん道路ピット__⑧層の記載）

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図（地層の性状に関する記事）から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 （スケッチ原図（地層の性状に関する記事）を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点）
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？ ☑	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	選定した記事内容	
原電道路東向き法面スケッチ原図③	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 橙（5Y6/6）	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 橙（5YR6/6）	細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色（5YR6/6） 礫率5～10%で，礫は径2～4cm程度の亜角礫を含む。基質は，シルト質細砂からなり，細礫混じり砂質シルト，砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状～層状に挟在する。	・礫率は観察面が最も広い原電道路頂部スケッチ原図④の記載を全体の代表とした。 ・色調（橙）と，色調を示す記号（5Y6/6）が整合していない。観察面写真を確認し，色調（橙）が正しく，色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
原電道路東向き法面スケッチ原図④	細礫・シルト混じり砂 花崗岩，花崗斑岩の亜角礫，径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙（5Y6/6）	細礫・シルト混じり砂 花崗岩，花崗斑岩の亜角礫，径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙（5YR6/6）		
ふげん道路ピット東法面スケッチ原図③	細礫・シルト混じり砂 花崗岩，花崗斑岩の亜角礫，径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙（5Y6/6）	細礫・シルト混じり砂 花崗岩，花崗斑岩の亜角礫，径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙（5YR6/6）		
原電道路頂部スケッチ原図④	礫・シルト混じり砂 花崗岩，花崗斑岩の亜角礫，径20～40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5～10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト，砂混じり粘土，砂質シルトをレンズ状～層状に挟む。 橙（5Y6/6）	礫・シルト混じり砂 花崗岩，花崗斑岩の亜角礫，径20～40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5～10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト，砂混じり粘土，砂質シルトをレンズ状～層状に挟む。 橙（5YR6/6）		

原電道路・ふげんピット写真

153のエビデンス（10/10）

東向き法面

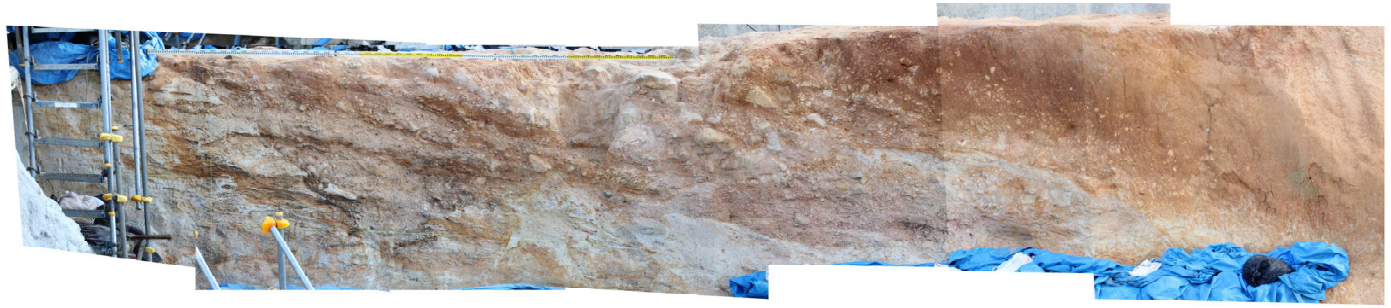


2015年10月撮影

島状頂盤



2015年9月撮影



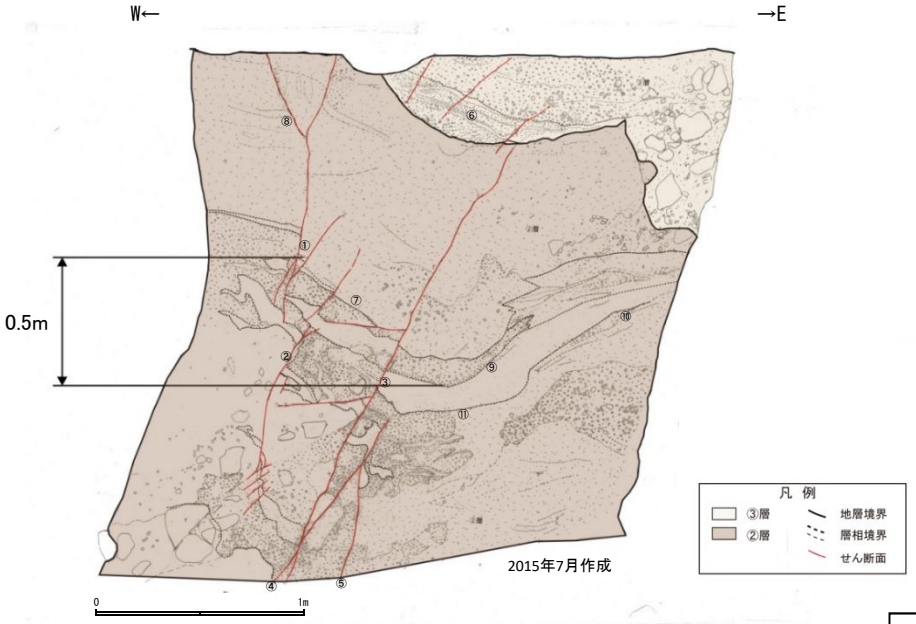
ふげん道路
東法面

2015年10月撮影

2m

K断層の性状（ふげん道路ピット）

修正前

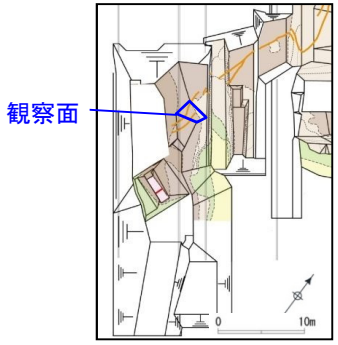




① f：N29° W75° W
② f：N25° E76° W
③ f：N14° W62° W
④ f：N35° E75° W
⑤ f：N1° W70° W
f：せん断面
b：層理面

⑥ b：N75° W39° N
⑦ b：N30° W26° E
⑧ b：N57° W9° W
⑨ b：N77° E2° S
⑩ b：N47° E21° SE
⑪ b：N5° W 10° W

K断層は数条に分岐しており，②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。



調査位置図

③層：砂礫　にぶい黄橙色～黄灰色（10YR7/4～25Y6/11）
　礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。礫率30～50%
　基質は中粒砂～粗粒砂であり，淘汰極めて悪い。
礫混じり砂　黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり，
　径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。

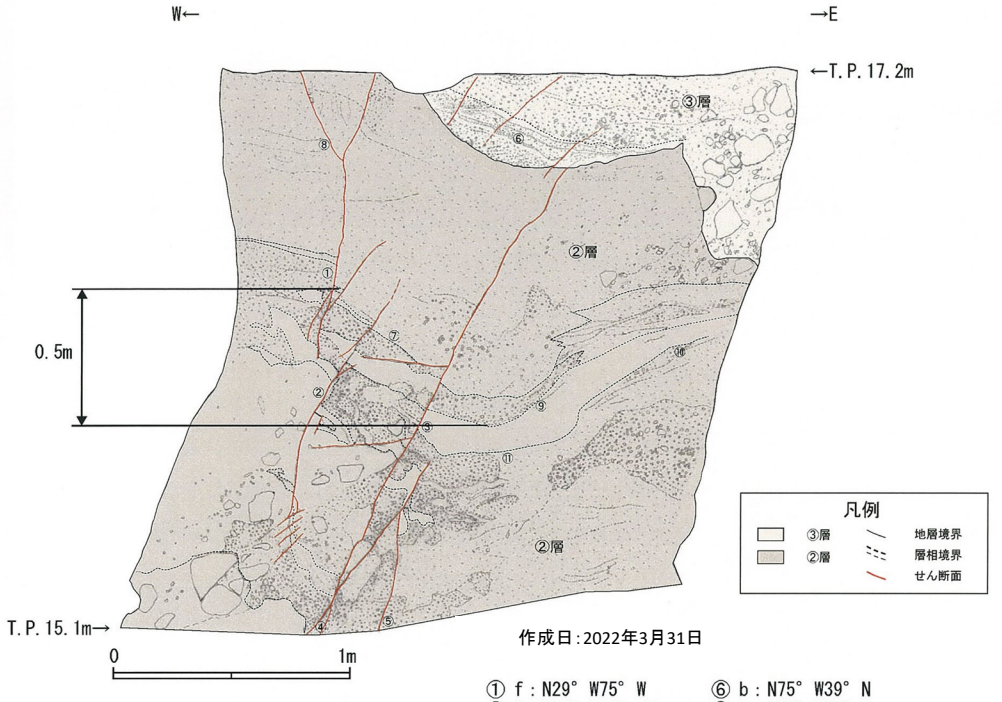
②層：礫・シルト混じり砂　灰白色～灰黄色（2.5Y7/12～2.5Y7/2）
　細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
砂質シルト　灰白色（2.5Y7/1）
　シルトを主体とし，細粒砂が混じる。よく締まっている。

K断層の性状（ふげん道路ピット）

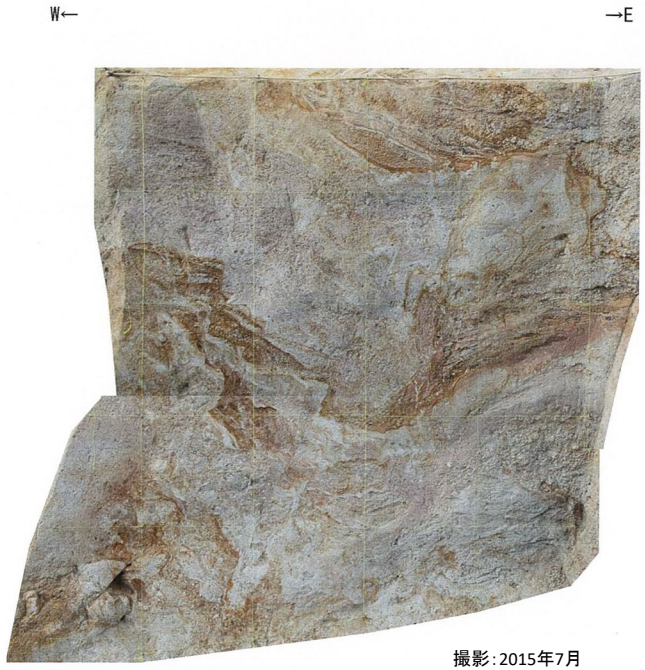
154，155：②層，③層の色調修正

修正後

・K断層は数条に分岐しており，②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。



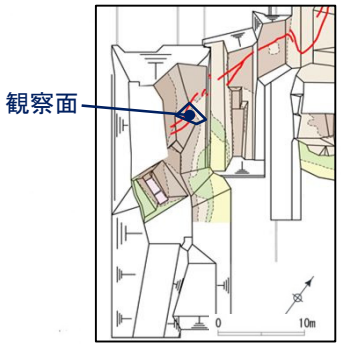
作成日：2022年3月31日



撮影：2015年7月

① f：N29° W75° W
② f：N25° E76° W
③ f：N14° W62° W
④ f：N35° E75° W
⑤ f：N1° W70° W
⑥ b：N75° W39° N
⑦ b：N30° W26° E
⑧ b：N57° W9° W
⑨ b：N77° W2° S
⑩ b：N47° E21° SE
⑪ b：N5° W10° W

f：せん断面
b：層理面



調査位置図

③層：砂礫　にぶい黄橙色～黄灰色（10YR7/4～2.5Y6/1）
礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。礫率30～50%
基質は中粒砂～粗粒砂であり，淘汰極めて悪い。
礫混じり砂　黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり，
径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。

②層：礫・シルト混じり砂　灰白色～灰黄色（2.5Y7/1～2.5Y7/2）
細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
砂質シルト　灰白色（2.5Y7/1）
シルトを主体とし，細粒砂が混じる。よく締まっている。

ふげん道路ピット東法面中段スケッチ

青枠：②層，③層の色調に関する部分

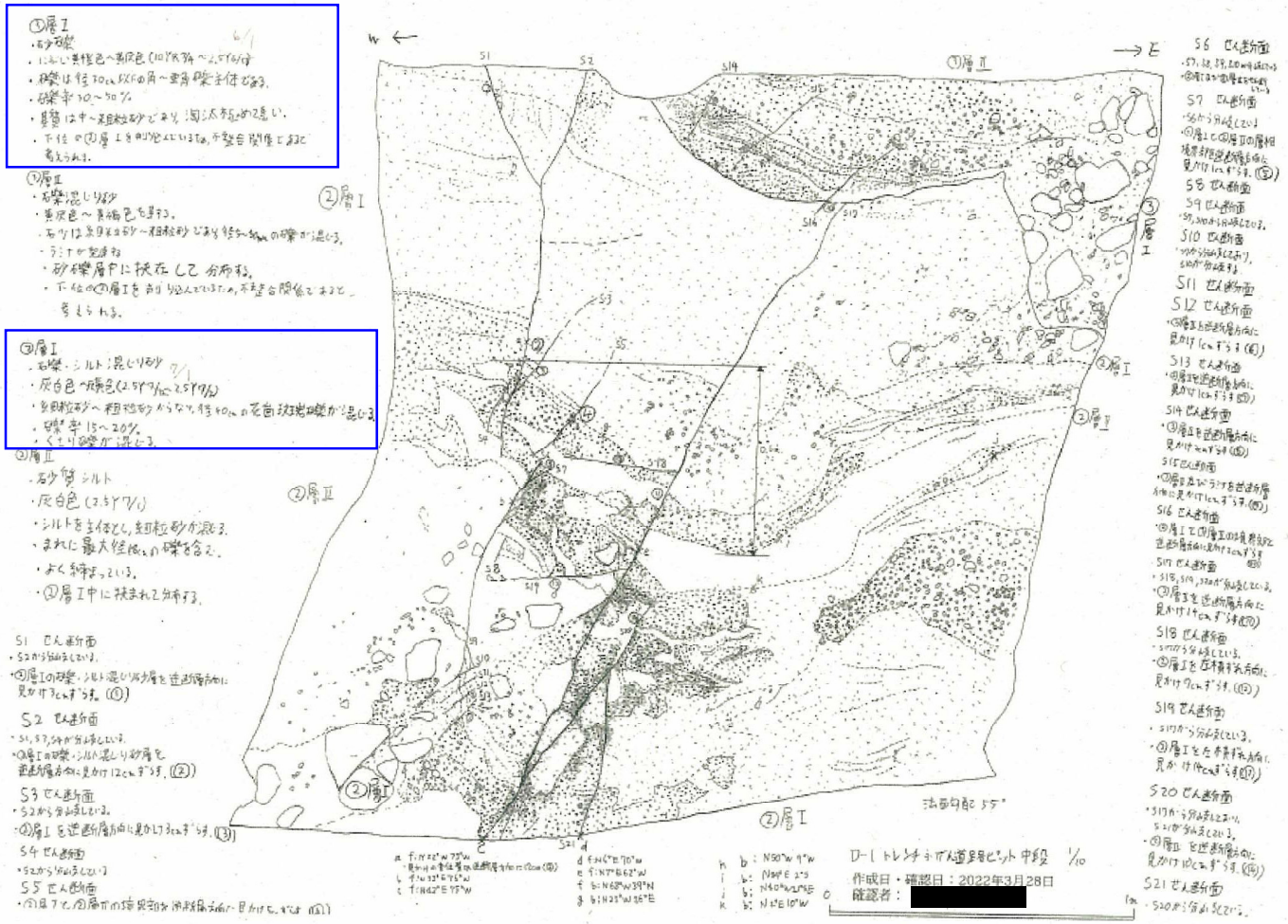
154，155のエビデンス（1/6）

スケッチ名　D-1トレンチ　ふげん道路ピット中段　1/10　スケッチ

スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位，スケール（または，グリッドの間隔）

○



青枠：②層，③層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 1/10 記事①

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系）地質名	地質の特徴 ・粒度構成，硬の種類・形状・微径・硬度，締まり具合	地質の特徴 ・硬の最化度	地質の特徴 ・含有物（有機質，異質など）	地質の特徴 ・その他，周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば，それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は，その根拠を保せて記載	地積構造 ・層理，業理，級化など	土壌化など，地積構造・時間関係を示すもの	色調	走向・傾斜 ・地積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するように，箇所的に層面や方向が変化している箇所では測定しない。	スケッチ原図（基盤岩）地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔，割れ目面の状在物の種類と幅及び色調，系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜，鏡肌，条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するように，箇所的に層面や方向が変化している箇所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
③層Ⅰ	砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色（10YR7/4～2.5Y8/11） 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～細粒砂であり，海は極めて悪い。 下位の②層Ⅰを削り込んでいるため，不整合関係であると考えられる。	砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色（10YR7/4～2.5Y8/1） 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～細粒砂であり，海は極めて悪い。 下位の②層Ⅰを削り込んでいるため，不整合関係であると考えられる。	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調（黄灰色）と，色調を示す記号（2.5Y8/11）が整合していない。法面写真を確認し，色調（黄灰色）が正しく，色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
③層Ⅱ	礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。 砂は細粒砂～細粒砂であり，径5～50mmの礫が混じる。 ラミナが発達する。 砂礫層中に挟在して分布する。 下位の②層Ⅰを削り込んでいるため，不整合関係であると考えられる。	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
②層Ⅰ	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色（2.5Y7/12～2.5Y7/2） 細粒砂～細粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色（2.5Y7/1～2.5Y7/2） 細粒砂～細粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調（灰白色）と，色調を示す記号（2.5Y7/12）が整合していない。法面写真を確認し，色調（灰白色）が正しく，色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
②層Ⅱ	砂質シルト 灰白色（2.5Y7/1） シルトを主体とし，細粒砂が混じる。 まれに最大径18cmの礫を含む。 よく締まっている。 ②層Ⅰ中に挟まれて分布する。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
f	b:N88° W39° N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
g	b:N23° W28° E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
h	b:N50° W9° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
i	b:N84° E2° S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
j	b:N40° W21° SE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
k	b:N2° E10° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 1/10 _記事②

作成日 2022/3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分（Hc,Hb,Hj）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩細線が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・規状構造，複合面構造，変形構造，網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅（実測できる場合）	最新活動面（認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する面所で測定する。あるいは，正なせん断面について複数点で測定する。	
a	f:N22° W75° W 見かけの変位量は逆断層方向に12cm	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-
b	f:N32° E76° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
c	f:N42° E75° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
d	f:N6° E70° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
e	f:N7° W62° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
s1	せん断面 s2から分岐している。 ②層Ⅰの礫・シルト混じり砂層を逆断層方向に見かけ3cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s2	せん断面 s1,s3,s4が分岐している。 ②層Ⅰの礫・シルト混じり砂層を逆断層方向に見かけ12cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s3	せん断面 s2から分岐している。 ②層Ⅰを逆断層方向に見かけ3cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s4	せん断面 s2から分岐している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
s5	せん断面 ②層Ⅰの砂層と②層Ⅱの境界部を逆断層方向に見かけ3cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s6	せん断面 s7,s8,s9,s10が分岐している。 ②層Ⅰ及び②層Ⅱをせん断している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
s7	せん断面 s6から分岐している。 ②層Ⅰと②層Ⅱの層相境界部を逆断層方向に見かけ1cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s8	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
s9	せん断面 s7,s10から分岐している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
s10	せん断面 s7から分岐しており，s10が分岐する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
s11	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
s12	せん断面 ②層Ⅱを逆断層方向に見かけ1cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s13	せん断面 ②層Ⅱを逆断層方向に見かけ1cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s14	せん断面 ③層Ⅱを逆断層方向に見かけ2cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s15	せん断面 ③層Ⅱ及びラミナを逆断層方向に見かけ1cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s16	せん断面 ②層Ⅰと②層Ⅱの境界部で逆断層方向に見かけ2cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s17	せん断面 s18,s19,s20が分岐している。 ②層Ⅱを逆断層方向に見かけ14cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s18	せん断面 s17から分岐している。 ②層Ⅰを左横ずれ方向に見かけ7cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s19	せん断面 s17から分岐している。 ②層Ⅰを左横ずれ方向に見かけ14cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s20	せん断面 s17から分岐しており，s21が分岐している。 ②層Ⅱのを逆断層方向に見かけ10cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
s21	せん断面 s20から分岐している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ　ふげん道路ピット中段__②層の記載)

作成日 2022.6.17　作成者 [redacted]　確認日 2022.6.17　確認者 [redacted]

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？ ☑	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	選定した記事内容	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 (スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点)
②層Ⅰ	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	②層：礫・シルト混じり砂　灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト　灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし，細粒砂が混じる。よく締まっている。	・色調(灰白色)と，色調を示す記号(2.5Y7/12)が整合していない。法面写真を確認し，色調(灰白色)が正しく，色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
②層Ⅱ	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし，細粒砂が混じる。 まれに最大径18cmの礫を含む。 よく締まっている。 ②層Ⅰ中に挟まれて分布する。			

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート（D-1トレンチ　ふげん道路ピット中段__③層の記載）

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？ ☑	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	選定した記事内容	スケッチ原図（地層の性状に関する記事）から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 （スケッチ原図（地層の性状に関する記事）を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点）
③層Ⅰ	砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色（10YR7/4～2.5Y6/11） 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり，淘汰極めて悪い。 下位の②層Ⅰを削り込んでいるため，不整合関係であると考えられる。	砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色（10YR7/4～2.5Y6/1） 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり，淘汰極めて悪い。 下位の②層Ⅰを削り込んでいるため，不整合関係であると考えられる。	③層：砂礫　にぶい橙色～黄灰色（10YR7/4～2.5Y6/1） 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり，淘汰極めて悪い。 礫混じり砂　黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり，径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。	・色調（黄灰色）と，色調を示す記号（2.5Y6/11）が整合していない。観察面写真を確認し，色調（黄灰色）が正しく，色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
③層Ⅱ	礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。 砂は細粒砂～粗粒砂であり，径5～50mmの礫が混じる。 ラミナが発達する。 砂礫層中に挟在して分布する。 下位の②層Ⅰを削り込んでいるため，不整合関係であると考えられる。	-		

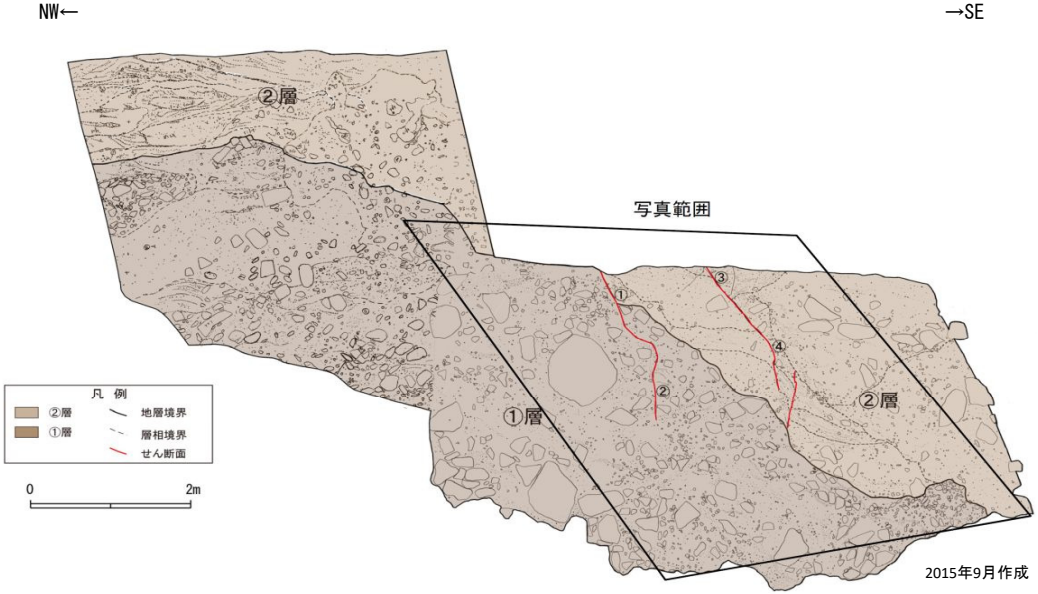
D-1トレンチふげん道路ピット中段写真

2015年7月撮影

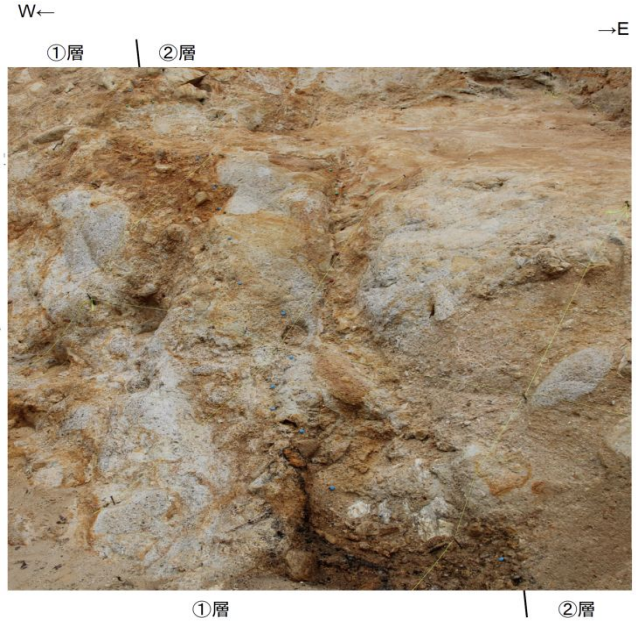


K断層の性状（ふげん道路ピット）

K断層の南方への連続性を追跡，確認した結果，K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。



2015年9月作成

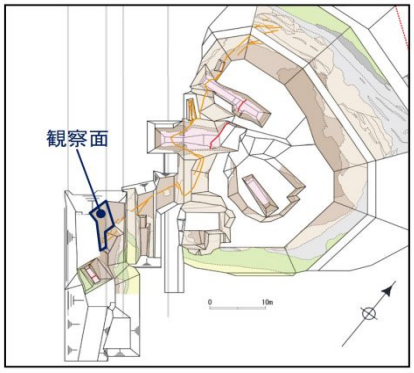


2015年10月撮影

②層：礫・シルト混じり砂　灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2)
　細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
　砂質シルト　灰白色(2.5Y7/1)
　シルトを主体とし，細粒砂が混じる。よく締まっている。

①層：砂礫　にぶい赤褐色(5YR4/3)
　礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30～60%であり，淘汰は悪い。
　基質は粗～中粒砂で固く締まっている。

① f：N31° W62° W
② f：N1° W58° W
③ f：N5° W67° W
④ f：N1° E47° W
f：せん断面

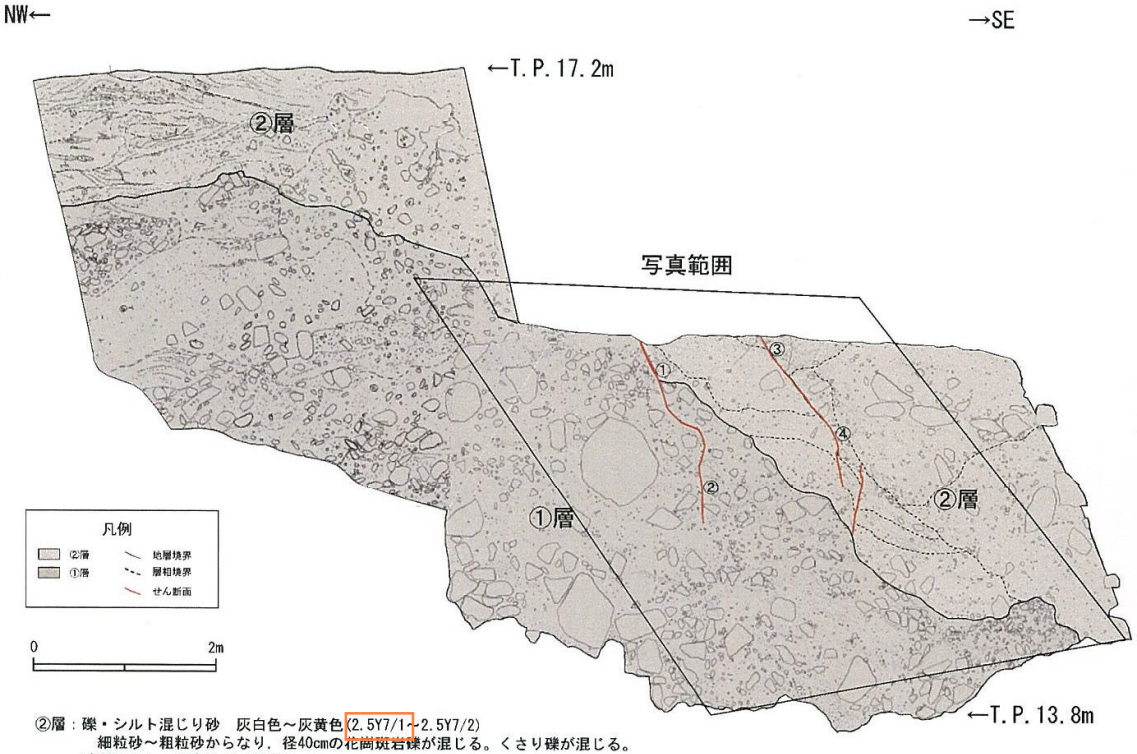


調査位置図

K断層の性状（ふげん道路ピット）

156：②層の色調修正　修正後

K断層の南方への連続性を追跡，確認した結果，K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。

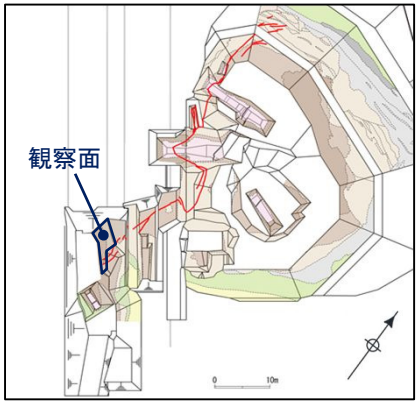


②層：礫・シルト混じり砂　灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2)
細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
砂質シルト　灰白色(2.5Y7/1)
シルトを主体とし，細粒砂が混じる。よく締まっている。

①層：砂礫　にぶい赤褐色(5YR4/3)
礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30～60%であり，淘汰は悪い。
基質は粗～中粒砂で固く締まっている。

① f：N31° W62° W
② f：N1° W58° W
③ f：N5° W67° W
④ f：N1° E47° W
f：せん断面

作成日：2022年3月31日



調査位置図



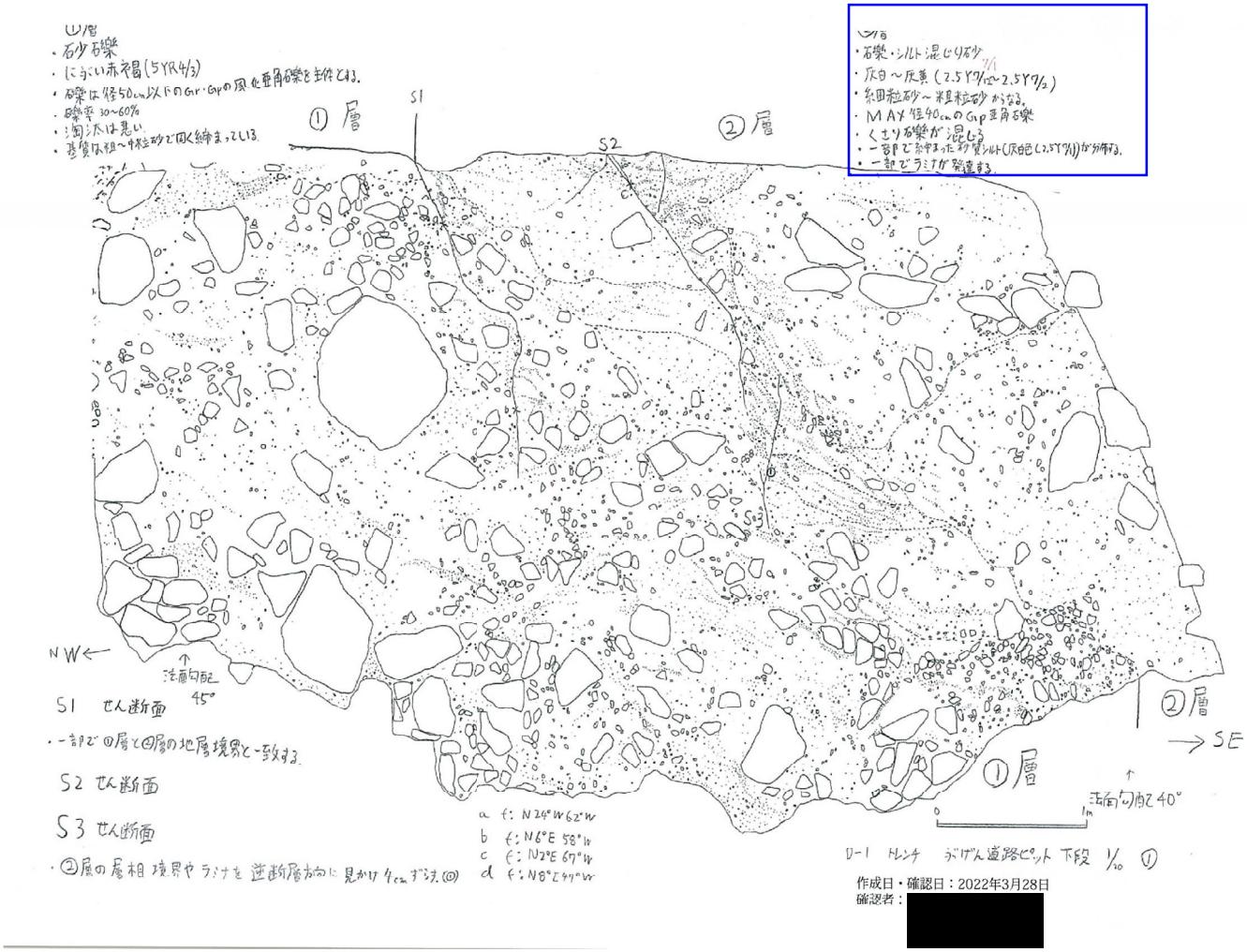
撮影：2015年10月

青枠：②層の色調に関する部分

156のエビデンス（1/5）

スケッチ名　D-1トレンチ　ふげん道路ピット下段 ①　1/20　スケッチ

スケッチ	スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○



作成日・確認日：2022年3月28日

確認者：[redacted]

青枠：②層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ① 1/20 記事

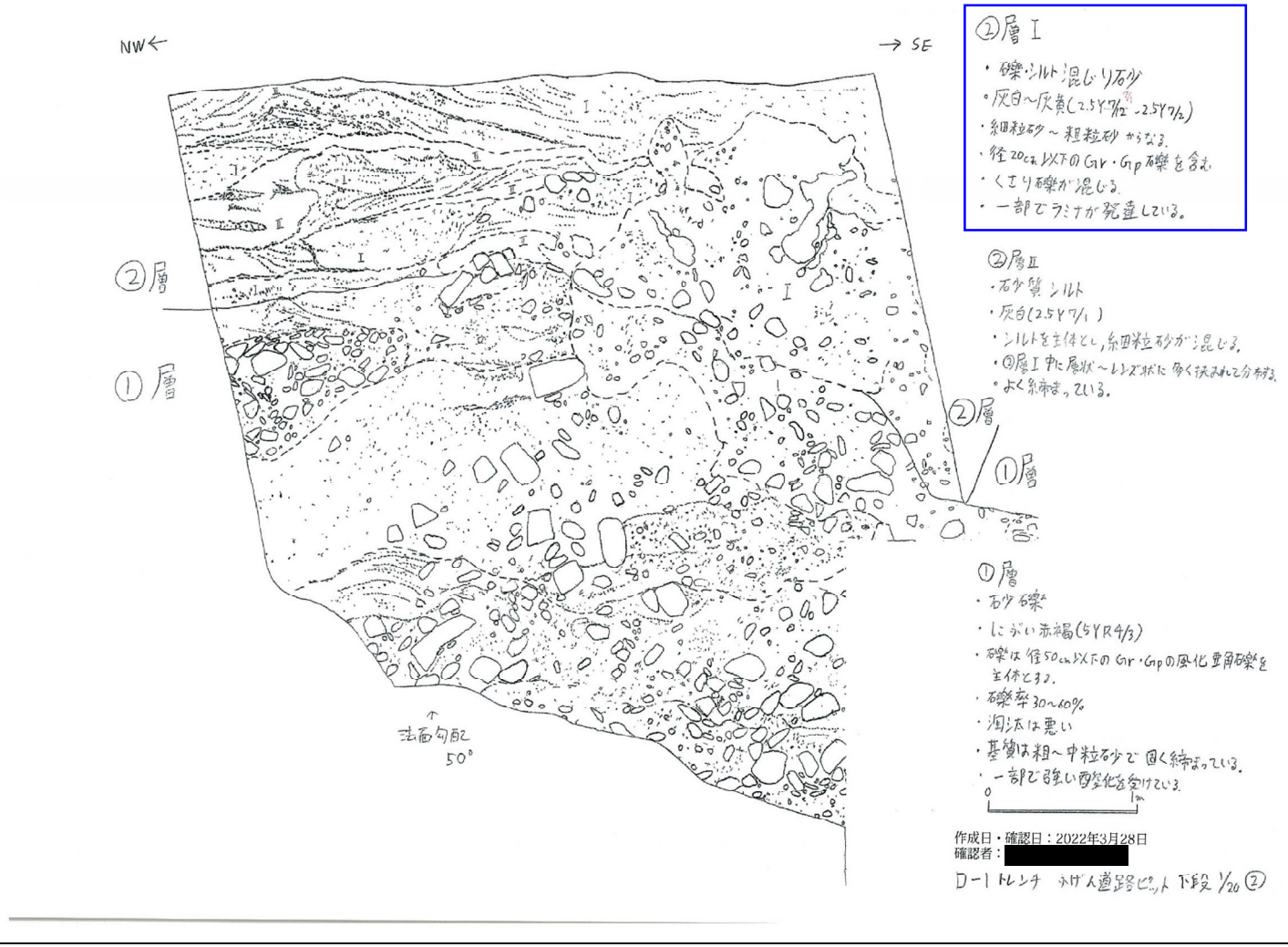
No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系）										スケッチ原図（基盤岩）					記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界	堆積構造	土壌化など、堆積環境・時間間隔を示すもの	色調	走向・傾斜	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目	色調	走向・傾斜	
				・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合	・礫の風化度	・含有物（有機質、貝殻など）	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	・地層境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	・堆積構造・層理、葉理、級化など			・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に層曲や方向が変化している箇所では測定しない。			・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の状況物の種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載		・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に層曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
②層	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp亜角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト（灰白色(2.5Y7/1)）が分布する。 一部でラミナが発達する。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～細粒砂からなる。 MAX径40cmのGp亜角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト（灰白色(2.5Y7/1)）が分布する。 一部でラミナが発達する。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調（灰白色）と、色調を示す記号（2.5Y7/12）が整合していない。法面写真を確認し、色調（灰白色）が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
①層	砂礫 にぶい赤褐色(5YR4/3) 礫は径50cm以下のGr・Gpの風化亜角礫を主体とする。 礫率30～60% 淘汰は悪い。 基質は粗～中粒砂で固く締まっている。	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分（Hc,Hb,Hg）	破砕部の性状 ・細粒部の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、累帯構造、網目状粘土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅（実測できる場合）	最新活動面（認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
a	f:N24° W62° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
b	f:N6° E58° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
c	f:N2° E67° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
d	f:N8° E47° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
S1	せん断面 一部で①層と②層の地層境界と一致する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S2	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S3	せん断面 ②層の層相境界やラミナを逆断層方向に見かけ4cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	

青枠：②層の色調に関する部分

156のエビデンス（3/5）

スケッチ名　D-1トレンチ　ふげん道路ピット下段　②　1/20　スケッチ

スケッチ		スケッチ原図に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位，スケール（または，グリッドの間隔） ○

青枠：②層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28　作成者 [redacted]　確認者 [redacted]　確認日 2022.3.28

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ② 1/20 記事

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図（第四系）									スケッチ原図（基盤岩）					記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴 ・粒度構成、礫の種類・形状・礫径・礫率、締まり具合 ・礫の風化度 ・含有物（有機質、貝殻など） ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。			地層境界 ・地質境界の整合・不整合関係が認定できる場合は、その根拠も併せて記載	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	土壌化など、堆積環境・時間間隙を示すもの	色調	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・岩盤中の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の挟在物や種類と幅及び色調、系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、鏡肌、条線などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目やせんの面を最も代表する箇所で測定するようにし、局所的に屈曲や方向が変化している箇所では測定しない。	
②層Ⅰ	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	○	○	○			○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	色調（灰白色）と、色調を示す記号（2.5Y7/1）が整合していない。注意事項を確認し、色調（灰白色）が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
②層Ⅱ	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。 ②層Ⅰ中に層状～レンズ状に多く挟まれて分布する。 よく締まっている。	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	
①層	砂礫 にぶい赤褐色(5YR4/3) 礫は径50cm以下のGr・Gpの亜角礫を主体とする。 礫率30～60% 淘汰は悪い。 基質は粗～中粒砂で固く締まっている。 一部で強い酸化を受けている。	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕度区分（Hc,Hb,Hj）	破砕部の性状 ・幅粗密の幅 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無		内部構造 ・構状構造、複合面構造、葉理構造、鏡目状貼土など	断層岩区分 ・断層ガウジ・断層角礫・カタクレーサイトに区分し記載	破砕幅 （実測できる場合）	最新活動面 （認定した場合）	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主なせん断面について複数点で測定する。	
-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート（D-1トレンチ　ふげん道路ピット下段__②層の記載）

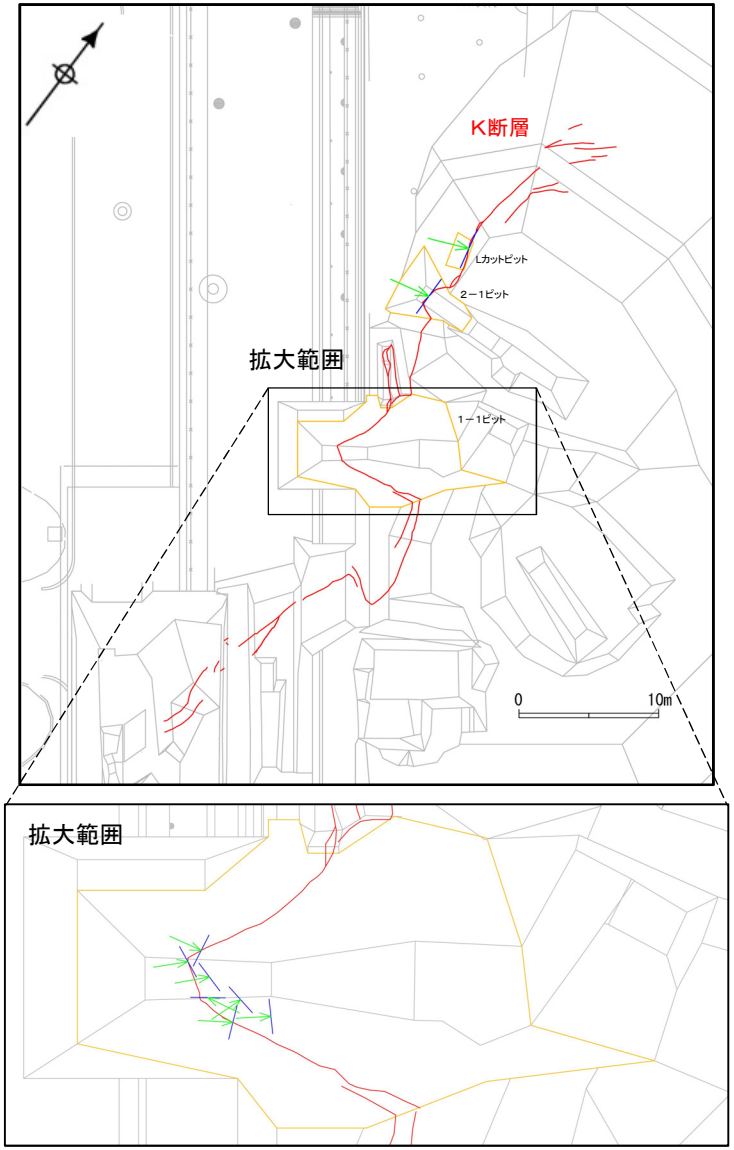
No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか？ ☑	適正化すべき記事内容 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	選定した記事内容	スケッチ原図（地層の性状に関する記事）から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 （スケッチ原図（地層の性状に関する記事）を適正化すべき記事内容としている場合は，それとの変更点）
スケッチ原図　ふげん道路ピット下段①　ふげん道路	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp亜角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト（灰白色(2.5Y7/1)）が分布する。 一部でラミナが発達する。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp亜角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト（灰白色(2.5Y7/1)）が分布する。 一部でラミナが発達する。	②層：礫・シルト混じり砂　灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり，径40cmの花崗斑岩亜角礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト　灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし，細粒砂が混じる。よく締まっている。	・含まれる礫の礫径は最大径（40cm）とした。 ・色調（灰白色）と，色調を示す記号（2.5Y7/12）が整合していない。法面写真を確認し，色調（灰白色）が正しく，色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図　ふげん道路ピット下段②　②層Ⅰ	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。		
スケッチ原図　ふげん道路ピット下段②　②層Ⅱ	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし，細粒砂が混じる。 ②層Ⅰ中に層状～レンズ状に多く挟まれて分布する。 よく締まっている。			

余白

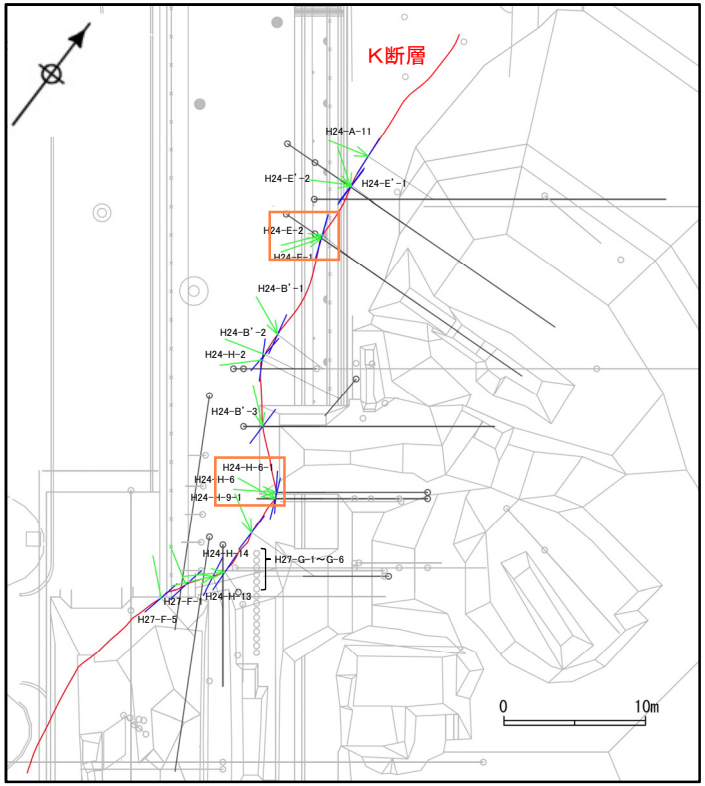
K断層の性状

修正前

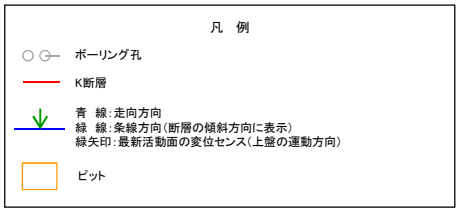
- 基盤岩中でK断層の走向・傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す（左図：ピット調査結果，右図：ボーリング調査結果）。
- K断層は，１－１ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが，大局的にはN-S走向，高角度西傾斜，最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破砕帯である。



K断層の確認箇所（ピット，地表面投影）



K断層の確認箇所（ボーリング，T.P.-15mに投影）

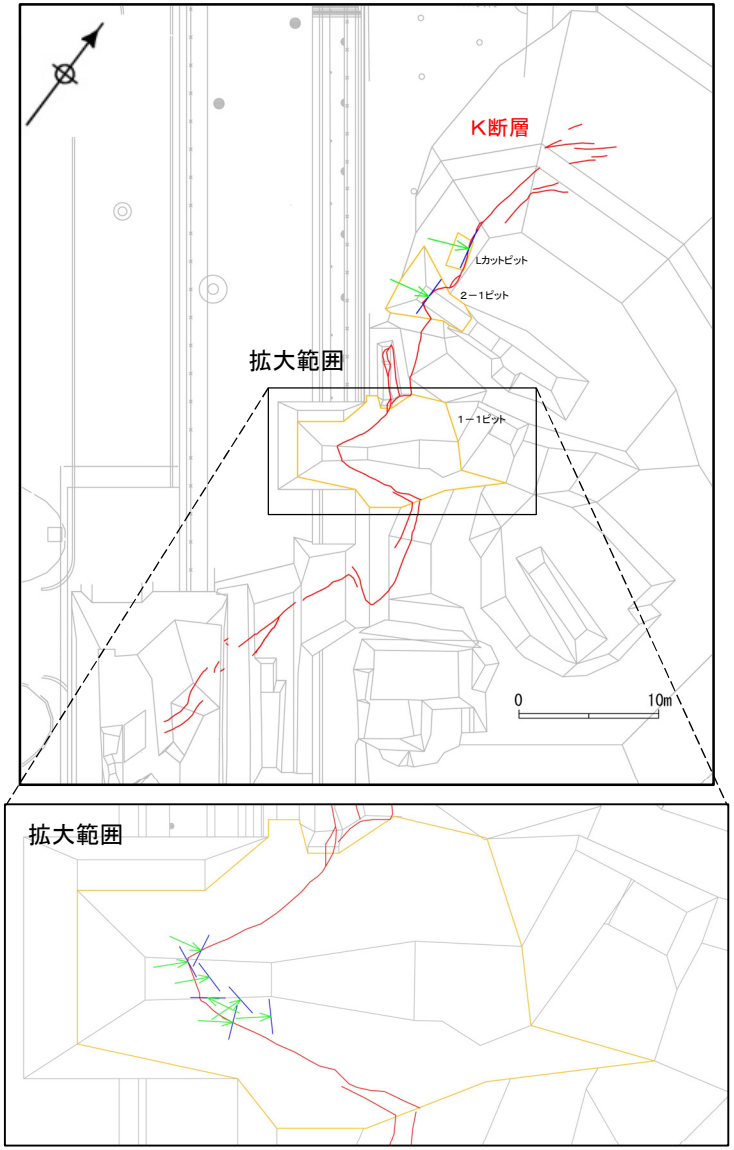


K断層の性状

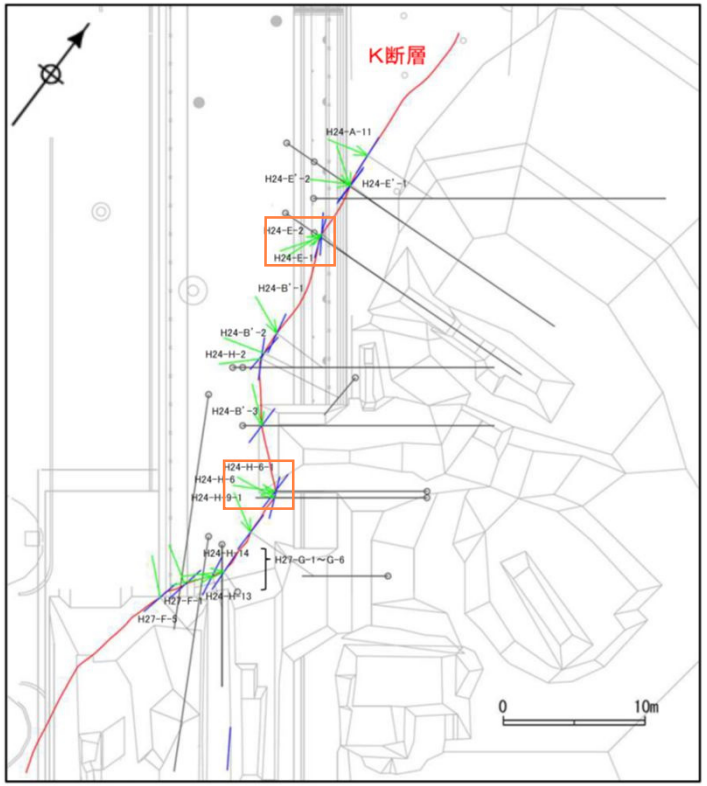
157:2～5，7,8の最新活動面深度及び走向・傾斜を修正した箇所を反映

修正後

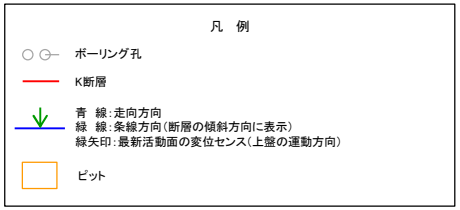
- 基盤岩中でK断層の走向･傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す（左図:ピット調査結果，右図:ボーリング調査結果）。
- K断層は，１－1ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが，大局的にはN-S走向，高角度西傾斜，最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破砕帯である。



K断層の確認箇所（ピット，地表面投影）



K断層の確認箇所（ボーリング，T.P.-15mに投影）



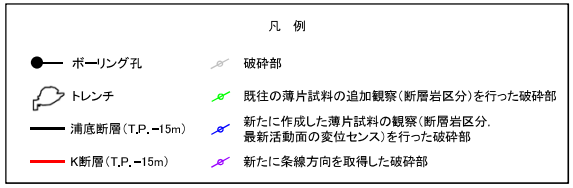
余白

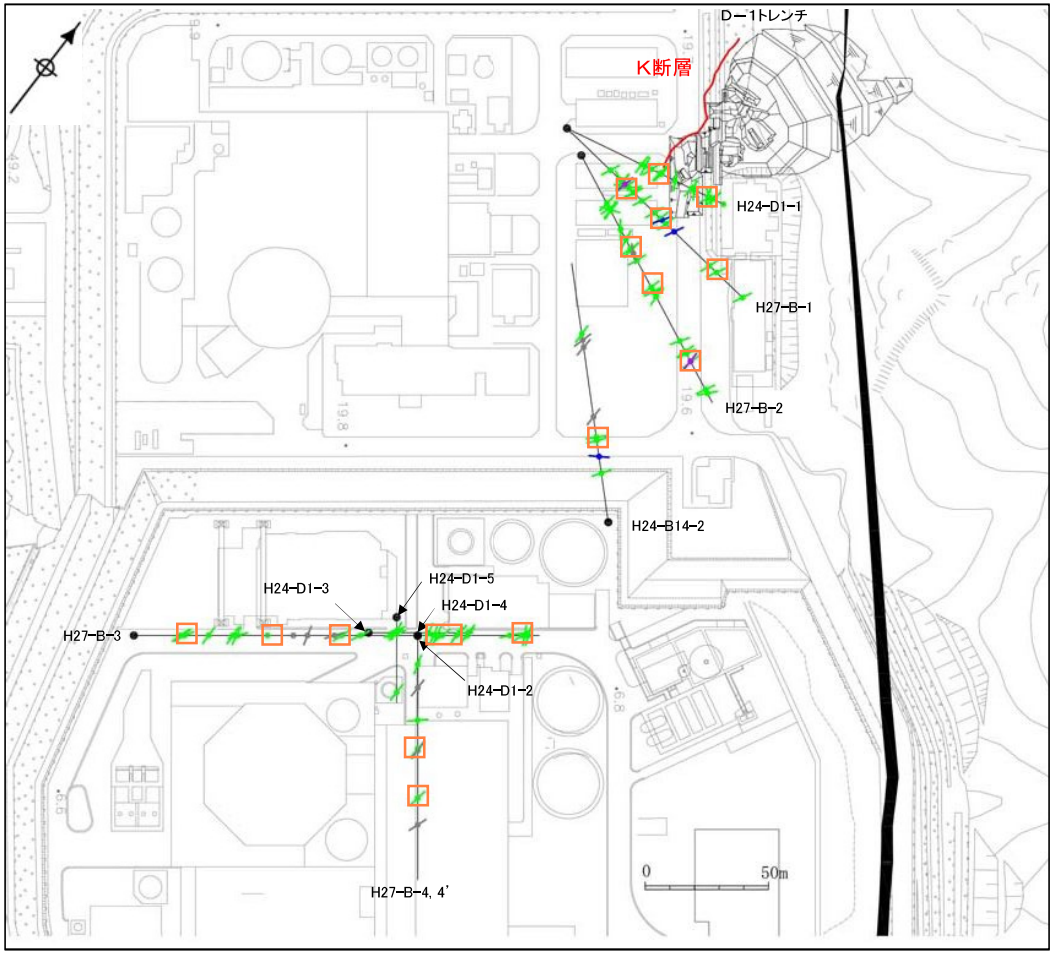
K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破砕部の性状を示すデータについては，K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから，追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には，①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破砕部のうち，薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分，②条線方向の追加データの取得，③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- なお，断層岩については，ボーリングコアの肉眼観察による区分を基本としているが，より詳細な観察データである薄片試料の観察結果も踏まえた区分を行った。

追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	【追加観察】 ②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破砕部について，条線方向の追加観察を実施
K断層南方の破砕部	【追加観察】 ①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破砕部について，薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施 【追加データの取得】 ②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破砕部について，データを追加 ③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破砕部について，データを追加





追加観察又は追加データを取得した破砕部

令和3年7月16日提出資料　本編資料
157（平面図・断面図）修正箇所：橙色枠

修正前

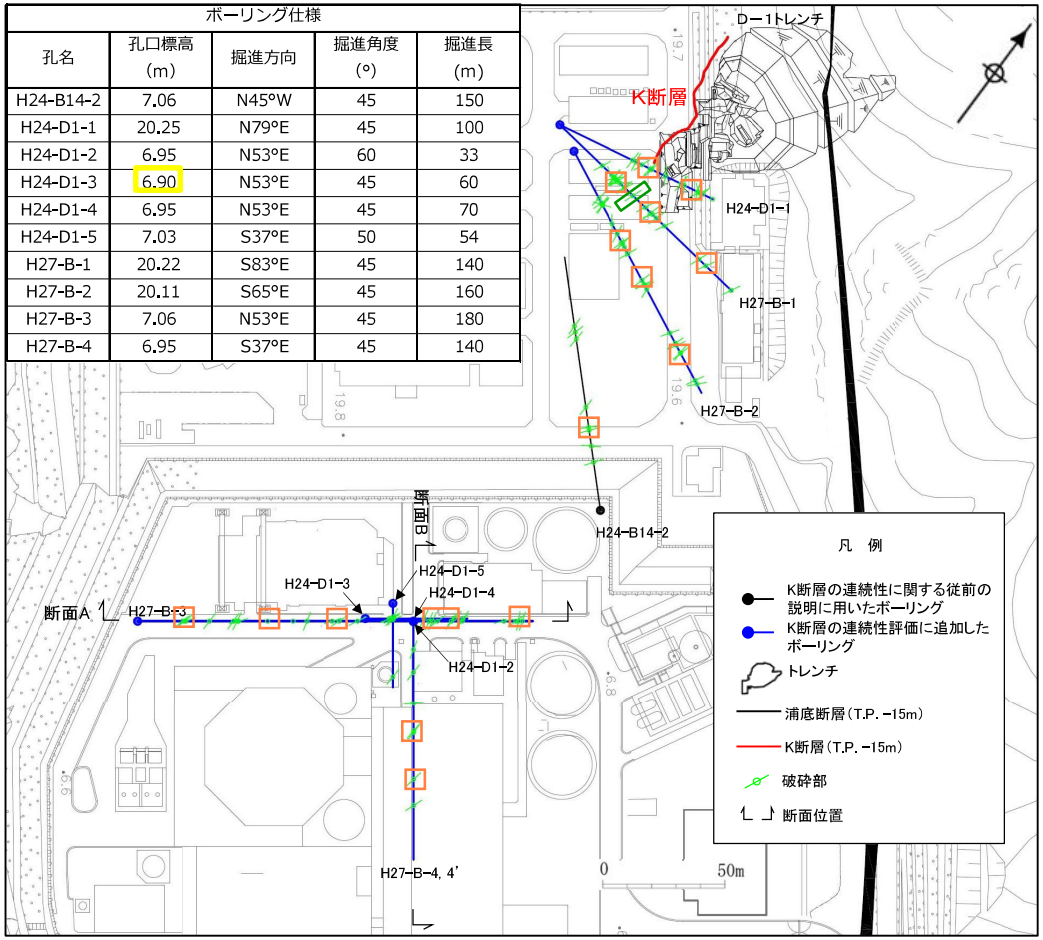
第833回審査会合
資料1　修正

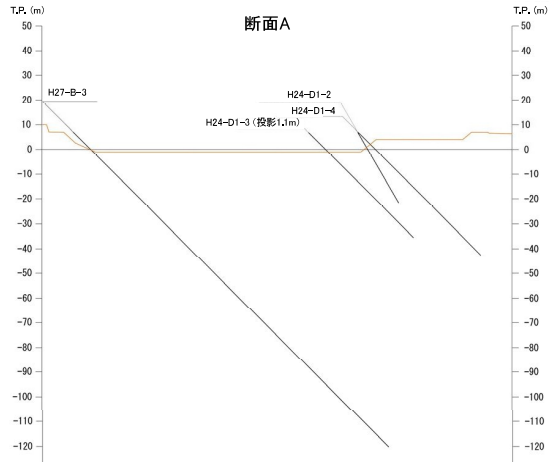
K断層の連続性評価に関する従前の説明からの追加データ

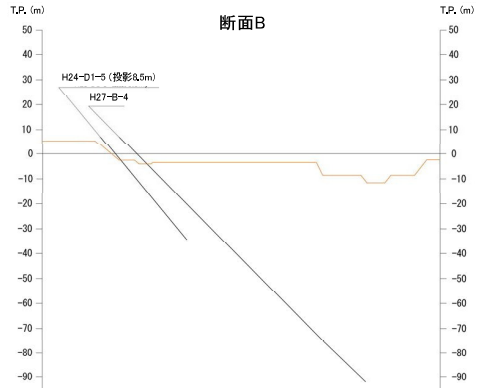
- 主要な論点の一つに「敷地内のD－1 トレンチ内に認められるK断層の活動性及び原子炉建屋直下を通過する破砕帯との連続性等の調査・評価結果を従前の説明に加えて申請時の最新知見に照らして説明すること。」がある。
- このうち，K断層の連続性評価については，従前の説明ではK断層と2号炉原子炉建屋等の重要施設の間を横断するH24-B14-2孔を代表させて，K断層の南方にはK断層の性状と類似する破砕部が無いことを示してきた（K断層とは性状が類似しないD-1破砕帯については，H24-D1-1～5孔の該当箇所を示してきた）。
- K断層の連続性に関する従前の説明に用いたデータに加え，K断層と重要施設の間に位置する10孔のボーリングのデータ（破砕部の走向・傾斜，断層ガウジ・断層角礫の有無，条線方向，最新活動面の変位センス）も踏まえたK断層の連続性検討結果を示す。

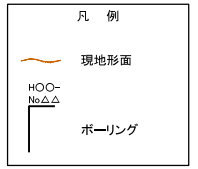
ボーリング仕様

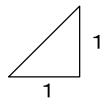
孔名	孔口標高 (m)	掘進方向	掘進角度 (°)	掘進長 (m)
H24-B14-2	7.06	N45°W	45	150
H24-D1-1	20.25	N79°E	45	100
H24-D1-2	6.95	N53°E	60	33
H24-D1-3	6.90	N53°E	45	60
H24-D1-4	6.95	N53°E	45	70
H24-D1-5	7.03	S37°E	50	54
H27-B-1	20.22	S83°E	45	140
H27-B-2	20.11	S65°E	45	160
H27-B-3	7.06	N53°E	45	180
H27-B-4	6.95	S37°E	50	140











水平・垂直比は1：1

K断層南方の調査位置および対象のボーリング仕様

K断層の連続性評価の考え方

157：K断層南方10孔の破砕部のうち，最新活動面深度及び走向・傾斜を修正した箇所を反映

修正後

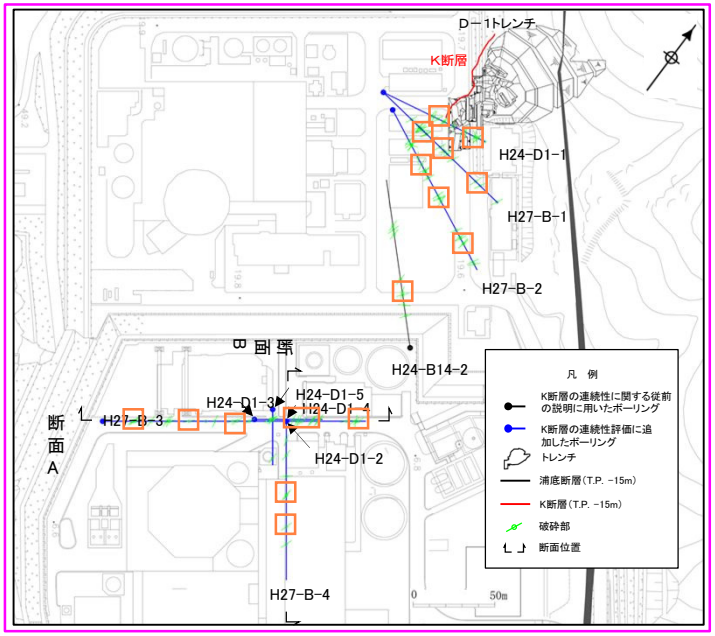
K断層の原子炉建屋直下方向への連続性を確認するための考え方を以下に示す。

敦賀発電所敷地内破砕部の連続性評価の考え方に基づく検討（方法1）

K断層についても，敦賀発電所敷地内破砕部の連続性評価の考え方に基づき，K断層が確認されているD-1トレンチに最も近いH24-D1-1孔の検討を実施する。

ボーリング仕様				
孔名	孔口標高（m）	掘進方向	掘進角度（°）	掘進長（m）
H24-B14-2	7.06	N45°W	45	150
H24-D1-1	20.25	N79°E	45	100
H24-D1-2	6.95	N53°E	60	33
H24-D1-3	6.90	N53°E	45	60
H24-D1-4	6.95	N53°E	45	70
H24-D1-5	7.03	S37°E	50	54
H27-B-1	20.22	S83°E	45	140
H27-B-2	20.11	S65°E	45	160
H27-B-3	7.06	N53°E	45	180
H27-B-4	6.95	S37°E	45	140

注：H27-B-4 孔には再掘削孔であるH27-B-4 ‘孔を含む



K断層南方の調査位置および対象のボーリング孔と仕様

K断層の連続性評価における更なる検討（方法2）

K断層の連続性評価においては，いずれかのボーリング孔において，K断層と類似する破砕部が存在しなかった場合においても，K断層に関する有識者会合での指摘(注)やK断層が短区間で屈曲する特徴を有していることを踏まえ，D-1トレンチに最も近いH24-D1-1孔の起点破砕部から走向・傾斜が±20°の範囲外の破砕部について検討を実施する。（方法2－①）

また，念のため，対象ボーリング孔で確認された全破砕部に関して，K断層の性状（K断層との走向・傾斜の差を含む）との比較を実施する。（方法2－②）

（注）評価書の総合評価：K断層の連続性については，D-1トレンチ及び原電道路ピットよりも南方へ連続している可能性があり，D-1破砕帯等，原子炉建屋直下を通過する破砕帯のいずれかと一連の構造である可能性が否定できない。

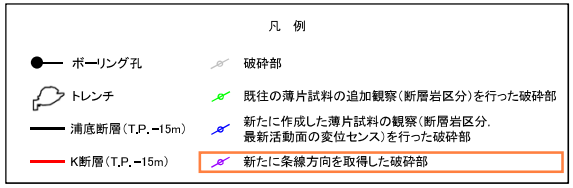
余白

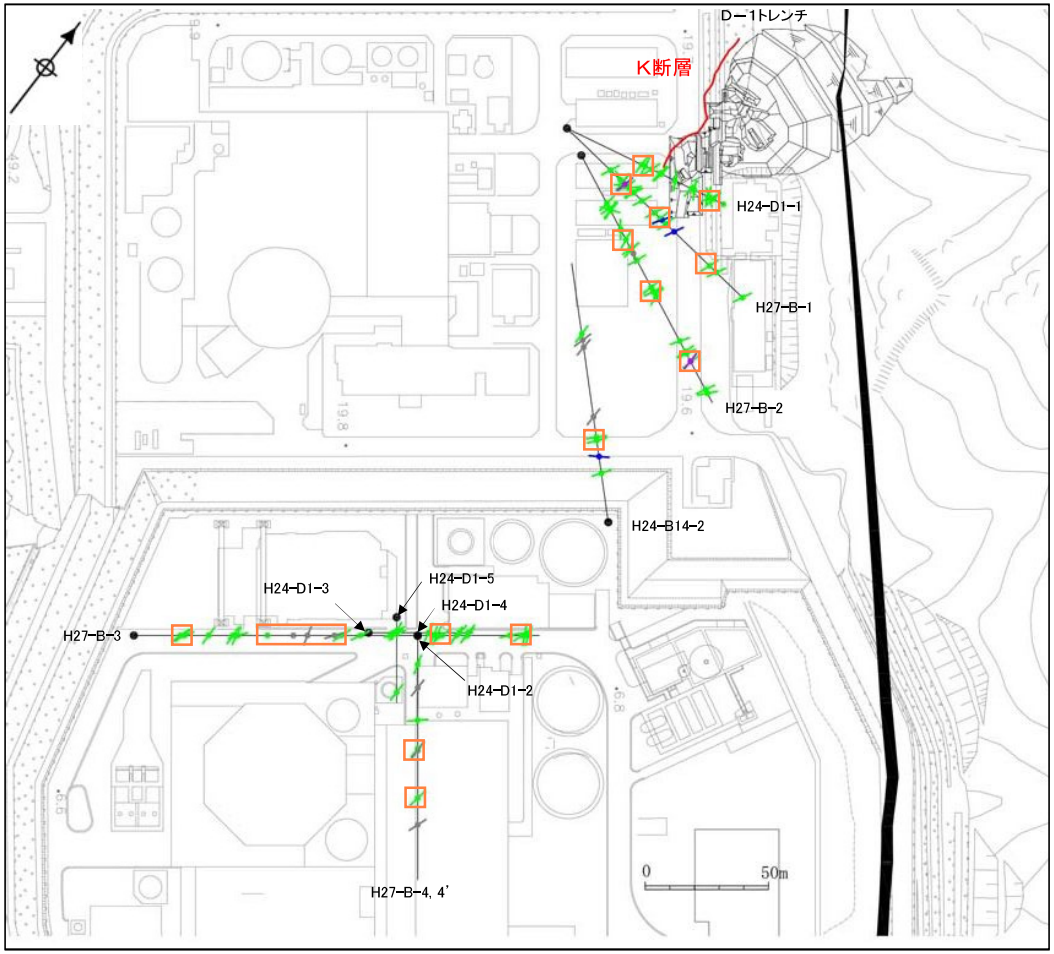
K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破砕部の性状を示すデータについては，K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから，追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には，①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破砕部のうち，薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分，②条線方向の追加データの取得，③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- なお，断層岩については，ボーリングコアの肉眼観察による区分を基本としているが，より詳細な観察データである薄片試料の観察結果も踏まえた区分を行った。

追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	【追加観察】 ②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破砕部について，条線方向の追加観察を実施
K断層南方の破砕部	【追加観察】 ①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破砕部について，薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施 【追加データの取得】 ②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破砕部について，データを追加 ③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破砕部について，データを追加





追加観察又は追加データを取得した破砕部

令和3年7月16日提出資料　本編資料
157（平面図・断面図）修正箇所：橙色枠

修正前

第833回審査会合
資料1　修正

K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破砕部の性状を示すデータについては，K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから，第833回審査会合までに追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には，①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破砕部のうち，薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分，②条線方向の追加データの取得，③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- 断層岩については，より詳細な観察データである薄片観察を実施している場合は，連続性評価には薄片観察による評価を用いることとした。
- また，今回，追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。

第833回審査会合までに実施した 追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	【追加観察】 ②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破砕部について，条線方向の追加観察を実施
K断層南方の破砕部	【追加観察】 ①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破砕部について，薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施 【追加データの取得】 ②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破砕部について，データを追加 ③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破砕部について，データを追加

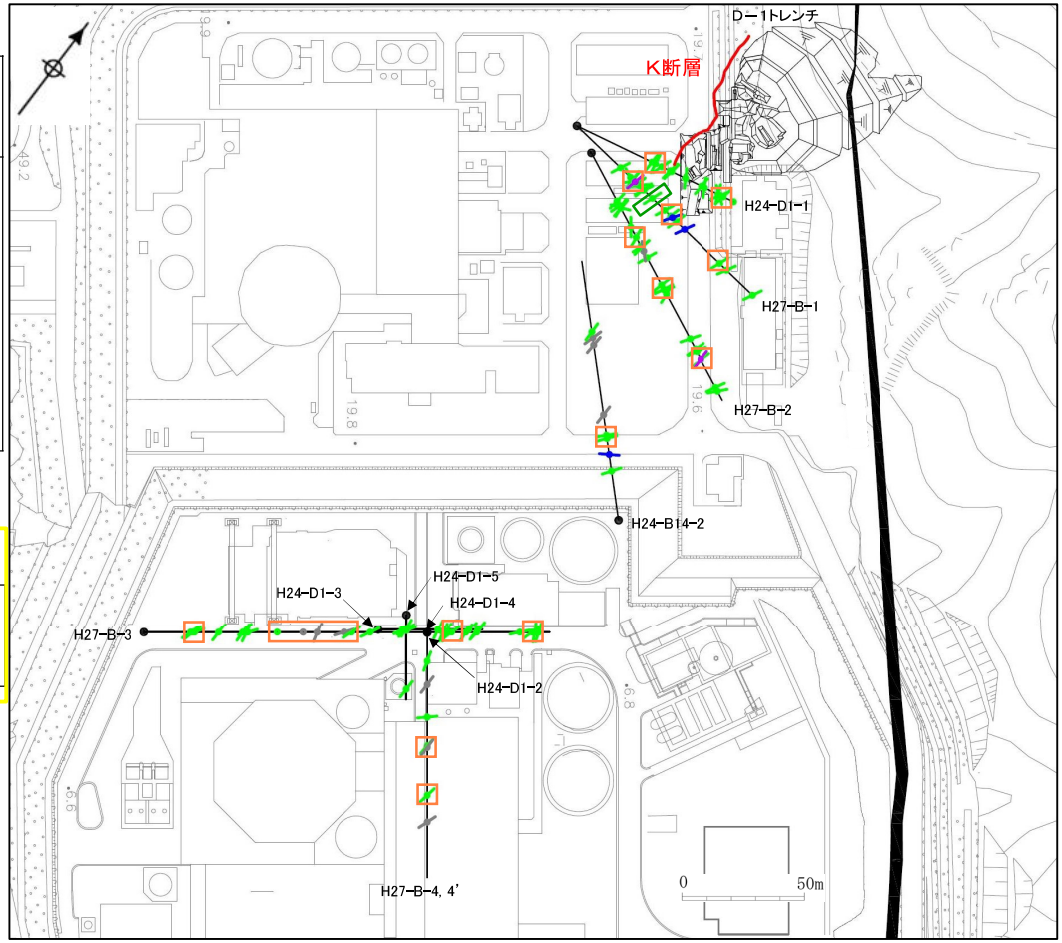
今回実施した追加観察の内容

K断層及びK断層南方の破砕部	【追加観察】 ④断層岩区分：追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分を実施

凡　例

- ボーリング孔
- トレンチ
- 浦底断層（T.P.−15m）
- K断層（T.P.−15m）
- 肉眼観察による断層岩区分を行った破砕部
- 既往の薄片試料の追加観察（断層岩区分）を行った破砕部（※）
- 第833回審査会合までに新たに作成した薄片試料の観察（断層岩区分，最新活動面の変位センス）を行った破砕部（※）
- 第833回審査会合までに新たに条線方向を取得した破砕部

※ 今回，追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。



追加観察又は追加データを取得した破砕部

修正後

K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

• K断層及びK断層南方の破砕部の性状を示すデータについては，K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから，追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。

157：K断層南方10本の破砕部のうち，
最新活動面深度及び走向・傾斜が変更になった箇所，
新たに薄片観察を行った箇所（薄片追加作製）を反映

第833回審査会合までに実施した
追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	【追加観察】 ②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破砕部について，条線方向の追加観察を実施
K断層南方の破砕部	【追加観察】 ①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破砕部について，薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施 【追加データの取得】 ②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破砕部について，データを追加 ③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破砕部について，データを追加

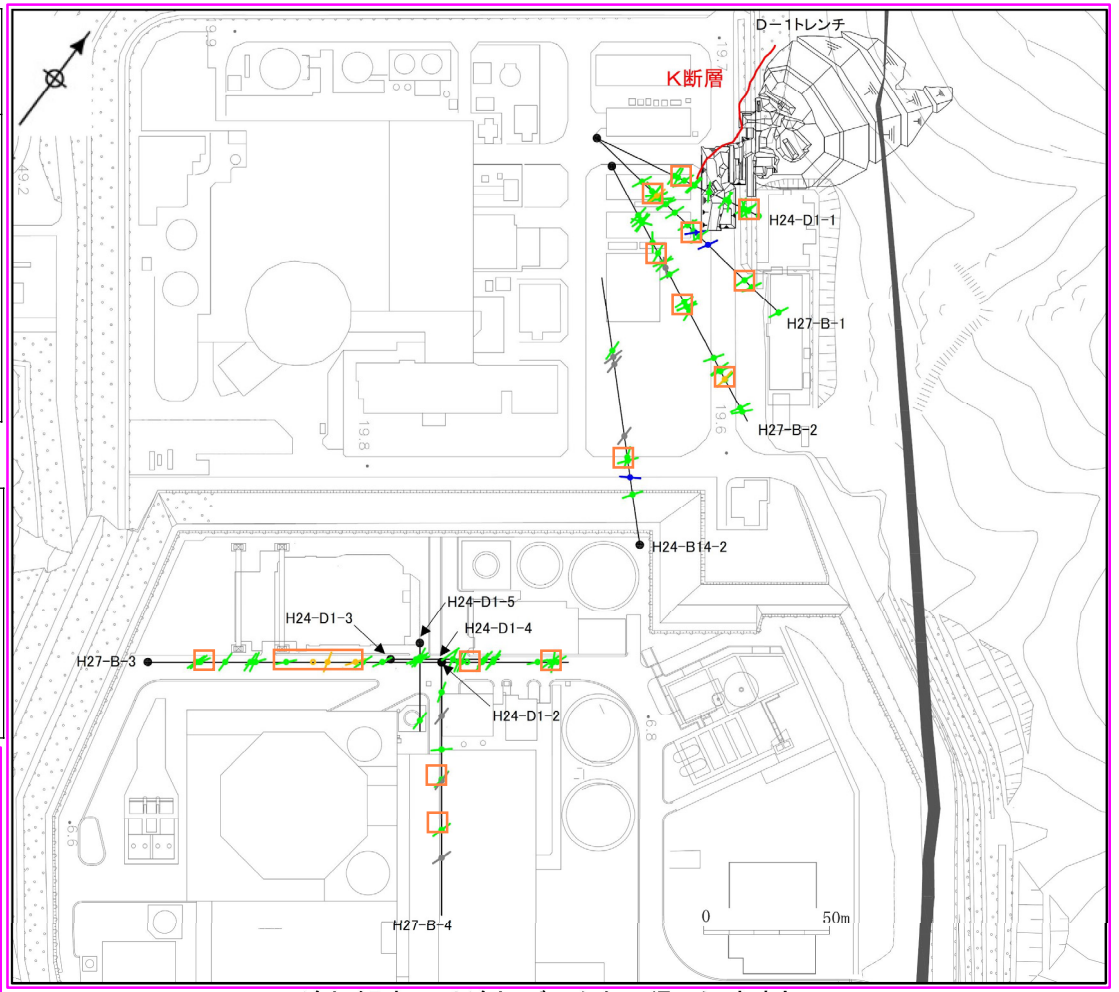
今回実施した追加観察の内容

K断層及びK断層南方の破砕部	【追加観察】 ④断層岩区分：追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分を実施 【追加データの取得】 ⑤最新活動面の変位センス及び断層岩区分：肉眼観察で断層ガウジと評価された破砕部のうち，最新活動面の変位センスや断層岩区分を取得していなかった破砕部について薄片試料を作製し，データを追加

凡　例

- ボーリング孔
- トレンチ
- 浦底断層（T.P. −15m）
- K断層（T.P. −15m）
- 肉眼観察による断層岩区分を行った破砕部
- 既往の薄片試料の追加観察（断層岩区分）を行った破砕部（※）
- 第833回審査会合までに新たに作成した薄片試料の観察（断層岩区分，最新活動面の変位センス）を行った破砕部（※）
- 第833回審査会合以降に新たに薄片観察（断層岩区分，最新活動面の変位センス）を行った破砕部

※ 追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。



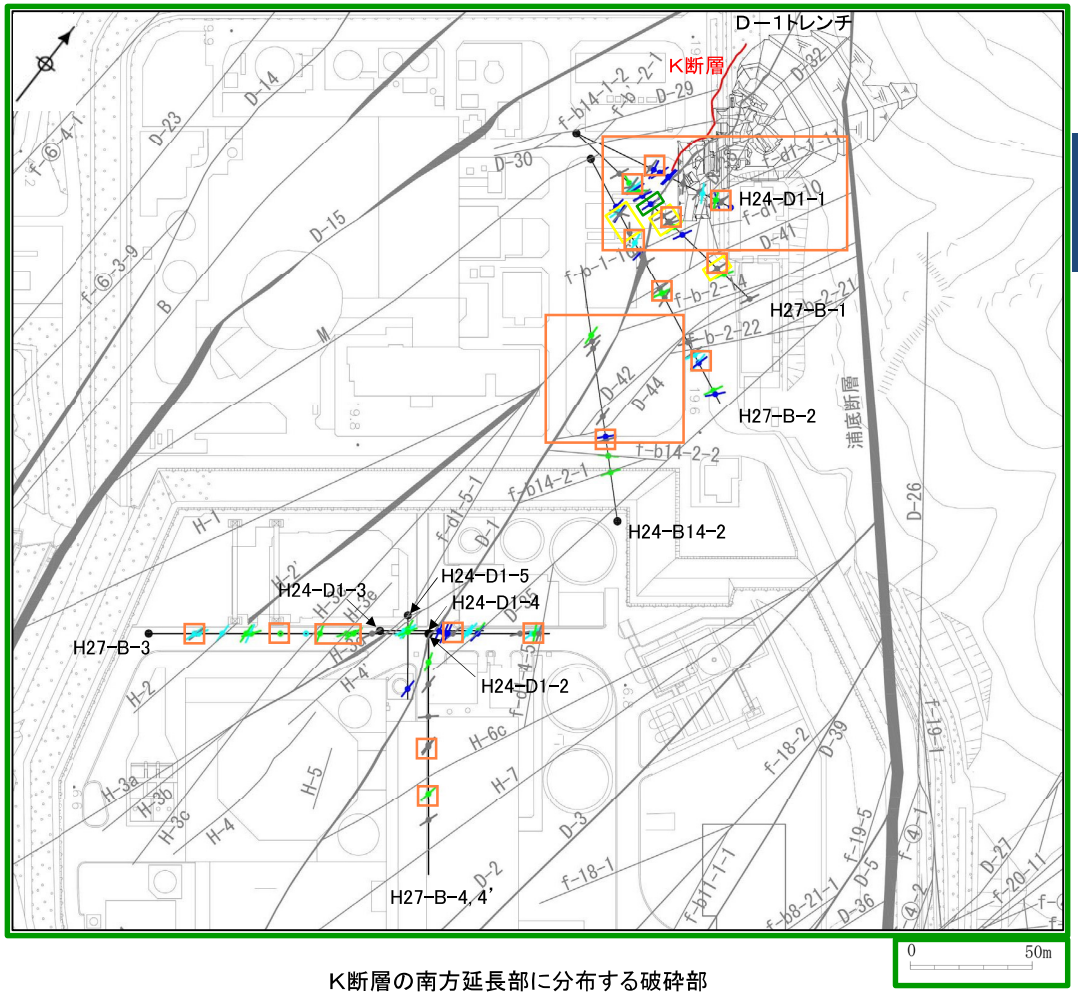
追加観察又は追加データを取得した破砕部

令和3年7月16日提出資料　本編資料
48～51，76，157（平面図・断面図）
修正箇所：橙色枠

修正前
第833回審査会合
資料1　修正

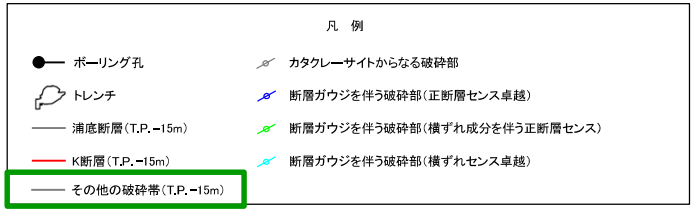
K断層の連続性評価結果

- K断層は，D-1トレンチの北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において連続して認められる。
- K断層の変位・変形量は，南方（ふげん道路ピット）に向かって減少している。
- 従前の説明から拡充したデータ（全10孔のボーリングデータ）も含め連続性を検討した結果，K断層南方の破砕部には，K断層の性状（N-S走向，高角度西傾斜，断層ガウジを伴う逆断層センス卓越）と類似するものは無い。
- 以上のことから，複数の観点から総合的に判断した結果，K断層はK断層南方の破砕部とは連続しないと判断される。



K断層の南方延長部に分布する破砕部

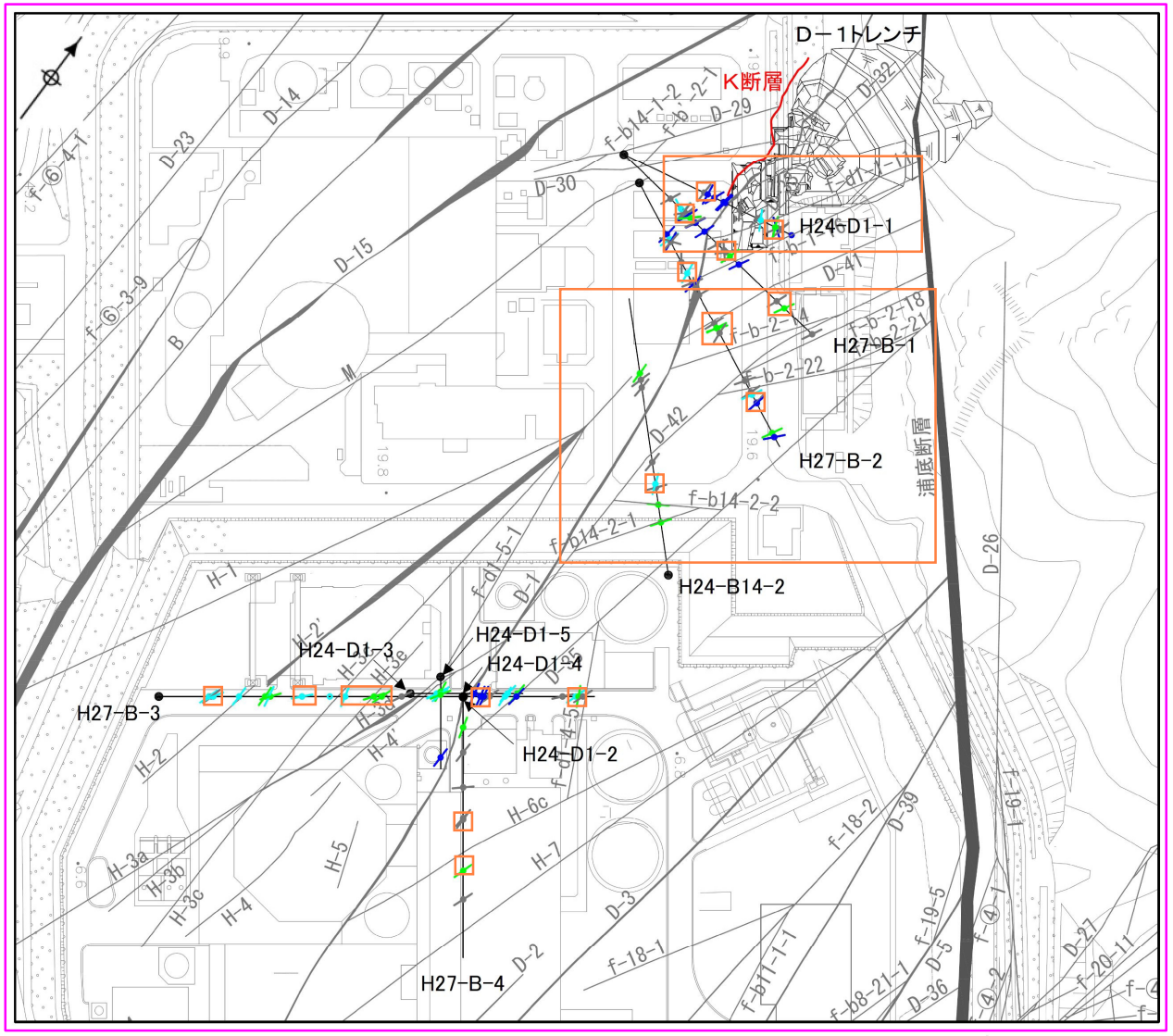
K断層はD-1トレンチより南方に連続せず，重要施設直下に連続しないことから4条対象破砕帯であると判断される。



K断層の連続性評価結果(2/2)

48～51，76，157：走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い，関連する周辺破砕帯の分布を修正（具体的には，後掲の拡大図に記載）。

修正後



K断層の南方延長部に分布する破砕部

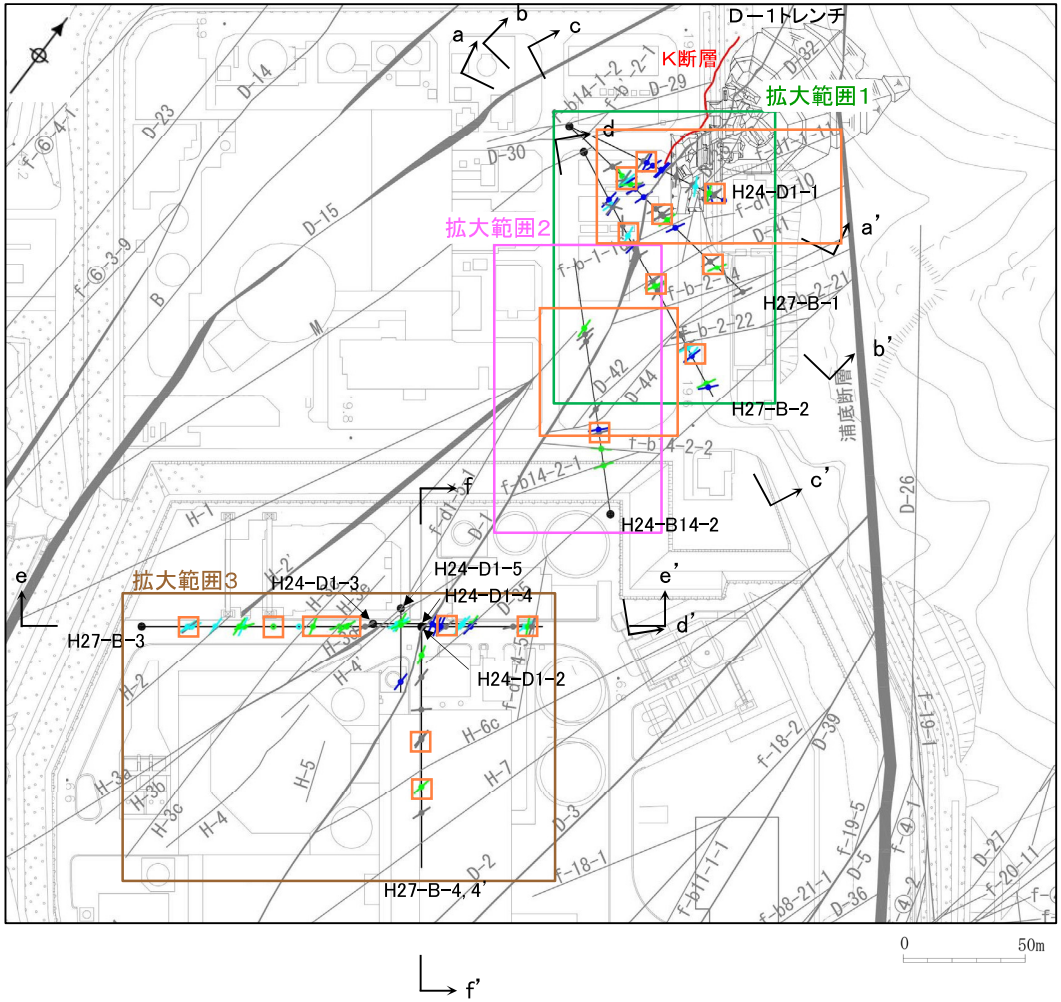
凡 例

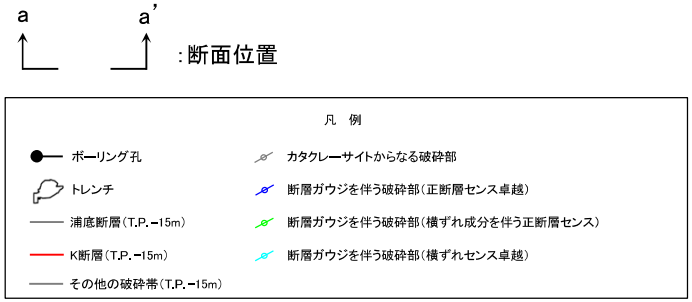
- ボーリング孔
- トレンチ
- 浦底断層（T.P. -15m）
- K断層（T.P. -15m）
- その他の破砕帯（T.P. -15m）
- カタクレーサイトからなる破砕部
- 断層ガウジを伴う破砕部（正断層センス卓越）
- 断層ガウジを伴う破砕部（横ずれ成分を伴う正断層センス）
- 断層ガウジを伴う破砕部（横ずれセンス卓越）

平面拡大範囲と断面位置

修正前

・K断層南方のボーリングの平面拡大範囲及び断面位置を示す。





拡大範囲及び断面位置図

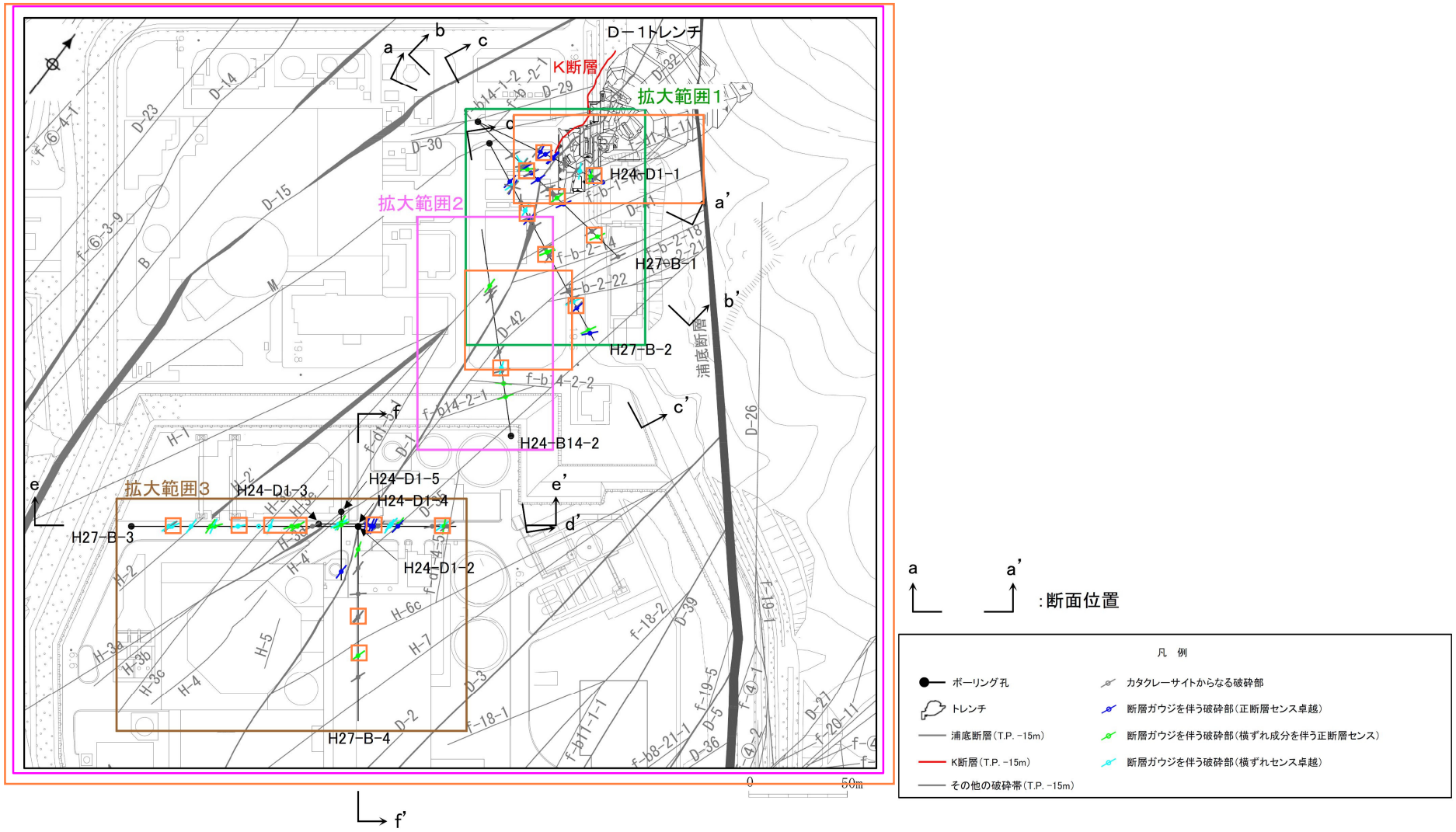
192

K断層の連続性評価について
平面拡大範囲と断面位置

48～51，76，157：走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い，関連する周辺破砕帯の分布を修正（具体的には，後掲の拡大図に記載）。

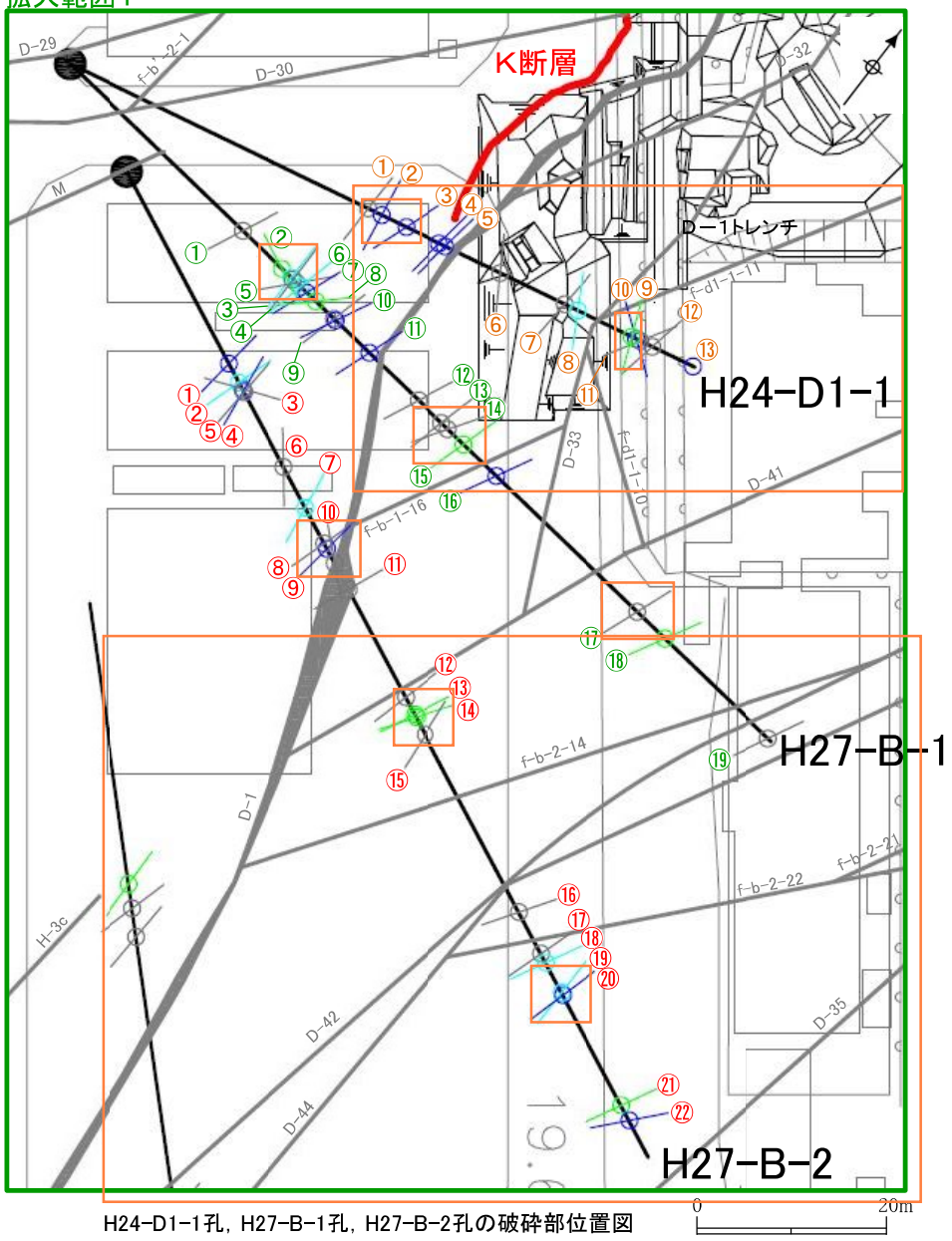
修正後

・K断層南方のボーリングの平面拡大範囲及び断面位置を示す。

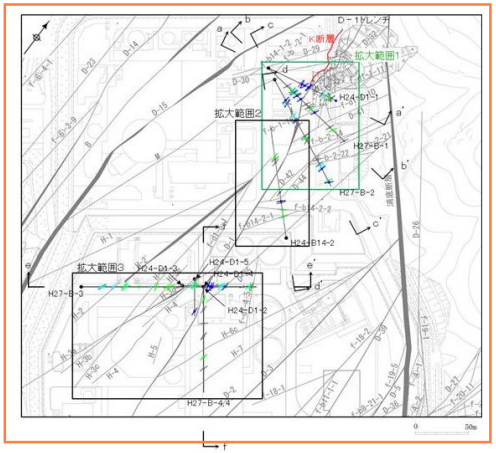


拡大範囲及び断面位置図

拡大範囲1



H24-D1-1孔，H27-B-1孔，H27-B-2孔の破砕部位置図



平面拡大範囲図

①：破砕部番号（H24-D1-1孔）
①：破砕部番号（H27-B-1孔）
①：破砕部番号（H27-B-2孔）

凡　例

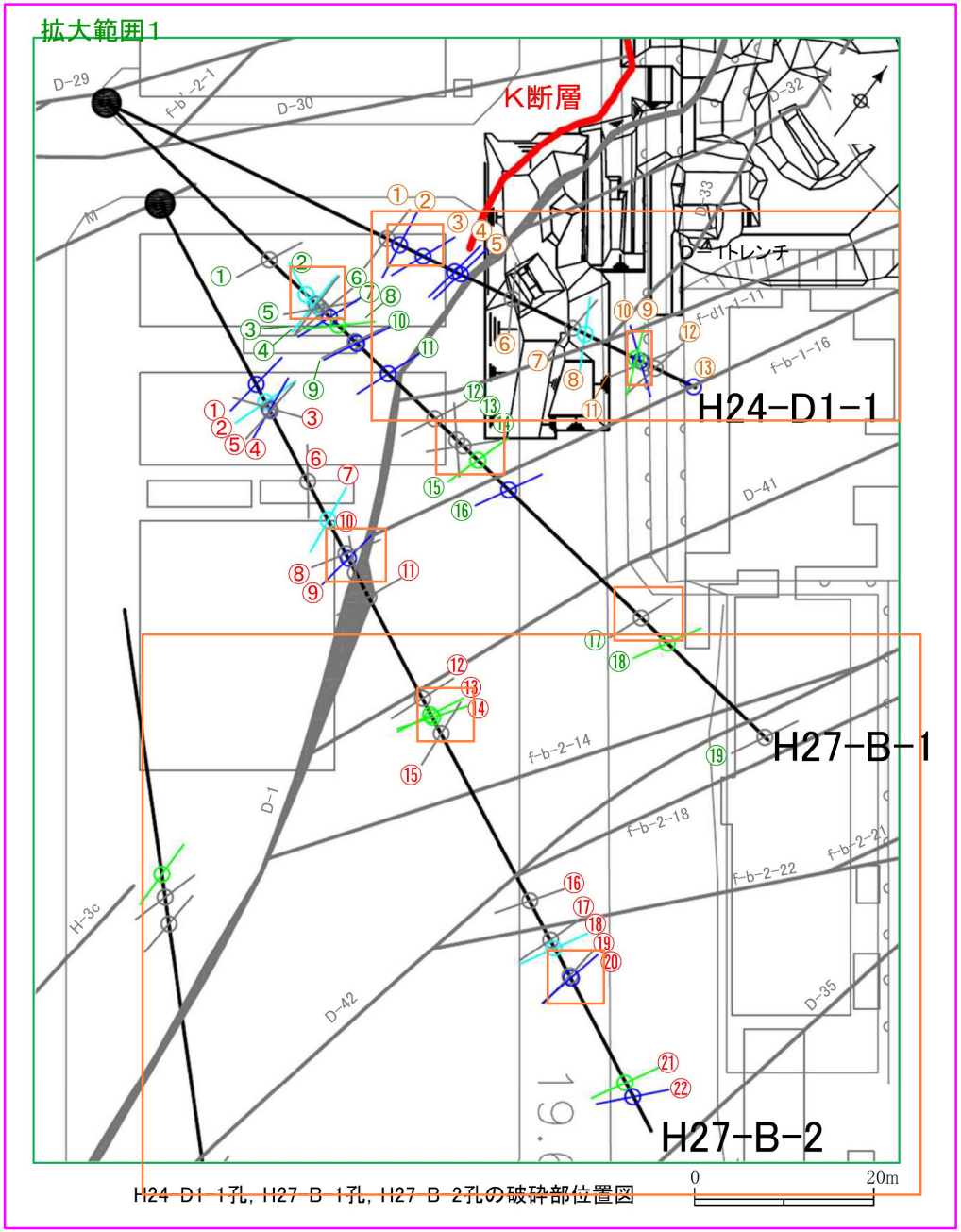
- ボーリング孔
- 破砕帯（T.P.－15m）
- K断層（T.P.－15m）
- カタクレーサイトからなる破砕部
- 断層ガウジを伴う破砕部（正断層センス卓越）
- 断層ガウジを伴う破砕部（横ずれ成分を伴う正断層センス）
- 断層ガウジを伴う破砕部（横ずれセンス卓越）

193

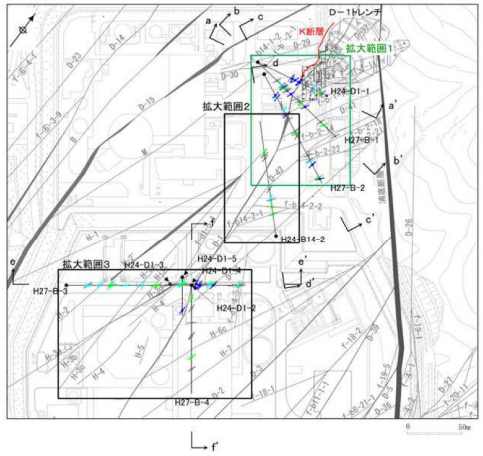
K断層の連続性評価について

48～51，76，157：走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い，関連する周辺破砕帯の分布を修正。
・f-d1-1-11，D-33，f-b-1-16，f-d1-1-10
・D-44→f-b-2-18，

修正後



H24-D1-1孔，H27-B-1孔，H27-B-2孔の破砕部位置図



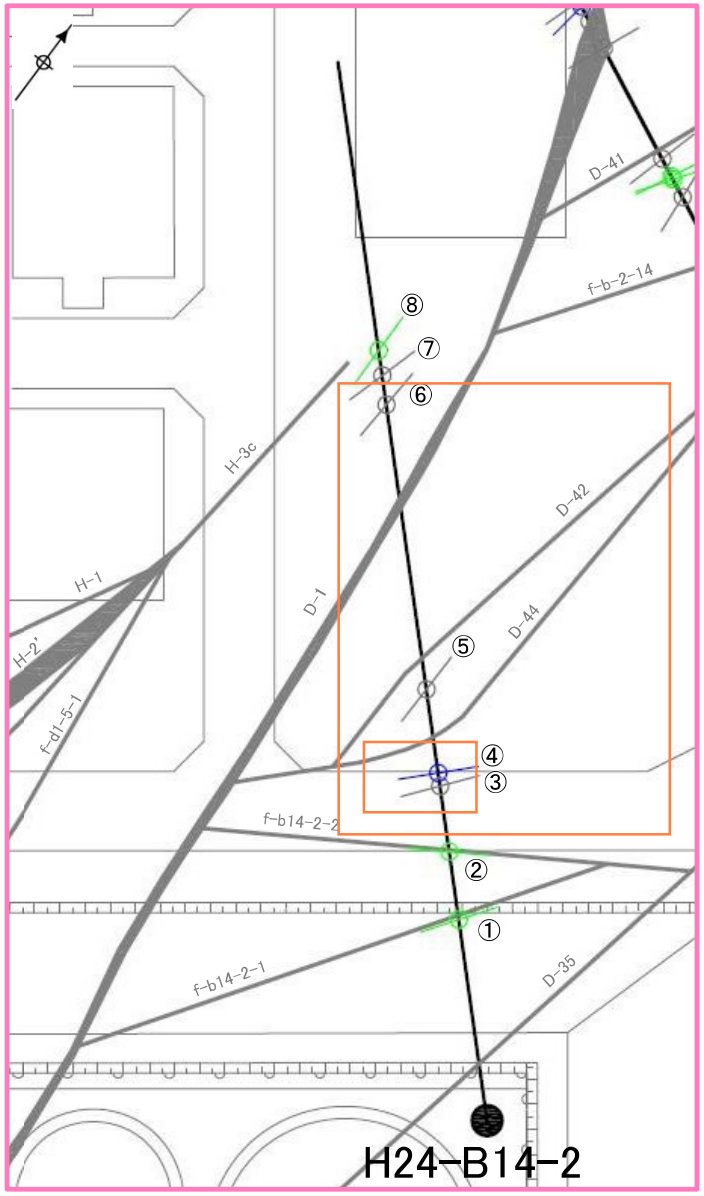
平面拡大範囲図

①：破砕部番号（H24-D1-1孔）
①：破砕部番号（H27-B-1孔）
①：破砕部番号（H27-B-2孔）

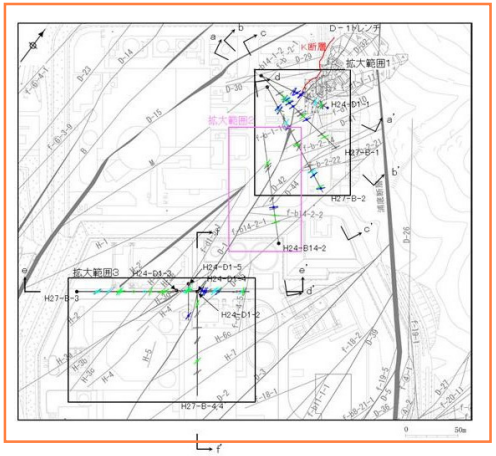
凡　例

- ボーリング孔
- 破砕帯（T.P. -15m）
- K断層（T.P. -15m）
- カタクレーサイトからなる破砕部
- 断層ガウジを伴う破砕部（正断層センス卓越）
- 断層ガウジを伴う破砕部（横ずれ成分を伴う正断層センス）
- 断層ガウジを伴う破砕部（横ずれセンス卓越）

拡大範囲2



H24-B14-2孔の破砕部位置図



平面拡大範囲図

①：破砕部番号

凡　例

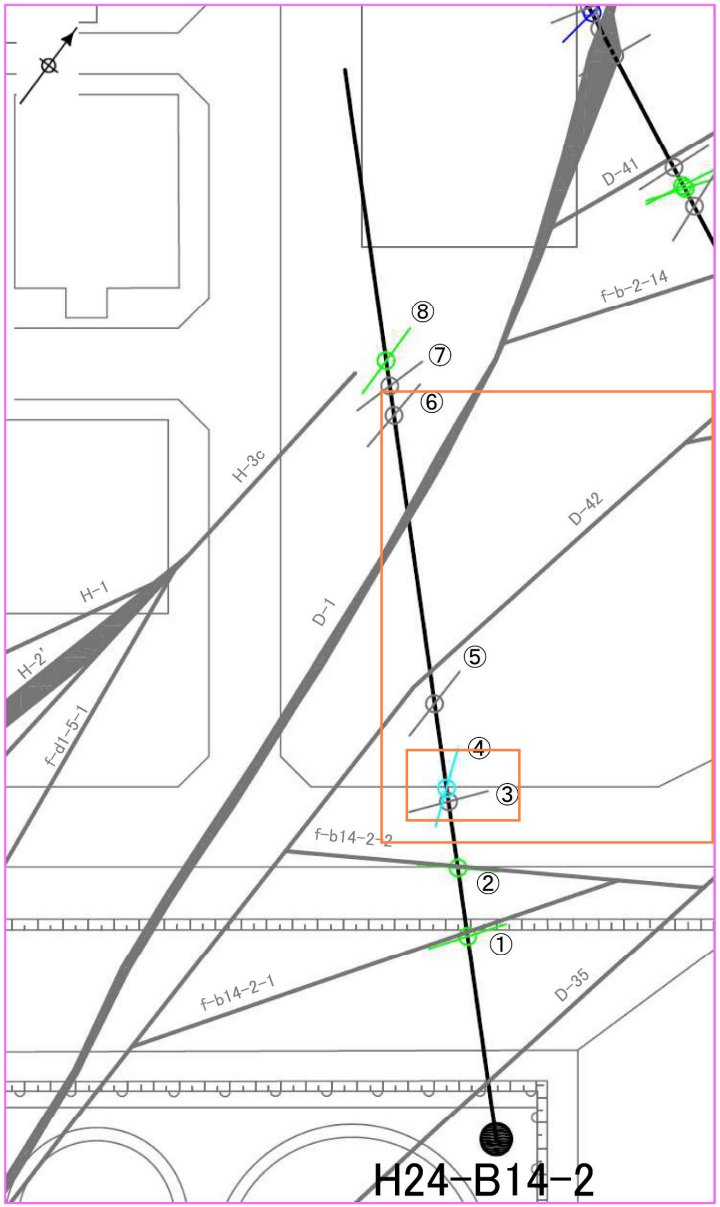
ボーリング孔	カタクレーサイトからなる破砕部
破砕帯（T.P.－15m）	断層ガウジを伴う破砕部（正断層センス卓越）
	断層ガウジを伴う破砕部（横ずれ成分を伴う正断層センス）
	断層ガウジを伴う破砕部（横ずれセンス卓越）

K断層の連続性評価について

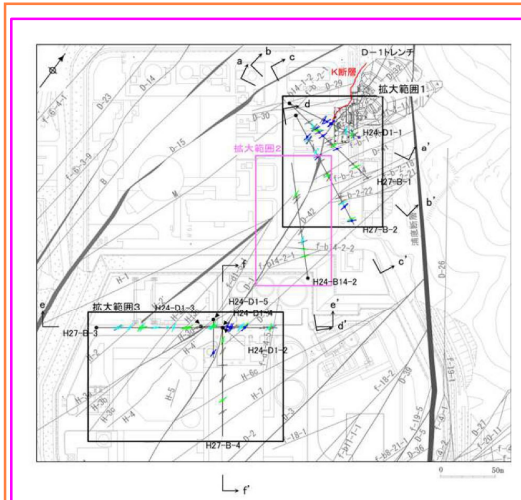
76，157：走向・傾斜等の修正内容
を反映。これに伴い，関連する周辺破砕帯の分布を修正。
・D-44の分布を修正

修正後

拡大範囲2



H24-B14-2孔の破砕部位置図



平面拡大範囲図

①:破砕部番号

凡　例

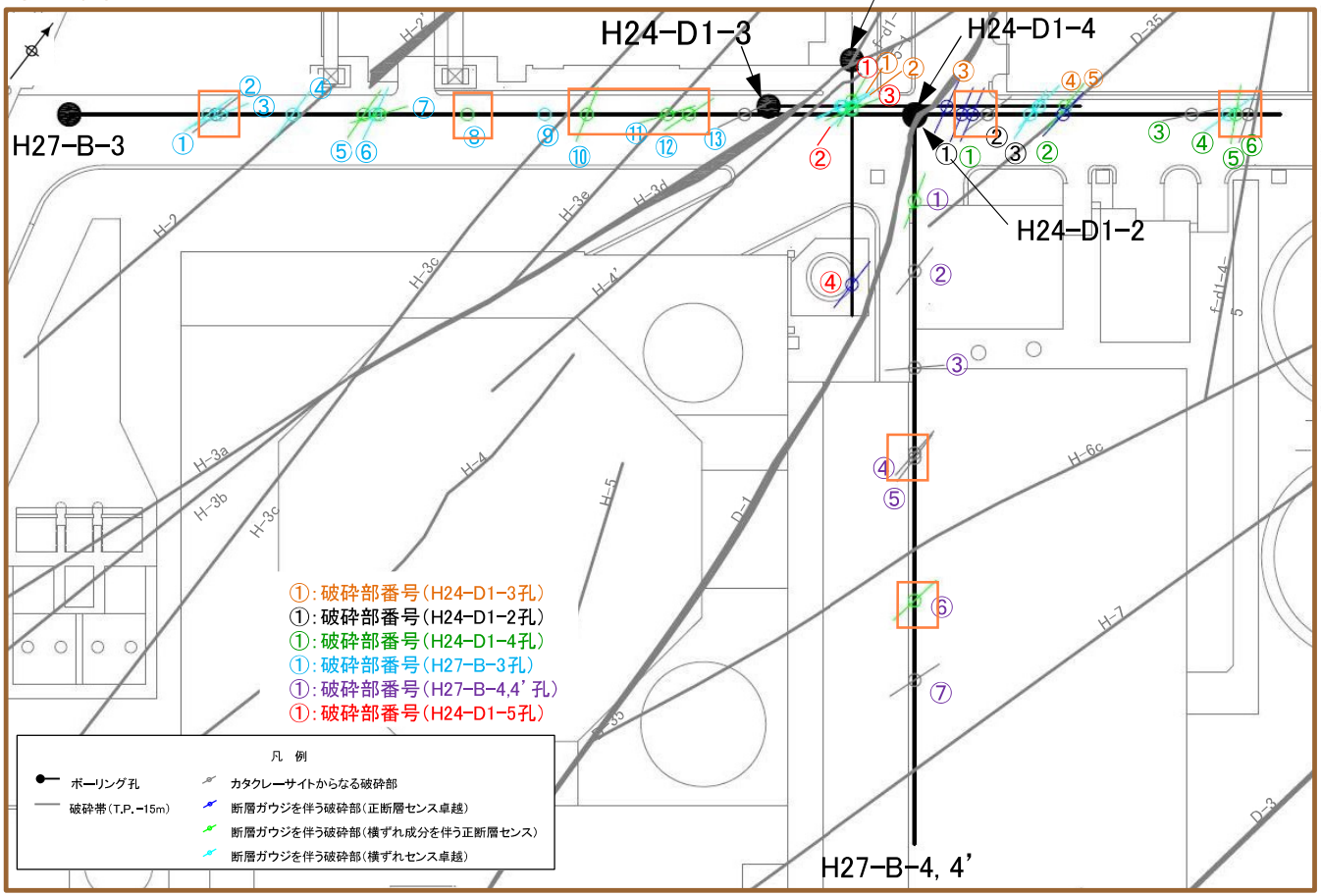
- ボーリング孔
- 破砕帯(T.P. -15m)
- カタクレーサイトからなる破砕部
- 断層ガウジを伴う破砕部(正断層センス卓越)
- 断層ガウジを伴う破砕部(横ずれ成分を伴う正断層センス)
- 断層ガウジを伴う破砕部(横ずれセンス卓越)

令和3年7月16日提出資料　本編資料

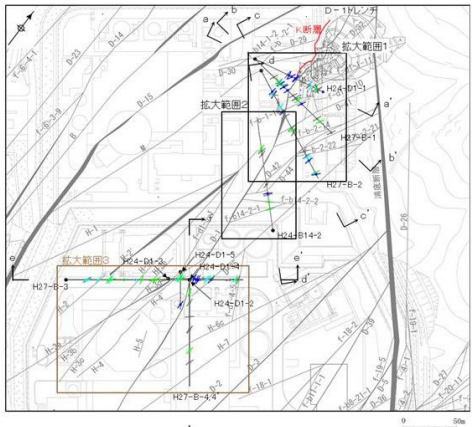
157（平面図・断面図）
修正箇所：橙色枠

修正前

拡大範囲3



H24-D1-2～5孔，H27-B-3孔，H27-B-4，4'孔の破砕部位置図

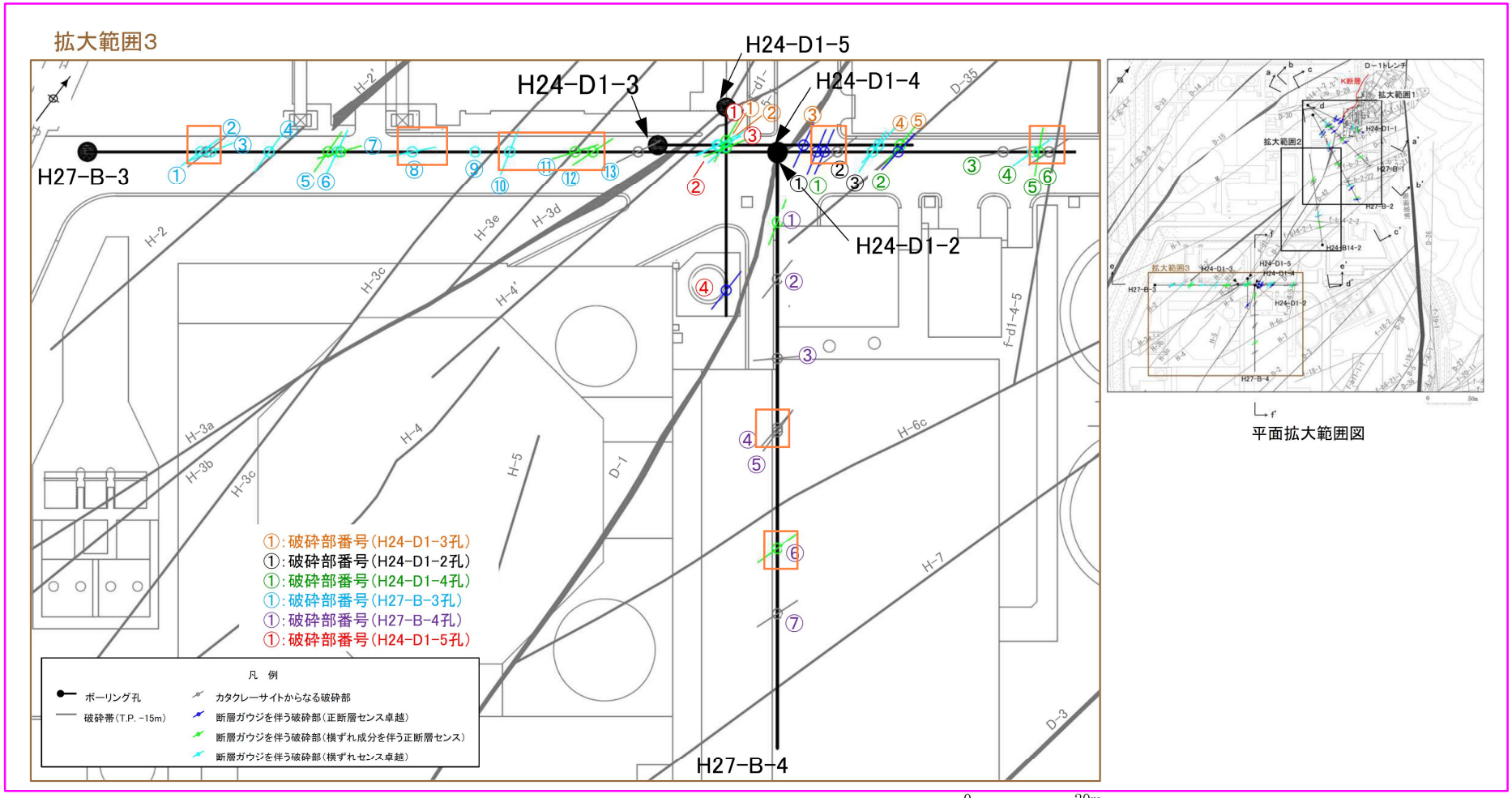


平面拡大範囲図

199

K断層の連続性評価について

157：走向・傾斜等の修正内容を反映　修正後

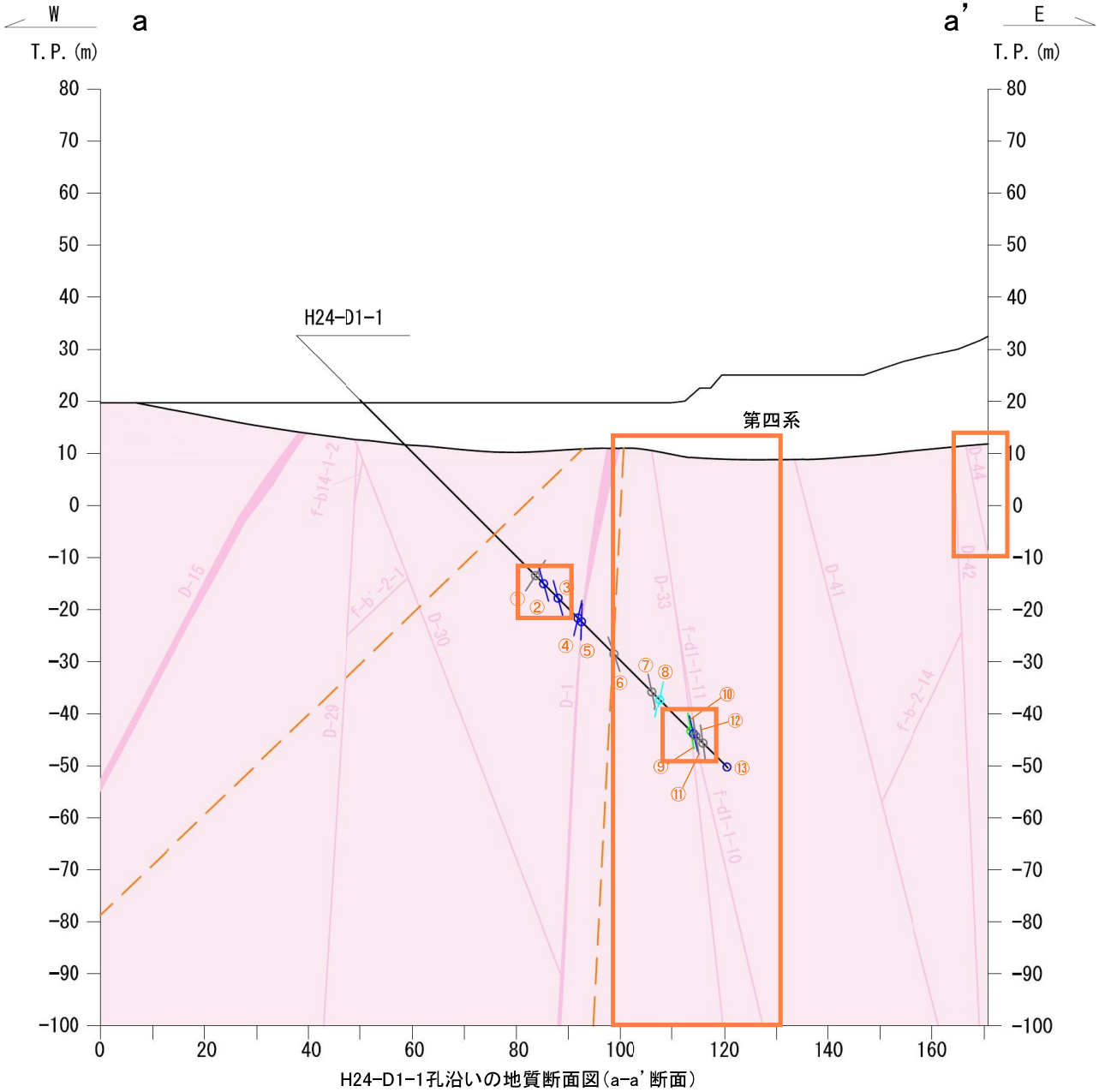


平面拡大範囲図

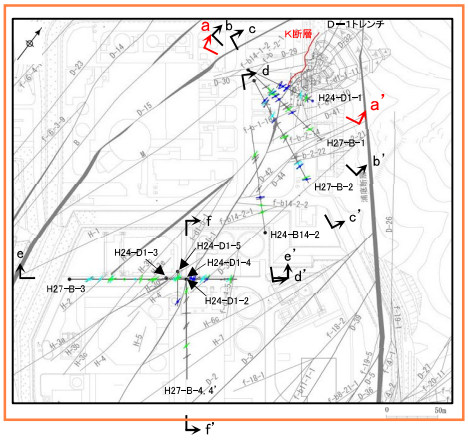
H24-D1-2～5孔，H27-B-3孔，H27-B-4，4’孔の破砕部位置図

令和3年7月16日提出資料　本編資料
48～51，76，157（平面図・断面図）
修正箇所：橙色枠

修正前



H24-D1-1孔沿いの地質断面図（a-a'断面）



断面位置図

凡　例

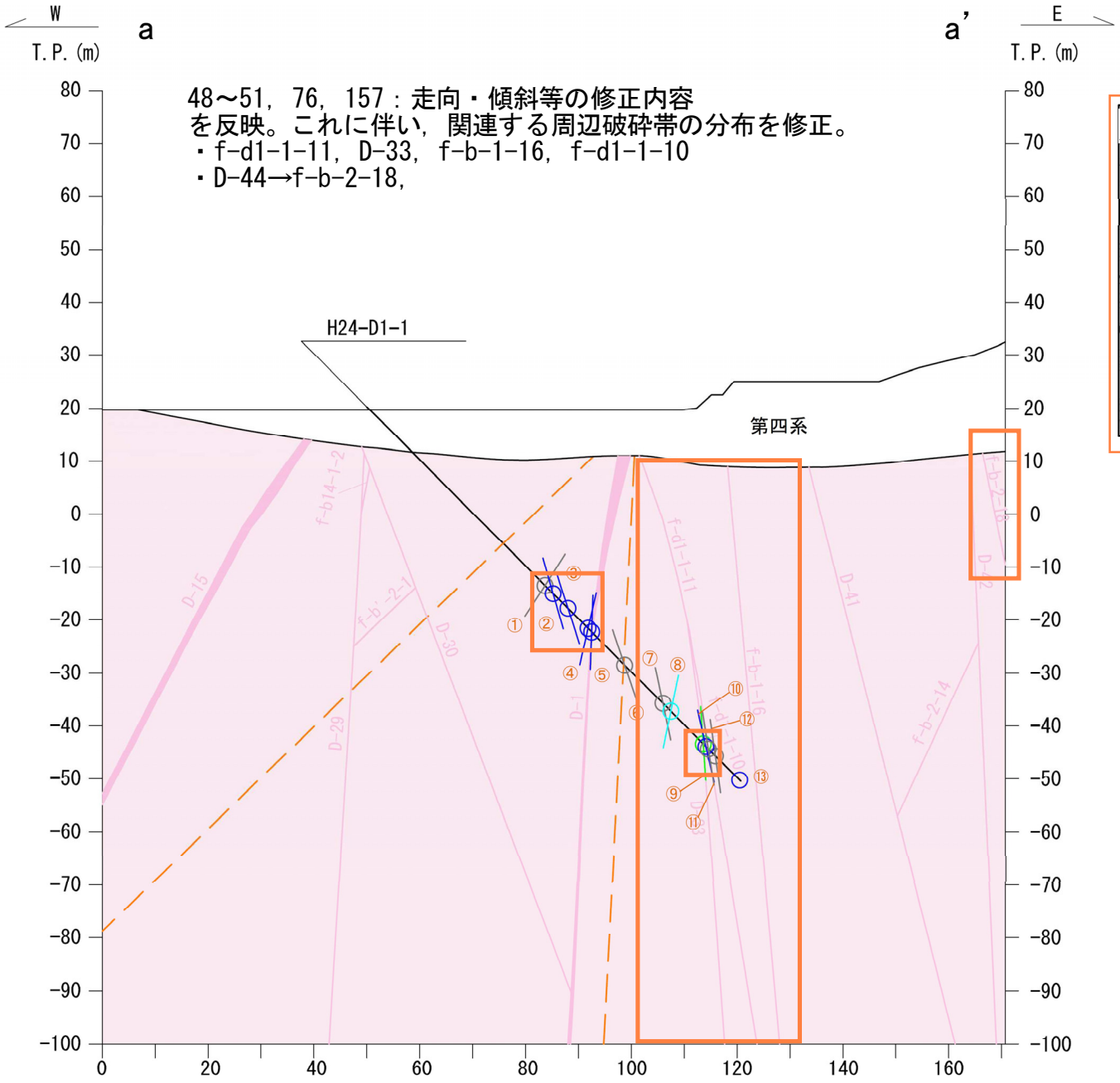
- H24-D1-1：ボーリング孔
- ：地質境界
- D-1：破砕帯
- ：K断層の連続性検討範囲（ふげん道路ピットにおけるK断層の走向・傾斜（N5W67W）から±20°の範囲）
- ：第四系
- ：基盤岩
- ①：破砕部番号
- ：カタクレーサイトからなる破砕部
- ：断層ガウジを伴う破砕部（正断層センス卓越）
- ：断層ガウジを伴う破砕部（横ずれ成分を伴う正断層センス）
- ：断層ガウジを伴う破砕部（横ずれセンス卓越）

注：破砕部の短線の傾きは見かけの傾斜を示す
水平・鉛直比は1：1

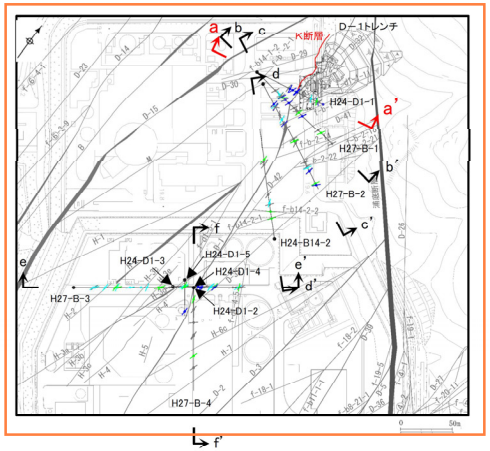
194

修正後

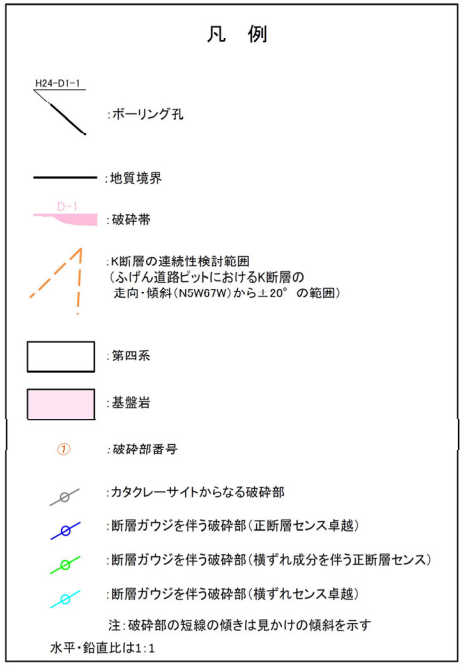
K断層の連続性評価について

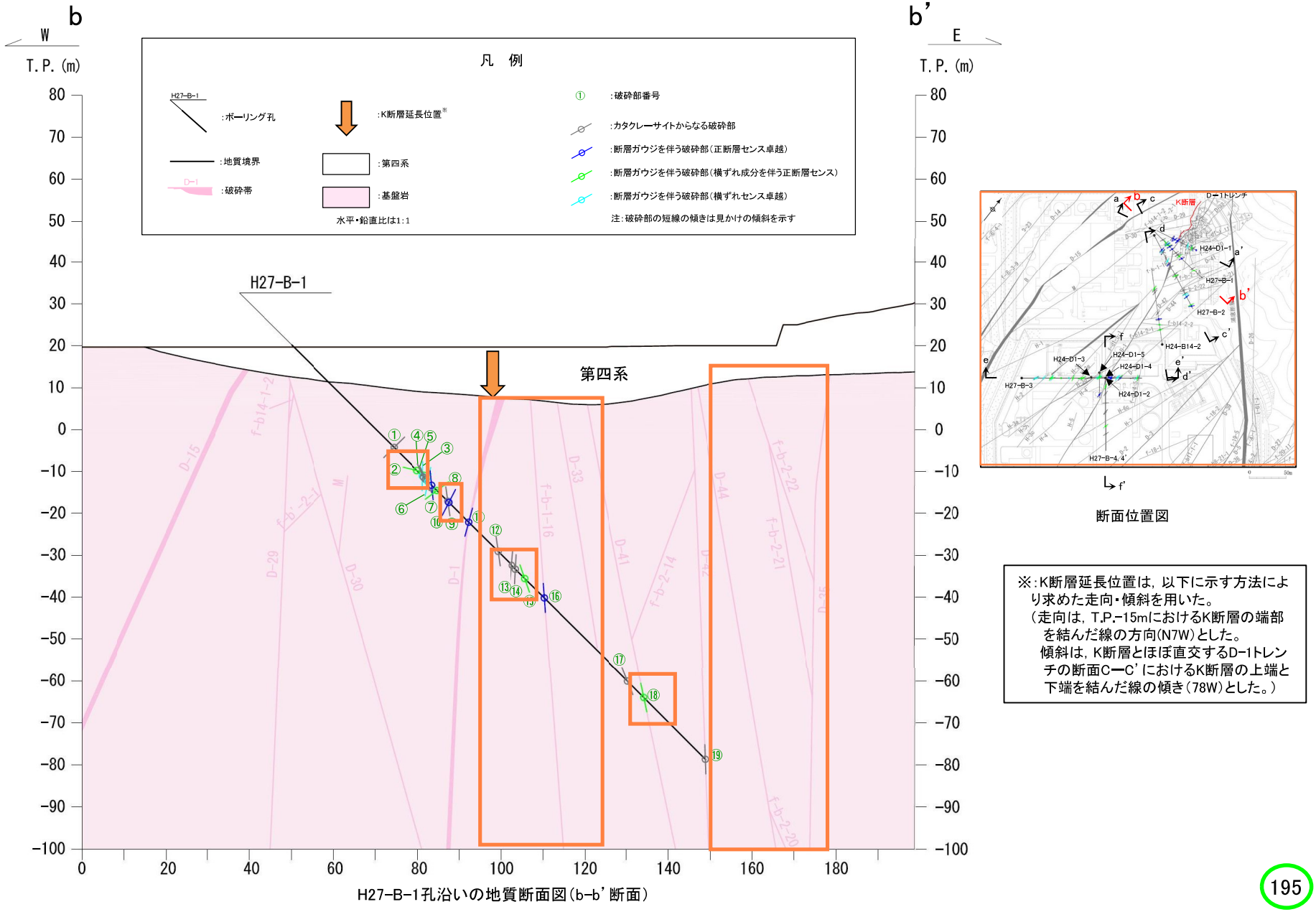


H24-D1-1孔沿いの地質断面図(a-a'断面)



断面位置図





H27-B-1孔沿いの地質断面図（b-b’断面）

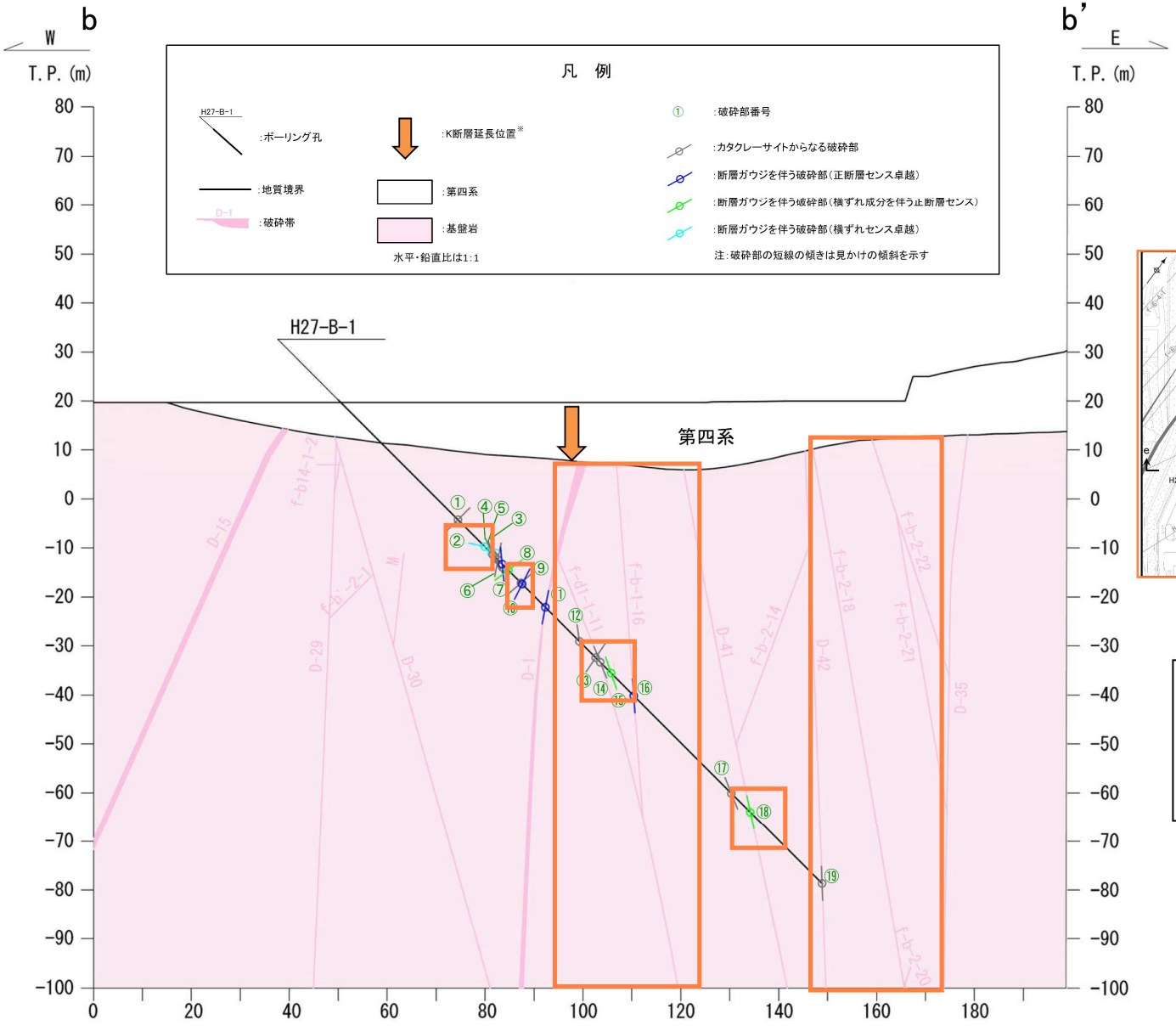
断面位置図

※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向（N7W）とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C－C’におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き（78W）とした。）

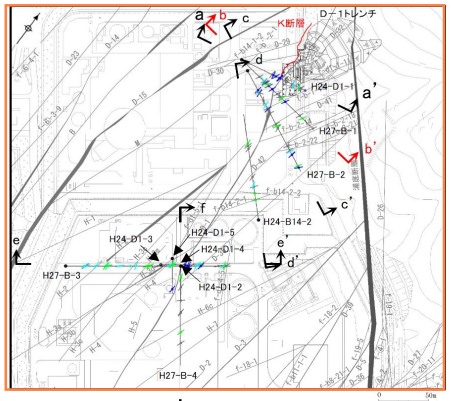
K断層の連続性評価について

48～51，76，157：走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い，関連する周辺破砕帯の分布を修正。
・f-d1-1-11，D-33，f-b-1-16
・D-44→f-b-2-18

修正後



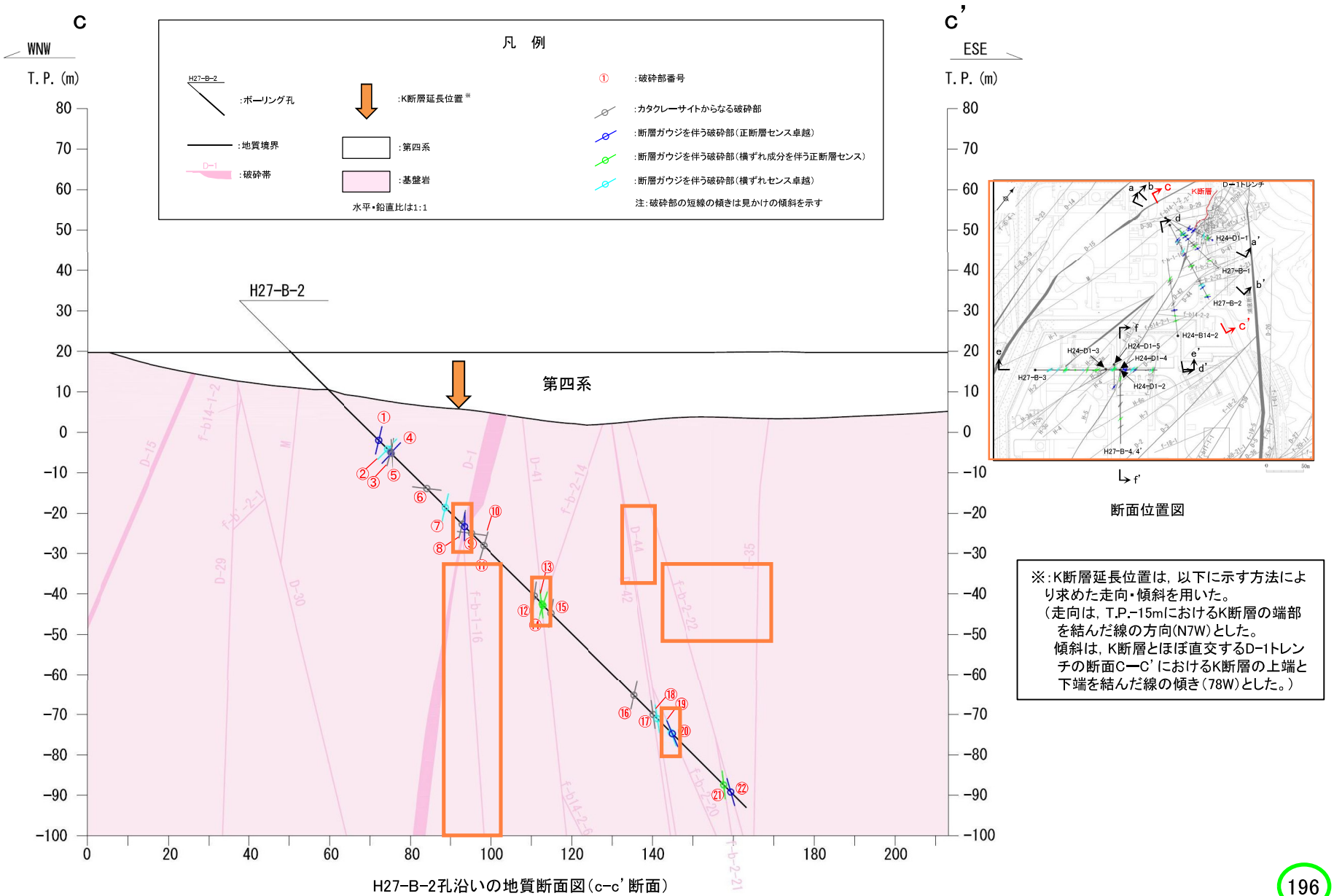
H27-B-1孔沿いの地質断面図（b-b’断面）



断面位置図

※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C—C’におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き（78W）とした。）

修正前



H27-B-2孔沿いの地質断面図（c-c'断面）

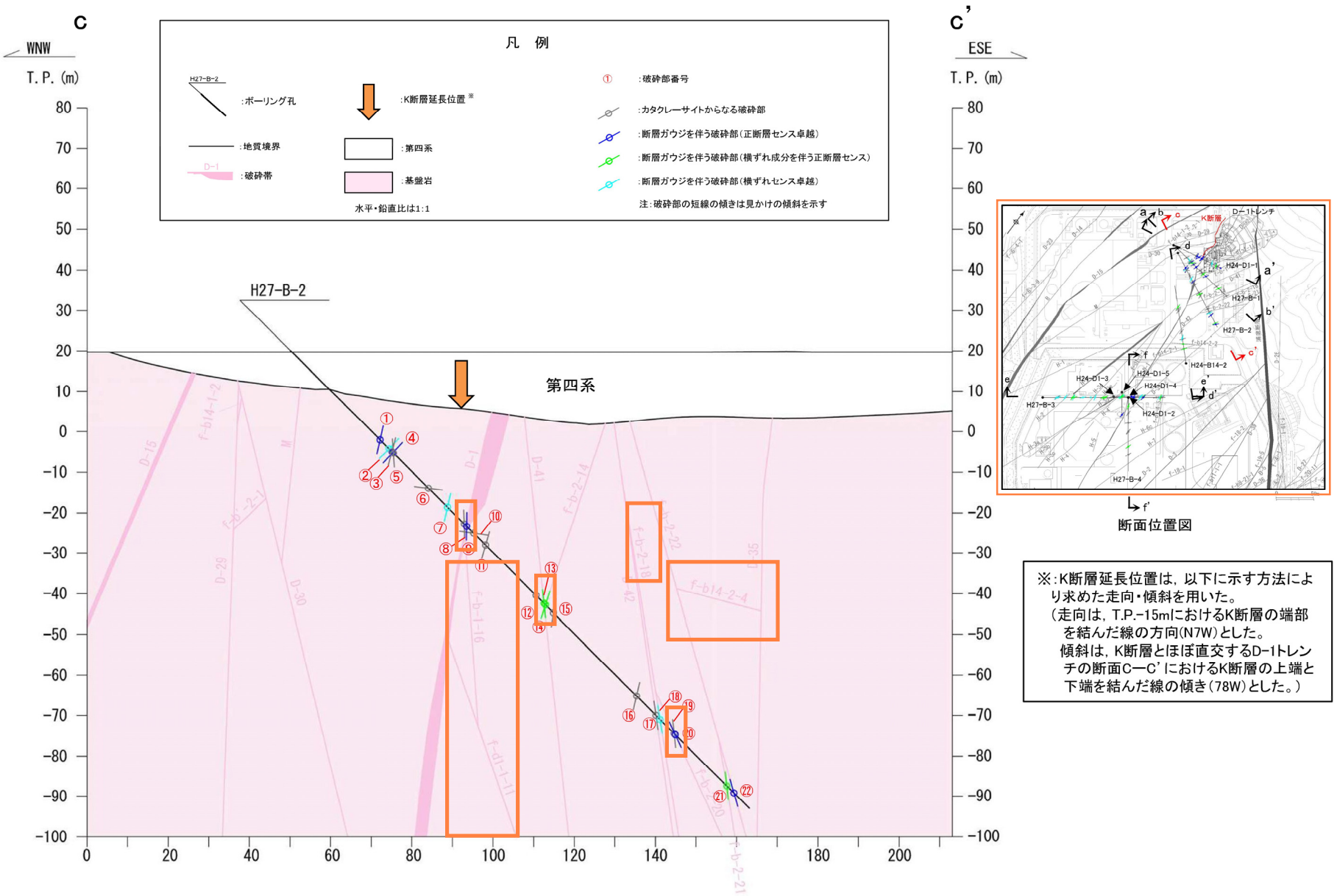
断面位置図

※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C―C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き（78W）とした。）

K断層の連続性評価について

48～51，76，82～85，157：走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い，関連する周辺破砕帯の分布を修正。
・f-d1-1-11，f-b-1-16
・D-44→f-b-2-18とf-b14-2-4

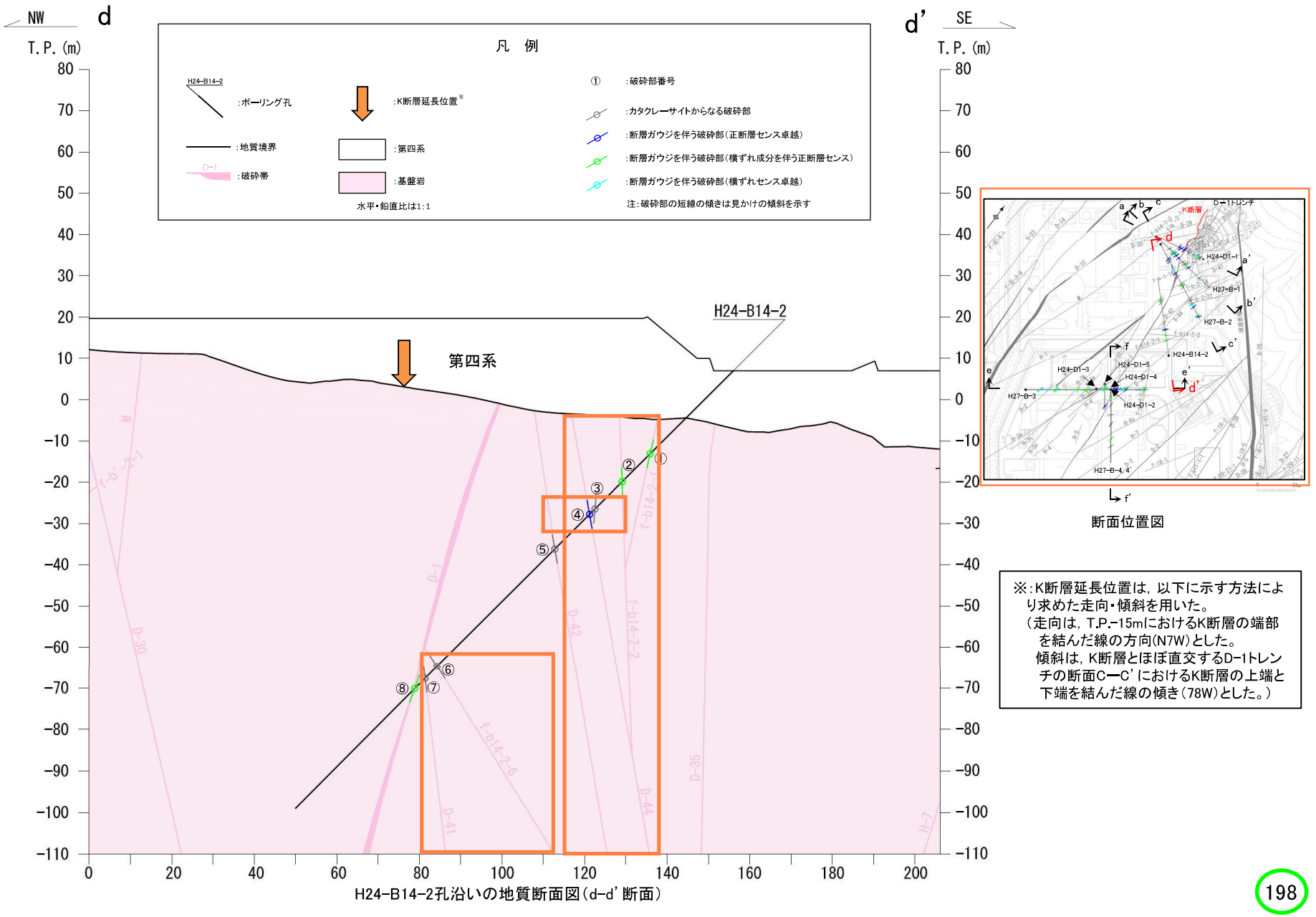
修正後



H27-B-2孔沿いの地質断面図(c-c'断面)

断面位置図

※:K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
(走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C—C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き(78W)とした。)



H24-B14-2孔沿いの地質断面図（d-d’断面）

断面位置図

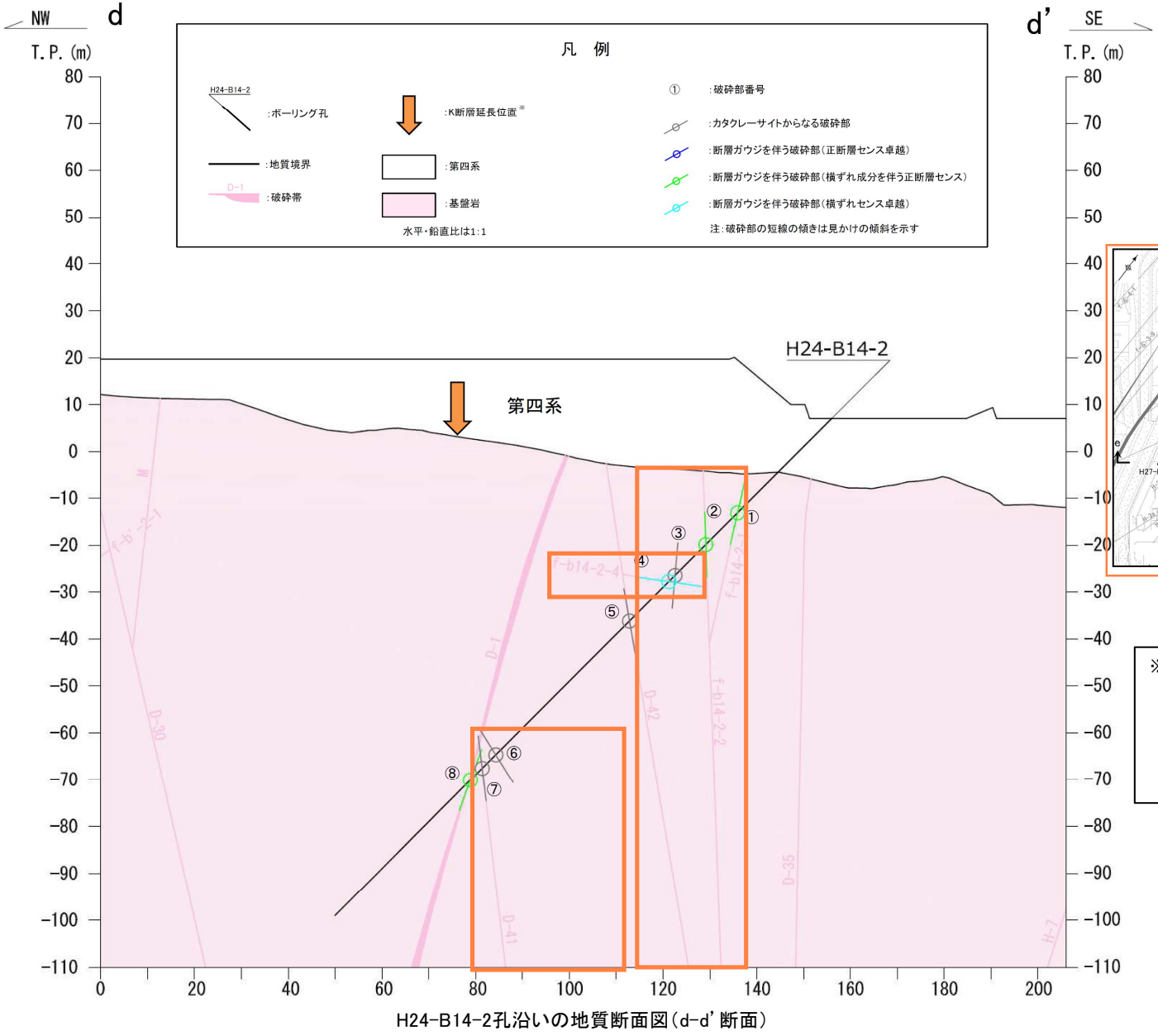
※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C－C’におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き（78W）とした。）

198

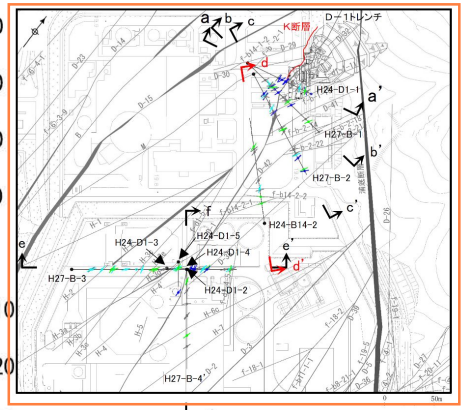
K断層の連続性評価について

82～85，87，157：走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い，関連する周辺破砕帯の分布を修正。 **修正後**

・D-44→f-b14-2-4
・f-b14-2-6→非モデル化破砕部



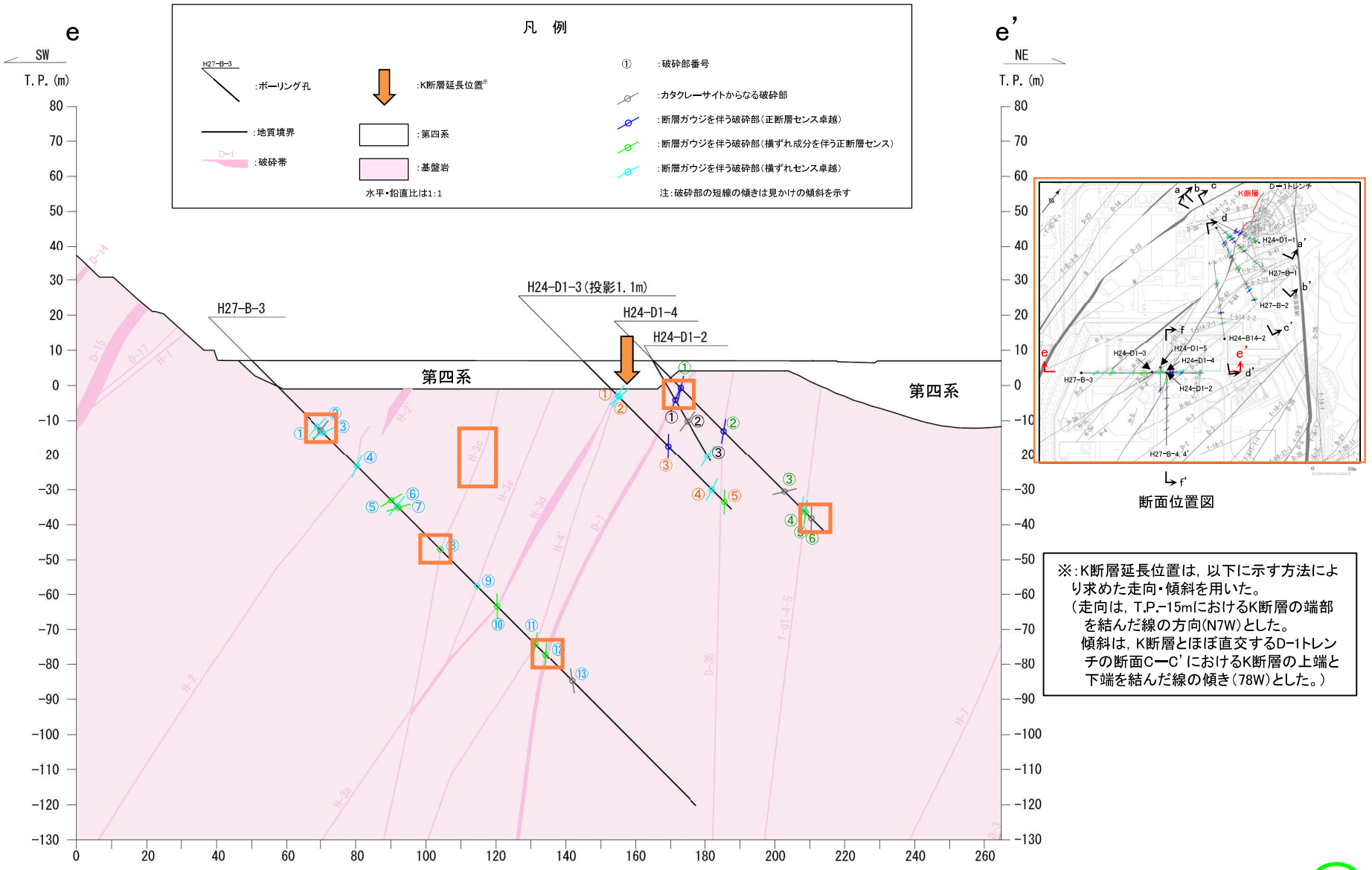
H24-B14-2孔沿いの地質断面図（d-d'断面）



断面位置図

※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C—C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き(78W)とした。）

令和3年7月16日提出資料　本編資料　修正前
119～122，157（平面図・断面図）
修正箇所：橙色枠



断面位置図

※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C－C’におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き（78W）とした。）

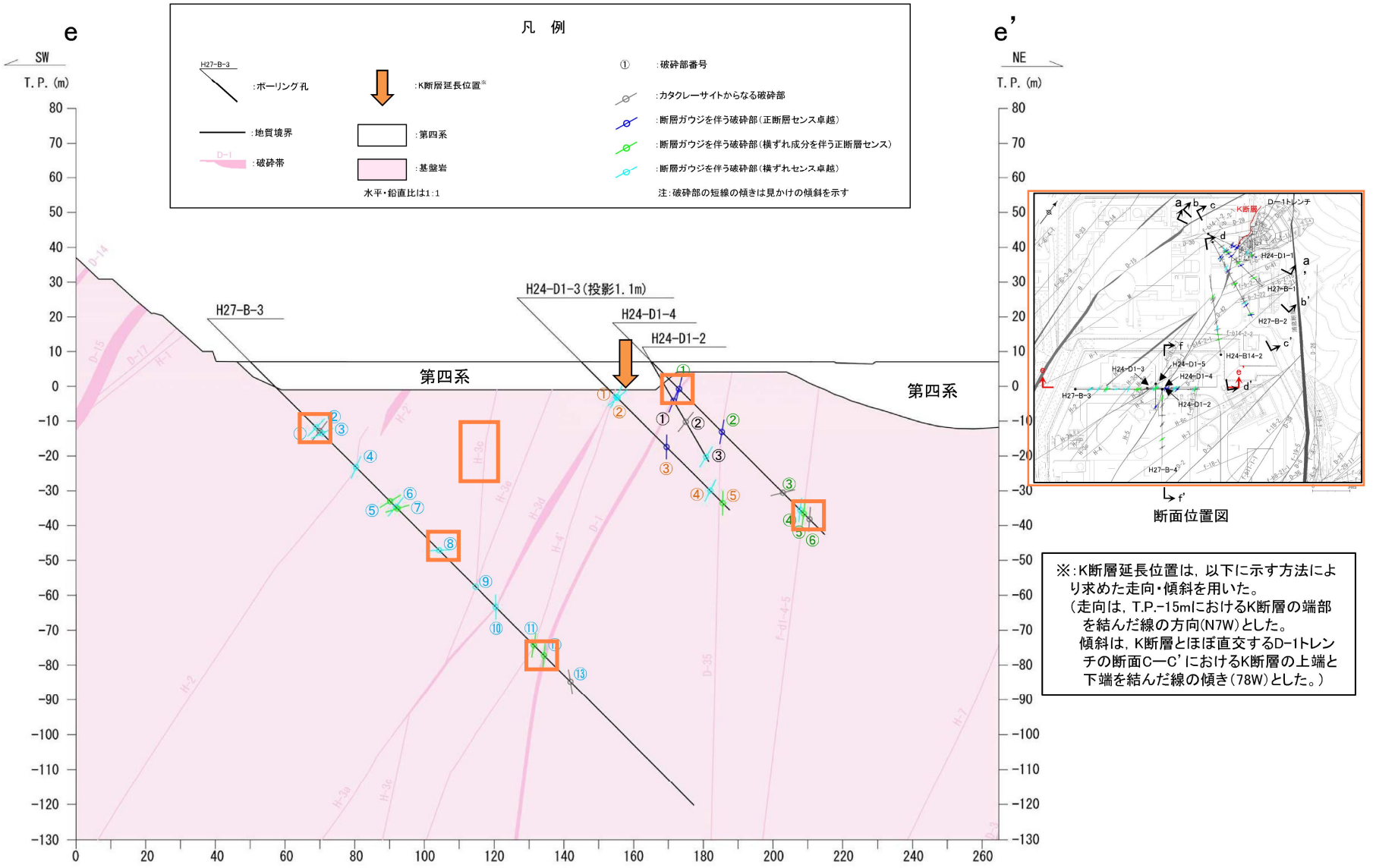
H27-B-3孔，H24-D1-3孔，H24-D1-2孔及びH24-D1-4孔沿いの地質断面図（e-e’断面）

200

K断層の連続性評価について

119～122，157：走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い，関連する周辺破砕帯の分布を修正。
・H-3c

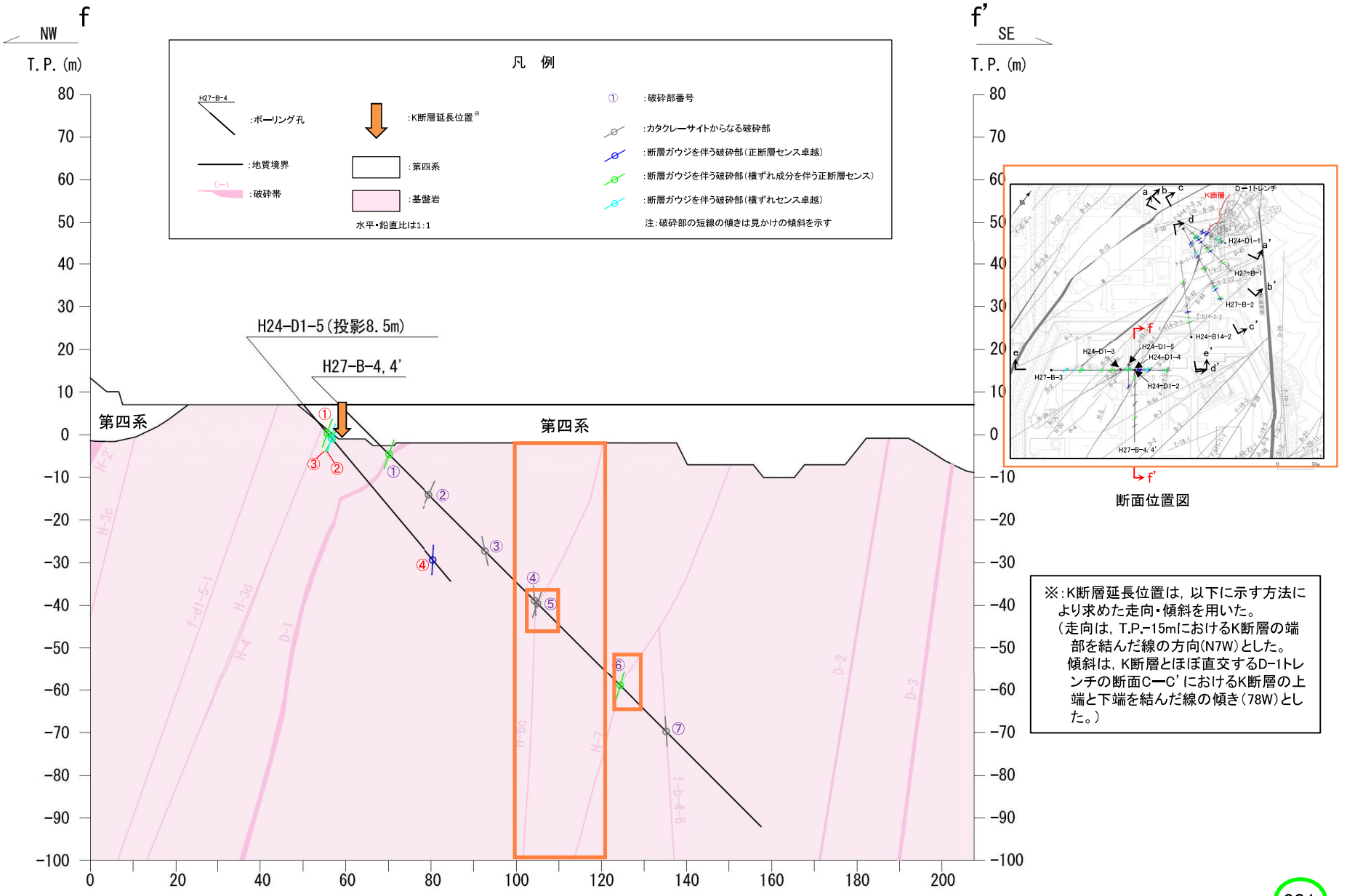
修正後



※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C—C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き(78W)とした。）

H27-B-3孔，H24-D1-3孔，H24-D1-2孔及びH24-D1-4孔沿いの地質断面図（e-e'断面）

修正前



断面位置図

※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C－C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き（78W）とした。）

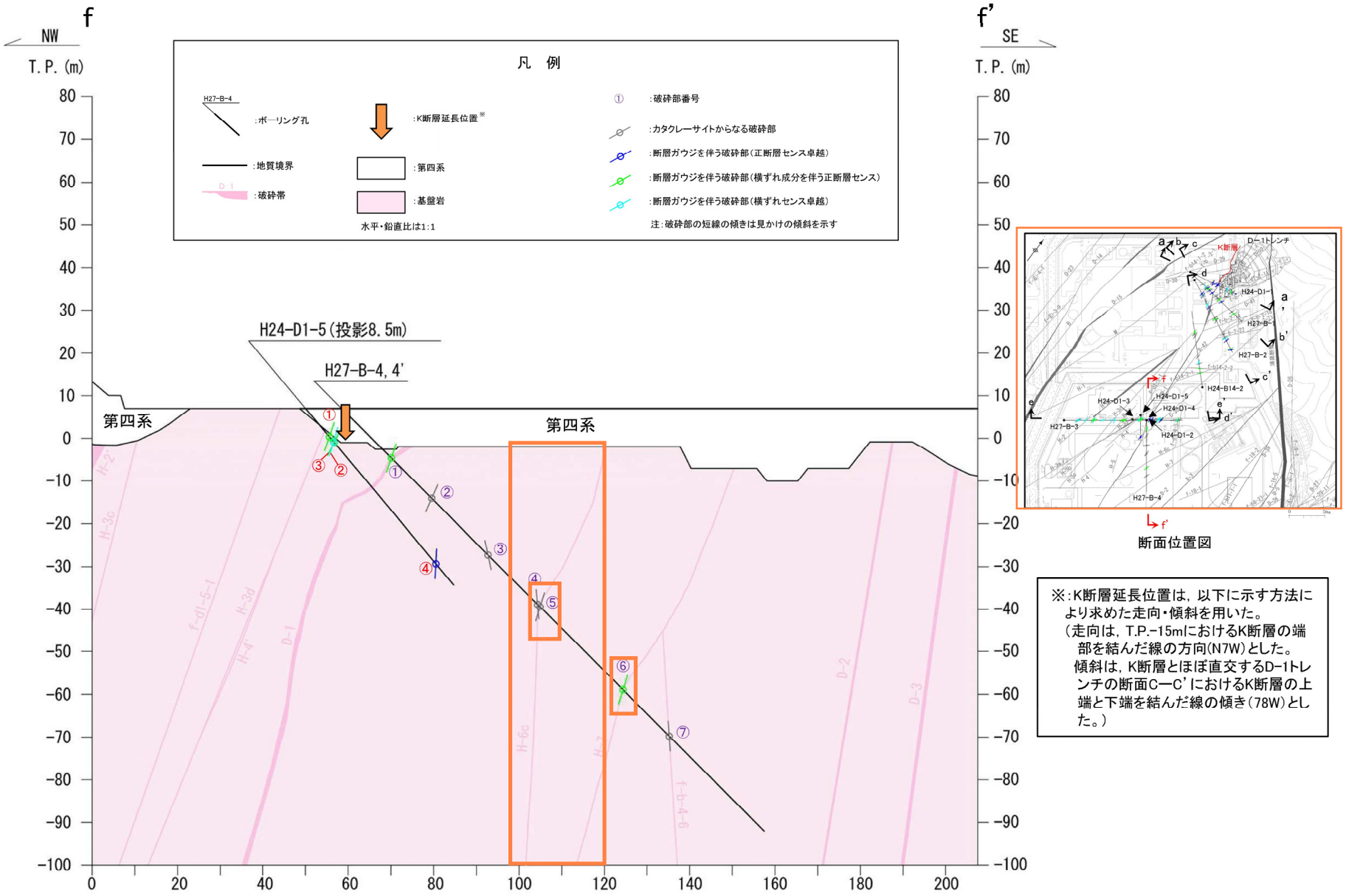
H24-D1-5孔，H27-B-4，4'孔沿いの地質断面図（f-f'断面）

201

修正後

K断層の連続性評価について

148：H-6c破砕帯分布の修正（H27-B-4④と合うように修正）
157：走向・傾斜等の修正内容を反映



H24-D1-5孔，H27-B-4，4'孔沿いの地質断面図（f-f'断面）

断面位置図

※：K断層延長位置は，以下に示す方法により求めた走向・傾斜を用いた。
（走向は，T.P.-15mにおけるK断層の端部を結んだ線の方向(N7W)とした。
傾斜は，K断層とほぼ直交するD-1トレンチの断面C－C'におけるK断層の上端と下端を結んだ線の傾き（78W）とした。）

（参考）薄片試料の作製について

・薄片試料観察に当たっては，以下の作製手順に基づき，観察箇所を適切に選定し，試料切断から審査資料作成に至るまで，薄片試料作製方向が整合していることを確認する。

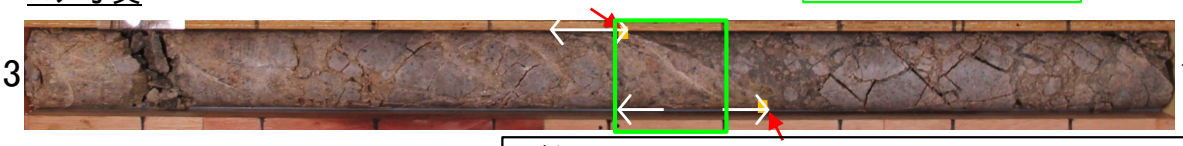
・コアで認定した最新活動面を含むように，断層面に直交方向かつ条線方向に平行方向に試料を切断する。

・切断した試料に，条線方向をX（下向きを正），断層面の法線方向をZ（上盤側を正）として方向を記入する。
・記入した薄片試料作製方向について，走向・傾斜，ボーリングの掘進方向から正しいことを確認する。
・薄片試料は，肉眼観察により認定した最新活動面に沿って最も細粒化した部分を含み，人為的な試料の乱れの無い部分で作製する。

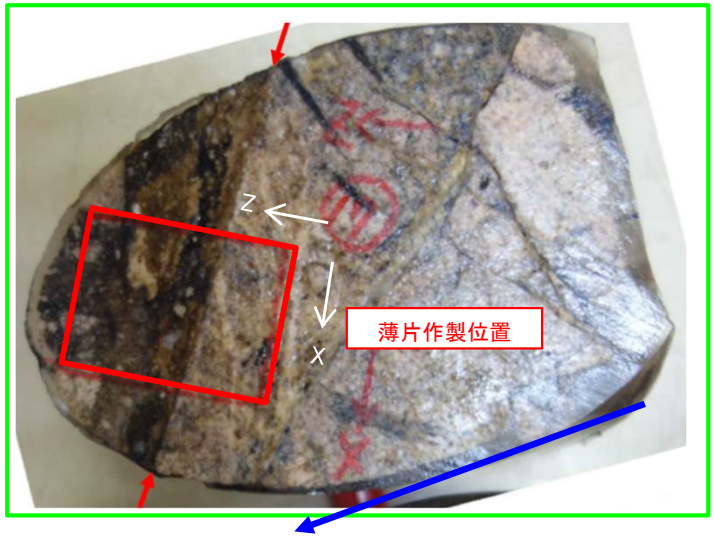
・作製した薄片試料にも薄片試料作製方向を示すZ方向，X方向を記入し，切断した試料に示した方向と合っていることを確認する。

・薄片観察結果として資料化した際に，薄片試料作製方向が資料化の途中で誤っていないことを確認する。

コア写真



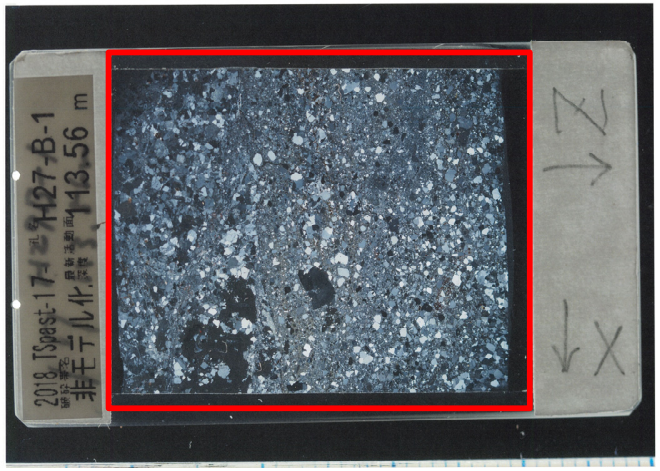
薄片作製位置の研磨片写真



X:条線方向（下向きを正とする）
Z:断層面の法線方向（上盤側を正とする）

凡例
最新活動面
ボーリングの掘進方向

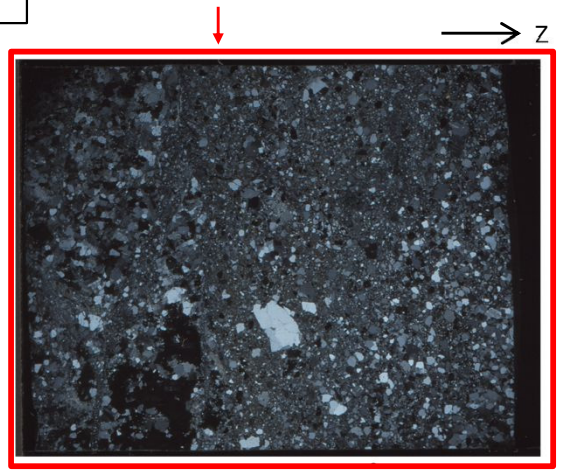
薄片試料（直交ニコル）



X:条線方向（下向きを正とする）
Z:断層面の法線方向（上盤側を正とする）

切断した試料の写真と薄片におけるそれぞれの組織の分布を対比し，切断した試料に記載した方向と薄片に記載した方向が整合していることを確認する。

薄片全景写真（直交ニコル）



凡例
最新活動面

X:条線方向（下向きを正とする）
Z:断層面の法線方向（上盤側を正とする）

余白